

**IBM System Storage SAN ボリューム・
コントローラー
バージョン 6.4.0**

トラブルシューティング・ ガイド

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、367ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。

本書は、IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラーのバージョン 6.4.0 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本書は GC88-8304-02 の改訂版です。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GC27-2284-03
IBM System Storage SAN Volume Controller
Version 6.4.0
Troubleshooting Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.7

© Copyright IBM Corporation 2003, 2012.

目次

図	vii
表	ix
本書について	xi
本書の対象読者	xi
「SAN ボリューム・コントローラー トラブルシューティング・ガイド」(GC88-8304-03) の変更の要約	xi
「SAN ボリューム・コントローラー トラブルシューティング・ガイド」(GC88-8304-02) の変更の要約	xii
「SAN ボリューム・コントローラー トラブルシューティング・ガイド」(GC88-8304-01) の変更の要約	xii
強調	xiv
SAN ボリューム・コントローラーのライブラリーおよび関連資料	xiv
第 1 章 SAN ボリューム・コントローラーの概要	1
クラスタ化システム	5
構成ノード	5
構成ノードのアドレッシング	6
管理 IP フェイルオーバー	7
SAN ファブリックの概要	8
第 2 章 SAN ボリューム・コントローラーのハードウェア・コンポーネントの紹介	11
SAN ボリューム・コントローラー・ノード	11
SAN ボリューム・コントローラー のフロント・パネルとインディケータ	11
SAN ボリューム・コントローラー オペレーター情報パネル	17
SAN ボリューム・コントローラーの背面パネル・インディケータとコネクタ	22
ファイバー・チャネル・ポート番号およびワールドワイド・ポート名	41
SAN ボリューム・コントローラー環境の要件	42
冗長 AC 電源スイッチ	55
冗長 AC 電源 の環境要件	55
冗長 AC 電源スイッチの配線 (例)	56
無停電電源装置	58
2145 UPS-1U	58
無停電電源装置 の環境要件	64
SAN ボリューム・コントローラー FRU の定義	64
SAN ボリューム・コントローラー FRU	64
冗長 AC 電源スイッチ FRU	74
第 3 章 システムを保守するための SAN ボリューム・コントローラー のユーザー・インターフェース	75
管理 GUI インターフェース	75

管理 GUI を使用する状況	76
管理 GUIへのアクセス	77
管理 GUIを使用したクラスタ化システムからのノードの削除	77
クラスタ化システムへのノードの追加	80
サービス・アシスタント・インターフェース	83
サービス・アシスタントを使用する状況	83
サービス・アシスタントへのアクセス	84
クラスタ (システム) コマンド行インターフェース	85
クラスタ (システム) CLI を使用する状況	85
クラスタ (システム) CLI へのアクセス	85
サービス・コマンド行インターフェース	85
サービス CLI を使用する状況	86
サービス CLI へのアクセス	86

第 4 章 SAN ボリューム・コントローラー CLI を使用したリカバリー・アクションの実行	87
CLI を使用した、ミラーリングボリューム・コピーの検証と修復	87
CLI を使用したスペース使用効率のよいボリュームの修復	89
CLI を使用したオフライン・ボリュームからのリカバリー	90
中断を伴わないノード置換	91

第 5 章 重要製品データの表示	99
管理 GUI を使用した重要製品データの表示	99
CLI を使用した重要製品データの表示	99
CLI を使用したノード・プロパティの表示	100
CLI を使用したクラスタ化システム・プロパティの表示	101
ノード VPD のフィールド	102
システム VPD のフィールド	107

第 6 章 SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネルの使用	111
ブート進行インディケータ	111
ブート障害	111
充電	112
エラー・コード	112
ハードウェア・ブート	113
ノード・レスキュー要求	113
電源障害	113
電源オフ	114
リカバリー	114
再始動	114
シャットダウン	115
「WWNN の検証?」オプション	115

SAN ボリューム・コントローラー・メニュー・オプション	117
クラスター (システム) オプション	119
ノード・オプション	121
バージョン・オプション	122
イーサネット・オプション	122
ファイバー・チャンネル・ポート・オプション	123
アクション・オプション	123
「言語?」オプション	139
SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源制御の使用	140

第 7 章 問題の診断 143

イベントのレポート作成	143
電源オン自己診断テスト (Power-on self-test)	144
イベントについて	145
イベント・ログの管理	145
イベント・ログの表示	145
イベント・ログ内のフィールドの説明	145
イベント通知	146
インベントリー情報 E メール	150
エラー・コードの理解	151
エラー・コード・テーブルの使用	151
イベント ID	151
SCSI イベント・レポート	160
オブジェクト・タイプ	162
エラー・イベント ID およびエラー・コード	163
ハードウェア・ブート障害の判別	176
ブート・コード・リファレンス	177
ノード・エラー・コードの概要	177
クラスター化システム・コードの概要	179
エラー・コードの範囲	180
コードのブート	180
クラスターの作成エラー	182
ノード・エラー	182
クラスターのリカバリーおよび状態	193
クラスター・エラー・コード	194
SAN の問題判別	237
ファイバー・チャンネルおよび 10 G イーサネットの	
障害	238
イーサネット iSCSI ホスト・リンクの問題	238
Fibre Channel over Ethernet ホスト・リンクの問題	239
ストレージ・サブシステムのサービス	240

第 8 章 リカバリー手順 243

システムのリカバリー手順	243
システム・リカバリー手順を実行する状況	244
ハードウェア・エラーの修正	245
エラー・コード 550 またはエラー・コード 578 があるノードのフロント・パネルを使用したクラスター化システム情報の除去	245
サービス・アシスタントを使用した、エラー・コード 550 またはエラー・コード 578 が報告されたノードのシステム情報の削除	246
フロント・パネルを使用したクラスター化システムのリカバリー手順の実行	247

サービス・アシスタントを使用したシステム・リカバリーの実行	249
CLI を使用したオフライン VDisk からのリカバリー	251
システムのリカバリー実行後に検査する内容	251
システム構成のバックアップおよび復元	252
CLI を使用したシステム構成のバックアップ	253
システム構成の復元	256
CLI を使用したバックアップ構成ファイルの削除	259
ノード・ブート時のノード・レスキューの実行	260

第 9 章 メディア・エラーと不良ブロックについて 263

第 10 章 保守分析手順の使用 265

MAP 5000: 開始	265
MAP 5050: 電源 2145-CG8、2145-CF8、2145-8G4、2145-8F4、および 2145-8F2	273
MAP 5060: 電源 2145-8A4	281
MAP 5150: 2145 UPS-1U	285
MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査	291
MAP 5320: 冗長 AC 電源	293
MAP 5340: 冗長 AC 電源の検証	294
MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ	296
管理 GUIを使用したシステムの電源オフ	298
SAN ボリューム・コントローラー CLI を使用してノードの電源をオフにする方法	300
SAN ボリューム・コントローラーの電源制御ボタンの使用	301
MAP 5400: フロント・パネル	302
MAP 5500: イーサネット	305
代替構成ノードの定義	309
『MAP 5550: 10 G イーサネットおよび Fibre Channel over Ethernet パーソナリティ対応アダプター・ポート』	309
MAP 5600: ファイバー・チャンネル	312
MAP 5700: 修復検査	321
MAP 5800: ライト・パス	323
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 用のライト・パス	323
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 用のライト・パス	331
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 用のライト・パス	339
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 用のライト・パス	342
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 用のライト・パス	347
MAP 5900: ハードウェア・ブート	353
MAP 6000: オフライン SSD の交換	359
MAP 6001: RAID 0 アレイ内のオフライン SSD の交換	359

MAP 6002: RAID 1 アレイ内または RAID 10 アレイ内のオフライン SSD の交換	362
付録. アクセシビリティ	365
特記事項.	367
商標	369
電波障害自主規制特記事項	369
Federal Communications Commission (FCC) statement	369
Industry Canada compliance statement	370
Avis de conformité à la réglementation d'Industrie Canada.	370
Australia and New Zealand Class A Statement	370
European Union Electromagnetic Compatibility Directive	370

Germany Electromagnetic compatibility directive	371
VCCI クラスA 情報技術装置	372
People's Republic of China Class A Electronic Emission Statement	372
International Electrotechnical Commission (IEC) statement	372
United Kingdom telecommunications requirements	372
Korean Communications Commission (KCC) Class A Statement	372
Russia Electromagnetic Interference (EMI) Class A Statement	373
Taiwan Class A compliance statement.	373
European Contact Information	373
Taiwan Contact Information	373
索引	375



1. ファブリック内の SAN ボリューム・コントローラー・システム	2
2. SAN ボリューム・コントローラー・システム内のデータ・フロー	3
3. 内部 SSD を備えた SAN ボリューム・コントローラー・ノード	4
4. 構成ノード	6
5. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 フロント・パネル	12
6. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 フロント・パネル	12
7. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 のフロント・パネル・アセンブリー	13
8. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 のフロント・パネル・アセンブリー	14
9. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 のフロント・パネル・アセンブリー	14
10. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 オペレーター情報パネル	17
11. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 オペレーター情報パネル	18
12. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 オペレーター情報パネル	19
13. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 オペレーター情報パネル	19
14. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 オペレーター情報パネル	20
15. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の背面パネル・インディケータ	23
16. 10 Gbps イーサネット・フィーチャーにおける SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の背面パネル・インディケータ	23
17. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の背面にあるコネクタ	24
18. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 背面の 10 Gbps イーサネット・ポート	24
19. 電源コネクタ	24
20. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 のサービス・ポート	25
21. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ポート (未使用)	25
22. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 の背面パネル・インディケータ	26
23. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 の背面にあるコネクタ	26
24. 電源コネクタ	27
25. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 のサービス・ポート	27
26. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 ポート (未使用)	28
27. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 の背面パネル・インディケータ	28
28. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 外部コネクタ	29
29. 電源コネクタ	29
30. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 のサービス・ポート	30
31. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 の背面パネル・インディケータ	30
32. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 外部コネクタ	31
33. 電源コネクタ	31
34. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 のサービス・ポート	32
35. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 の背面パネル・インディケータ	32
36. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 外部コネクタ	33
37. 電源コネクタ	33
38. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 のサービス・ポート	34
39. 通常操作時に SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 で使用されないポート	34
40. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 のフロント・パネル上で使用されないポート	35
41. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の背面パネル・インディケータ	35
42. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 外部コネクタ	36
43. 電源コネクタ	36
44. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 AC LED、DC LED、および電源エラー LED	39
45. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 の AC および DC LED	40
46. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の AC LED と DC LED	41
47. 冗長 AC 電源スイッチの写真	55
48. 冗長 AC 電源スイッチ・フィーチャー付きの SAN ボリューム・コントローラー・システム	57
49. 2145 UPS-IU のフロント・パネル・アセンブリー	60
50. 2145 UPS-IU のコネクタおよびスイッチ	62
51. 2145 UPS-IU のディップ・スイッチ	63
52. 2145 UPS-IU で使用されないポート	63
53. 電源コネクタ	63
54. SAN ボリューム・コントローラー のフロント・パネル・アセンブリー	111

55. ブート進行表示の例	111	84. 2145 UPS-1U のフロント・パネル・アセンブリー	286
56. クラスタ化システムのエラー・コードの例	112	85. SAN ボリューム・コントローラー モデルの電源制御ボタン	301
57. ノード・エラー・コードの例	112	86. SAN ボリューム・コントローラー サービス・コントローラーのエラー・ライト	303
58. ノード・レスキュー要求の表示	113	87. ボタンを押した場合のフロント・パネル・ディスプレイ	304
59. 「WWNN の検証?」ナビゲーション	116	88. SAN ボリューム・コントローラー背面パネル上のポート 2 イーサネット・リンク LED	307
60. フロント・パネル・ディスプレイでの SAN ボリューム・コントローラーのオプション	118	89. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 オペレーター情報パネル	324
61. フロント・パネル・ディスプレイの IPv6 アドレスの表示	121	90. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 ライト・パス診断パネル	324
62. フロント・パネルのアクション・メニューの上部にあるオプション	125	91. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 システム・ボード LED 診断パネル	326
63. フロント・パネルのアクション・メニューの中央にあるオプション	126	92. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 オペレーター情報パネル	332
64. フロント・パネルのアクション・メニューの下部にあるオプション	127	93. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 ライト・パス診断パネル	332
65. 「言語?」ナビゲーション	139	94. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 システム・ボード LED 診断パネル	334
66. ブート・エラー・コードの例	177	95. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 オペレーター情報パネル	340
67. ブート進行表示の例	177	96. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 システム・ボード LED	341
68. 表示されるノード・エラー・コードの例	178	97. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 オペレーター情報パネル	343
69. ノード・レスキュー・エラー・コードの例	179	98. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ライト・パス診断パネル	343
70. クラスタ化システムの作成エラー・コードの例	179	99. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 システム・ボード LED	345
71. リカバリー・エラー・コードの例	180	100. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 オペレーター情報パネル	348
72. クラスタ化システムのエラー・コードの例	180	101. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 ライト・パス診断パネル	348
73. ノード・レスキュー要求の表示	261	102. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 システム・ボード LED	350
74. SAN ボリューム・コントローラー サービス・コントローラーのエラー・ライト	268	103. ハードウェア・ブートの表示	353
75. SAN ボリューム・コントローラー のモデルのエラー LED	268	104. ノード・レスキュー要求の表示	354
76. ハードウェア・ブートの表示	269	105. SAN ボリューム・コントローラー モデル 2145-8G4、2145-8A4、2145-8F4、および 2145-8F2 上のキーボードおよびモニター・ポート	355
77. SAN ボリューム・コントローラー のモデル 2145-CG8、2145-CF8、2145-8G4、および 2145-8F4 または 2145-8F2 オペレーター情報パネル の電源 LED	274	106. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 上のキーボードとモニター・ポート	356
78. SAN ボリューム・コントローラー のモデル 2145-8G4、2145-8F4、および 2145-8F2 の背面パネル上の電源 LED	276	107. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 上のキーボードとモニター・ポート	356
79. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 の背面パネル上の電源 LED インディケータ	277		
80. SAN ボリューム・コントローラー・モデルの 2145-8G4 および 2145-8F4 または 2145-8F2 の背面パネル上の AC および DC LED インディケータ	278		
81. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 の背面パネル上の電源 LED インディケータと AC および DC インディケータ	278		
82. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 オペレーター情報パネル の電源 LED	282		
83. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 システム・ボード LED	283		

表

1. バージョン 6.1.0 の用語のマッピング表	xiii	33. ノード・ソフトウェアに固有のフィールド	105
2. バージョン 6.2.0 の用語のマッピング表	xiii	34. フロント・パネル・アセンブリーで使用されるフィールド	105
3. SAN ボリューム・コントローラーのライブラリー	xv	35. イーサネット・ポートで使用されるフィールド	105
4. その他の IBM 資料	xvii	36. ノード内の電源機構で使用されるフィールド	106
5. IBM 資料および関連 Web サイト	xvii	37. ノードに給電する無停電電源装置 (uninterruptible power supply)アセンブリーで使用されるフィールド	106
6. SAN ボリューム・コントローラーの通信タイプ	4	38. SAS ホスト・バス・アダプター (HBA) で使用されるフィールド	106
7. 下部ファイバー・チャンネル LED のリンク状態とアクティビティ	36	39. SAS ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) で使用されるフィールド	107
8. 上部ファイバー・チャンネル LED のリンク速度	37	40. small form factor pluggable (SFP) トランシーバーのために提供されるフィールド	107
9. 実際のリンク速度	37	41. システムのプロパティのために提供されるフィールド	108
10. 実際のリンク速度	37	42. オプションが有効な場合	124
11. 最大電力使用量	42	43. イベント・ログのデータ・フィールドの説明	146
12. 物理仕様	43	44. 通知タイプ	147
13. 冗長 AC 電源を使用する場合の環境要件	43	45. SAN ボリューム・コントローラーの通知タイプと対応 syslog レベル・コード	148
14. 寸法と重量	44	46. ユーザー定義のメッセージ起点 ID の SAN ボリューム・コントローラー値と SYSLOG 機能コード	148
15. 必要な追加スペース	44	47. 通知イベント	152
16. 各 SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ノードの最大発熱量	44	48. 構成イベント ID	156
17. 各 2145 UPS-1U の最大発熱量	45	49. SCSI の状況	160
18. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 FRU の説明	65	50. SCSI センス・キー、コード、および修飾子	161
19. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 FRU の説明	67	51. 理由コード	162
20. イーサネット・フィーチャー FRU の説明	68	52. オブジェクト・タイプ	163
21. ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) フィーチャー FRU の説明	69	53. エラー・イベント ID およびエラー・コード	163
22. 2145 UPS-1U FRU の説明	69	54. メッセージの種別ごとの番号の範囲	180
23. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 FRU の説明	69	55. 不良ブロック・エラー	263
24. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 FRU の説明	71	56. 2145 UPS-1U エラー標識	286
25. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 FRU の説明	72	57. SAN ボリューム・コントローラー ファイバー・チャンネル・アダプター・アセンブリー	319
26. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 FRU の説明	73	58. SAN ボリューム・コントローラー ファイバー・チャンネル・アダプター接続ハードウェア	320
27. システム・ボードのフィールド	103	59. 診断パネル LED が指示するアクション	328
28. プロセッサのフィールド	103	60. 診断パネル LED が指示するアクション	336
29. ファンのフィールド	104	61. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 診断パネル LED が指示するアクション	342
30. 取り付けられたメモリー・モジュールごとに繰り返されるフィールド	104	62. 診断パネル LED が指示するアクション	346
31. 取り付けられたアダプターごとに繰り返されるフィールド	104	63. 診断パネル LED が指示するアクション	350
32. 取り付けられた SCSI、IDE、SATA、および SAS 装置ごとに繰り返されるフィールド	105		

本書について

本書では、IBM® System Storage® SAN ボリューム・コントローラーを保守する方法について説明します。

以下の章では、SAN ボリューム・コントローラー、冗長 AC 電源スイッチ、および無停電電源装置 (uninterruptible power supply) について紹介します。フロント・パネルまたは管理 GUI を使用して、1 つの SAN ボリューム・コントローラー・ノードまたは複数のノードによるクラスター化システムを構成する方法および状況を確認する方法について説明します。

重要製品データ (VPD) の章では、SAN ボリューム・コントローラーに含まれている各ハードウェアおよびマイクロコード・エレメントを一意的に定義する VPD について説明します。SAN ボリューム・コントローラーを使用して、問題を診断する方法についても説明します。

保守分析手順 (MAP) は、SAN ボリューム・コントローラーで発生した障害を分析する場合に役立ちます。MAP を使用すると、障害が起きた SAN ボリューム・コントローラーの現場交換可能ユニット (FRU) を特定することができます。すべての問題判別手順および修復手順は、265 ページの『MAP 5000: 開始』から始めます。

本書の対象読者

本書は、SAN ボリューム・コントローラー、冗長 AC 電源スイッチ、および無停電電源装置 (uninterruptible power supply) を使用し、問題を診断するシステム管理者またはシステム・サービス担当員を対象としています。

「SAN ボリューム・コントローラー トラブルシューティング・ガイド」 (GC88-8304-03) の変更の要約

変更の要約では、本書の最終バージョン以降の新規および変更情報のリストを記載しています。

新規情報

このトピックでは、旧版 GC88-8304-02 以降に本書に加えられた変更について説明します。以下のセクションでは、旧バージョンから実装された変更を要約しています。

本バージョンには、次の新規情報が含まれています。

- Fibre Channel over Ethernet

変更情報

この版には、変更情報は含まれていません。

「SAN ボリューム・コントローラー トラブルシューティング・ガイド」 (GC88-8304-02) の変更の要約

変更の要約では、本書の最終バージョン以降の新規および変更情報のリストを記載しています。

新規情報

このトピックでは、旧バージョン GC88-5677-01 以降に本書に加えられた変更について説明します。以下のセクションでは、旧バージョンから実装された変更を要約しています。

本バージョンには、次の新規情報が含まれています。

- メディア・エラーおよび不良ブロックに関する説明
- 新規エラー・コード
- 新規イベント ID

変更情報

本バージョンには、次の変更情報が含まれています。

- 273 ページの『MAP 5050: 電源 2145-CG8、 2145-CF8、 2145-8G4、 2145-8F4、および 2145-8F2』
- 359 ページの『MAP 6001: RAID 0 アレイ内のオフライン SSD の交換』

「SAN ボリューム・コントローラー トラブルシューティング・ガイド」 (GC88-8304-01) の変更の要約

変更の要約では、本書の最終バージョン以降の新規および変更情報のリストを記載しています。

新規情報

このトピックでは、旧版 (GC88-8304-00) 以降に本書に加えられた変更について説明します。以下のセクションでは、旧バージョンから実装された変更を要約しています。

本バージョンには、次の新規情報が含まれています。

- SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ノードのサポート・ステートメント
- 新規エラー・コード
- 新規イベント ID
- 10 Gbps イーサネットのサポート・ステートメント
- MAP 5550: 10 Gbps イーサネット
- MAP 6001: RAID 0 アレイ内のオフライン SSD の交換
- MAP 6002: RAID 1 アレイ内または RAID 10 アレイ内のオフライン SSD の交換

変更情報

本バージョンには、次の変更情報が含まれています。

- MAP 6000: オフライン SSD の交換
- 用語の変更:

新規および既存の IBM 製品や機能と一致するように、複数の共通用語が変更され、SAN ボリューム・コントローラー情報に取り込まれています。特定の SAN ボリューム・コントローラー情報、特にコマンド行インターフェース (CLI) 資料は、主に未変更のままです。

次の表は、バージョン 6.1.0 で変更された共通用語の現在と以前の用法を示しています。

表 1. バージョン 6.1.0 の用語のマッピング表

6.1.0 SAN ボリューム・コントローラーの用語	以前の SAN ボリューム・コントローラーの用語	説明
イベント	エラー	タスクまたはシステムにとって重要な事象。イベントには、操作の完了や失敗、ユーザー処置、またはプロセスの状態の変更が含まれる場合があります。
ホスト・マッピング	VDisk からホストへのマッピング	クラスター化システム内の特定のボリュームにアクセスできるホストを制御するプロセス。
ストレージ・プール	管理対象ディスク (MDisk) グループ	ボリュームに必要な容量を提供する、ストレージ容量の集合。
シン・プロビジョニング	スペース使用効率のよい	ストレージ・ユニットに割り当てられている物理容量よりも大きい論理容量サイズで、そのストレージ・ユニット (全システム、ストレージ・プール、ボリューム) を定義する機能。
ボリューム	仮想ディスク (VDisk) (virtual disk (VDisk))	ディスク、テープ、またはその他のデータ記録メディア上の個別のストレージ単位。これは、何らかの形式の ID およびパラメーター・リスト (ボリューム・ラベルまたは入出力制御など) をサポートします。

次の表は、バージョン 6.2.0 で変更された共通用語の現在と以前の用法を示しています。

表 2. バージョン 6.2.0 の用語のマッピング表

6.2.0 SAN ボリューム・コントローラーの用語	以前の SAN ボリューム・コントローラーの用語	説明
クラスター化システムまたはシステム	クラスター	冗長性を確保するためにペアで (入出力グループに) 配置されるノードの集合であり、単一の管理インターフェースを提供する。

- **svctask** および **svcinfo** コマンド接頭部の使用。

コマンドの発行時に **svctask** および **svcinfo** のコマンド接頭部を使用する必要がなくなりました。これらの接頭部を使用する既存のスクリプトは引き続き機能します。スクリプトを変更する必要はありません。

引き続き、**satask** および **sainfo** コマンドの接頭部は必須です。

強調

本書では、強調を表すために、各種書体が使用されています。

強調して示したい個所を表すために、以下の書体を使用しています。

太字	太字体のテキストはメニュー項目を表します。
太字モノスペース	太字モノスペースのテキストはコマンド名を表します。
イタリック	イタリック体は、語を強調する場合に使用されます。この書体は、コマンド構文で、デフォルトのディレクトリーまたはシステム名など、実際の値を指定する変数を表します。
モノスペース	モノスペースのテキストは、ユーザーが入力するデータまたはコマンド、コマンド出力のサンプル、プログラム・コードまたはシステムからの出力メッセージの例、あるいはコマンド・フラグ、パラメーター、引数、および名前/値ペアの名前を示します。

SAN ボリューム・コントローラーのライブラリーおよび関連資料

製品資料、その他の資料、および Web サイトには、SAN ボリューム・コントローラーに関連した説明があります。

SAN ボリューム・コントローラーのインフォメーション・センター

IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラーのインフォメーション・センターには、SAN ボリューム・コントローラーのインストール、構成、および管理を行うために必要なすべての情報が入っています。インフォメーション・センターは、SAN ボリューム・コントローラー製品のリリースから次のリリースの間に更新され、最新の資料を提供しています。インフォメーション・センターは、次の Web サイトから入手できます。

publib.boulder.ibm.com/infocenter/svc/ic/index.jsp

SAN ボリューム・コントローラーのライブラリー

特に注記がない限り、SAN ボリューム・コントローラー ライブラリーの資料は次の Web サイトで Adobe PDF ファイルとしてご利用いただけます。

www.ibm.com/storage/support/2145

表3の各 PDF 資料は、以下の「資料番号」欄の番号をクリックすることで、このインフォメーション・センターから入手することができます。

表3. SAN ボリューム・コントローラーのライブラリー

タイトル	説明	資料番号
IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラーモデル 2145-CG8 ハードウェアの取り付けガイド	この資料には、IBM サービス担当員が SAN ボリューム・コントローラー モデル 2145-CG8 のハードウェアを設置するときを使用する手順が記載されています。	GA88-4363
IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラーハードウェア・メンテナンス・ガイド	この資料には、IBM サービス担当員が SAN ボリューム・コントローラー のハードウェアの保守 (部品の取り外しと取り替えを含む) を行うときに使用する手順が記載されています。	GC88-4364
IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラートラブルシューティング・ガイド	この資料には、SAN ボリューム・コントローラーの各モデルの特長、フロント・パネルの使用法、および SAN ボリューム・コントローラーの問題の診断と解決に役立つ保守分析手順が記載されています。	GC88-8304
IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラーソフトウェアのインストールおよび構成のガイド	この資料は、SAN ボリューム・コントローラーの構成についてのガイドラインを提供しています。クラスター構成のバックアップと復元、管理 GUIの使用とアップグレード、CLI の使用、SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアのアップグレード、およびノードの交換とクラスターへの追加に関する説明が記載されています。	GC88-8298
IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラー CIM エージェント開発者のガイド	この資料は、Common Information Model (CIM) 環境の概念を説明しています。また、CIM エージェント・オブジェクト・クラスのインスタンスを使用した基本ストレージ構成作業の完了、新しいコピー・サービス関係の確立、および CIM エージェントの保守と診断の作業の実行といった作業の手順を説明しています。	GC88-8300

表 3. SAN ボリューム・コントローラーのライブラリー (続き)

タイトル	説明	資料番号
IBM System Storage SAN Volume Controller Safety Notices	この資料には、翻訳された「警告」および「危険」の記述が記載されています。SAN ボリューム・コントローラーの資料では、それぞれの「警告」および「危険」の記述ごとに番号が付けられており、この番号を使用して、資料「IBM System Storage SAN Volume Controller Safety Notices」でお客様の母国語で書かれた対応する記述を見つけられるようになっています。	GA32-0844
IBM System Storage SAN Volume Controller Read First Flyer	この資料では、SAN ボリューム・コントローラー・システムの主要コンポーネントを紹介し、ハードウェアの取り付けとソフトウェアのインストールの開始方法を説明しています。	GA32-0843
IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラーと IBM Storwize® V7000 コマンド行インターフェース・ユーザーズ・ガイド	この資料は、SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) から使用できるコマンドを説明しています。	GC88-8299
IBM 保証の内容と制限 (2145 および 2076)	このマルチリンガル資料には、マシン・タイプ 2145 および 2076 用の IBM 保証に関する情報が記載されています。	部品番号: 85Y5978
IBM 機械コードのご使用条件	このマルチリンガル資料には、SAN ボリューム・コントローラー製品の IBM 機械コードのご使用条件が記載されています。	SC28-6872 (Z125-5468 を含む)

その他の IBM 資料

xvii ページの表 4 には、SAN ボリューム・コントローラーに関連した情報が記載されている IBM 資料のリストがあります。

表 4. その他の IBM 資料

タイトル	説明	資料番号
<i>IBM System Storage Productivity Center Introduction and Planning Guide</i>	このガイドでは、IBM System Storage Productivity Center のハードウェアおよびソフトウェアを紹介します。	SC88-4803
はじめにお読みください: <i>Installing the IBM System Storage Productivity Center</i>	この資料は、IBM System Storage Productivity Center ハードウェアのインストール方法を説明します。	GI11-8938
<i>IBM System Storage Productivity Center User's Guide</i>	この資料は、IBM System Storage Productivity Center ソフトウェアの構成方法を説明します。	SC27-2336
<i>IBM System Storage</i> マルチパス・サブシステム・デバイス・ドライバー ユーザーズ・ガイド	この資料は、IBM System Storage マルチパス・サブシステム・デバイス・ドライバー (IBM System Storage 製品用) と SAN ボリューム・コントローラー での使い方を説明しています。	GC52-1309
<i>IBM Storage Management Pack for Microsoft System Center Operations Manager User Guide</i>	この資料では、IBM Storage Management Pack for Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) のインストール、構成、および使用方法について説明しています。	GC27-3909 publibfp.dhe.ibm.com/epubs/pdf/c2739092.pdf
<i>IBM Storage Management Console for VMware vCenter, version 3.0.0, User Guide</i>	この資料では、SAN ボリューム・コントローラーおよび他の IBM ストレージ・システムを VMware vCenter 環境で統合できるようにする IBM Storage Management Console for VMware vCenter のインストール、構成、および使用方法について説明しています。	GA32-0929 publibfp.dhe.ibm.com/epubs/pdf/a3209295.pdf

IBM 資料および関連 Web サイト

表 5 には、SAN ボリューム・コントローラー、または関連製品やテクノロジーに関する資料およびその他の情報を提供している Web サイトのリストがあります。

表 5. IBM 資料および関連 Web サイト

Web サイト	Address
SAN ボリューム・コントローラー (2145) のサポート	www.ibm.com/storage/support/2145
IBM System Storage および IBM TotalStorage 製品のサポート	www.ibm.com/storage/support/
IBM Publications Center	www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss

表 5. IBM 資料および関連 Web サイト (続き)

Web サイト	Address
IBM Redbooks® 資料	www.redbooks.ibm.com/

アクセス可能性についての関連情報

PDF ファイルを表示するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。これは、次の Adobe Web サイトからダウンロードできます。

www.adobe.com/support/downloads/main.html

第 1 章 SAN ボリューム・コントローラーの概要

SAN ボリューム・コントローラーは、ソフトウェアとハードウェアを結合して、対称仮想化を使用する総合的なモジュラー装置を生成します。

対称仮想化は、接続されたストレージ・システムから管理対象ディスク (MDisk) のプールを作成することによって実現されます。これらのストレージ・サブシステムは、接続されたホスト・システムで使用するために、一群のボリュームにマッピングされます。システム管理者は、ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) 上にあるストレージの共通プール表示とアクセスができます。この機能は、管理者がストレージ・リソースをより効率的に使用する上で役立ち、拡張機能用の共通ベースを提供します。

SAN はホスト・システムとストレージ・デバイスを結ぶ高速のファイバー・チャンネル・ネットワークです。SAN 内で、ホスト・システムをネットワーク経由でストレージ・デバイスに接続できます。接続はルーターやスイッチのような装置を経由して行われます。これらの装置を含むネットワークの領域を、ネットワークのファブリック と呼びます。

SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェア

SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアは、SAN ボリューム・コントローラーに接続するホスト・システムに対して以下の機能を実行します。

- 単一のストレージ・プールを作成する
- 論理装置の仮想化を提供する
- 論理ボリュームを管理する
- 論理ボリュームをミラーリングする

また、SAN ボリューム・コントローラーシステムは、以下の機能も提供します。

- 大容量スケーラブル・キャッシュ
- コピー・サービス
 - 複数のターゲットを手ごろな価格で入手可能にするシン・プロビジョニング FlashCopy® を含む、IBM FlashCopy (ポイント・イン・タイム・コピー) 機能
 - メトロ・ミラー (同期コピー)
 - グローバル・ミラー (非同期コピー)
 - データ・マイグレーション
- スペース管理
 - 最も頻繁に使用されるデータをより高性能なストレージにマイグレーションする IBM System Storage Easy Tier®
 - IBM Tivoli® Storage Productivity Center と結合する場合のサービス品質の測定
 - シン・プロビジョニング論理ボリューム
 - 圧縮ボリュームによるストレージの統合

図1 は、ホスト、SAN ボリューム・コントローラー・ノード、および SAN ファブリックに接続された RAID ストレージ・システムを示しています。冗長 SAN ファブリックは、複数の対をなす SAN のフォールト・トレラント配置で構成されており、これによって各 SAN 接続装置について代替パスを提供します。

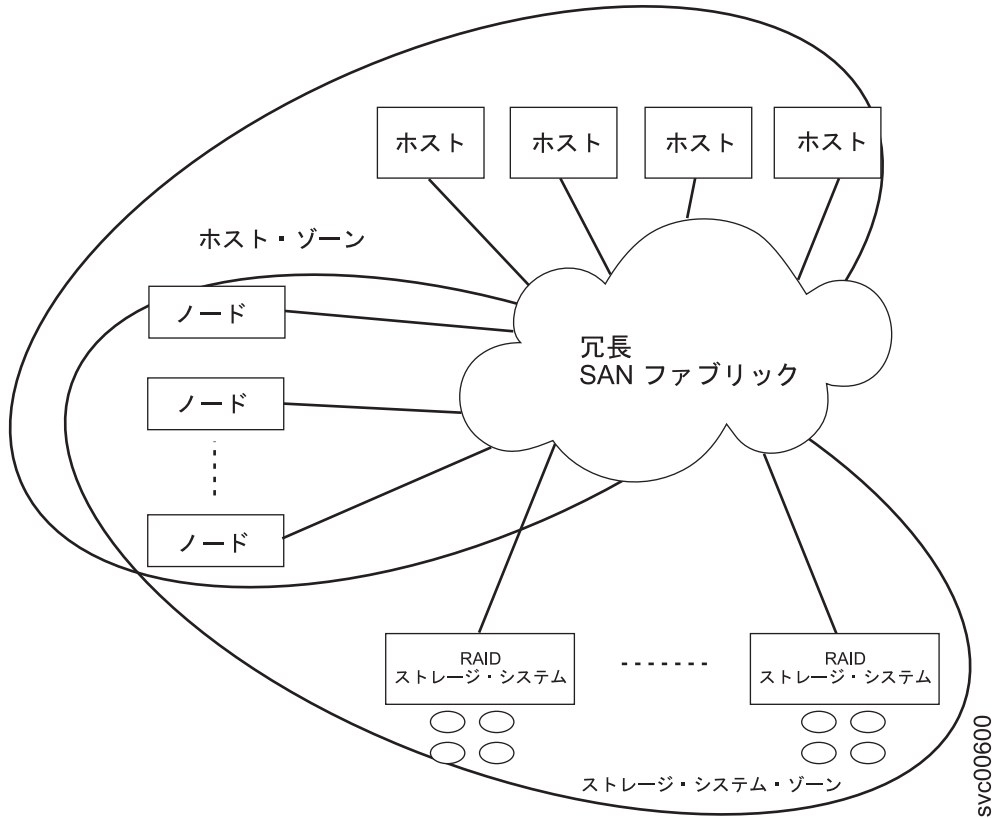


図1. ファブリック内の SAN ボリューム・コントローラー・システム

ボリューム

SAN ボリューム・コントローラー・ノードのシステムは、ホストにボリュームを提供します。SAN ボリューム・コントローラーが提供する拡張機能の大部分は、ボリューム上で定義されています。これらのボリュームは、RAID ストレージ・システムが提示する管理対象ディスク (MDisk) から作成されます。すべてのデータ転送は SAN ボリューム・コントローラー・ノードを介して行われます。これは、対称仮想化として説明されています。

図 2 は、ファブリック全体でのデータ・フローを示しています。

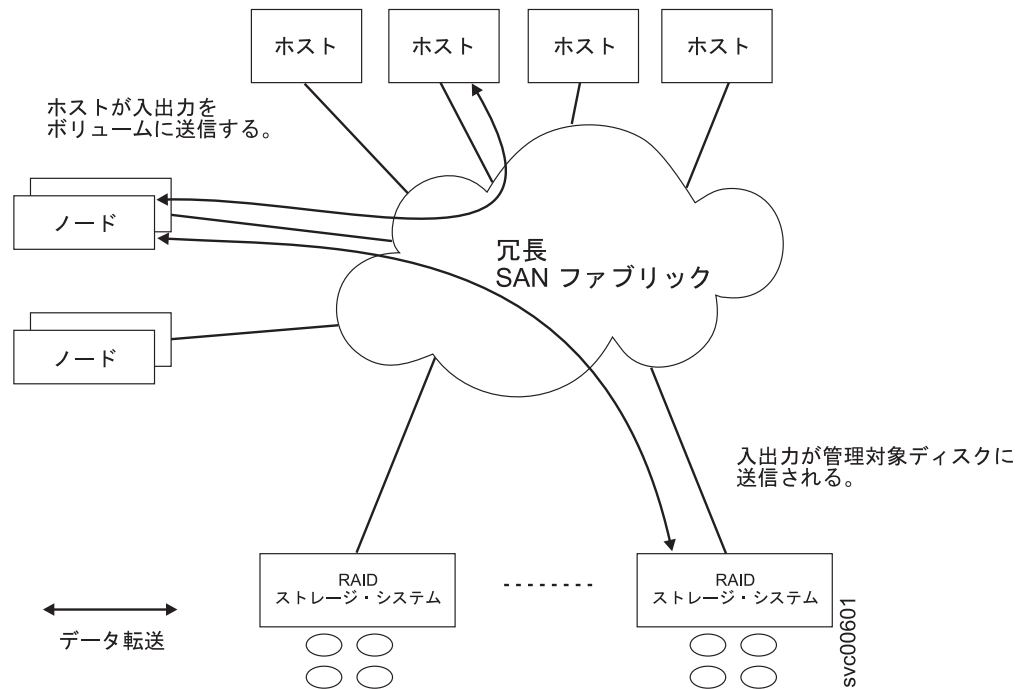


図2. SAN ボリューム・コントローラー・システム内のデータ・フロー

システム内のノードは、入出力グループと呼ばれるペアで配置されます。単一のペアは、特定のボリューム上でサービス提供される入出力に関与します。ボリュームは 2 つのノードに從属しているため、1 つのノードに障害が発生したりオフラインになっても可用性は失われません。

システム管理

クラスター化システム内の SAN ボリューム・コントローラー・ノードは単一のシステムとして作動し、システム管理およびサービスの単一制御点を提示します。システム管理およびエラー報告は、イーサネット・インターフェースを介してシステム内のノードの 1 つ (構成ノードと呼ばれます) に提供されます。構成ノードは、Web サーバーを稼働し、コマンド行インターフェース (CLI) を提供します。構成ノードの役割は、任意のノードに付与することができます。現行の構成ノードに障害が発生すると、残りのノードから新規の構成ノードが選択されます。各ノードも、ハードウェア・サービス・アクションを実行するためのコマンド行インターフェースおよび Web インターフェースを提供します。

ファブリック・タイプ

ホストと SAN ボリューム・コントローラー・ノードの間、および SAN ボリューム・コントローラー・ノードと RAID ストレージ・システムの間の入出力操作は、SCSI 規格を使用して実行されます。SAN ボリューム・コントローラー・ノードは、プライベート SCSI コマンドを使用して相互に通信します。

FCoE 接続は、システム・ソフトウェアがバージョン 6.4 にアップグレードされた後で、SAN ボリューム・コントローラー・ノード・モデル 2145-CG8 でのみサポートされます。

表6 は、ホスト、ノード、および RAID ストレージ・システム間の通信に使用できるファブリック・タイプを示しています。これらのファブリック・タイプは、同時に使用することができます。

表6. SAN ボリューム・コントローラーの通信タイプ

通信タイプ	ホストから SAN ボリューム・コントローラー	SAN ボリューム・コントローラーからストレージ・システム	SAN ボリューム・コントローラーから SAN ボリューム・コントローラー
ファイバー・チャネル SAN	はい	はい	はい
iSCSI (1 Gbps イーサネットまたは 10 Gbps イーサネット)	はい	いいえ	いいえ
Fibre Channel Over Ethernet SAN (10 Gbps イーサネット)	はい	はい	はい

ソリッド・ステート・ドライブ

一部の SAN ボリューム・コントローラー・ノードは、ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を内蔵しています。これらの内蔵 SSD は、RAID 管理対象ディスク (MDisk) の作成に使用でき、この MDisk は、ボリュームの作成に使用できます。SSD はホスト・サーバーに、重要なアプリケーション用のハイパフォーマンス・ストレージのプールを提供します。

図3 は、この構成を示しています。内部 SSD MDisk は、通常の RAID ストレージ・システムからの MDisk が属するストレージ・プールに配置することもできます。また、IBM System Storage Easy Tier は、使用頻度の高いデータをより高性能のストレージに移動することで、ストレージ・プール内での自動データ配置を実行します。

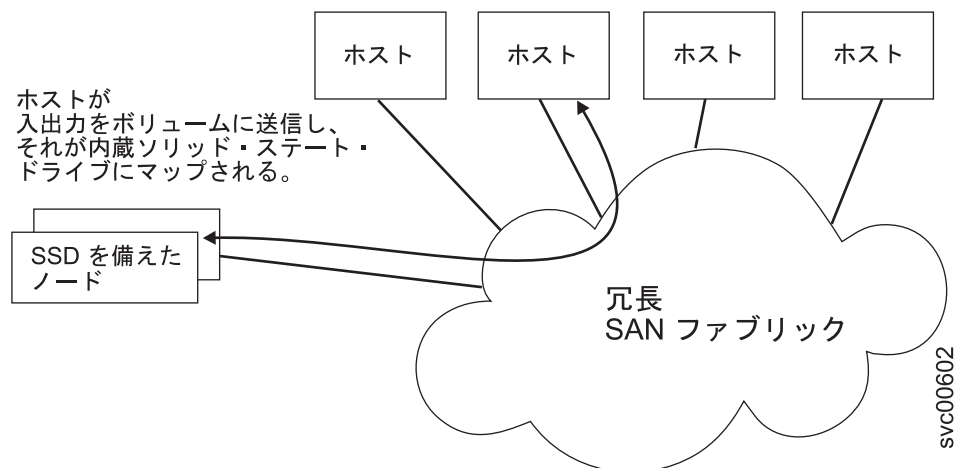


図3. 内部 SSD を備えた SAN ボリューム・コントローラー・ノード

SAN ボリューム・コントローラーのハードウェア

各 SAN ボリューム・コントローラー・ノードは、SAN ボリューム・コントローラー クラスター化システム・ソフトウェアが実行されている、SAN ボリューム・コントローラー内の個々のサーバーです。

ノードは常に対でインストールされ、ノードの最小で 1 つ、最大で 4 つの対で 1 つのシステムが構成されます。各ノード・ペアは、入出力グループと呼ばれます。入出力グループのノードによって管理される入出力操作は、すべて両方のノードにキャッシュされます。

入出力グループは、ストレージ・システムによって SAN に提示されるストレージを MDisk として取り込み、そのストレージをホストのアプリケーションで使用される論理ディスク (ボリューム) に変換します。1 つのノードは 1 つの入出力グループのみに属し、その入出力グループ内のボリュームへのアクセスを提供します。

クラスター化システム

構成、モニター、および保守の作業はすべて、クラスター化システム・レベルで行われます。そのため、システムの構成後は、SAN ボリューム・コントローラー・システムの仮想化機能および拡張機能を利用できます。

システムは、2 つから 8 つの SAN ボリューム・コントローラー・ノードで構成できます。

すべての構成設定値は、システム内のすべてのノードで複製されます。構成はシステム・レベルで実行されるため、管理 IP アドレスは、システムに割り当てられます。各インターフェースは、イーサネット・システム管理アドレスを使用してリモート側からシステムにアクセスします。

構成ノード

構成ノードとは、システムの構成アクティビティを管理する単一のノードのことです。

構成ノードに障害が起こると、システムは、新しい構成ノードを選択します。このアクションを構成ノード・フェイルオーバーといいます。新しい構成ノードは、管理 IP アドレスを引き継ぎます。このため、元の構成ノードに障害が起こった場合でも、同じ IP アドレスを使用してシステムにアクセスできます。フェイルオーバー中の短い間、コマンド行ツールまたは管理 GUIは使用できなくなります。

6 ページの図 4 は、4 つのノードを含むクラスター化システムの例を示しています。ノード 1 が構成ノードとして指定されています。ユーザー要求 (I) はノード 1 によって処理されます。

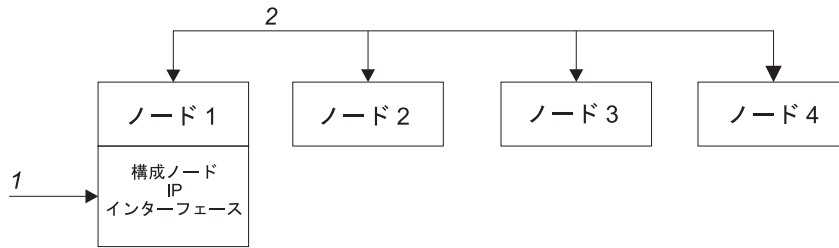


図4. 構成ノード

構成ノードのアドレッシング

常に、SAN ボリューム・コントローラー・クラスター化システム内の 1 つだけのノードに IP アドレスが割り当てられます。

クラスター化システムの IP アドレスは、イーサネット・ポート 1 に割り当てする必要があります。イーサネット・ポート 2 にも IP アドレスを割り当てることができます。管理 IP アドレスを割り当てることができるのは、これらのポートに限られます。

このノードは、管理 GUI アプリケーションまたは CLI が行う構成およびその他の要求すべてに対するフォーカル・ポイントとしての働きをします。このノードは、構成構成ノードと呼ばれます。

構成ノードが停止したり失敗した場合、システム内にある残りのノードは、いずれのノードが構成ノードの役割をするのか決定します。新しい構成ノードは、管理 IP アドレスをイーサネット・ポートにバインドします。この新しいマッピングをブロードキャストして、システムの構成インターフェースへの接続を再開できるようにします。

新しい構成ノードは、アドレス解決プロトコル(ARP) を使用して、新しい IP アドレス・マッピングをブロードキャストします。いくつかのスイッチは、ARP パケットをサブネットワークの上の他の装置に転送できるように構成する必要があります。イーサネット・デバイスはすべて、非請求 ARP パケットをパスするように構成されていることを確認します。そうでない場合、ARP パケットが転送されないと、装置の SAN ボリューム・コントローラー・システムへの接続が失われます。

装置が SAN ボリューム・コントローラー・システムへの接続を失うと、装置がシステムと同じサブネットワーク上にある場合は、装置はアドレスを素早く再生成できます。ただし、装置がクラスターと同じサブネットワーク上にない場合は、ゲートウェイのアドレス解決キャッシュがリフレッシュするのに数時間かかることがあります。この場合は、同一サブネットワーク上の端末からシステムへのコマンド行接続を確立し、次に接続を失った装置にセキュア・コピーを開始することで、接続を復元できます。

管理 IP フェイルオーバー

構成ノードに障害が起きると、クラスター化システムの IP アドレスは新しいノードに転送されます。障害のある構成ノードから新しい構成ノードへの管理 IP アドレスの転送は、システム・サービスを使用して管理します。

システム・サービスによって、以下の変更が行われます。

- 障害のある構成ノード上のソフトウェアが引き続き操作可能な場合は、ソフトウェアが管理 IP インターフェースをシャットダウンします。ソフトウェアが管理 IP インターフェースをシャットダウンできない場合は、ハードウェア・サービスがノードのシャットダウンを強制します。
- 管理 IP インターフェースがシャットダウンすると、残りのすべてのノードは新規ノードを選択して、構成インターフェースをホストします。
- 新しい構成ノードは、構成デーモン (sshd および httpd を含む) を初期化してから、管理 IP インターフェースをそのイーサネット・ポートにバインドします。
- ルーターは、新規構成ノードのデフォルトのゲートウェイとして構成されます。
- 管理 IP アドレスの新しい構成ノード上でルーティング・テーブルが設定されます。新規構成ノードは、それぞれの IP アドレスごとに 5 つの非送信請求アドレス解決プロトコル (ARP) ・パケットをローカルのサブネット・ブロードキャスト・アドレスに送ります。ARP パケットには、新規構成ノードの管理 IP およびメディア・アクセス制御 (MAC) アドレスが入っています。ARP パケットを受信するシステムは、すべてその ARP テーブルの更新を強制されます。ARP テーブルが更新されれば、そのシステムは新規構成ノードに接続できます。

注: イーサネット装置によっては、ARP パケットを転送しない場合があります。ARP パケットが転送されない場合は、新規構成ノードへの接続を自動的に確立できません。この問題を回避するには、すべてのイーサネット装置を非送信請求 ARP パケットを渡すように構成します。SAN ボリューム・コントローラーにログインし、影響のあるシステムへのセキュア・コピーを開始すると、失われた接続を復元できます。セキュア・コピーを開始すると、影響のあるシステムと同じスイッチに接続されたすべてのシステムの ARP キャッシュへの更新が強制されます。

イーサネット・リンクの障害

SAN ボリューム・コントローラー・システムへのイーサネット・リンクが、ケーブルの切断、あるいはイーサネット・ルーターの障害など、SAN ボリューム・コントローラーとは無関係のイベントによって障害を起こした場合は、SAN ボリューム・コントローラーは、管理 IP アクセスを復元するために構成ノードのフェイルオーバーを試みません。SAN ボリューム・コントローラーには、2 つのイーサネット・ポート用のオプションがあり、それぞれのポートには、このタイプの障害に対して保護できるように独自の管理 IP アドレスがあります。1 つの IP アドレスを使用して接続できない場合は、代替 IP アドレスを使用してシステムへのアクセスを試行してください。

注: イーサネット接続を介したシステムへのアクセスのためにホストが使用する IP アドレスは、管理 IP アドレスとは異なります。

イベント通知および Network Time Protocol のルーティングの考慮事項

SAN ボリューム・コントローラーは、システムからアウトバウンド接続する以下のプロトコルをサポートします。

- E メール
- Simple Network Mail Protocol (SNMP)
- Syslog
- Network Time Protocol (NTP)

これらのプロトコルは、管理 IP アドレスを使用するように構成されているポートでのみ機能します。アウトバウンド接続するときに、SAN ボリューム・コントローラーは、次のようなルーティング決定方式を使用します。

- 宛先 IP アドレスが管理 IP アドレスの 1 つと同じサブネット内にある場合、SAN ボリューム・コントローラー・システムはパケットを即時に送信します。
- 宛先 IP アドレスがいずれかの管理 IP アドレスと同じサブネット内にはない場合、システムはパケットをイーサネット・ポート 1 のデフォルトのゲートウェイに送信します。
- 宛先 IP アドレスが管理 IP アドレスのいずれとも同じサブネットになく、イーサネット・ポート 1 がイーサネット・ネットワークに接続されていない場合、システムは、イーサネット・ポート 2 のデフォルト・ゲートウェイにパケットを送信します。

イベント通知用のこれらのプロトコルのいずれかを構成すると、これらのルーティングの決定を使用して、ネットワーク障害が発生した場合に、確実にエラー通知が正しく機能するようになります。

SAN ファブリックの概要

SAN ファブリックは、ルーターとスイッチを含むネットワーク領域です。SAN は多数のゾーンで構成されます。SAN を使用している装置は、その装置が入っている同じゾーンに組み込まれている装置のみと通信できます。SAN ボリューム・コントローラー クラスター化システムには、いくつかの特殊タイプのゾーン (システム・ゾーン、ホスト・ゾーン、およびディスク・ゾーン) が必要です。システム間ゾーンはオプションです。

ホスト・ゾーンでは、ホスト・システムは SAN ボリューム・コントローラー・ノードの識別とアドレス指定を行うことができます。複数のホスト・ゾーンと複数のディスク・ゾーンを作成できます。デュアル・コア・ファブリック設計を使用していない限り、システム・ゾーンには、システム内のすべての SAN ボリューム・コントローラー・ノードからのポートがすべて含まれます。それぞれのホスト・ファイバー・チャンネル・ポートごとにゾーンを 1 つ作成します。ディスク・ゾーンでは、SAN ボリューム・コントローラー・ノードがストレージ・システムを識別することができます。一般的に、それぞれの外部ストレージ・システムにゾーンを 1 つ作成します。メトロ・ミラー 機能およびグローバル・ミラー 機能を使用する場合は、各システム内の各ノードにあるポートが少なくとも 1 つあるゾーンを作成します。最大 4 つのシステムがサポートされます。

注: オペレーティング・システムによっては、同じホスト・ゾーン内で別のオペレーティング・システムが作動することを許容できないものがありますが、SAN ファブリック内には複数のホスト・タイプが存在する場合があります。例えば、1 つのホストでは IBM AIX® オペレーティング・システムが稼働し、別のホストでは Microsoft Windows オペレーティング・システムが稼働するような SAN 構成があります。

SAN ボリューム・コントローラー・ノード間の通信はすべて、SAN を介して行われます。すべての SAN ボリューム・コントローラーの構成コマンドおよびサービス・コマンドは、イーサネット・ネットワークを介してシステムに送信されます。

第 2 章 SAN ボリューム・コントローラーのハードウェア・コンポーネントの紹介

SAN ボリューム・コントローラー・システムは、SAN ボリューム・コントローラー・ノードと、関連ハードウェア・コンポーネント (無停電電源装置 (uninterruptible power supply)ユニットおよびオプションの冗長 AC 電源スイッチなど) で構成されます。ノードと無停電電源装置 (uninterruptible power supply)は対で取り付けられることに注意してください。

SAN ボリューム・コントローラー・ノード

SAN ボリューム・コントローラーは、複数の異なるノード・タイプをサポートしています。

以下のノードがサポートされます。

- SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ノードは購入できます。2145-CG8 で使用するために、以下のフィーチャーを購入できます。
 - 最大 4 つのソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を備えた高速 SAS アダプター
 - 2 ポート 10 Gbps イーサネット・アダプター
- 以下のノードは購入できなくなっていますが、引き続きサポートされます。
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2

ノードの前面にあるラベルは、SAN ボリューム・コントローラーのノード・タイプ、ハードウェアの改訂 (該当する場合)、およびシリアル番号を示します。

SAN ボリューム・コントローラー のフロント・パネルとインディケーター

コントロールおよびインディケーターは、電源とナビゲーション用に使用され、システム活動、サービスと構成オプション、サービス・コントローラー障害、およびノード識別番号などの情報を示すために使用されます。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 コントロールとインディケーター

コントロールおよびインディケーターは、電源とナビゲーション用に使用され、システム活動、サービスと構成オプション、サービス・コントローラー障害、およびノード識別番号などの情報を示すために使用されます。

図5 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 のフロント・パネル上のコントロールとインディケータを示しています。

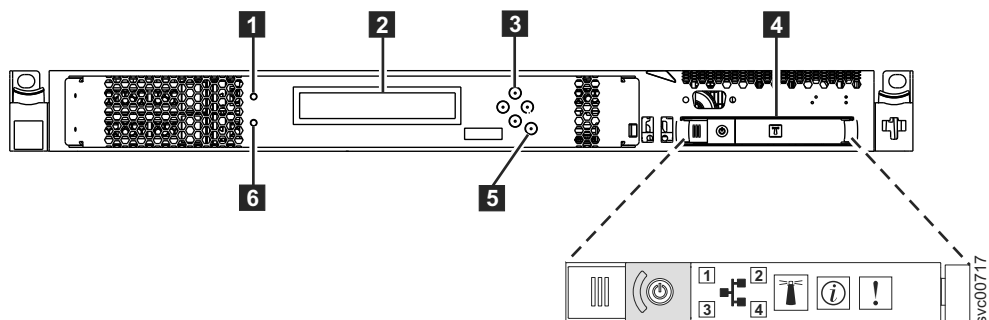


図5. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 フロント・パネル

- 1** ノード状況 LED
- 2** フロント・パネル・ディスプレイ
- 3** ナビゲーション・ボタン
- 4** オペレーター情報パネル
- 5** 選択ボタン
- 6** エラー LED

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 コントロールとインディケータ

コントロールおよびインディケータは、電源とナビゲーション用に使用され、システム活動、サービスと構成オプション、サービス・コントローラー障害、およびノード識別番号などの情報を示すために使用されます。

図6 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 のフロント・パネル上のコントロールとインディケータを示しています。

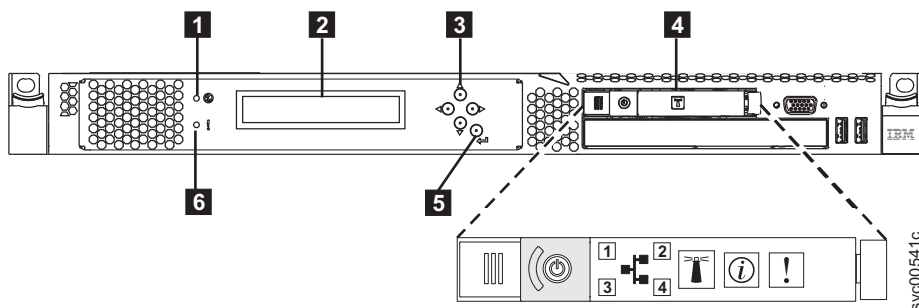


図6. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 フロント・パネル

- 1** ノード状況 LED
- 2** フロント・パネル・ディスプレイ
- 3** ナビゲーション・ボタン
- 4** オペレーター情報パネル
- 5** 選択ボタン

6 エラー LED

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 コントロールとインディケータ

コントロールおよびインディケータは、電源とナビゲーション用に使用され、システム活動、サービスと構成オプション、サービス・コントローラー障害、およびノード識別番号などの情報を示すために使用されます。

図7は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 のフロント・パネル上のコントロールとインディケータを示しています。

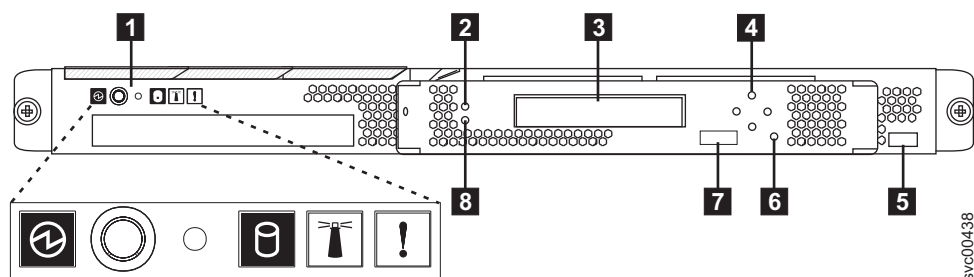


図7. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 のフロント・パネル・アセンブリー

- 1 オペレーター情報パネル
- 2 ノード状況 LED
- 3 フロント・パネル・ディスプレイ
- 4 ナビゲーション・ボタン
- 5 シリアル番号ラベル
- 6 選択ボタン
- 7 ノード識別ラベル
- 8 エラー LED

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 コントロールとインディケータ

コントロールおよびインディケータは、電源とナビゲーション用に使用され、システム活動、サービスと構成オプション、サービス・コントローラー障害、およびノード識別番号などの情報を示すために使用されます。

14 ページの図8は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 のフロント・パネル上のコントロールとインディケータを示しています。

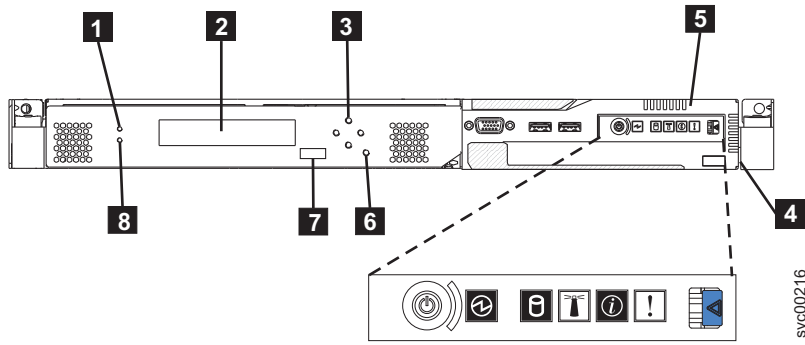


図8. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 のフロント・パネル・アセンブリ

- 1 ノード状況 LED
- 2 フロント・パネル・ディスプレイ
- 3 ナビゲーション・ボタン
- 4 シリアル番号ラベル
- 5 オペレーター情報パネル
- 6 選択ボタン
- 7 ノード識別ラベル
- 8 エラー LED

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 コントロールとインディケータ

コントロールおよびインディケータは、電源とナビゲーション用に使用され、システム活動、サービスと構成オプション、サービス・コントローラー障害、およびノード識別番号などの情報を示すために使用されます。

図9 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 のフロント・パネル上のコントロールとインディケータを示しています。

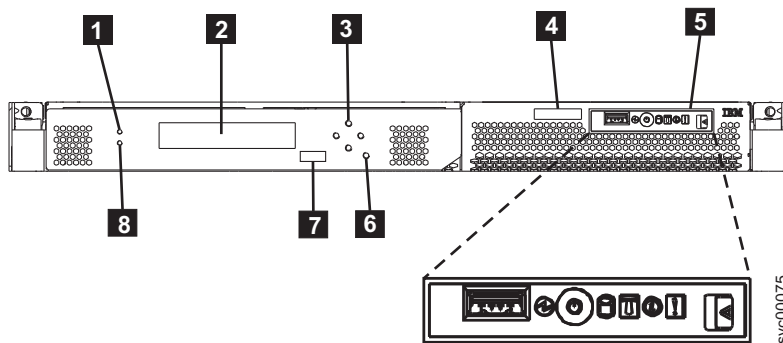


図9. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 のフロント・パネル・アセンブリ

- 1** ノード状況 LED
- 2** フロント・パネル・ディスプレイ
- 3** ナビゲーション・ボタン
- 4** シリアル番号ラベル
- 5** オペレーター情報パネル
- 6** 選択ボタン
- 7** ノード識別ラベル
- 8** エラー LED

ノード状況 LED

システム・アクティビティは、緑色のノード状況 LED で示されます。

ノード状況 LED は、以下のシステム・アクティビティ標識を示します。

オフ ノードはシステムのメンバーとして作動していません。

オン ノードはシステムのメンバーとして作動しています。

明滅 ノードは、システム・リブート (電源オフ保留アクションまたはその他の制御再始動シーケンスからの) に備えてキャッシュ・データと状態データをローカル・ディスクにダンプ中です。

フロント・パネル・ディスプレイ

フロント・パネル・ディスプレイは、サービス、構成、およびナビゲーション情報を表示します。

フロント・パネルに表示される言語を選択できます。表示は、英数字情報およびグラフィカル情報 (進行状況表示バー) の両方で表示されます。

フロント・パネル・ディスプレイには、ノードとシステムに関する構成情報およびサービス情報が表示され、これには以下の項目が含まれます。

- ブート進行インディケータ
- ブート障害
- 充電
- ハードウェア・ブート
- ノード・レスキュー要求
- 電源障害
- 電源オフ
- リカバリー
- 再始動
- シャットダウン
- エラー・コード
- WWNN の検証?

ナビゲーション・ボタン

ナビゲーション・ボタンを使用して、メニュー内を移動できます。

メニューでの移動に使用できるナビゲーション・ボタンには、上移動、下移動、右移動、および左移動の 4 つがあります。

それぞれのボタンは、メニューで移動できる方向に対応しています。例えば、メニューで右に移動するには、右側にあるナビゲーション・ボタンを押します。メニューを下方に移動したい場合は、下部にあるナビゲーション・ボタンを押します。

注: 「選択」ボタンは、ナビゲーション・ボタンと併せてタンデムで使用されません。

製品のシリアル番号

ノードには、システム・ボード・ハードウェアに書き込まれた SAN ポリウム・コントローラー製品のシリアル番号があります。製品のシリアル番号は、フロント・パネルにあるシリアル番号ラベルにも印刷されています。

この番号は、保証とサービスの資格検査に使用され、エラー・レポートとともに送られるデータに組み込まれます。製品の契約期間中は、この番号を変更しないことが重要です。システム・ボードを交換する場合は、慎重にシステム・ボード交換の指示に従って、システム・ボードのシリアル番号を再書き込みする必要があります。

選択ボタン

メニューから項目を選択するのに、「選択」ボタンを使用します。

「選択」ボタンとナビゲーション・ボタンは、メニュー・オプションおよびブート・オプションのナビゲートと選択、および保守パネル・テストの開始に役立ちます。「選択」ボタンは SAN ポリウム・コントローラーのフロント・パネルにあります。ナビゲーション・ボタンの近くです。

ノード識別ラベル

フロント・パネル・ディスプレイのノード識別ラベルは、6 桁のノード識別番号です。この番号は、パネル名またはフロント・パネル ID とも呼ばれます。

ノード識別ラベルは、**addnode** コマンドに入力される 6 桁の番号です。このラベルはシステム・ソフトウェアで読み取ることができ、構成およびサービス・ソフトウェアがノード ID として使用します。ノード識別番号は、メニューから「ノード (node)」を選択すればフロント・パネルにも表示できます。

サービス・コントローラー・アセンブリーのフロント・パネルを交換した場合、構成およびサービス・ソフトウェアは、交換パネルの前面に印刷されている番号を表示します。将来のエラー・レポートにはこの新しい番号が入ります。フロント・パネルを交換するときは、システムの再構成は必要ありません。

エラー LED

サービス・コントローラーの重大な障害は、こはく色のエラー LED により示されます。

エラー LED には次の 2 つの状態があります。

オフ サービス・コントローラーは正常に機能しています。

オン 重大なサービス・コントローラー障害が検出されたので、サービス・コントローラーを交換する必要があります。

ノードの電源がオンになるときに、エラー LED が一時的に点灯する場合があります。エラー LED がオンであるにもかかわらず、フロント・パネル・ディスプレイが完全にブランクである場合は、保守アクションを実行する前に、LED がオフになるまで 5 分待ってください。

SAN ボリューム・コントローラー オペレーター情報パネル

オペレーター情報パネルは、SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネルにあります。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 オペレーター情報パネル

オペレーター情報パネルには、ボタンとインディケーターがあります。それらは、電源制御ボタン、および LED (システム・ボード・エラー、ハード・ディスク・アクティビティー、および電源状況などの情報を示す) があります。

図 10 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 のオペレーター情報パネルを示しています。

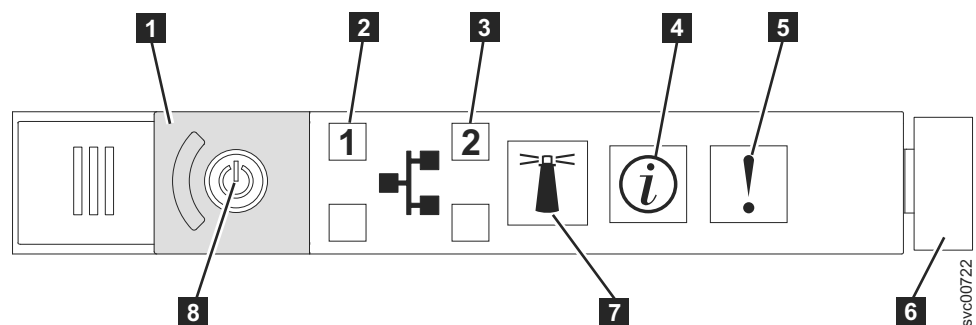


図 10. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 オペレーター情報パネル

- 1** 電源ボタン・カバー
- 2** イーサネット 1 アクティビティー LED。オペレーター情報パネルの LED は、システム・ボードに取り付けられたイーサネット・ポートを示しています。
- 3** イーサネット 2 アクティビティー LED。オペレーター情報パネルの LED は、システム・ボードに取り付けられたイーサネット・ポートを示しています。
- 4** システム情報 LED
- 5** システム・エラー LED
- 6** リリース・ラッチ
- 7** ロケーター・ボタンと LED
- 8** 電源ボタンと LED

注: 10 Gbps イーサネット・フィーチャーを取り付けている場合、ポート・アクティビティはアクティビティ LED に反映されません。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 オペレーター情報パネル

オペレーター情報パネルには、ボタンとインディケーターがあります。それらは、電源制御ボタン、および LED (システム・ボード・エラー、ハード・ディスク・アクティビティ、および電源状況などの情報を示す) があります。

図 11 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8の オペレーター情報パネルを示しています。

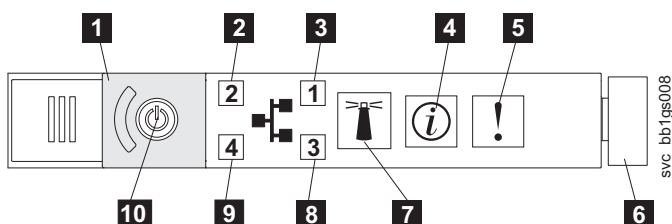


図 11. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 オペレーター情報パネル

- 1 電源ボタン・カバー
- 2 イーサネット 2 アクティビティ LED
- 3 イーサネット 1 アクティビティ LED
- 4 システム情報 LED
- 5 システム・エラー LED
- 6 リリース・ラッチ
- 7 ロケーター・ボタンと LED
- 8 未使用
- 9 未使用
- 10 電源ボタンと LED

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 オペレーター情報パネル

オペレーター情報パネルには、ボタンとインディケーターがあります。それらは、電源制御ボタン、および LED (システム・ボード・エラー、ハード・ディスク・アクティビティ、および電源状況などの情報を示す) があります。

19 ページの図 12 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4の オペレーター情報パネルを示しています。

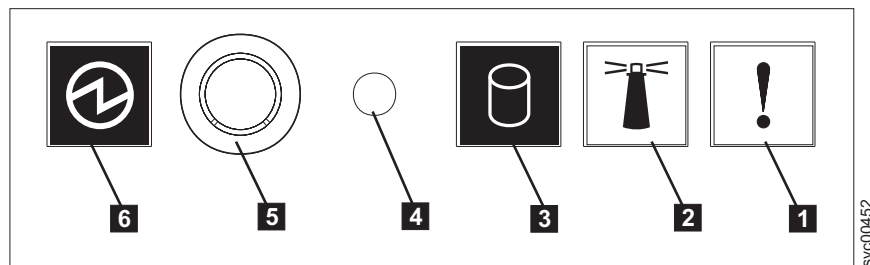


図 12. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 オペレーター情報パネル

- 1 システム・エラー LED (こはく色)
- 2 ロケーター LED (青色)
- 3 ハード・ディスク・ドライブ・アクティビティ LED (緑色)
- 4 リセット・ボタン
- 5 電源制御ボタン
- 6 電源 LED (緑色)

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 オペレーター情報パネル

オペレーター情報パネルには、ボタンとインディケータがあります。それらは、ライト・パス診断パネル用のリリース・ラッチ、電源制御ボタン、および LED (システム・ボード・エラー、ハード・ディスク・アクティビティ、および電源状況などの情報を示す) があります。

図 13 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 上のオペレーター情報パネルを示しています。

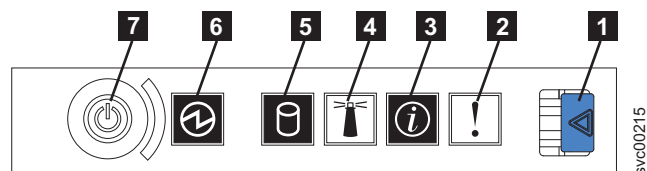


図 13. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 オペレーター情報パネル

- 1 ライト・パス診断パネル用リリース・ラッチ
- 2 システム・エラー LED (こはく色)
- 3 システム情報 LED (こはく色)
- 4 ロケーター LED (青色)
- 5 ハード・ディスク・ドライブ・アクティビティ LED (緑色)
- 6 電源 LED (緑色)
- 7 電源制御ボタン

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 のオペレーター情報パネル

オペレーター情報パネルには、ボタンとインディケーターがあります。それらは、ライト・パス診断パネル用のリリース・ラッチ、電源制御ボタン、および LED (システム・ボード・エラー、ハード・ディスク・アクティビティ、および電源状況などの情報を示す) があります。

図 14 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 モデルで使用される オペレーター情報パネル を示しています。

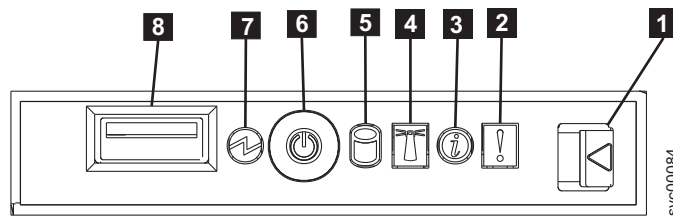


図 14. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 オペレーター情報パネル

- 1** ライト・パス診断パネル用リリース・ラッチ
- 2** システム・エラー LED (こはく色)
- 3** 情報 LED (こはく色)
- 4** ロケーター LED (青色)
- 5** ハード・ディスク・ドライブ・アクティビティ LED (緑色)
- 6** 電源制御ボタン
- 7** 電源 LED (緑色)
- 8** USB コネクター

システム・エラー LED

システム・エラー LED の点灯は、システム・ボード・エラーが起きていることを示します。

このこはく色の LED は、SAN ボリューム・コントローラー・ハードウェアが致命的エラーを検出した場合に点灯します。この場合、新しい現場交換可能ユニット (FRU) が必要です。障害のある FRU を切り分けるには、MAP 5800: Light path を参照してください。

システム・エラー LED は、SAN ボリューム・コントローラーのモデル 2145-CG8、2145-CF8、2145-8G4、2145-8F4、および 2145-8F2 の背面にもあります。

ハード・ディスク・ドライブ・アクティビティ LED

点灯している場合、緑色のハード・ディスク・ドライブ・アクティビティ LED は、ハード・ディスク・ドライブが使用中であることを示します。

リセット・ボタン

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ノード上でリセット・ボタンが使用可能ですが、これは使用しないでください。

重要: リセット・ボタンを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーの制御データがディスクに書き込まれずに、ノードが即時に再始動します。この場合、ノードを再び作動可能にするには、サービス・アクションが必要です。

電源ボタン

電源ボタンは、SAN ボリューム・コントローラーの主電源をオンまたはオフにします。

電源を入れるには、電源ボタンを押して放します。ボタンを押すには、ペンのような先のとがったデバイスが必要です。

電源を切るには、電源ボタンを押して放します。SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源をオフにする方法については、『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』を参照してください。

重要: ノードが稼働状態のときに、電源ボタンを押してすぐに放すと、SAN ボリューム・コントローラーは、電源オフ中であることをフロント・パネルに表示し、制御データを内部ディスクに書き込みます。これには、5 分を要する可能性があります。電源ボタンを押したまま放さないと、SAN ボリューム・コントローラーの制御データはディスクに書き込まれず、ノードは即時に電源オフになります。その場合、SAN ボリューム・コントローラーを再度作動可能状態にするには、保守アクションが必要となります。このため、電源オフ操作時には、2 秒を超えて電源ボタンを押し続けしないでください。

注: 2145 UPS-1U は、SAN ボリューム・コントローラーが電源ボタンでシャットダウンされても電源オフになりません。

電源 LED

緑色の電源 LED は SAN ボリューム・コントローラーの電源状況を示します。

電源 LED には以下の特性があります。

オフ 次の条件の 1 つ以上が該当します。

- 電源機構に入力電源が供給されていない。
- 電源機構に障害が起こっている。
- LED に障害が起こっている。

オン SAN ボリューム・コントローラー・ノードがオンになっている。

明滅 SAN ボリューム・コントローラー・ノードがオフになっているが、給電部には接続されている。

注: 電源 LED は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8、2145-CF8、2145-8F2、2145-8F4、および 2145-8G4 ノードの背面にもあります。

リリース・ラッチ

SAN ボリューム・コントローラー・モデル 2145-8G4、2145-8F4、および 2145-8F2 のリリース・ラッチにより、ライト・パス診断パネルにアクセスできます。このパネルは、問題の位置を判断するための方法を提供します。

オペレーター情報パネルのリリース・ラッチを押した後、Light Path 診断パネルを外側にスライドさせると、LED の点灯を確認することができます。これらの LED は、発生したエラーのタイプを示します。詳しくは、MAP 5800: Light path を参照してください。

パネルを元の位置に戻すには、カチッと音がして正しい位置に収まるまでノードに押し戻します。

システム情報 LED

システム情報 LED が点灯した場合は、重大でないイベントが発生しています。

ライト・パス診断パネルとイベント・ログを確認してください。ライト・パス診断については、ライト・パス保守分析手順 (MAP) に詳細な説明があります。

ロケーター LED

SAN ボリューム・コントローラーはロケーター LED を使用しません。

イーサネット・アクティビティ LED

各イーサネット・ポートの横にあるイーサネット・アクティビティ LED は、SAN ボリューム・コントローラー・ノードが、イーサネット・ポートに接続されているイーサネット・ネットワークと通信していることを示します。

オペレーター情報パネルの LED は、システム・ボードに取り付けられたイーサネット・ポートを示しています。SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 に 10 Gbps イーサネット・カードを取り付けている場合、ポート・アクティビティはアクティビティ LED に反映されません。

SAN ボリューム・コントローラーの背面パネル・インディケータ ーとコネクタ

SAN ボリューム・コントローラーの背面パネル・インディケータは、後部パネル・アセンブリーにあります。外部コネクタは、SAN ボリューム・コントローラー・ノードおよび電源機構アセンブリーにあります。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の背面パネル・イン ディケータ

背面パネル・インディケータは LED で構成され、ファイバー・チャンネル・ポートの状況、イーサネット接続とアクティビティ、電力、電流、およびシステム・ボード・エラーを示します。

図 15 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の後部パネル・アセンブリー上の背面パネル・インディケータを示しています。

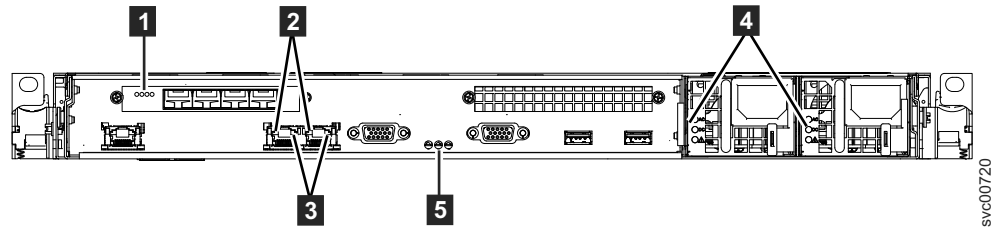


図 15. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の背面パネル・インディケータ

- 1 ファイバー・チャンネル LED
- 2 イーサネット・リンク LED
- 3 イーサネット・アクティビティ LED
- 4 AC、DC、および電源機構エラー LED
- 5 電源、ロケーション、およびシステム・エラー LED

図 16 は、10 Gbps イーサネット・フィーチャーが取り付けられた SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の後部パネル・アセンブリー上の背面パネル・インディケータを示しています。

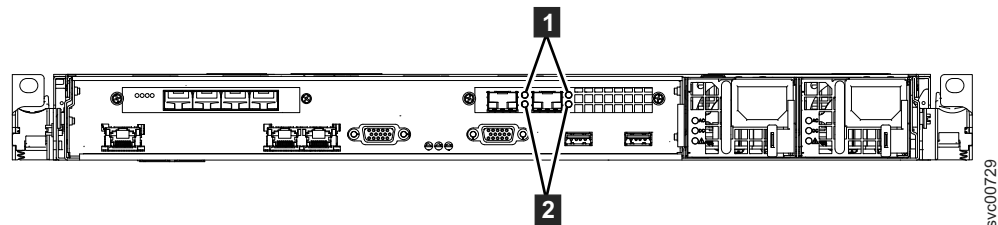


図 16. 10 Gbps イーサネット・フィーチャーにおける SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の背面パネル・インディケータ

- 1 10 Gbps イーサネット・リンク LED。これは色のリンク LED は、このポートが 10 Gbps イーサネット・スイッチに接続され、リンクがオンラインになっているときに点灯します。
- 2 10 Gbps イーサネット・アクティビティ LED。緑色のアクティビティ LED は、データがリンクを介して送信されているときに点灯します。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 コネクター

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 が使用する外部コネクターには、4 つのファイバー・チャンネル・ポート、1 つのシリアル・ポート、2 つのイーサネット・ポート、および 2 つの電源コネクターがあります。2145-CG8 には、10 Gbps イーサネット・フィーチャー用の外部コネクターもあります。

これらの図は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の後部パネル・アセンブリー上の外部コネクターを示しています。

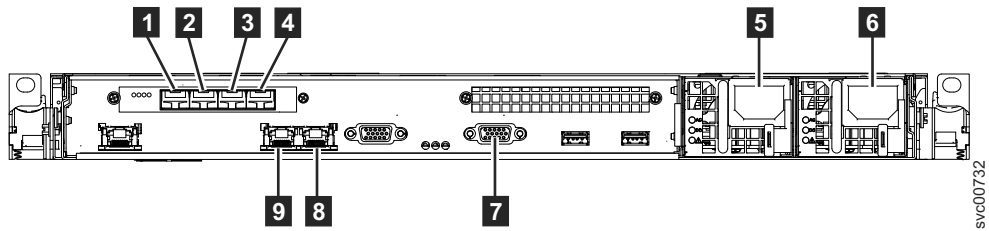


図 17. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の背面にあるコネクタ

- 1** ファイバー・チャンネル・ポート 1
- 2** ファイバー・チャンネル・ポート 2
- 3** ファイバー・チャンネル・ポート 3
- 4** ファイバー・チャンネル・ポート 4
- 5** 電源機構 1 の電源コード・コネクタ
- 6** 電源機構 2 の電源コード・コネクタ
- 7** UPS 通信ケーブルのシリアル接続
- 8** イーサネット・ポート 2
- 9** イーサネット・ポート 1

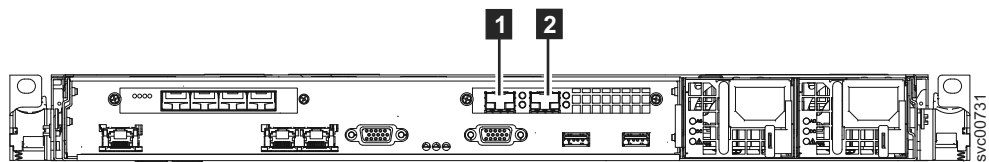


図 18. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 背面の 10 Gbps イーサネット・ポート

- 1** 10 Gbps イーサネット・ポート 3
- 2** 10 Gbps イーサネット・ポート 4

図 19 は、各電源機構アセンブリー上にあるコネクタのタイプを示しています。これらのコネクタを使用して、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 を無停電電源装置 (uninterruptible power supply) からの 2 本の電源ケーブルに接続します。

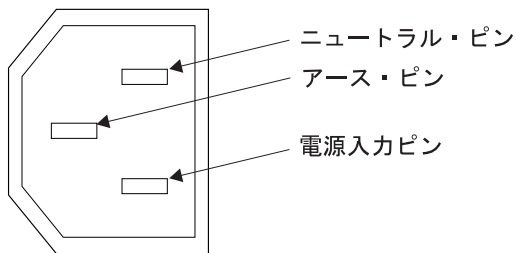


図 19. 電源コネクタ

保守手順の間で使用される SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ポート:

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 には、保守手順の間のみ使用される複数のポートが含まれています。

図 20 は、保守手順の間のみ使用されるポートを表示します。

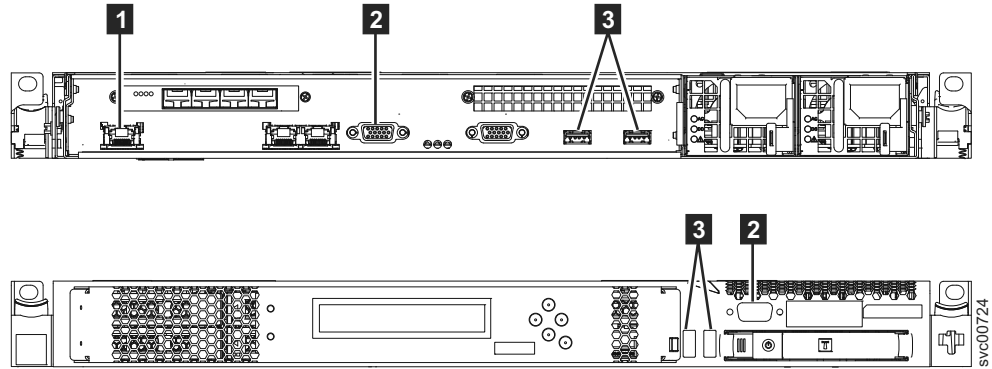


図 20. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 のサービス・ポート

- 1** システム管理ポート
- 2** 2 つのモニター・ポート、前面に 1 つと背面に 1 つ
- 3** 4 つの USB ポート、前面に 2 つと背面に 2 つ

通常操作時には、これらのポートはどれも使用しません。これらのポートのいずれかに装置を接続するのは、保守手順にその指示があった場合、または IBM サービス担当員によって接続するよう要請された場合だけです。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 未使用ポート:

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 には、使用されていないポートを 1 つ入れることができます。

図 21 は、保守手順の間または通常使用の間使用されない 1 つのポートを示しています。

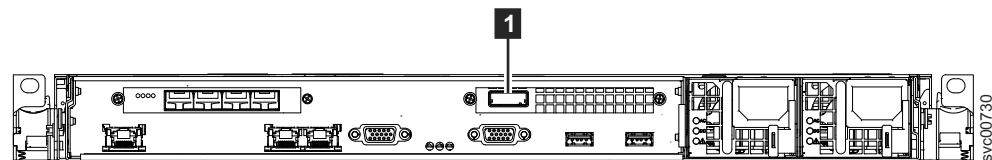


図 21. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ポート (未使用)

- 1** シリアル接続 SCSI (SAS) ポート

存在する場合、このポートはポートを非アクティブにするためにソフトウェアで無効にされています。

SAS ポートは、オプションの高速 SAS アダプターが 1 つ以上のソリッド・ステート・ドライブ (SSD) とともに取り付けられている場合に存在します。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 の背面パネル・インディケーター

背面パネル・インディケーターは LED で構成され、ファイバー・チャンネル・ポートの状況、イーサネット接続とアクティビティ、電力、電流、およびシステム・ボード・エラーを示します。

図 22 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 の後部パネル・アセンブリ上の背面パネル・インディケーターを示しています。

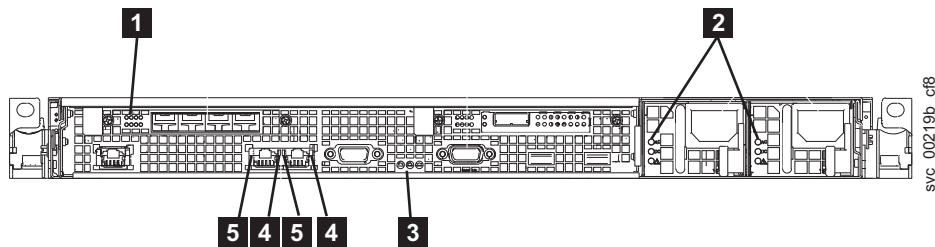


図 22. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 の背面パネル・インディケーター

- 1** ファイバー・チャンネル LED
- 2** AC、DC、および電源機構エラー LED
- 3** 電源、ロケーション、およびシステム・エラー LED
- 4** イーサネット・リンク LED
- 5** イーサネット・アクティビティ LED

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 コネクター

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 が使用する外部コネクターには、4 つのファイバー・チャンネル・ポート、1 つのシリアル・ポート、2 つのイーサネット・ポート、および 2 つの電源コネクターがあります。

図 23 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 後部パネル・アセンブリ上の外部コネクターを示しています。

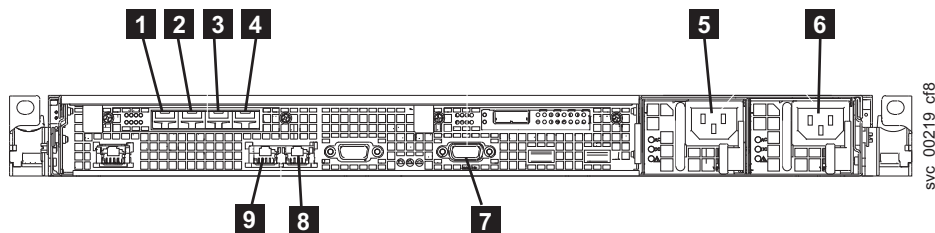


図 23. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 の背面にあるコネクター

- 1** ファイバー・チャンネル・ポート 1
- 2** ファイバー・チャンネル・ポート 2
- 3** ファイバー・チャンネル・ポート 3
- 4** ファイバー・チャンネル・ポート 4

- 5** 電源機構 1 の電源コード・コネクタ
- 6** 電源機構 2 の電源コード・コネクタ
- 7** UPS 通信ケーブルのシリアル接続
- 8** イーサネット・ポート 2
- 9** イーサネット・ポート 1

図 24 は、各電源機構アセンブリー上にあるコネクタのタイプを示しています。これらのコネクタを使用して、SAN ボリューム・コントローラ 2145-CF8 を無停電電源装置 (uninterruptible power supply)からの 2 本の電源ケーブルに接続します。

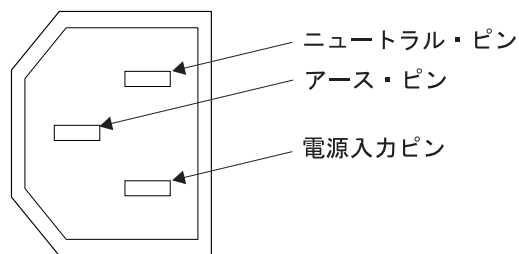


図 24. 電源コネクタ

保守手順の間で使用される SAN ボリューム・コントローラ 2145-CF8 ポート:

SAN ボリューム・コントローラ 2145-CF8 には、保守手順の間のみ使用される複数のポートが含まれています。

図 25 は、保守手順の間のみ使用されるポートを表示します。

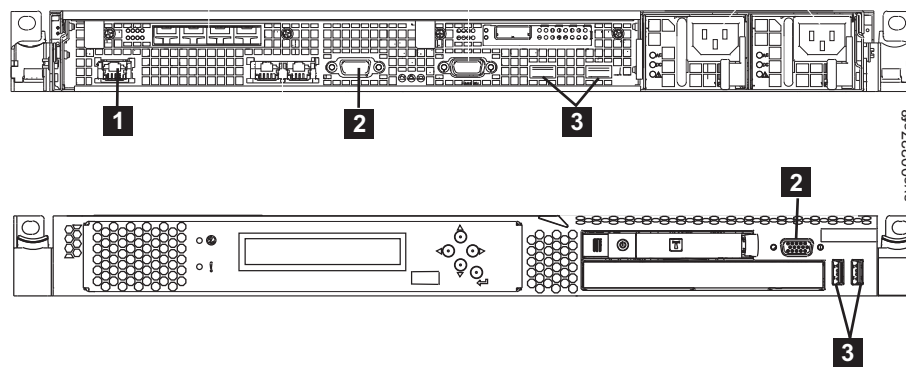


図 25. SAN ボリューム・コントローラ 2145-CF8のサービス・ポート

- 1** システム管理ポート
- 2** 2 つのモニター・ポート、前面に 1 つと背面に 1 つ
- 3** 4 つの USB ポート、前面に 2 つと背面に 2 つ

通常の稼働中はこれらのポートは使用されません。これらのいずれかのポートへの装置の接続は、保守手順または IBM サービス担当員によって指示された場合にのみ実行してください。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 未使用ポート:

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 には、使用されていないポートを 1 つ入れることができます。

図 26 は、保守手順の間または通常使用の間使用されない 1 つのポートを示しています。

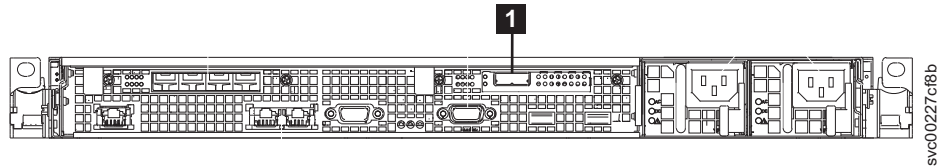


図 26. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 ポート (未使用)

1 シリアル接続 SCSI (SAS) ポート

存在する場合、このポートはポートを非アクティブにするためにソフトウェアで無効にされています。

SAS ポートは、オプションの高速 SAS アダプターが 1 つ以上のソリッド・ステート・ドライブ (SSD) とともに取り付けられている場合に存在します。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 の背面パネル・インディケーター

背面パネル・インディケーターは LED で構成され、ファイバー・チャネル・ポートの状況、イーサネット接続とアクティビティ、電力、電流、およびシステム・ボード・エラーを示します。

図 27 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 の後部パネル・アセンブリ上の背面パネル・インディケーターを示しています。

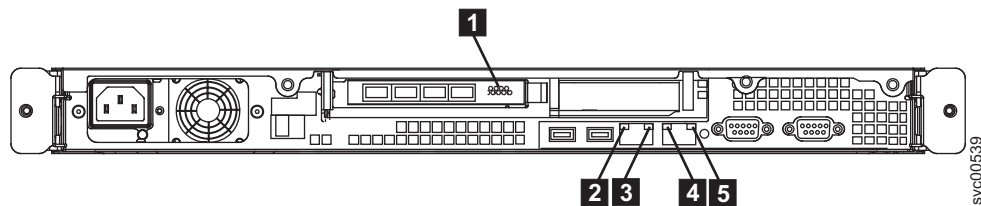


図 27. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 の背面パネル・インディケーター

- 1 ファイバー・チャネル LED
- 2 イーサネット・ポート 1 のアクティビティ LED
- 3 イーサネット・ポート 1 のリンク LED
- 4 イーサネット・ポート 2 のアクティビティ LED
- 5 イーサネット・ポート 2 のリンク LED

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 コネクター

外部コネクターは、ファイバー・チャンネル・ポート、シリアル・ポートおよびイーサネット・ポートと電源機構で構成されます。

図 28 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 後部パネル・アセンブリー上の外部コネクターを示しています。

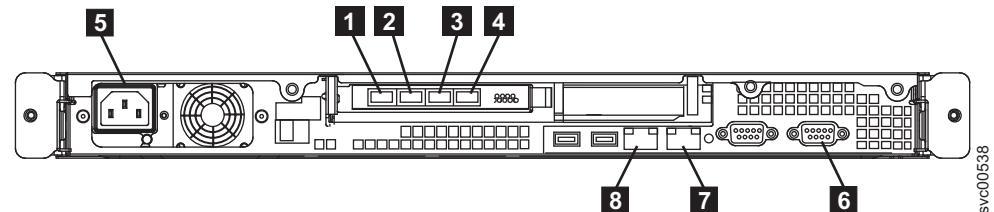


図 28. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 外部コネクター

- 1 ファイバー・チャンネル・ポート 1
- 2 ファイバー・チャンネル・ポート 2
- 3 ファイバー・チャンネル・ポート 3
- 4 ファイバー・チャンネル・ポート 4
- 5 電源機構
- 6 シリアル接続
- 7 イーサネット・ポート 2
- 8 イーサネット・ポート 1

図 29 は、電源機構アセンブリー上にあるコネクターのタイプを示しています。このコネクターを使用すると、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4を無停電電源装置 (uninterruptible power supply)から給電部に接続できます。

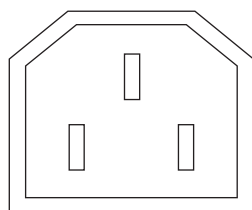


図 29. 電源コネクター

保守手順の間で使用される SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ポート

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 には、保守手順の間にのみ使用される複数のポートが含まれています。これらのポートは、30 ページの図 30 に示されています。

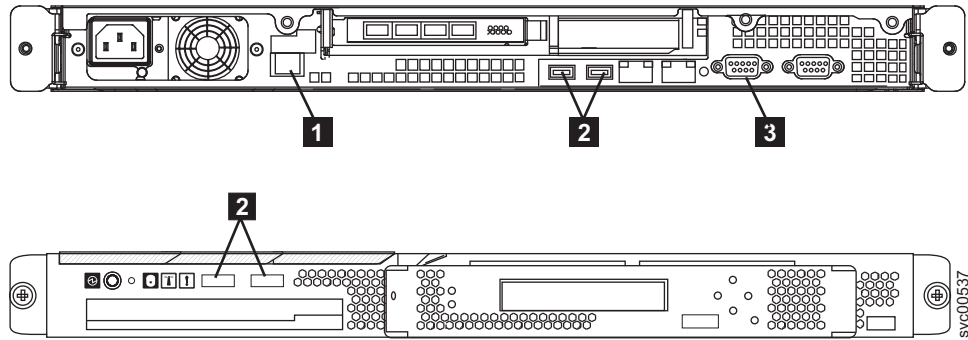


図 30. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 のサービス・ポート

- 1 システム管理ポート
- 2 4 つの USB ポート (前面に 2 つ、背面に 2 つ)
- 3 背面に 1 つのビデオ・ポート

通常操作時には、これらのポートはどれも使用しません。これらのポートのいずれかに装置を接続するのは、保守手順または IBM サービス担当員によって指示された場合にのみ実行してください。

使用されない SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 のポート

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 には未使用のポートはありません。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 の背面パネル・インディケータ

背面パネル・インディケータは LED で構成され、ファイバー・チャンネル・ポートの状況、イーサネット接続とアクティビティ、電力、電流、およびシステム・ボード・エラーを示します。

図 31 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 の後部パネル・アセンブリ上の背面パネル・インディケータを示しています。

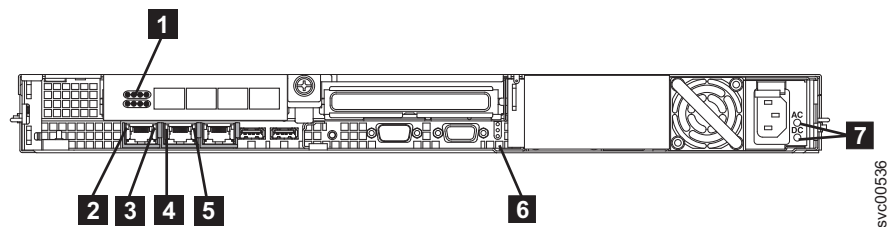


図 31. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 の背面パネル・インディケータ

- 1 ファイバー・チャンネル LED
- 2 イーサネット・ポート 1 のアクティビティ LED
- 3 イーサネット・ポート 1 のリンク LED
- 4 イーサネット・ポート 2 のアクティビティ LED
- 5 イーサネット・ポート 2 のリンク LED
- 6 電源、ロケーション、およびシステム・エラー LED

7 AC LED と DC LED

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 コネクタ

外部コネクタは、ファイバー・チャンネル・ポート、シリアル・ポート、およびイーサネット・ポートと電源機構で構成されます。

図 32 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 後部パネル・アセンブリー上の外部コネクタを示しています。

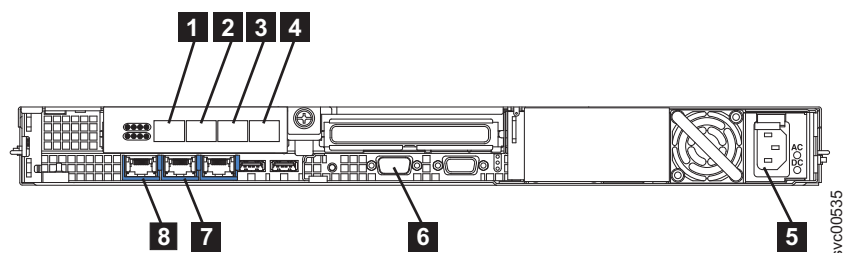


図 32. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 外部コネクタ

- 1 ファイバー・チャンネル・ポート 1
- 2 ファイバー・チャンネル・ポート 2
- 3 ファイバー・チャンネル・ポート 3
- 4 ファイバー・チャンネル・ポート 4
- 5 電源機構
- 6 シリアル接続
- 7 イーサネット・ポート 2
- 8 イーサネット・ポート 1

図 33 は、電源機構アセンブリー上にあるコネクタのタイプを示しています。このコネクタを使用すると、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4を無停電電源装置 (uninterruptible power supply)から給電部に接続できます。

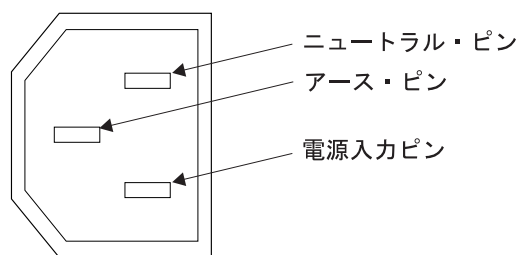


図 33. 電源コネクタ

保守手順の間で使用される SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ポート

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 には、保守手順の間にもみ使用される複数のポートが含まれています。これらのポートは、32 ページの図 34 に示されて

います。

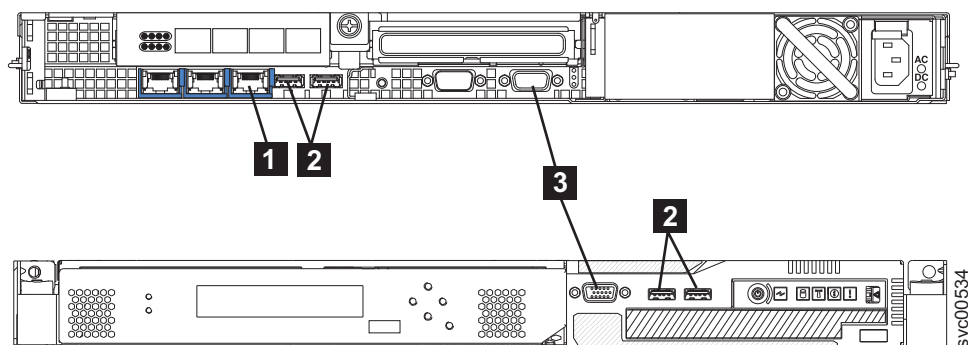


図 34. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 のサービス・ポート

- 1 システム管理ポート
- 2 4 つの USB ポート (前面に 2 つ、背面に 2 つ)
- 3 2 つのモニター・ポート (前面に 1 つ、背面に 1 つ)

通常操作時には、これらのポートはどれも使用しません。これらのポートのいずれかに装置を接続するのは、保守手順または IBM サービス担当者によって指示された場合にのみ実行してください。

使用されない SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ポート

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 には未使用のポートはありません。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 の背面パネル・インディケータ

背面パネル・インディケータは、後部パネル・アセンブリーにあります。

図 35 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 の後部パネル・アセンブリー上の背面パネル・インディケータを示しています。

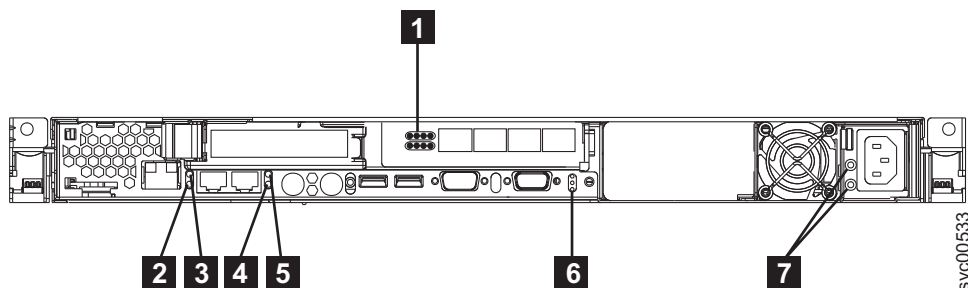


図 35. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 の背面パネル・インディケータ

- 1 ファイバー・チャネル LED
- 2 イーサネット・ポート 1 のリンク LED
- 3 イーサネット・ポート 1 のアクティビティ LED

- 4** イーサネット・ポート 2 のリンク LED
- 5** イーサネット・ポート 2 のアクティビティ LED
- 6** 電源、ロケーション、およびシステム・エラー LED
- 7** AC LED と DC LED

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 コネクター

外部コネクターは、イーサネット・ポート、シリアル・ポート、およびファイバー・チャンネル・ポートと電源機構で構成されます。

図 36 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 後部パネル・アセンブリー上の外部コネクターを示しています。

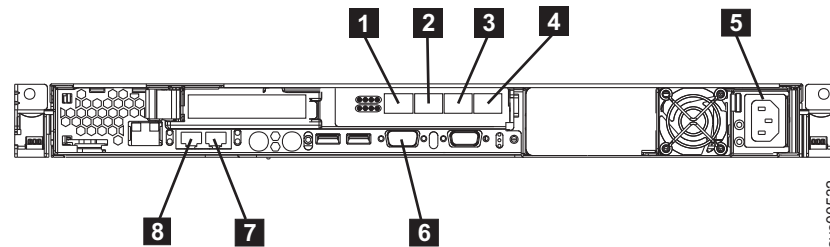


図 36. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 外部コネクター

- 1** ファイバー・チャンネル・ポート 1
- 2** ファイバー・チャンネル・ポート 2
- 3** ファイバー・チャンネル・ポート 3
- 4** ファイバー・チャンネル・ポート 4
- 5** 電源機構
- 6** シリアル接続
- 7** イーサネット・ポート 2
- 8** イーサネット・ポート 1

図 37 は、電源機構アセンブリー上にあるコネクターのタイプを示しています。このコネクターを使用すると、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4を無停電電源装置 (uninterruptible power supply)から給電部に接続できます。

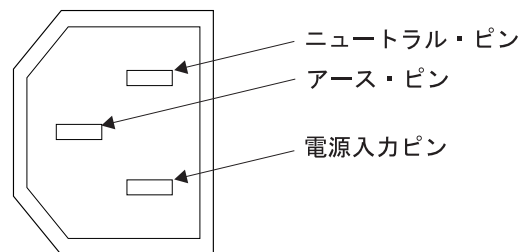


図 37. 電源コネクター

保守手順の間で使用される SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 ポート

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 には、キーボード・サービス・ポート
およびモニター・サービス・ポートがあります。これらのポートは保守手順でのみ
使用されます。図 38 provides the locations には、サービス・ポートの位置を記載し
てあります。

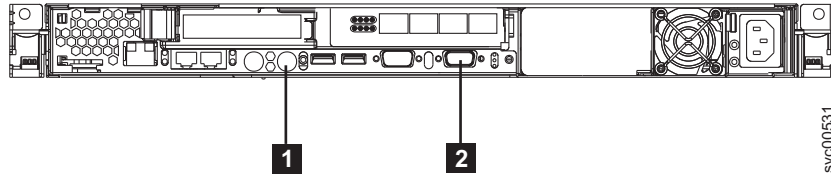


図 38. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4のサービス・ポート

- 1 キーボード・ポート
- 2 モニター・ポート

通常の稼働中に使用されない SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 ポート

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 には、通常の操作時には SAN ボリュ
ーム・コントローラーによって使用されないポートがいくつか装備されています。
図 39 および 35 ページの図 40 は、SAN ボリューム・コントローラーでは使用され
ないポートを示しています。

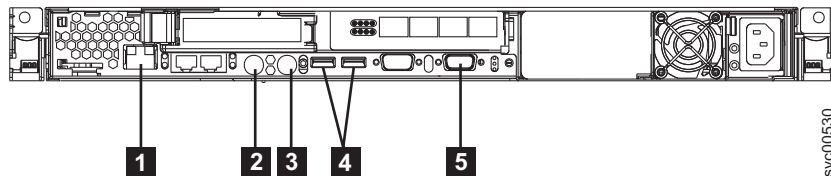


図 39. 通常操作時に SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 で使用されないポート

- 1 システム管理ポート
- 2 マウス・ポート
- 3 キーボード・ポート
- 4 USB ポート
- 5 モニター・ポート

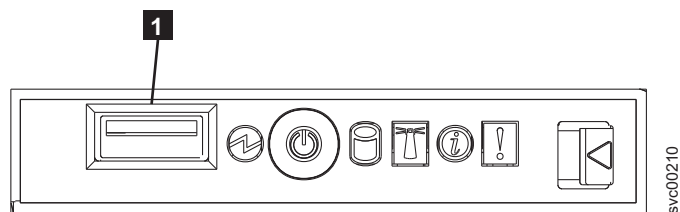


図 40. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4のフロント・パネル上で使用されないポート

1 USB ポート

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の背面パネル・インディケーター

背面パネル・インディケーターは、後部パネル・アセンブリーにあります。

図 41 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の後部パネル・アセンブリー上の背面パネル・インディケーターを示しています。

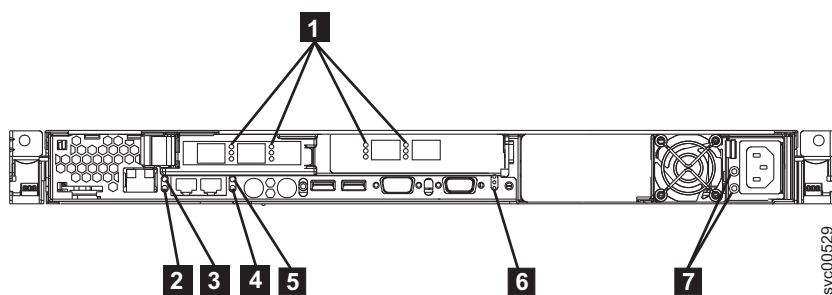


図 41. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の背面パネル・インディケーター

- 1** ファイバー・チャンネル LED
- 2** イーサネット・ポート 1 のリンク LED
- 3** イーサネット・ポート 1 のアクティビティ LED
- 4** イーサネット・ポート 2 のリンク LED
- 5** イーサネット・ポート 2 のアクティビティ LED
- 6** 電源、ロケーション、およびシステム・エラー LED
- 7** AC LED と DC LED

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 コネクタ

外部コネクタは、電源機構と、イーサネット・ポート、ファイバー・チャンネル・ポート、およびシリアル・ポートで構成されます。

36 ページの図 42 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 後部パネル・アセンブリー上の外部コネクタを示しています。

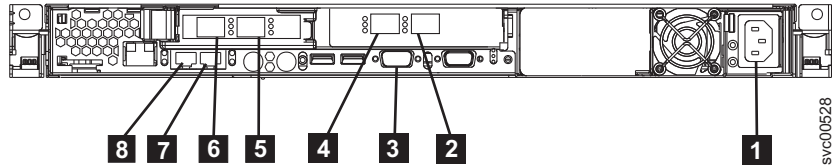


図 42. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 外部コネクタ

- 1 電源機構
- 2 ファイバー・チャンネル・ポート 4
- 3 シリアル接続
- 4 ファイバー・チャンネル・ポート 3
- 5 ファイバー・チャンネル・ポート 2
- 6 ファイバー・チャンネル・ポート 1
- 7 イーサネット・ポート 2
- 8 イーサネット・ポート 1

図 43 は、電源機構アセンブリー上にあるコネクタのタイプを示しています。このコネクタを使用すると、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2を無停電電源装置 (uninterruptible power supply)から給電部に接続できます。

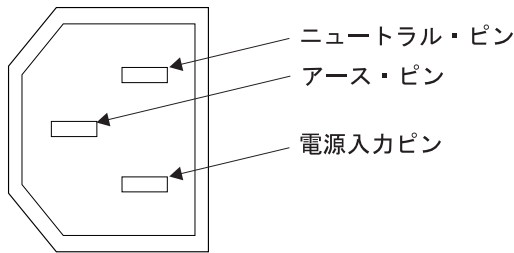


図 43. 電源コネクタ

ファイバー・チャンネル LED

ファイバー・チャンネル LED は、ファイバー・チャンネル・ポート。

各ファイバー・チャンネル・ポートの作動の状態と速度を示すには、2 つの LED を使用します。下部の LED は、リンクの状態とアクティビティを示します。

表 7. 下部ファイバー・チャンネル LED のリンク状態とアクティビティ

LED 状態	リンク状態とアクティビティ
オフ	リンクが非アクティブです
オン	リンクがアクティブで、入出力がありません
明滅	リンクがアクティブで、入出力がアクティブです

各ファイバー・チャンネル・ポートは 3 つの速度のいずれかで作動することができます。上部 LED は相対的なリンク速度を示します。リンク速度が定義されるのは、リンクの状態がアクティブである場合のみです。

表 8. 上部ファイバー・チャンネル LED のリンク速度

LED 状態	示されるリンク速度
オフ	低速
オン	高速
明滅	中速

表 9 は、SAN ボリューム・コントローラー・モデル 2145-8A4、2145-8G4、および 2145-8F4 の実際のリンク速度を示しています。

表 9. 実際のリンク速度

リンク速度	実際のリンク速度
低速	1 Gbps
高速	4 Gbps
中速	2 Gbps

表 10 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の実際のリンク速度を示しています。

表 10. 実際のリンク速度

リンク速度	実際のリンク速度
低速	2 Gbps
高速	8 Gbps
中速	4 Gbps

イーサネット活動 LED

イーサネット活動 LED は、ノードが、イーサネット・ポートに接続されたイーサネット・ネットワークと通信していることを示します。

それぞれのイーサネット・コネクタごとに LED のセットがあります。トップ LED は、イーサネット・リンク LED です。これが点灯しているときは、イーサネット・ポート上にアクティブな接続があることを示します。ボトム LED は、イーサネット・アクティビティ LED です。これが明滅しているときは、サーバーとネットワーク装置の間でデータが送受信されていることを示します。

イーサネット・リンク LED

イーサネット・リンク LED は、イーサネット・ポートにアクティブな接続が存在することを示します。

それぞれのイーサネット・コネクタごとに LED のセットがあります。トップ LED は、イーサネット・リンク LED です。これが点灯しているときは、イーサネット・ポート上にアクティブな接続があることを示します。ボトム LED は、イーサネット・アクティビティ LED です。これが明滅しているときは、サーバーとネットワーク装置の間でデータが送受信されていることを示します。

電源、ロケーション、およびシステム・エラー LED

電源 LED、ロケーション LED、およびシステム・エラー LED は、SAN ボリューム・コントローラーの背面に格納されています。これらの 3 つの LED は、ノードの前面に表示されている LED と同じです。

電源、ロケーション、およびシステム・エラー LED に関する用語を以下に示します。

電源 LED

これは 3 つの LED の最上部にあり、以下の状態を示します。

オフ 次の条件の 1 つ以上が該当します。

- 電源機構に入力電源が供給されていない。
- 電源機構に障害が起こっている。
- LED に障害が起こっている。

オン SAN ボリューム・コントローラーの電源がオンです。

明滅 SAN ボリューム・コントローラーは電源オフされていますが、まだ給電部に接続されています。

ロケーション LED

これは 3 つの LED の真ん中にあります。SAN ボリューム・コントローラーでは使用されません。

システム・エラー LED

これは 3 つの LED の最下部にあり、システム・ボード・エラーが発生したことを示します。ライト・パス診断により詳細情報が提供されます。

AC LED と DC LED

AC および DC LED は、ノードに電流が供給されているかどうかを示します。

AC LED

上部の LED は、AC 電流がノードに供給されていることを示します。

DC LED

下部の LED は、DC 電流がノードに供給されていることを示します。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の AC、DC、および電源機構エラー LED:

AC LED、DC LED、および電源機構エラー LED は、ノードに電流が供給されているかどうかを示します。

39 ページの図 44 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 の AC LED、DC LED、および電源機構エラー LED のロケーションを示しています。

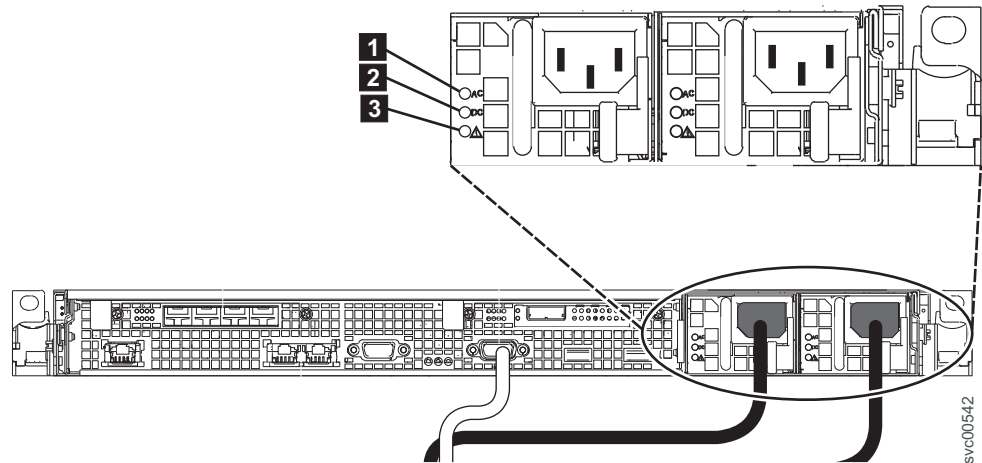


図 44. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 AC LED、DC LED、および電源エラー LED

2 つの電源機構には、それぞれ独自の LED セットがあります。

AC LED

電源機構の左側にある上部 LED (**1**) は、ノードに AC 電流が供給されていることを示します。

DC LED

電源機構の左側にある中央の LED (**2**) は、ノードに DC 電流が供給されていることを示します。

電源機構エラー LED

電源機構の左側にある下部 LED (**3**) は、電源機構に問題があることを示します。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 上の AC LED と DC LED:

AC LED と DC LED は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 の背面にあります。

40 ページの図 45 は、AC LED と DC LED のロケーションを示しています。

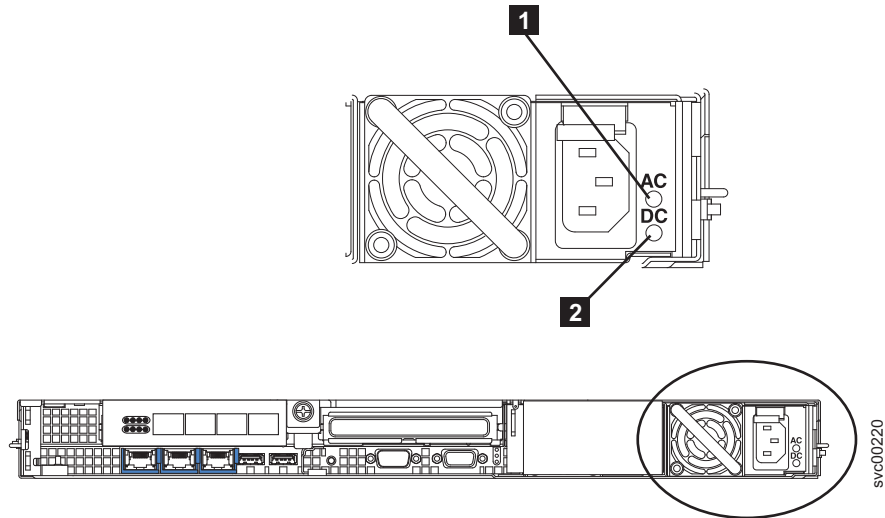


図45. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 の AC および DC LED

AC LED

上部の LED (**1**) は、AC 電流がノードに供給されていることを示します。

DC LED

下部の LED (**2**) は、DC 電流がノードに供給されていることを示します。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 上の AC LED と DC LED:

AC LED と DC LED は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の背面にあります。

41 ページの図 46 は、AC LED と DC LED のロケーションを示しています。

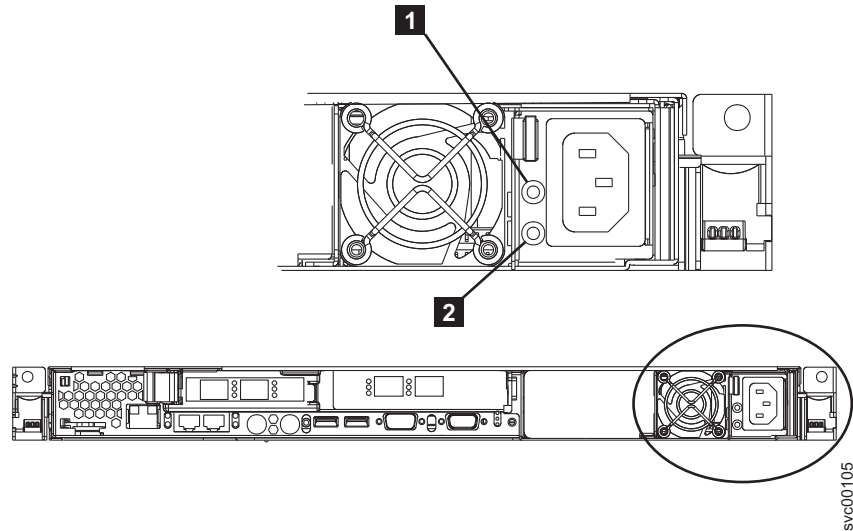


図 46. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の AC LED と DC LED

AC LED

上部の LED (**1**) は、AC 電流がノードに供給されていることを示します。

DC LED

下部の LED (**2**) は、DC 電流がノードに供給されていることを示します。

ファイバー・チャネル・ポート番号およびワールドワイド・ポート名

ファイバー・チャネル・ポートは、その物理ポート番号とワールドワイド・ポート名 (WWPN) によって識別されます。

物理ポート番号は、保守作業時のファイバー・チャネル・カードおよびケーブル接続を識別するためのものです。物理ポート番号は 1 から 4 です (ノードの背面パネルを表示して、左から右へ)。 WWPN は、ファイバー・チャネル・スイッチ構成などの作業、ならびに SAN 上の装置を一意的に識別する場合に使用されます。

WWPN は、ポートが取り付けられている SAN ボリューム・コントローラー・ノードのワールド・ワイド・ノード名 (WWNN) から派生します。

WWNN の形式は 50050768010XXXXX です。ここで、XXXXX は、最初に装置から派生し、ノードに固有です。

WWPN は 50050768010QXXXXX の形式です。ここで、XXXXX は前述のとおりであり、Q は次のようにポート番号に関連しています。

ポート	Q の値
1	4
2	3
3	1

ポート	Q の値
4	2

SAN ボリューム・コントローラー環境の要件

IBM 担当員が SAN ボリューム・コントローラー環境をセットアップする前に、SAN ボリューム・コントローラーの物理サイトの特定の仕様を満たす必要があります。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の環境要件

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 を取り付ける前に、物理的環境が一定の要件を満たしていなければなりません。これには、十分なスペースが使用可能であり、電源要件および環境条件が満たされていることの確認も含まれます。

入力電圧要件

お客様の稼働環境が次の電圧要件を満たしていることを確認してください。

電圧	周波数
200 V から 240 V 単相 AC	50 Hz または 60 Hz

重要:

- 無停電電源装置 (uninterruptible power supply)が別の無停電電源装置 (uninterruptible power supply)からカスケードされている場合、ソースの無停電電源装置 (uninterruptible power supply)は、相当たり少なくとも 3 倍の容量を持つ必要があります、合計の高調波ひずみが 5% 未満である必要があります。
- さらに、無停電電源装置 (uninterruptible power supply)は、3 Hz/秒以下のスループートの入力電圧キャプチャー機能を備えていなければなりません。

各ノードの最大消費電力

お客様の稼働環境が次の電源要件を満たしていることを確認してください。

必要な最大電力は、ノード・タイプおよび取り付けるオプション機構によって異なります。

表 11. 最大電力使用量

コンポーネント	電源要件
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 および 2145 UPS-1U	200 W

各冗長 AC 電源スイッチごとに、20 W ずつ電源要件に追加してください。

1 台から 4 台のソリッド・ステート・ドライブを備えた高速 SAS アダプターの場合、消費電力に 50 W を追加してください。

回路ブレーカー要件

2145 UPS-1Uは集積回路ブレーカーを備えており、追加保護を必要としません。

冗長 AC 電源を使用しない場合の環境要件

冗長 AC 電源を使用していない場合、ご使用の環境が以下の範囲内にあることを確認してください。

表 12. 物理仕様

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
稼働時 (低地)	10°C から 35°C (50°F から 95°F)	0 m から 914 m (0 ft から 3000 ft)	8% から 80% 結 露なし	23°C (73°F)
稼働時 (高地)	10°C から 32°C (50°F から 90°F)	914 m から 2133 m (3000 ft から 7000 ft)	8% から 80% 結 露なし	23°C (73°F)
電源を切る	10°C から 43°C (50°F から 109°F)	0 m から 2133 m (0 ft から 7000 ft)	8% から 80% 結 露なし	27°C (81°F)
保管時	1°C から 60°C (34°F から 140°F)	0 m から 2133 m (0 ft から 7000 ft)	5% から 80% 結 露なし	29°C (84°F)
配送時	-20°C から 60°C (-4°F から 140°F)	0 m から 10668 m (0 ft から 34991 ft)	5% から 100% 結露可、ただし 降水なし	29°C (84°F)

冗長 AC 電源を使用する場合の環境要件

冗長 AC 電源を使用している場合、ご使用の環境が以下の範囲内にあることを確認してください。

表 13. 冗長 AC 電源を使用する場合の環境要件

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
稼働時 (低地)	15°C から 32°C (59°F から 90°F)	0 m から 914 m (0 ft から 3000 ft)	20% から 80% 結露なし	23°C (73°F)
稼働時 (高地)	15°C から 32°C (59°F から 90°F)	914 m から 2133 m (3000 ft から 7000 ft)	20% から 80% 結露なし	23°C (73°F)
電源を切る	10°C から 43°C (50°F から 109°F)	0 m から 2133 m (0 ft から 7000 ft)	20% から 80% 結露なし	27°C (81°F)
保管時	1°C から 60°C (34°F から 140°F)	0 m から 2133 m (0 ft から 7000 ft)	5% から 80% 結 露なし	29°C (84°F)

表 13. 冗長 AC 電源を使用する場合の環境要件 (続き)

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
配送時	-20°C から 60°C (-4°F から 140°F)	0 m から 10668 m (0 ft から 34991 ft)	5% から 100% 結露可、ただし 降水なし	29°C (84°F)

環境の準備

以下の表に、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ノードの物理的特性を示します。

寸法と重量

このノードをサポートできるラックに使用可能なスペースがあることを確認します。

表 14. 寸法と重量

高さ	幅	奥行き	最大重量
4.3 cm (1.7 インチ)	44 cm (17.3 インチ)	73.7 cm (29 インチ)	15 kg (33 lb)

必要な追加スペース

また、ノードの周囲の、下記の追加スペース要件に対応するスペースが必ずラックにあるようにしてください。

表 15. 必要な追加スペース

位置	必要な追加スペース	理由
左側面および右側面	最小: 50 mm (2 in.)	冷却用空気の流れ
背面	最小: 100 mm (4 in.)	ケーブルの出口

各 SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ノードの最大発熱量

ノードは以下の最大発熱量を放散させます。

表 16. 各 SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ノードの最大発熱量

モデル	ノードごとの発熱量
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8	160 W (546 Btu/時)
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 およびソリッド・ステート・ドライブ (SSD)	210 W (717 Btu/時)

各 2145 UPS-1U の最大発熱量

2145 UPS-1U は、以下の最大発熱量を放散します。

表 17. 各 2145 UPS-1U の最大発熱量

モデル	ノードごとの発熱量
通常動作時の 2145 UPS-1U の最大発熱量	10 W (34 Btu/時)
バッテリー動作時の 2145 UPS-1U の最大発熱量	100 W (341 Btu/時)

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 の環境要件

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 ノードをインストールする前に、物理環境が特定の要件を満たしている必要があります。これには、十分なスペースが使用可能であり、電源要件および環境条件が満たされていることの確認も含まれます。

入力電圧要件

お客様の稼働環境が次の電圧要件を満たしていることを確認してください。

電圧	周波数
200 - 240 V 単相 AC	50 または 60 Hz

重要:

- 無停電電源装置 (uninterruptible power supply)が別の無停電電源装置 (uninterruptible power supply)からカスケードされている場合、ソースの無停電電源装置 (uninterruptible power supply)は、相当たり少なくとも 3 倍の容量を持つ必要があります、合計の高調波ひずみが 5% 未満である必要があります。
- さらに、無停電電源装置 (uninterruptible power supply)は、3 Hz/秒以下のスループートの入力電圧キャプチャー機能を備えていなければなりません。

各ノードごとの消費電力

お客様の稼働環境が次の電源要件を満たしていることを確認してください。

必要な電力容量は、ノード・タイプ、およびインストールされているオプション・フィーチャーによって異なります。

コンポーネント	電源要件
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 ノードと 2145 UPS-1U 電源機構	200 W

注:

- SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 のノードは、2145 UPS-1U 電源機構装置のすべての改訂には接続しません。SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 のノードは、2145 UPS-1U 電源機構装置部品番号 31P1318 を必要とし

ます。この装置は、アクセス可能な 2 つの電源コンセントをもっています。
2145 UPS-1U 電源機構装置の以前の改訂では、アクセス可能なコンセントが 1
つしかなく、適切ではありません。

- 各冗長 AC 電源スイッチごとに、20 W ずつ電源要件に追加してください。
- 1 つから 4 つのソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を使用する高速 SAS ア
ダプターごとに、処理能力に 50 W を追加してください。

回路ブレーカー要件

2145 UPS-1Uは集積回路ブレーカーを備えており、追加保護を必要としません。

冗長 AC 電源を使用しない場合の環境要件

冗長 AC 電源を使用していない場合、ご使用の環境が以下の範囲内にあることを確
認してください。

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
稼働時 (低地)	10°C から 35°C (50°F から 95°F)	0 - 914 m (0 - 2998 フィー ト)	8% から 80% 結 露なし	23°C (73°F)
稼働時 (高地)	10°C から 32°C (50°F から 90°F)	914 - 2133 m (2998 - 6988 フ ィート)	8% から 80% 結 露なし	23°C (73°F)
電源を切る	10°C から 43°C (50°F - 110°F)	0 - 2133 m (0 - 6988 フィー ト)	8% から 80% 結 露なし	27°C (81°F)
保管時	1°C から 60°C (34°F から 140°F)	0 - 2133 m (0 - 6988 フィー ト)	5% から 80% 結 露なし	29°C (84°F)
配送時	-20°C から 60°C (-4°F から 140°F)	0 - 10668 m (0 - 34991 フィ ート)	5% から 100% 結露可、ただし 降水なし	29°C (84°F)

冗長 AC 電源を使用する場合の環境要件

冗長 AC 電源を使用している場合、ご使用の環境が以下の範囲内にあることを確認
してください。

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
稼働時 (低地)	15°C から 32°C (59°F から 90°F)	0 - 914 m (0 - 2998 フィー ト)	20% から 80% 結露なし	23°C (73°F)
稼働時 (高地)	15°C から 32°C (59°F から 90°F)	914 - 2133 m (2998 - 6988 フ ィート)	20% から 80% 結露なし	23°C (73°F)
電源を切る	10°C から 43°C (50°F - 110°F)	0 から 2133m (0 - 6988 フィー ト)	20% から 80% 結露なし	27°C (81°F)

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
保管時	1°C から 60°C (34°F から 140°F)	0 - 2133 m (0 - 6988 フィー ト)	5% から 80% 結 露なし	29°C (84°F)
配送時	-20°C から 60°C (-4°F から 140°F)	0 - 10668 m (0 - 34991 フィ ート)	5% から 100% 結露可、ただし 降水なし	29°C (84°F)

環境の準備

次の表は、SAN ポリウム・コントローラー 2145-CF8 ノードの物理的特性をリストしています。

寸法と重量

このノードをサポートできるラックに使用可能なスペースがあることを確認します。

高さ	幅	奥行き	最大重量
43 mm (1.69 インチ)	440 mm (17.32 インチ)	686 mm (27 インチ)	12.7 kg

必要な追加スペース

また、ノードの周囲の、下記の追加スペース要件に対応するスペースが必ずラックにあるようにしてください。

位置	追加スペース要件	理由
左側および右側	50 mm (2 インチ)	冷却用空気の流れ
背面	最小: 100 mm (4 インチ)	ケーブルの出口

各 SAN ポリウム・コントローラー 2145-CF8 ノードの発熱量

ノードは以下の最大発熱量を放散させます。

モデル	ノードごとの発熱量
SAN ポリウム・コントローラー 2145-CF8	160 W (546 Btu/時)
SAN ポリウム・コントローラー 2145-CF8 および最大 4 つのオプションのソリッド・ ステート・ドライブ (SSD)	210 W (717 Btu/時)
標準作動時の 2145 UPS-1U の最大発熱量	10 W (34 Btu/時)
バッテリー作動時の 2145 UPS-1U の最大発 熱量	100 W (341 Btu/時)

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 の環境要件

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 をインストールする前に、物理環境が特定の要件を満たしている必要があります。これには、十分なスペースが使用可能であり、電源要件および環境条件が満たされていることの確認も含まれます。

入力電圧要件

お客様の稼働環境が次の電圧要件を満たしていることを確認してください。

電圧	周波数
200 - 240 V 単相 AC	50 または 60 Hz

重要:

- 無停電電源装置 (uninterruptible power supply)が別の無停電電源装置 (uninterruptible power supply)からカスケードされている場合、ソースの無停電電源装置 (uninterruptible power supply)は、相当たり少なくとも 3 倍の容量を持つ必要があります、合計の高調波ひずみが 5% 未満である必要があります。
- さらに、無停電電源装置 (uninterruptible power supply)は、3 Hz/秒以下のスルー・レートの入力電圧キャプチャー機能を備えていなければなりません。

各ノードごとの消費電力

お客様の稼働環境が次の電源要件を満たしていることを確認してください。

必要な電力は、ノード・タイプ、および冗長 AC 電源機構が使用されているかどうかによって異なります。

コンポーネント	電源要件
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 および 2145 UPS-1U	180 W

各冗長 AC 電源スイッチごとに、20 W ずつ電源要件に追加してください。

回路ブレーカー要件

2145 UPS-1Uは集積回路ブレーカーを備えており、追加保護を必要としません。

冗長 AC 電源を使用しない場合の環境要件

冗長 AC 電源を使用していない場合、ご使用の環境が以下の範囲内にあることを確認してください。

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
稼働時 (低地)	10°C から 35°C (50°F から 95°F)	0 - 914 m (0 から 3000 フ ィート)	8% から 80% 結 露なし	23°C (73°F)
稼働時 (高地)	10°C から 32°C (50°F から 90°F)	914 - 2133 m (3000 から 7000 フィート)	8% から 80% 結 露なし	23°C (73°F)

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
電源を切る	10°C から 43°C (50°F から 109°F)	0 - 2133 m (0 から 7000 フィート)	8% から 80% 結露なし	27°C (81°F)
保管時	1°C から 60°C (34°F から 140°F)	0 - 2133 m (0 から 7000 フィート)	5% から 80% 結露なし	29°C (84°F)
配送時	-20°C から 60°C (-4°F から 140°F)	0 から 10668 m (0 から 34991 フィート)	5% から 100% 結露可、ただし降水なし	29°C (84°F)

冗長 AC 電源を使用する場合の環境要件

冗長 AC 電源を使用している場合、ご使用の環境が以下の範囲内にあることを確認してください。

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
稼働時 (低地)	15°C から 32°C (59°F から 90°F)	0 - 914 m (0 から 3000 フィート)	20% から 80% 結露なし	23°C (73°F)
稼働時 (高地)	15°C から 32°C (59°F から 90°F)	914 - 2133 m (3000 から 7000 フィート)	20% から 80% 結露なし	23°C (73°F)
電源を切る	10°C から 43°C (50°F から 109°F)	0 - 2133 m (0 から 7000 フィート)	20% から 80% 結露なし	27°C (81°F)
保管時	1°C から 60°C (34°F から 140°F)	0 - 2133 m (0 から 7000 フィート)	5% から 80% 結露なし	29°C (84°F)
配送時	-20°C から 60°C (-4°F から 140°F)	0 - 10668 m (0 - 34991 フィート)	5% から 100% 結露可、ただし降水なし	29°C (84°F)

環境の準備

次の表は、SAN ポリューム・コントローラー 2145-8A4 ノードの物理的特性をリストしています。

寸法と重量

このノードをサポートできるラックに使用可能なスペースがあることを確認します。

高さ	幅	奥行き	最大重量
43 mm (1.75 インチ)	440 mm (17.32 インチ)	559 mm (22 インチ)	10.1 kg (22 lb)

必要な追加スペース

また、ノードの周囲の、下記の追加スペース要件に対応するスペースが必ずラックにあるようにしてください。

位置	追加スペース要件	理由
左側および右側	最小: 50 mm (2 インチ)	冷却用空気の流れ
背面	最小: 100 mm (4 in.)	ケーブルの出口

各 SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ノードの発熱量

ノードは以下の最大発熱量を放散させます。

モデル	ノードごとの発熱量
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4	140 W (478 Btu/時)

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 の環境要件

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 をインストールする前に、物理環境が特定の要件を満たしている必要があります。これには、十分なスペースが使用可能であり、電源要件および環境条件が満たされていることの確認も含まれます。

入力電圧要件

お客様の稼働環境が次の電圧要件を満たしていることを確認してください。

電圧	周波数
200 - 240 V 単相 AC	50 または 60 Hz

重要:

- 無停電電源装置 (uninterruptible power supply)が別の無停電電源装置 (uninterruptible power supply)からカスケードされている場合、ソースの無停電電源装置 (uninterruptible power supply)は、相当たり少なくとも 3 倍の容量を持つ必要があります、合計の高調波ひずみが 5% 未満である必要があります。
- さらに、無停電電源装置 (uninterruptible power supply)は、3 Hz/秒以下のスルー・レートの入力電圧キャプチャー機能を備えていなければなりません。

各ノードごとの消費電力

お客様の稼働環境が次の電源要件を満たしていることを確認してください。

必要な電力は、ノード・タイプ、および冗長 AC 電源機構が使用されているかどうかによって異なります。

コンポーネント	電源要件
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 および 2145 UPS-1U	470 W

各冗長 AC 電源スイッチごとに、20 W ずつ電源要件に追加してください。

回路ブレーカー要件

2145 UPS-1Uは集積回路ブレーカーを備えており、追加保護を必要としません。

冗長 AC 電源を使用しない場合の環境要件

冗長 AC 電源を使用していない場合、ご使用の環境が以下の範囲内にあることを確認してください。

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
稼働時 (低地)	10°C から 35°C (50°F から 95°F)	0 - 914 m (0 - 2998 フィート)	8% から 80% 結露なし	23°C (73°F)
稼働時 (高地)	10°C から 32°C (50°F から 90°F)	914 - 2133 m (2998 - 6988 フィート)	8% から 80% 結露なし	23°C (73°F)
電源を切る	10°C から 43°C (50°F - 110°F)	0 - 2133 m (0 - 6988 フィート)	8% から 80% 結露なし	27°C (81°F)
保管時	1°C から 60°C (34°F から 140°F)	0 - 2133 m (0 - 6988 フィート)	5% から 80% 結露なし	29°C (84°F)
配送時	-20°C から 60°C (-4°F から 140°F)	0 - 10668 m (0 - 34991 フィート)	5% から 100% 結露可、ただし降水なし	29°C (84°F)

冗長 AC 電源を使用する場合の環境要件

冗長 AC 電源を使用している場合、ご使用の環境が以下の範囲内にあることを確認してください。

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
稼働時 (低地)	15°C から 32°C (59°F から 90°F)	0 - 914 m (0 - 2998 フィート)	20% から 80% 結露なし	23°C (73°F)
稼働時 (高地)	15°C から 32°C (59°F から 90°F)	914 - 2133 m (2998 - 6988 フィート)	20% から 80% 結露なし	23°C (73°F)
電源を切る	10°C から 43°C (50°F - 110°F)	0 から 2133m (0 - 6988 フィート)	20% から 80% 結露なし	27°C (81°F)
保管時	1°C から 60°C (34°F から 140°F)	0 - 2133 m (0 - 6988 フィート)	5% から 80% 結露なし	29°C (84°F)
配送時	-20°C から 60°C (-4°F から 140°F)	0 - 10668 m (0 - 34991 フィート)	5% から 100% 結露可、ただし降水なし	29°C (84°F)

環境の準備

次の表は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ノードの物理的特性をリストしています。

寸法と重量

このノードをサポートできるラックに使用可能なスペースがあることを確認します。

高さ	幅	奥行き	最大重量
43 mm (1.69 インチ)	440 mm (17.32 インチ)	686 mm (27 インチ)	12.7 kg

必要な追加スペース

また、ノードの周囲の、下記の追加スペース要件に対応するスペースが必ずラックにあるようにしてください。

位置	追加スペース要件	理由
左側および右側	50 mm (2 インチ)	冷却用空気の流れ
背面	最小: 100 mm (4 インチ)	ケーブルの出口

各 SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ノードの発熱量

ノードは以下の最大発熱量を放散させます。

モデル	ノードごとの発熱量
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4	400 W (1350 Btu/時間)

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の環境要件

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2をインストールする前に、物理環境が特定の要件を満たしている必要があります。これには、十分なスペースが使用可能であり、電源要件および環境条件が満たされていることの確認も含まれます。

入力電圧要件

お客様の稼働環境が次の電圧要件を満たしていることを確認してください。

電圧	周波数
200 - 240 V 単相 AC	50 または 60 Hz

各ノードごとの消費電力

お客様の稼働環境が次の電源要件を満たしていることを確認してください。

必要な電力は、ノード・タイプ、および冗長 AC 電源機構が使用されているかどうかによって異なります。

コンポーネント	電源要件
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 および 2145 UPS-1U	520 W
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および 2145 UPS-1U	520 W

各冗長 AC 電源スイッチごとに、20 W ずつ電源要件に追加してください。

回路ブレーカー要件

2145 UPS-1Uは集積回路ブレーカーを備えており、追加保護を必要としません。

冗長 AC 電源を使用しない場合の環境要件

冗長 AC 電源を使用していない場合、ご使用の環境が以下の範囲内にあることを確認してください。

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
稼働時 (低地)	10°C から 35°C (50°F から 95°F)	0 から 914.4 m (0 から 3000 フィート)	8% から 80% 結露なし	23°C (74°F)
稼働時 (高地)	10°C から 32°C (50°F - 88°F)	914.4 から 2133.6 m (3000 から 7000 フィート)	8% から 80% 結露なし	23°C (74°F)
電源を切る	10°C から 43°C (50°F - 110°F)	0 から 2133.6 m (3000 から 7000 フィート)	8% から 80% 結露なし	27°C (81°F)
保管時	1°C から 60°C (34°F から 140°F)	0 から 2133.6 m (0 から 7000 フィート)	5% から 80% 結露なし	29°C (84°F)
配送時	-20°C から 60°C (-4°F から 140°F)	0 - 10668 m (0 - 34991 フィート)	5% から 100% 結露可、ただし降水なし	29°C (84°F)

冗長 AC 電源を使用する場合の環境要件

冗長 AC 電源を使用している場合、ご使用の環境が以下の範囲内にあることを確認してください。

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
稼働時 (低地)	15°C から 32°C (59°F - 89°F)	0 から 914.4 m (0 から 3000 フィート)	20% から 80% 結露なし	23°C (74°F)

環境	温度	高度	相対湿度	最大湿球温度
稼働時 (高地)	15°C から 32°C (50°F - 88°F)	914.4 から 2133.6 m (3000 から 7000 フィート)	20% から 80% 結露なし	23°C (74°F)
電源を切る	10°C から 43°C (50°F - 110°F)	0 から 2133.6 m (0 から 7000 フ ィート)	20% から 80% 結露なし	27°C (81°F)
保管時	1°C から 60°C (34°F から 140°F)	0 から 2133.6 m (0 から 7000 フ ィート)	5% から 80% 結 露なし	29°C (84°F)
配送時	-20°C から 60°C (-4°F から 140°F)	0 - 10668 m (0 - 34991 フィ ート)	5% から 100% (凝縮あり、ただ し降雨なし)	29°C (84°F)

環境の準備

次の表は、SAN ポリウム・コントローラー 2145-8F4 ノードおよび SAN ポリウム・コントローラー 2145-8F2 ノードの物理的特性をリストしています。

寸法と重量

このノードをサポートできるラックに使用可能なスペースがあることを確認します。

高さ	幅	奥行き	最大重量
43 mm (1.69 インチ)	440 mm (17.32 インチ)	686 mm (27 インチ)	12.7 kg

必要な追加スペース

また、ノードの周囲の、下記の追加スペース要件に対応するスペースが必ずラックにあるようにしてください。

位置	追加スペース要件	理由
左側および右側	50 mm (2 インチ)	冷却用空気の流れ
背面	最小: 100 mm (4 インチ)	ケーブルの出口

各 SAN ポリウム・コントローラー 2145-8F4 または SAN ポリウム・コントローラー 2145-8F2 ノードの発熱量

ノードは以下の最大発熱量を放散させます。

モデル	ノードごとの発熱量
SAN ポリウム・コントローラー 2145-8F4	450 W (1540 Btu/時間)
SAN ポリウム・コントローラー 2145-8F2	450 W (1540 Btu/時間)

冗長 AC 電源スイッチ

冗長 AC 電源スイッチは、単一の電源回路の障害からの SAN ボリューム・コントローラー・ノードの回復力を高めるためのオプション・フィーチャーです。冗長 AC 電源スイッチは、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の置き換えではありません。各ノードには、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) も使用する必要があります。

冗長 AC 電源スイッチを 2 つの独立した電源回路に接続する必要があります。一方の電源回路は主電源入力ポートに接続し、もう一方の電源回路はバックアップ電源入力ポートに接続します。何かの理由により、SAN ボリューム・コントローラーノードへの主電源に障害が発生した場合、冗長 AC 電源スイッチは自動的にバックアップ給電部を使用します。電力が回復すると、冗長 AC 電源スイッチは自動的に元のメイン給電部の使用に変わります。

SAN ボリューム・コントローラー・ノードと同じラック内に 冗長 AC 電源スイッチを設置します。冗長 AC 電源スイッチは、論理的にはラック電力配分装置と 2145 UPS-1U との間に位置します。

単一の冗長 AC 電源スイッチを使用して、1 台または 2 台の SAN ボリューム・コントローラー・ノードを給電します。冗長 AC 電源スイッチを使用して 2 つのノードを給電する場合は、このノードは異なる入出力グループに存在する必要があります。冗長 AC 電源スイッチに障害が発生した場合、または保守が必要となった場合、両方のノードの電源がオフになります。このノードは、異なる 2 つの入出力グループ内に存在するため、そのホストはバックエンド・ディスク・データにアクセス不能にはなりません。

障害時に最大の回復力を実現するには、1 つの冗長 AC 電源スイッチを使用して、各 SAN ボリューム・コントローラー・ノードを給電します。

図 47 は、冗長 AC 電源スイッチを示しています。



図 47. 冗長 AC 電源スイッチの写真

冗長 AC 電源 の環境要件

設置場所が冗長 AC 電源スイッチインストール要件を満たしていることを確認してください。

冗長 AC 電源スイッチ には、2 つの独立した給電部が必要です。これらは 2 つのラック・マウント電力配分装置 (PDU) 経由で提供されます。この PDU には IEC320-C13 コンセントが必要です。

冗長 AC 電源スイッチ には、ラック PDU への接続用の 2 本の IEC 320-C19/C14 電源ケーブルが同梱されています。冗長 AC 電源スイッチには、各国特有のケーブルはありません。

冗長 AC 電源スイッチと 2145 UPS-1U の間の電源ケーブルは、定格電流 10 A です。

冗長 AC 電源スイッチ仕様

次の表は、冗長 AC 電源スイッチの物理的特性をリストしています。

寸法と重量

冗長 AC 電源スイッチをサポートできるスペースがラック内で使用可能であることを確認してください。

高さ	幅	奥行き	最大重量
43 mm (1.69 インチ)	192 mm (7.56 インチ)	240 mm	2.6 kg (5.72 lb)

追加のスペース所要量

冗長 AC 電源スイッチの両側にあるサイド取り付けプレート用のスペースもラック内で使用可能であることを確認してください。

位置	幅	理由
左側	124 mm (4.89 インチ)	サイド装着プレート
右側	124 mm (4.89 インチ)	サイド装着プレート

発熱量 (最大)

冗長 AC 電源スイッチ内部で発生する最大発熱量は、約 20 ワット (70 Btu/時) です。

冗長 AC 電源スイッチの配線 (例)

お客様の環境で、冗長 AC 電源スイッチ装置を正しく配線する必要があります。

注: このトピックでは、ケーブル接続の例を提示しているので、コンポーネントの望ましいロケーションを示しているわけではありません。

57 ページの図 48 は、冗長 AC 電源スイッチ・フィーチャー付きの SAN ボリューム・コントローラー・クラスター化システムに対するメイン配線の例を示しています。4 ノード・クラスター化システムは、2 つの入出力グループから構成されています。

- 入出力グループ 0 は、ノード A および B を含みます

- 入出力グループ 1 は、ノード C および D を含みます

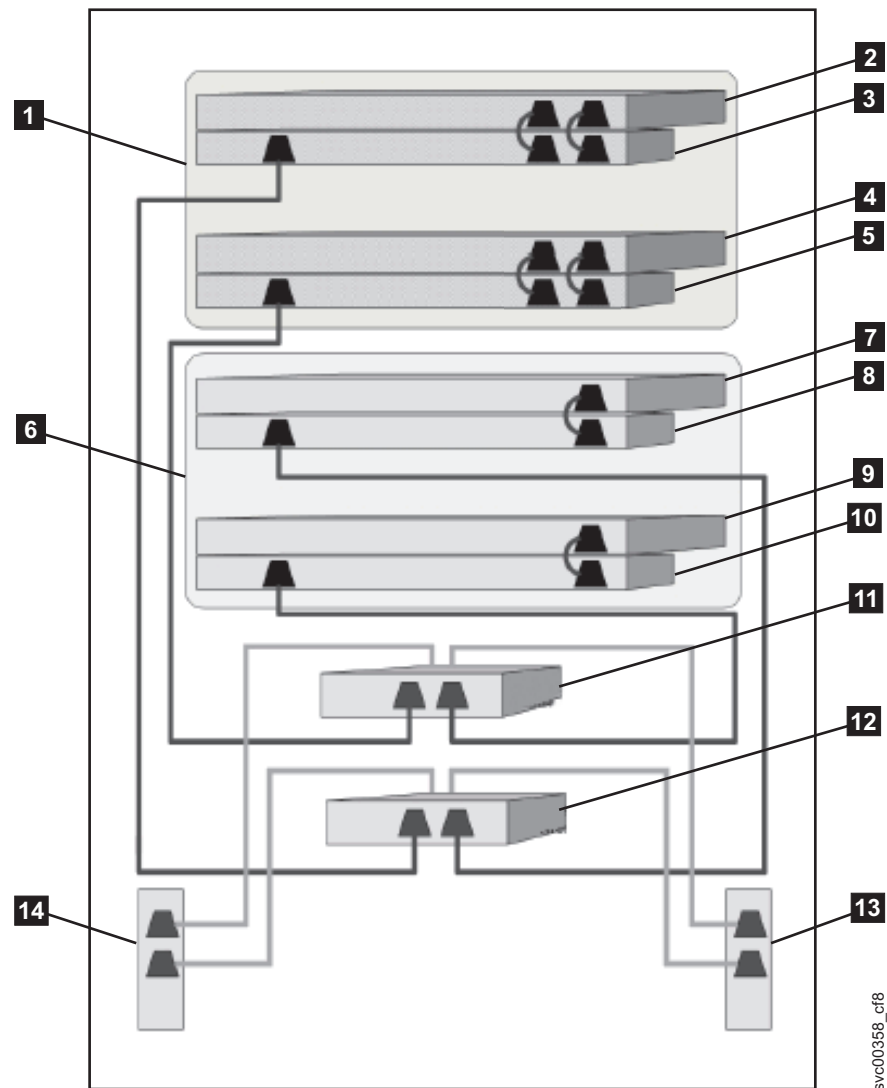


図 48. 冗長 AC 電源スイッチ・フィーチャー付きの SAN ボリューム・コントローラー・システム

- 1** 入出力グループ 0
- 2** SAN ボリューム・コントローラー・ノード A
- 3** 2145 UPS-IU A
- 4** SAN ボリューム・コントローラー・ノード B
- 5** 2145 UPS-IU B
- 6** 入出力グループ 1
- 7** SAN ボリューム・コントローラー・ノード C
- 8** 2145 UPS-IU C
- 9** SAN ボリューム・コントローラー・ノード D
- 10** 2145 UPS-IU D
- 11** 冗長 AC 電源スイッチ 1

- 12 冗長 AC 電源スイッチ 2
- 13 サイト PDU X (C13 コンセント)
- 14 サイト PDU Y (C13 コンセント)

サイト PDU X と Y (13 および 14) は、2 つの独立した給電部から電力が供給されます。

この例では、2 つの冗長 AC 電源スイッチ装置のみが使用され、それぞれの電源スイッチが各入出力グループ内の 1 つのノードに電力を供給しています。ただし、冗長度を最大にするには、システム内の各ノードごとに 1 つの 冗長 AC 電源スイッチを使用して電力を供給します。

一部の SAN ボリューム・コントローラー・ノード・タイプには、2 つの電源機構装置があります。ノード A とノード B で示されるように、両方の電源機構は同じ 2145 UPS-1U に接続されなければなりません。2 つの電源機構を持つノードの例は SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 です。単一の電源機構を持つノードの例は SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 です。

無停電電源装置

無停電電源装置 (uninterruptible power supply) は、停電、電圧低下、および電源サージに対して SAN ボリューム・コントローラー・ノードを保護します。無停電電源装置 (uninterruptible power supply) は、電源を監視する電源センサーと、システムの正常シャットダウンを実行できるようになるまで電源を供給するバッテリーを備えています。

SAN ボリューム・コントローラー・モデルは、2145 UPS-1U を使用します。

2145 UPS-1U

2145 UPS-1U は、外部電源が突然落ちてしまった場合に、SAN ボリューム・コントローラーのダイナミック・ランダム・アクセス・メモリー (DRAM) に保持されているデータを維持するためだけに使用されます。この使用法は、電源が失われた場合に、電力を供給する対象の装置の継続動作を可能にする従来の無停電電源装置 (uninterruptible power supply) とは異なります。

2145 UPS-1U を使用すると、データは、SAN ボリューム・コントローラー・ノードの内部ディスクに保存されます。入力給電部が無停電電源と見なされている場合でも、SAN ボリューム・コントローラー・ノードに電源を供給するのに無停電電源装置 (uninterruptible power supply) 装置が必要です。

注: 無停電電源装置 (uninterruptible power supply) は、接続された SAN ボリューム・コントローラー・ノードとの、連続的な SAN ボリューム・コントローラー固有の通信を維持します。SAN ボリューム・コントローラー・ノードは無停電電源装置 (uninterruptible power supply) がないと作動できません。無停電電源装置 (uninterruptible power supply) は、文書化されたガイドラインおよび手順に従って使用する必要があり、SAN ボリューム・コントローラー・ノード以外の装置に電力を供給してはなりません。

2145 UPS-1U 操作

各 SAN ボリューム・コントローラー・ノードは、接続されている無停電電源装置 (uninterruptible power supply)の作動状態をモニターします。

2145 UPS-1Uから入力電源がないという報告を受けると、SAN ボリューム・コントローラー・ノードはすべての入出力操作を停止し、そのダイナミック RAM (DRAM) の内容を内部ディスク・ドライブにダンプします。2145 UPS-1Uへの入力電源が復元されると、SAN ボリューム・コントローラー・ノードは再始動し、ディスク・ドライブに保存されているデータから DRAM の元の内容を復元します。

SAN ボリューム・コントローラー・ノードが完全に作動可能になるのは、2145 UPS-1Uバッテリーの状態が、そのすべてのメモリーをディスク・ドライブに保存するのに十分な時間、SAN ボリューム・コントローラー・ノードに電力を供給し続けるだけの充電が確保されたことを示したときです。電源が失われた場合でも、2145 UPS-1U には、SAN ボリューム・コントローラーがそのメモリーをすべて、少なくとも 2 回ディスクに保管できる十分な容量があります。完全充電された 2145 UPS-1Uの場合、ダイナミック RAM (DRAM) データを保存する一方で、SAN ボリューム・コントローラー・ノードへの電源供給にバッテリー充電が使用された後でも、十分なバッテリー充電量が残っているので、SAN ボリューム・コントローラー・ノードは、入力電源が復元されるとすぐに完全に作動可能になります。

重要: 2145 UPS-1Uをシャットダウンする前に、その電源装置がサポートしている SAN ボリューム・コントローラー・ノードをシャットダウンしてください。ノードがまだ作動中に、2145 UPS-1U のオン/オフ・ボタンを押すと、データ安全性が損なわれることがあります。しかし、緊急の場合は、ノードがまだ作動中に、2145 UPS-1Uのオン/オフ・ボタンを押して、2145 UPS-1Uを手動でシャットダウンしてもかまいません。その場合、ノードが正常操作を再開するためには保守アクションが必要になります。複数の無停電電源装置 (uninterruptible power supply)が、サポートしているノードより前にシャットダウンされると、データが壊れるおそれがあります。

2145 UPS-1U の SAN ボリューム・コントローラーへの接続

冗長度と並行保守を得るために、SAN ボリューム・コントローラー ノードを対でインストールする必要があります。

2145 UPS-1U に接続する場合、ペアの各、SAN ボリューム・コントローラーを 1 つの 2145 UPS-1U にもみ接続する必要があります。

注: 1 つのクラスター化システムに収容できる SAN ボリューム・コントローラー・ノードは 8 つまでです。2145 UPS-1U は単相と 200-240 V の両方であるソースに接続されている必要があります。2145 UPS-1U は集積回路ブレーカーを備えていて、外部保護は不要です。

SAN ボリューム・コントローラーは、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) とノードとの接続用にケーブル・バンドルを提供します。SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4、および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 の場合、これは単一電源ケーブルとシリアル・ケーブルです。SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー

2145-CG8 の場合は、二重電源ケーブルとシリアル・ケーブルです。このケーブルは、ノードの両方の電源機構を同じ無停電電源装置 (uninterruptible power supply) に接続するのに使用されます。

SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアは、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) への入力電圧が範囲内にあるかどうかを判別し、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) に適切な電圧アラーム範囲を設定します。このソフトウェアは、数分おきに入力電圧の再検査を続行します。入力電圧が大きく変わっても、許容範囲内におさまっている場合は、アラーム限界が再調整されません。

注: 2145 UPS-1U には、電源ケーブルが背面パネルから外れないようにするためのケーブル保持ブラケットが装備されています。詳しくは、関連文書を参照してください。

2145 UPS-1U コントロールとインディケーター

2145 UPS-1U のすべてのコントロールとインディケーターは、フロント・パネル・アセンブリーにあります。

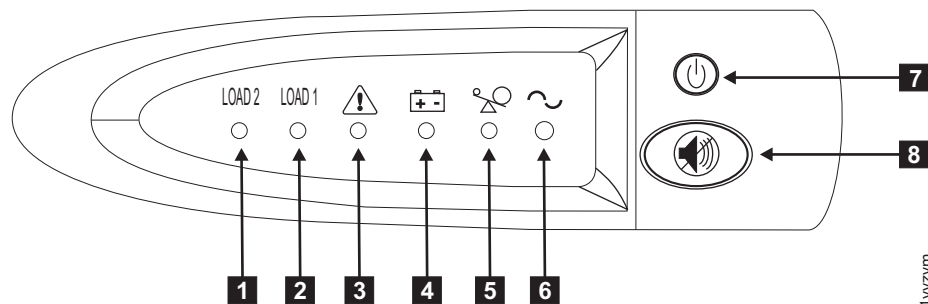


図 49. 2145 UPS-1U のフロント・パネル・アセンブリー

- 1** ロード・セグメント 2 インディケーター
- 2** ロード・セグメント 1 インディケーター
- 3** アラームまたはサービス・インディケーター
- 4** バッテリー使用中インディケーター
- 5** 過負荷インディケーター
- 6** 電源オン・インディケーター
- 7** オン/オフ・ボタン
- 8** テストおよびアラーム・リセット・ボタン

ロード・セグメント 2 インディケーター:

2145 UPS-1U のロード・セグメント 2 インディケーターは、ロード・セグメント 2 に電源を供給できる場合に (緑色に) 点灯します。

ロード・セグメント 2 インディケーターが緑色の場合は、2145 UPS-1U は正常に稼働しており、このセグメントに電源を供給できます。

ロード・セグメント 1 インディケーター:

2145 UPS-1U 上のロード・セグメント 1 インディケータは、現在 SAN ボリューム・コントローラーでは使用されません。

注: 2145 UPS-1U が SAN ボリューム・コントローラーによって構成される場合、このロード・セグメントは無効になります。通常操作時には、ロード・セグメント 1 インディケータはオフです。コンセントを覆うように「使用禁止」のラベルが貼られています。

アラーム・インディケータ:

2145 UPS-1U のアラームが赤色で明滅している場合、保守が必要です。

アラームがオンの場合は、2145 UPS-1U MAP に進んで、問題を解決してください。

バッテリー使用中インディケータ:

2145 UPS-1U がバッテリーから電力を供給されているときは、こはく色のバッテリー使用中インディケータがオンになります。これは、メイン給電部が障害を起こしたことを示します。

バッテリー使用中インディケータがオンになった場合は、2145 UPS-1U MAP に進んで、問題を解決してください。

過負荷インディケータ:

過負荷インディケータは、2145 UPS-1U の容量を超えた場合に点灯します。

過負荷インディケータがオンになった場合は、MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査に進んで、問題を解決してください。

電源オン・インディケータ:

電源オン・インディケータは、2145 UPS-1U が機能していることを示します。

電源オン・インディケータが緑色に点灯したままの場合、2145 UPS-1U はアクティブです。

オン/オフ・ボタン:

オン/オフ・ボタンは、2145 UPS-1U の電源をオンまたはオフにします。

2145 UPS-1U をオンにする

2145 UPS-1U をコンセントに接続すると、電源をオンにするまで待機モードになります。電源オン・インディケータが点灯するまで (約 5 秒)、オン/オフ・ボタンを押し続けます。2145 UPS-1U の一部のバージョンでは、オン/オフ・ボタンを押すために、ねじ回しのような先の尖った道具が必要です。自己診断テストが開始され、約 10 秒続きます。その間、インディケータのオン/オフが何回か繰り返されます。その後で、2145 UPS-1U は通常モードになります。

2145 UPS-1U をオフにする

電源オン・ライトが消えるまで (約 5 秒)、オン/オフ・ボタンを押し続けます。2145 UPS-1U の一部のバージョンでは、オン/オフ・ボタンを押すために、ねじ回しのような先の尖った道具が必要です。これによって、2145 UPS-1U は待機モードになります。その後、2145 UPS-1U のプラグを抜いて、装置を電源オフにする必要があります。

重要: 接続先の SAN ボリューム・コントローラー・ノードをシャットダウンする前に、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の電源をオフにしないでください。常に MAP 5350 に記載されている手順に従って、SAN ボリューム・コントローラー・ノードの正常シャットダウンを実行してください。

テストおよびアラーム・リセット・ボタン:

自己診断テストを開始するには、テストおよびアラーム・リセット・ボタンを使用します。

自己診断テストを開始するには、テストおよびアラーム・リセット・ボタンを 3 秒間押し続けます。このボタンは、アラームのリセットも行います。

2145 UPS-1U のコネクタースイッチ

2145 UPS-1U は、外部コネクタースイッチを備えています。

2145 UPS-1U のコネクタースイッチの位置

図 50 は、2145 UPS-1U のコネクタースイッチの位置を示しています。

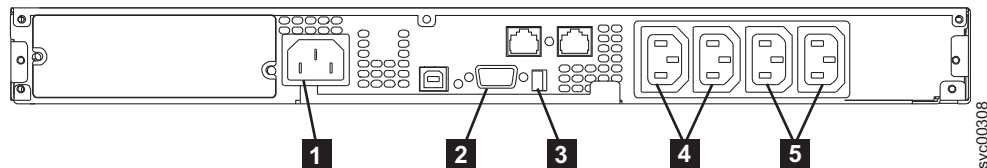


図 50. 2145 UPS-1U のコネクタースイッチ

- 1 主電源コネクタ
- 2 通信ポート
- 3 ディップ・スイッチ
- 4 ロード・セグメント 1 コンセント
- 5 ロード・セグメント 2 コンセント

2145 UPS-1U ディップ・スイッチ

63 ページの図 51 は、入力および出力の電圧範囲を設定するために使用できる、ディップ・スイッチを示しています。この機能は SAN ボリューム・コントローラーのソフトウェアによって実行されるため、この 2 つのスイッチはオフのままにしておいてください。

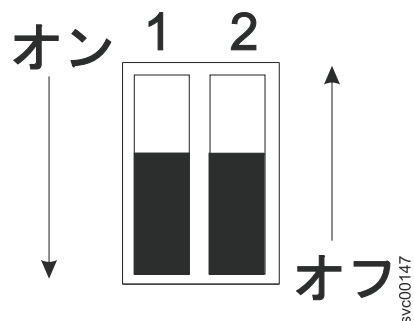


図 51. 2145 UPS-1Uのディップ・スイッチ

使用されない 2145 UPS-1U ポート

2145 UPS-1U には、SAN ボリューム・コントローラーでは使用されず、テストされていないポートが装備されています。これらのポートを、SAN ボリューム・コントローラー あるいは SAN ボリューム・コントローラー で使用される他のアプリケーションと併せて使用することはサポートされません。図 52 には、使用されない 2145 UPS-1U ポートが記載されています。

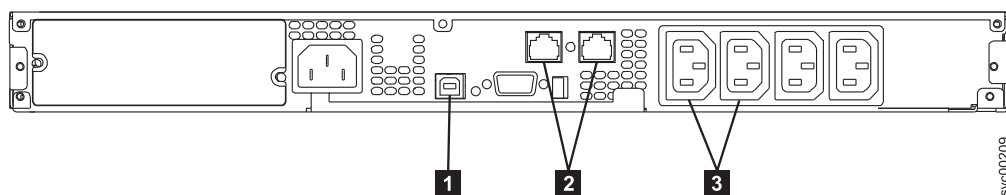


図 52. 2145 UPS-1Uで使用されないポート

- 1** USB インターフェース・ポート
- 2** ネットワーク・ポート
- 3** ロード・セグメント・コンセント

2145 UPS-1U 電源コネクタ

図 53 は、2145 UPS-1Uの電源コネクタを示しています。

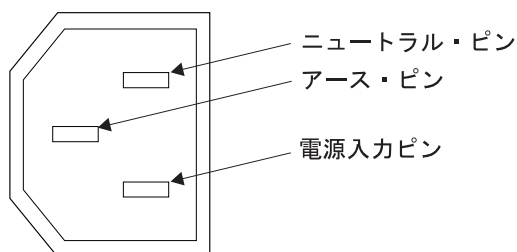


図 53. 電源コネクタ

無停電電源装置 の環境要件

無停電電源装置の環境では、SAN ボリューム・コントローラーの物理サイトの特定の仕様を満たしている必要があります。

2145 UPS-1U 環境

すべての SAN ボリューム・コントローラー・モデルが 2145 UPS-1U でサポートされています。

2145 UPS-1U 仕様

次の表は、2145 UPS-1U の物理的特性を説明しています。

2145 UPS-1U 寸法と重量

2145 UPS-1U をサポートできるスペースがラック内で使用可能であることを確認してください。

高さ	幅	奥行き	最大重量
44 mm (1.73 インチ)	439 mm (17.3 インチ)	579 mm (22.8 インチ)	16 kg (35.3 lb)
注: 2145 UPS-1U パッケージ、これには重量 18.8 kg (41.4 lb) のサポート・レールが含まれます。			

発熱量

2145 UPS-1U の概算の発熱量は以下のとおりです。

モデル	通常稼働時の発熱量	バッテリー稼働時の発熱量
2145 UPS-1U	10 W (34 Btu/時)	150 W (512 Btu/時)

SAN ボリューム・コントローラー FRU の定義

SAN ボリューム・コントローラー・ノード、冗長 AC 電源スイッチ、および無停電電源装置 (uninterruptible power supply) は、それぞれ 1 つ以上の現場交換可能ユニット (FRU) で構成されています。

SAN ボリューム・コントローラー FRU

SAN ボリューム・コントローラー・ノードはそれぞれ、ファイバー・チャンネル・アダプター、サービス・コントローラー、ディスク・ドライブ、マイクロプロセッサ、メモリー・モジュール、CMOS バッテリー、電源機構アセンブリー、ファン・アセンブリー、および オペレーター情報パネルなど、いくつかの現場交換可能ユニット (FRU) で構成されています。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 FRU

65 ページの表 18 は、各 SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 FRU の簡単な説明を示しています。

表 18. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 FRU の説明

FRU	説明
システム・ボード	SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ノードのシステム・ボード。
短波 small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー	<p>ファイバー・チャンネル・ケーブルに光学式インターフェースを提供するコンパクト光学式トランシーバー。これは、4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター上で、自動折衝の 2 Gbps、4 Gbps、または 8 Gbps 短波光ディスク接続が可能です。</p> <p>注: 製品と一緒に出荷された small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー以外の SFP が、ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプターで使用されている可能性があります。そうした SFP トランシーバーの交換パーツを入手するのは、お客様の責任です。FRU のパーツ・ナンバーは、重要製品データで「非標準 - お客様が提供」として示されます。</p>
長波 small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー	<p>ファイバー・チャンネル・ケーブルに光学式インターフェースを提供するコンパクト光学式トランシーバー。これは、4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター上での自動折衝の 2、4、または 8 Gbps の短波光ディスク接続が可能です。</p> <p>注: 製品と一緒に出荷された small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー以外の SFP が、ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプターで使用されている可能性があります。そうした SFP トランシーバーの交換パーツを入手するのは、お客様の責任です。FRU のパーツ・ナンバーは、重要製品データで「非標準 - お客様が提供」として示されます。</p>
4 ポート・ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (HBA)	SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 はファイバー・チャンネル HBA を介してファイバー・チャンネル・ファブリックに接続されます。この HBA は PCI スロット 1 にあります。アダプター・アセンブリーには、ファイバー・チャンネル PCI Express アダプター、4 つの短波 SFP トランシーバー、ライザー・カード、およびブラケットが含まれます。
サービス・コントローラー	サービス機能、フロント・パネル・ディスプレイ、およびボタンを提供するユニット。
サービス・コントローラー・ケーブル	サービス・コントローラーとシステム・ボードとの接続に使用される USB ケーブル。
ディスク・ドライブ	シリアル接続 SCSI (SAS) 2.5 型ディスク・ドライブ。

表 18. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 FRU の説明 (続き)

FRU	説明
ディスク・シグナル・ケーブル	200mm SAS ディスク・シグナル・ケーブル。
ディスク電源ケーブル	2.5 型 SAS システム・ディスク用の電源ケーブル。
ディスク・コントローラー	SAS 2.5 型ディスク・ドライブ用の SAS コントローラー・カード。
ディスク・コントローラー用の USB ライザー・カード。	ディスク・コントローラーをシステム・ボードに接続し、サービス・コントローラー・ケーブルを接続する USB ポートを提供する、ライザー・カード。
ディスク・バックプレーン	ホット・スワップ SAS 2.5 型ディスク・ドライブ・バックプレーン。
メモリー・モジュール	8-GB DDR3-1333 2RX4 LP RDIMM メモリー・モジュール。
マイクロプロセッサ	システム・ボード上のマイクロプロセッサ (2.53 GHz クワッド・コア・マイクロプロセッサ)。
電源機構装置	ノードに DC 電源を供給するアセンブリー。
CMOS バッテリー	システム BIOS 設定をバックアップする電源を維持するシステム・ボード上のバッテリー
オペレーター情報パネル	電源制御ボタンと、システム・ボード・エラー、ハード・ディスク・アクティビティー、および電源状況を示す LED を含むパネル表示装置。
オペレーター情報パネル ケーブル	オペレーター情報パネルとシステム・ボードとを接続するケーブル。
ファン・アセンブリー	すべてのファン位置で使用されるファン・アセンブリー。
電源ケーブル・アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラーと 2145 UPS-1U を接続するケーブル・アセンブリー。このアセンブリーでは、2 本の電源ケーブルと 1 本のシリアル・ケーブルが一緒にバンドルされています。
空のドライブ・ベイ・フィルター・アセンブリー	空のドライブ・ベイ・フィルター・アセンブリー。
アルコール拭き取り布	クリーニング用の拭き取り布。
熱伝導グリース	プロセッサとヒートシンク間の熱密閉を促進するグリース。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 FRU

67 ページの表 19 は、各 SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 FRU の簡単な説明を示しています。

表 19. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 FRU の説明

FRU	説明
システム・ボード	SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 ノードのシステム・ボード。
ファイバー・チャンネル small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー	ファイバー・チャンネル・ケーブルに光学式インターフェースを提供するコンパクト光学式トランシーバー。これは、4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター上での自動折衝の 2、4、または 8 Gbps の短波光ディスク接続が可能です。 注: 製品とともに出荷されるもの以外の SFP が、ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプターで使用されている可能性があります。そうした SFP トランシーバー の交換パーツを入手するのは、お客様の責任です。 FRU のパーツ・ナンバーは、重要製品データで「非標準 - お客様が提供」として示されます。
4 ポート・ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (HBA)	SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 はファイバー・チャンネル HBA を介してファイバー・チャンネル・ファブリックに接続されます。この HBA は PCI スロット 1 にあります。アダプター・アセンブリーには、ファイバー・チャンネル PCI Express アダプター、4 つの短波 SFP トランシーバー、ライザー・カード、およびブラケットが含まれます。
サービス・コントローラー	サービス機能、フロント・パネル・ディスプレイ、およびボタンを提供するユニット。
サービス・コントローラー・ケーブル	サービス・コントローラーとシステム・ボードとの接続に使用される USB ケーブル。
ディスク・ドライブ	シリアル接続 SCSI (SAS) 2.5 型ディスク・ドライブ。
ディスク・シグナル・ケーブル	200mm SAS ディスク・シグナル・ケーブル。
ディスク電源ケーブル	SAS ディスク電源ケーブル。
ディスク・コントローラー	SAS 2.5 型ディスク・ドライブ用の SAS コントローラー・カード。
ディスク・コントローラー/USB ライザー・カード	ディスク・コントローラーをシステム・ボードに接続し、サービス・コントローラー・ケーブルを接続する USB ポートを提供する、ライザー・カード。
ディスク・バックプレーン	ホット・スワップ SAS 2.5 型ディスク・ドライブ・バックプレーン。
メモリー・モジュール	4 GB DDR3-1333 2RX4 LP RDIMM メモリー・モジュール

表 19. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 FRU の説明 (続き)

FRU	説明
マイクロプロセッサ	システム・ボード上のマイクロプロセッサ 2.40 GHz クワッド・コア・マイクロプロセ ッサ。
電源機構装置	SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 ノードに DC 電源を供給するアセンブリー。
CMOS バッテリー	システム BIOS 設定をバックアップする電源 を維持するシステム・ボード上のバッテリー
オペレーター情報パネル	電源制御ボタンと、システム・ボード・エラ ー、ハード・ディスク・アクティビティ、 および電源状況を示す LED を含むパネル表 示装置。
オペレーター情報パネル ケーブル	オペレーター情報パネルとシステム・ボード とを接続するケーブル。
ファン・アセンブリー	すべてのファン位置で使用されるファン・ア センブリー。
電源ケーブル・アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラーと 2145 UPS-1U を接続するケーブル・アセンブリ ー。このアセンブリーでは、2 本の電源ケー ブルと 1 本のシリアル・ケーブルが一緒に バンドルされています。
アルコール拭き取り布	クリーニング用の拭き取り布。
熱伝導グリース	プロセッサとヒートシンク間の熱密閉を促 進するグリース。

イーサネット・フィーチャー FRU

表 20 は、各イーサネット・フィーチャー FRU について簡単に説明しています。

表 20. イーサネット・フィーチャー FRU の説明

FRU	説明
10 Gbps イーサネット・アダプター	10 Gbps イーサネット・アダプター。
10 Gbps イーサネット・ファイバー SFP	10 Gbps イーサネット・ファイバー SFP。

ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) フィーチャー FRU

69 ページの表 21 は、各 SSD フィーチャー FRU の簡潔な説明を提供していま
す。

表 21. ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) フィーチャー FRU の説明

FRU	説明
高速 SAS アダプター	最大 4 つのソリッド・ステート・ドライブ (SSD) の接続を提供する高速 SAS アダプター・カードを含むアセンブリー。このアセンブリーには、ライザー・カード、ブランキング・プレート、およびねじも含まれていません。
高速 SAS ケーブル	高速 SAS アダプターとディスク・バックプレーンとの接続に使用されるケーブル。
146 GB ソリッド・ステート・ドライブ (SSD)	146 GB ソリッド・ステート・ドライブ (SSD)。

2145 UPS-1U FRU

表 22 は、各 2145 UPS-1U FRU の簡単な説明を示しています。

表 22. 2145 UPS-1U FRU の説明

FRU	説明
2145 UPS-1U アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラーで使用するための無停電電源装置アセンブリー。
バッテリー・パック・アセンブリー	電源障害が発生した場合に SAN ボリューム・コントローラーにバックアップ電源を供給するバッテリー。
電源ケーブル (PDU と 2145 UPS-1U 間)	2145 UPS-1U とラック電力配分装置とを接続するための入力電源ケーブル。
電源ケーブル (主電源と UPS-1 間) (US)	2145 UPS-1U と主電源とを接続するための入力電源ケーブル (米国のみ)。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 FRU

表 23 は、各 SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 FRU の簡単な説明を示しています。

表 23. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 FRU の説明

FRU	説明
メモリー・モジュール	2 GB PC2-5300 ECC メモリー・モジュール。
ライザー・カード、PCI Express	システム・ボードと 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター間のインターフェースを提供する相互接続カード
4 ポート・ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (HBA)	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 はファイバー・チャンネル HBA を介してファイバー・チャンネル・ファブリックに接続されます。この HBA は PCI スロット 1 にあります。

表 23. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 FRU の説明 (続き)

FRU	説明
ファイバー・チャンネル small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー	ファイバー・チャンネル・ケーブルに光学式インターフェースを提供するコンパクト光学式トランシーバー。最大 4 Gbps で作動可能です。
システム・ボード	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ノードのシステム・ボード。
ディスク・ドライブ・バックプレーン (ケーブル付き)	SATA シンプル・スワップ・ハード・ディスクのバックプレーン (ケーブル付き)。
電源機構	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ノードに DC 電源を供給するアセンブリー。
ファン	単一ファン。
ドライブ・ケージ	SATA シンプル・スワップ・ハード・ディスク用のケージ。
ハード・ディスク・ドライブ	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 用の SATA (Serial Advanced Technology Attachment) ディスク・ドライブ
サービス・コントローラー	サービス機能、フロント・パネル・ディスプレイ、およびボタンを提供するユニット。
オペレーター情報パネル	電源制御ボタンと、システム・ボード・エラー、ハード・ディスク・アクティビティ、および電源状況を示す LED を含むパネル表示装置。
オペレーター情報パネル ケーブル	オペレーター情報パネルとシステム・ボードとを接続するケーブル。
エア・バッフル	空気の流れの方向を変えたり抑制したりして、コンピューター・コンポーネントの冷却を保つ装置。
マイクロプロセッサ	システム・ボード上のマイクロプロセッサ
CMOS バッテリー	システム BIOS 設定をバックアップする電源を維持するシステム・ボード上のバッテリー
ヒートシンク・アセンブリー保存モジュール	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ノードにヒートシンク・アセンブリーを取り付けるために使用される装置。
ヒートシンク・アセンブリー	マイクロプロセッサによって生成される熱を消散させるために使用される装置。
入力電源ケーブル アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 と 2145 UPS-1U アセンブリー間の電源およびシグナルの接続を供給するケーブル・アセンブリー

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 FRU

71 ページの表 24 は、各 SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 FRU の簡単な説明を示しています。

表 24. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 FRU の説明

FRU	説明
システム・ボード	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ノードのプレーナー。
4 ポート・ファイバー・チャンネル・HOST・バス・アダプター (HBA)	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 はファイバー・チャンネル HBA を介してファイバー・チャンネル・ファブリックに接続されます。この HBA は PCI スロット 1 にあります。
ファイバー・チャンネル small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー	ファイバー・チャンネル・ケーブルに光学式インターフェースを提供するコンパクト光学式トランシーバー。最大 4 Gbps で作動可能です。
ライザー・カード、PCI Express	システム・ボードと 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター間のインターフェースを提供する相互接続カード
サービス・コントローラー	サービス機能、フロント・パネル・ディスプレイ、およびボタンを提供する FRU。
ディスク・ドライブ	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 用の SATA (Serial Advanced Technology Attachment) ディスク・ドライブ
ディスク・ドライブ・ケージ・アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 用の SATA ディスク・ドライブ・ケージ・アセンブリー
ディスク・ドライブ・バックプレーン	SATA ディスク・ドライブ・ケーブル・アセンブリー (バックプレーン付き)
メモリー・モジュール	ECC DRR2 メモリー・モジュール
マイクロプロセッサ	システム・ボード上のマイクロプロセッサ
電源機構アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4に DC 電源を供給するアセンブリー。
電源バックプレーン	システム・ボードと電源機構アセンブリー間の電力インターフェース機構を提供するアセンブリー
CMOS バッテリー	システム BIOS 設定をバックアップする電源を維持するシステム・ボード上のバッテリー
フロント・パネル・シグナル・ケーブル	オペレーター情報パネル をシステム・ボードに接続するリボン・ケーブル。
オペレーター情報パネル	電源制御ボタンとライト・バス診断 LED を含むパネル表示装置
ファン・アセンブリー	2 つのファンを含むファン・アセンブリーで、すべてのファン位置で使用される。
入力電源ケーブル アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 と 2145 UPS-1U アセンブリー間の電源およびシグナルの接続を供給するケーブル・アセンブリー

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 FRU

表 25 は、各 SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 FRU の簡単な説明を示しています。

表 25. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 FRU の説明

FRU	説明
フレーム・アセンブリー	ファイバー・チャンネル・カードとサービス・コントローラーを除いた完全な SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4
4 ポート・ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (HBA)	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 はファイバー・チャンネル HBA を介してファイバー・チャンネル・ファブリックに接続されます。カード・アセンブリーは PCI スロット 2 に配置されます。カードを取り付けるときに、ファイバー・チャンネル・カードを PCI スロット 1 に取り付けることは許可されません。
ファイバー・チャンネル small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー	ファイバー・チャンネル・ケーブルに光学式インターフェースを提供するコンパクト光学式トランシーバー。最大 4 Gbps で作動可能です。
ライザー・カード、PCI Express	システム・ボードと 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター間のインターフェースを提供する相互接続カード
サービス・コントローラー	サービス機能、フロント・パネル・ディスプレイ、およびボタンを提供する FRU。
ディスク・ドライブ・アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 用の SATA (Serial Advanced Technology Attachment) ディスク・ドライブ・アセンブリー
メモリー・モジュール	A 1 GB ECC DRR2 メモリー・モジュール
マイクロプロセッサ	システム・ボード上のマイクロプロセッサ
電圧調節モジュール (VRM)	マイクロプロセッサの VRM
電源機構アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4に DC 電源を供給するアセンブリー。
電源バックプレーン	システム・ボードと電源機構アセンブリー間の電力インターフェース機構を提供するアセンブリー
CMOS バッテリー	システム BIOS 設定をバックアップする電源を維持するシステム・ボード上のバッテリー
ファン電源ケーブル	ファン・バックプレーンをシステム・ボードに接続するためのケーブルを提供するキット
フロント・パネル・シグナル・ケーブル	オペレーター情報パネル をシステム・ボードに接続するリボン・ケーブル。
ファン・バックプレーン	すべてのファン・ホルダーとファン・バックプレーン・アセンブリーを提供するキット

表 25. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 FRU の説明 (続き)

FRU	説明
オペレーター情報パネル	電源制御ボタンとライト・パス診断 LED を含むパネル表示装置
ファン、40×40×28	ファンの位置 1 から 3 に配置されるシングル・ファン・アセンブリー
ファン、40×40×56	ファンの位置 4 から 7 に配置されるダブル・ファン・アセンブリー
入力電源ケーブル アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 と 2145 UPS-1U アセンブリー間の電源およびシグナルの接続を供給するケーブル・アセンブリー

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 FRU

表 26 は、各 SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 FRU の簡単な説明を示しています。

表 26. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 FRU の説明

FRU	説明
フレーム・アセンブリー	ファイバー・チャンネル・カードとサービス・コントローラーを除いた完全な SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2
ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (HBA) (フルハイト)	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 はファイバー・チャンネル HBA を介してファイバー・チャンネル・ファブリックに接続されます。フルハイト・カード・アセンブリーは PCI スロット 2 に配置されます。
ファイバー・チャンネル small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー	ファイバー・チャンネル・ケーブルに光学式インターフェースを提供するコンパクト光学式トランシーバー。最大速度は、ファイバー・チャンネル・アダプターによって 2 Gbps に制限されます。
ライザー・カード、PCI (フルハイト)	システム・ボードとスロット 2 の PCI カード間のインターフェースを提供する相互接続カード
ファイバー・チャンネル HBA (ロー・プロファイル)	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 はファイバー・チャンネル HBA を介してファイバー・チャンネル・ファブリックに接続されます。ロー・プロファイル・カード・アセンブリーは PCI スロット 1 に配置されます。
ライザー・カード、PCI (ロー・プロファイル)	システム・ボードとスロット 1 の PCI カード間のインターフェースを提供する相互接続カード
サービス・コントローラー	サービス機能、フロント・パネル・ディスプレイ、およびボタンを提供する FRU。

表 26. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 FRU の説明 (続き)

FRU	説明
ディスク・ドライブ・アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 用の SATA (Serial Advanced Technology Attachment) ディスク・ドライブ・アセンブリー
メモリー・モジュール	A 1 GB ECC DDR2 メモリー・モジュール
マイクロプロセッサ	システム・ボード上のマイクロプロセッサ
電圧調節モジュール (VRM)	マイクロプロセッサの VRM
電源機構アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2に DC 電源を供給するアセンブリー。
電源バックプレーン	システム・ボードと電源機構アセンブリー間の電力インターフェース機構を提供するアセンブリー
CMOS バッテリー	システム BIOS 設定をバックアップする電源を維持するシステム・ボード上のバッテリー
ファン電源ケーブル	ファン・バックプレーンをシステム・ボードに接続するためのケーブルを提供するキット
フロント・パネル・シグナル・ケーブル	オペレーター情報パネル をシステム・ボードに接続するリボン・ケーブル。
ファン・バックプレーン	すべてのファン・ホルダーとファン・バックプレーン・アセンブリーを提供するキット
オペレーター情報パネル	電源制御ボタンとライト・パス診断 LED を含むパネル表示装置
ファン、40×40×28	ファンの位置 1 から 3 に配置されるシングル・ファン・アセンブリー
ファン、40×40×56	ファンの位置 4 から 7 に配置されるダブル・ファン・アセンブリー
入力電源ケーブル アセンブリー	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 と 2145 UPS-1U アセンブリー間の電源およびシグナルの接続を供給するケーブル・アセンブリー

冗長 AC 電源スイッチ FRU

冗長 AC 電源スイッチは、単一の現場交換可能ユニット (FRU) で構成されています。

FRU	説明
冗長 AC 電源スイッチ アセンブリー	冗長 AC 電源スイッチとその入力電源ケーブル

第 3 章 システムを保守するための SAN ボリューム・コントローラー のユーザー・インターフェース

SAN ボリューム・コントローラー には、システムのトラブルシューティング、リカバリー、または保守のための多くのユーザー・インターフェースがあります。これらのインターフェースは、発生する可能性がある状況を解決するのに役立つ多様な機能を提供します。

- クラスタ化システムに関連付けられたストレージの構成をモニターおよび保守するには、管理 GUI を使用します。
- 保守手順は、サービス・アシスタントから実行します。
- コマンド行インターフェース (CLI) を使用してシステムを管理してください。

管理 GUI インターフェース

管理 GUI は、システムのすべての局面を構成および管理するためのブラウザー・ベースの GUI です。問題のトラブルシューティングおよび修正に役立つ幅広い機能を備えています。

このタスクについて

管理 GUI を使用して、システムを管理およびサービスします。「モニター」 > 「イベント」パネルでは、修正する必要がある問題、および問題を修正するプロセスをガイドする保守手順にアクセスできます。

イベント・パネル上の情報は、次の 3 つの方法でフィルターに掛けることができます。

推奨処置 (デフォルト)

注意が必要なアラートのみを表示します。アラートは優先順位が高い順にリストされ、使用可能な修正手順を使用して順番に修正する必要があります。選択された問題ごとに、以下を実行できます。

- 修正手順を実行する。
- プロパティーを表示する。

未修正のメッセージおよびアラート

未修正のアラートおよびメッセージのみを表示します。選択された項目ごとに、以下を実行できます。

- 修正手順を実行する。
- イベントに修正済みのマークを付ける。
- 特定の分、時間、または日付別に表示するように、項目をフィルターに掛ける。
- 日付フィルターをリセットする。
- プロパティーを表示する。

すべて表示

修正済みまたは未修正に関わらず、すべてのイベント・タイプを表示します。選択された項目ごとに、以下を実行できます。

- 修正手順を実行する。
- イベントに修正済みのマークを付ける。
- 特定の分、時間、または日付別に表示するように、項目をフィルターに掛ける。
- 日付フィルターをリセットする。
- プロパティを表示する。

一部のイベントは、未修正として表示されるには、それまでの 25 時間以内に特定の出現回数を必要とします。25 時間以内にこのしきい値に達しない場合、期限切れのフラグが立てられます。モニター・イベントは、合体しきい値を下回っており、通常は一時的なものです。

イベントは、時刻またはエラー・コードによってソートすることもできます。エラー・コードによってソートする場合、最も低い番号が付けられた最も重要なイベントが最初に表示されます。リストされている任意のイベントを選択して、「アクション」 > 「プロパティ」を選択し、イベントに関する詳細を表示することができます。

- 推奨処置。選択された問題ごとに、以下を実行できます。
 - 修正手順を実行する。
 - プロパティを表示する。
- イベント・ログ。選択された項目ごとに、以下を実行できます。
 - 修正手順を実行する。
 - イベントに修正済みのマークを付ける。
 - 特定の分、時間、または日付別に表示するように、項目をフィルターに掛ける。
 - 日付フィルターをリセットする。
 - プロパティを表示する。

管理 GUI を使用する状況

管理 GUI は、システムの保守に使用される主要なツールです。

管理 GUI を使用して、システムの状況を定期的にモニターします。問題が疑われる場合、最初に管理 GUI を使用して問題を診断し、解決してください。

管理 GUI で使用できるビューを使用して、システム、ハードウェア装置、物理ストレージ、および使用可能なボリュームの状況を検査します。「モニター」 > 「イベント」パネルでは、システム上に存在するすべての問題にアクセスできます。「推奨処置」フィルターを使用すると、解決する必要がある最重要イベントが表示されます。

アラートのサービス・エラー・コードがある場合、問題の解決に役立つ修正手順を実行できます。これらの修正手順では、システムが分析され、問題に関するさらに

多くの情報が提供されます。これらの手順は、実行すべき推奨アクションを示し、必要な場合にシステムを自動的に管理するアクションをガイドします。最後に、問題が解決されたことを検査します。

報告されたエラーがある場合、常に管理 GUI 内部で修正手順を使用して問題を解決してください。ソフトウェア構成およびハードウェア障害の両方に対して必ず修正手順を使用してください。修正手順はシステムを分析して、必要な変更によってボリュームがホストからアクセス不能にならないようにします。修正手順は、システムを最適な状態に戻すために必要な構成変更を自動的に実行します。

管理 GUIへのアクセス

この手順では、管理 GUIにアクセスする方法を説明します。

このタスクについて

サポートされる Web ブラウザーを使用する必要があります。次の Web サイトで、サポートされる Web ブラウザーを使用していることを確認します。

www.ibm.com/storage/support/2145

クラスター化システムを作成するとすぐに、管理 GUI を使用してシステムを管理することができます。

手順

1. サポートされる Web ブラウザーを開始して、ブラウザーでシステムの管理 IP アドレスを指定します。

管理 IP アドレスは、クラスター化システムの作成時に設定されます。最大 4 つのアドレスを使用するために構成できます。IPv4 アクセス用に 2 つのアドレス、IPv6 アクセス用に 2 つのアドレスがあります。

2. 接続が正常に確立されると、ログイン・パネルが表示されます。
3. ユーザー名とパスワードを使用してログオンします。
4. ログオンしたら、「モニター」 > 「イベント」を選択します。
5. 「推奨処置」を使用して、イベント・ログがフィルタリングされていることを確認します。
6. 推奨処置を選択し、修正手順を実行します。
7. 可能な場合、推奨される順序でアラートの処理を続行します。

タスクの結果

すべてのアラートが修正された後、システムの状況を調べて、意図されたとおりに作動していることを確認します。

管理 GUIを使用したクラスター化システムからのノードの削除

ノードに障害が発生して新しいノードと交換する場合、あるいは修復を行ったことでノードがシステムに認識されなくなった場合は、ノードをシステムから削除してください。

始める前に

ノードをオフラインにする前に、選択されたノード上のキャッシュがフラッシュされます。システムの機能がすでに低下している場合 (例えば、入出力グループ内の両方のノードがオンラインで、入出力グループ内のボリュームが劣化している場合) など、一部の環境では、システムは、キャッシュ・データをもつ唯一のノードを削除した結果として確実にデータ損失が起こらないようにします。入出力グループ内の他のノードで障害が発生する場合は、ノードが除去される前にキャッシュをフラッシュしてデータ損失を防ぎます。

システムからノードを削除する前に、ノードのシリアル番号、ワールドワイド・ノード名 (WWNN)、すべてのワールドワイド・ポート名 (WWPN)、およびノードが現在含まれている入出力グループを記録してください。ノードを後でシステムに再追加する場合は、このノード情報を記録しておくことでデータ破壊を回避することができます。

重要:

- 単一のノードを除去しようとしているときに、入出力グループ内の残りのノードがオンラインになっている場合、残りのノード上のデータはライトスルー・モードになります。残りのノードに障害が発生すると、このデータは Single Point of Failure にさらされる危険があります。
- ノードを除去する前にボリュームがすでに劣化している場合、ボリュームに対する冗長度は劣化します。ノードを除去すると、データへのアクセスが失われ、データ損失が発生する可能性があります。
- システム内の最後のノードを除去すると、システムは破棄されます。システムの最後のノードを除去する前に、システムを破壊してよいことを確認してください。
- ノードを除去すると、入出力グループからすべての冗長度が除去されます。その結果として、新規または既存の障害が原因でホスト上で入出力エラーが発生することがあります。以下の障害が発生する可能性があります。
 - ホスト構成エラー
 - ゾーニング・エラー
 - マルチパス・ソフトウェア構成エラー
- 入出力グループ内の最後のノードを削除しようとしているときに、その入出力グループにボリュームが割り当てられている場合、ノードがオンラインのときは、システムからノードを除去することはできません。保管するデータは、すべてノードの除去前にバックアップまたはマイグレーションする必要があります。ノードがオフラインであれば、ノードを除去できます。
- 構成ノードを削除すると、構成機能はシステム内の別のノードに移動します。この処理には少し時間かかることがあります (通常は 1 分未満です)。管理 GUI は、新しい構成ノードに透過的に再接続します。
- 除去されたノードへの電源をオンにし、それがまだ同じファブリックまたはゾーンに接続されている場合、ノードはシステムへの再結合を試みます。システムはノードがシステムから自動的に除去されるようにし、ノードはこのシステムまたは別のシステムに追加するための候補となります。
- このノードをシステムに追加する場合は、必ず以前にメンバーであった同じ入出力グループに追加してください。そのようにしなければ、データ破壊が発生する可能性があります。

このタスクは、既に 管理 GUI にアクセスしていることを前提としています。

このタスクについて

システムからノードを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「モニター」 > 「システム」を選択します。
2. 除去したいノードを見つけます。

除去対象のノードが「オフライン」として表示される場合、そのノードはこのシステムに関係していません。

除去対象のノードが「オンライン」として表示される場合、そのノードを削除すると、従属するボリュームもオフラインになる可能性があります。ノードに従属ボリュームがあるかどうかを確認してください。

3. ノードの除去を試行する前に従属ボリュームを確認するには、「管理」をクリックし、次に「従属ボリュームの表示」をクリックします。

ボリュームがリストされる場合は、ノードをシステムから除去する際にそのボリュームにアクセスする必要があるかどうか、およびその理由を判別してください。ノードに置かれているソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を含むボリュームが MDisk グループから割り当てられる場合、ボリューム・ミラー (構成されている場合) が同期されない理由を確認します。入出力グループ内のパートナー・ノードがオフラインであるために従属ボリュームが存在する可能性もあります。また、ファブリックの問題により、ボリュームがストレージ・システムと通信できない場合もあります。ノードの除去を続行する前に、これらの問題を解決してください。

4. 「ノードの除去」をクリックします。
5. 「OK」をクリックして、ノードを除去します。ノードが除去される前に、SAN ボリューム・コントローラーはノードに従属しているボリュームがないか判別するための検査を行います。選択したノードに以下の状態でボリュームが含まれていると、ノードを除去する場合はボリュームはオフラインになり、使用不可になります。
 - ・ ノードには ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) があり、ミラーリングされたボリュームの唯一の同期済みコピーも入っています。
 - ・ 入出力グループ内の他のノードがオフラインです。

これらの依存関係を持つノードを除去するために選択すると、別のパネルが除去の確認を表示します。

クラスター化システムへのノードの追加

このトピックでは、ノードをクラスター化システムに追加する手順について説明しています。また、以前にノードに障害が発生したために新規ノードと交換する場合、あるいは修復処置によってノードがシステムに認識されなくなった場合に、ノードを追加するための情報も含まれます。ノードを追加する場合、必ずそれらのノードをペアで追加し、フル入出力グループを作成してください。

ノードをシステムに追加する前に、追加されるノードがシステム内の他のすべてのノードと同じゾーンに入るようにスイッチ・ゾーニングが構成されていることを確認する必要があります。ノードを交換するときに、スイッチが、スイッチ・ポートではなく、ワールドワイド・ポート名 (WWPN) でゾーンに分けられている場合は、追加するノードが同じ VSAN またはゾーンに含まれるようにスイッチを構成してください。

ノードをシステムに追加する場合の考慮事項

このシステム内の別の入出力グループ内か、別のシステム内で、以前に使用されていたノードを追加する場合は、そのノードを追加する前に以下の状態を考慮してください。ワールドワイド・ノード名 (WWNN) を変更せずにシステムにノードを追加する場合、ホストはそのノードが古いロケーションにあるかのようにそのノード

を検出し、使用する可能性があります。このアクションにより、ホストが誤ったボリュームにアクセスする場合があります。

- 新規ノードが必要とするソフトウェアのレベルが、システム上で使用可能なソフトウェア・レベルより高い場合、新規ノードを追加する前に、クラスター化システム全体をアップグレードしておく必要があります。
- 保守アクションでシステムからノードを削除する必要があった後で、そのノードを同じ入出力グループに再び追加しようとするときに、物理ノードが変更されていない場合、特殊な手順は必要なく、そのノードをシステムに追加して戻すことができます。
- ノード障害か、アップグレードのいずれかのために、システム内のノードを交換する場合、ノードをファイバー・チャンネル・ネットワークに接続し、システムに追加する前に、元のノードの WWNN と一致するように新しいノードの WWNN を変更する必要があります。
- システム内に新しい入出力グループを作成し、新しいノードを追加する場合は、特別な手順は不要です。このノードは以前にシステムに追加されたことがなく、ノードの WWNN が存在していないためです。
- システム内で新しい入出力グループを作成し、新しいノードを追加しようとするときに、このノードが以前にシステムに追加されたことがある場合、ホスト・システムは引き続きそのノードの WWPN を使用するように構成され、ノードは引き続きファブリック内にゾーン分けされる可能性があります。ノードの WWNN は変更することができないので、ファブリック内のその他のコンポーネントが正しく構成されていることを確認する必要があります。そのノードを使用するように以前構成された任意のホストが正しく更新されていることを確認してください。
- 追加するノードが、ノードの修理またはアップグレードのために前に取り替えられたものである場合、そのノードの WWNN を取り替えノード用に使用した可能性があります。同じ WWNN を持つ 2 つのノードがファブリックに接続されないように、このノードの WWNN が更新されていることを確認してください。また、追加しようとするノードの WWNN が 00000 でないことも確認してください。00000 である場合は、IBM 担当員に連絡してください。

マルチパス・デバイス・ドライバを使用する場合の考慮事項

- ホスト・システム上のアプリケーションが入出力操作を送る先のファイル・システムまたは論理ボリュームは、オペレーティング・システムによって仮想パス (vpath) にマップされています。vpath は、マルチパス・デバイス・ドライバでサポートされている疑似ディスク・オブジェクトです。マルチパス・デバイス・ドライバは、vpath と SAN ボリューム・コントローラー・ボリューム間の関連を維持します。この関連では、ボリュームに固有で、しかも再利用されない ID (UID) を使用します。UID によって、マルチパス・デバイス・ドライバは vpath をボリュームに直接関連付けることができます。
- マルチパス・デバイス・ドライバは、ディスクおよびファイバー・チャンネル・デバイス・ドライバが含まれるプロトコル・スタック内で作動します。これらのデバイス・ドライバは、ANSI FCS 標準で定義されているように、ファイバー・チャンネル上で SCSI プロトコルを使用して SAN ボリューム・コントローラーと通信するために使用されます。これらの SCSI およびファイバー・チャンネル・デバイス・ドライバによって提供されるアドレッシング方式では、ファイ

バー・チャネル・ノードおよびポートに、SCSI論理装置番号 (LUN) とワールドワイド・ノード名 (WWNN) を組み合わせて使用します。

- エラーが発生すると、エラー・リカバリー手順 (ERP) は、プロトコル・スタック内のさまざまな層で動作します。これらの ERP が実行されると、場合によっては、以前に使用されたものと同じ WWNN および LUN 番号を使用して入出力が再駆動されることがあります。
- マルチパス・デバイス・ドライバーは、実行するすべての入出力操作について、ボリュームと vpath の関連付けをチェックするわけではありません。

管理 GUIを使用したシステムへのノードの追加

重要:

1. SAN にノードを再度追加する場合は、必ずノードを除去したときと同じ入出力グループに追加します。このアクションの実行に失敗すると、データ破損が発生する可能性があります。ノードを最初にシステムに追加したときに記録した情報を使用する必要があります。この情報にアクセスできない場合は、データを破損せずにノードを元どおりにシステムに追加するために、IBM サポートに連絡してください。
2. 各外部ストレージ・システムでは、新規ノードのポートに提示される LUN は、現在システムに存在するノードに提示される LUN と同じでなければなりません。新規ノードをシステムに追加するには、LUN が同じであることを確認しておく必要があります。
3. 各外部ストレージ・システムでは、各 LUN に対する LUN マスキングは、システム内のすべてのノードで同一でなければなりません。新規ノードをシステムに追加するには、各 LUN に対する LUN マスキングが同一であることを確認しておく必要があります。
4. 新しいノードのモデル・タイプは、現在システムにインストールされている SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェア・レベルによってサポートされていなければなりません。モデル・タイプが SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアのレベルによってサポートされていない場合は、新しいノードのモデル・タイプをサポートするソフトウェア・レベルにシステムをアップグレードしてください。サポートされている最新のソフトウェア・レベルについては、次の Web サイトを参照してください。

www.ibm.com/storage/support/2145

入出力グループ内の各ノードは、別々の無停電電源装置に接続する必要があります。各ノードは固有の名前を持つことも必要です。名前を指定しない場合、システムはデフォルトの名前をオブジェクトに割り当てます。

注: 将来、オブジェクトの特定に役立つように、可能な場合は必ず意味のある名前をオブジェクトに指定する必要があります。

このタスクは、既に 管理 GUI にアクセスしていることを前提としています。

ノードをクラスター化システムに追加するには、以下の手順に従います。

1. 「モニター」 > 「システム」を選択します。

2. 「ラック・イメージ」から、ノードに追加する入出力グループに関連付けられた空のスロットをクリックする。
3. 追加する候補ノードを選択する。

追加したいノードが候補リストで選択できない場合、ノードはサービス状態です。そのノードをシステムに追加するには、ノードをサービス状態から解放するためのアクションが必要です。

4. 「ノードの追加」を選択する。WARNING が表示されます。
5. 「OK」をクリックします。
6. ノードを初めてクラスター化システムに追加する場合、以下の情報を記録してください。
 - ノードのシリアル番号
 - すべての WWPN
 - ノードが属する入出力グループ

重要: この情報は、ノードを除去し、システムに再度追加する必要がある場合に起こりうるデータ破壊を回避する際に必要です。

ノード・エラー 578 あるいはノード・エラー 690 が表示される場合、そのノードはサービス状態です。サービス状態を終了するには、フロント・パネルから以下の手順を実行します。

1. 「アクション？」オプションが表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放す。
2. 選択ボタンを押す。
3. 「サービスの終了？」オプションが表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放す。
4. 選択ボタンを押す。
5. 「終了の確認？」オプションが表示されるまで、左または右ボタンを押して放す。
6. 選択ボタンを押す。

その他のノード・エラーの場合は、そのエラーを修正するための適切な保守手順に従ってください。エラーが解決されてノードが候補状態になったら、再度システムへのノードの追加を試行することができます。

サービス・アシスタント・インターフェース

サービス・アシスタント・インターフェースは、ノードをサービスするために使用されるブラウザ・ベースの GUI です。

サービス・アシスタントには、サービス IP アドレスを使用して接続します。

サービス・アシスタントを使用する状況

サービス・アシスタントを使用するのは、主にノードがサービス状態になった場合です。サービス状態にあるノードをシステムの一部としてアクティブにすることはできません。

重要: 修正手順で指示された場合にのみ、ノード上でサービス・アクションを実行してください。不適切に使用されると、サービス・アシスタントで使用可能なサービス・アクションによって、データへのアクセスが失われたり、場合によってはデータ損失が発生します。

ノードがサービス状態にある原因として、ハードウェアの問題が発生しているか、破損したデータがあるか、構成データが失われたことが考えられます。

次の状態の場合は、サービス・アシスタントを使用してください。

- 管理 GUI からシステムにアクセスできず、ストレージ SAN ボリューム・コントローラー にアクセスして推奨処置を実行できない場合。
- 推奨処置でサービス・アシスタントの使用を指示された場合。

管理 GUI は、オンラインのクラスター化システムがある場合にのみ作動します。クラスター化システムを作成できない場合、サービス・アシスタントを使用します。

サービス・アシスタントは、詳細な状況およびエラーの概要を示します。また、以下の保守関連アクションも実行できます。

- ログを収集して、サポート担当員に送信するためのファイルのパッケージを作成およびダウンロードする。
- ノードからシステムのデータを削除する。
- システムに障害が発生している場合はリカバリーする。
- サポート・サイトからソフトウェア・パッケージをインストールしたり、もう一方のノードからソフトウェアをレスキューする。
- 標準的なアップグレード手順を実行するのではなく、手動でノードのソフトウェアをアップグレードする。
- 現行ノードのイーサネット・ポート 1 に割り当てられているサービス IP アドレスを変更する。
- SSH 鍵がインストールされておらず、CLI アクセスが必要な場合に、一時的な鍵をインストールする。
- システムによって使用されているサービスを再開する。

サービス・アシスタントへのアクセス

サービス・アシスタントは、ノード上の問題のトラブルシューティングおよび解決に役立つ Web アプリケーションです。

このタスクについて

サポートされる Web ブラウザーを使用する必要があります。次の Web サイトで、サポートされ、適切に構成された Web ブラウザーを使用していることを確認します。

www.ibm.com/storage/support/2145

アプリケーションを開始するには、次のステップを実行します。

手順

1. サポートされる Web ブラウザーを開始して、Web ブラウザーで、作業するノードの `<serviceaddress>/service` を指定します。
2. `superuser` パスワードを使用してサービス・アシスタントにログオンします。

現行のスーパーユーザー・パスワードが不明な場合は、パスワードをリセットします。

タスクの結果

正しいノード上でサービス・アシスタント・アクションを実行してください。

クラスター (システム) コマンド行インターフェース

コマンド行インターフェース (CLI) は、タスク・コマンドおよび情報コマンドを使用してクラスター化システムを管理するために使用します。

コマンドの詳細な説明および SSH コマンド行セッションを開始する方法については、SAN ボリューム・コントローラー インフォメーション・センターの『リファレンス』セクションにある『コマンド行インターフェース』のトピックを参照してください。

クラスター (システム) CLI を使用する状況

クラスター (システム) CLI は、コマンド行インターフェースの使用に精通している上級者向けのものです。

CLI によって提供されるほぼすべての柔軟性は、管理 GUI で利用できます。ただし、CLI は、管理 GUI で使用可能な修正手順を提供しません。そのため、問題を解決するには、管理 GUI の修正手順を使用してください。CLI は、管理 GUI で使用できない構成設定が必要な場合に使用します。

また、特定の状態をモニターしたり、定期的に行う構成変更を自動化するために CLI コマンドを使用してコマンド・スクリプトを作成すると有用です。

クラスター (システム) CLI へのアクセス

CLI セッションを初期化して使用するには、SAN ボリューム・コントローラー インフォメーション・センターの『リファレンス』セクションにある『コマンド行インターフェース』のトピックで説明されている手順を実行してください。

サービス・コマンド行インターフェース

サービス・コマンド行インターフェース (CLI) は、タスク・コマンドおよび情報コマンドを使用してノードを管理するために使用します。

コマンドの詳細な説明および SSH コマンド行セッションを開始する方法については、SAN ボリューム・コントローラー インフォメーション・センターの『リファレンス』セクションにある『コマンド行インターフェース』のトピックを参照してください。

サービス CLI を使用する状況

サービス CLI は、コマンド行インターフェースの使用に精通している上級者向けのものです。

ノードに直接アクセスするには、通常、グラフィカル・インターフェースと幅広いヘルプ機能を備えたサービス・アシスタントを使用する方が簡単です。

サービス CLI へのアクセス

CLI セッションを初期化して使用するには、SAN ボリューム・コントローラー インフォメーション・センターの『リファレンス』セクションにある『コマンド行インターフェース』のトピックで説明されている手順を実行してください。

第 4 章 SAN ボリューム・コントローラー CLI を使用したリカバリー・アクションの実行

SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) は、SAN ボリューム・コントローラー・クラスターの管理に使用できるコマンドのコレクションです。ここで記載されているコマンドの個別の詳細については、コマンド行インターフェースの資料を参照してください。

CLI を使用した、ミラーリングボリューム・コピーの検証と修復

コマンド行インターフェース (CLI) から **repairdiskcopy** コマンドを使用して、ミラーリングされたボリューム・コピーを検証し、修復することができます。

重要: すべてのボリューム・コピーが同期化されている場合のみ、**repairdiskcopy** コマンドを実行してください。

repairdiskcopy コマンドを発行する際には、**-validate**、**-medium**、または **-resync** パラメーターのうちの 1 つだけを使用する必要があります。また、検証および修復されるボリュームの名前または ID を、コマンド行の最後の項目として指定する必要があります。このコマンドを発行した後、出力は表示されません。

-validate

ミラーリングされたボリューム・コピーが同一であることを確認するだけの場合に、このパラメーターを使用します。差異が検出されると、コマンドは停止し、論理ブロック・アドレス (LBA) と最初の差異の長さを含むエラーをログに記録します。毎回異なる LBA から開始してこのパラメーターを使用すると、ボリューム上の差異数をカウントすることができます。

-medium

異なる内容を含むすべてのボリューム・コピー上のセクターを仮想メディア・エラーに変換する場合に、このパラメーターを使用します。完了時に、このコマンドはイベントをログに記録します。これは、検出された差異の数、メディア・エラーに変換された数、および変換されなかった数を示します。どのデータが正しいか確かでないときに、誤ったバージョンのデータを使用したくない場合は、このオプションを使用してください。

-resync

指定された 1 次ボリューム・コピーから他のボリューム・コピーに内容を上書きする場合に、このパラメーターを使用します。このコマンドは、1 次コピーから、比較対象のコピーにセクターをコピーすることによって、異なるセクターを訂正します。完了後、このコマンド・プロセスはイベントをログに記録します。このイベントは、訂正された差異の数を示します。1 次ボリューム・コピー・データが正しいこと、またはホスト・アプリケーションが正しくないデータを処理できることが確実である場合に、このアクションを使用します。

-startlba lba

オプションとして、検証と修復を開始する元の開始論理ブロック・アドレス (LBA) を指定する場合に、このパラメーターを使用します。以前に **validate**

パラメーターを使用した場合、最初の差異 (ある場合) が検出された LBA と一緒にエラーがログに記録されています。その LBA を指定した **repairvdiskcopy** を再発行すれば、比較済みの同じ先頭セクターが再処理されないようになります。このパラメーターを使用して **repairvdiskcopy** を引き続き再発行して、すべての差異をリストします。

指定されたボリュームのミラーリング・コピーを検証し、必要に応じて自動的に修復するには、次のコマンドを発行します。

```
repairvdiskcopy -resync -startlba 20 vdisk8
```

注:

1. 一度に 1 つの **repairvdiskcopy** コマンドのみをボリュームに対して実行できません。
2. **repairvdiskcopy** コマンドを開始した後、コマンドを使用して処理を停止することはできません。
3. **repairvdiskcopy -resync** コマンドの実行中に、ミラーリングされたボリュームの 1 次コピーを変更できません。
4. 1 つのミラーリング・コピーしかない場合、このコマンドは、エラーを出してただちに戻ります。
5. 比較されるコピーがオフラインになると、コマンドはエラーを出して一時停止します。このコマンドは、コピーがオンラインに戻ったときに、自動的に再開されません。
6. 一方のコピーが読み取り可能であるにもかかわらず、もう一方のコピーにメディア・エラーがある場合、このコマンド・プロセスでは、もう一方のコピーから読み取られたデータを書き込むことによって、メディア・エラーを自動的に修正しようとします。
7. **repairvdiskcopy** 処理時に異なるセクターが見つからない場合、プロセスの終わりに情報エラーが記録されます。

CLI を使用した、ボリューム・コピーの検証と修復の進行状況の確認

ミラーリングされたボリュームの検証と修復の進行状況を表示するには、

lsrepairvdiskcopyprogress コマンドを使用します。**-copy id** パラメーターを使用して、ボリューム・コピーを指定することができます。アクティブ・タスクが実行されている複数のコピーを持つボリュームを表示するには、パラメーターなしのコマンドを指定します。ただ 1 つの ボリューム・コピーに対してアクティブ・タスクが実行されることはあり得ません。

ミラーリングされたボリュームの検証と修復の進行状況を確認するには、次のコマンドを発行します。

```
lsrepairvdiskcopyprogress -delim :
```

次の例は、このコマンド出力の表示内容を示します。

```
vdisk_id:vdisk_name:copy_id:task:progress:estimated_completion_time
0:vdisk0:0:medium:50:070301120000
0:vdisk0:1:medium:50:070301120000
```

CLI を使用したスペース使用効率のよいボリュームの修復

コマンド行インターフェースから **repairsevdiskcopy** コマンドを使用して、スペース使用効率のよいボリューム上のメタデータを修復することができます。

repairsevdiskcopy コマンドは、壊れたメタデータを自動的に検出し、修復します。コマンドは修復中ボリュームをオフラインに保持しますが、ディスクを入出力グループ間で移動することは妨げません。

修復操作が正常に完了し、メタデータの破壊のためにボリュームが以前にオフラインであった場合、このコマンドはボリュームをオンラインに戻します。並行修復操作数に対する制限は、構成内の仮想ディスク・コピー数のみです。

repairsevdiskcopy コマンドの発行時に、修復するボリュームの名前または ID をコマンド行の最後のエントリとして指定する必要があります。処理が開始した後、修復操作を一時停止またはキャンセルすることはできません。コピーを削除することによってのみ、修復を終了できます。

重要: このコマンドは、メタデータの破壊を報告したスペース使用効率のよいボリューム (シン・プロビジョニング・ボリューム) の修復のみに使用してください。

スペース使用効率のよいボリューム上のメタデータを修復するには、次のコマンドを発行します。

```
repairsevdiskcopy vdisk8
```

このコマンドを発行した後、出力は表示されません。

注:

1. ボリュームはホストに対してオフラインであるので、修復中にボリュームに対して実行依頼される入出力はすべて失敗します。
2. 修復操作が正常に完了すると、メタデータの破壊エラーには、修正済みのマークが付けられます。
3. 修復操作が失敗すると、ボリュームはオフラインのままになり、エラーがログに記録されます。

CLI を使用したスペース使用効率のよいボリューム修復の進行状況の確認

指定したボリュームのスペース使用効率のよい ボリューム・コピーの修復進行状況をリストするには、**lsrepairsevdiskcopyprogress** コマンドを発行します。ボリュームを指定しない場合、このコマンドはシステム内のすべてのスペース使用効率のよいコピーを対象にして、修復の進行状況をリストします。

注: このコマンドは、**repairsevdiskcopy** コマンドを実行した後でのみ実行してください。また、**repairsevdiskcopy** コマンドは、修正手順または IBM サポートによる指示があった場合にのみ実行する必要があります。

CLI を使用したオフライン・ボリュームからのリカバリー

ノードまたは入出力グループで障害が発生した場合、コマンド行インターフェース (CLI) を使用して、オフライン・ボリュームをリカバリーすることができます。

このタスクについて

入出力グループ内の両方のノードが失われ、その結果、その入出力グループに関連付けられているすべてのボリュームへのアクセスを失った場合、以下のいずれかの手順を実行して、ボリュームに再度アクセスできるようにする必要があります。障害のタイプによっては、キャッシュに入れられていたこれらのボリュームのデータが失われ、それらのボリュームがオフラインになっている可能性があります。

データ損失シナリオ 1

入出力グループ内の 1 つのノードで障害が発生し、2 番目のノードでフェイルオーバーが開始しました。このフェイルオーバー・プロセス中、書き込みキャッシュ内のデータがハード・ディスクに書き込まれる前に、入出力グループ内の 2 番目のノードで障害が発生しました。最初のノードは正常に修復されますが、そのハード・データはデータ・ストアにコミット済みの最新バージョンでないため、使用できません。2 番目のノードは修復または交換され、ハード・データを失ったため、ノードはクラスター化システムの一部であることを認識できません。

1 つのノードにダウン・レベルのハード・データがあり、もう一方のノードのハード・データが失われた場合、以下の手順を実行してオフライン・ボリュームからリカバリーします。

手順

1. ノードをリカバリーして、システムに戻します。
2. オフラインのボリュームを使用するすべての IBM FlashCopy マッピングおよびメトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー関係を削除します。
3. **recovervdisk**、**recovervdiskbyigrp**、または **recovervdiskbysystem** コマンドを実行します。
4. ボリュームを使用する FlashCopy マッピングおよびメトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係をすべて再作成する。

例

データ損失シナリオ 2

入出力グループ内の両方のノードで障害が発生し、修復されました。ノードでは、ハード・データがなくなってしまうため、システムの一部であるということを認識できません。

両方のノードでハード・データが失われ、システムがノードを認識できない場合は、以下の手順を実行して、オフラインのボリュームからリカバリーします。

1. オフラインのボリュームを使用するすべての FlashCopy マッピングおよびメトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー関係を削除します。
2. **recovervdisk**、**recovervdiskbyigrp**、または **recovervdiskbysystem** コマンドを実行します。

3. ボリュームを使用する FlashCopy マッピングおよびメトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係をすべて再作成する。

中断を伴わないノード置換

以下の手順は、大部分のノードを無停止で置換する方法について説明しています。

始める前に

これらの手順は、SAN 環境への変更が必要ないため、無停止で行えます。交換用の(新規)ノードは、取り替える元のノードと同じワールドワイド・ノード名 (WWNN) を使用します。この手順を使用しない場合は、ボリュームを新規の入出力グループに移動するか、あるいは SAN を再ゾーニングして、ノードを停止して取り替えます。ただし、中断を伴う手順ではホスト上で追加の作業が必要です。

この作業では、以下の条件が満たされていることを前提としています。

- 既存のシステム・ソフトウェアが、新規ノードをサポートするバージョンであること。ノードが SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ノードに置き換えられる場合、システム・ソフトウェアのバージョンは 6.2.0 以上でなければなりません。ノードが SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 ノードに置き換えられる場合、システム・ソフトウェアのバージョンは 5.1.0 以上でなければなりません。ノードが SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ノードに置き換えられる場合、システム・ソフトウェアのバージョンは 4.3.1 以上でなければなりません。

注: ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を含むノードの場合: 既存の SSD を新規ノードに移動する場合、新規ノードは SSD をサポートするために必要なシリアル接続 SCSI (SAS) アダプターを備えている必要があります。

- システム内に構成されるすべてのノードが存在し、オンラインであること。
- システム・イベント・ログ内のエラーがすべて対処され、修正済みのマークが付いていること。
- 状況が劣化またはオフラインであるボリューム、管理対象ディスク (MDisk)、または外部ストレージ・システムがないこと。
- 置換用ノードの電源がオンでないこと。
- 置換用ノードが SAN に接続されていないこと。
- 新規の SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8、または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ノードごとに、2145 UPS-IU 装置 (フィーチャー・コード 8115) があること。
- システム構成をバックアップ済みであり、`svc.config.backup.xml` ファイルを保存していること。
- 置換用ノードは、置換するノードのファイバー・チャンネルまたはイーサネット接続速度で動作できる必要があること。
- 交換されるノードにソリッド・ステート・ドライブ (SSD) が含まれている場合、すべての SSD および SAS アダプターを新規ノードに転送すること (新規ノードがそれらのドライブをサポートする場合)。新規ノードが既存の SSD をサポートしない場合、ノードを置換する前に SSD のデータを転送して、データへのアクセスが失われるのを回避する必要があります。

重要:

1. IBM サポートによって指示される場合を除いて、リストされている条件のいずれかが満たされていない場合は、この作業を続行しないでください。
2. この作業を実行する前に、下記のすべてのステップを検討してください。
3. SAN ボリューム・コントローラー環境、またはこの作業で説明されている手順を十分理解していない場合は、この作業を実行しないでください。
4. 置換する元のノードを再利用する計画の場合は、ノードの WWNN が SAN 上で固有の番号に確実に設定されているようにしてください。WWNN が固有であることが確実にない場合、WWNN と WWPN が SAN 環境で重複し、問題を引き起こす可能性があります。

ヒント: 置換する元のノードの WWNN を置換用ノードの出荷時のデフォルト WWNN に変更すると、番号を確実に固有なものにすることができます。

5. この作業時に、ノード ID が変更され、ノード名も変更される可能性があります。システムがノード ID を割り当てた後は、この ID を変更できません。ただし、ノード名は、この作業の完了後に変更できます。

このタスクについて

システム内のアクティブ・ノードを置換するには、以下の手順を実行します。

手順

1. (システム・ソフトウェアのバージョンが 5.1 以降の場合、以下の手順を実行します。)

どのホストもノードに対して従属関係を持っていないことを確認します。

システムの一部であるノードをシャットダウンするとき、またはシステムからノードを削除するときは、管理 GUIか、コマンド行インターフェース (CLI) コマンドのどちらかを使用することができます。管理 GUIで「モニター」 > 「システム」 > 「管理」を選択します。「従属ボリュームの表示」をクリックして、ノードに従属しているすべてのボリュームを表示します。また、**lsdependentvdisks** CLI コマンドで **node** パラメーターを使用して、従属ボリュームを表示することもできます。

従属ボリュームが存在する場合、そのボリュームが使用中かどうかを調べます。ボリュームが使用中の場合は、冗長構成を復元するか、ホスト・アプリケーションを中断するかのいずれかを行います。従属関係のあるクォーラム・ディスクがレポートされる場合は、クォーラム・ディスクへのアクセスを修復するか、またはクォーラム・ディスク構成を変更します。

2. 以下の手順を使用して、システム構成ノードと、置換する元のノードの ID、名前、入出力グループ ID、および入出力グループ名を判別します。置換する元のノードの物理的な位置が既に分かっている場合は、このステップをスキップして、ステップ 3 (93 ページ) に進むことができます。

ヒント: 取り替えるノードの 1 つがシステム構成ノードの場合、そのノードを最後に取り替えてください。

- a. コマンド行インターフェース (CLI) から以下のコマンドを発行します。

```
lsnode -delim :
```

以下の出力は、このコマンドに対して表示される出力の例を示します。

```
id:name:UPS_serial_number:WWNN:status:I0_group_id:I0_group_name:
config_node:UPS_unique_id:hardware:iscsi_name:iscsi_alias
3:dvt113294:100089J137:5005076801005A07:online:0:io_grp0:yes:
20400002096810C7:8A4:iqn.1986-03.com.ibm:2145.lcluster-80.dvt113294:
14:des113004:10006BR010:5005076801004F0F:online:0:io_grp0:no:
2040000192880040:8G4:iqn.1986-03.com.ibm:2145.lcluster-80.des113004:
```

- b. config_node 欄で、値 yes を見つけ、id と name 欄の値を記録します。
- c. システム内のノードごとに、id 欄および name 欄の値を記録します。
- d. システム内のノードごとに、I0_group_id 欄および I0_group_name 欄の値を記録します。
- e. システム内のノードごとに、CLI から次のコマンドを発行して、フロント・パネル ID を判別します。

```
lsnodevpd node_name or node_id
```

ここで、*node_name or node_id* は、フロント・パネル ID の判別を行う対象のノードの名前または ID です。

- f. front_panel_id 欄の値を記録します。フロント・パネル ID は、各ノードの前面に表示されます。この ID を使用して、置換する元のノード ID またはノード名と一致するノードの物理的な位置を判別できます。
3. 以下の手順を実行して、置換するノードの WWNN または iSCSI 名を記録します。
 - a. CLI から以下のコマンドを発行します。

```
lsnode -delim : node_name or node_id
```

ここで、*node_name or node_id* は、WWNN または iSCSI 名の判別を行う対象ノードの名前または ID です。

- b. 置換したいノードの WWNN または iSCSI 名を記録します。ファイバー・チャンネル・ポートおよびイーサネット・ポートの順序も記録します。
4. CLI から以下のコマンドを発行して、ノードの電源をオフにします。

```
stopssystem -node node_name
```

重要:

- a. ノードの背面からファイバー・チャンネル・ケーブルまたはイーサネット・ケーブルを取り外す前に、ノードのポート番号 (ファイバー・チャンネルの場合はポート 1 から 4、イーサネットの場合はポート 1 から 2) の付いたケーブルの順序を記録し、マークを付けてください。ノードの背面にあるファイバー・チャンネル・ポートには、左から右に 1 から 4 の番号が付けられています。置換用ノードがシステムに追加されるときの問題を避けるために、ケーブルを正確な順序で置換用ノードに再接続する必要があります。ケーブルが同じ順序で接続されない場合、ポート ID が変わる可能性があり、ホストがボリュームにアクセスする機能に影響を与えます。ポートの番号付けを調べるには、ご使用のモデルに固有のハードウェア資料を参照してください。
- b. 置換用ノードを、スイッチまたはディレクターの異なるポートに接続しないでください。SAN ボリューム・コントローラーでは 4 Gbps または 8 Gbps

の HBA を使用できます。ただし、置換用ノードがシステムに追加されるときに生じる問題を避けるために、この時点では、これらのノードをより高速なスイッチ・ポートまたはディレクター・ポートに移動しないでください。この作業は、システム内のノードの置換とは無関係に計画する必要がある別個の作業です。

5. 以下の CLI コマンドを実行して、システムおよび入出力グループからこのノードを削除します。

```
rmnode node_name or node_id
```

node_name or node_id は、削除するノードの名前または ID です。CLI を使用して、削除処理が完了したことを確認することができます。

6. 以下の CLI コマンドを発行して、ノードがシステムのメンバーでなくなっていることを確認します。

```
lsnode
```

ノードのリストが表示されます。除去されたノードがコマンド出力にリストされなくなるまで待ちます。

7. 以下の手順を実行して、システムから削除したばかりのノードの WWNN または iSCSI 名を FFFFF に変更します。

SAN ボリューム・コントローラー V6.1.0 以上の場合:

- a. ノードの電源をオンにします。「クラスター」パネル表示で、「アクション」オプションが表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押します。
 - b. 「選択」ボタンを押して放します。
 - c. 「WWNN の変更?」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押します。
 - d. 「選択」ボタンを押して放し、現行の WWNN を表示します。
 - e. 「選択」ボタンを押して放し、編集モードに切り替えます。「WWNN の編集?」パネルが表示されます。
 - f. WWNN を FFFFF に変更します。
 - g. 「選択」ボタンを押して放し、編集モードを終了します。
 - h. 「右」ボタンを押し、選択を確認します。「WWNN の確認?」パネルが表示されます。
 - i. 「選択」ボタンを押して放し、確認します。
8. 置換用ノードと無停電電源装置 (uninterruptible power supply) をラックに取り付け、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) ケーブルを接続します。ノードと無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の接続方法を判別するには、「*IBM System Storage SAN Volume Controller Model 2145-XXX ハードウェアの取り付けガイド*」を参照してください。

重要: このステップでは、ファイバー・チャンネル・ケーブルまたはイーサネット・ケーブルを接続しないでください。
 9. 古いノードから SSD を取り外し、それを新しいノードに挿入する場合は、具体的な指示について「*IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラーハードウェア・メンテナンス・ガイド*」を参照してください。
 10. 置換用ノードの電源をオンにします。

11. 置換用ノードの WWNN を記録します。置換される元のノードを再利用する計画の場合は、この名前を使用できます。
12. 以下の手順を実行して、ステップ 3 (93 ページ) で記録した WWNN 名に一致するように、置換用ノードの WWNN を変更します。

SAN ボリューム・コントローラー V6.1.0 以上の場合:

- a. 「クラスター」パネル表示で、「アクション」オプションが表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押します。
- b. 選択ボタンを押して放します。
- c. 「WWNN の変更?」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押します。
- d. 「選択」ボタンを押して放し、現行の WWNN を表示します。
- e. 「選択」ボタンを押し、編集モードに切り替えます。「WWNN の編集?」パネルが表示されます。
- f. WWNN をステップ 3 (93 ページ) で記録した数値に変更します。
- g. 「選択」ボタンを押して放し、編集モードを終了します。
- h. 「右」ボタンを押し、選択を確認します。「WWNN の確認?」パネルが表示されます。
- i. 「選択」ボタンを押して、確認します。

1 分間待機します。「クラスター: (Cluster:)」がフロント・パネルに表示された場合、ノードがシステムに追加される準備ができていることを示します。「クラスター: (Cluster:)」が表示されない場合、トラブルシューティング情報を参照してこの問題の処理方法を判別するか、または IBM サポートに問い合わせるまで、次のステップに進んでください。

13. ステップ 4 (93 ページ) で元のノードについて記録したのと同じポート番号に、ファイバー・チャネル・ケーブルまたはイーサネット・ケーブルを接続します。
14. 以下の CLI コマンドを実行して、WWNN の最後の 5 文字が正しいことを確認してください。

```
l1nodecandidate
```

重要: WWNN が、ステップ 3 (93 ページ) で記録したものでない場合は、ステップ 12 を繰り返す必要があります。

15. 次の CLI コマンドを発行して、システムにノードを追加し、ノードが元のノードと同じ名前であり、元のノードと同じ入出力グループ内にあることを確認します。詳しくは、**addnode** CLI コマンドの資料を参照してください。

```
addnode -wwnodename WWNN -iogrp iogroupname/id
```

WWNN および *iogroupname/id* は、元のノードについて記録した値です。

SAN ボリューム・コントローラー V5.1 以降は、最初に使用された名前を使って自動的にノードを再割り当てします。V5.1 よりも前のバージョンの場合、**svctask addnode** コマンドで **name** パラメーターを指定して名前を割り当てます。元のノードの名前が SAN ボリューム・コントローラーによって自動的に割り当てられた場合、同じ名前を再利用することはできません。その名前の先

頭が node である場合、自動的に割り当てられています。この場合は、先頭が node でない別の名前を指定するか、または SAN ボリューム・コントローラーが新しい名前をノードに自動的に割り当てるようにするために、**name** パラメーターを使用しないでください。

必要であれば、新しいノードはシステムと同じ SAN ボリューム・コントローラーのソフトウェアのバージョンに更新されます。この更新には、最大で 20 分かかることがあります。

重要:

- a. 入出力グループの両方のノードがデータをキャッシュに入れます。ただし、キャッシュ・サイズは非対称です。入出力グループ内のパートナー・ノードのキャッシュ・サイズにより置換ノードは制限されます。したがって、入出力グループの他方のノードを置換するまでは、置換ノードは全キャッシュ・サイズを使用しない可能性があります。
 - b. 置換ノードは、前のノードと同じ WWNN および WWPN を使用するため、ホスト・マルチパス・デバイス・ドライバーを再構成する必要はありません。マルチパス・デバイス・ドライバーは、置換ノードに対して使用可能なパスの回復を検出することになります。
 - c. ホスト・マルチパス・デバイス・ドライバーがパスを回復するのに、約 30 分かかります。入出力グループ内の最初のノードを正常にアップグレードしてから少なくとも 30 分間、入出力グループ内のもう一方のノードをアップグレードしないでください。別の入出力グループ内の他のノードをアップグレードする必要がある場合、この待機中にそれらのアップグレードを実行できます。
16. 次のステップに進む前に、パスを照会してすべてのパスが回復されていることを確認してください。IBM System Storage マルチパス・サブシステム・デバイス・ドライバー (SDD) を使用する場合、パスを照会するコマンドは **datapath query device** です。パスを照会する方法については、マルチパス・デバイス・ドライバーに付属の資料に記載されています。
17. 障害のあるノードを修復する。

修復したノードを予備ノードとして使用したい場合は、以下の手順を実行します。

SAN ボリューム・コントローラー V6.1.0 以上の場合:

- a. 「クラスター」パネル表示で、「アクション」オプションが表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押します。
- b. 「選択」ボタンを押して放します。
- c. 「WWNN の変更?」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押します。
- d. 「選択」ボタンを押して放し、現行の WWNN を表示します。
- e. 「選択」ボタンを押して放し、編集モードに切り替えます。「WWNN の編集?」パネルが表示されます。
- f. WWNN を 00000 に変更します。
- g. 「選択」ボタンを押して放し、編集モードを終了します。

- h. 「右」ボタンを押し、選択を確認します。「WWNN の確認?」パネルが表示されます。
- i. 「選択」ボタンを押して放し、確認します。

これで、このノードは、予備ノードとして使用できるようになりました。

- 18. 置換したい各ノードに対して、ステップ 3 (93 ページ) から 17 (96 ページ) まで繰り返します。

第 5 章 重要製品データの表示

重要製品データ (VPD) は、SAN ボリューム・コントローラーの各エレメントを一意的に記録する情報です。このデータは、構成が変更されるとシステムが自動的に更新します。

VPD は次のタイプの情報をリストします。

- ソフトウェアのバージョン、ストレージ・プール内のスペース、およびボリュームに割り振られたスペースなどの、システムに関連した値。
- 各ノードに取り付けられている特定ハードウェアを含む、ノードに関連した値。例えば、システム・ボードの FRU 部品番号や、インストールされている BIOS ファームウェアのレベルがあります。ノードの VPD はシステムによって保持されるので、電源がオフになっているノードの大部分の VPD を取得することが可能になります。

異なるセットのコマンドを使用して、システムの VPD とノードの VPD を表示できます。管理 GUI を使用して VPD を表示することもできます。

管理 GUI を使用した重要製品データの表示

ノードの重要製品データは、管理 GUI から表示することができます。

このタスクについて

ノードの重要製品データを表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「ホーム」から「システム状況」をクリックします。
2. 詳細情報を表示したいノードを選択します。
3. データを表示するには、「VPD」をクリックします。

CLI を使用した重要製品データの表示

コマンド行インターフェース (CLI) を使用して SAN ボリューム・コントローラーのシステムまたはノードの重要製品データ (VPD) を表示することができます。

次の CLI コマンドを発行して、VPD を表示します。

```
sainfo lsservicestatus
lsnodehw
lsnodevpd nodename
lssystem system_name
lssystemip
lsdrive
```

注: SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4、2145-8G4、および 2145-8F4 の各ノードの場合、**lsnodevpd nodename** コマンドは、ファイバー・チャンネル・カードの装置シリアル番号を「N/A」として表示します。

CLI を使用したノード・プロパティの表示

コマンド行インターフェース (CLI) を使用して、ノード・プロパティを表示できます。

このタスクについて

以下の手順を実行してノード・プロパティを表示します。

手順

1. **lsnode** CLI コマンドを発行して、システム内のノードの要約リストを表示します。

以下に、システム内のノードをリストする際に発行できる CLI コマンドの例を示します。

```
lsnode -delim :
```

以下に、表示される出力の例を示します。

```
id:name:UPS_serial_number:WWNN:status:IO_group_id:IO_group_name:config_node:UPS_unique_id:hardware:iscsi_name:iscsi_alias:
panel_name:enclosure_id:canister_id:enclosure_serial_number
1:node1:UPS_Fake_SN:50050768010050B1:online:0:io_grp0:yes:10000000000050B1:8G4:iqn.1986-03.com.ibm:2145.cluster0.node1:000368:::
```

2. **lsnode** CLI コマンドを発行し、明細出力を受け取らせるノードのノード ID または名前を指定する。

以下に、システム内のノードの明細出力をリストする際に発行できる CLI コマンドの例を示します。

```
lsnode -delim : group1node1
```

ここで、*group1node1* は、明細出力を表示するノードの名前です。

以下に、表示される出力の例を示します。

```
id:1
name:group1node1
UPS_serial_number:10L3ASH
WWNN:500507680100002C
status:online
IO_group_id:0
IO_group_name:io_grp0
partner_node_id:2
partner_node_name:group1node2
config_node:yes
UPS_unique_id:202378101C0D18D8
port_id:500507680110002C
port_status:active
port_speed:2GB
port_id:500507680120002C
port_status:active
port_speed:2GB
port_id:500507680130002C
port_status:active
port_speed:2GB
port_id:500507680140003C
port_status:active
port_speed:2GB
hardware:8A4
iscsi_name:iqn.1986-03.com.ibm:2145.ndihill.node2
iscsi_alias
failover_active:no
failover_name:node1
failover_iscsi_name:iqn.1986-03.com.ibm:2145.ndihill.node1
failover_iscsi_alias
```

CLI を使用したクラスター化システム・プロパティの表示

コマンド行インターフェース (CLI) を使用して、クラスター化システムのプロパティを表示できます。

このタスクについて

以下の手順を実行して、クラスター化システムのプロパティを表示します。

手順

lssystem コマンドを発行して、クラスター化システムのプロパティを表示します。

以下に、発行できるコマンドの例を示します。

```
lssystem -delim : build1
```

ここで、*build1* はクラスター化システムの名前です。

タスクの結果

```
id:000002007A00A0FE
name:build1
location:local
partnership:
bandwidth:
total_mdisk_capacity:90.7GB
space_in_mdisk_grps:90.7GB
space_allocated_to_vdisks:14.99GB
total_free_space:75.7GB
statistics_status:on
statistics_frequency:15
required_memory:0
cluster_locale:en_US
time_zone:522 UTC
code_level:6.1.0.0 (build 47.3.1009031000)
FC_port_speed:2Gb
console_IP:9.71.46.186:443
id_alias:000002007A00A0FE
gm_link_tolerance:300
gm_inter_cluster_delay_simulation:0
gm_intra_cluster_delay_simulation:0
email_reply:
email_contact:
email_contact_primary:
email_contact_alternate:
email_contact_location:
email_state:stopped
inventory_mail_interval:0
total_vdiskcopy_capacity:15.71GB
total_used_capacity:13.78GB
total_overallocation:17
total_vdisk_capacity:11.72GB
cluster_ntp_IP_address:
cluster_isns_IP_address:
iscsi_auth_method:none
iscsi_chap_secret:
auth_service_configured:no
auth_service_enabled:no
auth_service_url:
auth_service_user_name:
auth_service_pwd_set:no
auth_service_cert_set:no
relationship_bandwidth_limit:25
gm_max_host_delay:5
tier:generic_ssd
tier_capacity:0.00MB
tier_free_capacity:0.00MB
tier:generic_hdd
tier_capacity:90.67GB
tier_free_capacity:75.34GB
email_contact2:
email_contact2_primary:
email_contact2_alternate:
total_allocated_extent_capacity:16.12GB
```

ノード VPD のフィールド

ノードの重要製品データ (VPD) は、システム・ボード、プロセッサ、ファン、メモリー・モジュール、アダプター、装置、ソフトウェア、フロント・パネル・アセンブリー、無停電電源装置 (uninterruptible power supply)、SAS ソリッド・ステート・ドライブ (SSD)、および SAS ホスト・バス・アダプター (HBA) などの項目に関する情報を提供します。

103 ページの表 27 に、システム・ボードで使用されるフィールドを示します。

表 27. システム・ボードのフィールド

項目	フィールド名
システム・ボード	部品番号
	システム・シリアル番号
	プロセッサの数
	メモリー・スロットの数
	ファンの数
	ファイバー・チャンネル・アダプターの数
	SCSI、IDE、SATA、または SAS 装置の数 注: サービス・コントローラーは、1 つの装置です。
	電源機構の数
	高速 SAS アダプターの数
	BIOS メーカー
	BIOS バージョン
	BIOS リリース日
	システム・メーカー
	システム・プロダクト
	プレーナー・メーカー
	電源機構の部品番号
	CMOS バッテリーの部品番号
	電源ケーブル・アセンブリーの部品番号
サービス・プロセッサ・ファームウェア	
SAS コントローラーの部品番号	

表 28 に、インストール済みのプロセッサごとに表示されるフィールドを示します。

表 28. プロセッサのフィールド

項目	フィールド名
プロセッサ	部品番号
	プロセッサの位置
	メーカー
	バージョン
	速度
	状況
	プロセッサのシリアル番号

104 ページの表 29 に、取り付けられたファンごとに表示されるフィールドを示します。

表 29. ファンのフィールド

項目	フィールド名
ファン	部品番号
	位置

表 30 に、取り付けられたメモリー・モジュールごとに繰り返されるフィールドを示します。

表 30. 取り付けられたメモリー・モジュールごとに繰り返されるフィールド

項目	フィールド名
メモリー・モジュール	部品番号
	装置の位置
	バンクの位置
	サイズ (MB)
	製造元 (可能な場合)
	シリアル番号 (可能な場合)

表 31 に、取り付けられたアダプター・カードごとに繰り返されるフィールドを示します。

表 31. 取り付けられたアダプターごとに繰り返されるフィールド

項目	フィールド名
アダプター	アダプター・タイプ
	部品番号
	ポート番号
	位置
	装置のシリアル番号
	メーカー
	装置
	カードの改訂
	チップの改訂

105 ページの表 32 に、取り付けられた装置ごとに繰り返されるフィールドを示します。

表 32. 取り付けられた SCSI、IDE、SATA、および SAS 装置ごとに繰り返されるフィールド

項目	フィールド名
装置	部品番号
	バス
	装置
	モデル
	改訂
	シリアル番号
	概算容量
	ハードウェアの改訂
	メーカー

表 33 に、ノード・ソフトウェアに固有のフィールドを示します。

表 33. ノード・ソフトウェアに固有のフィールド

項目	フィールド名
ソフトウェア	コード・レベル
	ノード名
	ワールドワイド・ノード名
	ID
	このノードのダンプ・ファイル名で使用されている固有のストリング

表 34 に、フロント・パネル・アセンブリーで使用されるフィールドを示します。

表 34. フロント・パネル・アセンブリーで使用されるフィールド

項目	フィールド名
フロント・パネル	部品番号
	フロント・パネル ID
	フロント・パネル・ロケール

表 35 に、イーサネット・ポートで使用されるフィールドを示します。

表 35. イーサネット・ポートで使用されるフィールド

項目	フィールド名
イーサネット・ポート	ポート番号
	イーサネット・ポート状況
	MAC アドレス
	サポートされる速度

106 ページの表 36 に、ノード内の電源機構で使用されるフィールドを示します。

表 36. ノード内の電源機構で使用されるフィールド

項目	フィールド名
電源機構	部品番号
	位置

表 37 は、ノードに電源を供給している無停電電源装置 (uninterruptible power supply)アセンブリー用のフィールドを示しています。

表 37. ノードに給電する無停電電源装置 (uninterruptible power supply)アセンブリーで使用されるフィールド

項目	フィールド名
無停電電源装置	電子部品アセンブリーの部品番号
	バッテリーの部品番号
	フレーム・アセンブリーの部品番号
	入力電源ケーブルの部品番号
	UPS シリアル番号
	UPS タイプ
	UPS 内部部品番号
	UPS 固有 ID
	UPS メイン・ファームウェア
	UPS 通信ファームウェア

表 38 に、SAS ホスト・バス・アダプター (HBA) で使用されるフィールドを示します。

表 38. SAS ホスト・バス・アダプター (HBA) で使用されるフィールド

項目	フィールド名
SAS HBA	部品番号
	ポート番号
	装置のシリアル番号
	メーカー
	装置
	カードの改訂
	チップの改訂

107 ページの表 39 に、SAS ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) で使用されるフィールドを示します。

表 39. SAS ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) で使用されるフィールド

項目	フィールド名
SAS SSD	部品番号
	メーカー
	装置のシリアル番号
	モデル
	タイプ
	UID
	ファームウェア
	スロット
	FPGA ファームウェア
	速度
	容量
	拡張トレイ
	接続タイプ

表 40 は、small form factor pluggable (SFP) トランシーバーのために提供されるフィールドを示します。

表 40. small form factor pluggable (SFP) トランシーバーのために提供されるフィールド

項目	フィールド名
Small form factor pluggable (SFP) トランシーバー	部品番号
	メーカー
	装置
	シリアル番号
	サポートされる速度
	コネクタ・タイプ
	送信側タイプ
	波長
	ケーブル・タイプ別の最大距離
	ハードウェアの改訂
	ポート番号
	ワールドワイド・ポート名

システム VPD のフィールド

システムの重要製品データ (VPD) は、システムに関するさまざまな情報を提供し、これには、システムの ID、名前、ロケーション、IP アドレス、E メール連絡先、コード・レベル、およびフリー・スペースの合計が含まれます。

108 ページの表 41 に、管理 GUIによって表示されるシステムのプロパティについて提供されるフィールドを示します。

表 41. システムのプロパティーのために提供されるフィールド

項目	フィールド名
一般	ID 注: これはシステムの固有 ID です。
	名前
	位置
	時間帯
	必要なメモリー量
	ライセンス交付を受けたコードのバージョン
	チャンネル・ポート速度 注: このフィールドは、システム内の非ネゴシエーション・ノード (例えば、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2) が稼働する速度を示します。速度のネゴシエーションに対応できるその他のモデルはすべて、このフィールドで示された速度値の影響を受けません。
IP アドレス ¹	イーサネット・ポート 1 (IPv4 と IPv6 の両方の属性) <ul style="list-style-type: none"> • IP アドレス • サービス IP アドレス • サブネット・マスク • 接頭部 • デフォルト・ゲートウェイ
	イーサネット・ポート 2 (IPv4 と IPv6 の両方の属性) <ul style="list-style-type: none"> • IP アドレス • サービス IP アドレス • サブネット・マスク • 接頭部 • デフォルト・ゲートウェイ
リモート認証	リモート認証
	Web アドレス
	ユーザー名
	パスワード
	SSL 証明書
スペース	mdisk 容量の合計
	ストレージ・プール内のスペース
	ボリュームに割り振られたスペース
	フリー・スペースの合計
	使用済み容量の合計
	割り振りの合計
	ボリューム・コピー容量の合計
	ボリューム容量の合計
統計	統計の状況
	統計の頻度

表 41. システムのプロパティのために提供されるフィールド (続き)

項目	フィールド名
メトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー	リンク許容度
	システム間遅延シミュレーション
	システム内遅延シミュレーション
	協力関係
	帯域幅
E メール	SMTP E メール・サーバー
	E メール・サーバーのポート
	返信 E メール・アドレス
	連絡先の名前
	主たる連絡先の電話番号
	代替連絡先の電話番号
	システム・レポート・エラーの物理ロケーション
	E メール状況
	インベントリー E メール間隔
	iSCSI
サポートされる認証方式	
CHAP シークレット	
¹ lssystemip CLI コマンドを使用してこのデータを表示することもできます。	

第 6 章 SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネルの使用

SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネルには、SAN ボリューム・コントローラー・ノードの保守時に使用される、ディスプレイ、各種 LED、ナビゲーション・ボタン、および選択ボタンがあります。

図 54 は、SAN ボリューム・コントローラー・ノード上のフロント・パネル・ディスプレイ **1** の位置を示しています。

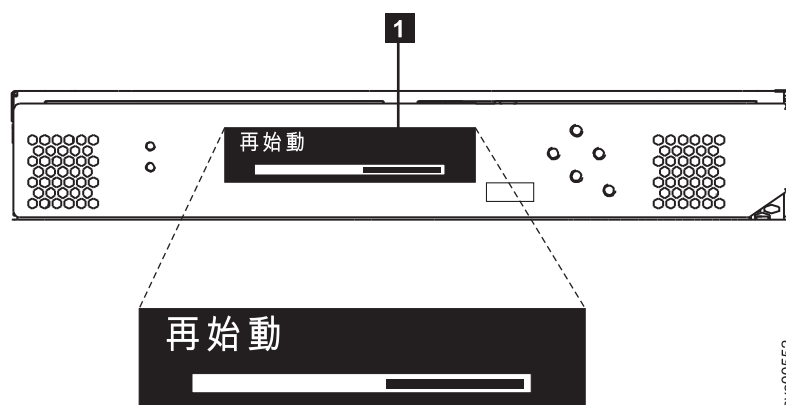


図 54. SAN ボリューム・コントローラー のフロント・パネル・アセンブリー

ブート進行インディケータ

ブート進行は、SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネルに表示されます。

フロント・パネル上のブート進行表示は、そのノードが始動中であることを示します。



図 55. ブート進行表示の例

ブート操作の際は、ブート進行コードが表示され、ブート操作が進むにつれて進行状況表示バーが右に移動します。

ブート障害

ブート操作で障害が起こると、ブート・コード 120 が表示されます。

失敗

180

『エラー・コード・リファレンス』トピックを参照してください。ここでは、障害の説明およびその障害を修正するために実行する必要がある適切な手順を見つけることができます。

充電

フロント・パネルに、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) バッテリーが充電中であることが表示されます。

充電中

電源障害を管理するための無停電電源装置 (uninterruptible power supply) バッテリーが電力不足である場合、ノードが始動せずシステムに結合しません。その場合は、「充電中 (Charging)」が表示されます。この表示はノードが安全に始動できる状態になるまで続きます。これは最長 2 時間かかることがあります。

エラー・コード

エラー・コードは、フロント・パネルに表示されます。

図 56 と図 57 は、エラー・コードがフロント・パネルにどのように表示されるかを示しています。

A photograph of a digital display showing the text "Cluster Error: 1001". The display is black with white text. A vertical label "svc00433" is positioned to the right of the display.

図 56. クラスター化システムのエラー・コードの例

A photograph of a digital display showing the text "Node Error: 564". The display is black with white text. A vertical label "svc00434" is positioned to the right of the display.

図 57. ノード・エラー・コードの例

フロント・パネル・ディスプレイに表示されるエラー・コードについては、各種のエラー・コード・トピック に、障害の詳しい記述と、障害を訂正するために実行する必要のある処置についての説明があります。

ハードウェア・ブート

ハードウェア・ブート表示では、ノードがブート対象のディスク・ドライブを検索するときに電源が最初にノードに適用されるシステム・データが示されます。



3 分を超えてもこの表示がアクティブのままである場合は、問題が起きている可能性があります。原因としては、ハードウェア障害、あるいはハード・ディスク・ドライブ上のソフトウェアの欠落または損傷が考えられます。

ノード・レスキュー要求

ソフトウェアが失われた場合は、ノード・レスキューを使用してすべてのソフトウェアを他のノードからコピーすることができます。

ノード・レスキュー要求の表示 (図 58 を参照) は、このノード上のソフトウェアを交換する要求が出されたことを示します。SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアは、すべての SAN ボリューム・コントローラー・ノードにプリインストールされています。このソフトウェアには、オペレーティング・システム、アプリケーション・ソフトウェア、および SAN ボリューム・コントローラーの資料が含まれています。通常は、ノード上のソフトウェアの交換は必要ありません。しかし、ソフトウェアが何らかの理由で失われた場合 (例えば、ノード内のハード・ディスクに障害が起きた場合)、すべてのソフトウェアを同じファイバー・チャンネル・ファブリックに接続された別のノードからコピーすることが可能です。このプロセスは、ノード・レスキュー と呼ばれます。



図 58. ノード・レスキュー要求の表示

電源障害

SAN ボリューム・コントローラー・ノードは無停電電源装置 (uninterruptible power supply)からのバッテリー電源を使用して、自動的にシャットダウンします。

電源障害表示は、主電源が失われたため、SAN ボリューム・コントローラーがバッテリー電源で稼働していることを示しています。入出力操作はすべて停止します。ノードは、システム・メタデータとノード・キャッシュ・データを内部ディスク・ドライブに保存しています。進行状況表示バーがゼロになると、ノードは電源オフされます。

注: 無停電電源装置 (uninterruptible power supply)への入力電源が復元されると、フロント・パネルの電源ボタンを押さなくても、SAN ボリューム・コントローラーは電源オンになります。

電源障害



電源オフ

表示の進行状況表示バーは、電源オフ操作の進行を示します。

電源ボタンが押された後、ノードが電源オフ中の間、「電源オフ中 (Powering Off)」が表示されます。電源オフには、数分かかることがあります。

電源オフ



電源が除去されると、進行状況表示バーは左へ移動します。

リカバリー

フロント・パネルに、無停電電源装置 (uninterruptible power supply)のバッテリーが十分に充電されていないことが表示されます。

リカバリー中

svc00305

システム内のノードはアクティブであるが、無停電電源装置 (uninterruptible power supply)のバッテリーが十分に充電されていない場合、「リカバリー中」と表示されます。このメッセージの表示中に電源障害が起きた場合、次に発生する可能性のある電源障害に耐え得るレベルに無停電電源装置 (uninterruptible power supply)の充電が完了するまでは、ノードは再始動されません。

再始動

フロント・パネルは、ノード上のソフトウェアが再始動することを示します。

再始動



以下のいずれかの理由で、ソフトウェアが再始動されます。

- 内部エラーが検出された。
- ノードの電源オフ中に電源ボタンが再び押された。

電源オフ中に電源ボタンを押すと、パネルの表示が変更されて、ボタンが押されたのを検出したことを示します。ただし、ノードがデータの保存を終了するまで、電源オフが続行されます。データが保存されると、ノードは電源オフされ、その後で自動的に再始動します。ノードの再始動中、進行状況表示バーは右へ移動します。

シャットダウン

フロント・パネル・インディケータは、シャットダウン操作をトラッキングします。

「シャットダウン」ディスプレイが表示されるのは、SAN ボリューム・コントローラーのクラスター化システムまたは SAN ボリューム・コントローラー・ノードにシャットダウン・コマンドを出した場合です。進行状況表示バーは、ノードの電源がオフになるまで、左に動き続けます。

シャットダウン操作が完了すると、ノードの電源がオフになります。2145 UPS-1U に接続されているノードの電源をオフにすると、ノードのみがシャットダウンします。2145 UPS-1U はシャットダウンしません。

シャットダウン中



「WWNN の検証？」オプション

サービス・コントローラーに保管されているワールドワイド・ノード名 WWNN (パネル WWNN) が SAN ボリューム・コントローラー・ディスクにバックアップされている WWNN (ディスク WWNN) と一致しない場合、フロント・パネルは WWNN の検証を求めるプロンプトを出します。

一般に、このパネルはサービス・コントローラーが交換されたときに表示されます。SAN ボリューム・コントローラーは、サービス・コントローラーに保管されている WWNN を使用します。通常、サービス・コントローラーを交換した場合は、交換後のサービス・コントローラーに保管されている WWNN を変更して、交換前のサービス・コントローラー上の WWNN に一致させます。これを行うことにより、ノードの WWNN アドレスが維持され、SAN ゾーニングまたはホスト構成を変更する必要がなくなります。ディスクに保管されている WWNN は、古いサービス・コントローラーに保管されていたものと同じです。

このモードになった後は、WWNN が検証されるまで、フロント・パネル・ディスプレイは通常が表示 (ノードまたはクラスター (システム) オプション、あるいは操作状況) には戻りません。「WWNN の検証」オプションをナビゲートして (図 59 を参照)、使用する WWNN を選択します。

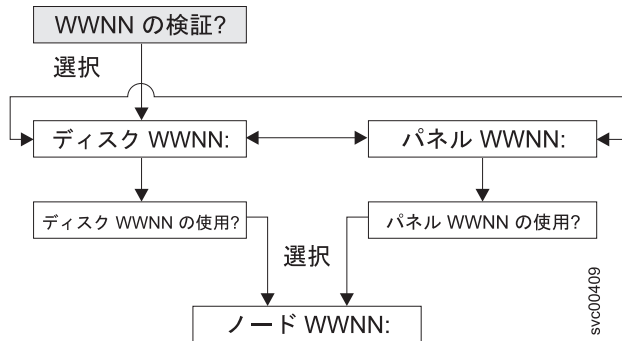


図 59. 「WWNN の検証?」ナビゲーション

このノードが使用対象とする格納済み WWNN を選択するには、次のステップを実行します。

1. 「WWNN の検証?」パネルから、「選択」ボタンを押して放します。「ディスク WWNN: (Disk WWNN:)」パネルは表示され、ディスクに格納されている WWNN の最後の 5 桁の番号が表示されます。
2. サービス・コントローラーに格納されている WWNN を表示するには、右ボタンを押して放します。「パネル WWNN: (Panel WWNN:)」パネルは表示され、サービス・コントローラーに格納されている WWNN の最後の 5 桁の番号が表示されます。
3. 使用したい WWNN を判別する。
 - a. ディスクに格納されている WWNN を使用するには、以下のステップを実行します。
 - 1) 「ディスク WWNN: (Disk WWNN:)」パネルから、ボタンを押して放します。「ディスク WWNN を使用しますか ? (Use Disk WWNN?)」パネルが表示されます。
 - 2) 「選択」ボタンを押して放します。
 - b. サービス・コントローラーに格納されている WWNN を使用するには、以下のステップを実行します。
 - 1) 「パネル WWNN: (Panel WWNN:)」パネルから、ボタンを押して放します。「パネル WWNN を使用しますか ? (Use Panel WWNN?)」パネルが表示されます。
 - 2) 「選択」ボタンを押して放します。

ノードは、選択された WWNN を現在使用中です。「ノードの WWNN:」パネルが表示され、ユーザーが選択した WWNN の最後の 5 桁の番号が表示されます。

サービス・コントローラー・パネルとディスクに保管されている WWNN がいずれも適切でない場合、WWNN を変更する前にノードを再起動する必要があります。ノードが再起動されたら、「**WWNN の変更**」を選択して WWNN を目的に値に変更します。

SAN ボリューム・コントローラー・メニュー・オプション

通常操作時には、SAN ボリューム・コントローラー・ノードのフロント・パネル・ディスプレイでメニュー・オプションを使用できます。

メニュー・オプションを使用して、クラスター化システム、ノード、および外部インターフェースの操作状況を検討できます。これらのオプションは、ノードの保守に使用するツールおよび操作へのアクセスを提供します。

118 ページの図 60 に、メニュー・オプションのシーケンスを示します。フロント・パネル・ディスプレイには、一度に 1 つのオプションだけが表示されます。オプションによっては、追加のデータが 2 行目に表示されます。最初に表示されるオプションは、「**クラスター:**」オプションです。

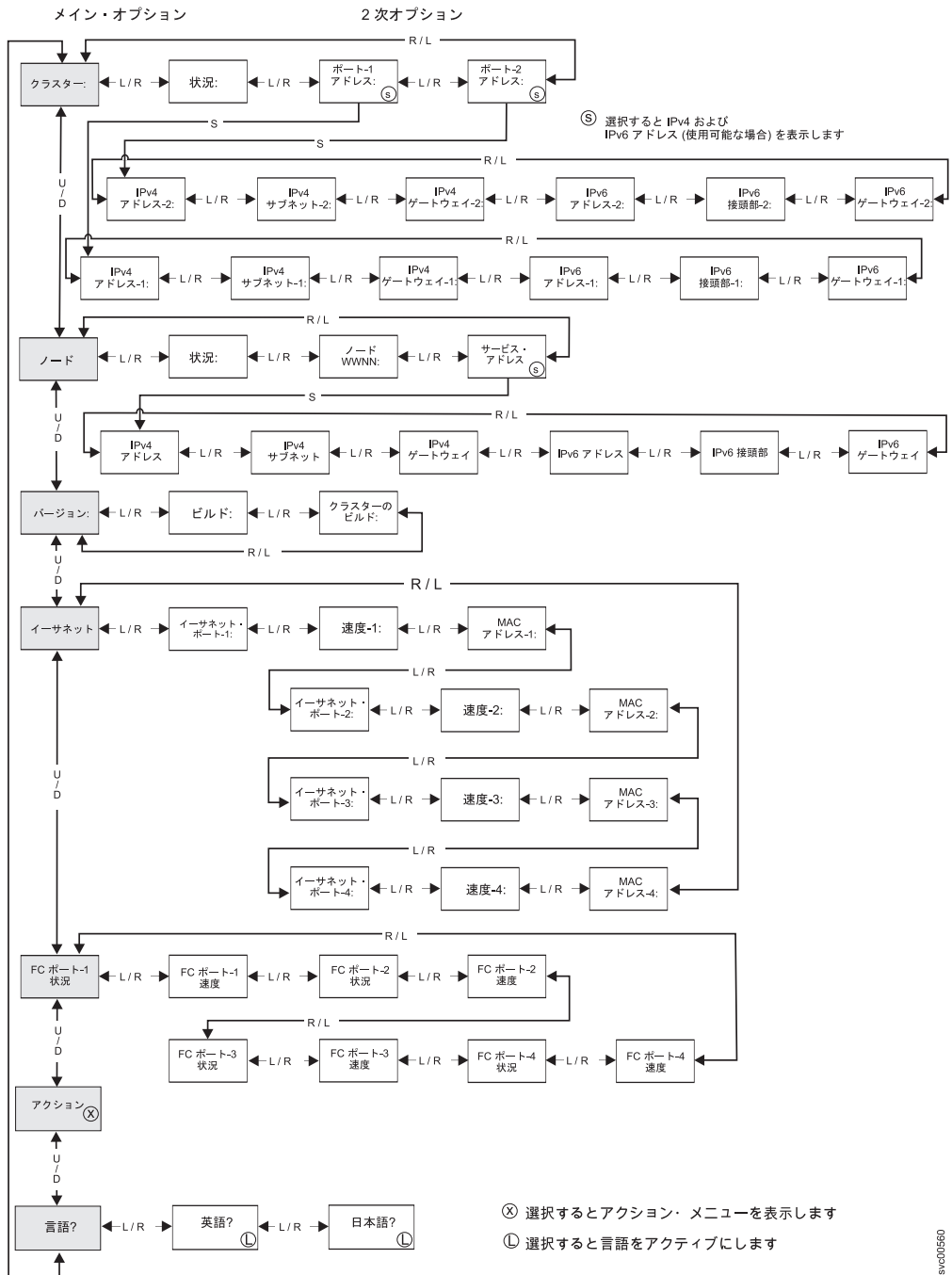


図 60. フロント・パネル・ディスプレイでの SAN ボリューム・コントローラーのオプション

左移動ボタンおよび右移動ボタンを使用して、いくつかのメイン・フィールドに関連付けられた 2 次フィールドをナビゲートします。

注: メッセージが画面上に完全に表示されないことがあります。表示画面の右側に右不等号括弧 (>) が表示されることもあります。右不等号括弧が表示された場合は、右移動ボタンを押して画面をスクロールしてください。表示するテキストがなくなったら、右移動ボタンを押して、メニュー内の次の項目へ移動することができます。

同様に、表示画面の左側に左不等号括弧 (<) が表示されることもあります。左不等号括弧が表示された場合は、左移動ボタンを押して画面をスクロールしてください。表示するテキストがなくなったら、左移動ボタンを押して、メニュー内の前の項目へ移動することができます。

以下のメイン・オプションが選択可能です。

- クラスタ
- ノード
- バージョン
- イーサネット
- FC ポート 1 状況
- アクション
- 言語

クラスタ (システム) オプション

メニューのメイン・クラスタ (システム) ・オプションは、クラスタ名を表示する場合があります、またフィールドがブランクの場合もあります。

メインオプションの「クラスタ (システム)」は、ユーザーが割り当てたシステム名を表示します。ノード上でクラスタ化システムが作成中の場合、あるいはシステム名が割り当てられていない場合、システムの IP アドレスに基づく一時名が表示されます。このノードがシステムに割り当てられていない場合、フィールドはブランクです。

状況オプション

状況 (Status) はフロント・パネルに示されます。

ノードがクラスタ・システムのメンバーでない場合は、このフィールドはブランクです。このノードがクラスタ化システムのメンバーである場合は、このフィールドは次のようにシステムの操作状況を示します。

アクティブ

このノードはシステムのアクティブ・メンバーであることを示します。

非アクティブ

ノードはシステムのメンバーであるが、現在は操作可能でないことを示しています。それが操作可能でない理由は、システム内の他のノードにアクセスできないか、またはこのノードがシステムから除外されているかのいずれかです。

劣化

システムは操作可能であるが、1 つ以上のメンバー・ノードが欠落しているか、障害が起きたことを示しています。

「IPv4 アドレス」オプション

クラスタ化システムは、イーサネット・ポート 1 に割り当てられた IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのいずれか一方、あるいは両方が必要です。イーサネット・ポート 2 にも、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス、あるいはその両方を割り当てることができます。コマンド行ツールまたは 管理 GUI から、どのアドレスを使用してもシステムにアクセスできます。

これらのフィールドには、システムの IPv4 アドレスが入ります。このノードがシステムのメンバーでない場合、または IPv4 アドレスが割り当てられていない場合、これらのフィールドはブランクです。

IPv4 サブネット・オプション:

IPv4 サブネット・マスク・アドレスは、IPv4 アドレスがシステムに割り当てられるときに設定されます。

システムに IPv4 アドレスがある場合、IPv4 サブネット・オプションはサブネット・マスク・アドレスを表示します。ノードがシステムのメンバーでない場合、または IPv4 アドレスが割り当てられていない場合、このフィールドはブランクです。

「IPv4 ゲートウェイ」オプション:

IPv4 ゲートウェイ・アドレスは、システムの作成時に設定されます。

IPv4 ゲートウェイ・オプションは、システムのゲートウェイ・アドレスを表示します。ノードがシステムのメンバーでない場合、または IPv4 アドレスが割り当てられていない場合、このフィールドはブランクです。

「IPv6 アドレス」オプション

クラスター化システムは、イーサネット・ポート 1 に割り当てられた IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのいずれか一方、あるいは両方が必要です。イーサネット・ポート 2 にも、IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス、あるいはその両方を割り当てることができます。コマンド行ツールまたは 管理 GUI から、どのアドレスを使用してもシステムにアクセスできます。

これらのフィールドには、システムの IPv6 アドレスが入ります。ノードがシステムのメンバーでない場合、または IPv6 アドレスが割り当てられていない場合は、これらのフィールドはブランクです。

「IPv6 接頭部」オプション:

IPv6 接頭部は、システムの作成時に設定されます。

IPv6 接頭部オプションは、システムの IPv6 アドレスおよび保守用 IPv6 アドレスのネットワーク接頭部を表示します。接頭部は 0 から 127 の値です。ノードがシステムのメンバーでない場合、または IPv6 アドレスが割り当てられていない場合、ブランク行が表示されます。

「IPv6 ゲートウェイ」オプション:

IPv6 ゲートウェイ・アドレスは、システムの作成時に設定されます。

このオプションは、システムの IPv6 ゲートウェイ・アドレスを表示します。ノードがシステムのメンバーでない場合、または IPv6 アドレスが割り当てられていない場合、ブランク行が表示されます。

IPv6 アドレスの表示

IPv6 アドレスを設定した後、IPv6 アドレスおよび IPv6 ゲートウェイ・アドレスを表示することができます。

IPv6 アドレスおよび IPv6 ゲートウェイ・アドレスは、8 つの (4 桁の) 16 進値であり、4 つのパネルにわたり表示されます。(図 61 を参照)。各パネルには、コロンで区切られる 2 つの 4 桁の値、アドレス全体の中でのアドレス・フィールド位置 (2/4 など)、およびスクロール標識が表示されます。「左」ボタンまたは「右」ボタンを使用してアドレス・パネル間を移動します。

IPv6 Address: FEDC:1234 1/4 >	IPv6 Address: < FEDC:1234 2/4 >	IPv6 Address: < FEDC:1234 3/4 >	IPv6 Address: < FEDC:1234 4/4
----------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	----------------------------------

svc00417

図 61. フロント・パネル・ディスプレイの IPv6 アドレスの表示

ノード・オプション

メインの「ノード」オプションは、識別番号、またはユーザーが名前を割り当てた場合は、ノードの名前を表示します。

状況オプション

ノードの状況がフロント・パネルに示されます。状況は、次のいずれかの状態になります。

アクティブ

ノードは作動可能で、システムに割り当てられており、入出力を実行する準備ができています。

サービス

ノードがシステムの一部として作動するのを妨げるエラーがあります。この状態では、ノードを安全にシャットダウンすることができます。

候補

ノードはシステムに割り当てられておらず、サービス中ではありません。この状態では、ノードを安全にシャットダウンすることができます。

開始

ノードはシステムの一部であり、システムに結合しようとしています。入出力を実行することはできません。

ノード WWNN オプション

ノード WWNN (ワールドワイド・ノード名) オプションは、ノードで使用されている WWNN の最後の 5 桁の 16 進数字を表示します。ノードでは、WWNN の最後の 5 桁のみが変更されます。最初の 11 桁は、常に 50050768010 です。

「サービス・アドレス」オプション

「サービス・アドレス」パネルで「選択」を押すと、サービス・アシスタントおよびサービス CLI へのアクセス用に構成された IP アドレスが表示されます。

バージョン・オプション

バージョン・オプションには、現在ノードでアクティブ状態のSAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアのバージョンを表示します。このバージョンは 4 つのフィールドで構成され、各フィールドはピリオドで区切られます。このフィールドは、バージョン、リリース、モディフィケーション、および修正レベルであり、例えば 6.1.0.0 です。

ビルド・オプション

「ビルド (Build:)」パネルは、現在このノードでアクティブな SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアのレベルを表示します。

「クラスタのビルド」オプション

「クラスタのビルド:」パネルは、このノードが作動しているシステム上で現在アクティブなソフトウェアのレベルを表示します。

イーサネット・オプション

イーサネット・オプションは、イーサネット・ポートの作動状態、速度と二重の情報、およびそのメディア・アクセス制御 (MAC) アドレスを表示します。

「イーサネット」パネルに、以下のいずれかの状態が表示されます。

構成 - はい (Config - Yes)

このノードは構成ノードです。

構成 - いいえ (Config - No)

このノードは構成ノードではありません。

クラスタなし (No Cluster)

このノードはシステムのメンバーではありません。

右移動ボタンを押すと、個々のイーサネット・ポートの詳細が表示されます。

イーサネット・ポート・オプション

イーサネット・ポート・オプションのポート-1 からポート-4 はリンクの状態を表示し、イーサネット・ネットワークとのアクティブ・リンクがあるかどうかを示します。

リンク・オンライン (Link Online)

イーサネット・ケーブルがこのポートに接続されています。

リンク・オフライン (Link Offline)

イーサネット・ケーブルがこのポートに接続されていないか、リンクが失敗しました。

速度オプション

速度オプションの速度-1 から速度-4 は、イーサネット・ポートの速度および二重に関する情報を表示します。速度情報は、次のいずれかの値になります。

10 速度は 10 Mbps です。

100 速度は 100 Mbps です。

- 1 速度は 1 Gbps です。
- 10 速度は 10 Gbps です。

二重情報は、次のいずれかの値になります。

フル データを同時に送受信できます。

半二重 データの送受信は、一度に 1 つの方向に行うことができます。

MAC アドレス・オプション

MAC アドレス・オプションの MAC アドレス-1 から MAC アドレス-4 は、イーサネット・ポートのメディア・アクセス制御 (MAC) アドレスを表示します。

ファイバー・チャンネル・ポート・オプション

ファイバー・チャンネル・ポート-1 からポート-4 オプションは、ファイバー・チャンネル・ポートの操作状況を表示します。

アクティブ

ポートは操作可能で、ファイバー・チャンネル・ファブリックにアクセスできます。

非アクティブ

ポートは操作可能だが、ファイバー・チャンネル・ファブリックにはアクセスできません。次のいずれかの条件により、この結果が生じました。

- ファイバー・チャンネル・ケーブルに障害が起きました。
- ファイバー・チャンネル・ケーブルが取り付けられていません。
- ケーブルのもう一方の端の装置に障害が起きている。

失敗。 ポートが、ハードウェア障害のため操作できません。

未インストール

このポートはインストールされていません。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の場合は、「FC 速度の設定」アクション・オプションを使用して、システムに属していないノードのファイバー・チャンネル・ポート速度を変更することができます。

アクション・オプション

通常操作時には、ノードのフロント・パネル・ディスプレイでアクション・メニュー・オプションを使用できます。フロント・パネルは、保守手順で指示された場合にのみ使用してください。不適切に使用すると、データへのアクセスを失ったり、データ損失が発生する可能性があります。

125 ページの図 62、126 ページの図 63、および 127 ページの図 64 は、アクション・オプションのシーケンスを示しています。この図で、太線は「選択」ボタンが押されたことを示します。薄い線は、ナビゲーション・パス (上移動または下移動、および左または右) を示します。円で囲まれた X は、「選択」ボタンが押された場合に、入力したデータを使用してアクションが実行されることを示します。

フロント・パネル・ディスプレイには、一度に 1 つのアクション・メニュー・オプションのみが表示されます。

注: オプションは、現行のノードの状態に対して有効な場合にのみメニューに表示されます。オプションが有効な場合のリストについては、表 42 を参照してください。

「アクション」メニューから以下のオプションが選択可能です。

表 42. オプションが有効な場合

フロント・パネル・オプション	オプション名	現行のノードの状態に対してオプションが有効な場合
クラスター IPv4	IPv4 管理アドレスを使用したクラスター化システムの作成	候補状態
クラスター IPv6	IPv6 管理アドレスを使用したクラスター化システムの作成	候補状態
サービス IPv4	ノードの IPv4 サービス・アドレスの設定	すべての状態
サービス IPv6	ノードの IPv6 サービス・アドレスの設定	すべての状態
サービス DHCPv4	DHCP IPv4 サービス・アドレスの設定	すべての状態
サービス DHCPv6	DHCP IPv6 サービス・アドレスの設定	すべての状態
WWNN の変更	ノードの WWNN の変更	候補またはサービス状態
サービスの開始	サービス状態の開始	エラー 690 が表示されていないときは常に
サービスの終了	可能な場合、サービス状態の終了	エラー 690 が表示されているときは常に
クラスターのリカバリー	システム構成のリカバリー	候補またはサービス状態
クラスターの除去	システム状態の除去	ノードにクラスター化システム状態が存在するときは常に
ペースに合わせたアップグレード	ユーザーのペースに合わせた CCU の実行	クラスター化システム状態のないサービス中のノード
FC 速度の設定	ファイバー・チャネル速度の設定	SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 上の候補またはサービス状態
パスワードのリセット	パスワードのリセット	アクティブでないか、 resetpassword コマンドが使用可能にされた場合
ノードのレスキュー	ノード・ソフトウェアのレスキュー	すべての状態

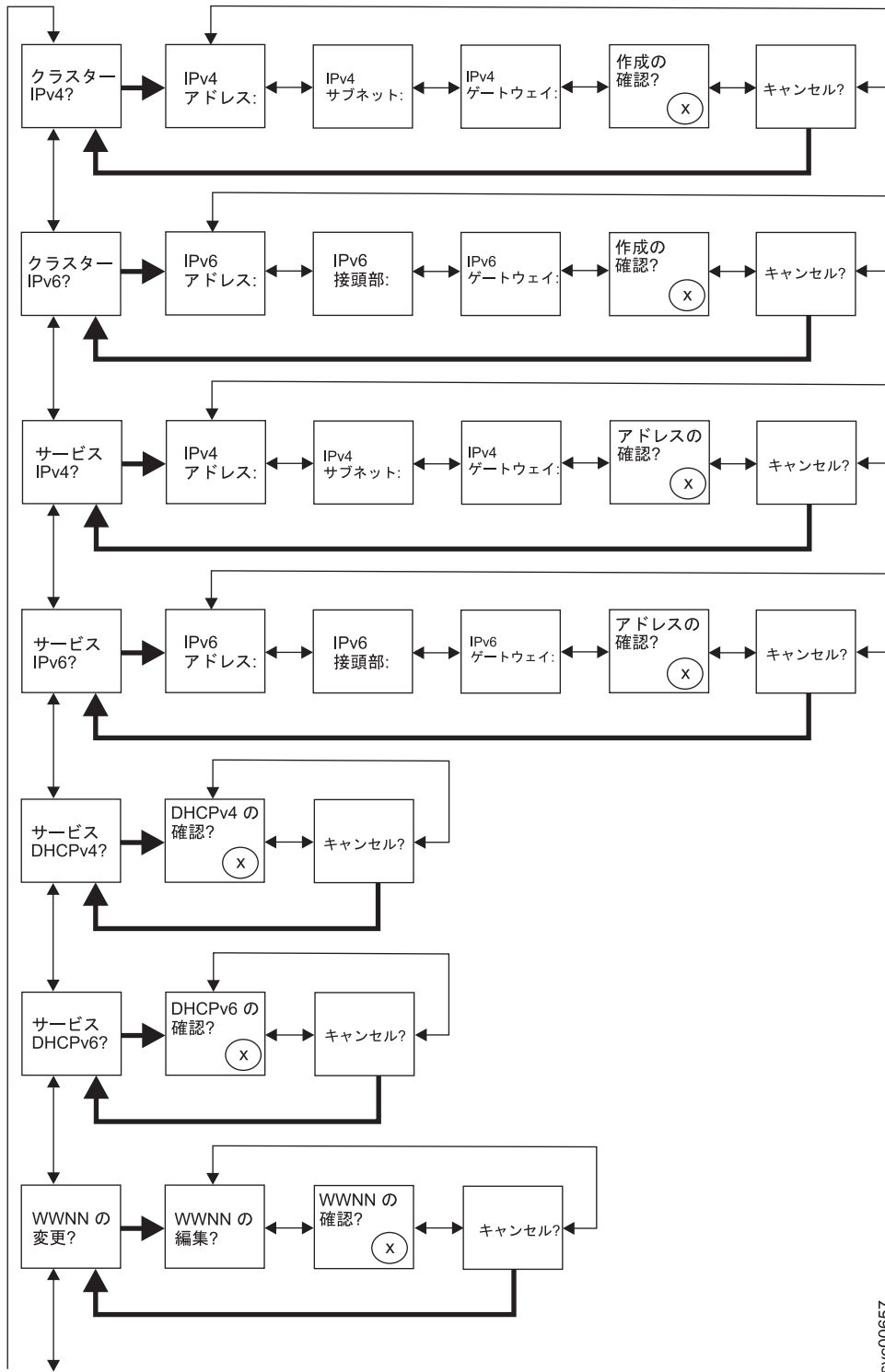


図 62. フロント・パネルのアクション・メニューの上部にあるオプション

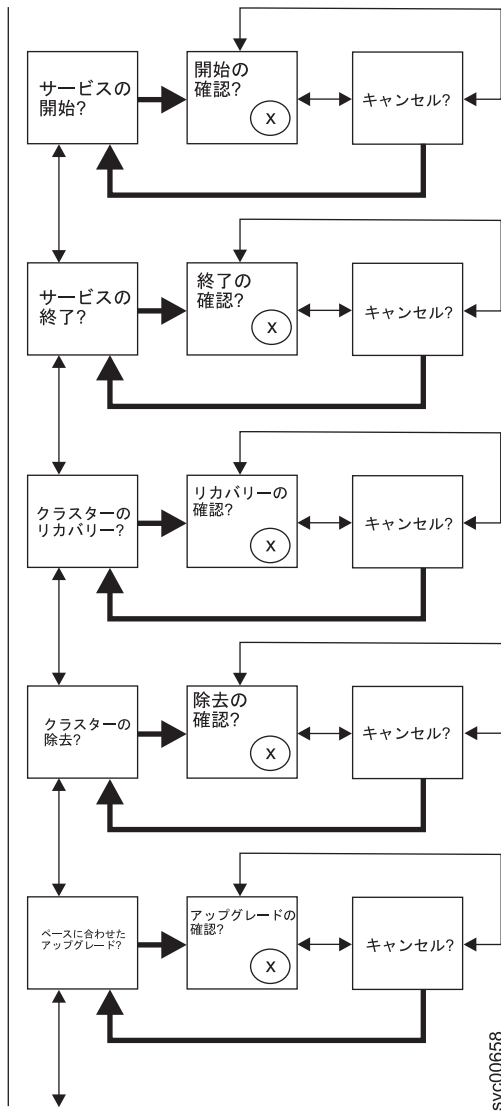
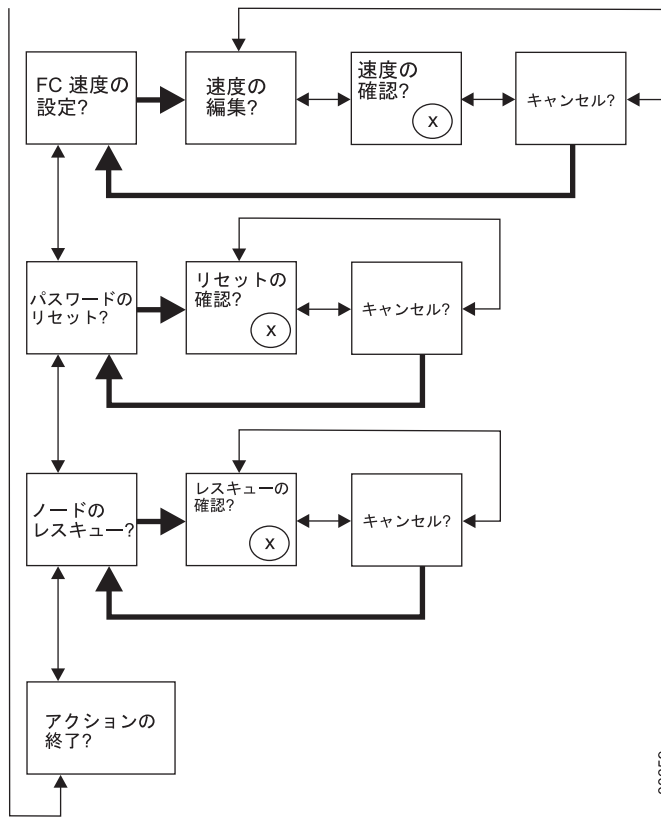


図 63. フロント・パネルのアクション・メニューの中央にあるオプション



svc00650

図 64. フロント・パネルのアクション・メニューの下部にあるオプション

アクションを実行するには、「アクション」オプションにナビゲートして「選択」ボタンを押します。アクションが開始されます。そのアクションで選択可能なパラメーターが表示されます。「左」または「右」ボタンを使用してパラメーター間を移動します。現行の設定が 2 行目に表示されます。

パラメーター値を設定あるいは変更する場合は、そのパラメーターが表示されている画面で「選択」ボタンを押します。値が編集モードに切り替わります。「左」または「右」ボタンを使用してサブフィールド間を移動し、上移動または下移動ボタンを使用してサブフィールドの値を変更します。値を正しく設定したら、「選択」を押して編集モードを終了します。

各アクションには、「確認?」および「キャンセル?」パネルもあります。「確認?」パネルで「選択」を押すと現行のパラメーター値設定を使用してアクションを開始します。「キャンセル?」パネルで「選択」を押すと、ノードを変更せずに「アクション」オプション・パネルに戻ります。

注: メッセージが画面上に完全に表示されないことがあります。表示画面の右側に右不等号括弧 (>) が表示されることもあります。右不等号括弧が表示された場合は、右移動ボタンを押して画面をスクロールしてください。表示するテキストがなくなったら、右移動ボタンを押して、メニュー内の次の項目へ移動することができます。

同様に、表示画面の左側に左不等号括弧 (<) が表示されることもあります。左不等号括弧が表示された場合は、左移動ボタンを押して画面をスクロールしてください。表示するテキストがなくなったら、左移動ボタンを押して、メニュー内の前の項目へ移動することができます。

クラスター IPv4 またはクラスター IPv6 オプション

「クラスター IPv4」または「クラスター IPv6」アクション・オプションから、クラスター化システムを作成することができます。

「クラスター IPv4」または「クラスター IPv6」オプションを使用すると、クラスター化システムを作成することができます。

クラスター化システムの作成時に、フロント・パネルから、イーサネット・ポート 1 に対して IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスのどちらかを設定できます。必要に応じて、管理 GUI または CLI を使用して管理 IP アドレスを追加できます。

上移動および下移動のボタンを押して、「クラスター」オプションに関連付けられているパラメーターをナビゲートします。目的のパラメーターが見つかったら、「選択」ボタンを押します。

使用できるパラメーターには、次のものがあります。

- IPv4 アドレス
- IPv4 サブネット
- IPv4 ゲートウェイ
- IPv4 作成の確認?
- IPv6 アドレス
- IPv6 サブネット
- IPv6 ゲートウェイ
- IPv6 作成の確認?

IPv4 アドレスを使用してクラスター化システムを作成する場合は、以下の手順を実行します。

1. 「アクション?」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。「選択」ボタンを押して放します。
2. 「クラスター IPv4?」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。「選択」ボタンを押して放します。
3. IPv4 アドレス、IPv4 サブネット、および IPv4 ゲートウェイを編集します。
4. 「IPv4 作成の確認?」が表示されるまで、左移動または右移動ボタンを押して放します。
5. 「選択」ボタンを押して放し、確認します。

IPv6 アドレスを使用してクラスター化システムを作成する場合は、以下の手順を実行します。

1. 「アクション?」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。「選択」ボタンを押して放します。
2. 「クラスター Ipv6?」が表示されるまで、右移動または左移動ボタンを押して放します。「選択」ボタンを押して放します。

3. IPv6 アドレス、IPv6 接頭部、および IPv6 ゲートウェイを編集します。
4. 「IPv6 作成の確認?」が表示されるまで、左移動または右移動ボタンを押して放します。
5. 「選択」ボタンを押して放し、確認します。

「IPv4 アドレス」オプション

IPv4 アドレスを使用して、作成しようとするクラスター化システムのイーサネット・ポート 1 に IP アドレスを設定できます。クラスター化システムは IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス、または同時に両方を持つことができます。システムの作成時、フロント・パネルからイーサネット・ポート 1 用の IPv4 管理アドレスまたは IPv6 管理アドレスのいずれかを設定できます。必要な場合、CLI から、さらに管理 IP アドレスを追加できます。

重要: IPv4 アドレスを設定する場合は、必ず正しいアドレスを入力してください。そうしないと、コマンド行ツールまたは 管理 GUI を使用してシステムにアクセスできない可能性があります。

IPv4 アドレスを設定するには以下の手順を実行します。

1. 「IPv4 アドレス」パネルにナビゲートします。
2. 「選択」ボタンを押す。最初の IP アドレス番号が強調表示されます。
3. 強調表示されている値を増したい場合は、「上」ボタンを押す。値を下げたい場合は、「下」ボタンを押してください。強調表示されている値を素早く増加したい場合、「上」ボタンを押したままにします。強調表示されている値を素早く減少したい場合、「下」ボタンを押したままにします。

注: 高速増減機能を使用不可にしたい場合は、「下」ボタンを押したままにし、「選択」ボタンを押して放し、次に「下」ボタンを放します。高速増減機能が使用不可の状態、高速増減機能が無効な状態は、作成が完了するか、この機能が再び使用可能になるまで続きます。この機能が使用不可になっている間に「上」ボタンまたは「下」ボタンを押したままにした場合、値は 2 秒ごとに増加または減少します。高速増減機能を再度使用可能にするには、「上」ボタンを押したままにし、「選択」ボタンを押して放し、次に「上」ボタンを放します。

4. 設定したい番号フィールドに移動するには、「右」または「左」ボタンを押します。
5. 設定したい各番号フィールドに対してステップ 3 およびステップ 4 を繰り返します。
6. 「選択」ボタンを押して、設定値を確認します。 そうしない場合、次の 2 次オプションを表示するには「右」ボタンを押すか、前のオプションを表示するには「左」ボタンを押します。

次の 2 次オプションを表示するには右移動ボタンを押し、前のオプションを表示するには左移動ボタンを押します。

「IPv4 サブネット」オプション

このオプションを使用すると、イーサネット・ポート 1 に IPv4 サブネット・マスクを設定できます。

重要: IPv4 サブネット・マスク・アドレスを設定する場合は、必ず正しいアドレスを入力してください。そうしないと、コマンド行ツールまたは 管理 GUIを使用してシステムにアクセスできない可能性があります。

サブネット・マスクを設定するには、以下の手順を実行します。

1. 「IPv4 サブネット」パネルにナビゲートします。
2. 「選択」ボタンを押す。最初のサブネット・マスク番号が強調表示されます。
3. 強調表示されている値を増したい場合は、「上」ボタンを押す。値を下げたい場合は、「下」ボタンを押してください。強調表示されている値を素早く増加したい場合、「上」ボタンを押したままにします。強調表示されている値を素早く減少したい場合、「下」ボタンを押したままにします。

注: 高速増減機能を使用不可にしたい場合は、「下」ボタンを押したままにし、「選択」ボタンを押して放し、次に「下」ボタンを放します。高速増減機能が使用不可の状態、高速増減機能が無効な状態は、作成が完了するか、この機能が再び使用可能になるまで続きます。この機能が使用不可になっている間に「上」ボタンまたは「下」ボタンを押したままにした場合、値は 2 秒ごとに増加または減少します。高速増減機能を再度使用可能にするには、「上」ボタンを押したままにし、「選択」ボタンを押して放し、次に「上」ボタンを放します。

4. 設定したい番号フィールドに移動するには、「右」または「左」ボタンを押します。
5. 設定したい各番号フィールドに対してステップ 3 およびステップ 4 を繰り返します。
6. 「選択」ボタンを押して、設定値を確認します。 そうしない場合、次の 2 次オプションを表示するには「右」ボタンを押すか、前のオプションを表示するには「左」ボタンを押します。

「IPv4 ゲートウェイ」オプション

このオプションを使用すると、イーサネット・ポート 1 に IPv4 ゲートウェイ・アドレスを設定できます。

重要: IPv4 ゲートウェイ・アドレスを設定する場合は、必ず正しいアドレスを入力してください。そうしないと、コマンド行ツールまたは 管理 GUIを使用してシステムにアクセスできない可能性があります。

IPv4 ゲートウェイ・アドレスを設定するには、以下の手順を実行します。

1. 「IPv4 ゲートウェイ」パネルにナビゲートします。
2. 「選択」ボタンを押す。最初のゲートウェイ・アドレス番号フィールドが強調表示されます。
3. 強調表示されている値を増したい場合は、「上」ボタンを押す。値を下げたい場合は、「下」ボタンを押してください。強調表示されている値を素早く増加したい場合、「上」ボタンを押したままにします。強調表示されている値を素早く減少したい場合、「下」ボタンを押したままにします。

注: 高速増減機能を使用不可にしたい場合は、「下」ボタンを押したままにし、「選択」ボタンを押して放し、次に「下」ボタンを放します。高速増減機能が使用不可の状態、高速増減機能が無効な状態は、作成が完了するか、この機能が再

び使用可能になるまで続きます。この機能が使用不可になっている間に「上」ボタンまたは「下」ボタンを押したままにした場合、値は 2 秒ごとに増加または減少します。高速増減機能を再度使用可能にするには、「上」ボタンを押したままにし、「選択」ボタンを押して放し、次に「上」ボタンを放します。

4. 設定したい番号フィールドに移動するには、「右」または「左」ボタンを押します。
5. 設定したい各番号フィールドに対してステップ 3 およびステップ 4 を繰り返します。
6. 「選択」ボタンを押して、設定値を確認します。 そうしない場合、次の 2 次オプションを表示するには「右」ボタンを押すか、前のオプションを表示するには「左」ボタンを押します。

IPv4 作成の確認?オプション

このオプションを使用すると、IPv4 アドレスを使用するクラスターを作成する操作を開始できます。このオプションを使用すると、クラスター化システムを作成する操作を開始できます。

1. 「IPv4 作成の確認?」が表示されるまで、左移動または右移動ボタンを押して放します。
2. 操作を開始するには「選択」ボタンを押します。

作成操作が正常に終了すると、1 行目に「パスワード (Password)」と表示されます。このシステムへのアクセス用に使用可能なパスワードは 2 行目に表示されます。パスワードをすぐに記録しておいてください。管理 GUI

重要: パスワードは 60 秒間だけ、またはフロント・パネル・ボタンが押されるまで表示されます。クラスター化システムは、パスワード表示がクリアされた後にのみ作成されます。

作成操作が失敗すると、フロント・パネル・ディスプレイ画面の 1 行目に「作成が失敗: (Create Failed:)」と表示されます。2 行目には、2 つのエラー・コードのいずれかが表示されます。このコードを使用して、障害の原因を分離することができます。

「IPv6 アドレス」オプション

このオプションを使用して、作成するシステムのイーサネット・ポート 1 に IPv6 アドレスを設定できます。クラスター化システムは IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス、または同時に両方を持つことができます。システムの作成時、フロント・パネルからイーサネット・ポート 1 用の IPv4 管理アドレスまたは IPv6 管理アドレスのいずれかを設定できます。必要な場合、CLI から、さらに管理 IP アドレスを追加できます。

重要: IPv6 アドレスを設定する場合は、必ず正しいアドレスを入力してください。 そうしないと、コマンド行ツールまたは 管理 GUIを使用してシステムにアクセスできない可能性があります。

IPv6 アドレスを設定するには以下のステップを実行します。

1. 「クラスタの作成? (Create Cluster?)」オプションで「選択」ボタンを押してから、次に「下」ボタンを押します。「IPv6 アドレス」オプションが表示されません。
2. 再度、「選択」ボタンを押します。最初の IPv6 アドレス番号が強調表示されます。
3. 「左」ボタンまたは「右」ボタンを使用してアドレス・パネル間を移動します。IPv6 アドレスおよび IPv6 ゲートウェイ・アドレスは、8 つの (4 桁の) 16 進値であり、4 つのパネルにわたり表示されます。
4. アドレス内の各番号は独立して変更できます。強調表示されている値を増したい場合は、「上」ボタンを押す。値を下げたい場合は、「下」ボタンを押してください。
5. 設定したい番号フィールドに移動するには、「右」または「左」ボタンを押します。
6. 設定したい各番号フィールドに対してステップ 3 およびステップ 4 を繰り返します。
7. 「選択」ボタンを押して、設定値を確認します。 そうしない場合、次の 2 次オプションを表示するには「右」ボタンを押すか、前のオプションを表示するには「左」ボタンを押します。

「IPv6 接頭部」オプション

このオプションを使用すると、イーサネット・ポート 1 に IPv6 接頭部を設定できます。

重要: IPv6 接頭部を設定する場合は、必ず正しいネットワーク接頭部を入力してください。 そうしないと、コマンド行ツールまたは 管理 GUI を使用してシステムにアクセスできない可能性があります。

IPv6 接頭部を設定するには、以下の手順を実行します。

注: このオプションは、0 から 127 の間の値に制限されています。

1. 「IPv6 接頭部」が表示されるまで、「右」または「左」ボタンを押して、放す。
2. 「選択」ボタンを押す。最初の接頭部の数値フィールドが強調表示されます。
3. 強調表示されている値を増したい場合は、「上」ボタンを押す。値を下げたい場合は、「下」ボタンを押してください。 強調表示されている値を素早く増加したい場合、「上」ボタンを押したままにします。強調表示されている値を素早く減少したい場合、「下」ボタンを押したままにします。

注: 高速増減機能を使用不可にしたい場合は、「下」ボタンを押したままにし、「選択」ボタンを押して放し、次に「下」ボタンを放します。高速増減機能が使用不可の状態、高速増減機能が無効な状態は、作成が完了するか、この機能が再び使用可能になるまで続きます。この機能が使用不可になっている間に「上」ボタンまたは「下」ボタンを押したままにした場合、値は 2 秒ごとに増加または減少します。高速増減機能を再度使用可能にするには、「上」ボタンを押したままにし、「選択」ボタンを押して放し、次に「上」ボタンを放します。

4. 「選択」ボタンを押して、設定値を確認します。 そうしない場合、次の 2 次オプションを表示するには「右」ボタンを押すか、前のオプションを表示するには「左」ボタンを押します。

「IPv6 ゲートウェイ」オプション

このオプションを使用すると、イーサネット・ポート 1 に IPv6 ゲートウェイを設定できます。

重要: IPv6 ゲートウェイ・アドレスを設定する場合は、必ず正しいアドレスを入力してください。 そうしないと、コマンド行ツールまたは 管理 GUI を使用してシステムにアクセスできない可能性があります。

IPv6 ゲートウェイ・アドレスを設定するには、以下の手順を実行します。

1. 「IPv6 ゲートウェイ」が表示されるまで、「右」または「左」ボタンを押して、放す。
2. 「選択」ボタンを押す。最初のゲートウェイ・アドレス番号が強調表示されます。 IPv6 アドレスおよび IPv6 ゲートウェイ・アドレスは、8 つの (4 桁の) 16 進値であり、4 つのパネルにわたり表示されます。 .
3. アドレス内の各番号は独立して変更できます。強調表示されている値を増したい場合は、「上」ボタンを押す。値を下げたい場合は、「下」ボタンを押してください。
4. 設定したい番号フィールドに移動するには、「右」または「左」ボタンを押します。
5. 設定する数値フィールドごとに、ステップ 3 と 4 を繰り返します。
6. 「選択」ボタンを押して、設定値を確認します。 そうしない場合、次の 2 次オプションを表示するには「右」ボタンを押すか、前のオプションを表示するには「左」ボタンを押します。

IPv6 作成の確認?オプション

このオプションを使用すると、IPv6 アドレスを使用するクラスターを作成する操作を開始できます。このオプションを使用すると、クラスター化システムを作成する操作を開始できます。

1. 「IPv6 作成の確認?」が表示されるまで、左移動または右移動ボタンを押して放します。
2. 操作を開始するには「選択」ボタンを押します。

作成操作が正常に終了すると、1 行目に「パスワード (Password)」と表示されます。このシステムへのアクセス用に使用可能なパスワードは 2 行目に表示されます。パスワードをすぐに記録しておいてください。管理 GUI

重要: パスワードは 60 秒間だけ、またはフロント・パネル・ボタンが押されるまで表示されます。クラスター化システムは、パスワード表示がクリアされた後にのみ作成されます。

作成操作が失敗すると、フロント・パネル・ディスプレイ画面の 1 行目に「作成が失敗: (Create Failed:)」と表示されます。2 行目には、2 つのエラー・コードのいずれかが表示されます。このコードを使用して、障害の原因を分離することができます。

サービス IPv4 またはサービス IPv6 オプション

フロント・パネルを使用して、サービス IPv4 アドレスあるいはサービス IPv6 アドレスを変更することができます。

「IPv4 アドレス」オプション

「IPv4 アドレス」パネルは、選択されたイーサネット・ポートについて以下の項目のいずれかを表示します。

- システムが IPv4 アドレスを持っている場合、アクティブのサービス・アドレス。このアドレスは、構成済みアドレスまたは固定アドレスのいずれか、あるいは DHCP を介して取得されたアドレスの可能性があります。
- IPv4 サービス・アドレスが DHCP 用に構成されているが、ノードが IP アドレスを取得できなかった場合は、「DHCP の障害 (DHCP Failed)」。
- IPv4 サービス・アドレスが DHCP 用に構成されており、ノードが IP アドレスの取得を試みている場合は、「DHCP 構成中 (DHCP Configuring)」。このアドレスは、DHCP アドレスが割り振られてアクティブになると、自動的に IPv4 アドレスに変更されます。
- システムが IPv4 アドレスを持っていない場合は、ブランク行。

サービス IPv4 アドレスが正しく設定されていなかった場合、または DHCP アドレスが割り振られなかった場合は、このパネルから IPv4 アドレスを訂正するオプションが提供されています。サービス IP アドレスは、管理 IP アドレスと同じサブネット内に存在する必要があります。

「IPv4 アドレス:」パネルから固定の保守用 IPv4 アドレスを設定するには、以下の手順で行います。

1. 「選択」ボタンを押して放し、パネルを編集モードにします。
2. 設定したい番号フィールドに移動するには、「右」または「左」ボタンを押します。
3. 強調表示されている値を増したい場合は、「上」ボタンを押す。値を下げたい場合は、「下」ボタンを押してください。強調表示されている値を素早く増加したい場合、「上」ボタンを押したままにします。強調表示されている値を素早く減少したい場合、「下」ボタンを押したままにします。

注: 高速増減機能を使用不可にしたい場合は、「下」ボタンを押したままにし、「選択」ボタンを押して放し、次に「下」ボタンを放します。高速増減機能が使用不可の状態、高速増減機能が無効な状態は、作成が完了するか、この機能が再び使用可能になるまで続きます。この機能が使用不可になっている間に「上」ボタンまたは「下」ボタンを押したままにした場合、値は 2 秒ごとに増加または減少します。高速増減機能を再度使用可能にするには、「上」ボタンを押したままにし、「選択」ボタンを押して放し、次に「上」ボタンを放します。

4. すべてのフィールドを必要に応じて設定したら、「選択」ボタンを押して放し、新しい IPv4 アドレスをアクティブにします。

「IPv4 アドレス:」パネルが表示されます。新しい保守用 IPv4 アドレスは、アクティブになるまで表示されません。新しいアドレスが 2 分経過後も表示されない場合は、選択されたアドレスがサブネットワーク上で有効であり、イーサネット・スイッチが正しく作動していることを確認します。

「IPv6 アドレス」オプション

「IPv6 アドレス」パネルは、選択したイーサネット・ポートについて以下の条件のいずれか 1 つを表示します。

- システムが IPv6 アドレスを持っている場合、アクティブのサービス・アドレス。このアドレスは、構成済みアドレスまたは固定アドレスのいずれか、あるいは DHCP を介して取得されたアドレスの可能性があります。
- IPv6 サービス・アドレスが DHCP 用に構成されているが、ノードが IP アドレスを取得できなかった場合は、「DHCP の障害 (DHCP Failed)」。
- IPv6 サービス・アドレスが DHCP 用に構成されており、ノードが IP アドレスの取得を試みている場合は、「DHCP 構成中 (DHCP Configuring)」。この表示は、DHCP アドレスが割り振られてアクティブになると、自動的に IPv6 アドレスに変更されます。
- システムが IPv6 アドレスを持っていない場合は、空白行。

サービス IPv6 アドレスが正しく設定されていなかった場合、または DHCP アドレスが割り振られなかった場合は、このパネルから IPv6 アドレスを訂正するオプションが提供されています。サービス IP アドレスは、管理 IP アドレスと同じサブネットワーク内に存在する必要があります。

「IPv4 アドレス:」パネルから固定の保守用 IPv6 アドレスを設定するには、以下の手順で行います。

1. 「選択」ボタンを押して放し、パネルを編集モードにします。パネルが編集モードのときは、まだフル・アドレスが 4 つのパネル全体にわたって 8 つ (4 桁) の 16 進値として表示されています。16 進値の各桁を独立して編集します。現在の桁が強調表示されます。
2. 設定したい番号フィールドに移動するには、「右」または「左」ボタンを押します。
3. 強調表示されている値を増やしたい場合は、「上」ボタンを押す。値を下げたい場合は、「下」ボタンを押してください。
4. すべてのフィールドを必要に応じて設定したら、「選択」ボタンを押して放し、新しい IPv6 アドレスをアクティブにします。

「IPv6 アドレス:」パネルが表示されます。新しい保守用 IPv6 アドレスは、アクティブになるまで表示されません。新しいアドレスが 2 分経過後も表示されない場合は、選択されたアドレスがサブネットワーク上で有効であり、イーサネット・スイッチが正しく作動していることを確認します。

サービス DHCPv4 または DHCPv6 オプション

システムのアクティブ・サービス・アドレスは、構成済みアドレスまたは固定アドレスのいずれか、あるいは DHCP を介して取得されたアドレスの可能性があります。

サービス IP アドレスが存在しない場合は、サービス IP アドレスを割り当てるか、DHCP をこのアクションと一緒に使用する必要があります。

DHCP を使用するよう保守用 IPv4 アドレスを設定するには、以下の手順で行います。

1. 「サービス DHCPv4?」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。
2. 「DHCPv4 の確認?」が表示されるまで、下移動ボタンを押して放します。
3. 「選択」ボタンを押して放して DHCP をアクティブにするか、あるいは上移動ボタンを押して放して既存のアドレスを保持することができます。
4. DHCP をアクティブにした場合、ノードが DHCP アドレスの取得を試みている間、「DHCP の構成中」が表示されます。この表示は、DHCP アドレスが割り振られてアクティブになると、割り振られたアドレスを表示するように自動的に変更され、DHCP アドレスが割り振られなかった場合は「DHCP の障害」に変更されます。

DHCP を使用するよう保守用 IPv6 アドレスを設定するには、以下の手順で行います。

1. 「サービス DHCPv6?」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。
2. 下移動ボタンを押して放します。「DHCPv6 の確認?」が表示されます。
3. 「選択」ボタンを押して放して DHCP をアクティブにするか、あるいは上移動ボタンを押して放して既存のアドレスを保持することができます。
4. DHCP をアクティブにした場合、ノードが DHCP アドレスの取得を試みている間、「DHCP の構成中」が表示されます。この表示は、DHCP アドレスが割り振られてアクティブになると、割り振られたアドレスを表示するように自動的に変更され、DHCP アドレスが割り振られなかった場合は「DHCP の障害」に変更されます。

注: ローカル・ネットワーク上に IPv6 ルーターが存在する場合、SAN ボリューム・コントローラーは、自動構成アドレスと DHCP アドレスを区別しません。そのため、SAN ボリューム・コントローラーは、最初に検出されたアドレスを使用します。

WWNN の変更? オプション

「WWNN の変更?」オプションは、ノードで使用されている WWNN の最後の 5 桁の 16 進数字を表示します。ノードでは、WWNN の最後の 5 桁のみが変更されます。最初の 11 桁は、常に 50050768010 です。

WWNN を編集するには、以下の手順で行います。

重要: WWNN の変更は、保守手順で指示された場合にのみ行ってください。ノードは常に固有の WWNN を持っている必要があります。WWNN を変更した場合、ホストおよび SAN ゾーニングの再構成が必要になることがあります。

1. 「アクション」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。
2. 「選択」ボタンを押して放します。

3. 1 行目に「WWNN の変更?」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。ディスプレイの 2 行目は、現在設定されている WWNN の最後の 5 桁の番号が表示されます。最初の番号が強調表示されます。
4. 強調表示されている番号を編集して、必要な番号に一致させます。「上」および「下」ボタンを使用して表示されている番号を増減させます。この番号は、F から 0、または 0 から F に折り返します。「左」ボタンおよび「右」ボタンを使用して番号の間を移動します。
5. 強調表示されている値が必要な番号に一致したら、「選択」ボタンを押して放し、変更をアクティブにします。「ノード WWNN:」パネルが表示され、2 行目に、変更された WWNN の最後の 5 文字が表示されます。

サービスの開始? オプション

「サービスの開始?」オプションからサービス状態に入ることができます。サービス状態を使用することで、ノードを候補リストから除去したり、あるいはノードがクラスタ化システムに再追加されるのを防ぐことができます。

ノードがアクティブの場合、システム内に他の障害が存在すると、サービス状態に入ることによってホストが中断することがあります。サービス状態の間は、ノードはクラスタ化システムの一部として結合あるいは稼働できません。

サービス状態を終了する場合は、すべてのエラーが解決されていることを確認してください。「サービスの終了?」オプションを使用するか、あるいはノードを再起動することでサービス状態を終了することができます。

サービスの終了? オプション

「サービスの終了?」オプションからサービス状態を終了することができます。このアクションにより、ノードはサービス状態から解放されます。

非クリティカル・エラーがない場合は、ノードは候補状態になります。可能な場合は、次にノードはクラスタ化システム内でアクティブになります。

サービス状態を終了する場合は、すべてのエラーが解決されていることを確認してください。このオプションを使用するか、あるいはノードを再起動することでサービス状態を終了することができます。

「クラスタのリカバリー?」オプション

すべてのノードからデータが失われた場合は、「クラスタのリカバリー?」オプションを使用してクラスタ化システム全体をリカバリーすることができます。

保守手順で指示された場合にのみ、ノード上でサービス・アクションを実行してください。不適切に使用されると、サービス・アクションによってデータへのアクセスが失われたり、データが失われる場合があります。

システムのリカバリー手順については、243 ページの『システムのリカバリー手順』を参照してください。

クラスタの除去? オプション

「クラスタの除去?」オプションは、システム状態データをノードから削除します。

他のノードがコマンド行インターフェース (CLI) または 管理 GUI を使用してシステムから削除された後で、クラスター化システムを廃棄する最終ステップとしてこのオプションを使用します。

重要: フロント・パネルを使用して、状態データを 1 つのノード・システムから除去します。マルチノード・システムからノードを除去するには、必ず CLI を使用するか、管理 GUI からノードの除去オプションを使用してください。

「クラスターの除去?」パネルから、以下のステップを実行して、状態データをノードから削除します。

1. 「上」ボタンを押したままにします。
2. 「選択」ボタンを押して放します。
3. 「上」ボタンを放します。

オプションが実行されると、ノードに、システム名なしでクラスター: と表示されます。まだシステムのメンバーであるノードでこのオプションが実行されると、該当のシステムでエラー 1195 ノードがありません と表示されますが、そのノードはシステム内のノードのリストに表示されます。管理 GUI または CLI を使用してノードを除去してください。

ペースに合わせたアップグレード? オプション

このオプションを使用して、並行コード・アップグレード内で個々のノードをいつアップグレードするかを制御します。

注: このアクションは、ノードが以下の条件を満たす場合にのみ使用できます。

- ノードがサービス状態になっている。
- ノードにエラーがない。
- ノードがクラスター化システムから除去されている。

詳しくは、インフォメーション・センターの『ソフトウェアの手動アップグレード』トピックを参照してください。

FC 速度の設定? オプション

「FC 速度の設定?」オプションを使用して、SAN ボリューム・コントローラーのファイバー・チャンネル・ポートの速度を変更することができます。

注: このオプションは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 ノードでのみ使用可能です。

パスワードのリセット? オプション

「パスワードのリセット?」オプションは、システムのスーパーユーザー・パスワードを紛失したり、忘れてしまった場合に役立ちます。

ユーザーがシステム・スーパーユーザー・パスワードを紛失した場合、あるいはユーザーがシステムにアクセスできない場合は、「パスワードのリセット?」オプションを使用します。ユーザーのパスワード・セキュリティー・ポリシーで許可されている場合は、この選択を使用してシステム・スーパーユーザー・パスワードをリセットします。

ユーザーのパスワード・セキュリティ・ポリシーでパスワードのリカバリーが許可されている場合、さらにノードが現在クラスター化システムのメンバーであれば、システム・スーパーユーザー・パスワードがリセットされ、新規パスワードが60秒間表示されます。ユーザーのパスワード・セキュリティ・ポリシーでパスワードのリカバリーが許可されていない場合、または、ノードがシステムのメンバーでない場合、このステップを完了しても効果はありません。

パスワードがリセットされたときにノードがアクティブ状態の場合、リセットはシステム内のすべてのノードに適用されます。パスワードがリセットされたときにノードが候補あるいはサービス状態の場合は、リセットは単一のノードにのみ適用されます。

ノードのレスキュー? オプション

「ノードのレスキュー?」オプションを使用して、このノードの自動ソフトウェア・リカバリーを開始することができます。

注: ノードをレスキューする他の方法は、ノードがブートするときに強制的にノードをレスキューすることです。これは優先される方法です。ノードのブート時にノードのレスキューを強制する方法では、サービス・コントローラーからオペレーティング・システムをブートし、ファイバー・チャネル・ファブリック上で検出される他の任意のノードからすべての SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアをコピーするプログラムを実行します。260 ページの『ノード・ブート時のノード・レスキューの実行』を参照してください。

アクションの終了? オプション

「アクションの終了?」オプションを選択すると、メインメニューに戻ります。

「言語?」オプション

フロント・パネルに表示される言語を変更できます。

始める前に

「言語?」オプションによって、メニューに表示される言語を変更することができます。図 65 は、「言語?」オプション・シーケンスを示しています。

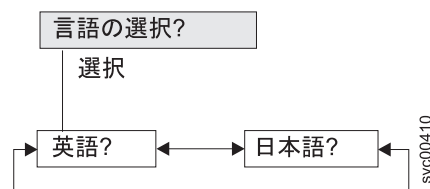


図 65. 「言語?」ナビゲーション

以下の言語が利用できます。

- 英語
- 日本語

このタスクについて

フロント・パネルで使用する言語を選択するには、以下の手順で行います。

手順

1. 「言語?」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。
2. 「選択」ボタンを押して放します。
3. 「左」ボタンおよび「右」ボタンを使用して、選択する言語に移動します。変換された言語名が、独自の文字セットで表示されます。表示されている言語が理解できない場合は、メニューがデフォルト・オプションにリセットされるまで少なくとも 60 秒待ってください。
4. 「選択」ボタンを押して放し、表示された言語を選択します。

タスクの結果

選択された言語がローマ字のアルファベットを使用する場合、フロント・パネル・ディスプレイは 2 行を表示します。パネル・テキストが最初の行に表示され、追加データが 2 行目に表示されます。

選択された言語がローマ字のアルファベットを使用しない場合、ディスプレイは一度に 1 行だけ表示して、文字フォントが明瞭に表示されるようにします。これらの言語の場合、「選択」ボタンを押して放すことにより、パネル・テキストと追加データの間で切り替えることができます。

フロント・パネルがメニュー・オプション (疑問符 (?) で終わる) を表示しているときは、追加データは得られません。この場合は、「選択」ボタンを押して放し、メニュー・オプションを選択します。

注: ノードがブート・エラーを表示しているときは、別の言語を選択することはできません。

SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源制御の使用

SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源は、ノードと同じラック内にある無停電電源装置 (uninterruptible power supply) から供給されます。

SAN ボリューム・コントローラーの電源状態は、フロント・パネルの電源表示ライトによって表示されます。無停電電源装置 (uninterruptible power supply) のバッテリーが、SAN ボリューム・コントローラーを完全に作動可能にするまで十分充電されていない場合は、その充電状態がノードのフロント・パネル・ディスプレイに表示されます。

SAN ボリューム・コントローラーへの電源は、ノードのフロント・パネル上の電源ボタンによって制御されます。決して、電源ケーブルを取り外してノードの電源を切らないでください。データが失われる可能性があります。ノードの電源オフ方法の詳細は、296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』を参照してください。

SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアが実行中であり、かつ、そのソフトウェアに 管理 GUI、CLI、または電源ボタンから電源をオフにするよう要求した

場合、ノードは電源オフ処理を開始します。この間、ノードは電源オフ操作の進行状況をフロント・パネル・ディスプレイに表示します。電源オフ処理が完了した後、フロント・パネルはブランクになり、フロント・パネルの電源ライトが明滅します。ノードの背面から電源ケーブルを取り外しても安全です。電源オフ処理中にフロント・パネルの電源ボタンを押した場合、フロント・パネル・ディスプレイが変更され、ノードが再始動することを示しますが、再始動が実行される前に電源オフ処理が完了します。

フロント・パネルの電源ボタンが押されたときに SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアが実行していない場合は、ノードの電源は即時にオフになります。

注: 2145 UPS-1Uは、ノードが電源ボタンでシャットダウンされても電源オフになりません。

電源ボタンを使用して、またはコマンドで、ノードの電源を切ると、ノードは電源オフ状態に入ります。SAN ボリューム・コントローラーは、電源ケーブルがノードの背面に接続され、電源ボタンが押されるまで、この状態を続けます。

始動シーケンス中に、SAN ボリューム・コントローラーは、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) のシグナル・ケーブルを介して無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の状況を検出しようとしています。無停電電源装置 (uninterruptible power supply) が検出されない場合、ノードは一時停止し、エラーがフロント・パネル・ディスプレイに表示されます。無停電電源装置 (uninterruptible power supply) が検出されると、ソフトウェアが無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の操作状態をモニターします。無停電電源装置 (uninterruptible power supply) のエラーが報告されず、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) のバッテリーが十分充電されていれば、SAN ボリューム・コントローラーは操作可能になります。無停電電源装置 (uninterruptible power supply) のバッテリーが十分充電されていない場合は、充電状態がフロント・パネル・ディスプレイの進行状況表示バーによって示されます。初めて無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の電源を入れたときは、バッテリーが十分に充電されて SAN ボリューム・コントローラー・ノードが操作可能になるまでに、最長で 2 時間かかることがあります。

無停電電源装置 (uninterruptible power supply) への入力電源が失われると、ノードは直ちにすべての入出力操作を停止して、そのダイナミック・ランダム・アクセス・メモリー (DRAM) の内容を内部ディスク・ドライブに保存します。データがディスク・ドライブに保存されている間は、フロント・パネルに「電源障害 (Power Failure)」メッセージが表示され、保存すべき残りのデータ数を示す降順の進行状況表示バーが表示されます。すべてのデータが保存された後、ノードは電源が切れ、フロント・パネルの電源ライトは消えます。

注: ノードは、ここで待機状態になります。無停電電源装置 (uninterruptible power supply) への入力電源が復元されると、ノードは再始動します。無停電電源装置 (uninterruptible power supply) のバッテリーが完全に消費された場合は、「充電中 (Charging)」と表示され、ブート処理はバッテリーの充電を待ちます。バッテリーが十分に充電されると、「ブート中 (Booting)」と表示され、ノードがテストされてソフトウェアがロードされます。ブート処理が完了すると、「リカバリー中 (Recovering)」と表示され、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の充電が終わります。「リカバリー中 (Recovering)」が表示されている間、システムは正常

に機能できます。2 回目の電源障害後の電源回復の場合は、「充電中 (Charging)」と表示されて) ノードのブート処理の完了に遅延が生じます。

第 7 章 問題の診断

コマンド行インターフェース (CLI) あるいは 管理 GUIを使用して問題を診断することができます。SAN ボリューム・コントローラー・ノードおよび 無停電電源装置 (uninterruptible power supply)ユニットの診断 LED も、ハードウェア障害の診断に役立ちます。

イベント・ログ

イベント・ログを理解することで、以下のタスクを実行することができます。

- イベント・ログの管理
- イベント・ログの表示
- イベント・ログ内のフィールドの説明

エラー・コード

以下のトピックには、エラー・コードを理解し、処理するために役立つ情報が記載されています。

- イベントのレポート作成
- イベントの理解
- エラー・コードの理解
- ハードウェア・ブート障害の判別

ノードがブート・メッセージ、障害メッセージ、またはノード・エラー・メッセージを示している、問題の原因がソフトウェア障害またはファームウェア障害にあると判断した場合、ノードを再始動して、問題が解決されるかどうかを見ることができます。ノードを正常にシャットダウンし、再始動するには、以下の手順を実行します。

1. 296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』に記載された手順に従います。
2. 一度に 1 つのノードだけを再始動します。
3. 最初のノードをシャットダウンして再始動した後、少なくとも 30 分間は、入出力グループ内の 2 番目のノードをシャットダウンしないでください。

イベントのレポート作成

検出されたイベントは、イベント・ログに保存されます。このイベント・ログにエントリーが作成されると、直ちに状態が分析されます。サービス・アクティビティが必要な場合は、通知が送信されます。

イベント・レポート作成プロセス

以下の方式を使用して、ユーザーおよび IBM サポートに新規イベントを通知します。

- システムの各ノードのフロント・パネルに、最も重要なシステム・エラー・コードが表示されます。
- Simple Network Management Protocol (SNMP) を有効にしている場合、お客様が構成した SNMP マネージャーに SNMP トラップが送られます。

SNMP マネージャーは、IBM Systems Director (インストールされている場合) またはその他の SNMP マネージャーです。

- 使用可能な場合、syslog プロトコルを使用して IP ネットワーク上で送信側から受信側にログ・メッセージを転送できます。
- 使用可能な場合、コール・ホーム E メールを使用して、イベント通知を送信側から受信側に転送できます。
- コール・ホームが使用可能な場合、クリティカルな障害では問題管理レコード (PMR) が生成され、この PMR は適切な IBM サポートに直接送信されます。

電源オン自己診断テスト (Power-on self-test)

SAN ボリューム・コントローラーに電源を入れると、システム・ボードは自己診断テストを行います。初期テスト時に、ハードウェア・ブート・シンボルが表示されます。

すべてのモデルでは、最初に装置に電源を入れた時に、一連のテストを実行して、コンポーネントの作動およびインストールされているいくつかのオプションを検査します。この一連のテストは電源オン自己診断テスト (POST) と呼ばれます。

POST の間に重大な障害が検出されると、ソフトウェアはロードされず、パネル表示装置にあるシステム・エラー LED が点灯します。この障害が発生した場合は、265 ページの『MAP 5000: 開始』を使用すると障害の原因を切り分けるのに役立ちます。

ソフトウェアがロードされると、追加のテストが行われます。このテストで、必要なすべてのハードウェアおよびソフトウェア・コンポーネントが取り付けられ、正しく機能していることが確認されます。追加のテスト中、ブート進行コードおよび進行状況表示バーとともに Booting というワードがフロント・パネルに表示されます。テストが失敗すると、フロント・パネルに「障害」と表示されます。

サービス・コントローラーは、内部検査を実行し、SAN ボリューム・コントローラーの操作にとって不可欠です。エラー (チェック) LED がサービス・コントローラーのフロント・パネルで点灯している場合、そのフロント・パネル・ディスプレイは適切に機能していない可能性があるため、表示されるメッセージはすべて無視してかまいません。

無停電電源装置 (uninterruptible power supply)も内部テストを実行します。無停電電源装置 (uninterruptible power supply)が障害状態を報告すると、SAN ボリューム・コントローラーは、フロント・パネル・ディスプレイにクリティカル情報を表示するか、あるいはイベント・ログに非クリティカル情報を送信します。SAN ボリューム・コントローラーは、無停電電源装置 (uninterruptible power supply)と通信できない場合、フロント・パネル・ディスプレイにブート障害エラー・メッセージを表示します。無停電電源装置 (uninterruptible power supply)のフロント・パネルに、追加の問題判別情報が表示される場合もあります。

イベントについて

状況の重大な変化が検出された場合、イベントがイベント・ログに記録されます。

エラー・データ

イベントは、アラートまたはメッセージのいずれかに分類されます。

- アラートは、イベントに何らかのアクションが必要な場合にログに記録されます。一部のアラートには、必要なサービス・アクションを定義するエラー・コードが関連付けられています。サービス・アクションは、修正手順により自動化されます。アラートにエラー・コードがない場合、そのアラートは、状態の予期しない変化を表します。この状況は、予期されたものであるのか、あるいは障害を表しているのかを確認するために調査する必要があります。アラートが報告されたら、可能な限り早急に調査して解決してください。
- メッセージは、予期された変化が報告された場合にログに記録されます。例えば、IBM FlashCopy 操作が完了した場合などです。

イベント・ログの管理

イベント・ログはサイズに制限があります。いっぱいになると、新しいエントリーで不要になったエントリーが置き換えられます。

繰り返し発生するイベントでイベント・ログがいっぱいになるのを回避するために、イベント・ログ内の一部のレコードは、同一イベントの複数回のオカレンスを示します。イベント・ログ・エントリーがこのように合体されると、問題の最初のオカレンスと最後のオカレンスのタイム・スタンプがログ・エントリー内に保管されます。エラー状態の発生回数のカウントも、ログ・エントリーに保存されます。その他のデータは、イベントの最後のオカレンスを示します。

イベント・ログの表示

イベント・ログ は、管理 GUI またはコマンド行インターフェース (CLI) を使用して表示できます。

このタスクについて

管理 GUI で「モニター」 > 「イベント」オプションを使用して、イベント・ログを表示することができます。イベント・ログには多くの項目が含まれます。ただし、必要なタイプの情報のみを選択することができます。

また、コマンド行インターフェース (`lseventlog`) を使用してイベント・ログを表示することもできます。コマンドの詳細については、『コマンド行インターフェース』のトピックを参照してください。

イベント・ログ内のフィールドの説明

イベント・ログには、問題の診断に使用できる情報が記載されたフィールドが組み込まれています。

146 ページの表 43 で、問題の診断に役立つ、いくつかのフィールドについて説明します。

表 43. イベント・ログのデータ・フィールドの説明

データ・フィールド	説明
イベント ID	この番号は、イベントがログに記録された理由を正確に識別します。
エラー・コード	この番号は、エラー状態を解決するために従う必要があるサービス・アクションを示しています。すべてのイベントにエラー・コードが関連付けられているわけではありません。多くのイベント ID に同じエラー・コードが付随する場合があります。それらのイベントのすべてでサービス・アクションが同じであるためです。
シーケンス番号	イベントを識別する番号。
イベント・カウント	このイベント・ログ・レコードに合体されたイベントの数。
オブジェクト・タイプ	イベント・ログが関連するオブジェクト・タイプ。
オブジェクト ID	オブジェクトのインスタンスを一意的に識別する番号。
修正済み	エラー状態のアラートが示される場合に、イベントの理由が解決されたかどうかを示します。多くの場合、システムは適切な時点で自動的にイベントに修正済みのマークを付けます。一部のイベントには、手動で修正済みのマークを付ける必要があります。イベントがメッセージである場合、このフィールドは、ユーザーがアクションを読み、実行したことを示します。メッセージには、読み取り済みのマークを付ける必要があります。
最初の時刻	このエラー・イベントが報告された時刻。類似タイプのイベントが合体され、そのため 1 つのイベント・ログ・レコードが複数のイベントを表す場合、このフィールドは、最初のエラー・イベントがログに記録された時刻です。
最後の時刻	このエラー・イベントの最後のインスタンスが、ログに記録された時刻。
ルート・シーケンス番号	設定した場合には、この番号は、イベントが報告された原因として考えられるエラーを表すイベントのシーケンス番号です。最初に、ルート・イベントを解決してください。
センス・データ	イベントがログに記録される原因となった状態の詳細を示す追加データ。

イベント通知

SAN ポリユーム・コントローラー 製品では、重要なイベントが検出されたときに、Simple Network Management Protocol (SNMP) トラップ、syslog メッセージ、およびコール・ホーム E メールを使用して、ユーザーと IBM サポートに通知を出すことができます。これらの通知方式を任意に組み合わせて、同時に使用することができます。通知は、通常、イベントが出された直後に送信されます。ただし、いくつかのイベントが、実行されている保守アクションのために発生する可能性があります。推奨保守アクションがアクティブである場合、これらのイベントが通知されるのは、保守アクションが完了するときにこれらのイベントが引き続き未修正である場合のみです。

SAN ボリューム・コントローラーが検出する各イベントには、「エラー」、「警告」、または「情報」の通知タイプが割り当てられます。通知を構成する場合、通知の送信先、およびその受信者に送信される通知タイプを指定します。

表 44 は、イベント通知のタイプを記述します。

表 44. 通知タイプ

通知タイプ	説明
エラー	<p>できるだけ早く修正する必要がある問題を示すエラー通知が送信されます。</p> <p>この通知は、SAN ボリューム・コントローラーに重大な問題があることを示しています。例えば、レポートされているイベントが、システムに冗長度が失われており、このため、もうひとつ障害が起るとデータへのアクセスができなくなる可能性があることを示している場合があります。このタイプの通知が送信される最も典型的な理由はハードウェア障害ですが、この通知タイプには、ある種の構成エラーまたはファブリック・エラーも含まれます。エラー通知は、IBM サポートへのコール・ホーム E メールとして送信されるよう構成することができます。</p>
警告	<p>警告通知は、SAN ボリューム・コントローラーに問題または予期していなかった状態が生じていることを示すために送信されます。このタイプの通知は、操作に影響があるか判別し、必要な修正を行うために、常に即時に調べる必要があります。</p> <p>警告通知は交換パーツを必要とせず、したがって、IBM サポートの支援は必要ありません。「警告」通知タイプが割り振られても、そのイベントが「エラー」通知タイプのイベントより重大度が低いことを意味しているわけではありません。</p>
情報	<p>情報通知は、予期されたイベントが発生したこと、例えば、FlashCopy 操作が完了したことを示すために送信されます。このような通知が送信された場合、修正アクションは必要ありません。</p>

通知タイプが「エラー」または「警告」であるイベントは、イベント・ログにアラートとして表示されます。通知タイプが「情報」であるイベントは、メッセージとして表示されます。

SNMP トラップ

Simple Network Management Protocol (SNMP) は、ネットワーク管理とメッセージ交換のための標準プロトコルです。システムは、担当者にイベントについて通知する SNMP メッセージを送信することができます。SNMP マネージャーを使用すると、システムが送信する SNMP メッセージを表示できます。SNMP 設定値の構成および変更は、管理 GUI またはコマンド行インターフェースを使用して行えます。

SNMP 用の管理情報ベース (MIB) ファイルを使用して、システムにより送信された SNMP メッセージを受信するようにネットワーク管理プログラムを構成できます。このファイルは、すべてのバージョンのソフトウェアからの SNMP メッセージで使用できます。SNMP の MIB ファイルについての詳しい情報は、次の Web サイトにあります。

MIB の検索 SNMP の管理情報ベース (MIB) ・ファイルを見つけるには、ダウンロード結果に進みます。ダウンロード・オプションを見つけるには、このリンクをクリックします。

Syslog メッセージ

syslog プロトコルは、IP ネットワーク上で送信側から受信側にログ・メッセージを転送する標準プロトコルです。IP ネットワークは IPv4 または IPv6 のいずれかです。システムは、担当者にイベントについて通知する syslog メッセージを送信することができます。システムは、拡張形式または簡略形式のいずれかで syslog メッセージを送信できます。syslog マネージャーを使用して、システムが送信する syslog メッセージを表示できます。システムは、ユーザー・データグラム・プロトコル (UDP) を使用して syslog メッセージを伝送します。syslog 設定値の構成および変更は、管理 GUI または SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェースを使用して行えます。

表 45 は、SAN ボリューム・コントローラーの通知コードと syslog セキュリティ・レベル・コードとのマッピングを示しています。

表 45. SAN ボリューム・コントローラーの通知タイプと対応 syslog レベル・コード

SAN ボリューム・コントローラー通知タイプ	Syslog レベル・コード	説明
ERROR	LOG_ALERT	即時対応が必要なハードウェア交換を必要とする可能性がある障害。
警告	LOG_ERROR	即時対応が必要な障害。ハードウェア交換の必要はありません。
INFORMATIONAL	LOG_INFO	例えば、構成変更が行われた場合、あるいは操作が完了したときに使用される情報メッセージ。
TEST	LOG_DEBUG	テスト・メッセージ

表 46 は、ユーザー定義のメッセージ起点 ID の SAN ボリューム・コントローラー値と SYSLOG 機能コードのマッピングを示しています。

表 46. ユーザー定義のメッセージ起点 ID の SAN ボリューム・コントローラー値と SYSLOG 機能コード

SAN ボリューム・コントローラー値	Syslog 値	Syslog 機能コード	メッセージ・フォーマット
0	16	LOG_LOCAL0	フル
1	17	LOG_LOCAL1	フル
2	18	LOG_LOCAL2	フル
3	19	LOG_LOCAL3	フル
4	20	LOG_LOCAL4	簡略
5	21	LOG_LOCAL5	簡略

表 46. ユーザー定義のメッセージ起点 ID の SAN ボリューム・コントローラー値と SYSLOG 機能コード (続き)

SAN ボリューム・コントローラー値	Syslog 値	Syslog 機能コード	メッセージ・フォーマット
6	22	LOG_LOCAL6	簡略
7	23	LOG_LOCAL7	簡略

コール・ホーム E メール

コール・ホーム機能は、お客様と IBM に対して、運用データとイベント関連データを Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) サーバー接続を介してイベント通知 Eメールの形で伝送します。この機能は、構成されると、ハードウェア障害および重大な構成の問題または環境の問題がある可能性について IBM サービス担当員に警告を出します。

E メールを送信するには、SMTP サーバーを少なくとも 1 つ構成する必要があります。最大 5 つの追加 SMTP サーバーをバックアップの用途で指定することができます。この SMTP サーバーは、SAN ボリューム・コントローラー管理 IP アドレスからの E メールの中継を許可することが必要です。次に、管理 GUI または SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェースを使用して、Eメールの設定 (連絡先情報および Eメールの受信者を含む) を構成します。返信アドレスを有効な Eメール・アドレスに設定します。テスト Eメールを送信して、すべての接続およびインフラストラクチャーが正しくセットアップされているか検査します。コール・ホーム機能は、管理 GUI または SAN ボリューム・コントローラー・コマンド行インターフェースを使用していつでも使用不可にできます。

通知と一緒に送信されるデータ

通知は、Eメール、SNMP、あるいは SYSLOG を使用して通知することができます。各タイプの通知で送信されるデータは同じです。以下のデータが含まれます。

- レコード・タイプ
- マシン・タイプ
- マシン・シリアル番号
- エラー ID
- エラー・コード
- ソフトウェアのバージョン
- FRU の部品番号
- クラスタ (システム) 名
- ノード ID
- エラー・シーケンス番号
- タイム・スタンプ
- オブジェクト・タイプ
- オブジェクト ID
- 問題データ

E メールには、サポート・センターがお客様に連絡を取るために、以下の追加情報が含まれます。

- 第 1 連絡先と第 2 連絡先の連絡先名
- 第 1 連絡先と第 2 連絡先の連絡先電話番号
- 第 1 連絡先と第 2 連絡先の代替連絡先電話番号
- 勤務時間外電話番号
- 連絡先 E メール・アドレス
- マシン・ロケーション

IBM サービス担当員にデータと通知を送信するには、次の E メール・アドレスのうちの 1 つを使用します。

- 北アメリカ、ラテンアメリカ、南アメリカまたはカリブ海諸島に配置された SAN ボリューム・コントローラー ノードの場合、 `callhome1@de.ibm.com` を使用してください。
- 世界のすべてのその他の場所に配置されている SAN ボリューム・コントローラー ノードの場合、 `callhome0@de.ibm.com` を使用してください。

インベントリー情報 E メール

インベントリー情報 E メールは、システムのハードウェア・コンポーネントと構成を要約します。IBM サービス担当員はこの情報を使用して、関連するソフトウェアのアップグレードが使用可能なとき、または構成に影響を与える可能性がある問題が検出されたときに、お客様に連絡することができます。インベントリー・レポートを使用可能にすることをお勧めします。

インベントリー情報はコール・ホーム E メール機能を使用して送信されるので、インベントリー情報 Eメールの送信を試みるには、その前に、コール・ホーム機能の要件を満たしてコール・ホーム E メール機能を使用可能にしておく必要があります。管理 GUIまたは SAN ボリューム・コントローラー・コマンド行インターフェースを使用して、連絡先情報の調整、インベントリー Eメールの頻度の調整、または手動によるインベントリー Eメールの送信を行えます。

IBM に送信されるインベントリー情報には、コール・ホーム機能が使用可能なクラスター化システムに関する以下の情報が入っています。IP アドレスなどの機密情報は含まれません。

- ライセンス情報
- 以下のオブジェクトおよび機能に関する詳細
 - ドライブ
 - 外付けストレージ・システム
 - ホスト
 - MDisk
 - ボリューム
 - RAID タイプ
 - Easy Tier
 - FlashCopy
 - メトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー

コール・ホームのインベントリ情報に組み込まれている情報の詳細については、ユーザー自身にインベントリ E メールを送信するようにシステムを構成してください。

エラー・コードの理解

エラー・コードは、イベント・ログ分析およびシステム構成コードによって生成されます。

エラー・コードは、問題の原因、障害を起こした現場交換可能ユニット (FRU)、および問題の解決に必要なサービス・アクションを識別するのに役立ちます。

注: 操作の際に発生するエラーが複数の場合は、最高優先順位のエラー・コードがフロント・パネルに表示されます。エラー・コードの番号が低いほど、優先順位は高くなります。例えば、エラー・コード 1020 は、エラー・コード 1370 より高い優先順位になります。

エラー・コード・テーブルの使用

エラー・コード・テーブルには、さまざまなエラー・コードと、対応するアクションの説明がリストされています。

このタスクについて

エラー・コード・テーブルを使用するには、以下の手順を実行します。

手順

1. テーブルでエラー・コードを探します。特定のコードがどのテーブルでも見つからない場合は、IBM サポートの支援を依頼してください。
2. 実行する必要があるアクションを読んで、問題を修正します。現場交換可能ユニット (FRU) は、指示がない限り交換しないでください。
3. 通常 FRU の交換は、エラー・コードの FRU リストの先頭から始めて、一度に 1 つのみ行います。

イベント ID

SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアは、情報イベントやエラー・イベントなどのイベントを生成します。イベント ID または番号は、イベントに関連付けられ、そのイベントの理由を示します。

通知イベントは、操作の状況に関する情報を提供します。通知イベントはイベント・ログに記録され、構成に応じて、E メール、SNMP、または syslog を使用して通知できます。

エラー・イベントは、サービス・アクションが必要な場合に生成されます。エラー・イベントは、関連するエラー・コードのアラートにマップされます。構成によっては、エラー・イベントを E メール、SNMP、または syslog を使用して通知することができます。

通知イベント

通知イベントは、操作の状況に関する情報を提供します。

通知イベントはイベント・ログに記録され、構成に応じて、E メール、SNMP、または syslog を使用して通知できます。

通知イベントは、通知タイプ I (情報) であっても、通知タイプ W (警告) のいずれであってもかまいません。タイプ (W) の通知イベント・レポートには、ユーザーの注意が必要なものがあります。表 47 に、通知イベント、通知タイプ、およびイベントが発生した理由のリストを記載します。

表 47. 通知イベント

イベント ID	通知タイプ	説明
980221	I	エラー・ログがクリアされました。
980230	I	サービス・ログイン・ユーザーの SSH 鍵が廃棄されました。
980231	I	ユーザー名が変更されました。
980301	I	劣化またはオフラインの管理対象ディスクが、これでオンラインになりました。
980310	I	機能低下またはオフラインのストレージ・プールがオンラインになりました。
980320	I	現在オフライン・ボリュームはオンラインです。
980321	W	ストレージ・プールが劣化またはオフラインのためボリュームはオフラインです。
980330	I	すべてのノードがポートを認識できます。
980340	I	このホストのすべてのポートが現在ログインしています。
980341	W	このホストの 1 つ以上のポートが現在、劣化しています。
980342	W	このホストの 1 つ以上のポートが現在オフラインです。
980343	W	このホストのすべてのポートが現在オフラインです。
980349	I	ノードは正常にクラスター (システム) に追加されました。
980350	I	このノードは、現在このクラスター (システム) の機能メンバーです。
980351	I	重大でないハードウェア・エラーが発生しました。
980352	I	オフライン・ノードの自動リカバリーの試行が開始しています。
980370	I	入出力グループ内の両方のノードが使用可能です。
980371	I	入出力グループ内の 1 つのノードが無効です。
980372	W	入出力グループ内の両方のノードが無効です。
980392	I	クラスター (システム) リカバリーは完了しました。
980435	W	リモート・ノードからディレクトリー・リストを取得できませんでした
980440	W	リモート・ノードからのファイル転送に失敗しました
980445	I	マイグレーションが完了しました。
980446	I	保護削除が完了しました。

表 47. 通知イベント (続き)

イベント ID	通知タイプ	説明
980501	W	仮想化の容量がライセンス交付を受けた限度に近づいています。
980502	W	FlashCopy 機能がライセンス交付を受けた限度に近づいています。
980503	W	メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー機能が、ライセンス交付を受けた限度に近づいています。
981002	I	ファイバー・チャンネルのディスカバリーが行われました。構成変更は保留されています。
981003	I	ファイバー・チャンネルのディスカバリーが行われました。構成変更は完了しました。
981004	I	ファイバー・チャンネルのディスカバリーが行われました。構成変更は検出されませんでした。
981007	W	管理対象ディスクが優先パス上にありません。
981009	W	管理対象ディスクの初期化が失敗しました。
981014	W	LUN ディスカバリーが失敗しました。クラスター (システム) はこのノードを介して装置に接続していますが、このノードはこの LUN に関連付けられた非管理ディスクまたは管理対象ディスクをディスカバーできません。
981015	W	LUN 容量が最大値に等しいか、それを超過しています。ディスクの一部にのみアクセスできます。
981020	W	管理対象ディスク・エラー件数警告しきい値に一致しました。
981022	I	管理対象ディスクのオフラインが差し迫っています。オフラインの回避が開始されました。
981025	I	ドライブ・ファームウェアのダウンロードが開始しました。
981026	I	ドライブ FPGA のダウンロードが開始しました。
981101	I	SAS ディスカバリーが行われました。構成変更は検出されませんでした。
981102	I	SAS ディスカバリーが行われました。構成変更は保留されています。
981103	I	SAS ディスカバリーが行われました。構成変更は完了しました。
981104	W	LUN 容量が最大容量に等しいか、それを超過しています。ディスクの最初の 1 PB のみがアクセスされます。
981105	I	ドライブのフォーマットが開始されました。
981106	I	ドライブのリカバリーが開始されました。
982003	W	仮想エクステン트가十分ではありません。
982004	W	ソース管理対象ディスク上の仮想エクステン트의不足または多数のメディア・エラーが原因で、マイグレーションが中断されました。
982007	W	マイグレーションが停止しました。

表 47. 通知イベント (続き)

イベント ID	通知タイプ	説明
982009	I	マイ그레이ションが完了しました。
982010	W	コピー・ディスク入出力メディア・エラー。
983001	I	FlashCopy 操作が準備済みです。
983002	I	FlashCopy 操作が完了しました。
983003	W	FlashCopy 操作が停止しました。
984001	W	最初のカスタマー・データが仮想ディスク実効ページ・セットに固定されています。
984002	I	仮想ディスク実効ページ・セット内のすべてのカスタマー・データが固定解除されています。
984003	W	ボリューム実効ページ・セットは固定されているデータが多すぎるため、ボリューム実効ページ・セット・キャッシュ・モードは同期デステージに変更中です。
984004	I	ボリューム実効ページ・セット・キャッシュ・モードは非同期デステージを許可するように更新されました。そのボリューム実効ページ・セットに対して、十分なカスタマー・データが固定解除されたためです。
984506	I	IERR からのデバッグがディスクに抽出されました。
984507	I	スロットの電源オンが試行されました。
984508	I	ストランド (ドライブをノード・キャニスターに接続するためのケーブルおよびキャニスターのシーケンス) のすべての拡張機構がリセットされました。
984509	I	バッテリーの充電を完了できるようにコンポーネントのファームウェア更新が一時停止しました。
984511	I	システムが保守モードに移行されたため、コンポーネント・ファームウェアの更新は一時停止されました。
984512	I	コンポーネント・ファームウェアの更新が必要ですが、実行することができません。
985001	I	メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーのバックグラウンド・コピーが完了しました。
985002	I	メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーは再始動の準備ができました。
985003	W	タイムアウト期間内にリモート・クラスター (システム) 内のディスクへのパスを見つけることができませんでした。
986001	W	ノード内のシン・プロビジョニング・ボリューム・コピー・データは固定されています。
986002	I	ノード内のすべてのシン・プロビジョニング・ボリューム・コピー・データは固定解除されました。
986010	I	シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーのインポートが失敗し、新しいボリュームはオフラインです。SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアを必要なバージョンにアップグレードするか、またはボリューム を削除してください。

表 47. 通知イベント (続き)

イベント ID	通知タイプ	説明
986011	I	シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーのインポートが正常に実行されました。
986020	W	シン・プロビジョニング・ボリューム・コピー・スペースの警告が発生しました。
986030	I	シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーの修復が開始されました。
986031	I	シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーの修復が正常に実行されました。
986032	I	シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーの妥当性検査が開始されました。
986033	I	シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーの妥当性検査が正常に実行されました。
986034	I	圧縮仮想ボリューム・コピーのインポートが正常に完了しました。
986035	W	圧縮仮想ボリューム・コピーのスペース警告が発生しました。
986036	I	圧縮仮想ボリューム・コピーの修復が開始されました。
986037	I	圧縮仮想ボリューム・コピーの修復が正常に完了しました。
986038	I	圧縮仮想ボリューム・コピーの不良ブロックが多すぎます。
986201	I	ミラーリングされたコピーのメディア・エラーが修復されました。
986203	W	妥当性検査オプションを使用したミラー・コピーの修復を完了できません。
986204	I	ミラー・ディスクの修復が完了し、差異は検出されませんでした。
986205	I	ミラー・ディスクの修復が完了し、差異は解決されました。
986206	W	ミラー・ディスクの修復が完了し、差異にはメディア・エラーのマークが付けられました。
986207	I	ミラー・ディスクの修復が開始されました。
986208	W	メディア・エラー設定オプションを使用したミラー・コピーの修復を完了できません。
986209	W	再同期オプションを使用したミラー・コピーの修復を完了できません。
987102	W	ノードはコールド・スタートされました。
987103	W	電源スイッチからノードの電源オフが要求されました。
987104	I	追加のファイバー・チャンネル・ポートが接続されました。
987301	W	構成済みリモート・クラスター (システム) への接続が失われました。

表 47. 通知イベント (続き)

イベント ID	通知タイプ	説明
987400	W	ノードの電源が突然失われましたが、現在クラスター (システム) に復元されました。
988100	W	夜間保守手順を完了できませんでした。クラスター (システム) で発生しているハードウェアおよび構成に関する問題を解決してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス担当員に連絡してください。
988300	W	アレイ MDisk は、欠落メンバーが多すぎるためにオフラインです。
988301	I	アレイ MDisk の再ビルドが開始されました。
988302	I	アレイ MDisk の再ビルドが終了しました。
988304	I	RAID アレイがアレイ・メンバーの交換を開始しました。
988305	I	RAID アレイがアレイ・メンバーの交換を完了しました。
988306	I	RAID アレイで再同期が必要です。
989001	W	管理対象ディスク・グループ・スペースの警告が発生しました。

構成イベント ID

構成イベント ID は、構成パラメーターが設定されている場合に生成されます。

構成イベント ID は、独立したログに記録されます。通知タイプを生成することも、E メールを送信することはありません。エラー修正済みフラグは無視されません。表 48 に、構成イベント ID とその意味のリストを記載します。

表 48. 構成イベント ID

イベント ID	説明
990101	クラスター (システム) の変更 (chcluster コマンドの属性)
990102	E メール・テストが正常に完了しました。
990103	E メール・テストが失敗しました。
990105	クラスター (システム) からのノードの削除 (rmnode コマンドの属性)
990106	ホストの作成 (mkhost コマンドの属性)
990112	クラスター (システム) 構成がファイルにダンプされました (svcluster -x dumpconfig コマンドの属性)
990117	クラスター (システム) の作成 (mkcluster コマンドの属性)
990118	ノードの変更 (chnode コマンドの属性)
990119	設定済みコントローラー名の構成
990120	ノードのシャットダウン (stopcluster コマンドの属性)
990128	ホストの変更 (chhost コマンドの属性)
990129	ノードの削除 (rmnode コマンドの属性)
990138	ボリュームの変更 (chvdisk コマンドの属性)
990140	ボリュームの削除 (rmvdisk コマンドの属性)

表 48. 構成イベント ID (続き)

イベント ID	説明
990144	ストレージ・プールの変更 (chmdiskgrp コマンドの属性)
990145	ストレージ・プールの削除 (rmdiskgrp コマンドの属性)
990148	ストレージ・プールの作成 (mkmdiskgrp コマンドの属性)
990149	管理対象ディスクの変更 (chmdisk コマンドの属性)
990150	管理対象ディスクの変更
990158	管理対象ディスクが組み込まれました
990159	クォーラムが作成されました
990160	クォーラムの破棄
990168	ボリュームの割り当て先の入出力グループの変更
990169	新規ボリュームの作成 (mkvdisk コマンドの属性)
990173	管理対象ディスクのストレージ・プールへの追加 (addmdisk コマンドの属性)
990174	管理対象ディスクのストレージ・プールからの削除 (rmmdisk コマンドの属性)
990178	ホストへのポートの追加 (addhostport コマンドの属性)
990179	ホストからのポートの削除 (rmhostport コマンドの属性)
990182	ホスト・マッピングの作成 (mkvdiskhostmap コマンドの属性)
990183	ホスト・マッピングの削除 (rmdiskhostmap コマンドの属性)
990184	FlashCopy マッピングの作成 (mkfcmap コマンドの属性)
990185	FlashCopy マッピングの変更 (chfcmap コマンドの属性)
990186	FlashCopy マッピングの削除 (rmfcmap コマンドの属性)
990187	FlashCopy マッピングの準備 (prestartfcmap コマンドの属性)
990188	FlashCopy 整合性グループの準備 (prestartfcconsistgrp コマンドの属性)
990189	FlashCopy マッピングの起動 (startfcmap コマンドの属性)
990190	FlashCopy 整合性グループの起動 (startfcconsistgrp コマンドの属性)
990191	FlashCopy マッピングの停止 (stopfcmap コマンドの属性)
990192	FlashCopy 整合性グループの停止 (stopfcconsistgrp コマンドの属性)
990193	FlashCopy セット名
990194	ホストからのポートのリストの削除 (rmhostport コマンドの属性)
990196	ボリュームの縮小
990197	ボリュームの拡張 (expandvdisksize コマンドの属性)
990198	単一のエクステンツによるボリュームの拡張
990199	ボリュームの入出力管理速度の変更
990203	手動での管理対象ディスクのディスクバリーの開始 (detectmdisk コマンドの属性)
990204	FlashCopy 整合性グループの作成 (mkfcconsistgrp コマンドの属性)

表 48. 構成イベント ID (続き)

イベント ID	説明
990205	FlashCopy 整合性グループの変更 (chfconsistentgrp コマンドの属性)
990206	FlashCopy 整合性グループの削除 (rmfconsistentgrp コマンドの属性)
990207	ホストのリストの削除 (rmhost コマンドの属性)
990213	ノードが属する入出力グループの変更 (chiogrp コマンドの属性)
990216	ソフトウェア・アップグレードの適用 (satask installsoftware コマンドの属性)
990219	イベント・ログの分析 (finderr コマンドの属性)
990220	イベント・ログのダンプ (satask snap コマンドの属性)
990222	イベント・ログ項目の修正 (cherrstate コマンドの属性)
990223	単一エクステントのマイグレーション (migrateexts コマンドの属性)
990224	複数のエクステントのマイグレーション
990225	メトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係の作成 (mkrcrelationship コマンドの属性)
990226	メトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係の変更 (chrcrelationship コマンドの属性)
990227	メトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係の削除 (rmrcrelationship コマンドの属性)
990229	メトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係の開始 (startrcrelationship コマンドの属性)
990230	メトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係の停止 (stoprcrelationship コマンドの属性)
990231	メトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係の切り替え (switchrcrelationship コマンドの属性)
990232	メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー整合性グループの開始 (startrcconsistentgrp コマンドの属性)
990233	メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー整合性グループの停止 (stoprcconsistentgrp コマンドの属性)
990234	メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー整合性グループの切り替え (switchrcconsistentgrp コマンドの属性)
990235	ストレージ・プールにマイグレーションされた管理対象ディスク
990236	新しい管理対象ディスクにマイグレーションされたボリューム
990237	リモート・クラスター (システム) との協力関係の作成 (mkpartnership コマンドの属性)
990238	リモート・クラスター (システム) との協力関係の変更 (chpartnership コマンドの属性)
990239	リモート・クラスター (システム) との協力関係の削除 (rmpartnership コマンドの属性)
990240	メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー整合性グループの作成 (mkrcconsistentgrp コマンドの属性)

表 48. 構成イベント ID (続き)

イベント ID	説明
990241	メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー整合性グループの変更 (chrconsistgrp コマンドの属性)
990242	メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー整合性グループの削除 (rmrconsistgrp コマンドの属性)
990245	ノードの緊急シャットダウン
990246	ノード除去
990247	ノード非保留
990380	時間帯が変更されました (settimezone コマンドの属性)
990383	クラスター (システム) 時間の変更 (setclustertime コマンドの属性)
990385	システム時刻が変更されました
990386	SSH 鍵が追加されました (addsshkey コマンドの属性)
990387	SSH 鍵が除去されました (rmsshkey コマンドの属性)
990388	すべての SSH 鍵が除去されました (rmallsshkeys コマンドの属性)
990390	クラスター (システム) へのノードの追加
990395	ノードをシャットダウンまたはリセットします
990410	ソフトウェア・インストールが開始されました。
990415	ソフトウェア・インストールが完了しました。
990420	ソフトウェア・インストールが失敗しました。
990423	ソフトウェア・インストールが停止しました。
990425	ソフトウェア・インストールが停止しました。
990430	プレーナー・シリアル番号が変更されました。
990501	ライセンス交付を受けたフィーチャーが変更されました。詳しくは、ライセンス設定ログを参照してください。
990510	構成制限が変更されました。
991024	入出力トレースが終了し、管理対象ディスクが起動されました。
991025	ボリュームの自動拡張設定が変更されました。
991026	ボリュームの 1 次コピーが変更されました。
991027	ボリュームの同期速度が変更されました。
991028	シン・プロビジョニング・ボリュームの警告容量が変更されました。
991029	ミラーリングされたコピーがボリュームに追加されました。
991030	ミラーリングされたボリューム・コピーの修復が開始されました。
991031	ミラーリングされたボリュームからボリューム・コピーが分割されました。
991032	ミラーリングされたボリュームからボリューム・コピーが除去されました。

SCSI イベント・レポート

ノードは、実行された SCSI コマンドのイベントをそれらのホストに通知することができます。

SCSI の状況

いくつかのイベントは、SCSI アーキテクチャーの一部であり、イベントを報告せずにホスト・アプリケーションまたはデバイス・ドライバーが処理します。イベントによっては、例えば読み取りまたは書き込みの入出力イベントや、ノードの損失、またはバックエンド装置へのアクセス障害に関連したイベントなど、アプリケーション入出力の失敗を引き起こすものがあります。これらのイベントのトラブルシューティングを行うため、SCSI コマンドには「チェック条件 (Check Condition)」状況が戻され、32 ビットのイベント ID がセンス情報とともに含まれます。この ID は、イベント・ログ内の特定のイベントに関連しています。

ホスト・アプリケーションまたはデバイス・ドライバーがこの情報を収集し、保管する場合、アプリケーション障害をイベント・ログに関連付けることができます。

表 49 は、ノードによって戻される SCSI 状況とコードについて説明しています。

表 49. SCSI の状況

状況	コード	説明
正常 (Good)	00h	コマンドは正常に実行されました。
チェック条件 (Check condition)	02h	コマンドは失敗しました。センス・データが使用できません。
条件合致 (Condition met)	04h	N/A
ビジー (Busy)	08h	自動応答義務条件が存在し、コマンドは NACA=0 を指定しました。
中間 (Intermediate)	10h	N/A
中間 - 条件合致 (Intermediate - condition met)	14h	N/A
予約競合 (Reservation conflict)	18h	予約または永続予約条件が存在している SPC2 および SAM-2 で指定されたとおり戻されました。
タスク・セット・フル (Task set full)	28h	イニシエーターには、このポート上の LUN に対してキューに入れられたタスクが少なくとも 1 つあります。
ACA アクティブ (ACA active)	30h	このコードは、SAM-2 で指定されたとおりに報告されます。
タスク異常終了 (Task aborted)	40h	TAS が制御モード・ページ 0Ch に設定されている場合、このコードが戻されます。ノードのデフォルト設定は TAS=0 で、変更することはできません。したがって、ノードは、この状況を報告しません。

SCSI センス

ノードは、ホストに SCSI コマンド上のイベントを通知します。表 50 では、ノードによって戻される SCSI センス・キー、コードおよび修飾子を定義しています。

表 50. SCSI センス・キー、コード、および修飾子

キー	コード	修飾子	定義	説明
2h	04h	01h	作動不能。論理装置は、作動可能になるための処理を実行中です。	ノードはシステムを確認できないため、入出力操作を実行できません。追加センスには追加情報はありません。
2h	04h	0Ch	作動不能。ターゲット・ポートは無効です。	以下の条件が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> ノードはシステムを確認できないため、入出力操作を実行できません。追加センスには追加情報はありません。 ノードはシステムに接続していますが、バックエンド・コントローラーへの接続が失われたか、または何らかのアルゴリズム上の問題が原因で、指定された論理装置に対して入出力操作を実行できません。オフラインのボリュームについてこのセンスは戻されます。
3h	00h	00h	メディア・イベント	これは、読み取りまたは書き込み入出力に対してのみ戻されます。有効範囲内の特定の LBA で、入出力にイベントが発生しました。イベントの位置は、センス・データ内で報告されます。追加センスには、イベントを対応するイベント・ログ・エントリーに関連付ける理由コードも含まれます。例えば、RAID コントローラー・イベントまたは移行済みメディア・イベントです。
4h	08h	00h	ハードウェア・イベント。論理装置通信コマンドに障害が発生しました。	入出力に、RAID コントローラーが戻した入出力イベントに関連したイベントが発生しました。追加センスには、コントローラーが戻したセンス・データを指す理由コードが含まれます。これは、入出力タイプ・コマンドに対してのみ戻されます。このイベントは、準備済み、および準備中の状態にある FlashCopy ターゲット・ボリュームからも戻されます。

表 50. SCSI センス・キー、コード、および修飾子 (続き)

キー	コード	修飾子	定義	説明
5h	25h	00h	要求が正しくありません。 この論理装置はサポートされていません。	論理装置が存在しないか、コマンド送信側にマップされていません。

理由コード

理由コードは、センス・データのバイト 20 から 23 に出力されます。理由コードは、ノードに特定のログ・エントリを提供します。フィールドは、32 ビットの符号なし番号で、最上位バイトが最初に示されます。表 51 に、理由コードとその定義をリストしています。

表 51 に理由コードがリストされていない場合、そのコードは、関連するイベント・ログのシーケンス番号に対応するイベント・ログ内の特定のイベントを参照します。

表 51. 理由コード

理由コード (10 進数)	説明
40	リソースは、停止済み FlashCopy マッピングの一部です。
50	リソースはメトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係の一部であり、2 次 LUN はオフラインです。
51	リソースはメトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーの一部であり、2 次 LUN は読み取り専用です。
60	ノードがオフラインです。
71	リソースは、いずれのドメインにも結合されていません。
72	リソースは、再作成されたドメインに結合されています。
73	オフラインになったバスのいずれにも起因しない何らかの理由で、適用除外されたノード上で稼働しています。
80	修復が完了するのを待つか、ボリュームを削除します。
81	検証が完了するのを待つか、ボリュームを削除します。
82	オフラインのシン・プロビジョニング・ボリュームにより、ディレクトリー・キャッシュでデータが pinned (滞留) されました。他のシン・プロビジョニング・ボリュームでは、十分なパフォーマンスを実現できないため、オフラインになりました。
85	クォーラム・ディスクへのチェックポイント指定が失敗したため、ボリュームがオフラインになりました。
86	<code>repairvdiskcopy -medium</code> コマンドにより、コピーが異なる仮想メディア・エラーが生じました。

オブジェクト・タイプ

オブジェクト・コードを使用して、オブジェクト・タイプを判別できます。

163 ページの表 52 は、オブジェクト・コードとそれに対応するオブジェクト・タイプをリストしています。

表 52. オブジェクト・タイプ

オブジェクト・コード	オブジェクト・タイプ
1	mdisk
2	mdiskgrp
3	vdisk
4	ノード (node)
5	host
7	iogroup
8	fcgrp
9	rcgrp
10	fcmap
11	rcmap
12	wwpn
13	クラスター (システム)
16	装置 (device)
17	SCSI lun
18	quorum
34	ファイバー・チャンネル・アダプター
38	VDisk のコピー (VDisk copy)
39	Syslog サーバー
40	SNMP サーバー
41	E メール・サーバー
42	ユーザー・グループ
44	クラスター (管理) IP
46	SAS アダプター
	ファイバー・チャンネル・アダプター
	SAS アダプター
	イーサネット・アダプター
	バス・アダプター

エラー・イベント ID およびエラー・コード

エラー・コードは、実行する必要がある保守手順を示します。サービスを必要とする各イベント ID には、関連したエラー・コードがあります。

表 53 に、イベント ID と対応するエラー・コードをリストします。

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
009020	E	自動システム・リカバリーが開始されました。構成コマンドはすべてブロックされます。	1001
009040	E	エラー・イベント・ログは満杯です。	1002

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
009052	W	以下の原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> • ノードが欠落している。 • ノードがシステムの機能メンバーではない。 	1196
009053	E	ノードが 30 分間にわたって欠落しています。	1195
009100	W	ソフトウェア・インストール処理が失敗しました。	2010
009101	W	ソフトウェアのアップグレード・パッケージのデリバリーが失敗しました。	2010
009150	W	SMTP (E メール) サーバーに接続できません。	2600
009151	W	SMTP (E メール) サーバーを介してメールを送信できません。	2601
009170	W	メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー機能の容量が設定されていません。	3030
009171	W	FlashCopy 機能の容量が設定されていません。	3031
009172	W	仮想化機能が、ライセンス交付を受けた量を超過しました。	3032
009173	W	FlashCopy 機能が、ライセンス交付を受けた量を超過しました。	3032
009174	W	メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー機能が、ライセンス交付を受けた量を超過しました。	3032
009175	W	シン・プロビジョニング・ボリュームの使用はライセンスで許可されていません。	3033
009176	W	仮想化機能の容量に設定された値が無効です。	3029
009177	E	物理ディスクの FlashCopy 機能のライセンスが必要です。	3035
009178	E	物理ディスクのメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー機能のライセンスが必要です。	3036
009179	E	仮想化機能のライセンスが必要です。	3025
009180	E	オフライン・ノードの自動リカバリーが失敗しました。	1194
009181	W	E メールを、構成されたいずれの E メール・サーバーにも送信することができません。	3081
009182	W	外部仮想化機能ライセンスの限度を超過しました。	3032
009183	W	LDAP サーバーに接続できません。	2251
009184	W	LDAP 構成が無効です。	2250
009185	E	圧縮機能ライセンスの制限を超過しました。	3032
009186	E	圧縮機能ライセンスの制限を超過しました。	3032
010002	E	ノードは、基本イベント・ソースを使い尽くしました。結果として、ノードはシステムを停止して終了しました。	2030
010003	W	装置ログインの数が削減しました。	1630
010006	E	ソフトウェア・エラーが発生しました。	2030

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
010008	E	ブロック・サイズが無効。管理対象ディスクの初期化中に、容量または LUN の ID が変更されました。	1660
010010	E	過度のエラーのため、管理対象ディスクが除外されました。	1310
010011	E	管理対象ディスクおよびノードに対して、リモート・ポートが除外されました。	1220
010012	E	ローカル・ポートが除外されました。	1210
010013	E	ログインが除外されました。	1230
010017	E	処理に過度の時間を要した結果、タイムアウトが発生しました。	1340
010018	E	エラー・リカバリー手順が行われました。	1370
010019	E	管理対象ディスクの入出力エラーが発生しました。	1310
010020	E	管理対象ディスクのエラー件数がしきい値を超えた。	1310
010021	W	クラスター (システム) に提示された装置が多すぎます。	1200
010022	W	クラスター (システム) に提示された管理対象ディスクが多すぎます。	1200
010023	W	ノードに提示された LUN が多すぎます。	1200
010024	W	クラスター (システム) に提示されたドライブが多すぎます。	1200
010025	W	ディスク入出力のメディア・エラーが発生しました。	1320
010026	W	クォーラム・ディスクとして使用するのに適切な MDisk またはドライブが見つかりません。	1330
010027	W	クォーラム・ディスクが使用不可です。	1335
010028	W	コントローラー構成がサポートされていません。	1625
010029	E	ログイン・トランスポート障害が発生しました。	1360
010030	E	管理対象ディスクのエラー・リカバリー手順 (ERP) が発生しました。ノードまたはコントローラーが以下の報告を行いました。 <ul style="list-style-type: none"> • センス (Sense) • キー • コード • 修飾子 	1370
010031	E	コントローラー上の 1 つ以上の MDisk が機能低下しています。	1623
010032	W	コントローラー構成がフェイルオーバーを制限しています。	1625
010033	E	コントローラー構成が RDAC モードを使用しています。これはサポートされていません。	1624
010034	E	永続的なサポートされないコントローラー構成。	1695
010040	E	コントローラー・システム・デバイスは、単一のイニシエーター・ポートのみを介してノードに接続されています。	1627

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
010041	E	コントローラー・システム・デバイスは、単一のターゲット・ポートのみを介してノードに接続されています。	1627
010042	E	コントローラー・システム・デバイスは、単一のターゲット・ポートのみを介してクラスター (システム) ノードに接続されています。	1627
010043	E	コントローラー・システム・デバイスは、予定のターゲット・ポートの半分のみを介してクラスター (システム) ノードに接続されています。	1627
010044	E	コントローラー・システム・デバイスは、クラスター (システム) ノードへのすべてのターゲット・ポートを切り離しました。	1627
010055	W	SAS 装置が認識されません。	1665
010056	E	SAS エラー件数が警告しきい値を超えました。	1216
010057	E	SAS エラーがクリティカルしきい値を超えました。	1216
010066	W	コントローラーが、2 TB より大きい LUN で記述子のセンスをサポートしないことを示しています。	1625
010067	W	クラスター (システム) に提示されたエンクロージャーが多すぎます。	1200
010070	W	クラスター (システム) に提示されたコントローラー・ターゲット・ポートが多すぎます。	1200
010071	W	単一コントローラーからクラスター (システム) に提示されたターゲット・ポートが多すぎます。	1200
010098	W	クラスター (システム) に提示されたドライブが多すぎます。	1200
020001	E	管理対象ディスクで発生したメディア・エラーが多すぎます。	1610
020002	E	管理対象ディスク・グループがオフラインです。	1620
020003	W	仮想エクステン트가十分ではありません。	2030
029001	W	管理対象ディスクに不良ブロックがあります。	1840
029002	E	すでに MDisk に許可される最大数の不良ブロックがあるため、システムは不良ブロックを作成できませんでした。	1226
029003	E	クラスター化システムの不良ブロックが許可された最大数に既に達しているため、システムは不良ブロックの作成に失敗しました。	1225
030000	W	キャッシュ・フラッシュ障害のため、起動準備コマンドが失敗しました。	1900
030010	W	データ内に示されたエラーのため、マッピングが停止しました。	1910
030020	W	クラスター化システムまたは入出力グループ全体の障害のためにマッピングが停止されており、関係の現行状態をリカバリーできませんでした。	1895

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
050001	W	クラスター化システムまたは入出力グループ全体の障害のために関係が停止されており、マッピングの現行状態をリカバリーできませんでした。	1700
050002	W	メトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係、もしくは整合性グループがクラスター化システム内に存在しますが、その協力関係が削除されました。	3080
050010	W	永続的な入出力エラーのため、グローバル・ミラー関係が停止しました。	1920
050011	W	永続的な入出力エラーのため、リモート・コピーが停止しました。	1915
050020	W	リモート・コピーが停止しました。	1720
050030	W	クラスター (システム) 協力関係が多すぎます。協力関係の数が減らされました。	1710
050031	W	クラスター (システム) 協力関係が多すぎます。システムが除外されました。	1710
050040	W	リモート・コピーのバックグラウンド・コピー・プロセスがブロックされました。	1960
060001	W	スペースが不十分のため、シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーはオフラインです。	1865
060002	W	メタデータが破損しているため、シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーはオフラインです。	1862
060003	W	修復に失敗したため、シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーはオフラインです。	1860
060004	W	スペースが不十分であるため、圧縮ボリューム・コピーはオフラインです。	1865
060005	W	メタデータが破損しているため、圧縮ボリューム・コピーはオフラインです。	1862
060006	W	修復に失敗したため、圧縮ボリューム・コピーはオフラインです。	1860
060007	W	圧縮ボリューム・コピーに不良ブロックがあります。	1850
062001	W	ボリューム・コピーの同期中にメディア・エラーをミラーリングできません。	1950
062002	W	データを同期できないため、ミラーリングされたボリュームはオフラインです。	1870
062003	W	コピー間に相違があるため、ミラーリングされたディスクの修復プロセスが停止しました。	1600
070000	E	認識されないノード・エラー。	1083
070510	E	検出済みメモリー・サイズが、予想されたメモリー・サイズと一致していません。	1022
070517	E	サービス・コントローラーに保管されている WWNN とドライブに保管されている WWNN が一致しません。	1192
070521	E	ファイバー・チャンネル・アダプターを検出できません。	1016

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
070522	E	システム・ボードのプロセッサに障害が発生しています。	1020
070523	W	ノードの内部ディスク・ファイル・システムが損傷しています。	1187
070524	E	BIOS 設定を更新できません。	1027
070525	E	システム・ボードのサービス・プロセッサ・ファームウェアを更新できません。	1020
070528	W	システム起動中の周辺温度が高すぎます。	1182
070550	E	リソース不足のため、クラスター (システム) を形成できません。	1192
070556	E	SAN で重複した WWNN が検出されました。	1192
070558	E	ノードが他のノードと通信できません。	1192
070562	E	ノード・ハードウェアが最小必要要件を満たしていません。	1183
070564	E	ソフトウェア障害が多すぎます。	1188
070565	E	ノードの内部ドライブに障害が起こっています。	1030
070574	E	ノード・ソフトウェアが損傷しています。	1187
070576	E	クラスター (システム) データを読み取れません。	1030
070578	E	電力喪失時にクラスター (システム) データが保存されませんでした。	1194
070580	E	サービス・コントローラー ID を読み取れません。	1044
070581	E	2145 UPS-1U シリアル・リンク・エラー。	1181
070582	E	2145 UPS-1U バッテリー・エラー。	1181
070583	E	2145 UPS-1U 電子部品エラー。	1171
070584	E	2145 UPS-1U が過負荷になっています。	1166
070585	E	2145 UPS-1U 障害です。	1171
070586	E	2145 UPS-1U の電源機構が要件を満たしていません。	1141
070587	E	誤ったタイプの無停電電源装置 (uninterruptible power supply) が検出されました。	1152
070588	E	2145 UPS-1U は正しくケーブル配線されていません。	1151
070589	E	2145 UPS-1U の周辺温度の限度を超過しました。	1136
070590	E	2145 UPS-1U のエラーのためにノードの再起動が繰り返されました。	1186
070670	W	ノードを起動するための 無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の充電が不十分です。	1193
070690	W	ノードはサービス状態で保持されています。	1189
070710	E	高速 SAS アダプターが欠落しています。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルにだけ適用されます。	1120

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
070720	E	イーサネット・アダプターが欠落しています。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルにだけ適用されます。	1072
070840	W	検出されたハードウェアは、有効な構成ではありません。	1198
070841	W	検出されたハードウェアで、活動化が必要です。	1199
072004	E	CMOS バッテリー障害が発生しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルに適用されます。	1670
072005	E	CMOS バッテリー障害が発生しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1670
072006	E	CMOS バッテリー障害が発生しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1670
072007	E	CMOS バッテリー障害が発生しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1670
073003	E	ファイバー・チャンネル・ポートは操作できません。	1060
073005	E	クラスター (システム) パス障害。	1550
073006	W	SAN が正しくゾーニングされていません。その結果、512 を超える SAN 上のポートが、1 つの SAN ボリューム・コントローラー・ポートにログインしています。	1800
073101	E	スロット 1 の 2 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター・カードが欠落しています。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 モデルにだけ適用されます。	1014
073102	E	スロット 1 の 2 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターに障害があります。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 モデルにだけ適用されます。	1054
073104	E	スロット 1 の 2 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが、PCI バス・エラーを検出しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 モデルにだけ適用されます。	1017
073201	E	スロット 2 の 2 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが欠落しています。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 モデルにだけ適用されます。	1015
073202	E	スロット 2 の 2 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターに障害があります。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 モデルにだけ適用されます。	1056

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
073204	E	スロット 2 の 2 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが、PCI バス・エラーを検出しました。このエラーは、SAN ポリウム・コントローラー 2145-8F2 モデルにだけ適用されます。	1018
073251	E	スロット 1 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが欠落しています。このエラーは、SAN ポリウム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1011
073252	E	スロット 1 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターに障害があります。このエラーは、SAN ポリウム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1055
073258	E	スロット 1 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが、PCI バス・エラーを検出しました。このエラーは、SAN ポリウム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1013
073261	E	スロット 1 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが、PCI バス・エラーを検出しました。このエラーは、SAN ポリウム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1011
073262	E	スロット 1 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが、PCI バス・エラーを検出しました。このエラーは、SAN ポリウム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1055
073268	E	スロット 1 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが、PCI バス・エラーを検出しました。このエラーは、SAN ポリウム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1013
073271	E	スロット 1 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが、PCI バス・エラーを検出しました。このエラーは、SAN ポリウム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ポリウム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1011
073272	E	スロット 1 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが、PCI バス・エラーを検出しました。このエラーは、SAN ポリウム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ポリウム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1055
073278	E	スロット 1 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが、PCI バス・エラーを検出しました。このエラーは、SAN ポリウム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ポリウム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1013

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
073301	E	スロット 2 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが欠落しています。このエラーは、SAN ポリリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルにだけ適用されます。	1016
073302	E	スロット 2 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターに障害があります。このエラーは、SAN ポリリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルにだけ適用されます。	1057
073304	E	スロット 2 の 4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプターが、PCI バス・エラーを検出しました。このエラーは、SAN ポリリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルにだけ適用されます。	1019
073305	W	1 つ以上のファイバー・チャンネル・ポートが、最後に保存された速度よりも遅い速度で実行されています。	1065
073310	E	重複するファイバー・チャンネル・フレームが検出されました。これはファイバー・チャンネル・ファブリックに問題があることを示しています。他のファイバー・チャンネル・エラーも生成される場合があります。	1203
074001	W	FRU の重要製品データ (VPD) を判別することができません。おそらく、新規の FRU がインストールされ、ソフトウェアが、その FRU を認識していないためです。クラスター (システム) は作動し続けますが、ソフトウェアをアップグレードして、この警告を修正する必要があります。	2040
074002	E	ソフトウェア・エラーの後、ノードがウォーム・スタートしました。	2030
074003	W	接続問題のため、構成済みのリモート・システムへの接続が失われました。	1715
074004	W	マイナー・エラーが多すぎるため、構成済みのリモート・システムへの接続が失われました。	1716
075001	E	フラッシュ・ブート・デバイスに障害があります。このエラーは、SAN ポリリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ポリリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルに適用されます。	1040
075002	E	フラッシュ・ブート・デバイスが回復しました。このエラーは、SAN ポリリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ポリリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルに適用されます。	1040
075005	E	サービス・コントローラーの読み取り障害が発生しました。このエラーは、SAN ポリリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ポリリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルに適用されます。	1044

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
075011	E	フラッシュ・ブート・デバイスに障害があります。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1040
075012	E	フラッシュ・ブート・デバイスが回復しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1040
075015	E	サービス・コントローラーの読み取り障害が発生しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1044
075021	E	フラッシュ・ブート・デバイスに障害があります。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1040
075022	E	フラッシュ・ブート・デバイスが回復しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1040
075025	E	サービス・コントローラーの読み取り障害が発生しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1044
075031	E	フラッシュ・ブート・デバイスに障害があります。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1040
075032	E	フラッシュ・ブート・デバイスが回復しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1040
075035	E	サービス・コントローラーの読み取り障害が発生しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルにのみ適用されます。	1044
076001	E	ノードの内部ディスクに障害が発生しています。	1030
076002	E	ハード・ディスクがフルのため、これ以上の出力を収集することができません。	2030
076401	E	ノード内の 2 つの電源機構の一方が、障害を起こしています。	1096
076402	E	ノード内の 2 つの電源機構の一方を検出できません。	1096
076403	E	ノード内の 2 つの電源機構の一方に電力が供給されていません。	1097
076501	E	高速 SAS アダプターが欠落しています。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 モデルにだけ適用されます。	1120
076502	E	高速 SAS アダプターの PCIe レーンの機能が低下しています。	1121

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
076503	E	高速 SAS アダプターで PCI バス・エラーが発生しました。	1121
076504	E	高速 SAS アダプターで PCI バスのリセットが必要です。	1122
076505	E	高速 SAS アダプターで重要製品データ (VPD) が壊れています。	1121
077101	E	サービス・プロセッサは、ファン 40x40x28 障害を示しています。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルの両方に適用されます。	1090
077102	E	サービス・プロセッサは、ファン 40x40x56 障害を示しています。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルの両方に適用されます。	1091
077105	E	サービス・プロセッサは、ファン障害を示しています。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1089
077106	E	サービス・プロセッサは、ファン障害を示しています。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1089
077107	E	サービス・プロセッサは、ファン障害を示しています。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1089
077111	E	ノードの周辺温度がしきい値を超えました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルの両方に適用されます。	1094
077112	E	ノード・プロセッサの警告温度がしきい値を超えました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルの両方に適用されます。	1093
077113	E	ノード・プロセッサ、または周辺の重要なしきい値が超過しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルの両方に適用されます。	1092
077121	E	システム・ボード - 高電圧です。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルの両方に適用されます。	1100
077124	E	システム・ボード - 低電圧です。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルの両方に適用されます。	1105

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
077128	E	電源管理ボードの電圧障害が発生しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 モデルの両方に適用されます。	1110
077161	E	ノードの周辺温度がしきい値を超えました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1094
077162	E	ノード・プロセッサの警告温度がしきい値を超えました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1093
077163	E	ノード・プロセッサ、または周辺の重要なしきい値が超過しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1092
077165	E	ノードの周辺温度がしきい値を超えました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1094
077166	E	ノード・プロセッサの警告温度がしきい値を超えました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1093
077167	E	ノード・プロセッサ、または周辺の重要なしきい値が超過しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1092
077171	E	システム・ボード - 高電圧です。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1101
077172	E	システム・ボード - 高電圧です。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1101
077173	E	システム・ボード - 高電圧です。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1101
077174	E	システム・ボード - 低電圧です。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1106
077175	E	システム・ボード - 低電圧です。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 モデルにだけ適用されます。	1106
077176	E	システム・ボード - 低電圧です。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 モデルにだけ適用されます。	1106
077178	E	電源管理ボードの電圧障害が発生しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 モデルにだけ適用されます。	1110

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
077185	E	ノードの周辺温度がしきい値を超えました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1094
077186	E	ノード・プロセッサの警告温度がしきい値を超えました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1093
077187	E	ノード・プロセッサ、または周辺の重要なしきい値が超過しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1092
077188	E	電源管理ボードの電圧障害が発生しました。このエラーは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。	1110
078001	E	電源ドメイン・エラーが発生しました。一対の両方のノードが、同じ 無停電電源装置 (uninterruptible power supply) から電源供給されています。	1155
079500	W	クラスター (システム) セキュア・シェル (SSH) セッション数の制限に達しました。	2500
079501	I	Network Time Protocol (NTP) ネットワーク・タイム・サーバーにアクセスできません。	2700
081001	E	イーサネット・ポート障害が発生しました。	1400
082001	E	サーバー・エラーが発生しました。	2100
083101	E	無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の通信障害が発生しました。ノードとその 無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の間の RS232 接続に障害があります。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	1146
083102	E	無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の出力が予想外に高くなっています。おそらく、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) は SAN ボリューム・コントローラー・ロード以外に接続されています。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	1166
083103	E	無停電電源装置 (uninterruptible power supply) のバッテリーが耐用年数の終わりに達しました。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	1191
083104	E	無停電電源装置 (uninterruptible power supply) のバッテリーに障害が発生しました。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	1181
083105	E	無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の電子部品障害が発生しました。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	1171

表 53. エラー・イベント ID およびエラー・コード (続き)

イベント ID	通知タイプ	状態	エラー・コード
083107	E	無停電電源装置 過電流。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	1161
083108	E	無停電電源装置 (uninterruptible power supply) に障害が発生しました。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	1186
083109	E	無停電電源装置 AC 入力電源障害。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	1141
083110	E	無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の構成エラーが発生しました。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	1151
083111	E	無停電電源装置 の周辺温度オーバー。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	1136
083112	E	無停電電源装置 の温度オーバー警告。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	3001
083113	E	無停電電源装置 (uninterruptible power supply) のソフトウェア・エラーが発生しました。このエラーは、2145 UPS-1U モデルにだけ適用されます。	3011
084000	W	アレイ MDisk がメンバーを構成解除したため、冗長性を失いました。	1689
084100	W	アレイ MDisk はメタデータの消失により破損しました。	1240
084200	W	アレイ MDisk はスペア・メンバーを取り込みましたが、そのスペアはアレイの目標に完全には一致していません。	1692
084201	W	アレイに、異なる入出力グループにあるメンバーが存在します。	1688
084300	W	アレイ MDisk は十分な数の適切なスペアによって保護されなくなりました。	1690
084500	W	アレイ MDisk がオフラインです。未完了書き込みのメタデータは欠落ノード上にあります。	1243
084600	W	アレイ MDisk がオフラインです。欠落ノードのメタデータに、必要な状態情報が含まれています。	1243

ハードウェア・ブート障害の判別

ハードウェア・ブート中に、進行中メッセージを確認することができます。ブートを続行できない状態が検出されると、ブートは失敗します。その原因は、ハード・ディスク上のソフトウェアが欠落しているか損傷している可能性があります。可能な場合は、SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアをブート・シーケンスで読み込んで開始します。検出されたすべての障害は、ノード・エラーとして報告されます。

始める前に

フロント・パネルの行 1 は、メッセージ「ブート中」とそれに続くブート・コードを表示します。画面の行 2 は、ブート進行インディケータを表示します。ブー

ト・コードがブートを続行できないエラーを検出すると、「障害」が表示されま
す。コードを使用して障害を切り分けることができます。

次の図は、ハードウェア・ブート表示の例を示しています。



図 66. ブート・エラー・コードの例

このタスクについて

ブート障害を判別するには、次のステップを実行します。

手順

1. ノード・レスキュー手順を使用して、ソフトウェアの復元を試みます。
2. ノード・レスキューが失敗した場合は、任意の障害ノード・レスキュー・コード
または手順に説明されている処置を実行してください。

ブート・コード・リファレンス

ブート・コードは、ノードをブートする際に表示画面に表示されます。

コードは、ブート操作の進行状況を示します。フロント・パネルの行 1 は、メッセ
ージ「ブート中」とそれに続くブート・コードを表示します。画面の行 2 は、ブー
ト進行インディケータを表示します。図 67 は、ブート進行の表示を示します。



図 67. ブート進行表示の例

ノード・エラー・コードの概要

ノード・エラー・コードは、特定のノードに関連する障害を記述します。ノード・
レスキュー・コードは、ノード・レスキューの実行時にメニュー画面に表示されま
す。

ノード・エラーはノードに固有のものであるため (例えば、メモリーの障害)、エラ
ーはそのノードでのみ報告されます。

各コードは、ノードがクラスター化システムのメンバーになるのを妨げるクリティ
カル・エラーが検出されたことを示します。メニュー画面の行 1 には、メッセージ
「ノード・エラー (Node Error)」が入ります。

2 行目には、エラー・コード、またはエラー・コードと追加データが入ります。複数の電源機構をもつノードに関連のあるエラーでは、エラー・コードの後に 2 つの番号が続いています。最初の番号は、問題のある電源機構を示します。(1 または 2)。2 番目の番号は、検出された問題を示します。

図 68 は、ノード・エラー・コードの例です。このデータは、メニュー画面の最大幅を超える場合があります。右移動ナビゲーションを押して、表示をスクロールすることができます。

A black rectangular box with white text. The text is arranged in two lines: the first line reads "ノード・エラー:" and the second line reads "550 000125".

図 68. 表示されるノード・エラー・コードの例

追加データは、すべてのエラー・コードで固有です。これは、オフライン環境での問題の特定を可能にする必要情報を提供します。追加データの例は、ディスク・シリアル番号と現場交換可能ユニット (FRU) ロケーション・コードです。これらのコードが表示されているときは、デフォルト・メニューをナビゲートし、ノードおよびファイバー・チャンネル・ポートの状況を判別して、追加の障害分離を行えます。

ノード・エラーには、クリティカル・ノード・エラーと非クリティカル・ノード・エラーの 2 つのタイプがあります。

クリティカル・エラー

クリティカル・エラーは、ノードがクラスター化システムに結合されるのを妨げている問題が解決するまで、ノードがクラスター化システムに参加できないことを意味します。このエラーは、ハードウェアの一部で障害が発生したか、システムがソフトウェアの破損を検出したことが原因で発生します。ノードでクリティカル・ノード・エラーが発生した場合、ノードはサービス状態になり、ノードの障害 LED がオンになります。例外は、ノードがクラスター化システムを形成するために十分なリソースに接続できない場合です。この場合にもクリティカル・ノード・エラーが示されますが、ノードは開始中の状態です。エラーを優先順位の順序で解決してください。クリティカル・エラー用に予約されたエラーの範囲は 500 から 699 です。

非クリティカル・エラー

非クリティカル・エラー・コードは、1 つのみの特定ノードに関連したハードウェアまたはソフトウェアの障害が発生した場合にログに記録されます。これらのエラーにより、ノードがアクティブ状態になってクラスター化システムに結合することは停止されません。ノードがクラスター化システムの一部である場合、エラー状態を示すアラートも出されます。非クリティカル・エラー用に予約されているエラー範囲は 800 から 899 です。

ノード・レスキュー・コード

ノード・レスキューを開始するには、電源オン・サイクルの間に、フロント・パネルの「左」ボタンと「右」ボタンを押し続けます。メニュー画面がノード・レスキュー要求を表示します。ノード・レスキュー要求のトピックを参照してください。

ハード・ディスクがフォーマット設定され、フォーマット設定がエラーなしに完了した場合は、ソフトウェア・イメージが使用可能なノードからダウンロードされます。ノード・リカバリーの際、メニュー画面の行 1 は、メッセージ「ブート」と、それに続くノード・レスキュー・コードのいずれかを表示します。メニュー画面の行 2 は、「ブート進行インディケーター」を表示します。図 69 は、表示されるノード・レスキュー・コードの例を示します。



図 69. ノード・レスキュー・エラー・コードの例

図 69 に表示された 3 桁コードは、ノード・レスキュー・コードを表します。

注: 2145 UPS-1U は、ノード・レスキュー障害の後で電源オフになりません。

クラスター化システム・コードの概要

クラスター化システム作成のエラー・コードは、フロント・パネルを使用して新しいシステムを作成しようとし、その作成操作が失敗した際にメニュー画面上に表示されます。クラスター化システムのリカバリー・コードは、システムを破損する可能性のある重大なソフトウェア・エラーが発生したことを示します。クラスター化システムのエラー・コードは、作成エラーおよびリカバリー・エラー以外のエラーを記述します。それぞれのエラー・コードのトピックには、エラー・コード番号、説明、アクション、および可能性のある現場交換可能ユニット (FRU) が記載されています。

クラスター化システム作成のエラー・コード

図 70 は、作成エラー・コードの例です。



図 70. クラスター化システムの作成エラー・コードの例

メニュー画面の行 1 には、メッセージ「作成が失敗しました (Create Failed)」が入ります。行 2 には、エラー・コードと、必要な場合は追加のデータが表示されます。

クラスター化システムのリカバリーのエラー・コード

ご使用の構成が破損する可能性を回避するために、操作を引き続き実行する前に、ソフトウェア問題分析を実行する必要があります。

180 ページの図 71 は、リカバリー・エラー・コードの例です。

ノード・エラー: 901

図 71. リカバリー・エラー・コードの例

クラスター化システムのエラー・コード

クラスター化システムのエラー・コードは、リカバリー・エラー以外のエラーを記述します。

図 72 は、クラスター化システムのエラー・コードの例です。

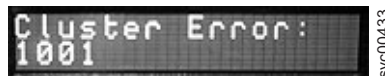


図 72. クラスター化システムのエラー・コードの例

エラー・コードの範囲

このトピックでは、メッセージの種別ごとに番号の範囲を示します。

表 54 に、メッセージの種別ごとの番号の範囲をリストします。

表 54. メッセージの種別ごとの番号の範囲

メッセージの種別	範囲	
コードのブート	100-299	
ノード・エラー	ノード・レスキュー・エラー	300-399
	ログのみのノード・エラー	400-499
	クリティカル・ノード・エラー	500-699
	非クリティカル・ノード・エラー	800-899
クラスター化システムの作成時のエラー・コード	700, 710	
クラスター化システムのリカバリー時のエラー・コード	920, 990	
クラスター化システムに関するエラー・コード	1001-3081	

コードのブート

100 ブートの実行中

説明: SAN ボリューム・コントローラー・ノードが起動しました。診断を実行して、ランタイム・コードをロードしています。

ユーザーの処置: この問題を解決するには、ハードウェア・ブート MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

180 SAN ボリューム・コントローラー: トラブルシューティング・ガイド

- サービス・コントローラー (47%)
- サービス・コントローラー・ケーブル (47%)
- システム・ボード・アセンブリー (6%)

2145-8G4 または 2145-8A4

- サービス・コントローラー (95%)
- システム・ボード (5%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- サービス・コントローラー (95%)
- フレーム・アセンブリー (5%)

120 ディスク・ドライブのハードウェア・エラー

説明: ノードの内部ディスク・ドライブがエラーを報告しました。ノードを始動できません。

ユーザーの処置: ブート・ディスク・ドライブと、関連するすべてのケーブルが適切に接続されていることを確認し、該当の FRU を新しい FRU に交換します。(『考えられる原因 - FRU またはその他』を参照してください。)

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CF8 または 2145-CG8

- ディスク・ドライブ (50%)
- ディスク・コントローラー (30%)
- ディスク・バックプレーン (10%)
- ディスク・シグナル・ケーブル (8%)
- ディスク電源ケーブル (1%)
- システム・ボード (1%)

2145-8G4 または 2145-8A4

- ディスク・ドライブ・アセンブリー (95%)
- ディスク・ケーブル・アセンブリー (4%)
- システム・ボード (1%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- ディスク・ドライブ・アセンブリー (98%)
- フレーム・アセンブリー (2%)

130 内部ディスク・ファイル・システムの検査

説明: ノードの内部ディスク・ドライブのファイル・システムは、不整合について検査されています。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが 5 分間停止したら、ノードを電源オフして、次にノードを電源オンします。この時点でブート処理が再度停止した場合は、ノード・レスキュー手順を実行してください。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし。

132 ノードの BIOS 設定の更新

説明: システムは、ノードの BIOS 設定を変更する必要があることを検出しました。これらの変更を実行中です。変更が完了すると、ノードは再起動します。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが 10 分よりも多く停止していた場合、またはディスプレイにコード 100 と 132 を 3 回以上表示した場合は、MAP 5900 (問題解決のためのハードウェア・ブート) に進みます。

135 ソフトウェアの検査

説明: ノードのソフトウェア・パッケージは健全性について検査されています。

ユーザーの処置: 検査プロセスを完了させます。

137 システム・ボードのサービス・プロセッサ・ファームウェアの更新

説明: ノードのサービス・プロセッサ・ファームウェアは新しいレベルに更新されています。このプロセスには、90 分かかります。進行中にノードを再起動しないでください。

ユーザーの処置: 更新プロセスを完了させます。

150 クラスタ・コードをロード中

説明: SAN ポリウム・コントローラー・コードがロードされています。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが 90 秒間停止したら、ノードを電源オフして、次にノードを電源オンします。この時点でブート処理が再度停止した場合は、ノード・レスキュー手順を実行してください。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし。

155 クラスタ・データをロード中

説明: 保存済みのクラスタ状態およびキャッシュ・データがロードされています。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが 5 分間停止したら、ノードを電源オフして、次にノードを電源オンします。この時点でブート処理が再度停止した場合は、ノード・レスキュー手順を実行してください。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし。

160 サービス・コントローラーの更新

説明: サービス・コントローラーのファームウェアの更新中です。これには、30 分かかります。

ユーザーの処置: ノード・レスキューが発生している時点では、進行状況表示バーが少なくとも 30 分間停止したら、その FRU を新しい FRU と交換します。ノード・レスキューが発生していない時点では、進行状況表示バーが少なくとも 15 分間停止していたら、その FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- サービス・コントローラー (95%)
- サービス・コントローラー・ケーブル (5%)

前のすべての 2145 モデル

- サービス・コントローラー (100%)

170 フラッシュ・モジュールのハードウェア・エラーが発生しました。

説明: フラッシュ・モジュールのハードウェア・エラーが発生しました。

クラスタの作成エラー**870 カウンターの最大数に達したため、クラスタを作成できません。**

説明: ノードが新規クラスタを作成するたびに、固有の ID がそのノードのサービス・コントローラーにより生成されます。255 個のクラスタが作成された後は、サービス・コントローラーを交換する必要があります。

ユーザーの処置: クラスタの作成には別のノードを使用します。

871 カウンターのインクリメントが失敗したノード・エラー**300 2145 がノード・レスキューを実行しています。**

説明: 2145 がノード・レスキューを実行しています。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが少なくとも 2 分間停止したら、FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- サービス・コントローラー (95%)
- サービス・コントローラー・ケーブル (5%)

ユーザーの処置: FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- サービス・コントローラー (95%)
- サービス・コントローラー・ケーブル (5%)

前のすべての 2145 モデル

- サービス・コントローラー (100%)

182 無停電電源装置の確認

説明: ノードは、無停電電源装置が正常に作動しているかどうかを確認しています。

ユーザーの処置: 確認プロセスを完了させます。

232 無停電電源装置の接続の確認

説明: ノードは、電源ケーブルとシグナル・ケーブルの無停電電源装置への接続が正常かどうかを確認しています。

ユーザーの処置: 確認プロセスを完了させます。

め、クラスタを作成できません。

説明: サービス・コントローラーは、新しいクラスタ ID を要求したとき、ID カウンターを増やす必要があります。新しい ID は、確認のため戻されます。ID カウンターが増やされなかった場合は、このエラー・コードが表示されます。このエラーは、サービス・コントローラーに障害が起こったために発生しました。

ユーザーの処置: FRU を新しい FRU と交換します。

2145-8F2 または 2145-8F4 または 2145-8G4 または 2145-8A4

- サービス・コントローラー (100%)

310 2145 がフォーマット操作を実行していません。

説明: 2145 がフォーマット操作を実行しています。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが 2 分間停止したら、FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- ディスク・ドライブ (50%)
- ディスク・コントローラー (30%)
- ディスク・バックプレーン (10%)
- ディスク・シグナル・ケーブル (8%)
- ディスク電源ケーブル (1%)
- システム・ボード (1%)

2145-8G4 または 2145-8A4

- ディスク・ドライブ・アセンブリー (90%)
- ディスク・ケーブル・アセンブリー (10%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- ディスク・ドライブ・アセンブリー (100%)

320 **2145 のフォーマット操作が失敗しました。**

説明: 2145 のフォーマット操作が失敗しました。

ユーザーの処置: FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- ディスク・ドライブ (50%)
- ディスク・コントローラー (30%)
- ディスク・バックプレーン (10%)
- ディスク・シグナル・ケーブル (8%)
- ディスク電源ケーブル (1%)
- システム・ボード (1%)

2145-8G4 または 2145-8A4

- ディスク・ドライブ・アセンブリー (90%)
- ディスク・ケーブル・アセンブリー (10%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- ディスク・ドライブ・アセンブリー (95%)
- フレーム・アセンブリー (5%)

330 **2145 が、そのディスク・ドライブを区画化しています。**

説明: 2145 が、そのディスク・ドライブを区画化しています。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが 2 分間停止したら、FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- ディスク・ドライブ (50%)
- ディスク・コントローラー (30%)
- ディスク・バックプレーン (10%)
- ディスク・シグナル・ケーブル (8%)
- ディスク電源ケーブル (1%)
- システム・ボード (1%)

2145-8G4 または 2145-8A4

- ディスク・ドライブ・アセンブリー (90%)
- ディスク・ケーブル・アセンブリー (10%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- ディスク・ドライブ・アセンブリー (95%)
- フレーム・アセンブリー (5%)

その他:

- 構成問題
- ソフトウェア・エラー

340 **2145 がドナー・ノードを検索していません。**

説明: 2145 がドナー・ノードを検索しています。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが 2 分を超えて停止したら、FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- ファイバー・チャンネル・アダプター (100%)

345 **2145 がソフトウェアをコピーするためのコピー元のドナー・ノードを検索していません。**

説明: このノードは 1 Gb/s でドナー・ノードを検索します。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが 2 分を超えて停止したら、FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- ファイバー・チャンネル・アダプター (100%)

350 **2145 がドナー・ノードを検出できません。**

説明: 2145 がドナー・ノードを検出できません。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが 2 分を超えて停止したら、次の手順を実行します。

1. ファイバー・チャンネル・ケーブルのすべてが、クラスターに正しくしっかりと接続されていることを確認します。

- 他の少なくとも 1 つのノードが操作可能で、同じファイバー・チャンネル・ネットワークに接続されていて、ドナー・ノードの候補であるか確認します。あるノードにインストール済みのソフトウェア・バージョンが、レスキュー対象ノードのモデル・タイプをサポートしている場合、そのノードはドナー・ノード候補になります。
- ファイバー・チャンネル・ゾーニングで、レスキュー対象ノードとドナー・ノード候補との間の接続が可能になっていることを確認します。
- ネットワークに対して問題判別手順を行います。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- ファイバー・チャンネル・ネットワークの問題

360 2145 がドナーからソフトウェアをロードしています。

説明: 2145 がドナーからソフトウェアをロードしています。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが少なくとも 2 分間停止したら、ノード・レスキュー手順を再始動してください。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

365 ドナーから SW をロードできません

説明: なし。

ユーザーの処置: なし。

370 ソフトウェアのインストール

説明: 2145 がソフトウェアをインストールしていません。

ユーザーの処置:

- このコードが表示され、進行状況表示バーが少なくとも 10 分間停止した場合、ソフトウェア・インストール・プロセスは予期しないソフトウェア・エラーで失敗しています。
- 2145 を電源オフして、60 秒待ちます。
- 2145 の電源をオンにします。ソフトウェア・アップグレード操作は続行します。
- この問題を、直ちにソフトウェア・サポートに報告してください。

考えられる原因 - FRU またはその他:

184 SAN ボリューム・コントローラー: トラブルシューティング・ガイド

- なし

510 検出済みメモリー・サイズが、予想されたメモリー・サイズと一致していません。

説明: 検出されたメモリー・サイズ (MB 単位) は、エラー・コードに続く最初の数値です。予想されたクラスターのメモリー・サイズは、エラー・コードに続く 2 番目の数値です。この問題は、メモリー・モジュールに障害があるか、または障害のあるメモリー・モジュールを交換し、間違ったサイズのモジュールを取り付けたために起る場合があります。

ユーザーの処置: 同じクラスター内の別の 2145 のメモリー・サイズを検査します。2145-8F2、2145-8F4、2145-8G4、2145-8A4、2145-CF8、および 2145-CG8 では、メモリー・モジュールを交換したばかりであれば、取り付けたモジュールが正しいサイズであることを確認し、ライト・パス MAP に進んで、障害の可能性があるメモリー・モジュールを特定します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- メモリー・モジュール (100%)

511 2145 のメモリー・バンク 1 に障害が起っています。

説明: 2145 のメモリー・バンク 1 に障害が起っています。

ユーザーの処置: 2145-8F2、2145-8F4、2145-8G4 および 2145-8A4 の場合は、この問題を解決するには、ライト・パス MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- メモリー・モジュール (100%)

513 2145 のメモリー・バンク 2 に障害が起っています。

説明: 2145 のメモリー・バンク 2 に障害が起っています。

ユーザーの処置: 2145-8F2、2145-8F4、2145-8G4 および 2145-8A4 の場合は、この問題を解決するには、ライト・パス MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- メモリー・モジュール (100%)

514 2145 のメモリー・バンク 3 に障害が起っています。

説明: 2145 のメモリー・バンク 3 に障害が起っています。

ユーザーの処置: 2145-8F2、2145-8F4、2145-8G4 およ

び 2145-8A4 の場合は、この問題を解決するには、ライト・バス MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- メモリー・モジュール (100%)

515 2145 のメモリー・バンク 4 に障害が起っています。

説明: 2145 のメモリー・バンク 4 に障害が起こっています。

ユーザーの処置: 2145-8F2、2145-8F4、2145-8G4 および 2145-8A4 の場合は、この問題を解決するには、ライト・バス MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- メモリー・モジュール (100%)

517 サービス・コントローラーとディスクの WWNN が一致しません。

説明: ノードが、使用すべき WWNN を判別できません。原因は、サービス・コントローラーまたはノードの内蔵ドライブが取り替えられたためです。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの順に従い、ノードの WWNN を構成します。

1. サービス・コントローラーまたはディスクのハードウェアの取り外しおよび取り替え手順を続行します。これらの手順で、サービス・アクションが説明されています。
2. ハードウェアの取り外しおよび取り替え手順に従っていない場合、正しい WWNN を判別します。この情報を記録していない場合、ファイバー・チャンネル・スイッチ構成を調べて、そこにリストされているかどうかを確認します。ノードの WWNN を変更する手順に従います。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

521 ファイバー・チャンネル・アダプターを検出できません。

説明: 2145 がファイバー・チャンネル・アダプター・カードを何も検出できません。

説明: 2145 がファイバー・チャンネル・アダプター・カードを何も検出できません。

ユーザーの処置: ファイバー・チャンネル・アダプター・カードが取り付け済みであることを確認します。ライザー・カード上にファイバー・チャンネル・カードが正しく取り付けられていることを確認します。ライザー・

カードがシステム・ボード上に正しく取り付けられていることを確認します。問題が解決しない場合は、示された順序で各 FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター・アセンブリー (4 ポート) (95%)
- システム・ボード・アセンブリー (5%)

2145-8G4 または 2145-8A4

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (80%)
- ライザー・カード (19%)
- システム・ボード (1%)

2145-8F4

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (99%)
- フレーム・アセンブリー (1%)

2145-8F2

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (フルハイト) (40%)
- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (ロー・プロファイル) (40%)
- ライザー・カード、PCI (フルハイト) (9%)
- ライザー・カード、PCI (ロー・プロファイル) (9%)
- フレーム・アセンブリー (2%)

522 システム・ボードのサービス・プロセッサに障害が発生しています。

説明: システム・ボード上のサービス・プロセッサで障害が起きました。

ユーザーの処置: FRU を新しい FRU と交換します。(『考えられる原因 - FRU またはその他』を参照してください。)

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4、2145-8A4、2145-CF8、または 1245-CG8

- システム・ボード・アセンブリー (100%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- フレーム・アセンブリー (100%)

523 内部ディスク・ファイル・システムが損傷しています。

説明: ノードの起動プロシージャで、ノードの内部ディスク上のファイル・システムの問題が検出されました。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従い、ソフトウェアを再ロードします。

1. もう一方のノードからノードのソフトウェアをレスキューする手順に従います。
2. ノードのレスキューを正常に実行できない場合、ハードウェアの取り外しおよび取り替え手順を使用します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- ディスク・ドライブ (100%)

524 BIOS 設定を更新できません。

説明: BIOS 設定を更新できません。

ユーザーの処置: ノードの電源をオフにして、30 秒待ってから、再び電源をオンにします。このエラー・コードが依然としてレポートされる場合は、システム・ボードを交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- システム・ボード (100%)

525 システム・ボードのサービス・プロセッサ・ファームウェアを更新できません。

説明: システム・ボードのサービス・プロセッサ・ファームウェアの更新処理は、最大 90 分かかかる可能性があります。

ユーザーの処置: 進行状況表示バーが 90 分を超えて停止状態にある場合、電源オフしてそのノードをリポートします。ブート進行状況表示バーがこのコードで再度停止したら、表示されている FRU を交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4、2145-8A4、2145-CF8、または 2145-CG8

- システム・ボード (100%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- フレーム・アセンブリー (100%)

528 システム起動中の周辺温度が高すぎます。

説明: ノードの起動プロシージャ中に読み取られた周辺温度は、ノードが続行するには高すぎます。温度が範囲内である場合、起動プロシージャは続行します。

ユーザーの処置: システム周辺の温度を下げます。

1. 以下の点を検査して修正し、周辺温度の問題を解決します。
 - a. 室内温度および空調
 - b. ラック周辺の通気
 - c. ラック内部の空気の流れ

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 環境の問題 (100%)

530 ノードの電源機構のうちの 1 つに関する問題が検出されました。

説明: 530 エラー・コードの後に 2 つの番号が続いています。最初の番号は 1 または 2 で、どの電源機構に問題があるかを示します。

2 番目の番号は、1、2 または 3 で、理由を示します。1 は、電源機構が検出されないことを示します。2 は、電源機構に障害が起きたことを示します。3 は、電源機構への入力電源がないことを示します。

ノードがクラスターのメンバーである場合は、クラスターは、エラーの理由に応じてエラー・コード 1096 または 1097 を報告します。

エラーは、問題が修正されると、自動的にクリアされます。

ユーザーの処置:

1. 電源機構が正しく取り付けられていること、および電源ケーブルがノードと 2145 UPS-1U の両方に正しく接続されていることを確認します。
2. 2 分後にこのエラーに自動的に修正済みのマークが付かない場合、電源機構の後部にある 3 つの LED の状況をメモします。2145-CG8 または 2145-CF8 の場合、AC LED は上部の緑色の LED、DC LED は中央の緑色の LED、エラー LED は下部のこはく色の LED です。
3. 電源機構エラー LED がオフで、AC および DC 電源 LED が両方ともオンである場合、これが正常な状態です。2 分後にエラーが自動的に修正されない場合、システム・ボードを交換します。
4. 下記の表に記載されている LED の状態に指定されたアクションを実行します。
5. 2 分後にエラーが自動的に修正されない場合、サポートに連絡してください。

エラー、AC、DC: アクション

ON、ON または OFF、ON または OFF: 電源機構に障害があります。電源機構を交換してください。

OFF、OFF、OFF: 電源が検出されません。電源ケーブルがノードと 2145 UPS-1U に接続されていることを確認してください。AC LED が点灯しない場合、2145 UPS-1U がエラーを示しているかどうかを確認します。UPS-1U がエラーを示している場合、MAP 5150 2145 UPS-1U に従います。そうでない場合は、電源ケーブルを交換します。AC LED が引き続き点灯しない場合、電源機構を交換します。

OFF、OFF、ON: 電源機構に障害があります。電源機構を交換してください。

OFF、ON、OFF: 電源機構が正しく取り付けられていることを確認します。DC LED が点灯しない場合、電源機構を交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

理由 1: 電源機構が検出されません。

- 電源機構 (19%)
- システム・ボード (1%)
- その他: 電源機構が正しく取り付けられていません (80%)

理由 2: 電源機構に障害が起きました。

- 電源機構 (90%)
- 電源ケーブル・アセンブリー (5%)
- システム・ボード (5%)

理由 3: 電源機構への入力電源がありません。

- 電源ケーブル・アセンブリー (25%)
- UPS-1U アセンブリー (4%)
- システム・ボード (1%)
- その他: 電源機構が正しく取り付けられていません (70%)。

550 クラスターのリソース不足のため、クラスターを形成できません。

説明: このエラー・コード付きで表示された補足データに、2145 およびクォーラム・ディスク・コントローラーの欠落 ID がリストされます。各欠落ノードはそのノード ID によってリストされます。欠落しているクォーラム・ディスクは WWWWWWWWWWWWWWW/LL としてリストされます。

WWWWWWWWWWWWWWWWWW は、欠落しているクォーラム・ディスクを含むディスク・コントローラー上のワールド・ワイド・ポート名 (WWPN) を示し、LL は、コントローラー上の欠落しているクォーラム・ディスクの論理装置番号 (LUN) を示します。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従

い、クラスター・ノードとクォーラム・デバイス間の接続の問題を修正します。

1. クラスター内の他の 2145 が電源オンで、操作可能であることを確認します。
2. フロント・パネルから、ファイバー・チャンネル・ポート状況を表示します。アクティブなポートがない場合は、ファイバー・チャンネル・ポートの問題判別手順を実行します。
3. ファイバー・チャンネル・ネットワークのゾーニングの変更が、ノード間、またはノードとクォーラム・ディスク間の通信を制限していないことを確認します。
4. ネットワークに対して問題判別手順を行います。
5. クォーラム・ディスクに障害が起こったか、あるいは、アクセスできません。ディスク・コントローラーに問題判別手順を実行してください。

555 電源ドメイン・エラー

説明: 入出力グループの両方の 2145 が、同じ無停電電源装置から電源を供給されています。フロント・パネルには、ノード・エラー・コードとともに他の 2145 の ID が表示されます。

ユーザーの処置: 構成が正しく、しかも入出力グループの各 2145 が、別々の無停電電源装置から接続されていることを確認します。

556 重複した WWNN が検出されました。

説明: ノードは、ファイバー・チャンネル・ネットワーク上で同じワールド・ワイド・ノード名 (WWNN) を持つ別の装置を検出しました。WWNN は 16 桁の長さの 16 進数字です。クラスターの場合、最初の 11 桁は常に 50050768010 です。WWNN の最後の 5 桁は、エラーの追加データで示され、フロント・パネル・ディスプレイに表示されます。ファイバー・チャンネル・ネットワークの中断を防止するために、ノードのファイバー・チャンネル・ポートは使用不可に設定されます。同じ WWNN を持つ 1 つあるいは両方のノードがエラーを示す可能性があります。WWNN の割り振り方法により、重複する WWNN を持つ装置は、通常、別のクラスター・ノードにあります。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従い、ノードの WWNN を構成します。

1. エラーを報告しているノードと同じ WWNN を持つクラスター・ノードを見つけます。クラスター・ノードの WWNN は、ノードの重要製品データ (VPD) から、またはフロント・パネル上の「ノード」メニューから見つけることができます。重複する WWNN を持つノードは、エラーを報告しているノードと同

じクラスターの一部であるとは限りません。エラーを報告しているノードのリモート側の、スイッチ間リンク経由で接続されたファブリックの一部にある可能性もあります。ノードの WWNN はサービス・コントローラー内部に保管されるため、重複の原因として最も考えられるのは、サービス・コントローラーの交換です。

2. 重複する WWNN を持つクラスター・ノードが検出された場合、そのノード、またはエラーを報告しているノードのどちらの WWNN が間違っているか判別します。通常、間違っているのは、最近サービス・コントローラーが交換されたか、あるいは WWNN の変更が正しくなかったノードです。判断するには、SAN のゾーン分けの方法も考慮してください。
3. 間違った WWNN を持っているノードの正しい WWNN を判別します。サービス・アクションの一部としてサービス・コントローラーを交換した場合、ノードの WWNN をメモしてあるはずですが、正しい WWNN を判別できない場合は、サービス・センターに連絡して支援を受けてください。
4. フロント・パネルのメニューを使用して、間違っている WWNN を変更します。変更する必要があるのがエラーを示しているノードである場合は、これは直ちに安全に実行できます。変更する必要があるのがアクティブ・ノードである場合は、WWNN を変更するとノードが再始動するため、注意が必要です。このノードがエンクローチャー内の唯一の操作可能なノードである場合は、それが管理しているボリュームへのアクセスが失われます。WWNN を変更する前に、ホスト・システムが正しい状態にあることを確認する必要があります。
5. エラーを示しているノードが正しい WWNN を持っていた場合、このノードは、重複する WWNN を持つノードが更新された後で、フロント・パネルの電源制御ボタンを使って再起動できます。
6. エラーを示しているノードと同じ WWNN を持つクラスター・ノードを見つけることができない場合、SAN モニター・ツールを使用して、SAN 上に同じ WWNN を持つ別の装置があるかどうかを判別します。この装置はクラスターに割り当てられた WWNN を使用してはならないため、その装置の保守手順に従って WWNN を変更する必要があります。重複が除去された後で、ノード・キャニスターを再起動します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

558 ノードが他のノードと通信できません。

説明: 2145 がファイバー・チャンネル・ファブリックを検出できません。あるいは、ファイバー・チャンネル・カードのポート速度がファイバー・チャンネル・ファブリックとは異なる速度に設定されている可能性があります。

ユーザーの処置: 以下の点を確認します。

1. ファイバー・チャンネル・ネットワーク・ファブリックのスイッチが電源オンになっている。
2. 少なくとも 1 つのファイバー・チャンネル・ケーブルが、2145 をファイバー・チャンネル・ネットワーク・ファブリックに接続している。
3. ファイバー・チャンネル・カードのポート速度がファイバー・チャンネル・ファブリックと等しい。
4. 少なくとも 1 つのファイバー・チャンネル・アダプターが 2145 に取り付けられている。
5. ファイバー・チャンネル MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

562 ノード・ハードウェア構成が最小必要要件を満たしていません。

説明: ノード・ハードウェアは、ノードがクラスターでアクティブになるための最小仕様ではありません。原因としてハードウェア障害が考えられますが、サービス・アクションで誤った交換部品が使用された後に発生する可能性もあります。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従い、ハードウェアを修正してください。

1. ノードの VPD 情報を表示して、何らかの不整合があるかどうか確認します。障害を起こしているノードの VPD と、機能している同じタイプのノードの VPD を比較します。特に CPU およびメモリーの数とタイプに注意してください。
2. 誤った部品があれば交換します。

564 ソフトウェアの異常終了が多すぎます。

説明: ノードは、複数回リセットされたため、不安定な状態であると判別されました。リセットの原因として、システムで予期しない状態が発生したか、無効な命令が実行されたことが考えられます。ノードがサービス状態になったため、診断データをリカバリーすることができます。

ノード・エラーは、ノード・ソフトウェアおよびオペレーティング・システムの再起動後は残りません。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従

い、ソフトウェアを再ロードします。

1. 管理 GUI またはサービス・アシスタントを使用して、ダンプを含むサポート・パッケージ (snap) をノードから取得してください。
2. 複数のノードがこのエラーを報告している場合、IBM 技術サポートに連絡してください。各ノードからのサポート・パッケージが必要になります。
3. サポート・サイトで、問題が既知のものであるかどうか、および問題を解決するためのソフトウェアのアップグレードが存在するかどうかを確認してください。解決が可能である場合、クラスター・ソフトウェアを更新します。最初にエラーを報告したノードで手動のアップグレード・プロセスを使用します。
4. 問題が未解決のままの場合、IBM 技術サポートに連絡してサポート・パッケージを送信してください。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

565 ノードの内部ドライブに障害が起こっています。

説明: ノード内の内蔵ドライブが報告するエラーの数が多すぎます。これ以上は、ドライブの保全性に依存するのは安全ではありません。交換をお勧めします。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従い、ハードウェアを修正してください。

1. ハードウェア情報を表示します。
2. 部品 (キャニスターまたはディスク) を取り替えます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 2145-8G4 または 2145-8A4
 - ディスク・ドライブ・アセンブリー (95%)
 - ディスク・ドライブ・ケーブル (5%)
- 2145-8F2 または 2145-8F4
 - ディスク・ドライブ・アセンブリー (100%)

573 ノード・ソフトウェアが不整合です。

説明: ノード・ソフトウェア・パッケージの一部が予期しない結果を受信しました。不整合のサブパッケージ・セットがインストールされたか、1 つのサブパッケージが損傷している可能性があります。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従い、ソフトウェアを再ロードします。

1. ノード・レスキューを実行する手順に従います。

2. エラーが再発生する場合、IBM 技術サポートに連絡してください。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

574 ノード・ソフトウェアが損傷しています。

説明: チェックサム障害により、ノード・ソフトウェアが損傷していて再インストールする必要があることが示されました。

ユーザーの処置: ノード・キャニスターが作動している場合、ノード・レスキューを実行します。そうでない場合、サービス・アシスタントを使用して新規ソフトウェアをインストールします。ノード・レスキューが失敗するか、再インストール後にこのノード・エラーが繰り返される場合は、ノード・キャニスターのハードウェア障害の症状です。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

576 クラスターの状態データおよび構成データを読み取れません。

説明: ノードは、読み取りエラーまたはメディア・エラーのために内蔵ドライブから保存済みのクラスターの状態データおよび構成データを読み取ることができません。

ユーザーの処置: 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 2145-CG8 または 2145-CF8
 - ディスク・ドライブ (50%)
 - ディスク・コントローラー (30%)
 - ディスク・バックプレーン (10%)
 - ディスク・シグナル・ケーブル (8%)
 - ディスク電源ケーブル (1%)
 - システム・ボード (1%)
- 2145-8A4
 - ディスク・ドライブ・アセンブリー (80%)
 - ディスク・ケーブル・アセンブリー (15%)
 - システム・ボード (5%)
- 2145-8G4
 - ディスク・ドライブ・アセンブリー (80%)
 - ディスク・ドライブ・ケーブル (10%)
 - システム・ボード (10%)
- 2145-8F2 または 2145-8F4

- ディスク・ドライブ・アセンブリー (90%)
- フレーム・アセンブリー (10%)

578 電力喪失後に状態データが保存されませんでした。

説明: 始動時にノードは状態データを読み取ることができませんでした。この状態が発生する場合、自動的にクラスターに追加されることが予期されます。しかし、60秒のうちにクラスターに結合しなかった場合、このノード・エラーが出されます。これはクリティカル・ノード・エラーであり、ノードをクラスターに結合するための候補にするには、ユーザー・アクションが必要です。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの順に従い、クラスター・ノードとクォーラム・デバイスの間の接続の問題を修正します。

1. ノードがこのエラーを報告した後、手操作による介入が必要です。
2. 他のノードを使用してクラスターの再確立を試行します。この作業で、他のノードでハードウェアの問題を修正したり、ノード間の接続を修正する可能性があります。
3. クラスターを再確立できる場合、578 を示しているノードからクラスター・データを削除すると、そのノードは候補の状況になり、自動的にクラスターに追加されません。ノードが自動的にクラスターに追加されない場合、ノードの名前と入出力グループをメモして、クラスター構成からノードを削除し（まだ行っていない場合）、同じ名前と入出力グループを使用してノードをクラスターに戻します。
4. すべてのノードでノード・エラー 578 または 550 のいずれかが発生している場合、クラスターのリカバリ手順に従います。
5. ノードがシャットダウンした理由を判別します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

580 サービス・コントローラー ID を読み取ることができませんでした。

説明: 2145 がサービス・コントローラーからの固有 ID を読み取れないため、ファイバー・チャンネル・アダプターが開始できません。

ユーザーの処置: 表示された順序で、以下の FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- サービス・コントローラー (70%)

- サービス・コントローラー・ケーブル (30%)

2145-8F2 または 2145-8F4 または 2145-8G4 または 2145-8A4

サービス・コントローラー (100%)

その他:

- なし

581 2145 UPS-1U のシリアル・リンク・エラーが発生しました。

説明: 通信ケーブル、無停電電源装置 2145 UPS-1U のシリアル・インターフェース、または 2145 に障害があります。

ユーザーの処置: 通信ケーブルが、2145 と 2145 UPS-1U に正しく差し込まれているか検査します。ケーブルが正しく差し込まれている場合は、表示された順序で FRU を交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4、2145-8A4、2145-CF8、または 2145-CG8

- 2145 電源ケーブル・アセンブリー (40%)
- 2145 UPS-1U アセンブリー (30%)
- 2145 システム・ボード (30%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- 2145 電源ケーブル・アセンブリー (40%)
- 2145 UPS-1U アセンブリー (30%)
- 2145 フレーム・アセンブリー (30%)

582 2145 UPS-1U のバッテリー・エラーが発生しました。

説明: 無停電電源装置 2145 UPS-1U バッテリーに問題が発生しました。

ユーザーの処置: FRU を新しい FRU と交換します。バッテリー・アセンブリーの交換後、2145 UPS-1U サービス・インディケータが点灯している場合は、2145 UPS-1U テスト・ボタンを 3 秒間押し続けて自己診断テストを開始し修復を検証します。自己診断テストの間、2145 UPS-1U フロント・パネル・アセンブリー上にある右端の 4 つの LED が順番に明滅します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- UPS-1U バッテリー・アセンブリー (50%)
- UPS-1U アセンブリー (50%)

583 **2145 UPS-1U の電子部品のエラーが発生しました。**

説明: 2145 UPS-1U の電子機器に問題が発生しました。

ユーザーの処置: FRU を新しい FRU と交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 2145 UPS-1U アセンブリー

584 **2145 UPS-1U が過負荷になっています。**

説明: 無停電電源装置 2145 UPS-1U より、出力過負荷の問題が報告されました。2145 UPS-1U のフロント・パネル上の過負荷インディケータが赤色で点灯しています。

ユーザーの処置:

1. 2145 UPS-1U から電源を受けているのが 1 つの 2145 のみであることを確認します。また、他の装置が 2145 UPS-1U に接続されていないことも確認します。
2. 2145 を 2145 UPS-1U から切り離します。過負荷インディケータがまだ点灯している場合は、切り離された 2145 で 2145 UPS-1U を交換します。
3. 過負荷インディケータがオフになり、ノードが 2145-8F2、2145-8F4、2145-8G4 または 2145-8A4 である場合、切り離された 2145 上で、すべての出力が切り離された状態で、表示された順序で FRU を新しい FRU と交換します。
4. 過負荷インディケータがオフになり、ノードが 2145-CG8 または 2145-CF8 である場合、切り離された 2145 上で、すべての出力が切り離された状態で、交換が必要なものが 2 つの電源機構の一方であるか、電源ケーブル・アセンブリーであるかを判別します。1 本の電源ケーブルのみを左側の電源機構に差し込み、ノードを始動し、エラーが報告されるかどうかを確認します。次にノードをシャットダウンし、もう一本の電源ケーブルを左側の電源機構に接続し、ノードを始動し、エラーが繰り返されるかどうかを確認します。次に、右側の電源機構に対してこの 2 つのテストを繰り返します。一方の電源機構で両方のケーブルに対してエラーが繰り返されるにもかかわらず、もう一方の電源機構では繰り返されない場合は、エラーを示した電源機構を交換してください。それ以外の場合は、電源ケーブル・アセンブリーを交換してください。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 電源ケーブル・アセンブリー (45%)
- 電源機構アセンブリー (45%)

- UPS-1U アセンブリー (10%)

586 **2145 UPS-1U の電源機構が要件を満たしていません。**

説明: なし。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従い、ハードウェアを修正します。

587 **正しくないタイプの無停電電源装置が検出されました。**

説明: 誤ったタイプの 2145 UPS-1U が取り付けられました。

ユーザーの処置: 2145 UPS-1U を正しいタイプのものと交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 2145 UPS-1U (100%)

588 **2145 UPS-1U が正しくケーブル配線されていません。**

説明: シグナル・ケーブルまたは 2145 の電源ケーブルが、正しく接続されていないものと思われます。電源ケーブルとシグナル・ケーブルが別の 2145 UPS-1U アセンブリーに接続されている可能性があります。

ユーザーの処置:

1. ケーブルを正しく接続します。
2. ノードを再始動します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし。
- その他:
- ケーブル接続エラー (100%)

589 **2145 UPS-1U 周辺温度の限度を超過しました。**

説明: 2145 UPS-1U に対する周辺温度しきい値を超えました。

ユーザーの処置: システム周辺の温度を下げます。

1. 2145 UPS-1U の電源を切り、給電部からプラグを抜きます。
2. 通気孔をきれいにし、熱の原因を除きます。
3. 2145 UPS-1U の周囲の空気の流れが制限されていないか確認します。

4. 少なくとも 5 分待ってから、2145 UPS-1U を再始動します。問題が続く場合は、2145 UPS-1U アセンブリーを交換します。

590 **2145 UPS-1U のエラーが原因でノードが繰り返し再起動されました。**

説明: 2145 UPS-1U エラーが原因で複数のノードで再始動が発生しました。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従い、ハードウェアを修正してください。

1. 室内温度が指定の限界値内にあること、および入力電力が安定していることを確認します。
2. 2145 UPS-1U のシグナル・ケーブルの両端がしっかりと接続されていることを検査します。

注: 状態は、ノードのフロント・パネルでノードを電源オフするとリセットされます。

670 **ノードが起動するには UPS のバッテリーの充電が不十分です。**

説明: ノードがクラスターで安全にアクティブになるには、ノードに接続された無停電電源装置のバッテリーの充電が不十分です。電源障害が発生した場合にノードのメモリーに保持されている状態データおよび構成データを保管するのに十分に充電されるまで、ノードは起動しません。ノードのフロント・パネルに「充電中」と示されます。

ユーザーの処置: エンクロージャーが起動するのに十分なバッテリー充電が行われるまで待ちます。

1. 十分に充電されてから、ノードが自動的にエラーを修正するまで待ちます。
2. 無停電電源装置でエラー状態が示されていないことを確認します。

690 **ノードはサービス状態で保持されています。**

説明: ノードはサービス状態であり、サービス状態のまま残すように指示されました。ノードは、サービス状態にある間はクラスターの一部として作動しません。冗長度が失われるため、クラスターがオンラインになっている場合、ノードを必要以上に長い時間にわたってサービス状態にしてはなりません。ノードをサービス状態のままにするように設定されることがあるのは、サービス・アシスタントのユーザー・アクションによって、またはノードがクラスターから削除されたことによってです。

ユーザーの処置: ノードをこれ以上サービス状態で保持する必要がない場合、サービス状態を終了してノードを稼働できるようにします。

1. サービス・アシスタントのアクションまたはフロント・パネルの「サービスの終了」アクションを使用してサービス状態を解除します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

710 **以前に存在していた高速 SAS アダプターが、検出されません。**

説明: 2145 は、高速 SAS アダプターを検出することができませんでした。

ユーザーの処置: この重大ではないノード・エラーは、管理 GUI を使用し、エラー・コード 1120 のアラートで推奨されるアクションを実行することにより、対処する必要があります。

720 **以前に存在していた 10 Gbps イーサネット・アダプターが、検出されません。**

説明: 2145 は、10 Gbps イーサネット・アダプターを検出することができませんでした。

ユーザーの処置: この重大ではないノード・エラーは、管理 GUI を使用し、エラー・コード 1072 のアラートで推奨されるアクションを実行することにより、対処する必要があります。

801 **メモリーが減りました。**

説明: メモリーが減りましたが、入出力操作を実行するために十分なメモリーは存在します。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従い、ハードウェアを修正します。

803 **1 つ以上のファイバー・チャンネル・ポートが操作可能ではありません。**

説明: 1 つ以上のファイバー・チャンネル・ポートが操作可能ではありません。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従い、ハードウェアを修正します。

805 **1 つ以上の構成済みのイーサネット・ポートが操作可能ではありません。**

説明: 1 つ以上の構成済みのイーサネット・ポートが操作可能ではありません。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従い、ハードウェアを修正します。

815 **コンポーネントの VPD を判別できません。**

説明: システムの FRU が変更され、VPD が読めないか、認識されません。

ユーザーの処置:

1. 取り付けられた交換部品が正しい部品であるかどうかを確認します。
2. 使用された部品を正しくサポートする更新済みソフトウェア・パッケージがあるかどうかを調べます。更新済みソフトウェア・パッケージが存在する場合、そのソフトウェアのバージョンにアップグレードします。そうでない場合、作動しているエンクロージャー・モデルおよびソフトウェアのバージョンに適切な交換部品を入手します。

818 **サービス・コントローラーのフラッシュ・ディスクをリカバリーできません。**

説明: サービス・コントローラーのフラッシュ・ディスクをリカバリーできません。

ユーザーの処置: トラブルシューティングの手順に従い、ハードウェアを修正します。

840 このノードに対して、そのソフトウェアがサポートしていないハードウェア変更が実行されました。ハードウェアを修復するか、ソフトウェアを更新するために、ユーザー処置が必要です。この重大ではないノード・エラーが報告される可能性があるのは、該当のノードがクラスター内でアクティブであり、その構成が保管されている場合のみです。検出されたハードウェアは使用されていません。

説明: これは重大でないノード・エラーです。ノードは作動を続行しますが、最初の 1024 のみのファイバー・チャンネル・ログインが使用されます。コントローラー、ホスト、または他のノードへの接続の問題が発生している可能性があります。

ユーザーの処置: 最近取り付けられたハードウェアをサポートする、必要なソフトウェアのバージョンがシステム上で実行されていることを確認します。システムを適切なレベルにアップグレードします。最近取り付けられたハードウェアの入手目的が、フィーチャー・コードの機能拡張、または部品の交換ではない場合、そのハードウェア

は取り外す必要があります。最近取り付けられたハードウェアの入手目的が、フィーチャー・コードの機能拡張または部品の交換であり、その取り付けられた部品をサポートするソフトウェア・レベルを使用している場合は、IBM 技術サポートにお問い合わせください。

841 このノードに対して、サポートされているハードウェア変更が実行されました。新しいハードウェアをアクティブにするために、ユーザー処置が必要です。この重大ではないノード・エラーが報告される可能性があるのは、該当のノードがクラスター内でアクティブであり、その構成が保管されている場合のみです。

説明: これは重大でないノード・エラーです。ノードは作動を続行しますが、最初の 1024 のみのファイバー・チャンネル・ログインが使用されます。コントローラー、ホスト、または他のノードへの接続の問題が発生している可能性があります。

ユーザーの処置: エラー・コード 1199 のアラートに対する管理 GUI の推奨処置を使用して、ハードウェアの構成変更を確認します。

860 **ファイバー・チャンネル・ネットワーク・アプリケーションが大き過ぎます。**

説明: これは重大でないノード・エラーです。ノードは作動を続行しますが、最初の 1024 のみのファイバー・チャンネル・ログインが使用されます。コントローラー、ホスト、または他のノードへの接続の問題が発生している可能性があります。

ユーザーの処置: ファイバー・チャンネル・ネットワーク構成を修正します。

1. ハードウェア WWNN 情報を表示します。
2. SAN ゾーニングを再構成します。

878 **状態データの損失後にリカバリーを試行しています。**

説明: 始動時にノードは状態データを読み取ることができませんでした。ノードはクラスターに戻されることを予期し、待機中にこのエラーを報告します。

ユーザーの処置: リカバリーのための時間を考慮します。これ以上のアクションは不要です。

クラスターのリカバリーおよび状態

920 **クラスターのリソース不足のため、クラスター・リカバリーを実行できません。**

説明: ノードはリソースのクォーラムを探しており、これにもクラスターのリカバリーが必要です。

ユーザーの処置: IBM のテクニカル・サポートに連絡してください。

950 特殊なアップグレード・モード。

説明: 特殊なアップグレード・モード。

ユーザーの処置: なし。

クラスター・エラー・コード

1001 クラスター自動リカバリーが実行されました。

説明: クラスター構成コマンドはすべてブロックされます。

ユーザーの処置: ソフトウェア・サポートに連絡してください。

注意: クラスター GUI を使用して構成コマンドを非ブロック化できますが、クラスター構成の破損を回避するために、まずソフトウェア・サポートに相談するようにしてください。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1002 イベント・ログがいっぱいです。

説明: イベント・ログがいっぱいです。

ユーザーの処置: イベント・ログのエラーを修正するには、開始 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- ログの未修正エラー。

1011 スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) が欠落しています。

説明: スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) が欠落しています。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

194 SAN ボリューム・コントローラー: トラブルシューティング・ガイド

990 クラスター・リカバリーに障害が起きている。

説明: クラスター・リカバリーに障害が起きている。

ユーザーの処置: IBM のテクニカル・サポートに連絡してください。

2145-CG8 または 2145-CF8

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (98%)
- システム・ボード (2%)

2145-8G4 または 2145-8A4

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (90%)
- PCI Express ライザー・カード (8%)
- システム・ボード (2%)

2145-8F4

N/A

2145-8F2

N/A

1013 スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) の PCI 障害です。

説明: スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) の PCI 障害です。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (98%)
- システム・ボード (2%)

2145-8G4 または 2145-8A4

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (80%)
- PCI Express ライザー・カード (10%)
- システム・ボード (10%)

2145-8F4

N/A

2145-8F2

N/A

1014 スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプターが欠落しています。

説明: スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプターが欠落しています。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F2

- デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル HBA - ロー・プロファイル (90%)
- PCI ライザー・カード - ロー・プロファイル (8%)
- フレーム・アセンブリー (2%)

2145-8G4

N/A

2145-8F4

N/A

1015 スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプターが欠落しています。

説明: スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプターが欠落しています。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F2

- デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター - フルハイト (90%)
- PCI ライザー・カード (8%)
- フレーム・アセンブリー (2%)

2145-8G4

N/A

2145-8F4

N/A

1016 スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) が欠落しています。

説明: スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) が欠落しています。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F4

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (90%)
- PCI Express ライザー・カード (8%)

- フレーム・アセンブリー (2%)

2145-8G4

N/A

2145-8F2

N/A

1017 スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプターの PCI バス・エラーです。

説明: スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプターの PCI バス・エラーです。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F2

- デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター - ロー・プロファイル (80%)
- PCI ライザー・カード (10%)
- フレーム・アセンブリー (10%)

2145-8G4

N/A

2145-8F4

N/A

1018 スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプターの PCI 障害です。

説明: スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプターの PCI 障害です。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。

2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。

3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F2

- デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター - フルハイト (80%)
- PCI ライザー・カード (10%)
- フレーム・アセンブリー (10%)

2145-8G4

N/A

2145-8F4

N/A

1019 スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) の PCI 障害です。

説明: スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) の PCI 障害です。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F4

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (80%)
- PCI Express ライザー・カード (10%)
- フレーム・アセンブリー (10%)

2145-8G4

N/A

2145-8F2

N/A

1020 システム・ボードのサービス・プロセッサに障害が発生しています。

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 522 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 522 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 522 を参照。

1022 検出済みメモリー・サイズが、予想されたメモリー・サイズと一致していません。

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 510 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 510 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 510 を参照。

1025 2145 のシステム・アセンブリーが障害を起こしています。

説明: 2145 のシステム・アセンブリーが障害を起こしています。

ユーザーの処置:

1. ライト・パス診断 MAP に進み、ライト・パス診断手順を実行します。
2. ライト・パス診断手順で FRU が特定された場合は、このエラーに「修正済み」とマークを付け、修復検査 MAP に進みます。FRU を交換したばかりで、問題を解決されていない場合は、FRU が正しく取り付けられていることを確認して次のステップに進みます。
3. 下記の「考えられる原因」リストに示されているように、システム・ボードまたはフレーム・アセンブリーを交換します。
4. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
5. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4、2145-CF8、または 2145-CG8

- ライト・パス診断が示す FRU (98%)
- システム・ボード (2%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- ライト・パス診断が示す FRU (98%)
- フレーム・アセンブリー (2%)

1027 BIOS 設定を更新できません。

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 524 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 524 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 524 を参照。

1030 ノードの内部ディスクに障害が発生しています。

説明: エラーが発生したのは、クラスタ内にあるノードのいずれかの内部ディスクに対して、データの読み取りまたは書き込みを行っていた時点です。ディスクが障害を起こしています。

ユーザーの処置: このエラー内のノード情報を使用して、どのノードの内部ディスクに障害が発生したかを判別します。表示された順に FRU を交換します。エラーに修正済みのマークを付けます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- ディスク・ドライブ (50%)
- ディスク・コントローラー (30%)
- ディスク・バックプレーン (10%)
- ディスク・シグナル・ケーブル (8%)
- ディスク電源ケーブル (1%)
- システム・ボード (1%)

2145-8A4

- ディスク・ドライブ (90%)
- ディスク・ケーブル・アセンブリー (10%)

2145-8G4

- ディスク・ドライブ・アセンブリー (90%)
- ディスク・ドライブ・ケーブル (10%)

2145-8F4 または 2145-8F2

- ディスク・ドライブ・アセンブリー (100%)

1040 **2145 が正常に開始した後、フラッシュ・モジュール・エラーが発生しました。**

説明: 注: フラッシュ・モジュールを含むノードはクラスターによってリジェクトされませんでした。

ユーザーの処置:

1. リストされた順に、以下の FRU を交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- サービス・コントローラー (50%)
- サービス・コントローラー・ケーブル (50%)

2145-8F2 または 2145-8F4 または 2145-8G4 または 2145-8A4

サービス・コントローラー (100%)

1044 **サービス・コントローラーの読み取り障害が発生しました。**

説明: サービス・コントローラーの読み取り障害が発生しました。

ユーザーの処置:

1. リストされた順に、以下の FRU を交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- サービス・コントローラー (50%)
- サービス・コントローラー・ケーブル (50%)

2145-8F2 または 2145-8F4 または 2145-8G4 または 2145-8A4

198 SAN ボリューム・コントローラー: トラブルシューティング・ガイド

サービス・コントローラー (100%)

1052 **正しくないタイプの無停電電源装置が検出されました。**

説明: クラスターは、クリティカル・ノード・エラー 587 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 587 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 587 を参照。

1054 **スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプターのアダプターは存在していますが故障しています。**

説明: スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプターのアダプターは存在していますが故障しています。

ユーザーの処置:

1. ファイバー・チャンネル・アダプターを交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F2

デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター - ロー・プロファイル (100%)

2145-8G4

N/A

2145-8F4

N/A

1055 **スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) のアダプターは存在していますが故障しています。**

説明: スロット 1 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) のアダプターは存在していますが故障しています。

ユーザーの処置:

1. FRU を新しい FRU と交換します。

2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。

3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4、2145-8A4、2145-CF8、または 2145-CG8

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (100%)

2145-8F4

N/A

2145-8F2

N/A

1056 **スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプターのアダプターは存在していますが故障しています。**

説明: スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプターのアダプターは存在していますが故障しています。

ユーザーの処置:

1. ファイバー・チャンネル・アダプターを交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。

3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F2

デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター - フルハイト (100%)

2145-8G4

N/A

2145-8F4

N/A

1057 **スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) のアダプターは存在していますが故障しています。**

説明: スロット 2 のファイバー・チャンネル・アダプター (4 ポート) のアダプターは存在していますが故障しています。

ユーザーの処置:

1. FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F4

- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (100%)

2145-8G4

N/A

2145-8F2

N/A

1060 **2145 の 1 つ以上のファイバー・チャンネル・ポートが操作可能ではありません。**

説明: 2145 の 1 つ以上のファイバー・チャンネル・ポートが操作可能ではありません。

ユーザーの処置:

1. 『MAP 5600: ファイバー・チャンネル』に進んで、この問題の切り分けと修復を行います。
2. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F4、2145-8G4、2145-CF8、または 2145-CG8

- ファイバー・チャンネル・ケーブル (80%)
- SFP (Small Form-factor Pluggable) コネクタ (5%)
- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (5%)

2145-8F2

- ファイバー・チャンネル・ケーブル (80%)
- SFP (Small Form-factor Pluggable) コネクタ (5%)
- デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (ファイバー・チャンネル MAP により正しいタイプに分離します) (5%)

その他:

- ファイバー・チャンネル・ネットワーク・ファブリック (10%)

1065 **1 つ以上のファイバー・チャンネル・ポートが、以前に保存された速度より低速で稼働しています。**

説明: ファイバー・チャンネル・ポートは、通常、ファイバー・チャンネル・スイッチで許可される最高速度で作動しますが、ファイバー・チャンネル接続のシグナル品質が低下すると、この速度が低減することがあります。ファイバー・チャンネル・スイッチは、ユーザーによって低速で作動するように設定された可能性があります。そうでない場合は、ファイバー・チャンネル・シグナルの品質が低下しています。

ユーザーの処置:

- 『MAP 5600: ファイバー・チャンネル』に進んで、この問題を解決します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F4, 2145-8G4, 2145-8A4, 2145-CF8, または 2145-CG8

- ファイバー・チャンネル・ケーブル (50%)
- SFP (Small Form-factor Pluggable) コネクタ (20%)
- ファイバー・チャンネル・ホスト・バス・アダプター (4 ポート) (5%)

その他:

- ファイバー・チャンネル・スイッチ、SFP コネクタ、または GBIC (25%)

1083 **認識されないノード・エラー**

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 562 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 562 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 562 を参照。

1089 **1 つ以上のファンに障害が発生していません。**

説明: 1 つ以上のファンに障害が発生しています。

ユーザーの処置:

- システム・ボード上のファン・インディケータによって、またはログ内のエラー・データ・テキストによって故障しているファンを判別します。
2145-8A4, 2145-CF8, または 2145-CG8 の報告されたファンは、ファン・アセンブリー位置に一致します。2145-8G4 の場合、ログの中のエラー・データから障害を起こしたファン番号を判別済みの場合、以下のリストを使用して交換対象のファン・アセンブリーの位置を決定します。各ファン・アセンブリーには 2 台のファンが組み込まれています。

- FRU を新しい FRU と交換します。

- 修復検査 MAP に進みます。

• ファン番号 : ファン・アセンブリー位置

- 1 または 2 :1
- 3 または 4 :2
- 5 または 6 :3
- 7 または 8 :4
- 9 または 10:5
- 11 または 12:6

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4, 2145-8A4, 2145-CF8, または 2145-CG8

- ファン・アセンブリー (100%)

2145-8F4

N/A

1090 **1 つ以上のファン (40x40x28) に障害が発生しています。**

説明: 1 つ以上のファン (40x40x28) に障害が発生しています。

ユーザーの処置:

- システム・ボード上のファン・インディケータによって、またはログ内のエラー・データ・テキストによって故障しているファンを判別します。
- ファン・バックプレーン上のすべてのファンが故障しているかファン障害ライトが点灯していない場合は、ファン・バックプレーンとシステム・ボード間のケーブルが接続されていることを検査してください。
- FRU を新しい FRU と交換します。

4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F2 または 2145-8F4

- ファン 40x40x28 (98%)
- ファン電源ケーブル・アセンブリー (2%)

2145-8G4

N/A

1091 **1 つ以上のファン (40x40x56) に障害が発生しています。**

説明: 1 つ以上のファン (40x40x56) に障害が発生しています。

ユーザーの処置:

1. システム・ボード上のファン・インディケータによって、またはログ内のエラー・データ・テキストによって故障しているファンを判別します。
2. ファン・バックプレーン上のすべてのファンが故障しているかファン障害ライトが点灯していない場合は、ファン・バックプレーンとシステム・ボード間のケーブルが接続されていることを検査してください。
3. FRU を新しい FRU と交換します。
4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F2 または 2145-8F4

- ファン 40x40x56 (98%)
- ファン電源ケーブル・アセンブリー (2%)

2145-8G4

N/A

1092 **2145 の温度ソフトまたはハード・シャットダウンしきい値を超過しました。2145 は自動的に電源オフになりました。**

説明: 2145 の温度ソフトまたはハード・シャットダウンしきい値を超過しました。2145 は自動的に電源オフになりました。

ユーザーの処置:

1. 稼働環境が仕様を満足しているかを確認します。
2. 空気の流れを遮るものがないか確認します。
3. 各ファンが稼働状態にあるかどうかを確認します。

4. ライト・パス診断 MAP に進み、ライト・パス診断手順を実行します。

5. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。

6. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4、2145-8A4、2145-CF8、または 2145-CG8

- ライト・パス診断が示す FRU (25%)
- システム・ボード (5%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- ライト・パス診断が示す FRU (25%)
- フレーム・アセンブリー (5%)

その他:

システム環境または空気の流れの遮断 (70%)

1093 **2145 の内部温度センサーが、温度警告しきい値を超過したことを報告しています。**

説明: 2145 の内部温度センサーが、温度警告しきい値を超過したことを報告しています。

ユーザーの処置:

1. ノード内部の空気の流れが妨げられていないか検査します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4、2145-8A4、2145-CF8、または 2145-CG8

- ファン・アセンブリー (25%)
- システム・ボード (5%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- ファン・アセンブリー (25%)
- フレーム・アセンブリー (5%)

その他:

空気の循環の遮断 (70%)

1094 周辺温度しきい値を超過しました。

説明: 周辺温度しきい値を超過しました。

ユーザーの処置:

1. 室内温度が許容制限内にあるか検査します。
2. 空気の流れに障害物がないか検査します。
3. エラーに修正済みのマークを付けます。
4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

なし

その他:

システム環境 (100%)

1096 電源機構が欠落しているか、障害を起こしました。

説明: ノード内の 2 つの電源機構の一方が、欠落しているか、障害を起こしています。

注: このエラーが報告されるのは、ホット・スワップ電源機構がアクティブ・ノードから取り外されるときです。したがって、障害のある電源機構が交換のために取り外されるときに報告される場合があります。欠落状態と障害状態の両方で、このエラー・コードが報告されません。

ユーザーの処置: 電源機構を検出できないか、電源機構がエラーを報告する場合、エラー・コード 1096 が報告されます。

1. 電源機構が正しく取り付けられていること、および電源ケーブルがノードと 2145 UPS-1U の両方に正しく接続されていることを確認します。
2. 2 分後にこのエラーに自動的に修正済みのマークが付かない場合、電源機構の後部にある 3 つの LED の状況をメモします。2145-CG8 または 2145-CF8 の場合、AC LED は上部の緑色の LED、DC LED は中央の緑色の LED、エラー LED は下部のこはく色の LED です。
3. 電源機構エラー LED がオフで、AC および DC 電源 LED が両方もオンである場合、これが正常な状態です。2 分後にエラーが自動的に修正されない場合、システム・ボードを交換します。
4. 下記の表に記載されている LED の状態に指定されたアクションを実行します。

5. 2 分後にエラーが自動的に修正されない場合、サポートに連絡してください。

6. 修復検査 MAP に進みます。

エラー、AC、DC: アクション

ON、ON または OFF、ON または OFF: 電源機構に障害があります。電源機構を交換してください。

OFF、OFF、OFF: 電源が検出されません。電源ケーブルがノードと 2145 UPS-1U に接続されていることを確認してください。AC LED が点灯しない場合、電源機構が接続されている 2145 UPS-1U の状況を確認します。UPS-1U が電源を示していないか、またはエラーを示している場合、MAP 5150 2145 UPS-1U に従います。そうでない場合は、電源ケーブルを交換します。AC LED が引き続き点灯しない場合、電源機構を交換します。

OFF、OFF、ON: 電源機構に障害があります。電源機構を交換してください。

OFF、ON、OFF: 電源機構が正しく取り付けられていることを確認します。DC LED が点灯しない場合、電源機構を交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

PSU の障害:

- 電源機構 (90%)
- 電源ケーブル・アセンブリー (5%)
- システム・ボード (5%)

PSU の欠落:

- 電源機構 (19%)
- システム・ボード (1%)
- その他: 電源機構が正しく取り付けられていない (80%)

1097 電源機構は A/C 電源がないことを報告しています。

説明: ノード内の 2 つの電源機構の一方が、主電源が検出されないことを報告しています。

ユーザーの処置:

1. 電源機構がノードと 2145 UPS-1U の両方に正しく接続されていることを確認します。
2. 2 分後にこのエラーに自動的に修正済みのマークが付かない場合、電源機構の後部にある 3 つの LED の状況をメモします。2145-CG8 または 2145-CF8 の

場合、AC LED は上部の緑色の LED、DC LED は中央の緑色の LED、エラー LED は下部のこはく色の LED です。

3. 電源機構エラー LED がオフで、AC および DC 電源 LED が両方ともオンである場合、これが正常な状態です。2 分後にエラーが自動的に修正されない場合、システム・ボードを交換します。
4. 下記の表に記載されている LED の状態に指定されたアクションを実行します。
5. 2 分後にエラーが自動的に修正されない場合、サポートに連絡してください。
6. 修復検査 MAP に進みます。

エラー、AC、DC: アクション

ON、ON または OFF、ON または OFF: 電源機構に障害があります。電源機構を交換してください。

OFF、OFF、OFF: 電源が検出されません。電源ケーブルがノードと 2145 UPS-1U に接続されていることを確認してください。AC LED が点灯しない場合、2145 UPS-1U がエラーを示しているかどうかを確認します。UPS-1U がエラーを示している場合、MAP 5150 2145 UPS-1U に従います。そうでない場合は、電源ケーブルを交換します。AC LED が引き続き点灯しない場合、電源機構を交換します。

OFF、OFF、ON: 電源機構に障害があります。電源機構を交換してください。

OFF、ON、OFF: 電源機構が正しく取り付けられていることを確認します。DC LED が点灯しない場合、電源機構を交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 電源ケーブル・アセンブリー (85%)
- UPS-1U アセンブリー (10%)
- システム・ボード (5%)

1100 システム・ボードでモニターされた電圧の 1 つが、設定しきい値外にあります。

説明: システム・ボードでモニターされた電圧の 1 つが、設定しきい値外にあります。

ユーザーの処置:

1. ライト・パス診断 MAP を参照してください。
2. ライト・パス診断 MAP で問題を解決できない場合は、フレーム・アセンブリーを交換します。
3. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けま

す。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。

4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F2 または 2145-8F4

- ライト・パス診断 MAP FRU (98%)
- フレーム・アセンブリー (2%)

1101 システム・ボードでモニターされた電圧の 1 つが、設定しきい値外にあります。

説明: システム・ボードでモニターされた電圧の 1 つが、設定しきい値外にあります。

ユーザーの処置:

1. ライト・パス診断 MAP を参照してください。
2. ライト・パス診断 MAP で問題を解決できない場合は、システム・ボード・アセンブリーを交換します。
3. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4、2145-8A4、2145-CF8、または 2145-CG8

- ライト・パス診断 MAP FRU (98%)
- システム・ボード (2%)

1105 システム・ボードでモニターされた電圧の 1 つが、設定しきい値以下です。

説明: システム・ボードでモニターされた電圧の 1 つが、設定しきい値以下です。

ユーザーの処置:

1. ケーブル接続を検査します。
2. ライト・パス診断 MAP を参照してください。
3. ライト・パス診断 MAP で問題を解決できない場合は、フレーム・アセンブリーを交換します。
4. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けま

す。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。

5. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F2 または 2145-8F4

- ライト・パス診断 MAP FRU (98%)
- フレーム・アセンブリー (2%)

1106 システム・ボードでモニターされた電圧の 1 つが、設定しきい値以下です。

説明: システム・ボードでモニターされた電圧の 1 つが、設定しきい値以下です。

ユーザーの処置:

1. ケーブル接続を検査します。
2. ライト・パス診断 MAP を参照してください。
3. ライト・パス診断 MAP で問題を解決できない場合は、システム・ボード・アセンブリーを交換します。
4. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
5. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4、2145-8A4、2145-CF8、または 2145-CG8

- ライト・パス診断 MAP FRU (98%)
- システム・ボード (2%)

1110 電源管理ボードで、しきい値外の電圧を検出しました。

説明: 電源管理ボードで、しきい値外の電圧を検出しました。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示して

いない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。

3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-CG8 または 2145-CF8

- 電源機構装置 (50%)
- システム・ボード (50%)

2145-8G4

- 電源バックプレーン (90%)
- 電源機構アセンブリー (5%)
- システム・ボード (5%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- 電源バックプレーン (90%)
- 電源機構アセンブリー (5%)
- フレーム・アセンブリー (5%)

1120 高速 SAS アダプターが欠落しています。

説明: このノードは、以前に取り付けられた高速 SAS アダプターが存在しなくなったことを検出しました。

ユーザーの処置: 高速 SAS アダプターが故意に取り外された場合は、このエラーを「修正済み」としてマーク付けします。

そうでない場合、この高速 SAS アダプターは障害を起しているため、交換が必要です。表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。

修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

1. 高速 SAS アダプター (90%)
2. システム・ボード (10%)

1121 高速 SAS アダプターに障害が発生しました。

説明: 高速 SAS アダプターで障害が検出されました。

ユーザーの処置: 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。

修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

1. 高速 SAS アダプター (90%)
2. システム・ボード (10%)

1122 高速 SAS アダプター・エラーが発生しました。

説明: 高速 SAS アダプターは PCI バス・エラーを検出しました。再始動の前にサービスが必要です。高速 SAS アダプターの障害により、このアダプターからアクセスしようとしていたすべてのソリッド・ステート・ドライブがオフラインになりました。

ユーザーの処置: このノードでこのエラーが初めて発生した場合は、以下の手順を実行します。

1. ノードの電源をオフにします。
2. 高速 SAS アダプター・カードを取り付け直します。
3. ノードの電源をオンにします。
4. 「**lsmdisk**」タスクを実行依頼して、このノードに置かれているすべてのソリッド・ステート・ドライブ管理対象ディスクの状況がオンラインであることを確認します。

上記のアクション手順で問題が解決しないか、同じノードで再びエラーが生じる場合は、以下の手順を実行します。

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。
2. 「**lsmdisk**」タスクを実行依頼して、このノードに置かれているすべてのソリッド・ステート・ドライブ管理対象ディスクの状況がオンラインであることを確認します。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

1. 高速 SAS アダプター (90%)
2. システム・ボード (10%)

1133 重複した WWNN が検出されました。

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 556 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 556 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 556 を参照。

1135 2145 UPS が、周辺温度の過熱を報告しています。

説明: 2145 UPS が、周辺温度の過熱を報告していません。無停電電源装置は、バイパス・モードに切り替わり、2145 UPS の熱が下がるようにします。

ユーザーの処置:

1. 2145 UPS に接続されたノードを電源オフします。
2. 2145 UPS の電源を切ってから、主給電部から 2145 UPS のプラグを抜きます。
3. 2145 UPS の通気孔が妨げられていないか確認します。
4. 2145 UPS の周囲の空気の流れが制限されていないか確認します。
5. 少なくとも 5 分待ってから、2145 UPS を再始動します。問題が残る場合は、周辺温度を検査します。問題を訂正してください。そうでない場合は、FRU を新しい FRU と交換します。
6. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。
7. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145 UPS 電子部品 (50%)

その他:

システム周辺温度が仕様から外れている (50%)

1136 2145 UPS-1U が、周辺温度の過熱を報告しています。

説明: 2145 UPS-1U が、周辺温度の過熱を報告しています。

ユーザーの処置:

1. 2145 UPS-1U に接続されたノードを電源オフします。
2. 2145 UPS-1U の電源を切ってから、主給電部から 2145 UPS-1U のプラグを抜きます。
3. 2145 UPS-1U の通気孔が妨げられていないか確認します。
4. 2145 UPS-1U の周囲の空気の流れが制限されていないか確認します。
5. 少なくとも 5 分待ってから、2145 UPS-1U を再始動します。問題が残る場合は、周辺温度を検査します。問題を訂正してください。そうでない場合は、FRU を新しい FRU と交換します。
6. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示して

いない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。

7. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145 UPS-1U アセンブリー (50%)

その他:

システム周辺温度が仕様から外れている (50%)

1140 **2145 UPS が入力 AC 電源に問題があることを報告しています。**

説明: 2145 UPS が入力 AC 電源に問題があることを報告しています。

ユーザーの処置:

1. 入力 AC 電源が欠落しているか、または仕様外であるかを調べます。必要があれば、直します。そうでない場合は、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 2145 UPS 入力電源ケーブル (10%)
- 電子部品アセンブリー (10%)

その他:

- 入力 AC 電源が欠落している (40%)
- 入力 AC 電源が仕様に合っていない (40%)

1141 **2145 UPS-1U が入力 AC 電源に問題があることを報告しています。**

説明: 2145 UPS-1U が入力 AC 電源に問題があることを報告しています。

ユーザーの処置:

1. 入力 AC 電源が欠落しているか、または仕様外であるかを調べます。必要があれば、直します。そうでない場合は、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けま

す。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。

3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 2145 UPS-1U 入力電源ケーブル (10%)
- 2145 UPS-1U アセンブリー (10%)

その他:

- 入力 AC 電源が欠落している (40%)
- 入力 AC 電源が仕様に合っていない (40%)

1145 **2145 とその 2145 UPS の信号接続に障害があります。**

説明: 2145 とその 2145 UPS の信号接続に障害があります。

ユーザーの処置:

1. この無停電電源装置を使用している他の 2145 がこのエラーを報告している場合は、2145 UPS の電子部品を新しいものに交換してください。
2. この 2145 のみが問題を報告している場合は、シグナル・ケーブルを調べて、表示された順序で FRU を新しい FRU と交換します。
3. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。
4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8F2 または 2145-8F4 または 2145-8G4

N/A

1146 **2145 とその 2145 UPS-1U の信号接続に障害があります。**

説明: 2145 とその 2145 UPS-1U の信号接続に障害があります。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で FRU を新しい FRU と交換します。

2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4

- 電源ケーブル・アセンブリー (40%)
- 2145 UPS-1U アセンブリー (30%)
- システム・ボード (30%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- 電源ケーブル・アセンブリー (40%)
- 2145 UPS-1U アセンブリー (30%)
- フレーム・アセンブリー (30%)

1150 **2145 が 2145 UPS から受け取ったデータは、2145 UPS の電源ケーブルまたはシグナル・ケーブル、あるいはその両方が正しく接続されていないことを示しています。**

説明: 2145 が 2145 UPS から受け取ったデータは、2145 UPS の電源ケーブルまたはシグナル・ケーブル、あるいはその両方が正しく接続されていないことを示しています。

ユーザーの処置:

1. ケーブルを正しく接続します。ご使用の製品のインストール・ガイドを参照してください。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- 構成エラー

1151 **2145 が 2145 UPS-1U から受け取ったデータは、2145 UPS-1U の電源ケーブルまたはシグナル・ケーブル、あるいはその両方が正しく接続されていないことを示しています。**

説明: 2145 が 2145 UPS-1U から受け取ったデータは、2145 UPS-1U の電源ケーブルまたはシグナル・ケーブル、あるいはその両方が正しく接続されていないことを示しています。

ユーザーの処置:

1. ケーブルを正しく接続します。ご使用の製品のインストール・ガイドを参照してください。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- 構成エラー

1152 **正しくないタイプの無停電電源装置が検出されました。**

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 587 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 587 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 587 を参照。

1155 **電源ドメイン・エラーが発生しました。**

説明: ペアのうちの両方の 2145 が、同じ無停電電源装置から電源を供給されています。

ユーザーの処置:

1. クラスタの 2145 をリストし、同じ入出力グループにある 2145 が異なった無停電電源装置に接続されていることを確認します。
2. ステップ 1 で識別された 2145 を異なった無停電電源装置に接続します。
3. 修復したばかりのエラーを「修正済み」としてマークを付けます。
4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- 構成エラー

1160 2145 UPS の出力負荷が仕様を超えています。

説明: 2145 UPS は、電源からの出力が多すぎることを報告しています。2145 UPS 上の電源過負荷警告 LED (負荷レベル・インディケータの上にある) がオンになります。

ユーザーの処置:

1. エラーを報告している 2145 UPS をエラー・イベント・データから判別します。この無停電電源装置上でのみ、以下の手順を実行します。
2. まだ 2145 UPS がエラーを報告しているかどうかを確認します。電源過負荷警告 LED がもうオンになっていない場合は、ステップ 6 に進みます。
3. 無停電電源装置から電源を受けているのが 2145 のみであることを確認します。2145 UPS に接続しているスイッチまたはディスク・コントローラーがないことを確認します。
4. 出力過負荷が解除されるまで、接続された各 2145 入力電源を順々に取り外します。
5. 過電流の 2145 で、表示された順序で FRU を新しい FRU と交換します。
6. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 UPS の問題を解決してください。
7. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 電源ケーブル・アセンブリー (50%)
- 電源機構アセンブリー (40%)
- 2145 UPS 電子部品アセンブリー (10%)

1161 2145 UPS-1U での出力負荷が仕様を超えています (2145 UPS-1U アラーム・ビットによる報告)。

説明: 2145 UPS-1U での出力負荷が仕様を超えています (2145 UPS-1U アラーム・ビットによる報告)。

ユーザーの処置:

1. 無停電電源装置から電源を受けているのが 2145 のみであることを確認します。また、他の装置が 2145 UPS-1U に接続されていないことも確認します。
2. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。すべての出力が切断されても過負荷インディケータがまだ点灯している場合は、2145 UPS-1U を取り替えます。
3. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 UPS-1U の問題を解決してください。
4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 電源ケーブル・アセンブリー (50%)
- 電源機構アセンブリー (40%)
- 2145 UPS-1U アセンブリー (10%)

1165 2145 UPS の出力負荷が予想外に高くなっています。2145 UPS の出力が、余分な非 2145 負荷に接続されている可能性があります。

説明: 2145 UPS の出力負荷が予想外に高くなっています。2145 UPS の出力が、余分な非 2145 負荷に接続されている可能性があります。

ユーザーの処置:

1. 無停電電源装置から電源を受けているのが 2145 のみであることを確認します。2145 UPS に接続しているスイッチまたはディスク・コントローラーがないことを確認します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を示していれば、この問題はすでに解消しています。修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付け、修復検査 MAP に進みます。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

なし

その他:

- 構成エラー

1166 **2145 UPS-1U の出力負荷が予想外に高くなっています。**

説明: 無停電電源装置の出力が、規格外の非 2145 の負荷に接続されている可能性があります。

ユーザーの処置:

1. 2145 UPS-1U に接続している装置が他にないことを確認します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 UPS-1U の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 2145 UPS-1U アセンブリー (5%)

その他:

- 構成エラー (95%)
-

1170 **2145 UPS 電子部品に障害があります (2145 UPS アラーム・ビットによる報告)。**

説明: 2145 UPS 電子部品に障害があります (2145 UPS アラーム・ビットによる報告)。

ユーザーの処置:

1. 無停電電源装置の電子部品アセンブリーを交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、UPS の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145 UPS 電子部品アセンブリー (100%)

1171 **2145 UPS-1U 電子部品に障害があります (2145 UPS アラーム・ビットによる報告)。**

説明: 2145 UPS-1U 電子部品に障害があります (2145 UPS アラーム・ビットによる報告)。

ユーザーの処置:

1. 無停電電源装置アセンブリーを交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 UPS-1U の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145 UPS-1U アセンブリー (100%)

1175 **無停電電源装置フレームの障害に伴って問題が発生しました (無停電電源装置のアラーム・ビットによる報告)。**

説明: 無停電電源装置フレームの障害に伴って問題が発生しました (無停電電源装置のアラーム・ビットによる報告)。

ユーザーの処置:

1. 無停電電源装置アセンブリーを交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

無停電電源装置アセンブリー (100%)

1180 **2145 UPS バッテリーの障害です (2145 UPS アラーム・ビットによる報告)。**

説明: 2145 UPS バッテリーの障害です (2145 UPS アラーム・ビットによる報告)。

ユーザーの処置:

1. 2145 UPS バッテリー・アセンブリーを交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 UPS バッテリーの問題を解決してください。

プに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。

3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145 UPS バッテリー・アセンブリー (100%)

1181 **2145 UPS-1U バッテリーの障害です (2145 UPS-1U アラーム・ビットによる報告)。**

説明: 2145 UPS-1U バッテリーの障害です (2145 UPS-1U アラーム・ビットによる報告)。

ユーザーの処置:

1. 2145 UPS-1U バッテリー・アセンブリーを交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145 UPS-1U バッテリー・アセンブリー (100%)

1182 **システム起動中の周辺温度が高すぎます。**

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 528 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 528 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 528 を参照。

1183 **ノード・ハードウェア構成が最小必要要件を満たしていません。**

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 562 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 562 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 562 を参照。

1185 **特定の FRU が識別されていない、2145 UPS の障害 (無停電電源装置アラーム・ビットによる報告)。**

説明: 特定の FRU が識別されていない、2145 UPS の障害 (2145 UPS アラーム・ビットによる報告)。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 UPS の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 2145 UPS 電子部品アセンブリー (60%)
- 2145 UPS バッテリー・アセンブリー (20%)
- 2145 UPS アセンブリー (20%)

1186 **特定の FRU が識別されていない、2145 UPS-1U で問題が発生しました (2145 UPS-1U アラーム・ビットによる報告)。**

説明: 特定の FRU が識別されていない、2145 UPS-1U で問題が発生しました (2145 UPS-1U アラーム・ビットによる報告)。

ユーザーの処置:

1. 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145 UPS-1U アセンブリー (100%)

1187 ノード・ソフトウェアが不整合であるか、
損傷しています。

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 523、573、574 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 523、573、574 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 523、573、574 を参照します。

1188 ソフトウェアの異常終了が多すぎます。

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 564 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 564 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 564 を参照。

1189 ノードはサービス状態で保持されていま
す。

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 690 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 690 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置: ノード・エラー 690 を参照。

1190 2145 UPS のバッテリーが耐用年数の終わ
りに達しました。

説明: 2145 UPS のバッテリーが耐用年数の終わりに達しました。

ユーザーの処置:

1. 2145 UPS バッテリー・アセンブリを交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145 UPS バッテリー・アセンブリ (100%)

1191 2145 UPS-1U のバッテリーが耐用年数の
終わりに達しました。

説明: 2145 UPS-1U のバッテリーが耐用年数の終わりに達しました。

ユーザーの処置:

1. 2145 UPS-1U バッテリー・アセンブリを交換します。
2. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、無停電電源装置の問題を解決してください。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145 UPS-1U バッテリー・アセンブリ (100%)

1192 予期しないノード・エラー。

説明: ノードが、クラスタから脱落しています。報告しているエラーがシステムによって認識されていません。

ユーザーの処置: サービス状態のノードを見つけて、サービス・アシスタントを使用し、アクティブでない理由を判別します。

1193 ノードが起動するには UPS のバッテリー
の充電が不十分です。

説明: クラスタは、クリティカル・ノード・エラー 587 が原因でノードが作動可能でないことを報告しています。詳しくは、ノード・エラー 587 の詳細を参照してください。

ユーザーの処置:

1194 オフライン・ノードの自動リカバリーが失
敗しました。

説明: クラスタにオフライン・ノードがあり、候補ノードの 1 つがオフライン・ノードの特性と一致することをクラスタが判別しました。クラスタは、ノードをクラスタに追加して戻そうとしましたが、失敗しました。クラスタは、自動的にノードをクラスタに追加する試みを停止しました。

ノードに不完全な状態データがある場合、始動後、オフラインのままです。この状態が生じるのは、ノードの電源が失われたか、ハードウェア障害のときに、一部の状

態データをディスクに書き込むことができなかつた場合です。ノードはこの状態になると、ノード・エラー 578 を報告します。

一致する候補ノードをクラスターに自動的に追加する試行が 3 回行われたにもかかわらず、ノードが 24 時間でオンラインに戻らなかった場合、クラスターは、ノードを自動的に追加する試行を停止し、エラー・コード 1194「オフライン・ノードの自動リカバリーが失敗しました」をログに記録します。

このエラー・イベントがログに記録されるときに考えられる 2 つのシナリオは、次のとおりです。

1. ノードは、その状態データの一部を保存せずに失敗しました。おそらく修復後にノードは再始動しました。ノード・エラー 578 を表示し、クラスターに加わるための候補ノードです。クラスターはノードをクラスターに追加しようとしませんが、成功しません。15 分後、クラスターは、ノードをクラスターに追加する 2 回目の試行を行いますが、再び成功しません。さらに 15 分後、クラスターは、ノードをクラスターに追加する 3 回目の試行を行いますが、再び成功しません。さらに 15 分後、クラスターはエラー・コード 1194 をログに記録します。ノードをクラスターに追加しようとする試みの間、ノードはオンラインになりませんでした。
2. ノードは、その状態データの一部を保存せずに失敗しました。おそらく修復後にノードは再始動しました。ノード・エラー 578 を表示し、クラスターに加わるための候補ノードです。クラスターはノードをクラスターに追加しようとし、成功し、ノードはオンラインになります。24 時間以内にノードは、その状態データを保存せずに再び障害を起こします。ノードは再始動し、ノード・エラー 578 を表示し、クラスターに加わるための候補ノードです。クラスターは再びノードをクラスターに追加しようとし、成功し、ノードはオンラインになります。しかし、24 時間以内にノードは再び障害を起こします。クラスターはノードをクラスターに追加する 3 回目の試行を行い、成功し、ノードはオンラインになります。しかし、24 時間以内にノードは再び障害を起こします。さらに 15 分後、クラスターはエラー・コード 1194 をログに記録します。

これらのシナリオの組み合わせも考えられます。

注: ノードが手動でクラスターから除去される場合、自動リカバリー試行回数はゼロにリセットされます。

ユーザーの処置:

1. 24 時間を超えてノードがクラスター内で連続してオンラインであった場合、エラーに修正済みのマークを付け、修復検査 MAP に進みます。

2. イベント・ログ内でこのノード名のイベントを見つけることによって、このノードのイベントの履歴を判別します。ノード ID が変わることにご注意してください。したがって、WWNN とノード名で突き合わせてください。また、サービス・レコードも確認してください。具体的には、次の 3 つのイベントのいずれかを示す項目に注目します。1) ノードがクラスターから欠落している (クラスター・エラー 1195 イベント 009052)、2) オフライン・ノードを自動的にリカバリーする試みが開始している (イベント 980352)、3) ノードがクラスターに追加された (イベント 980349)。
3. リカバリー・プロセスの開始以降にノードがクラスターに追加されなかった場合、おそらくハードウェア障害があります。ノードの内部ディスクが、そのソフトウェア・レベルをクラスターのソフトウェア・レベルと一致するように変更できないような障害が起きている可能性があります。問題の根本原因をまだ判別できない場合、手動でノードをクラスターから除去し、ノードをクラスターに追加して戻すことを試みることができます。クラスターがノードを追加しようとしている間、クラスター内のノードの状況を連続してモニターしてください。注: ノード・タイプがクラスターのソフトウェア・バージョンによってサポートされない場合、ノードは候補ノードとして表示されません。したがって、互換性のないハードウェアが、このエラーの潜在的な根本原因ではありません。
4. ノードがクラスターに追加されたにもかかわらず、24 時間オンラインにならないうちに再び障害が起きた場合、その障害の根本原因を調査します。イベント・ログ内のイベントがノード障害の理由を示していない場合、ダンプを収集し、IBM 技術サポートに連絡して支援を依頼してください。
5. ノードの問題を修正した場合、クラスター・コンソールまたはコマンド行インターフェースのいずれかを使用して、手動でノードをクラスターから除去し、ノードをクラスターに追加する必要があります。
6. エラーに修正済みのマークを付け、検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

なし。ただし、調査によりハードウェア障害が示される可能性があります。

1195 **2145 が、クラスターから脱落しています。**

説明: この問題は、欠落した 2145 の障害を修復することで解決できます。

ユーザーの処置:

1. クラスター内のどのノードに障害があるかがはっきりしない場合は、ノードの状況を検査し、オフラインの状況の 2145 を検出します。
2. 「MAP の開始」に進んで、障害のあるノードの修復を行います。
3. 修復が完了すると、このエラーに自動的に修正済みのマークが付けられます。
4. ノードの状況を検査します。すべてのノードが「オンライン」の状況を示しているが、ログのエラーに「修正済み」のマークが付いていない場合は、いま修復したエラーに手で「修正済み」のマークを付けます。どのノードも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
5. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1200 **構成が無効です。システムに提示された装置、MDisk、またはターゲットの数が多すぎます。**

説明: 構成が無効です。システムに提示された装置、MDisk、またはターゲットの数が多すぎます。

ユーザーの処置:

1. 不要な装置を、ファイバー・チャンネル・ネットワーク・ファブリックから取り外します。
2. ファイバー・チャンネル・ネットワークを再スキャンすることにより、クラスター・ディスカバリー操作を開始して、装置/ ディスクを検出します。
3. 接続されたすべての管理対象ディスクをリストします。構成が予想どおりであることをお客様と確認します。修復したばかりのエラーに修正済みのマークを付けます。
4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

ファイバー・チャンネル・ネットワーク・ファブリックの障害 (100%)

1201 **ソリッド・ステート・ドライブのリカバリーが必要です。**

説明: このエラーで示されるソリッド・ステート・ドライブは、リカバリーが必要です。

ユーザーの処置: この SSD ドライブをリカバリーするには、コマンド `chdrive -task recover drive_id` を実行依頼します。ここで、`drive_id` は、リカバリーが必要なドライブの ID です。

1202 **ソリッド・ステート・ドライブが構成から欠落しています。**

説明: このエラーによって示されるオフラインのソリッド・ステート・ドライブ (SSD) は、修復が必要です。

ユーザーの処置: 管理 GUI で「トラブルシューティング」 > 「推奨処置」をクリックして、このエラーに対する推奨処置を実行します。推奨処置を実行しない場合は、MAP 6000 を使用してドライブを取り替えます。

1203 **重複したファイバー・チャンネル・フレームが受信されました。**

説明: 重複したファイバー・チャンネル・フレームを検出することはあり得ないことです。重複したファイバー・チャンネル・フレームを受信することは、ファイバー・チャンネル・ファブリックに関係する問題が発生していることを示しています。ファイバー・チャンネル・ファブリックに関係する他のエラーが発生している可能性があります。

ユーザーの処置:

1. エラー・データに示された WWPN の送信と受信を使用して、重複フレームを発生したファイバー・チャンネル・ファブリックのセクションを判別します。ファブリック・モニター・ツールを使用して問題原因を探します。重複フレームの原因の可能性としては、ファブリックの接続形態における設計エラー、構成エラー、またはファイバー・チャンネル・ファブリック (スイッチ間リンクを含む) のコンポーネントのいずれかにおけるソフトウェアまたはハードウェア障害が考えられます。
2. この問題が解消されたことを確信した場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。
3. MAP 5700 (修復の検証) に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

1210 • 1220

- ファイバー・チャンネルのケーブル・アセンブリー (1%)
- ファイバー・チャンネル・アダプター (1%)

その他:

- ファイバー・チャンネル・ネットワーク・ファブリックの障害 (98%)

1210 ローカル・ファイバー・チャンネル・ポートが除外されています。

説明: ローカル・ファイバー・チャンネル・ポートが除外されています。

ユーザーの処置:

- 表示された順に障害を修復します。
- ディスク・コントローラーの状況を検査します。すべてのディスク・コントローラーの示す状況が「良好」ならば、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。
- 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- ファイバー・チャンネルのケーブル・アセンブリー (75%)
- SFP (Small Form-factor Pluggable) コネクタ (10%)
- ファイバー・チャンネル・アダプター (5%)

その他:

- ファイバー・チャンネルのネットワーク・ファブリックの障害 (10%)

1215 ソリッド・ステート・ドライブが障害を起こしています。

説明: ソリッド・ステート・ドライブで、ドライブがまもなく障害を起こしそうであることを示す障害が検出されました。ドライブの交換が必要です。クラスター・イベント・ログでは、エラーの原因となったソリッド・ステート・ドライブのドライブ ID が特定されます。

ユーザーの処置: 管理 GUI で「トラブルシューティング」>「推奨処置」をクリックして、このエラーに対する推奨処置を実行します。これを実行しても問題が解決しない場合、次のレベルのサポートに連絡してください。

1216 SAS エラーがしきい値を超えました。

説明: クラスターは、交換が必要な障害 SAS コンポーネントを示す多数の SAS 通信エラーを検出しました。

ユーザーの処置: 表示された順序で、FRU を新しい FRU と交換します。

修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- SAS ケーブル (70%)
- 高速 SAS アダプター (20%)
- SAS ドライブ・バックプレーン (5%)
- ソリッド・ステート・ドライブ (5%)

1217 ソリッド・ステート・ドライブが温度の警告しきい値を超えました。

説明: このエラーで示されているソリッド・ステート・ドライブは、その温度が警告しきい値より高いことを報告しました。

ユーザーの処置: ドライブの温度を下げる手段を取ります。

- 室温を判別し、適切なアクションであれば室温を下げます。
- 障害のあるファンがあればすべて交換します。
- ノードに対する空気の流れが遮断されていないことを確認します。
- エラーに修正済みのマークを付けます。エラーが再発する場合は、ハードウェア・サポートに連絡を取り、さらに調査します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- ソリッド・ステート・ドライブ (10%)

その他:

- システム環境または空気の流れの遮断 (90%)

1220 リモート・ファイバー・チャンネル・ポートが除外されています。

説明: リモート・ファイバー・チャンネル・ポートが除外されています。

ユーザーの処置:

- イベント・ログを表示します。エラー・コードに関連する MDisk ID をメモします。
- MDisk で、障害のあるディスク・コントローラー ID を判別します。
- ディスク・コントローラー、およびファイバー・チャンネル・ネットワークの保守関連資料を参照して、報告された問題を解決します。
- ディスク・ドライブが修復された後に、ファイバー・チャンネル・ネットワークを再スキャンすること

により、クラスター・ディスクカバリー操作を開始して、除外されたファイバー・チャンネル・ポートをリカバリーします。

5. MDisk のオンライン状況を復元するには、ステップ 1 でメモした管理対象ディスクを組み込みます
6. ディスク・コントローラーの状況を検査します。すべてのディスク・コントローラーの示す状況が「良好」ならば、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。
7. すべてのディスク・コントローラーが良好な状況を示していない場合は、サポート・センターに連絡を取り、ディスク・コントローラーの問題を解決してください。
8. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- エンクロージャー/コントローラーの障害 (50%)
- ファイバー・チャンネルのネットワーク・ファブリック (50%)

1230 ログインが排除されました。

説明: クラスター・ノードと、コントローラーまたは別のクラスターとの間のポート間ファブリック接続 (つまり、ログイン) に過度のエラーがありました。そのため、ログインは排除され、入出力操作のために使用されません。

ユーザーの処置: リモート・システムを判別します。これはコントローラーまたは SAN ボリューム・コントローラー・クラスターのいずれかである可能性があります。イベント・ログを検査して、他の 1230 エラーを調べます。高い優先順位のエラーがすべて修正済みであることを確認します。

このエラー・イベントは通常、ファブリック問題が原因で起こります。可能な場合は、ファブリック・スイッチまたは他のファブリック診断ツールを使用して、エラーを報告しているリンクまたはポートを判別します。このノードから多数の異なるコントローラーまたはクラスターへのリンクにエラー・イベントがある場合は、おそらくノードからスイッチへのリンクがエラーの原因です。他の相反する徴候がない限り、最初にスイッチとリモート・システムの間のカベールを交換します。

1. ファブリック分析から、エラーの原因である可能性が最も高い FRU を判別します。この FRU は最近 1230 エラーを解決する際に交換した場合は、最近交換していない次に可能性の高い FRU を選択します。FRU を新しい FRU と交換します。

2. エラーに修正済みのマークを付けます。FRU の交換によって問題が修正されていない場合は、再びエラーがログに記録されます。ただし、問題の重大度によっては、すぐにはエラーが再びログに記録されない場合もあります。
3. ファイバー・チャンネル・ネットワークを再スキャンすることにより、クラスター・ディスクカバリー操作を開始して、ログインをリカバリーします。
4. ディスク・コントローラーまたはリモート・クラスターの状況を検査します。状況が「正常」でない場合は、開始 MAP に進みます。
5. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- ファイバー・チャンネル・ケーブル (スイッチからリモート・ポート) (30%)
- スイッチまたはリモート・デバイス SFP コネクターまたはアダプター (30%)
- ファイバー・チャンネル・ケーブル (ローカル・ポートからスイッチ) (30%)
- クラスター SFP コネクター (9%)
- クラスター・ファイバー・チャンネル・アダプター (1%)

注: 最初の 2 つの FRU は、クラスターの FRU ではありません。

1310 管理対象ディスクが過度のエラーを報告しています。

説明: 管理対象ディスクが過度のエラーを報告していません。

ユーザーの処置:

1. エンクロージャー/コントローラーの障害を修復します。
2. 管理対象ディスクの状況を検査します。すべての管理対象ディスクが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。「除外済み」の状況を示している管理対象ディスクがある場合は、除外された管理対象ディスクを組み込んで、エラーに「修正済み」のマークを付けます。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

エンクロージャー/コントローラーの障害 (100%)

1311 エラー数が多すぎるため、ソリッド・スタート・ドライブはオフラインになりました。

説明: 過度のエラーを報告しているドライブがオフラインにされました。

ユーザーの処置: 管理 GUI で「トラブルシューティング」 > 「推奨処置」をクリックして、このエラーに対する推奨処置を実行します。これを実行しても問題が解決しない場合、次のレベルのサポートに連絡してください。

1320 ディスク入出力のメディア・エラーが発生しました。

説明: ディスク入出力のメディア・エラーが発生しました。

ユーザーの処置:

1. エラーが報告されているボリュームはミラーリングされているかどうかを確認します。ミラーリングされている場合、イベント・ログ内にこのボリュームに関連した「1870 ミラーリングされたボリュームはハードウェア読み取りエラーが発生したためオフラインです」エラーがあるかどうかを確認します。また、ミラー・コピーの 1 つが同期中であるかどうかも確認します。これらがすべて当てはまる場合は、同期化されていないボリューム・コピーをボリュームから削除する必要があります。以下のアクションを続行する前に、ボリュームがオンラインであることを確認します。メディア・エラーが修正されるまで待つてから、ボリューム・ミラーの再作成を試みます。
2. メディア・エラーがホストからの読み取りによって検出された場合は、間違ったデータを、ホスト・システム SCSI センス・データで報告されたブロックの論理ブロック・アドレス (LBA) に書き直すように、お客様に依頼します。個々のブロックをリカバーできない場合は、バックアップからボリュームをリストアすることが必要になります。(このエラーがマイグレーション中に発生した場合には、ターゲット・デバイスがアクセスされるまで、ホスト・システムはこのエラーに気付きません。)
3. メディア・エラーがミラーリングされたボリュームの同期中に検出された場合、そのブロックはホスト・データ用に使用されていない可能性があります。メディア・エラーを修正しないと、ミラーを確立できません。ディスク・コントローラーまたはホスト・ツールを使用して、エラーのあるブロックを修正できる可能性があります。そうでない場合は、ホスト・ツールを使用して、使用中のボリュームの内容を新しいボリュームにコピーすることが必要で

す。状況に応じて、この新しいボリュームを保持してミラーリングすることもできますし、元のボリュームを修復してデータを再度コピー・バックすることもできます。

4. 管理対象ディスクの状況を検査します。すべての管理対象ディスクが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どの管理対象ディスクも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、ディスク・コントローラーの問題を解決してください。
5. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

エンクロージャー/コントローラーの障害 (100%)

1330 クォーラム・ディスクとして使用する適切な管理対象ディスク (MDisk) またはドライブが見つかりません。

説明: クォーラム・ディスクは、欠落したクラスター・メンバーがあるときに、タイ・ブレイク (tie-break) を使用できるようにするのに必要です。通常は 3 つのクォーラム・ディスクが定義されます。デフォルトでは、クラスターは、管理対象ディスクの作成時に自動的にクォーラム・ディスクを割り当てますが、手動でクォーラム・ディスクを割り当てるためのオプションもあります。管理対象ディスクまたはイメージ・モード・ディスクがあるがクォーラム・ディスクが何もない場合、このエラーが報告されます。

クォーラム・ディスクになるには、以下のことが必要です。

- MDisk が、クラスター内のすべてのノードからアクセス可能でなければならない。
- MDisk は管理対象でなければならない。つまり、ストレージ・プールのメンバーであることが必要です。
- MDisk にフリー・エクステンションがなければならない。
- MDisk はクォーラム・サポートが使用可能なコントローラーと関連付けられていなければならない。コントローラーに複数の WWNN がある場合、すべてのコントローラー・コンポーネントのクォーラム・サポートが使用可能であることが必要です。

クォーラム・ディスクは、ファイバー・チャネル・ネットワーク障害、または、ファイバー・チャネル・スイッチのゾーニング問題のために使用できなくなる場合があります。

ユーザーの処置:

1. 既知のファイバー・チャネル・ネットワーク問題があれば解決してください。
2. お客様に依頼して、MDisk がストレージ・プールに追加されていること、およびこれらの MDisk にはフリー・エクステントがあり、かつクォーラム・ディスクの提供者として使用可能なコントローラー上にあることを確認します。複数の WWNN を持つコントローラーは、そのすべてのコンポーネントがクォーラム・ディスクを提供するために使用可能であるようにします。適切な MDisk を作成するか、または可能であれば、既存の MDisk が関連付けられているコントローラー上のクォーラム・サポートを有効に設定するかのいずれかを行います。少なくとも 1 つの管理対象ディスクが「管理対象 (managed)」のモードを示し、ゼロ以外のクォーラム索引を持っている場合は、いま修復したエラーに「修正済み」のマークを付けます。
3. お客様が適切な変更を行えない場合は、ソフトウェア・サポートの支援を依頼してください。
4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

構成エラー (100%)

1335 クォーラム・ディスクが使用できません。

説明: クォーラム・ディスクが使用できません。

ユーザーの処置:

1. イベント・ログ・エントリを表示し、クォーラム・ディスクとして使用されていたが、使用できなくなった管理対象ディスク (MDisk) を識別します。
2. ステップ 1 で識別された MDisk について、ディスク・コントローラーの問題判別と修復手順を実行します。
3. クラスタに MDisk を組み込みます。
4. 管理対象ディスクの状況を検査します。ステップ 1 で示された管理対象ディスクが「オンライン」の状態を示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。管理対象ディスクも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った

場合は、サポート・センターに連絡を取り、ディスク・コントローラーの問題を解決してください。

5. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

エンクロージャー/コントローラーの障害 (100%)

1340 管理対象ディスクがタイムアウトになっています。

説明: このエラーが報告されたのは、大量のディスク・タイムアウト状態が検出されたためです。多くの場合、問題の原因は SAN 上の別のコンポーネントの障害にあります。

ユーザーの処置:

1. この 2145 クラスタと同じ SAN 上のすべてのエンクロージャー/コントローラーおよびスイッチの問題を修復します。
2. 問題が検出されたら、このエラーに「修正済み」のマークを付けます。
3. スイッチまたはディスク・コントローラーの障害が検出されない場合は、イベント・ログ・ダンプを取って、ハードウェア・サポートに連絡してください。
4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- エンクロージャー/コントローラーの障害
- ファイバー・チャネル・スイッチ

1360 SAN トラnsポート・エラーが発生しました。

説明: このエラーは、SAN コンポーネントに関連したトラnsポート・エラーに対応して 2145 がエラー・リカバリー手順を実行したため報告されました。問題は SAN コンポーネントの障害によって起きている可能性があります。

ユーザーの処置:

1. イベント・ログ・エントリを表示して問題を記録したノードを判別します。問題が記録された 2145 のノードまたはコントローラーを判別します。

- ファイバー・チャンネル・スイッチの問題判別を行い、2145 のノードまたはコントローラーに接続されたスイッチの手順を修復します。
- ファイバー・チャンネル・ケーブル接続の問題判別を行い、2145 のノードまたはコントローラーに接続されたケーブルの手順を修復します。
- ステップ 2 および 3 で問題がすべて検出され、解決された場合は、このエラーに「修正済み」のマークを付けます。
- ステップ 2 および 3 でスイッチまたはケーブルの障害が検出されなかった場合は、イベント・ログ・ダンプを取ります。ハードウェア・サポートに連絡してください。
- 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- ファイバー・チャンネル・スイッチ
- ファイバー・チャンネルのケーブル接続

1370 管理対象ディスクのエラー・リカバリー手順 (ERP) が発生しました。

説明: このエラーが報告されたのは、ディスク・コントローラーによって、大量のディスク・エラー・リカバリー手順が実行されたためです。多くの場合、問題の原因は SAN 上の別のコンポーネントの障害にあります。

ユーザーの処置:

- イベント・ログ・エントリを表示して、問題が検出されたときにアクセスされていた管理対象ディスクを判別します。
- ステップ 1 で判別された、ディスク・コントローラーの問題判別と、MDisk の修復手順を実行します。
- 問題判別を行い、2145、およびその他のファイバー・チャンネル・ネットワーク・コンポーネントに接続されたファイバー・チャンネル・スイッチの手順を修復します。
- ステップ 2 および 3 で問題がすべて検出され、解決された場合は、このエラーに「修正済み」のマークを付けます。
- ステップ 2 および 3 でスイッチまたはディスク・コントローラーの障害が検出されなかった場合は、イベント・ログ・ダンプを取ります。ハードウェア・サポートに連絡してください。
- 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- エンクロージャー/コントローラーの障害
- ファイバー・チャンネル・スイッチ

1400 2145 はイーサネット接続を検出することができません。

説明: 2145 はイーサネット接続を検出することができません。

ユーザーの処置:

- イーサネット MAP に進みます。
- 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

2145-8G4、2145-8A4、2145-CF8、または 2145-CG8

- イーサネット・ケーブル (25%)
- システム・ボード (25%)

2145-8F2 または 2145-8F4

- イーサネット・ケーブル (25%)
- フレーム・アセンブリー (25%)

その他:

- イーサネット・ケーブルが切り離されているか損傷している (25%)
- イーサネット・ハブの障害 (25%)

1550 クラスタ・パスが障害を起こしました。

説明: 2145 のいずれかのファイバー・チャンネル・ポートが、クラスタ内の他の 2145 と通信できません。

ユーザーの処置:

- スイッチ・ゾーニングに誤りがないか検査します。
- ファイバー・チャンネル・ネットワーク・ファブリックでの障害を修復します。
- ノード・ポートの状況を検査するノード・ポートの状態がアクティブとして表示される場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どのノード・ポートもアクティブ状態を示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、2145 の問題を解決してください。
- 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

ファイバー・チャネル・ネットワーク・ファブリックの障害 (100%)

1570 クォーラムが無効のコントローラー上にクォーラム・ディスクが構成されました。

説明: このエラーは、複数の WWNN を介してアクセス可能な、デフォルト設定がクォーラム・ディスク不許可であるストレージ・コントローラーで発生する可能性があります。これらのコントローラーがクラスターによって検出された場合、複数のコンポーネント・コントローラー定義が作成されていても、クラスターは、すべてのコンポーネント・コントローラーが同じストレージ・システムに属するものと認識します。このストレージ・システム上のクォーラム・ディスクの作成を有効にするには、すべてのコントローラー・コンポーネントでクォーラムを使用可能に構成する必要があります。

SAN または複数の WWNN を持つストレージ・システムに対する構成変更を行うと、クラスターは、ストレージ・システム用の新しいコンポーネント・コントローラーをディスクカバーする場合があります。これらのコンポーネントは、クォーラム許可のデフォルト設定をとりません。コントローラーに関連付けられたクォーラム・ディスクがあり、デフォルト設定がクォーラム不許可の場合、このエラーが報告されます。

ユーザーの処置:

- このストレージ・システム上にクォーラム・ディスクが存在する必要があるかどうかを判別します。いずれかのディスク・コントローラー上でクォーラム・ディスクを許可する前に、コントローラーがクォーラムをサポートすることを確認してください。詳しくは、サポート Web サイト (www.ibm.com/storage/support/2145) で調べることができます。
- このストレージ・システム上にクォーラム・ディスクが必要な場合は、エラーに報告されているコントローラー・コンポーネントのクォーラムを使用可能に設定します。このストレージ・システム上にクォーラム・ディスクがあってはならない場合は、それを別の場所に移動します。
- エラーに「修正済み」のマークを付けます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

ファイバー・チャネル・ネットワーク・ファブリックの障害 (100%)

1600 ミラーリングされたディスクの修復は、差異があるために停止しました。

説明: ミラーリングされたボリュームの修復中に、2 つのコピー・ディスクで、同じ論理ブロック・アドレス (LBA) について異なるデータを含んでいることが検出されました。検証オプションが使用されたため、修復プロセスは停止しました。

異なる LBA に対する読み取り操作を行うと、いずれかのボリューム・コピーのデータが返される可能性があります。そのため、ホスト・アプリケーションが異なる LBA を読み取らないこと、あるいは返される可能性がある異なるデータを管理できることが確実にない限り、そのボリュームを使用しないことが重要です。

ユーザーの処置: 以下のアクションを実行してください。

- 差異の後の次の LBA から始めて修復を続行し、ミラーリングされたボリューム全体での差異の数を確認します。これは、以下のどのアクションを取るかを決めるのに役立ちます。
- 1 次ディスクを選択して、差異を再同期して修復を実行する。
- 修復を実行して、差異のメディア・エラーを作成する。
- バックアップからボリュームのすべてまたは一部を復元する。
- 正しいデータを含んでいるディスクを判断した後、差異のあるコピーを削除し、それを再作成して同期を許可する。

その後で、エラーに「修正済み」のマークを付けます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1610 管理対象ディスク上のコピーされたメディア・エラーが多すぎます。

説明: クラスターは、MDisk ごとに仮想メディア・エラー・テーブルを保守します。このテーブルは、無効データおよび読み取り不能データを含んでいる、管理対象ディスク上の論理ブロック・アドレスのリストです。仮想メディア・エラー・テーブルは、固定長です。このエラー・イベントは、システムがテーブルに項目を追加しようとしたが、テーブルがすでに満杯であるために失敗したことを示しています。

仮想メディア・エラー・テーブルに項目が追加される原因となる状況には、次の 2 つがあります。

1. FlashCopy、データ・マイグレーション、およびミラー・ボリューム同期の各操作は、1 つの管理対象デ

ディスク・エクステントから別のエクステントにデータをコピーします。ソース・エクステントに仮想メディア・エラーが含まれている場合、または RAID コントローラーが実メディア・エラーを報告した場合、システムはターゲット・エクステント上に一致する仮想メディア・エラーを作成します。

- ミラー・ボリュームの検証および修復プロセスには、すべてのボリューム・コピー上の一致しないセクターに関する仮想メディア・エラーを作成するオプションがあります。通常は、差異はゼロか、ごく少数であると予想されますが、コピーが不適切に同期済みとしてマークされた場合は、多数の仮想メディア・エラーが作成される可能性があります。

ユーザーの処置: このエラーの解決を試みる前に、高い優先順位のエラーがすべて修正されていることを確認します。

過剰な数の仮想メディア・エラーが発生した原因が、ミラーリングされたディスクの検証および修復操作によって差異に関するエラーが作成されたことにあるのか、コピー操作によってエラーが作成されたことにあるのかを判別します。以下の対応するオプションに従ってください。

- 仮想メディア・エラーが発生した原因が、ミラーリングされたディスクの検証および修復操作が差異に関するメディア・エラーを作成したことにある場合は、操作を開始する前にボリューム・コピーが完全に同期化されていたかどうかを確認します。コピーが同期済みであった場合は、検証および修復操作によって作成される仮想メディア・エラーは少数に過ぎないはずですが、この場合は、ローカル・データ・リカバリー・プロセスを使用して、コピー上で整合していなかったデータのみを再書き込みすることが可能な場合があります。コピーが同期化されていない場合は、すべてのボリューム・コピー上に多数のメディア・エラーが存在する可能性があります。仮想メディア・エラーは書き込まれていないブロックに限られると予想される場合でも、他の操作が妨げられるのを避けるために、仮想メディア・エラーをクリアすることが重要です。これらの仮想メディア・エラーのすべてのデータをリカバリーするには、ボリュームのすべてのセクターを再書き込みするプロセスを使用してバックアップからボリュームをリカバリーすることが必要になる可能性があります。
- 仮想メディア・エラーがコピー操作によって作成された場合は、ソース・ボリューム上ですべてのメディア・エラーを修正し、ボリュームのコピーにメディア・エラーが伝搬しないようにするのがベスト・プラクティスです。イベント・ログ内の高い優先順位のエラーを修正すると、ソース・ボリューム上の

メディア・エラーが修正されます。メディア・エラーが修正された後で、コピー操作を再度実行して、ターゲット・ボリュームから仮想メディア・エラーをクリアする必要があります。すでにコピー済みメディア・エラーのコピーが作成された場合は、一連のコピー操作を繰り返すことが必要になる可能性があります。

根本原因には対処しない代替策の 1 つは、ターゲット管理対象ディスク上の仮想メディア・エラーがあるボリュームを削除することです。このボリュームの削除により、MDisk テーブル内の仮想メディア・エラー項目の数が削減されます。ボリュームを異なる管理対象ディスクにマイグレーションする方法でも MDisk テーブルの項目は削除されますが、MDisk テーブル上にボリュームのマイグレーション先の MDisk の追加項目が作成されることになります。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1620 ストレージ・プールがオフラインです。

説明: ストレージ・プールがオフラインです。

ユーザーの処置:

- 表示された順に障害を修復します。
- ファイバー・チャネル・ネットワークを再スキャンすることにより、クラスター・ディスクパリー操作を開始します。
- 管理対象ディスク (MDisk) の状況を検査します。すべての MDisk が「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どの MDisk も「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、ディスク・コントローラーの問題を解決してください。
- 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- ファイバー・チャネル・ネットワーク・ファブリックの障害 (50%)
- エンクロージャー/コントローラーの障害 (50%)

1623 コントローラー上の 1 つ以上の MDisk が機能低下しています。

説明: コントローラー上の少なくとも 1 つの MDisk が、1 つ以上のノードを介して使用できないため、機能低下しています。この MDisk は、少なくとも 1 つのノードを介して使用可能です。別の障害が発生すると、データへのアクセスが失われる可能性があります。

正しく構成されたシステムでは、各ノードはコントローラーのすべてのポートを介して、そのコントローラー上のすべての MDisk にアクセスできます。

このエラーは、1 台のコントローラーにつき 1 回だけログに記録されます。このコントローラー上には、間違っただけで構成された複数の MDisk がある可能性があります。エラーは 1 つの MDisk についてのみ記録されます。

短期的なファブリック保守アクティビティが原因でこのエラーがログに記録されるのを防ぐために、このエラー状態が 1 時間続いた後に初めてエラーがログに記録されます。

ユーザーの処置:

1. 機能低下している MDisk を判別します。パス・カウントがノードの数より少ない MDisk を見つけます。他のエラーも MDisk の機能低下の原因になるため、MDisk の状況だけを使用しないでください。
2. コントローラーがすべてのノードを対象に正しくゾーン分けされていることを確認します。
3. 論理装置がすべてのノードにマップされていることを確認します。
4. 論理装置が同じ LUN を使用してすべてのノードにマップされていることを確認します。
5. コンソールまたは CLI コマンドを実行して MDisk をディスカバリーし、コマンドが完了することを確認します。
6. 修復したばかりのエラーを「修正済み」としてマークを付けます。エラーに「修正済み」のマークを付けると、コントローラーの MDisk の可用性がテストされ、いずれかの MDisk にエラーが存続している場合は、直ちに再度、エラーがログに記録されます。この新しいエラーは、別の MDisk を報告している可能性があります。
7. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

• なし

その他:

- ファイバー・チャネル・ネットワーク・ファブリックの障害 (50%)

- エンクロージャー/コントローラーの障害 (50%)

1624 コントローラー構成に、サポートされない RDAC モードがあります。

説明: クラスタは、IBM DS シリーズのディスク・コントローラーの構成がクラスタではサポートされないことを検出しました。ディスク・コントローラーは RDAC モードで作動しています。ディスク・コントローラーはクラスタと連動しているように見える場合がありますが、この構成はクラスタとは連動しないことが分かっているため、サポートされません。

ユーザーの処置:

1. IBM DS シリーズのコンソールを使用する場合は、必ずホスト・タイプを「IBM TS SAN VCE」に設定し、AVT オプションを有効に設定してください (AVT オプションと RDAC オプションは相互に排他的です)。
2. 修復したばかりのエラーを「修正済み」としてマークを付けます。問題が修正されていない場合、再度ログに記録されます。これには、数分かかることがあります。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

• なし

その他:

- エンクロージャー/コントローラーの障害

1625 ディスク・コントローラー構成に誤りがあります。

説明: MDisk ディスカバリーの実行中に、クラスタは、ディスク・コントローラーの構成がクラスタによってサポートされないことを検出しました。このディスク・コントローラーはクラスタと連動できるように見える場合があります。しかし、検出された構成は問題を起す可能性があり、使用してはなりません。サポートされない構成は、イベント・データに示されています。

ユーザーの処置:

1. イベント・データを使用して、ディスク・コントローラー上で必要な変更を判別し、サポートされる構成を使用するようにディスク・コントローラーを再構成します。
2. 修復したばかりのエラーを「修正済み」としてマークを付けます。問題が修正されていない場合、この時点で自動的に実行される管理対象ディスク・ディスカバリーによって、再度、問題がログに記録されます。これには、数分かかることがあります。

3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- エンクロージャー/コントローラーの障害

1627 クラスタは、コントローラー接続で冗長性が不足しています。

説明: クラスタは、ディスク・コントローラーへの接続に関して冗長性が不足していることを検出しました。このことは、SAN での別の障害により、アプリケーション・データへのアクセスが失われる可能性があることを意味します。クラスタ SAN 環境では、どのディスク・コントローラーに対しても冗長な接続を持つ必要があります。この冗長性により、SAN コンポーネントのいずれか 1 つで障害が発生したときでも、連続運用が可能になります。

推奨する冗長性を備えるには、クラスタは以下が達成できるように構成する必要があります。

- 各ノードは、ノード上の 2 つ以上のイニシエーター・ポートを介して、それぞれのディスク・コントローラーにアクセスできる。
- 各ノードは、2 つ以上の異なるコントローラー・ターゲット・ポートを介して、それぞれのディスク・コントローラーにアクセスできる。**注:** ディスク・コントローラーの中には、単一のターゲット・ポートのみを持つものがあります。
- 各ノードは、ノード上にある少なくとも 1 つのイニシエーター・ポートを介して、それぞれのディスク・コントローラーのターゲット・ポートにアクセスできる。

より優先順位の高いエラーが報告されていない場合、このエラーは通常、SAN 設計上の問題、SAN ゾーニングの問題、またはディスク・コントローラーの問題を示しています。

SAN またはディスク・コントローラーに関して、より優先順位が高くて未修正のエラーがある場合は、そのようなエラーは冗長性の不足に対する理由を示していることがあるので、このエラーを解決する前にそれらを修正する必要があります。以下は、修正の必要があるエラー・コードです。

- 1210 ローカル FC ポートは除外されました
- 1230 ログインが排除されました。

注: ディスク・コントローラーの計画的再構成の後、あるいは SAN の再ゾーニングの後で、必要なアクション

(新規 MDisk に対するファイバー・チャネル・ネットワークの再スキャン) が実行されなかった場合に、このエラーが報告される場合があります。

1627 のエラー・コードは、異なる多数のエラー ID で報告されます。エラー ID は、冗長性の不足している領域を示します。イベント・ログのエントリで報告されるデータは、状態が検出された場所を示しています。

エラー ID の意味は、以下のとおりです。各エラー ID について、最も可能性の高い理由を説明します。示唆する領域に問題が検出されない場合は、構成および SAN コンポーネント (スイッチ、コントローラー、ディスク、ケーブルおよびクラスタ) すべての状態を確認して、Single Point of Failure の存在する場所を識別します。

010040 ディスク・コントローラーへアクセスできるのは、単一のノード・ポートからのみです。

- ノードには、2 つ以上の作動可能なイニシエーター・ポートがあるが、ディスク・コントローラーへの接続に使用できるのは、ただ 1 つのイニシエーター・ポートのみであることが検出されました。
- エラー・データは、装置の WWNN および接続されているポートの WWPN を示します。
- ゾーニングの問題またはファイバー・チャネルの接続ハードウェアの障害がこの状態を起こすことがあります。

010041 ディスク・コントローラーへアクセスできるのは、コントローラーの単一ポートを介してのみです。

- 2 つ以上のターゲット・ポートへの接続を想定したが、ノードは、ディスク・コントローラーのただ 1 つのターゲット・ポートにのみ接続していることを検出しました。
- エラー・データは、接続しているディスク・コントローラー・ポートの WWPN を示します。
- ゾーニングの問題またはファイバー・チャネルの接続ハードウェアの障害がこの状態を起こすことがあります。

010042 クラスタ内のどのノードからでも、ディスク・コントローラーのただ 1 つのポートにのみアクセス可能です。

- コントローラーには接続可能なポートは複数あるが、どのノードもアクセスできるのは、ディスク・コントローラーの単一ポートのみです。
- エラー・データは、接続しているディスク・コントローラー・ポートの WWPN を示します。

- ゾーニングの問題またはファイバー・チャンネルの接続ハードウェアの障害がこの状態を起こすことがあります。

010043 ディスク・コントローラーには、以前に構成済みのコントローラー・ポートの半分以上を介してのみ、アクセス可能です。

- ディスク・コントローラーにはアクセス可能な複数のポートがありますが、コントローラーのハードウェア・コンポーネントが失敗したか、あるいは SAN ファブリックが失敗したために、作動可能なシステム構成が Single Point of Failure になりました。
- エラー・データは、依然として接続されているディスク・コントローラーのポートを示すとともに、想定しているが接続されていないコントローラーのポートをリストします。
- ディスク・コントローラーの問題、スイッチ・ハードウェアの問題、ゾーニングの問題またはケーブルの障害が、この状態を起こすことがあります。

010044 ノードからディスク・コントローラーにアクセスできません。

- ノードは、ディスク・コントローラーにアクセスできないことを検出しました。入出力グループ内のパートナー・ノードからは、依然としてこのコントローラーにアクセス可能なので、ホスト・アプリケーションはこのデータに依然としてアクセスできます。
- エラー・データは、欠落したディスク・コントローラーの WWPN を示します。
- ゾーニングの問題または配線エラーがこの状態を起こすことがあります。

ユーザーの処置:

1. エラーの詳細な説明については、エラー ID とデータを確認します。
2. 示されているディスク・コントローラーに対するクラスタのアクセスを低下させるような、SAN ゾーニングまたはディスク・コントローラーの構成に対する意図的な変更があったかどうか判別します。いずれかのアクションがなされていた場合は、ステップ 8 に進みます。
3. GUI または CLI コマンド `lsfabric` を使用して、ディスク・コントローラーの WWPN がすべて想定されたとおりに報告されていることを確認します。
4. クラスタが使用できるように、ディスク・コントローラーの WWPN がすべて適切にゾーニングされていることを確認します。
5. ディスク・コントローラーに未修正エラーがあるかどうか検査します。

6. ファイバー・チャンネル・ケーブルのすべてが、両端で正しいポートに接続されていることを確認します。
7. ファイバー・チャンネル・ケーブルおよびコネクタに障害がないか検査します。
8. 問題を解決した後で、GUI または CLI コマンド `detectmdisk` を使用して、MDisk への変更がないかファイバー・チャンネル・ネットワークを再スキャンします。注: 問題がすべて修正されたことが確実でない限り、MDisk の検出を試行しないでください。MDisk を検出することで、問題が早めにマスクされてしまう場合があります。
9. 修復したばかりのエラーに、修正済みとしてマークを付けます。クラスタは、冗長度を再検証して、依然として冗長度が不足している場合は、別のエラーを報告します。
10. MAP 5700 (修復の検証) に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1630 装置ログインの数が減らされました。

説明: ノードとストレージ・コントローラーとの間のポート間ファブリック接続 (つまり、ログイン) の数が減らされました。SAN 上の問題、あるいは SAN の意図的な再構成が原因と考えられます。

ユーザーの処置:

1. クラスタ・イベント・ログのエラーを検査して、エラーに関連付けられているオブジェクト ID を確認します。
2. `lscontroller object_ID` コマンド行を使用して、障害のある装置の可用性を検査します。コマンドの実行が失敗して、「CMMVC6014E 要求されたオブジェクトが無効か存在しないため、コマンドは失敗しました」というメッセージが表示された場合は、この装置がシステムから除去されたかどうか、お客様に問い合わせます。
 - 答えが「はい」の場合は、クラスタ・イベント・ログでエラーに修正済みのマークを付けて、修復検査 MAP を続行します。
 - 答えが「いいえ」の場合、またはコマンドが障害のあるコントローラーの詳細をリストした場合は、次のステップに進みます。
3. 装置が再度接続を獲得したかどうかを検査します。獲得していない場合は、リモート・デバイス・ポートへのケーブル接続を検査します。
4. リモート・デバイス・ポートへのすべてのログインに障害があって、ケーブルの変更では問題を解決で

きない場合は、リモート・デバイス・ポートの状態とリモート・デバイスの状態を検査します。

5. ファイバー・チャネル・ネットワークを再スキャンすることにより、クラスター・ディスクカバリー操作を開始します。
6. ディスク・コントローラーの状況を検査します。すべてのディスク・コントローラーの示す状況が「良好」ならば、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。「良好」の状況を示していないディスク・コントローラーがある場合は、開始 MAP へ進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、ディスク・コントローラーの問題を解決してください。
7. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- ファイバー・チャネル・ネットワーク・ファブリックの障害 (50%)
- エンクロージャー/コントローラーの障害 (50%)

1660 管理対象ディスクの初期化が失敗しました。

説明: 管理対象ディスクの初期化が失敗しました。

ユーザーの処置:

1. イベント・ログ・エントリを表示して、問題が検出されたときにアクセスされていた管理対象ディスク (MDisk) を識別します。
2. ステップ 1 で識別された MDisk について、ディスク・コントローラーの問題判別と修復手順を実行します。
3. クラスターに MDisk を組み込みます。
4. 管理対象ディスクの状況を検査します。すべての管理対象ディスクが「オンライン」の状況を表示している場合は、修復したばかりのエラーに「修正済み」のマークを付けます。どの管理対象ディスクも「オンライン」の状況を表示していない場合は、MAP の開始に進みます。このステップに戻った場合は、サポート・センターに連絡を取り、ディスク・コントローラーの問題を解決してください。
5. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

エンクロージャー/コントローラーの障害 (100%)

1670 2145 のシステム・ボードの CMOS バッテリーに障害が起きました。

説明: 2145 のシステム・ボードの CMOS バッテリーに障害が起きました。

ユーザーの処置:

1. CMOS アセンブリーを交換します。
2. 修復したばかりのエラーを「修正済み」としてマークを付けます。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

CMOS バッテリー (100%)

1695 永続的なサポートされないディスク・コントローラー構成。

説明: クラスターのフェイルオーバーを妨げる可能性があるディスク・コントローラー構成が 4 時間を超えて存続しています。この問題は、最初に 010032 イベント、サービス・エラー・コード 1625 によりログに記録されました。

ユーザーの処置:

1. より優先順位の高いエラーがあれば、それを修正します。特に、サービス・アクションに従って、このエラーのルート・イベントで示された 1625 エラーを修正します。ルート・イベントが「修正済み」のマークを付けられると、このエラーは「修正済み」としてマークが付けられます。
2. ルート・イベントを見つけないことができない場合、またはルート・イベントに「修正済み」のマークが付いている場合は、MDisk ディスカバリーを実行して、このエラーに「修正済み」のマークを付けます。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- エンクロージャー/コントローラーの障害

1700 未回復のメトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー関係

説明: このエラーは、クラスター障害または完全な入出力グループ障害のリカバリー・アクションの後で報告される可能性があります。一部のメトロ・ミラーまたはグ

ローバル・ミラー関係 (その制御データが入出力グループによって保管されている) が、障害の発生時にアクティブになっており、関係の現行状態をリカバリーできなかったために、エラーが報告されています。

ユーザーの処置: このエラーを修復するには、リカバリーできなかった関係をすべて削除してから、関係を再作成する必要があります。

1. エラーがログに記録されている入出力グループ・インデックスをメモします。
2. この入出力グループのマスター・ボリュームまたは補助ボリュームのいずれかを含むメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー関係をすべてリストします。ボリューム・ビューを使用して、メモした入出力グループ内の、関係が定義されているボリュームを判別します。
3. リストされたメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー関係の詳細をメモして、再作成できるようにします。
4. リストされたすべてのメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー関係を削除します。注: 入出力グループ上の最後の関係が削除されると、エラーは自動的に「修正済み」のマークが付けられます。エラーが修正されるまでは、新しい関係を作成してはなりません。
5. ステップ 3 でメモした詳細を使用して、いま削除したすべてのメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー関係を再作成します。注: メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー関係の削除はマスター・クラスターまたは補助クラスターのいずれからでも実行できますが、関係の再作成はマスター・クラスター上で行う必要があります。ただし、このサービス・アクションを完了するには、別のクラスターに移動することが必要な場合があります。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1710 クラスター協力関係が多すぎます。クラスター協力関係の数が減らされました。

説明: 1 つのクラスターは、1 つ以上の他のクラスターとのメトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー・クラスター協力関係を持つことができます。協力関係のセットは、互いに直接協力関係を持つか、同じ中間クラスターとの協力関係を持つことによって間接的に協力関係を持つクラスターで構成されます。協力関係セットのトポロジは固定されません。トポロジは星形、ループ、チェーンまたはメッシュになる可能性があります。1 つの協力関係セットでサポートされる最大クラスター数は 4 です。クラスターが協力関係セット内の別のクラスターと協力関係がある場合、その協力関係に整合性グループ

または関係が定義されているかどうかにかかわらず、そのクラスターはその協力関係セットのメンバーです。

A、B、C、D、および E のラベルが付いた 5 つの固有のクラスターに有効な協力関係セットの例は次のとおりです。ここで、協力関係は 2 つのクラスター名間のダッシュで示されます。

- A-B、A-C、A-D。 E には協力関係が定義されていないので、そのセットのメンバーではありません。
- A-B、A-D、B-C、C-D。 E には協力関係が定義されていないので、そのセットのメンバーではありません。
- A-B、B-C、C-D。 E には協力関係が定義されていないので、そのセットのメンバーではありません。
- A-B、A-C、A-D、B-C、B-D、C-D。 E には協力関係が定義されていないので、そのセットのメンバーではありません。
- A-B、A-C、B-C、D-E。 2 つの協力関係セットがあります。一方にはクラスター A、B、および C が含まれ、他方にはクラスター D と E が含まれます。

セット内のクラスター数が 5 であるため、サポートされる最大クラスター数 4 を超えるのでサポートされない構成の例は、次のとおりです。

- A-B、A-C、A-D、A-E。
- A-B、A-D、B-C、C-D、C-E。
- A-B、B-C、C-D、D-E。

クラスターでは、結果として作成される協力関係セットが最大クラスター数 4 を超える場合、新しいメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー・クラスター協力関係を作成できません。しかし、協力関係がある 2 つのクラスター間の中断リンクを復元する場合、セット内のクラスター数が 4 を超える可能性があります。これが生じる場合、セット内のクラスター数が 4 のみになるまで、メトロ・ミラーとグローバル・ミラーのクラスター協力関係がセットから除外されます。セットから除外されるクラスター協力関係では、そのメトロ・ミラーとグローバル・ミラーのすべてのクラスター協力関係が除外されます。

クラスターが協力関係セット内に保持される場合、イベント ID 0x050030 が報告されます。クラスターが協力関係セットから除外される場合、イベント ID 0x050031 が報告されます。協力関係セット内にあったすべてのクラスターは、エラー 1710 を報告します。

除外されたクラスターを含むクラスター間メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー関係はすべて、接続が失われます。これらの関係が整合同期済み

(consistent_synchronized) 状態であるときに、書き込み入出力を受け取ると、エラー・コード 1720 で停止します。

ユーザーの処置: このエラーを修復するには、リカバリーできなかった関係をすべて削除してから、関係を再作成する必要があります。

1. どのクラスターが引き続き接続され、協力関係セットのメンバーであるか、およびどのクラスターが除外されたかを判別します。
2. これらのクラスターに存在するメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー関係を判別します。
3. どのメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー関係を維持したいか、それによってどのクラスター協力関係を維持したいかを判別します。必要なクラスター協力関係を構成する結果生じる 1 つ以上の協力関係セットで、各セットに 5 つ以上のクラスターが含まれないようにします。注: クラスターによって作成された協力関係セットで、減らされたものに、セットに必要なクラスターが含まれていない可能性があります。
4. 保持したくないメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー関係をすべて除去します。
5. 保持したくないメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラー・クラスター協力関係をすべて除去します。
6. 停止されたすべての関係および整合性グループを再開します。
7. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1720 **メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー操作において、持続する入出力エラー以外の理由により、関係が停止し、同期を失いました。**

説明: メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー操作において、持続する入出力エラー以外の理由により、関係が停止し、同期を失いました。

ユーザーの処置:

1. 優先順位の高いエラーを修正した後に関連性処理を再始動します。
2. 修復したばかりのエラーを「修正済み」としてマークを付けます。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1800 **SAN が間違っ**てゾーニングされました。

説明: この結果 SAN 上で 2145 ノードの 1 つのポートに 512 を超える他のポートがロギングしました。

ユーザーの処置:

1. ユーザーは SAN の再構成を要求されます。
2. エラーに「修正済み」のマークを付けます。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

- ファイバー・チャンネル・スイッチ構成エラー
- ファイバー・チャンネル・スイッチ

1850 **クラスター・リカバリー操作が実行されましたが、1 つ以上のボリュームのデータがリカバリーされませんでした。**

説明: クラスター・リカバリー操作が実行されましたが、1 つ以上のボリュームのデータがリカバリーされませんでした。

ユーザーの処置:

1. サポート・センターにより、ユーザーは影響されたボリューム上のデータを復元するよう誘導されます。
2. ボリュームのデータを復元済みか、またはユーザーがそのデータの復元を選択しなかった場合は、このエラーに「修正済み」のマークを付けます。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1860 **修復が失敗したため、シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーがオフラインです。**

説明: ディスクの内容を記述するシン・プロビジョニング・ボリュームのメタデータの修復を試みましたが、自動的に維持されているこのデータのバックアップ・コピーの問題が原因で失敗しました。エラー・イベント・データが問題を記述しています。

ユーザーの処置: シン・プロビジョニング・ボリュームを削除し、バックアップ・コピーまたはミラー・コピーから新しい VDisk を再構成します。エラーに「修正済み」のマークを付けます。最初の 1862 エラーにも「修正済み」としてマークを付けます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1862 **メタデータの破損のため、シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーがオフラインです。**

説明: シン・プロビジョニング・ボリュームは、ディスク内容を記述するクラスタのメタデータに不整合があるため、オフラインにされました。この原因として考えられるのは、物理ディスク上のデータの破損 (例えば、メディア・エラーやデータの不一致)、キャッシュされたメタデータの消失 (クラスタ・リカバリーが原因での)、またはソフトウェア・エラーです。イベント・データが、その理由に関する情報を提供します。

クラスタは、メタデータのバックアップ・コピーを維持しており、このデータを使用して、シン・プロビジョニング・ボリュームを修復できる可能性があります。

ユーザーの処置: 場合によっては、クラスタは不整合を修復できます。ボリューム修復オプションを実行して、修復プロセスを開始します。ただし、この修復プロセスは、多少時間がかかることがあります。状態によっては、シン・プロビジョニング・ボリュームを削除し、バックアップ・コピーまたはミラー・コピーから新しい VDisk を再構成した方が適切な場合もあります。

修復手順を実行してそれが完了した場合、このエラーは自動的に「修正済み」のマークを付けられます。そうでない場合、別のエラー・イベント (エラー・コード 1860) がログに記録され、修復アクションに失敗したことが示されます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1865 **スペースが不十分であるため、シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーがオフラインです。**

説明: シン・プロビジョニング・ボリュームは、使用済みスペースをさらに増やすために使用可能な、ボリューム上に割り振られた実際の容量が不十分であるために、オフラインにされました。シン・プロビジョニング・ボリュームで自動拡張が有効に設定されている場合、それが属するストレージ・プールもフリー・スペースがありません。

ユーザーの処置: シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーの自動拡張が使用可能であるか、ないかによって、サービス・アクションが異なります。ディスクの自動拡張が使用可能であるか、ないかは、エラー・イベント・データに示されています。

ボリューム・コピーの自動拡張が使用可能な場合、以下

のアクションの 1 つ以上を実行します。実行する予定のアクションをすべて実行したら、エラーに「修正済み」のマークを付けます。これで、ボリューム・コピーはオンラインに戻ります。

- ストレージ・プールのフリー・スペースが使い果たされた理由を調べます。このストレージ・プール内の、自動拡張が有効にされている、シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーのいずれかが、予期しない速度で拡張したことが考えられます。これはアプリケーション・エラーを示している可能性があります。新しいボリューム・コピーがストレージ・プール内に作成されたか、マイグレーションされたことが考えられます。
- MDisk をグループに追加して、シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーに関連付けられるストレージ・プールの容量を増やす。
- 使用済みスペースを削減して、ストレージ・プール内にいくらかの空き容量を設ける。不要になったボリューム・コピーを削除するか、ボリューム・コピーのサイズを縮小するか、またはボリューム・コピーを異なるストレージ・プールにマイグレーションすることができます。
- 十分な未使用容量を持つストレージ・プールにシン・プロビジョニング・ボリュームのコピーをマイグレーションします。
- ストレージ・プールの警告しきい値を引き下げて、追加スペースを割り振るまでの時間を長くすることを検討する。

ボリューム・コピーの自動拡張が使用可能でない場合、以下のアクションの 1 つ以上を実行します。この場合、エラーは自動的に「修正済み」のマークが付けられ、スペースが使用可能になると、ボリューム・コピーはオンラインに戻ります。

- シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーの使用済みスペースが、そのような速度で拡大した理由を判別する。アプリケーション・エラーがある可能性があります。
- ボリューム・コピーの実際の容量を増やす。
- シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーの自動拡張を有効にする。
- シン・プロビジョニング・ボリューム・コピーの警告のしきい値を引き下げて、実際のスペースを追加割り振りするまでの時間を長くすることを検討する。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1870 ミラーリングされたボリュームは、ハードウェア読み取りエラーが発生したため、オフラインです。

説明: ボリューム・ミラーの保守を試みているときに、同期済みボリューム・コピーのすべてでハードウェア読み取りエラーが発生しました。

ボリューム・コピーは不整合の状態である可能性があるため、ボリュームは現在オフラインです。

ユーザーの処置:

- より優先順位の高いエラーをすべて修正します。特に、センス・データにリストされた読み取りエラーがあれば、すべて修正します。ルート・イベントに「修正済み」のマークが付けられると、このエラー・イベントは自動的に修正されます。
- ルート・エラーは修正できないが、一部のボリューム・コピーの読み取りエラーは修正された場合は、このエラーに「修正済み」のマークを付けて、ミラーなしで実行するようにします。その後で、データを読み取れないボリューム・コピーを削除し、それを異なる MDisk 上に再作成することができます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1895 未回復の FlashCopy マッピング

説明: このエラーは、クラスター障害または完全な入出力グループ障害のリカバリー・アクションの後に報告される可能性があります。一部の FlashCopy (その制御データが入出力グループによって保管されている) が、障害の発生時にアクティブになっており、マッピングの現行状態をリカバリーできなかったために、エラーが報告されています。

ユーザーの処置: このエラーを修復するには、障害が発生した入出力グループ上の FlashCopy マッピングをすべて削除する必要があります。

1. エラーがログに記録されている入出力グループ・インデックスをメモします。
2. この入出力グループをビットマップに使用している FlashCopy マッピングをすべてリストします。考えられる各 FlashCopy ID の詳細ビューを入手する必要があります。このエラーがログに記録されている入出力グループの ID に一致する IO_group_id を持つマッピングの ID をメモします。
3. リストされた FlashCopy マッピングの詳細をメモして、再作成できるようにします。
4. リストされたすべての FlashCopy マッピングを削除します。注: 入出力グループ上の最後のマッピングが削除されると、エラーは自動的に「修正済み」のマ

ークが付けられます。エラーが修正されるまでは、新しいマッピングを作成してはなりません。

5. ステップ 3 でメモした詳細を使用して、いま削除したすべての FlashCopy マッピングを再作成します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1900 キャッシュ・フラッシュに障害があるため、FlashCopy の Trigger Prepare コマンドが失敗しました。

説明: キャッシュ・フラッシュに障害があるため、FlashCopy の Trigger Prepare コマンドが失敗しました。

ユーザーの処置:

1. 優先順位の高いエラーを訂正してから、Trigger Prepare コマンドを試行してください。
2. 修復したばかりのエラーを「修正済み」としてマークを付けます。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

キャッシュ・フラッシュ・エラー (100%)

1910 センス・データ内に示されているエラーのために、FlashCopy マッピング・タスクが停止しました。

説明: 停止した FlashCopy は、同じ入出力グループのほかのボリュームの状況に影響を及ぼしている可能性があります。停止済み FlashCopy をできるだけ早く準備することを勧めます。

ユーザーの処置:

1. 優先順位の高いエラーを訂正してから、FlashCopy タスクを準備して再度開始してください。
2. 修復したばかりのエラーを「修正済み」としてマークを付けます。
3. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

1920 グローバル・ミラーおよびメトロ・ミラーの永続的エラー。

説明: このエラーが発生した原因は、1 次クラスター上の問題、2 次クラスター上の問題、またはクラスター間リンク上の問題が考えられます。この問題は、コンポーネント障害 (サービス・アクションによりコンポーネントが使用不能またはパフォーマンス低下) の可能性があります。あるいは、メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーの関連性を維持できないレベルにまでコンポーネントのパフォーマンスが低下している可能性があります。あるいは、このエラーの原因として、メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーを使用するアプリケーションのパフォーマンス要件が変化したことが考えられます。

このエラーが 1 次クラスター上でレポートされるのは、コピーの関連性が長期間に渡って十分に進行していなかった場合です。すべての問題が解決する前にこの関連付けを再開すると、この期間 (デフォルト期間は 5 分) が次回期限切れとなる時点でこのエラーが再度レポートされる可能性があります。

このエラーは、1 次クラスターで読み取りエラーが発生したために報告される場合もあります。

このエラーを診断する際には、ソフトウェアのインストールおよび構成に関する資料でコピー・サービス機能の情報を参照することが必要になる場合があります。

ユーザーの処置:

1. 同一クラスター間のメトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー上で以前に 1920 エラーが発生したことがあり、以下のすべてのアクションを行ったことがある場合、プロダクト・サポート・センターに連絡してこの問題を解決してください。
2. このエラーをレポートしている 1 次クラスター上で、もっと優先順位の高いエラーを訂正してください。
3. 2 次クラスター上で、メンテナンス・ログを見て、このエラーのレポート時点で通常より低下した能力でクラスターが稼働中だったかどうかを判別します。通常より低下した能力の原因は、ソフトウェアのアップグレード、2145 ノードに対するハードウェア保守、バックエンドのディスク・システムに対する保守、または SAN に対する保守の可能性があります。
4. 2 次 2145 クラスター上で、解決されていないエラーを修正します。
5. クラスター間リンク上では、このエラー発生時点で通常時より低い能力となった原因と考えられる全発

生事象に対して、各リンク・コンポーネントのログを調査します。それらの問題が解決されているかどうかを確認します。

6. このエラーの理由が見つかって解決された場合はアクション 10 に進みます。
7. エラーを報告している 1 次クラスター上で、SAN 生産性モニター・ツールを使用して 2145 統計を調査し、計画に関する資料に記載されたメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラーのすべての要件が満たされていることを確認します。メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーを使用するアプリケーションに対するすべての変更が、考慮に入れられたかどうかを確認します。どの懸念事項も解決してください。
8. 2 次クラスターで、SAN 生産性モニター・ツールを使用して 2145 統計を調査し、ソフトウェアのインストールおよび構成に関する資料に記載されたメトロ・ミラーおよびグローバル・ミラーのすべての要件が満たされていることを確認します。どの懸念事項も解決してください。
9. クラスター間リンク上で、適切な SAN 生産性モニター・ツールを使用して各コンポーネントのパフォーマンスを調査し、各コンポーネントが期待どおりに稼働しているかどうかを確認します。どの懸念事項も解決してください。
10. このエラーを「修正済み」としてマークを付け、メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーの関連付けを再開します。

メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーの関連付けを再開する場合、ある初期的な期間があります。この期間中に、メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーがバックグラウンド・コピーを行って 1 次と 2 次クラスター上のボリューム・データを再同期します。この期間中は、2 次クラスターにあるメトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーの補助ボリューム上のデータは、不整合な状態になっており、ご使用のアプリケーションでボリュームをバックアップ・ディスクとして使用できません。

注: システムがバックグラウンド・コピーの負荷に耐えられるように、2 次クラスターとその SAN ファブリック (クラスター間リンクも含む) が必要能力を保有できる静止時点がくるまで、メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーの関連付けの再開を遅延させてもかまいません。必要な容量が得られない場合は、新たに 1920 エラーが発生して、メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラー関係が不整合な状態で停止する可能性があります。

注: メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーの関連付けが整合状態で停止 (「整合停止済み」) した場合は、2 次クラスターにあるメトロ・ミラーまたはグローバル・

ミラーの補助ボリューム上のデータは、アプリケーションのバックアップ・ディスクとして使用可能です。このため、メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーの関連付けを再開する前に、この 2 次システム上のメトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーの補助ディスクのフラッシュ・コピーを開始してもかまいません。これを行う意味は、メトロ・ミラーまたはグローバル・ミラーの関連付けが再度同期化されて整合状態になる時点まで、現行の整合状態にあるイメージを保守することを表します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

• なし

その他:

- 1 次 2145 クラスタまたは SAN ファブリック問題 (10%)
- 1 次 2145 クラスタまたは SAN ファブリック構成 (10%)
- 2 次 2145 クラスタまたは SAN ファブリック問題 (15%)
- 2 次 2145 クラスタまたは SAN ファブリック構成 (25%)
- クラスタ間リンク問題 (15%)
- クラスタ間リンク構成 (25%)

1930 マイ그레이ションが中断しました。

説明: マイ그레이ションが中断しました。

ユーザーの処置:

1. 優先順位の高いエラー・コードがすべて修正されているか確認します。
2. 中断したマイ그레이ション操作の宛先であるすべてのストレージ・プールが使用可能なフリー・エクステンションを持っているか確認するように、お客様に依頼します。
3. このエラーに「修正済み」のマークを付けます。これで、マイ그레이ション操作は再始動します。再始動が失敗した場合は、新しいエラーがログに記録されます。
4. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

• なし

1950 メディア・エラーをミラーリングできません。

説明: ミラーリングされたボリューム・コピーの同期中に、メディア・エラーのレコードをボリューム・コピー

に複写して、仮想メディア・エラーを作成する必要がありました。各管理対象ディスクには、仮想メディア・エラーのテーブルがあります。テーブルがフルであるために、仮想メディア・エラーを作成できませんでした。ボリューム・コピーは、不整合の状態であり、オフラインにされています。

ユーザーの処置: この問題を解決するには、3 つの異なる手法を取ることができます。1) ソースのボリューム・コピーを修正して、メディア・エラーを含まないようにする、2) ターゲットの管理対象ディスク上の仮想メディア・エラーの数を減らす、または 3) ターゲットのボリューム・コピーを、仮想メディア・エラーの空きエントリがより多い管理対象ディスクに移動する。

メディア・エラー・テーブルがフルになっている管理対象ディスクは、ルート・イベントのデータから判別できます。

手法 1 - これが優先手順です。ソースのボリューム・コピーを、すべてのデータが読み取り可能な状態に復元するからです。通常の保守手順を使用して、メディア・エラーを修正します (バックアップからブロックまたはボリュームを再書き込みするか、またはローカル・プロシージャを使用してデータを再生成します)。

手法 2 - この方式は、ターゲットの管理対象ディスク上にある仮想メディア・エラーの大多数がボリューム・コピーに関連していない場合に使用できます。イベント・ログ・イベントを使用して、仮想メディア・エラーが存在する場所を判別し、バックアップからブロックまたはボリュームを再書き込みします。

手法 3 - オフラインのボリューム・コピーを削除し、新規ディスク・コピーを作成します。これは、ストレージ・プール内の別の MDisk の使用を強制するか、完全に異なるストレージ・プールを使用するかのいずれかの方法で行います。

選択したオプションに従って実行した後、エラーに「修正済み」のマークを付けます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

• なし

2008 ソフトウェア・ダウングレードで障害が起きました。

説明: クラスタ構成の変更は、ダウングレードが完了するまでは制限されます。クラスタ・ダウングレード・プロセスは、このエラーがログに記録されたときに、ユーザー介入を待ちます。

ユーザーの処置: 停止したダウングレードからのリカバリーに必要なアクションは、ダウングレードされているクラスタの現在の状態によって決まります。この問題

を解決するアクション・プランについては、IBM サポートに連絡してください。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

2145 ソフトウェア (100%)

2010 ソフトウェアのアップグレードで障害が起きました。

説明: クラスタ構成の変更は、アップグレードが完了するまで、またはロールバックされるまでは制限されます。クラスタ・アップグレード・プロセスは、このエラーがログに記録されたときに、ユーザー介入を待ちます。

ユーザーの処置: 停止したアップグレードからのリカバリーに必要なアクションは、アップグレードされているクラスタの現在の状態によって決まります。この問題を解決するアクション・プランについては、IBM 技術サポートに連絡してください。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

2145 ソフトウェア (100%)

2030 ソフトウェア・エラー。

説明: クラスタ、ディスク・システム、またはファイバー・チャンネル・ファブリックの問題が原因で、2145 ソフトウェアが再始動しました。

ユーザーの処置:

1. クラスタでエラーがログに記録された時点で生成されたソフトウェア・ダンプ・ファイル (複数の場合もある) を収集します。
2. 製品サポートに連絡して、問題を調査し、解決します。
3. クラスタおよびディスク・システム上のソフトウェアが最新レベルであることを確認します。
4. 使用可能な SAN モニター・ツールを使用して、ファブリックに問題がないか検査します。
5. 修復したばかりのエラーを「修正済み」としてマークを付けます。
6. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- サポート・センターは、問題分析に基づいて FRU を示す可能性がある (2%)

その他:

- 2145 ソフトウェア (48%)
- エンクロージャー/コントローラー・ソフトウェア (25%)
- ファイバー・チャンネル・スイッチまたはスイッチ構成 (25%)

2040 ソフトウェアのアップグレードが必要です。

説明: ソフトウェアが、FRU の VPD を判別できません。新しい FRU が取り付けられて、ソフトウェアがその FRU を認識していないものと思われます。

ユーザーの処置:

1. FRU が交換される場合は、正しい交換部品が使用されたことを確認します。ノード VPD は、どの部品が認識されていないかを示します。
2. クラスタ・ソフトウェアが最新レベルであるか確認します。
3. 構成ダンプおよびログに記録されたデータ・ダンプと共にダンプ・データを保存 します。
4. 問題を解決するには、製品サポートに連絡してください。
5. 修復したばかりのエラーを「修正済み」としてマークを付けます。
6. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

2145 ソフトウェア (100%)

2100 ソフトウェア・エラーが発生しました。

説明: 2145 のいずれかのサーバー・ソフトウェア・コンポーネント (sshd、crond、または httpd) が障害を起こし、エラーが報告されています。

ユーザーの処置:

1. ソフトウェアが、クラスタで最新レベルであるか確認してください。
2. 構成ダンプおよびログに記録されたデータ・ダンプと共にダンプ・データを保存 します。
3. 問題を解決するには、製品サポートに連絡してください。

4. 修復したばかりのエラーを「修正済み」としてマークを付けます。
5. 修復検査 MAP に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

その他:

2145 ソフトウェア (100%)

2500 クラスタに対するセキュア・シェル (SSH) セッション限度に達しました。

説明: セキュア・シェル (SSH) セッションは、このクラスタを管理するアプリケーションにより使用されます。このようなアプリケーションの例としては、コマンド行インターフェース (CLI) があります。アプリケーションは最初にこのクラスタにログインして SSH セッションを作成する必要があります。このクラスタは、一度にオープン可能な SSH セッション数の制限を順守する必要があります。このエラーの意味は、SSH セッション数の制限に達したこと、およびこれ以上のログインは、現行セッションがログアウトするまでは受け付けられないことを示しています。

SSH セッション数の制限に達する一般的な理由は、複数ユーザーが SSH セッションをオープン済みであり、これらのユーザーがアプリケーションをもうこれ以上使用しない時点で SSH セッションをクローズするのを忘れた結果です。

ユーザーの処置:

- このエラーは、クラスタへの外部アクセスを行おうとするセッション数に関する問題を表しているため、非常に多くのセッションがオープンされた理由を判別する必要があります。
- オープン SSH セッションを表示および管理するには、パネルの「管理 GUI トラブルシューティング」> 「推奨処置」でこのエラーに対する修正手順を実行します。

2600 クラスタは E メールを送ることができませんでした。

説明: クラスタは、イベントへの応答に、Eメールの送信を試みましたが、メールが SMTP メール・サーバーで正常に受信されたという肯定応答がありませんでした。クラスタが構成済みの SMTP サーバー接続できなかった、Eメールがサーバーによってリジェクトされた、またはタイムアウトが発生したために、失敗した可能性があります。SMTP サーバーが稼働していないか、または正しく構成されていないか、またはクラスタ

ーが正しく構成されていない可能性もあります。このエラーは、テスト E メール機能ではログに記録されません。テスト E メール機能は、即時に結果コードで応答するからです。

ユーザーの処置:

- SMTP の E メール・サーバーがアクティブであることを確認します。
- SMTP サーバーの TCP/IP アドレスとポートが、クラスタの E メール構成で正しく構成されていることを確認します。
- テスト E メールを送信して、変更によって問題が訂正されたことを確認します。
- 修復したばかりのエラーに、修正済みとしてマークを付けます。
- MAP 5700 (修復の検証) に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

2601 Eメールの送信中にエラーが検出されました。

説明: クラスタがイベントの応答に Eメールの送信を試みている間にエラーが発生しました。クラスタは、Eメールが送信されたかどうか判別できないのでメールを再送します。問題が、SMTP サーバーまたはクラスタの Eメール構成 or with にある可能性があります。問題が、構成ノードのフェイルオーバーによって発生した可能性もあります。このエラーは、テスト Eメール機能ではログに記録されません。テスト Eメール機能は、即時に結果コードで応答するからです。

ユーザーの処置:

- ログに優先順位の高い未修正エラーがある場合は、これらのエラーを最初に修正します。
- SMTP の Eメール・サーバーがアクティブであることを確認します。
- SMTP サーバーの TCP/IP アドレスとポートが、クラスタの Eメール構成で正しく構成されていることを確認します。
- テスト Eメールを送信して、変更によって問題が訂正されたことを確認します。
- 修復したばかりのエラーに、修正済みとしてマークを付けます。
- MAP 5700 (修復の検証) に進みます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

2700 NTP ネットワーク・タイム・サーバーにアクセスできません。

説明: クラスターの時刻を、構成されている NTP ネットワーク・タイム・サーバーと同期化できません。

ユーザーの処置: 3 つの主な原因を調べます。

- クラスター NTP ネットワーク・タイム・サーバーの構成が間違っている。構成した IP アドレスが NTP タイム・サーバーの IP アドレスと一致していることを確認します。
- NTP ネットワーク・タイム・サーバーが作動可能でない。NTP ネットワーク・タイム・サーバーの状況を検査します。
- TCP/IP ネットワークが正しく構成されていない。ルーター、ゲートウェイ、およびファイアウォールの構成を検査します。クラスターが NTP ネットワーク・タイム・サーバーにアクセスでき、NTP プロトコルが許可されていることを確認します。

クラスターが時刻を NTP ネットワーク・タイム・サーバーと同期化できるようになると、エラーは自動的に修正されます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

3000 2145 UPS 温度がその上限にまで近づいています。この温度が上昇し続けると、この 2145 UPS は電源オフされます。

説明: 2145 UPS 内の温度センサーは、温度がこの装置の操作上の限界に近づいていることを報告しています。この温度が上昇し続けると、この 2145 UPS は安全上の理由で電源オフされることとなります。2145 UPS の稼働環境が余りにも高温のため、このセンサーは異常に高い温度をレポートしている可能性があります。

ユーザーの処置:

1. 室の周辺温度が許容制限内にあるか検査します。
2. 2145 UPS 前面または背面にある通気孔が塞がっていないか確認します。
3. 同じラック内の他の装置が過熱していないことを確認します。
4. 過熱の原因が解消されたことを確信した場合は、このエラーに「修正済み」のマークを付けます。

3001 2145 UPS-1U 温度がその上限にまで近づいています。この温度が上昇し続けると、この 2145 UPS-1U は電源オフされます。

説明: 2145 UPS-1U 内の温度センサーは、温度がこの

装置の操作上の限界に近づいていることを報告しています。この温度が上昇し続けると、この 2145 UPS-1U は安全上の理由で電源オフされることとなります。2145 UPS-1U の稼働環境が余りにも高温のため、このセンサーは異常に高い温度をレポートしている可能性があります。

ユーザーの処置:

1. 室の周辺温度が許容制限内にあるか検査します。
2. 2145 UPS-1U 前面または背面にある通気孔が塞がっていないか確認します。
3. 同じラック内の他の装置が過熱していないことを確認します。
4. 過熱の原因が解消されたことを確信した場合は、このエラーに「修正済み」のマークを付けます。

3010 内部的な無停電電源装置ソフトウェア・エラーが検出されました。

説明: ノード始動時に実行されるテストの一部が完了しませんでした。その理由は、ノード始動時に無停電電源装置によりレポートされたデータの一部が、無停電電源装置内のソフトウェア・エラーが原因で不整合になっています。無停電電源装置が操作を続行するためにノードに対して十分に機能していることを、このノードが判別しました。クラスターの操作はこのエラーにより影響を受けません。このエラーは、通常は無停電電源装置の電源を入れ直すことにより解決されます。

ユーザーの処置:

1. タイミングをみて、無停電電源装置の電源を入れ直します。無停電電源装置に接続された 1 つまたは 2 つのノードは、この無停電電源装置の電源をオフする前に電源オフする必要があります。ノードのパワーダウンの完了後は、無停電電源装置が待機モードに入るのに 5 分待ちます (その間、緑色の AC LED が明滅します)。この状態が自動的に起こらない場合は、配線をチェックして、この無停電電源装置が給電している全ノードが電源オフ済みであることを確認します。無停電電源装置から電源入力ケーブルを取り外し、無停電電源装置がその内部状態をクリーンアップするのに最低 2 分待ちます。無停電電源装置の電源入力ケーブルを再接続します。無停電電源装置の ON ボタンを押します。この無停電電源装置に接続されたノードを電源オンします。
2. 各ノードの再始動後もこのエラーがレポートされる場合は、2145 UPS の電子組み立て部品を交換します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- 2145 UPS 電子組み立て部品 (5%)

その他:

- 一時 2145 UPS エラー (95%)

3025 仮想化機能のライセンスが必要です。

説明: クラスタは、仮想化機能ライセンスが何も登録されていません。ユーザーは、クラスタに適用される「エントリー版物理ディスク」仮想化機能ライセンスまたは「キャパシティー」仮想化機能ライセンスのいずれかを持っている必要があります。

クラスタは操作を続行しますが、ライセンス条件に違反している可能性があります。

ユーザーの処置:

- このクラスタ用の有効かつ十分な仮想化機能ライセンスを持っていない場合は、IBM 営業担当員に連絡してライセンスを手配し、クラスタのライセンス設定を変更してライセンスを登録します。
- 状態が解決されると、エラーは自動的に修正されます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

3029 仮想化機能の容量が無効です。

説明: 仮想化できるスペースの量の設定が無効です。値は、テラバイト単位の整数値であることが必要です。

このエラー・イベントは、クラスタが 4.3.0 より前のバージョンから 4.3.0 またはそれ以降のバージョンにアップグレードされた場合に作成されます。バージョン 4.3.0 より前は、仮想化機能の容量値はギガバイト単位で設定されたので、テラバイトの分数で設定される可能性があります。バージョン 4.3.0 以降は、仮想化機能に対してライセンス交付を受けた容量は、テラバイト単位の整数であることが必要です。

ユーザーの処置:

- 仮想化機能のライセンス条件を検討します。クラスタが 1 つの場合は、クラスタのライセンス設定を変更して、ライセンス交付を受けた容量に一致させます。ライセンスが複数のクラスタを対象としている場合は、整数のテラバイトを各クラスタに配分します。すべてのクラスタの容量の合計がライセンス交付を受けた容量を超えないようにするために、他のクラスタで設定されている仮想化容量を変更することが必要になる場合があります。
- イベント・データまたはフィーチャー・ログを表示すると、ライセンス交付を受けた容量が、実際に使用されているスペースにとって十分であるか確認することができます。ライセンスの容量を変更したい場合は、IBM 営業担当員に連絡してください。

- 有効な構成が入力されると、このエラーは自動的に修正されます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

3030 グローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー機能の容量が設定されていません。

説明: クラスタのグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー機能が ON に設定されていますが、容量が設定されていませんでした。

このエラー・イベントは、クラスタが 4.3.0 より前のバージョンから 4.3.0 またはそれ以降のバージョンにアップグレードされた場合に作成されます。バージョン 4.3.0 より前は、この機能は ON または OFF にのみ設定できます。バージョン 4.3.0 以降では、この機能用にライセンス交付を受けた容量も設定する必要があります。

ユーザーの処置: 以下のアクションを実行してください。

- クラスタのグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラーのライセンス設定を、ライセンス交付を受けたグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー容量に変更するか、あるいはライセンスが複数のクラスタに適用される場合は、このクラスタに割り振られるライセンスの配分値に変更します。ライセンス交付を受けたグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー容量をもう使用していない場合は、ゼロに設定します。
- イベント・データまたはフィーチャー・ログを表示すると、ライセンス交付を受けたグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー容量が、実際に使用されているスペースにとって十分であるか確認することができません。ライセンス交付を受けたグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー容量を変更したい場合は、IBM 営業担当員に連絡してください。
- 有効な構成が入力されると、このエラーは自動的に修正されます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

3031 FlashCopy 機能の容量が設定されていません。

説明: クラスタの FlashCopy 機能が ON に設定されていますが、容量が設定されていませんでした。

このエラー・イベントは、クラスタが 4.3.0 より前のバージョンから 4.3.0 またはそれ以降のバージョンにアップグレードされた場合に作成されます。バージョン 4.3.0 より前は、この機能は ON または OFF にのみ設

定できます。バージョン 4.3.0 以降では、この機能用にライセンス交付を受けた容量も設定する必要があります。

ユーザーの処置: 以下のアクションを実行してください。

- クラスターの FlashCopy ライセンス設定を、ライセンス交付を受けた FlashCopy 容量に変更するか、あるいはライセンスが複数のクラスターに適用される場合は、このクラスターに割り振られるライセンスの配分値に変更します。ライセンス交付を受けた FlashCopy 容量をもう使用していない場合は、ゼロに設定します。
- イベント・データまたはフィーチャー・ログを表示すると、ライセンス交付を受けた FlashCopy 容量が、実際に使用されているスペースにとって十分であるか確認することができます。ライセンス交付を受けた FlashCopy 容量を変更したい場合は、IBM 営業担当員に連絡してください。
- 有効な構成が入力されると、このエラーは自動的に修正されます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

3032 機能のライセンスの限度を超過しました。

説明: クラスター機能用にライセンス交付を受けたスペースの量を超過しています。

超過している機能は、以下のものが考えられます。

- 仮想化機能 - イベント ID 009172
- FlashCopy 機能 - イベント ID 009173
- グローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー機能 - イベント ID 009174

クラスターは操作を続行しますが、ライセンス条件に違反している可能性があります。

ユーザーの処置:

- どの機能がライセンス限度を超過したのかを判別します。これは、以下が考えられます。
- 仮想化機能 - イベント ID 009172
- FlashCopy 機能 - イベント ID 009173
- グローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー機能 - イベント ID 009174
- クラスターで報告されている機能の容量が、ライセンス交付を受けたサイズに一致するように設定されたこと、あるいはライセンスが複数のクラスターに適用される場合は、このクラスターに割り振られているライセンスの配分値に一致するように設定されていたことを確認します。

- 機能の容量を増やすか、またはこの機能によって使用されているスペースを削減するかを決定します。
- 機能の容量を増やすには、IBM 営業担当員に連絡して、ライセンス容量を増やすように調整します。クラスターのライセンス設定を変更して、新たにライセンス交付を受けた容量に設定します。あるいは、ライセンスが複数のクラスターに適用される場合は、クラスター間のライセンス容量の配分を変更します。各クラスターを更新して、すべてのクラスターのライセンス容量の合計が、そのロケーションに対してライセンス交付を受けた容量を超えないようにします。
- 仮想化されたディスク・スペースの量を削減するには、いくつかの管理対象ディスクまたはイメージ・モード・ボリュームを削除します。使用済み仮想化サイズは、すべての管理対象ディスクおよびイメージ・モード・ディスクの容量の合計です。
- FlashCopy 容量を削減するには、いくつかの FlashCopy マッピングを削除します。使用済み FlashCopy サイズは、FlashCopy マッピングのソース・ボリュームであるすべてのボリュームの合計です。
- グローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー容量を削減するには、いくつかのグローバル・ミラー関係またはメトロ・ミラー関係を削除します。使用済みグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー・サイズは、メトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係にあるすべてのボリュームの容量の合計です。マスター・ボリュームと補助ボリュームの両方をカウントします。
- ライセンス交付を受けた容量が、使用されている容量より大きくなると、エラーは自動的に修正されます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

3035 物理ディスク FlashCopy 機能ライセンスが必要です。

説明: エントリー版クラスターは、一部の FlashCopy マッピングが定義済みです。しかし、クラスター上には、物理ディスク FlashCopy ライセンスが何も登録されていません。クラスターは操作を続行しますが、ライセンス条件に違反している可能性があります。

ユーザーの処置:

- ユーザーはクラスターに登録していない、このクラスター用の「エントリー版物理ディスク」FlashCopy ライセンスを持っているかどうかを確認します。ライセンスを持っている場合は、クラスターのライセンス構成を更新します。
- FlashCopy 機能を引き続き使用するかどうかを決めます。

- FlashCopy 機能を使用する場合は、IBM 営業担当員に連絡してライセンスを手配し、クラスターのライセンス設定を変更してライセンスを登録します。
- FlashCopy 機能を使用しない場合は、FlashCopy マッピングをすべて削除する必要があります。
- 状態が解決されると、エラーは自動的に修正されます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

3036 物理ディスクのグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー機能ライセンスが必要で ず。

説明: エントリー版クラスターは、一部のグローバル・ミラー関係またはメトロ・ミラー関係が定義済みです。しかし、クラスター上には、物理ディスクのグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー・ライセンスが何も登録されていません。クラスターは操作を続行しますが、ライセンス条件に違反している可能性があります。

ユーザーの処置:

- ユーザーはクラスターに登録していない、このクラスター用の「エントリー版物理ディスク」グローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー・ライセンスを持っているかどうかを確認します。ライセンスを持っている場合は、クラスターのライセンス構成を更新します。
- グローバル・ミラー機能またはメトロ・ミラー機能を引き続き使用するかどうかを決めます。
- グローバル・ミラー機能またはメトロ・ミラー機能のいずれかを使用する場合は、IBM 営業担当員に連絡してライセンスを手配し、クラスターのライセンス設定を変更してライセンスを登録します。
- グローバル・ミラー機能とメトロ・ミラー機能の両方とも使用しない場合は、グローバル・ミラー関係およびメトロ・ミラー関係をすべて削除する必要があります。
- 状態が解決されると、エラーは自動的に修正されます。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

3080 削除された協力関係を使用するグローバル・ミラーまたはメトロ・ミラー関係または整合性グループ

説明: 協力関係が削除されたクラスターを使用するグローバル・ミラーまたはメトロ・ミラー関係または整合性グループが存在します。

SAN ボリューム・コントローラー・バージョン 4.3.1 からは、この構成はサポートされないため、解決する必要があります。この状態は、SAN ボリューム・コントローラー・バージョン 4.3.1 またはそれ以降にアップグレードした結果として生じる可能性があります。

ユーザーの処置: この問題は、協力関係が削除されたクラスターを使用している既存のすべてのグローバル・ミラーまたはメトロ・ミラー関係または整合性グループを削除するか、あるいは使用していた協力関係をすべて再作成するかのいずれかの方法で解決することができます。

状態が解決されると、エラーは自動的に修正されます。

- すべてのグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー関係をリストし、マスター・クラスター名または補助クラスター名がブランクのものをメモします。これらの関係のそれぞれについて、リモート・クラスターのクラスター ID もメモします。
- すべてのグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー整合性グループをリストし、マスター・クラスター名または補助クラスター名がブランクのものをメモします。これらの整合性グループのそれぞれについて、リモート・クラスターのクラスター ID もメモします。
- 最初の 2 つのステップで識別したすべてのグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー関係および整合性グループの間で固有のリモート・クラスター ID がいくつあるかを調べます。これらのリモート・クラスターのそれぞれについて、そのクラスターとの協力関係を再確立するかどうかを決めます。リモート・クラスターとの協力関係の総数がクラスターの限度を超えないようにしてください。バージョン 4.3.1 では、この限度は 1 です。関係を再確立する場合は、協力関係を使用するグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー関係および整合性グループを削除する必要はありません。
- 選択した協力関係をすべて再確立します。
- 最初の 2 つのステップのいずれかでリストされたグローバル・ミラーおよびメトロ・ミラー関係および整合性グループのうち、そのリモート・クラスター協力関係を再確立しなかったものをすべて削除します。
- システムによってエラーに修正済みマークが付けられたことを確認します。マークが付けられていない場合は、最初のステップに戻り、まだ問題の原因になっているグローバル・ミラーまたはメトロ・ミラー関係または整合性グループを判別します。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

3081 E メールを、構成されたいずれの E メール・サーバーにも送信することができません。

説明: システムが SMTP E メール・サーバーに接続できなかったか、E メール送信が失敗したかのどちらかです。最大 6 つの E メール・サーバーを構成できます。個々の E メール・サーバーが作動していないことが検出されると、エラー・イベント 2600 または 2601 が発生します。このエラーは、すべての E メール・サーバーが作動していないことが検出されたことを示します。

ユーザーの処置:

- 未解決のすべての 2600 および 2601 エラーをイベント・ログで調べ、それらの問題を修正します。
- このエラーにまだ修正済みのマークが自動的に付いていない場合は、このエラーに修正済みのマークを付けます。
- E メール・チェック機能を実行して、E メール・サーバーが正しく作動しているかどうかをテストします。

考えられる原因 - FRU またはその他:

- なし

SAN の問題判別

ここで説明する手順は、SAN ボリューム・コントローラー システムと、そのストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) への接続に関する問題の解決に役立ちます。

このタスクについて

SAN に障害があると、SAN ボリューム・コントローラー ドライブがホスト・システムにアクセスできなくなることがあります。障害は、SAN 構成の変更、または SAN コンポーネントでのハードウェア障害によって引き起こされます。

以下のリストは、障害の原因になる可能性があるハードウェアの一部を示しています。

- 電源、ファン、または冷却スイッチ
- アプリケーション固有の集積回路
- 取り付けられた small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー
- 光ファイバー・ケーブル

保守分析手順、またはエラー・コードからここに送られてきた場合は、以下のステップを実行します。

手順

1. お客様が、ファイバー・チャンネル・ケーブル接続またはスイッチ・ゾーニングを変えて、SAN 構成を変更している場合は、その変更が正しいかどうか確認し、必要であればその変更を元に戻すように、お客様に依頼します。
2. SAN ボリューム・コントローラーシステムが使用するすべてのスイッチおよびストレージ・コントローラーの電源がオンになっていること、またそれらがいずれのハードウェア障害も報告していないことを検証します。問題が検出された場合は、それらの問題を解決してから先に進みます。
3. システムをスイッチに接続するファイバー・チャンネル・ケーブルがしっかり接続されていることを確認します。
4. お客様が実行している SAN 管理ツールをこちらが熟知していて、アクセスできる場合は、そのツールを使用して SAN トポロジを表示し、障害のあるコンポーネントを特定することができます。

ファイバー・チャンネルおよび 10 G イーサネットの障害

この手順は、Fibre Channel over Ethernet パーソナリティ対応の 10 G イーサネット・リンクに適用可能です。単一ファイバー・チャンネル・リンクまたは 10 G イーサネット・リンクに障害が起きた場合、small form-factor pluggable (SFP) トランシーバーの交換が必要になる場合があります。

始める前に

以下の項目は、単一ファイバー・チャンネル・リンクまたは 10 G イーサネット・リンクで障害が発生したことを表すことができます。

- お客様の SAN モニター・ツール
- ノードのフロント・パネル上のファイバー・チャンネル・ポート状況
- ノードの背面にあるファイバー・チャンネル状況 LED
- 単一ポートで障害が発生したことを表すエラー (703、723)

障害が修正されるまで、以下の各アクションを以下の順序で試みてください。

1. ファイバー・チャンネル・ケーブルまたは 10 G イーサネット・ケーブルの両端をしっかりと接続します。
2. ファイバー・チャンネル・ケーブルまたは 10 G イーサネット・ケーブルを交換します。
3. SAN ボリューム・コントローラー ノード上の障害のあるポートの SFP トランシーバーを交換します。

注: SAN ボリューム・コントローラーのノードは、長波 SFP トランシーバーおよび短波 SFP トランシーバーの両方でサポートされます。取り替える SFP トランシーバーと同じタイプの SFP トランシーバーに交換する必要があります。例えば、取り替える SFP トランシーバーが長波 SFP トランシーバーである場合、適切な交換部品を提供する必要があります。間違った SFP トランシーバーを取り外すと、データ・アクセスが失われるおそれがあります。

4. Fibre Channel over Ethernet パーソナリティ対応リンクを備えた、障害のあるファイバー・チャンネルまたは 10 G イーサネットに対してファイバー・チャンネル・スイッチまたは FCF の保守手順を実行します。これには、スイッチの SFP トランシーバーの交換が含まれる場合があります。
5. ノード上のファイバー・チャンネル・アダプターまたは Fibre Channel over Ethernet アダプターを交換します。

イーサネット iSCSI ホスト・リンクの問題

イーサネット・ホストの接続で何らかの問題がある場合、その問題はネットワーク、SAN ボリューム・コントローラー システム、またはホストに関連したものである可能性があります。

始める前に

ネットワークの問題の場合は、以下のいずれかのアクションを試行することができます。

- ホストと SAN ボリューム・コントローラーのポート間の接続を検査します。

- ホストから、SAN ボリューム・コントローラー システムを ping するよう試みます。
- イーサネット・ネットワーク管理者にファイアウォールとルーターの設定を確認するように依頼します。
- サブネット・マスクとゲートウェイが SAN ボリューム・コントローラーのホスト構成に対して正しいことを確認します。

SAN ボリューム・コントローラーの問題の場合は、以下のいずれかのアクションを試行することができます。

- **lspportip** CLI コマンドを使用して、構成されたノード・ポートの IP アドレスを表示します。
- **lshostvdiskmap** コマンドを使用して、ホストにマップされたボリュームのリストを表示し、ボリュームのホスト・マッピングが正しいことを確認します。
- **lsvdisk** コマンドを使用して、ボリュームがオンラインであることを検証します。

ホストの問題の場合は、以下のいずれかのアクションを試行することができます。

- ホストの iSCSI 修飾名 (IQN) が正しく構成されていることを確認します。
- オペレーティング・システムのユーティリティ (例えば Windows デバイス・マネージャー) を使用して、デバイス・ドライバが正しくインストールされ、ロードされ、作動していることを検証します。

Fibre Channel over Ethernet ホスト・リンクの問題

Fibre Channel over Ethernet ホストへの接続問題は、ネットワーク、SAN ボリューム・コントローラー・システム、またはホストに関連したものである可能性があります。

始める前に

ノード上でエラー・コード 705 が表示された場合は、FC 入出力ポートが非アクティブであることを意味します。Fibre Channel over Ethernet では、ファイバー・チャネルがプロトコルとして、イーサネットが相互接続として使用されます。

注: Fibre Channel over Ethernet 対応ポートに関して、ファイバー・チャネル・フォワーダー (FCF) が表示されていないか、または Fibre Channel over Ethernet 機能がスイッチ上に構成されていません。

- Fibre Channel over Ethernet 機能が FCF 上で有効になっているか確認します。
- FCF 上のリモート・ポート (スイッチ・ポート) プロパティを確認します。

Converged Enhanced Ethernet (CEE) スイッチを介してホストを接続する場合は、以下のようにします。

- ホストと CEE スイッチ間の接続をテストします。
- イーサネット・ネットワーク管理者にファイアウォールとルーターの設定を確認するように依頼します。

lsfabric を実行して、ホストが出力にリモート・ポートとして表示されることを確認します。ホストが表示されない場合は、以下のようにします。

- SAN ボリューム・コントローラーおよびホストが FCF 上でファイバー・チャネル ID (FCID) を獲得することを確認します。確認できない場合は、VLAN 構成を調べてください。
- SAN ボリューム・コントローラーおよびホスト・ポートがゾーンの一部であり、そのゾーンが現在有効になっていることを確認します。
- ボリュームがホストにマップされ、オンラインになっていることを確認します。詳細については、SAN ボリューム・コントローラー インフォメーション・センターの `lshostvdiskmap` および `lsvdisk` の説明を参照してください。

次のタスク

問題が解決されない場合は、ホスト・アダプターの状態を確認してください。

- デバイス・ドライバーをアンロードして、ロードします。
- オペレーティング・システムのユーティリティ (例えば、Windows のデバイス・マネージャー) を使用して、デバイス・ドライバーが正しくインストールされ、ロードされ、作動していることを検証します。

ストレージ・サブシステムのサービス

SAN ボリューム・コントローラーシステムへの接続用にサポートされるストレージ・システムは、並行保守を可能にする、予備コンポーネントおよびアクセス・パスによって設計されています。ホストは、コンポーネントの障害および取り替えの間にも、そのデータへのアクセスを継続します。

以下のガイドラインは、SAN ボリューム・コントローラーシステムに接続されたすべてのストレージ・システムに適用されます。

- ご使用のストレージ・システムの資料に記載されたサービスの指示に必ず従ってください。
- すべての保守手順を行う前に、イベント・ログ内の未修正エラーがないことを確認してください。
- 保守手順を行った後、イベント・ログを調べ、エラーがあれば修正してください。以下のタイプのエラーが発生する可能性があります。
 - MDisk エラー・リカバリー手順 (ERP)
 - パスの削減

次のカテゴリーは、ストレージ・システムのサービス・アクションのタイプを表しています。

- コントローラー・コードのアップグレード
- 現場交換可能ユニット (FRU) の取り替え

コントローラー・コードのアップグレード

コントローラー・コードのアップグレードについては、以下のガイドラインを十分に理解しておく必要があります。

- SAN ボリューム・コントローラーが、ストレージ・システムの並行保守をサポートしているかどうかを調べます。
- ストレージ・システムがアップグレード処理全体を調整できるようにします。

- ストレージ・システムがアップグレード処理全体を調整できない場合は、以下のステップを実行します。
 1. ストレージ・システムのワークロードを 50% 削減する。
 2. ストレージ・システム用の構成ツールを使用して、アップグレードするコントローラーからすべての論理装置 (LU) を手動でフェイルオーバーする。
 3. コントローラー・コードをアップグレードする。
 4. コントローラーを再始動する。
 5. LU をその元のコントローラーに手動でフェイルバックする。
 6. すべてのコントローラーについて、繰り返す。

FRU の取り替え

FRU の取り替えについては、以下のガイドラインを十分に理解しておく必要があります。

- 取り替えるコンポーネントが直接ホスト・サイドのデータ・パス内にある場合は (例えば、ケーブル、ファイバー・チャンネル・ポート、またはコントローラー)、外部データ・パスを使用不可にして、アップグレードに備えてください。外部データ・パスを使用不可にするには、ファブリック・スイッチ上の該当するポートを切断するか、使用不可にします。SAN ボリューム・コントローラー ERP は、代替パス上でアクセスを転送します。
- 取り替えるコンポーネントが内部データ・パス内にあつて (例えば、キャッシュまたはドライブ)、完全に障害を起こしているわけではない場合は、必ずデータをバックアップしてから、コンポーネントの取り替えを試みてください。
- 取り替えるコンポーネントがデータ・パス内にはない場合は (例えば、無停電電源装置 (uninterruptible power supply)、ファンまたはバッテリー)、コンポーネントは一般に二重冗長になっていて、追加のステップなしに取り替えることができます。

第 8 章 リカバリー手順

このトピックでは、システムのリカバリーと、システム構成のバックアップとリストアというリカバリー手順について説明します。このトピックには、ノード・レスキューの実行に関する情報も記載されています。

システムのリカバリー手順

このシステムのリカバリー手順では、すべてのノードからデータが失われた場合に、ストレージ・システム全体をリカバリーします。この手順では、保存済みの構成データを使用してストレージ・システムを再作成します。リカバリーを実行しても、すべてのボリューム・データを復元できない可能性があります。この手順は、Tier 3 (T3) リカバリーとも呼ばれます。

重要: 修正手順で指示された場合にのみ、サービス・アクションを実行してください。不適切に使用されると、サービス・アクションによってデータへのアクセスが失われたり、データが失われる場合があります。ストレージ・システムのリカバリーを試行する前に、障害の原因を調査し、他の修正手順を使用してこれらの問題の解決を試みてください。説明を最後まで読み、理解した上で、必要なアクションを実行してください。

重要: 以下の条件が満たされない限り、リカバリー手順を行わないでください。

- ハードウェア・エラーがすべて修正済み。
- すべてのノードが候補の状況にある。

システムのリカバリー手順は、実行しなければならないいくつかのタスクの内の 1 つです。以下のリストは各タスクの概要とそのタスクを実行する順序です。

1. システム・リカバリーの準備
 - a. システム・リカバリー手順を実行するタイミングに関する情報の検討
 - b. ハードウェア・エラーの修正
 - c. サービス・アシスタントを使用した、エラー・コード 550 またはエラー・コード 578 のあるノード・キャニスターのシステム情報の削除
2. システム・リカバリーの実行。リカバリーするシステムの準備ができ、前提条件が満たされたら、システム・リカバリーを実行します。

注: この手順は、一度にファブリック内のシステム 1 つずつに対して実行してください。同一システム内の別のノードに対して手順を実行しないでください。この制約事項は、リモート・システムにも適用されます。

3. 環境を稼働可能にするための処置の実行
 - CLI を使用したオフライン VDisk からのリカバリー
 - システムのチェック (例えば、すべてのマップ済みボリュームがホストにアクセスできることを確認する)。

リカバリー手順は、フロント・パネルあるいはサービス・アシスタントを使用して実行することができます。

システム・リカバリー手順を実行する状況

リカバリー手順は、システム障害の原因を完全に徹底して調査した後でのみ試行すべきです。他の保守手順を使用して、これらの問題の解決を試みてください。

重要: システム・リカバリー手順の実行中に障害が発生した場合は、IBM サポートに連絡してください。それ以上、リカバリー・アクションを試行しないでください。そのようなアクションにより、IBM サポートがシステムを作動可能な状況に復元できなくなる可能性があるためです。

リカバリー手順を実行する前に、特定の条件を満たす必要があります。以下の項目を使用して、リカバリー手順を実行すべき状況を判断してください。

- システム内のいずれかのノードがアクティブなノード状況であるかどうか確認します。この状況は、システムがまだ使用可能であることを意味します。この場合、リカバリーは必要ありません。
- もう一方のノードから管理 IP アドレスを使用できる場合、システムをリカバリーしないでください。すべての保守手順が実行されたことを確認してください。
- システムのメンバーであるすべてのノードの状況を確認します。すべてのエラーを解決します。
 - すべてのノードがノード・エラー 578 またはクラスター：エラーのいずれかを報告しているはずですが、これらのエラー・コードは、システムが構成データを失ったことを示しています。いずれかのノードがこれらのエラー・コード以外のものを報告している場合、リカバリーを実行しないでください。構成ノード以外のノードが他のノード・エラー（ノード・エラー 550 など）を報告する状況が発生する場合があります。550 エラーも、ノードがシステムに結合できないことを示しています。

注: これらの 2 つのエラー・コードが報告された後で、フロント・パネルのいずれかのボタンが押された場合、ノードに対する報告は 578 ノード・エラーに戻ります。報告の変更は、約 60 秒後に行われます。また、ノードがリポートされた場合、またはハードウェア・サービス・アクションが実行された場合、ノードは「クラスター」エラーのみを表示することがあります。

- いずれかのノードが「ノード・エラー：550」を示す場合、ディスプレイの 2 行目のデータを記録します。ディスプレイの 2 行目の最後の文字が > である場合、右ボタンを使用してディスプレイを右側にスクロールします。
 - 「ノード・エラー：550」に加えて、ディスプレイの 2 行目には、ノードのフロント・パネル ID (7 桁) がスペースで区切られてリストされる場合があります。このリストには、WWPN/LUN ID (16 桁の 16 進数字の後にスラッシュと 10 進数が続きます) も示されることがあります。
 - エラー・データにフロント・パネル ID が示されている場合、そのフロント・パネル ID によって参照されるノードが「ノード・エラー 578:」を示していることを確認します。ノード・エラー 578 を報告していない場合、2 つのノードが相互に通信できることを確認します。SAN 接続を検査して、フロント・パネルの電源ボタンを 2 回押し、2 つのノードのいずれかを再起動します。

- エラー・データに WWPN/LUN ID が示されている場合、このノードとその WWPN の間の SAN 接続を検査します。ストレージ・システムを調べて、参照されている LUN がオンラインであることを確認します。これらの項目を検証した後、フロント・パネルの電源ボタンを 2 回押して、ノードを再起動します。

注: 上記のシナリオをすべて解決した後で、半分以上のノードが「ノード・エラー: 578」を報告する場合、リカバリー手順を実行するのが適切です。

- ノード・エラー 550 を報告するすべてのノードで、これらのエラーに示されている欠落ハードウェアのすべてが電源オン状態で接続されており、障害が発生していないことを確認します。
- システムを再起動できず、現行ノード以外のいずれかのノードがノード・エラー 550 または 578 を報告している場合、それらのノードからシステム・データを削除する必要があります。このアクションにより、データ損失が確認され、ノードは必要な候補状態になります。
- システムを再起動できた場合は、システムをリカバリーしないでください。
- バックエンド MDisk が構成から削除されると、そのハードウェアに依存していたボリュームをリカバリーできなくなります。リカバリーを正常に実行するには、以前に構成されたすべてのバックエンド・ハードウェアが存在する必要があります。
- 取り替えられたすべてのノードは、取り替え前のノードと同じ WWNN を持つ必要があります。
- 構成バックアップ・ファイルは最新のものでなければなりません。バックアップが取られた後に何らかの構成変更が行われた場合、データは不整合になり、さらなる調査が必要になります。システムがリカバリーされた後で、手動で変更する必要があります。
- 障害発生時点でキャッシュにあったデータはすべて失われます。データ損失は、影響を受けるボリュームでデータ破損を引き起こす可能性があります。ボリュームが破損した場合は、IBM サポート に連絡します。

ハードウェア・エラーの修正

システム・リカバリー手順を実行する前に、ハードウェアの問題の根本原因を特定して修正することが重要です。

ハードウェア障害の基礎を理解します。クラスター化システムがない状態では、ほとんどの場合は電源の問題が原因です。

- ノードの電源がオフになっているか、電源コードのプラグが抜かれています。
- 2145 UPS-1U が障害を起こして、障害のために 1 つ以上のノードをシャットダウンした可能性があります。一般的に、2 台目の 2145 UPS-1U が冗長性を提供するため、この原因は起こりません。

エラー・コード 550 またはエラー・コード 578 があるノードのフロント・パネルを使用したクラスター化システム情報の除去

クラスター化システムのリカバリー手順は、すべてのノードが候補状態である場合にのみ機能します。エラー・コード 550 またはエラー・コード 578 を表示するノードがある場合は、それらのシステム・データを除去する必要があります。

このタスクについて

エラー 550 あるいは 578 があるノードからクラスター化システム情報を除去するには、フロント・パネルを使用して以下の手順を実行してください。

手順

1. 「アクション」メニュー・オプションが表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。
2. 「選択」ボタンを押して放します。
3. 「クラスターの除去?」オプションが表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。
4. 選択ボタンを押して放します。
5. ノードに「除去の確認?」が表示されます。
6. 「選択」ボタンを押して放します。
7. ノードに「クラスター:」と表示されます。

タスクの結果

すべてのノードで 1 行目に「クラスター:」と表示され、2 行目がブランクになると、ノードは候補状態です。550 あるいは 578 エラーは除去されています。これで、リカバリー手順を実行することができます。

サービス・アシスタントを使用した、エラー・コード 550 またはエラー・コード 578 が報告されたノードのシステム情報の削除

システム・リカバリー手順が機能するのは、すべてのノードが候補状況である場合のみです。エラー・コード 550 またはエラー・コード 578 を表示するノードがある場合は、それらのデータを除去する必要があります。

このタスクについて

このタスクを実行する前に、システムのリカバリー手順全体の基本情報をお読みください。

エラー 550 または 578 が発生したノードからシステム情報を削除するには、サービス・アシスタントを使用して以下の手順に従います。

手順

1. ブラウザーで、いずれかのノードのサービス IP アドレス (例えば、`https://node_service_ip_address/service/`) を指定します。

IP アドレスが不明であるか、構成されていない場合、フロント・パネル・メニューを使用してノードでサービス・アドレスを構成します。
2. サービス・アシスタントにログオンします。
3. 「システムの管理」を選択します。
4. 「システム・データの除去」をクリックします。
5. プロンプトが出されたら、システム・データを除去することを確認します。

6. 550 または 578 エラーを表示している他のノードのシステム・データを除去します。

以前にこのシステムにあったすべてのノードのノード状況が「候補」でなければならず、それらのエラーがリストされてはなりません。

7. システムのすべてのノードのエラー状態が「なし」になるまで、すべてのハードウェア・エラーを解決します。
8. システムのすべてのノードが候補の状況を表示していることを確認します。

タスクの結果

すべてのノードが候補の状況を表示して、すべてのエラー状態が「なし」になったら、リカバリー手順を実行できます。

フロント・パネルを使用したクラスター化システムのリカバリー手順の実行

システムのメンバーであるすべてのノードがオンラインで、候補状態になったら、リカバリーを開始します。エラー・コード 550 またはエラー・コード 578 を表示するノードがある場合は、それらのシステム・データを除去し、ノードを候補の状況にします。同じシステム内の別のノードでリカバリー手順を実行しないでください。この制限には、リモートのクラスター化システムが含まれます。

このタスクについて

重要: このサービス・アクションが適切に実行されない場合、重大な影響があります。この手順でカバーされていないエラーが発生した場合は、必ず停止して、IBM サポートに連絡してください。

以下のいずれかのカテゴリのメッセージが表示されることがあります。

- T3 は正しく実行中

ボリュームはオンラインです。環境を操作可能にするための最終チェックを使用します。251 ページの『システムのリカバリー実行後に検査する内容』を参照してください。

- 不完全な T3

キャッシュに高速書き込みデータがあったため、1 つ以上のボリュームがオフラインです。ボリュームをオンラインにするために、さらにアクションが必要です。詳細については、251 ページの『CLI を使用したオフライン VDisk からのリカバリー』を参照してください (特に、コマンド行インターフェース (CLI) を使用しての、オフラインの VDisk からのリカバリーに関するタスクを参照)。

- T3 の失敗

IBM サポートに連絡してください。これ以上、アクションを試行しないでください。

システム内の任意のノードからリカバリー手順を開始します。そのノードは、他のシステムに参加したことがあるものであってはなりません。入出力グループの配列を維持する上で最適な結果を得るには、入出力グループ 0 にあったノードからリカバリーを実行します。

注: リカバリー手順の各ステージは、特定の構成に応じて、完了するのにかなりの時間がかかる場合があります。

手順

1. 上移動ボタンまたは下移動ボタンをクリックして「アクション」メニュー・オプションが表示されたら、「選択」をクリックします。
2. 上移動ボタンまたは下移動ボタンをクリックして「クラスタのリカバリー?」オプションが表示されたら、「選択」をクリックします。ノードに、「リカバリーの確認?」と表示されます。
3. 「選択」をクリックします。ノードに、「検索中」と表示されます。

しばらくして、2 行目に一連の進行中メッセージが表示されます。これは、実行されているアクション (例えば、「qdisk の検出中」) を示します。バックアップ・ファイルをスキャンし、最新の構成バックアップ・データを検出します。

ファイルおよびクォーラム・データの検索が完了すると、ノードの 1 行目に「T3 データ:」と表示されます。

4. ディスプレイの 2 行目の日時を確認します。表示されているタイム・スタンプは、最後にクォーラムが更新された日時を示しており、障害の発生前 30 分未満でなければなりません。タイム・スタンプ・フォーマットは、`YYYYMMDD hh:mm` です。ここで、`YYYY` は年、`MM` は月、`DD` は日、`hh` は時、`mm` は分です。

重要: タイム・スタンプが障害の発生より 30 分以上前である場合は、IBM サポートに連絡してください。

5. タイム・スタンプが正しいことを確認したら、上矢印キーを押したまま、「選択」をクリックします。

ノードの 1 行目に「バックアップ・ファイル」が表示されます。

6. ディスプレイの 2 行目の日時を確認します。表示されているタイム・スタンプは、最後の構成バックアップの日時を示し、障害の発生前 24 時間未満でなければなりません。タイム・スタンプ・フォーマットは、`YYYYMMDD hh:mm` です。ここで、`YYYY` は年、`MM` は月、`DD` は日、`hh` は時、`mm` は分です。

重要: タイム・スタンプが障害の発生より 24 時間以上前である場合は、IBM サポートに連絡してください。

注: この構成バックアップの後に行われた変更は、復元されていない可能性があります。

7. タイム・スタンプが正しいことを確認したら、上矢印キーを押したまま、「選択」をクリックします。

ノードに「リストア中」が表示されます。しばらくして、2 行目に、実行されているアクションを示す一連の進行中メッセージが表示されます。その後、ノード上のソフトウェアが再開します。

ノードの 1 行目に「クラスタ」と表示され、2 行目に管理 IP アドレスが表示されます。少し後に、ノードに「T3 の完了」が表示されます。

注: この時点でログに記録されているシステム・エラーがある場合は、そのエラーが一時的に表示を上書きする場合があります。メッセージ「クラスター・エラー: 3025」は無視してください。しばらくして、2 行目に、実行されているアクションを示す一連の進行中メッセージが表示されます。

各ノードがシステムに追加されると、表示の 1 行目に「クラスター:」、2 行目にクラスター (システム) 名が表示されます。

重要: 最後のノードがシステムに追加された後、システムが安定するまでしばらく待機します。システムを使用しないでください。リカバリーはまだ進行中です。リカバリーが完了すると、ノードの 1 行目に「T3 の成功」が表示されます。

8. 「選択」をクリックして、ノードを通常表示に戻します。

タスクの結果

ノードに「T3 の成功」が表示されたら、リカバリーは完了です。251 ページの『システムのリカバリー実行後に検査する内容』に提供されているチェックを実行して、環境が操作可能であることを確認してください。

サービス・アシスタントを使用したシステム・リカバリーの実行

システムのメンバーであったすべてのノードがオンラインで、候補状態になったら、リカバリーを開始します。エラー・コード 550 または 578 を表示するノードがある場合、それらのシステム・データを除去して、ノードを候補状態にします。同じシステム内の別のノードでリカバリー手順を実行しないでください。この制限には、リモート・システムが含まれます。

このタスクについて

重要: このサービス・アクションは、適切に実行しないと、重大な影響が生じます。この手順でカバーされていないエラーが発生した場合は、必ず停止して、IBM サポートに連絡してください。

注: Web ブラウザーでポップアップ・ウィンドウをブロックしないでください。そうでないと、進行中ウィンドウが開きません。

以下のいずれかのカテゴリのメッセージが表示されることがあります。

- T3 は正しく実行中

ボリュームはオンラインです。環境を操作可能にするための最終チェックを使用します。251 ページの『システムのリカバリー実行後に検査する内容』を参照してください。

- 不完全な T3

キャッシュに高速書き込みデータがあったため、1 つ以上のボリュームがオフラインです。ボリュームをオンラインにするには、さらなるアクションが必要です。詳しくは、251 ページの『CLI を使用したオフライン VDisk からのリカバリー』を参照してください。

- T3 の失敗

IBM サポートに連絡してください。これ以上、アクションを試行しないでください。

システム内の任意のノードからリカバリーを実行します。そのノードは、他のシステムに参加したことがあるものであってはなりません。

注: リカバリー手順の各ステージは、特定の構成に応じて、完了するのにかなりの時間がかかる場合があります。

この手順を実行する前に、システムのリカバリー手順の概要をお読みください。243 ページの『システムのリカバリー手順』を参照してください。

手順

1. ご使用のブラウザでいずれかのノードのサービス IP アドレスを指定します。

IP アドレスが不明であるか、構成されていない場合は、初期化ツールを使用して IP アドレスを割り当てます。

2. サービス・アシスタントにログオンします。

3. ナビゲーションから「**システムのリカバリー**」を選択します。

4. オンラインの指示に従い、リカバリー手順を完了します。

a. 最後のクォーラム時の日時を確認します。タイム・スタンプは、障害の 30 分前以内でなければなりません。タイム・スタンプ・フォーマットは、*YYYYMMDD hh:mm* です。ここで、*YYYY* は年、*MM* は月、*DD* は日、*hh* は時、*mm* は分です。

重要: タイム・スタンプが障害の 30 分以上前である場合は、IBM サポートに連絡してください。

a. 最後のバックアップ日の日時を確認します。タイム・スタンプは、障害の 24 時間前以内でなければなりません。タイム・スタンプ・フォーマットは、*YYYYMMDD hh:mm* です。ここで、*YYYY* は年、*MM* は月、*DD* は日、*hh* は時、*mm* は分です。

重要: タイム・スタンプが障害の 24 時間前以内でない場合は、IBM サポートに連絡してください。

このバックアップ日付の時以降に行われた変更は復元されない可能性があります。

タスクの結果

251 ページの『システムのリカバリー実行後に検査する内容』に提供されているチェックを実行して、環境が操作可能であることを確認してください。

システム・リカバリー手順の完了後にエラー・ログにエラーが記録される場合は、修正手順を使用してこれらのエラー (特にオフライン・アレイに関連するエラー) を解決してください。

リカバリーが完了し、オフラインのボリュームが存在している場合は、251 ページの『CLI を使用したオフライン VDisk からのリカバリー』に進みます。

CLI を使用したオフライン VDisk からのリカバリー

リカバリー手順 (T3 手順) が完了したが、オフラインのボリュームがある場合は、コマンド行インターフェース (CLI) を使用して、そのボリュームにアクセスすることができます。

このタスクについて

リカバリー手順を実行し、その手順が正常に完了したがオフラインのボリュームが存在する場合は、以下のステップを実行して、ボリュームをオンラインに戻すことができます。シン・プロビジョニング・ボリュームではないボリュームがオフラインになっている原因は、両方のノードがハード・データを失う原因となったイベント中に、書き込みキャッシュ・データが失われたためです。これらのボリュームでは、該当のボリュームをオンラインに戻した後に、追加のリカバリー・ステップが必要になる場合があります。

注: オフライン・アレイに関連するリカバリー手順を実行した後にエラー・ログにエラーが記録されている場合は、オフライン・ボリューム (VDisk) エラーを修正する前に、修正手順を使用してオフライン・アレイ・エラーを解決してください。

例

以下のステップを実行して、リカバリー手順の完了後にオフラインのボリュームをリカバリーします。

1. オフライン・ボリュームを使用する IBM FlashCopy 機能マッピングおよびメトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係をすべて削除する。
2. **recovervdisk**、**recovervdiskbyigrp**、または **recovervdiskbysystem** コマンドを実行します。

recovervdisk コマンドを使用して、個々のボリュームをリカバリーすることができます。**recovervdiskbysystem** コマンドを使用して、クラスター化システム内のすべてのボリュームをリカバリーすることができます。

3. ボリュームを使用する FlashCopy マッピングおよびメトロ・ミラー関係またはグローバル・ミラー関係をすべて再作成する。

システムのリカバリー実行後に検査する内容

ボリュームを使用する前に、いくつかの作業を行う必要があります。

リカバリーされた構成に関して以下の差異に注意してください。

- FlashCopy マッピングは、0% 進行中の「idle_or_copied」として復元されます。両方のボリュームは元の入出力グループに復元される必要があります。
- 管理 ID が異なります。クラスター化システムのシステム管理 ID を参照するスクリプトまたは関連プログラムには変更が必要です。
- 災害発生時点で 100% 進行中の「idle_or_copied」状態でなかったすべての FlashCopy マッピングでは、ターゲット・ディスク上のデータが不整合です。これらのマッピングを再開する必要があります。
- システム間リモート・コピーの協力関係と関係は復元されないため、手動での再作成が必要です。
- 整合性グループは復元されないため、手動での再作成が必要です。

- システム内のリモート・コピー関係は、すべての依存関係が元の入出力グループに正常に復元された場合は復元されます。
- システムの時間帯は復元されない場合があります。

ボリュームを使用する前に、以下の作業を実行します。

- ホスト・システムを始動する。
- ホストが装置を再スキャンするようトリガーするには、ホストでの手動操作が必要になる可能性があります。この作業は、各ホスト・バス・アダプター (HBA) ポートへのファイバー・チャンネル・ケーブルを取り外してから再接続することによって実行できます。
- すべてのマップ済みボリュームにホストからアクセスできることを確認します。
- ファイル・システムの整合性検査を実行します。

注: 障害発生時に SAN ボリューム・コントローラーの書き込みキャッシュにあったすべてのデータは失われます。

- アプリケーションの整合性検査を実行します。

システム構成のバックアップおよび復元

予備作業が完了すると、システムの構成データのバックアップおよび復元が可能です。

システムの構成データは、システムおよびそれに定義されたオブジェクトに関する情報を提供します。**svcconfig** コマンドのバックアップおよび復元機能でバックアップおよび復元できるのは、SAN ボリューム・コントローラー・システムの構成データのみです。アプリケーション・データは、該当するバックアップ方法を使用して定期的にバックアップする必要があります。

システムの構成データは、以下の作業を実行することにより保守できます。

- 構成データのバックアップ
- 構成データの復元
- 不要なバックアップ構成データ・ファイルの削除

構成データをバックアップするには、以下の前提条件が満たされている必要があります。

- バックアップ・コマンドの実行中は、システムの構成を変更する独立した操作は実行できません。
- オブジェクト名の最初の文字が下線 () であってはなりません。

注:

- オブジェクトの ID が現在の構成データ・ファイル内の記録と異なる場合、コントローラーのデフォルト・オブジェクト名、入出力グループ、および管理対象ディスク (MDisk) は正しく復元されません。
- デフォルト名の他のオブジェクトは、復元処理の間にすべて名前変更されます。新規名は `name_r` のフォーマットで表示されます。ここで `name` はシステム内のオブジェクトの名前です。

構成データを復元するには、以下の前提条件が満たされている必要があります。

- ユーザー名とパスワードに関連したセキュリティー管理者の役割を持っている。
- システムにアクセス可能なサーバー上にバックアップ構成ファイルのコピーを持っている。
- 構成情報の復元操作が完了した後でシステムにロードする準備ができたアプリケーション・データのバックアップ・コピーを持っている。
- システムの現行ライセンス設定値を知っている。
- システム構成の最後のバックアップ以降、ハードウェアを取り外していない。障害のあるノードを取り替える必要があった場合、新しいノードは、取り替えられる前の障害のあるノードと同じワールド・ワイド・ノード名 (WWNN) を使用する必要があります。

注: 新しいハードウェアを追加することはできますが、ハードウェアの取り外しは、復元処理を失敗させることがあるため、行わないでください。

- ファイバー・チャネル・ファブリックで、SAN ボリューム・コントローラーと構成内に存在するストレージ・コントローラーの間の通信を妨げるようなゾーニングの変更が行われていない。

任意のノードを構成ノードとして使用することで、構成を復元できます。ただし、システムが最初に作成されたときに構成ノードであったノードを使用しない場合は、入出力グループ内にあるボリュームの固有 ID (UID) が変更されることがあります。このアクションは、IBM Tivoli Storage Productivity Center for Fabric、VERITAS Volume Manager、およびこの情報を記録するその他のすべてのプログラムに影響する可能性があります。

SAN ボリューム・コントローラーは、構成のバックアップ・データ・ファイルおよびシステムを分析して、必要なディスク・コントローラー・システム・ノードが使用可能であるか検証します。

まず、ハードウェア・リカバリーを完了する必要があります。ホスト、SAN ボリューム・コントローラー、ドライブ、イーサネット・ネットワーク、および SAN ファブリックなどのハードウェアが操作可能でなければなりません。

CLI を使用したシステム構成のバックアップ

構成データは、コマンド行インターフェース (CLI) を使用してバックアップできます。

始める前に

構成データをバックアップするには、以下の前提条件が満たされている必要があります。

- バックアップ・コマンドの実行中は、構成を変更する独立した操作は実行できません。
- オブジェクト名の最初の文字が下線 () であってはなりません。
- オブジェクトの ID が現在の構成データ・ファイル内の記録と異なる場合、コントローラーのデフォルト・オブジェクト名、入出力グループ、および管理対象ディスク (MDisk) は正しく復元されません。

- デフォルト名の他のオブジェクトは、復元処理の間にすべて名前変更されます。新規名は `name_r` のフォーマットで表示されます。

ここで、`name` はシステム内のオブジェクトの名前です。

このタスクについて

`svcconfig` CLI コマンドのバックアップ機能は、ボリューム、ローカル・メトロ・ミラー情報、ローカル・グローバル・ミラー情報、管理対象ディスク (MDisk) グループ、およびノードなどの、システム構成に関する情報をバックアップするように設計されています。ボリュームに書き込んだ他のデータは、すべてがバックアップされるわけではありません。ボリュームをストレージとしてシステム上で使用するすべてのアプリケーションは、そのアプリケーション・データを該当するバックアップ方式を使用してバックアップする必要があります。

データ損失を避けるには、構成データおよびアプリケーション・データを定期的にバックアップする必要があります。重大な障害が発生してシステムが失われると、システムの構成とアプリケーションの両方のデータが失われます。システムを正確に障害発生前の状態に復元してから、アプリケーション・データをリカバリーする必要があります。

提供されている SSH コーディングの例は、PuTTY `scp` (PSCP) アプリケーション・コードを使用したサンプルです。PSCP アプリケーションは、ご使用のホスト・システムに SSH クライアントをインストールすると使用可能になります。PSCP アプリケーションには、Microsoft Windows コマンド・プロンプトを介してアクセスできます。

以下のステップを実行して、構成データをバックアップします。

手順

1. 任意のバックアップ方式を使用して、ボリューム上に保管したアプリケーション・データをすべてバックアップする。
2. コマンド・プロンプトを開く。
3. コマンド行インターフェースを使用し、次のコマンドを発行してシステムにログオンする。

```
plink -i ssh_private_key_file superuser@cluster_ip
```

ここで、`ssh_private_key_file` はスーパーユーザー用の SSH 秘密鍵ファイルの名前であり、`cluster_ip` は構成をバックアップするクラスター化システムの IP アドレスまたは DNS 名です。

4. 以下の CLI コマンドを発行して、構成ノードの `/tmp` ディレクトリーにある、既存の構成のバックアップ・ファイルおよび復元ファイルをすべて削除する。

```
svcconfig clear -all
```

5. 次の CLI コマンドを発行して構成をバックアップする。

```
svcconfig backup
```

以下の出力は、バックアップ処理の際に表示されるメッセージの例です。


```

CMMVC6112W io_grp io_grp1 has a default name
CMMVC6112W io_grp io_grp2 has a default name
CMMVC6112W mdisk mdisk14 ...
CMMVC6112W node node1 ...
CMMVC6112W node node2 ...
.....

```

svcconfig backup CLI コマンドは、バックアップ処理および構成に関する情報を提供する 3 つのファイルを作成します。これらのファイルは、構成ノードの /tmp ディレクトリー内に作成されます。

次の表で、バックアップ処理によって作成される 3 つのファイルを説明します。

ファイル名	説明
svc.config.backup.xml	このファイルには、構成データが含まれます。
svc.config.backup.sh	このファイルには、システムのバックアップを作成するために発行されたコマンドの名前が含まれます。
svc.config.backup.log	このファイルには、報告されたすべてのエラー情報など、バックアップに関する詳細が含まれます。

6. **svcconfig backup** コマンドが正常に完了したことを確認する。以下の出力は、バックアップ処理が正常に完了した際に表示されるメッセージの例です。

```
CMMVC6155I SVCCONFIG 処理は正常に完了しました。
```

処理が失敗した場合は、エラーを解決して、処理を再実行してください。

7. 次のコマンドを発行してシステムを終了する。

```
exit
```

8. 次のコマンドを発行して、バックアップ・ファイルをご使用のシステム以外のロケーションにコピーする。

```
pscp -i ssh_private_key_file superuser@cluster_ip:/tmp/svc.config.backup.*
/offclusterstorage/
```

ここで、*cluster_ip* はシステムの IP アドレスまたは DNS 名であり、*offclusterstorage* はバックアップ・ファイルを保管するロケーションです。

構成ノードが変更された場合、このノードの /tmp ディレクトリーがアクセス不能になるため、これらのファイルをシステムの外側のロケーションにコピーする必要があります。構成ノードは、エラー・リカバリー・アクション、あるいはユーザー保守アクティビティーにตอบสนองして変更されることがあります。

ヒント: 構成データへのアクセスを引き続き制御するため、バックアップ・ファイルをパスワード保護されたロケーションにコピーします。

9. バックアップ・ファイルのコピーが、ステップ 8 で指定したロケーションに保管されていることを確認する。

次のタスク

バックアップ・ファイルを名前変更して、構成ノード名をファイル名の始めか終わりのいずれかに組み込み、構成を復元する準備が整ったときにこれらのファイルを識別しやすいようにできます。

以下のコマンドを発行して、Linux または IBM AIX ホストに保管されたバックアップ・ファイルを名前変更します。

```
mv /offclusterstorage/svc.config.backup.xml  
/offclusterstorage/svc.config.backup.xml_myconfignode
```

ここで *offclusterstorage* はバックアップ・ファイルが保管されたディレクトリーの名前で、*myconfignode* は構成ノードの名前です。

Windows ホスト上に保管されたバックアップ・ファイルを名前変更するには、ファイルの名前を右クリックし、「名前変更 (Rename)」を選択します。

システム構成の復元

リカバリー手順の説明については、243 ページの『システムのリカバリー手順』を参照してください。

始める前に

この構成の復元手順は、ボリューム、ローカル・メトロ・ミラー情報、ローカル・グローバル・ミラー情報、ストレージ・プール、およびノードなどの、構成に関する情報を復元することを目的としています。ボリュームに書き込んだデータがすべて復元されるわけではありません。ボリューム上のデータを復元するには、クラスター化システム上のボリュームをストレージとして使用するすべてのアプリケーションから個別にアプリケーション・データを復元する必要があります。そのため、構成のリカバリー・プロセスを実行する前に、このデータのバックアップを用意する必要があります。

このタスクについて

データ損失を避けるには、構成データおよびアプリケーション・データを定期的にバックアップする必要があります。重大な障害が発生してシステムが失われると、システムの構成とアプリケーションの両方のデータが失われます。システムを正確に障害発生前の状態に復元してから、アプリケーション・データをリカバリーする必要があります。

重要:

1. 復元処理の際には、準備と実行の 2 つのフェーズがあります。この 2 つのフェーズの間では、ファブリックまたはシステムへの変更を行ってはなりません。
2. 内部ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を持つ SAN ボリューム・コントローラーでは、データを復元する前に、すべてのノードをシステムに追加する必要があります。ステップ 9 (258 ページ) を参照してください。

CLI コマンドを実行するための説明を理解できない場合、コマンド行インターフェースの参照情報を参照してください。

構成データを復元するには、以下のステップを実行します。

手順

1. このリカバリ手順を実行する前に、すべてのノードが候補ノードとして使用可能であることを確認します。ノードを候補状態にするには、エラー 550 または 578 を除去する必要があります。
2. フロント・パネルから新規システムを作成します。可能であれば、本来入出力グループ 0 にあったノードを使用します。
3. 管理 GUI から、「アクセス」 > 「ユーザー」をクリックし、システムのセットアップおよびスーパーユーザー用の SSH 鍵の構成を行います。これにより、CLI にアクセスできます。
4. コマンド行インターフェースを使用し、次のコマンドを発行してシステムにログオンします。

```
plink -i ssh_private_key_file superuser@cluster_ip
```

ここで、*ssh_private_key_file* は *superuser* の SSH 秘密鍵の名前、*cluster_ip* は構成を復元するシステムの IP アドレスまたは DNS 名です。

注: RSA ホスト鍵が変更されているため、SSH を使用してシステムに接続する際に、警告メッセージが表示される場合があります。

5. 以下の CLI コマンドを発行して、構成ノードのみがオンラインであることを確認します。

```
lsnode
```

以下の出力は、表示内容の例です。

```
id name status IO_group_id IO_group_name config_node
1 node1 online 0 io_grp0 yes
```

6. 復元元の構成バックアップ・ファイルを特定します。

このファイルは、構成のバックアップ時に保存した構成バックアップ XML ファイルのローカル・コピーでも、いずれかのノード上の最新のファイルでも、どちらでもかまいません。

構成データは、毎日、システム時刻 01:00 に構成ノードに自動的にバックアップされます。

重要: 続行する前に、必要なバックアップ・ファイルを別のコンピューターにコピーする必要があります。データのコピーを保存するには、以下のステップを実行して、両方のノードでバックアップ・ファイルの有無を確認します。

- a. 管理 GUI から、「設定」 > 「サポート」をクリックします。
- b. 「完全なログ・リストの表示」をクリックします。
- c. `svc.config.cron.xml` で始まるファイル名を見つけます。
- d. ファイルをダブルクリックして、ファイルをコンピューターにダウンロードします。
- e. 最近の構成ファイルがこのノードに存在しない場合、他のノードのサービス IP アドレスを構成して、サービス・アシスタントに接続し、他のノードで構成ファイルを探します。この方法について詳しくは、134 ページの『サービス IPv4 またはサービス IPv6 オプション』のサービス IPv5 またはサービス IPv6 に関する情報を参照してください。

7. 次の CLI コマンドを発行して、既存のバックアップをすべて除去し、構成ノードの /tmp ディレクトリーにある構成ファイルを復元します。

```
svcconfig clear -all
```

8. XML ファイルには日時が入っており、これによって最新のバックアップを識別することができます。システムの復元時に使用するバックアップの XML ファイルを識別した後、ファイルを `svc.config.backup.xml` に名前変更します。デスクトップから、次のコマンドを発行してファイルを元のシステムにコピーします。

```
pscp -i ssh_private_key_file  
full_path_to_identified_svc.config.backup.xml  
superuser@cluster_ip:/tmp/
```

9. 内蔵ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を使用するノードがシステムに含まれている場合は、この時点でこれらのノードをシステムに追加する必要があります。これらのノードを追加するには、該当するノードすべてのパネル名、ノード名、および入出力グループを構成バックアップ・ファイルから判別してください。ノードをシステムに追加するには、次のコマンドを発行します。

```
source addnode -panelname panel_name  
-iogrp iogrp_name_or_id -name node_name
```

ここで、*panel_name* はパネルに表示される名前、*iogrp_name_or_id* はこのノードを追加する先の入出力グループの名前または ID、*node_name* はノードの名前です。

10. 次の CLI コマンドを発行して、現行構成とバックアップ構成データ・ファイルを比較します。

```
svcconfig restore -prepare
```

この CLI コマンドで、構成ノードの /tmp ディレクトリーにログ・ファイルが作成されます。ログ・ファイルの名前は `svc.config.restore.prepare.log` です。

注: 各 256-MDisk バッチをディスカバーするには、最大 1 分かかる場合があります。このコマンドの入力後に MDisk に関するエラー・メッセージ CMMVC6200W を受け取った場合は、まだすべての管理対象ディスク (MDisk) がディスカバーされていない可能性があります。適当な時間が経過するのを待ってから、**svcconfig restore -prepare** コマンドを再試行してください。

11. 次のコマンドを発行して、ログ・ファイルをシステムにアクセス可能な別のサーバーにコピーします。

```
pscp -i ssh_private_key_file  
superuser@cluster_ip:/tmp/svc.config.restore.prepare.log  
full_path_for_where_to_copy_log_files
```

12. 現在コピーが保管されているサーバーからログ・ファイルを開きます。
13. ログ・ファイルのエラーを検査します。
 - エラーがある場合は、そのエラーの原因である条件を訂正し、コマンドを再発行します。ステップ 14 に進むには、すべてエラーを訂正しておく必要があります。
 - 支援が必要な場合は、IBM サポートにご連絡ください。

14. 次の CLI コマンドを発行して、構成を復元します。

```
svcconfig restore -execute
```

注: この CLI コマンドを単一ノード・システムで発行すると、システムに他のノードが追加されます。

この CLI コマンドで、構成ノードの /tmp ディレクトリーにログ・ファイルが作成されます。ログ・ファイルの名前は `svc.config.restore.execute.log` です。

- 次のコマンドを発行して、ログ・ファイルをシステムにアクセス可能な別のサーバーにコピーします。

```
pscp -i ssh_private_key_file  
superuser@cluster_ip:/tmp/svc.config.restore.execute.log  
full_path_for_where_to_copy_log_files
```

- 現在コピーが保管されているサーバーからログ・ファイルを開きます。
- このログ・ファイルを調べて、エラーまたは警告が発生していないことを確認します。

注: ライセンス機能が使用不可であることを知らせる警告を受け取ることがあります。つまり、このメッセージは、リカバリー処理後に現行ライセンス設定値が前のライセンス設定値と一致していないことを意味します。通常、リカバリー処理は続行され、正しいライセンス設定値を後で管理 GUIに入力できます。

SSH を使用して CLI に再ログインすると、以下のような出力が表示されます。

```
IBM_2145:your_cluster_name:superuser>
```

- 構成が復元されたら、以下のアクションを実行します。
 - lsquorum** コマンドを使用して、目的の MDisk にクォーラム・ディスクが復元されていることを確認します。クォーラム・ディスクを正しい MDisk に復元するには、適切な **chquorum** CLI コマンドを発行します。
 - スーパーユーザーのパスワードをリセットする。スーパーユーザーのパスワードは、このプロセスの中で復元されません。

次のタスク

次の CLI コマンドを発行して、不必要なバックアップと復元構成ファイルを構成ノードの /tmp ディレクトリーから除去することができます。

```
svconfig clear -all
```

CLI を使用したバックアップ構成ファイルの削除

コマンド行インターフェース (CLI) を使用して、バックアップ構成ファイルを削除できます。

このタスクについて

以下のステップを実行して、バックアップ構成ファイルを削除します。

手順

1. 次のコマンドを発行して、システムにログオンします。

```
plink -i ssh_private_key_file superuser@cluster_ip
```

ここで、`ssh_private_key_file` はスーパーユーザーの SSH 秘密鍵ファイルの名前であり、`cluster_ip` は構成情報を削除するクラスター化システムの IP アドレスまたは DNS 名です。

2. 以下の CLI コマンドを発行して、`/tmp` ディレクトリーに保管されたファイルをすべて消去します。

```
svconfig clear -all
```

ノード・ブート時のノード・レスキューの実行

ハード・ディスク・ドライブの交換が必要な場合、またはハード・ディスク・ドライブ上のソフトウェアが破損した場合は、ノード・レスキュー手順を使用して、SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアを再インストールできます。

始める前に

同様に、サービス・コントローラーを交換した場合は、ノード・レスキュー手順を使用して、サービス・コントローラーのソフトウェアが正しいことを確認してください。

このタスクについて

重要: 同じ修復操作の一環として、最近サービス・コントローラーとディスク・ドライブの両方を交換した場合は、ノード・レスキューが失敗します。

ノード・レスキューは、サービス・コントローラーにあるオペレーティング・システムをブートし、ファイバー・チャンネル・ファブリック上にある他の任意のノードからすべての SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアをコピーするプログラムを実行します。

重要: ノード・レスキュー操作を実行するとき、同じ SAN 上で一度に実行するノード・レスキュー操作は 1 つのみにしてください。実行中のノード・レスキュー操作が完了してから、次の操作を開始してください。

ノード・レスキューを完了するには、以下の手順を実行します。

手順

1. ファイバー・チャンネル・ケーブルが接続されていることを確認します。
2. 他のノードが少なくとも 1 つ、ファイバー・チャンネル・ファブリックに接続されていることを確認します。
3. SAN ゾーニングで、このノードの少なくとも 1 つのポートと他のノードの 1 つのポートとの間の接続が可能になっていることを確認します。複数のポートが接続可能であれば、より適当です。ゾーニングがワールドワイド・ポート名 (WWPN) に基づいており、新しいサービス・コントローラーを使用する場合は、このことが特に重要です。この場合は、ノードの WWPN を判別するため

に、SAN モニター・ツールを使用することが必要になる場合があります。ゾーニングの変更が必要な場合、保守手順が完了したら、設定を元に戻すことを忘れないでください。

4. ノードの電源をオフにします。
5. フロント・パネルの「左」ボタンと「右」ボタンを押したままにします。
6. 電源ボタンを押します。
7. フロント・パネルにノード・レスキュー要求のシンボルが表示されるまで、左移動ボタンと右移動ボタンを押し続けます (図 73)。

タスクの結果



図 73. ノード・レスキュー要求の表示

ノードがサービス・コントローラーからブートを開始するまで、フロント・パネル・ディスプレイにノード・レスキュー要求のシンボルが表示されます。ノード・レスキュー要求のシンボルが 2 分を超えて表示された場合は、ハードウェア・ブート MAP に進み問題を解決します。ノード・レスキューが開始すると、サービス画面がノード・レスキュー操作の進行または失敗を表示します。

注: リカバリーされるノードがクラスター化システムの一部であった場合は、ノードはオフラインになります。オフライン・ノードをシステムから削除し、次にそのノードをシステムに戻します。ソフトウェア・アップグレード処理中に障害が発生したノードを回復するためにノードのリカバリーを使用した場合は、アップグレードまたはダウングレード処理が完了するまでは、ノードを元のシステムに追加することはできません。この処理は、8 ノードのクラスター化システムの場合、最大 4 時間かかる場合があります。

第 9 章 メディア・エラーと不良ブロックについて

ブロックを正常に読み取ることができない場合、ストレージ・システムはメディア・エラー応答をホストに返します。ホスト読み取りに対する SAN ボリューム・コントローラーの応答は、この動作の後に続きます。

提供されるボリュームの仮想化では、メディア・エラーがホストに返される時間が延びます。この非仮想化システムとの違いにより、SAN ボリューム・コントローラーではメディア・エラーではなく不良ブロック という用語を使用します。

SAN ボリューム・コントローラーは、管理対象ディスク (MDisks) 上のエクステン
トからボリュームを割り振ります。MDisk は、外部ストレージ・コントローラー上
のボリュームでも、内蔵ドライブから作成された RAID アレイでも構いません。い
ずれの場合も、使用される RAID レベルに応じて、通常、単一のドライブでの読み
取りエラーに対する保護があります。ただし、複数のドライブにエラーがある場
合、またはドライブが再ビルド中か、その他の問題が原因でドライブがオフライン
である場合、読み取り要求でメディア・エラーが発生する可能性があります。

SAN ボリューム・コントローラーは、任意のボリュームを基礎になる一連の物理ス
トレージから別のストレージに移動したり、あるいは FlashCopy、メトロ・ミラ
ー、またはグローバル・ミラーを使用するボリュームを複製するマイグレーション
機能を提供します。いずれの場合も、元のボリュームの論理ブロック・アドレスが
読み取られると、マイグレーション済みボリュームまたは複製済みボリュームは、
ホストにメディア・エラーを返します。システムは、読み取りできない論理ブロ
ック・アドレスの場所を記録する不良ブロックの表を保持します。これらの表は、ボ
リュームにストレージを提供している MDisk に関連付けられます。

不良ブロックの位置の照会には、`dumpmdiskbadblocks` コマンドおよび
`dumpallmdiskbadblocks` コマンドを使用できます。

不良ブロックの位置の記録に使用される表がいっぱいになる場合があります。表
は、一般的に MDisk またはシステム上のいずれかでいっぱいになる場合がありま
す。表がいっぱいになると、ソース・ボリュームの正確なイメージを作成できない
ため、不良ブロックを作成していたマイグレーションまたはレプリカ生成は失敗し
ます。

システムは以下の状態の場合に、イベント・ログにアラートを作成します。

- メディア・エラーが検出され、不良ブロックが作成される場合
- 不良ブロックの表がいっぱいになった場合

以下のエラーが示されます。

表 55. 不良ブロック・エラー

エラー・コード	説明
1840	管理対象ディスクに不良ブロックがありま す。

表 55. 不良ブロック・エラー (続き)

エラー・コード	説明
1226	MDisK に許可される最大数の不良ブロックがすでに存在するため、システムは不良ブロックを作成できませんでした。
1225	システムに許可される最大数の不良ブロックがすでに存在するため、システムは不良ブロックを作成できませんでした。

これらのアラートに対する推奨処置では、この状態の修復をガイドしています。

当該ブロックに対してボリュームの削除、または書き込み入出力を実行して、ボリューム・ディスク・エクステントを割り振り解除することにより、不良ブロックがクリアされます。不良ブロックが検出された場合はすぐに修復することをお勧めします。このアクションにより、ボリュームの複製やマイグレーションが行われるときに、不良ブロックが伝搬されるのを防止することができます。ただし、アプリケーションが使用しないボリュームの一部が不良ブロックであることは可能です。例えば、初期化されていないデータベースの一部が不良ブロックであっても構いません。これらの不良ブロックは、アプリケーションによりデータがこれらの領域にかきこまれるときに修復されます。修復が行われるまでは、不良ブロック・レコードは使用可能な不良ブロック・スペースを消費し続けます。

第 10 章 保守分析手順の使用

保守分析手順 (MAP) は、SAN ボリューム・コントローラーノードで発生した障害の分析方法を提供します。

このタスクについて

SAN ボリューム・コントローラー・ノードは、並行保守を実行できるように、対で構成する必要があります。

ノードの 1 つの保守中に、もう 1 つのノードがストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) を操作可能に維持します。並行保守を使用すると、SAN およびホスト・システムを電源オンして実動処理を行いながら、1 台のノード上ですべての現場交換可能ユニット (FRU) の取り外し、交換、およびテストを行うことができます。

注: 特別な理由がなければ、特に指示がない限り、両方のノードの電源を取り外さないでください。電源を除去する必要がある場合は、296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』を参照してください。

手順

- 障害のあるノードの FRU を特定するには、これらの保守分析手順 (MAP) にあるアクションを実行し、質問に答えてください。
- 複数の FRU を順序どおりに交換するように指示されたら、次のようにします。
 1. リストの最初の FRU を新しいものに交換します。
 2. 問題が解決されたか確認します。
 3. 問題が残る場合は、以下のことを行います。
 - a. 元の FRU を再度取り付ける。
 - b. リストの次の FRU を新しいものに交換する。
 4. 問題が解決されるか、関連する FRU がすべて交換されるまで、ステップ 2 および 3 を繰り返します。
 5. MAP で指示された次のアクションを完了します。
 6. システム・エラー・コードのために 1 つ以上の MAP を使用している場合、修復した後で、ただし修復を検証する前に、イベント・ログでエラーに修正済みのマークを付けます。

注: すべての問題判別手順および修復手順は、『MAP 5000: 開始』から始めます。

MAP 5000: 開始

MAP 5000: 開始は、SAN ボリューム・コントローラーの保守分析手順 (MAP) のエントリー・ポイントです。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

この MAP はすべての SAN ボリューム・コントローラー・モデルに適用されます。この手順を開始する前に、使用するモデルを認識している必要があります。使用するモデルを判断するには、ノードの前面でモデル・タイプを示すラベルを見つけてください。

以下のいずれかの理由で、ここに送られてきた可能性があります。

- 修正手順によってここに送られた。
- SAN ボリューム・コントローラーの取り付けの際に問題が発生した。
- 別の MAP によってここに送られた。
- システムが検出しなかった問題にお客様が気付いた。

SAN ボリューム・コントローラー・ノードはペアで構成されています。1 台のノードの保守を行っている間に、もう 1 台のノードから、そのペアによって管理されているすべてのストレージにアクセスできます。並行保守を使用すると、SAN およびホスト・システムを電源オンして実動処理を行いながら、1 台の SAN ボリューム・コントローラー上のすべての FRU の取り外し、交換、およびテストを行うことができます。

注:

- 特別な理由がなければ、特に指示がない限り、両方のノードの電源を取り外さないでください。
- これらの手順の推奨処置に部品の取り外しまたは取り替えが含まれている場合は、該当する手順を使用してください。
- この手順の推奨処置を実行した後も問題が続く場合は、MAP のステップ 1 に戻り、再度、問題の修正を試みてください。

このタスクについて

以下の手順を実行します。

手順

1. 修正手順からここに進んできましたか?

いいえ ステップ 2 に進みます。

はい ステップ 8 (267 ページ) に進みます。

2. (ステップ 1 から)

SAN ボリューム・コントローラー・システムの近くにあり、管理用にセットアップされている IBM System Storage Productivity Center (SSPC) を見つけます。SSPC は通常、SAN ボリューム・コントローラー・システムと同じラックに配置されます。

3. (ステップ 2 から)

ユーザーによって準備されたユーザー ID とパスワードを使用して、SSPCにログオンします。

4. (ステップ 3 (266 ページ) から)

ユーザーが準備したユーザー ID とパスワードを使用して、管理 GUIにログインし、修復対象のシステムに対して 管理 GUI・アプリケーションを起動します。

5. (ステップ 4 から)

管理 GUI は始動しますか?

いいえ ステップ 8 に進みます。

はい ステップ 6 に進みます。

6. (ステップ 5 から)

サービス対象の SAN ボリューム・コントローラー・システムを選択したとき、「ようこそ」パネルが表示されましたか?

いいえ ステップ 8 に進みます。

はい ステップ 7 に進みます。

7. (ステップ 6 から)

修正手順を開始します。

修正手順は、修正が必要なエラーを検出しましたか?

いいえ ステップ 8 に進みます。

はい 修正手順に従ってください。

8. (ステップ 1 (266 ページ)、5、6、および 7 から)

フロント・パネルの電源表示ライトがオフですか? オペレーター情報パネルの電源 LED がオフかどうかを確認してください。

いいえ ステップ 9 に進みます。

はい ノードの電源をオンにしてみます。140 ページの『SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源制御の使用』を参照してください。

注: ノードに電源を供給する無停電電源装置 (uninterruptible power supply)の電源もオフになっている場合があります。ノードの電源をオンにする前に、無停電電源装置 (uninterruptible power supply)の電源をオンにする必要があります。

ノードが電源オン状態の場合は、ステップ 9 に進みます。そうでない場合は、該当する電源 MAP: 281 ページの『MAP 5060: 電源 2145-8A4』または 273 ページの『MAP 5050: 電源 2145-CG8、2145-CF8、2145-8G4、2145-8F4、および 2145-8F2』に進みます。

9. (ステップ 8 から)

ノードのフロント・パネルにハードウェア・エラーが表示されていますか? ノードに関して以下の状態のいずれかが真である場合には、ハードウェアのエラーがあります。

- フロント・パネル上のどの LED もオンでなく、フロント・パネル・ディスプレイ がブランクである。
- エラー LED **1** (フロント・パネルの下部の LED) がオンになっている。

図 74 は、サービス・コントローラーのエラー・ライトのロケーションを示しています。

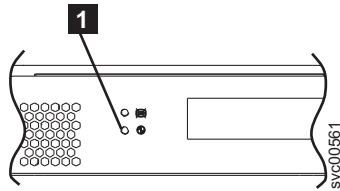


図 74. SAN ボリューム・コントローラー サービス・コントローラーのエラー・ライト

いいえ ステップ 10 に進みます。

はい SAN ボリューム・コントローラー のサービス・コントローラーが失敗しました。

- エラーが表示されているサービス・コントローラーが正しく取り付けられているかどうかチェックします。正しく取り付けられている場合は、サービス・コントローラーを交換します。
- 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』に進みます。

10. (ステップ 9 (267 ページ) から)

図 75 に示されているオペレーター情報パネル・エラー LED **1** が点灯、または明滅していますか?

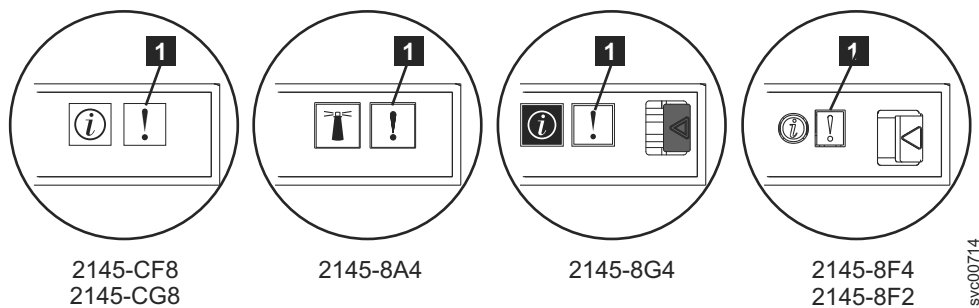


図 75. SAN ボリューム・コントローラー のモデルのエラー LED

いいえ ステップ 11 に進みます。

はい 323 ページの『MAP 5800: ライト・パス』に進みます。

11. (ステップ 10 から)

269 ページの図 76 に表示されているハードウェア・ブート表示がノード上に表示されていますか?



図 76. ハードウェア・ブートの表示

いいえ ステップ 13 に進みます。

はい ステップ 12 に進みます。

12. (ステップ 11 (268 ページ) から)

図 76 に示すハードウェア・ブート表示が 3 分を超えて表示されていますか?

いいえ ステップ 13 に進みます。

はい 以下のことを行います。

a. 353 ページの『MAP 5900: ハードウェア・ブート』に進みます。

b. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』に進みます。

13. (ステップ 11 (268 ページ) から)

フロント・パネル・ディスプレイの先頭行に「失敗 (Failed)」が表示されているノードがありますか?

いいえ ステップ 14 に進みます。

はい 以下のことを行います。

a. 障害コードをメモし、177 ページの『ブート・コード・リファレンス』に進んで修復処置を行います。

b. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』に進みます。

14. (ステップ 13 から)

フロント・パネル・ディスプレイの先頭行に「ブート中 (Booting)」が表示されているノードがありますか?

いいえ ステップ 16 に進みます。

はい ステップ 15 に進みます。

15. (ステップ 14 から)

進行状況表示バーおよびブート・コードが表示されます。進行状況表示バーが 3 分間を超えて進まなかった場合は、停止しています。

進行状況表示バーが停止しましたか?

いいえ ステップ 16 に進みます。

はい 以下のことを行います。

a. 障害コードをメモし、177 ページの『ブート・コード・リファレンス』に進んで修復処置を行います。

b. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』に進みます。

16. (ステップ 14 およびステップ 15 から)

フロント・パネル上のいずれかのナビゲーション・ボタンを押した場合は、60 秒間待って、表示がデフォルト表示に切り替わったことを確認します。

フロント・パネル・ディスプレイの先頭行に「ノード・エラー (Node Error)」が表示されたノードがありますか？

いいえ ステップ 17 に進みます。

はい 以下の手順を実行します。

- a. 障害コードをメモし、177 ページの『ノード・エラー・コードの概要』に進んで修復処置を行います。
- b. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』に進みます。

17. (ステップ 16 (269 ページ) から)

フロント・パネル・ディスプレイの先頭行に「クラスター・エラー (Cluster Error)」が表示されたノードがありますか？

いいえ ステップ 18 に進みます。

はい クラスター・エラーが検出されました。このエラー・コードは、システム内のすべての操作可能なノード上に表示されます。このタイプのエラーは、通常、修正手順を使用して修復されます。以下の手順を実行します。

- a. ステップ 2 (266 ページ) に進み、修正手順を実行します。ここに戻る場合は、179 ページの『クラスター化システム・コードの概要』に進んで修復処置を行ってください。
- b. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』に進みます。

18. (ステップ 17 から)

フロント・パネル・ディスプレイの先頭行に「電源オフ中 (Powering Off)」、「再始動中 (Restarting)」、「シャットダウン中 (Shutting Down)」、または「電源障害 (Power Failure)」が表示されていますか？

いいえ ステップ 20 (271 ページ) に進みます。

はい 進行状況表示バーが数秒おきに移動します。操作の完了を待って、この MAP のステップ 1 (266 ページ) に戻ります。進行状況表示バーが 3 分間移動しなかった場合は、電源ボタンを押して、ステップ 19 に進みます。

19. (ステップ 18 から)

ノードが電源オフになりましたか？

いいえ 以下の手順を実行します。

- a. 電源コードをボックスの背面から外してください。
- b. 60 秒待ちます。
- c. 電源コードを戻します。
- d. ノードが電源オンにならない場合は、電源ボタンを押してノードを電源オンにしてから、この MAP のステップ 1 (266 ページ) に戻ります。

はい 以下の手順を実行します。

- a. 60 秒待ちます。
- b. 電源ボタンをクリックして、ノードを電源オンにしてから、この MAP のステップ 1 (266 ページ) に戻ります。

注: 2145 UPS-1U は、その電源ボタンが押されたとき、入力電源の消失が 5 分を超えたとき、または入力電源の消失が報告された後で SAN ボリューム・コントローラー・ノードによりシャットダウンされたときにのみ、電源オフになります。

20. (ステップ 19 (270 ページ) から)

フロント・パネル・ディスプレイの先頭行に「充電中 (Charging)」または「リカバリー中 (Recovering)」が表示されているノードがありますか?

いいえ ステップ 21 に進みます。

はい

- 「充電中 (Charging)」が表示されている場合は、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) のバッテリーはノードをサポートできるほど十分に充電されていません。2 時間を超えて「充電中 (Charging)」が表示されている場合は、285 ページの『MAP 5150: 2145 UPS-1U』に進みます。
- 「リカバリー中 (Recovering)」が表示されている場合は、電源機構障害の直後にノードをサポートできるほど、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) のバッテリーが十分に充電されていません。ただし、「リカバリー中 (Recovering)」が表示されている場合、ノードは正常に使用できます。
- 2 時間を超えて「リカバリー中 (Recovering)」が表示されている場合は、285 ページの『MAP 5150: 2145 UPS-1U』に進みます。

21. (ステップ 20 から)

フロント・パネル・ディスプレイに「WWNN の検証? (Validate WWNN?)」が表示されているノードがありますか?

いいえ ステップ 22 (272 ページ) に進みます。

はい ノードは、その WWNN を変更する必要があるかもしれないことを示しています。このモードに入るのは、ノードのサービス・コントローラーまたはディスクが変更されたが、必要な保守手順が実行されていない場合です。

注: 以下の情報を読み、正しい値を選択したことを確認するまでは、WWNN の検証を行わないでください。正しくない値を選択した場合、ノードの SAN ゾーニングも正しくなく、複数のノードが同じ WWNN を使用していることが検出される可能性があります。したがって、続ける前に正しい WWNN を確立することが重要になります。

- a. 使用したい WWNN を判別する。
 - サービス・コントローラーが交換された場合、おそらく正しい値はディスクに保管されている WWNN (ディスク WWNN) です。

- ディスクが交換されたが (多分、フレーム交換手順の一部として)、再初期化されていない場合、おそらく正しい値はサービス・コントローラーに保管されている WWNN (パネル WWNN) です。
- b. このノードで使用する保管済み WWNN を選択します。
- ディスクに格納されている WWNN を使用するには、以下のステップを実行します。
 - 1) 「WWNN の検証?」パネルから、「選択」ボタンを押して放します。「ディスク WWNN: (Disk WWNN:)」パネルは表示され、ディスクに格納されている WWNN の最後の 5 桁の番号が示されます。
 - 2) 「ディスク WWNN: (Disk WWNN:)」パネルから、ボタンを押して放します。「ディスク WWNN を使用しますか ? (Use Disk WWNN?)」パネルが表示されます。
 - 3) 「選択」ボタンを押して放します。
 - サービス・コントローラーに格納されている WWNN を使用するには、以下のステップを実行します。
 - 1) 「WWNN の検証?」パネルから、選択ボタンを押して放します。「ディスク WWNN:」パネルが表示されます。
 - 2) 「ディスク WWNN:」パネルで、右移動ボタンを押して放します。「パネル WWNN: (Panel WWNN:)」パネルは表示され、サービス・コントローラーに格納されている WWNN の最後の 5 桁の番号が表示されます。
 - 3) 「パネル WWNN: (Panel WWNN:)」パネルから、ボタンを押して放します。「パネル WWNN を使用しますか ? (Use Panel WWNN?)」パネルが表示されます。
 - 4) 「選択」ボタンを押して放します。
- c. WWNN を設定した後で、フロント・パネル・ディスプレイを確認します。
- 「ノードの WWNN:」パネルがフロント・パネルに表示された場合、そのノードが、選択された WWNN を現在使用中です。「ノードの WWNN:」パネルは、ユーザーが選択した WWNN の最後の 5 桁の番号が示されます。
 - フロント・パネルに「クラスター:」と表示されているにもかかわらず、システム名が表示されない場合は、クラスター化システムのリカバリー手順を使用して、いったんシステムからノードを削除し、ノードをシステムに追加し直す必要があります。

22. (ステップ 21 (271 ページ) から)

クラスター化システムのメンバーではないノードがありますか?フロント・パネルのメニューを確認することで、ノードがシステムのメンバーでないかどうか判別できます。「クラスター (Cluster):」は表示されているがシステム名が表示されていない場合は、そのノードはシステムのメンバーではありません。(現

行の言語フォントで 2 行表示できる場合は、名前はフロント・パネル・ディスプレイ の 2 行目にあります。そうでない場合は、名前を表示するには、「選択」ボタンを押すことができます。)

いいえ ステップ 23 に進みます。

はい ノードはシステムのメンバーではありません。保守手順の間に、ノードが削除され、システムに戻されていない可能性があります。システム内の各入出力グループには、2 つのノードが含まれていることを確認します。各入出力グループには、1 つのノードのみがある場合は、ノードをシステムに戻して、ノードが削除されたのと同じ入出力グループに復元されていることを確認します。

23. (ステップ 22 (272 ページ) から)

フロント・パネル・ディスプレイ が不鮮明ですか?

いいえ ステップ 24 に進みます。

はい 以下の手順を実行します。

- a. 言語を調べます。画面が別の言語に設定されていることがあります。
- b. 言語が正しく設定されている場合は、302 ページの『MAP 5400: フロント・パネル』に進みます。

24. (ステップ 23 から)

SAN ボリューム・コントローラーによって検出されたエラーはありません。お客様から報告された問題がハードウェア障害の疑いがある場合は、以下のタスクを実行します。

- a. ホスト・システム、ディスク・コントローラー、およびファイバー・チャンネル・スイッチに問題判別手順を実行します。
- b. ハードウェア・サポートに支援依頼のため連絡します。

タスクの結果

問題がソフトウェア問題であると思われる場合は、ご使用の SAN ボリューム・コントローラー環境全体のアップグレード方法の詳細について、資料の『システムのアップグレード』を参照してください。

問題がまだ修正されない場合は、診断情報を収集して、IBMサポートに連絡してください。

MAP 5050: 電源 2145-CG8、 2145-CF8、 2145-8G4、 2145-8F4、 および 2145-8F2

MAP 5050: 電源 2145-CG8、 2145-CF8、 2145-8G4、 2145-8F4、 および 2145-8F2 は、SAN ボリューム・コントローラー モデル 2145-CG8、 2145-CF8、 2145-8G4、 2145-8F4、 および 2145-8F2 で発生した電源問題を解決するのに役立ちます。SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 を使用している場合は、その SAN ボリューム・コントローラー・モデル用の電源 MAP を参照してください。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

以下のいずれかの理由で、ここに送られてきた可能性があります。

- SAN ポリウム・コントローラー SAN ポリウム・コントローラー 2145-CG8、2145-CF8、2145-8G4、2145-8F4、または 2145-8F2 ノードの取り付け中に問題が発生した。
- 電源スイッチでノードをオンにできなかった。
- 電源スイッチでノードをオフにできなかった。
- 別の MAP によってここに送られた。

このタスクについて

以下の手順を実行します。

手順

1. ノードの電源がオンされないので、ここにいますか？

いいえ ステップ 11 (280 ページ) に進みます。

はい ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から)

オペレーター情報パネル上の電源 LED が連続的に点灯していますか？ 図 77 は、オペレーター情報パネルの電源 LED **1** の位置を示しています。

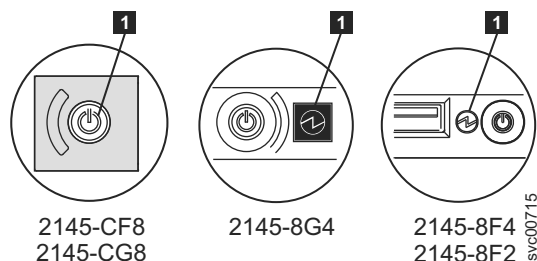


図 77. SAN ポリウム・コントローラーのモデル 2145-CG8、2145-CF8、2145-8G4、および 2145-8F4 または 2145-8F2 オペレーター情報パネルの電源 LED

いいえ ステップ 3 に進みます。

はい このノードは正しく電源オンされます。症状を見直して 265 ページの『MAP 5000: 開始』に戻るか、または 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』に進んで操作が正しかったかを検証します。

3. (ステップ 2 から)

オペレーター情報パネル上の電源 LED が毎秒約 4 回明滅していますか？

いいえ ステップ 4 (275 ページ) に進みます。

はい ノードの電源がオフであり、電源をオンにする準備ができていません。電源 LED が毎秒約 1 回の速度で明滅するまで待ってから、ステップ 5 に進みます。

この動作が 3 分より長く続く場合は、次の手順を実行してください。

- a. 電源保持ブラケットと電源コードをノードの背面から取り外して、SAN ボリューム・コントローラー・ノードからすべての入力電源を取り除きます。『ケーブル保持ブラケットの取り外し』を参照し、ノードから電源コードを取り外す際にケーブル保持ブラケットを取り外す方法を確認します。
- b. 1 分待ってから、ノード上のすべての電源 LED が消えていることを確認します。
- c. 電源コードと電源保持ブラケットを再挿入します。
- d. 電源 LED の明滅速度が毎秒 1 回に下がるまで待ちます。ステップ 5 に進みます。
- e. 電源 LED が再び毎秒 4 回の明滅速度で明滅し続ける場合は、以下の順序で部品を交換します。
 - システム・ボード

321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

4. (ステップ 3 (274 ページ) から)

オペレーター情報パネル 上の電源 LED が毎秒約 1 回明滅していますか?

はい ノードは待機モード状態です。入力電源があります。ステップ 5 に進みます。

いいえ ステップ 6 (276 ページ) に進みます。

5. (ステップ 3 (274 ページ) およびステップ 4 から)

ノードの オペレーター情報パネル 上の電源オン・ボタンを押します。

オペレーター情報パネル 上の電源 LED が緑色で点灯していますか?

いいえ オペレーター情報パネル・ケーブルが両端に正しく配置されているかを確認します。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 で作業しているときに、ノードの電源がまだオンにならない場合は、以下の順序で部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル・アセンブリー
- b. システム・ボード

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 上で作業している場合は、オペレーター情報パネル・ケーブルがシステム・ボード上に正しく取り付けられていることを確認します。このノードの電源がまだオンにならない場合は、以下の順序で部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル・アセンブリー
- b. システム・ボード

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 ノードの電源がまだオンにならない場合は、以下の順序で部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル
- b. ケーブル、シグナル、フロント・パネル
- c. フレーム・アセンブリー

321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい オペレーター情報パネル上の電源オン・インディケータは、そのノードが正常に電源オンされたことを示します。321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して、操作が正しいかどうかを検証します。

6. (ステップ 4 (275 ページ) から)

背面パネルの電源 LED が点灯または明滅していますか? 図 78 は、2145-8G4、2145-8F4、または 2145-8F2 ノードの背面パネルにある電源 LED **1** の位置を示しています。277 ページの図 79 は、2145-CF8 または 2145-CG8 の電源 LED **1** の位置を示しています。

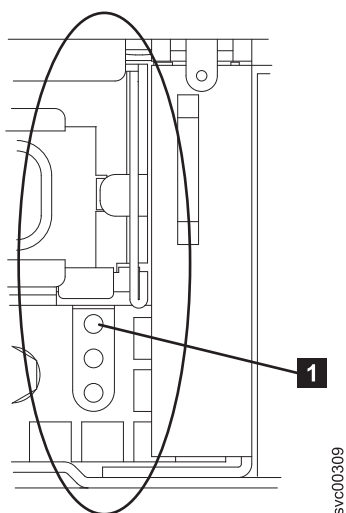


図 78. SAN ボリューム・コントローラー のモデル 2145-8G4、2145-8F4、および 2145-8F2 の背面パネル上の電源 LED

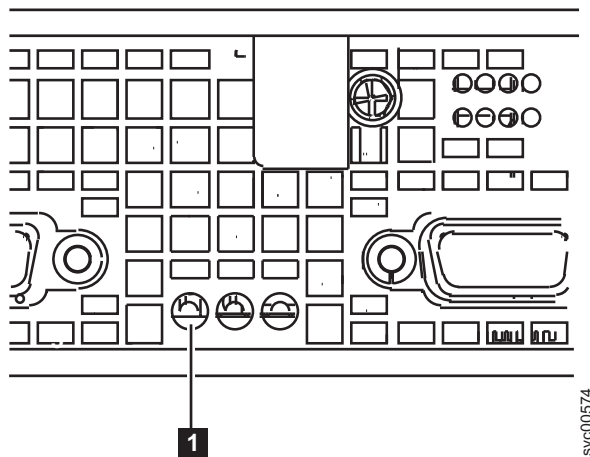


図 79. SAN ポリウム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 の背面パネル上の電源 LED インディケーター

いいえ ステップ 7 に進みます。

はい オペレーター情報パネルが障害を起こしています。

オペレーター情報パネル・ケーブルがシステム・ボード上に取り付けられていることを確認します。

SAN ポリウム・コントローラー 2145-CG8 または SAN ポリウム・コントローラー 2145-CF8 で作業しているときに、ノードの電源がまだオンにならない場合は、以下の順序で部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル・アセンブリー
- b. システム・ボード

SAN ポリウム・コントローラー 2145-8G4 上で作業している場合は、オペレーター情報パネル・ケーブルがシステム・ボード上に正しく取り付けられていることを確認します。SAN ポリウム・コントローラー 2145-8G4 の電源がまだオンにならない場合は、以下の順序で部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル・アセンブリー
- b. システム・ボード

SAN ポリウム・コントローラー 2145-8F4 または SAN ポリウム・コントローラー 2145-8F2 で作業をしている場合、オペレーター情報パネル・ケーブルの両端が正しく取り付けられていることを確認します。ケーブルが正しく取り付けられているのに、オペレーター情報パネルの電源ライトが点灯または明滅していない場合は、以下の順序で部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル
- b. ケーブル、シグナル、フロント・パネル
- c. フレーム・アセンブリー

7. (ステップ 6 (276 ページ) から)

このノードに接続された 2145 UPS-1U (2145 UPS-1U) を見つけます。

このノードに電源を供給している 2145 UPS-1U の電源がオンであり、負荷セグメント 2 インディケータが緑色で点灯していますか？

いいえ 285 ページの『MAP 5150: 2145 UPS-1U』に進みます。

はい ステップ 8 に進みます。

8. (ステップ 7 (277 ページ) から)

電源機構アセンブリーの背面の AC LED インディケータが点灯していますか？図 80 は、2145-8G4、2145-8F4、または 2145-8F2 ノードの背面パネルにある電源機構アセンブリーの背面の AC LED **1** と DC LED **2** の位置を示しています。図 81 は、2145-CF8 または 2145-CG8 の背面パネルにある電源機構アセンブリーの背面の AC LED **1** と DC LED **2** の位置を示しています。

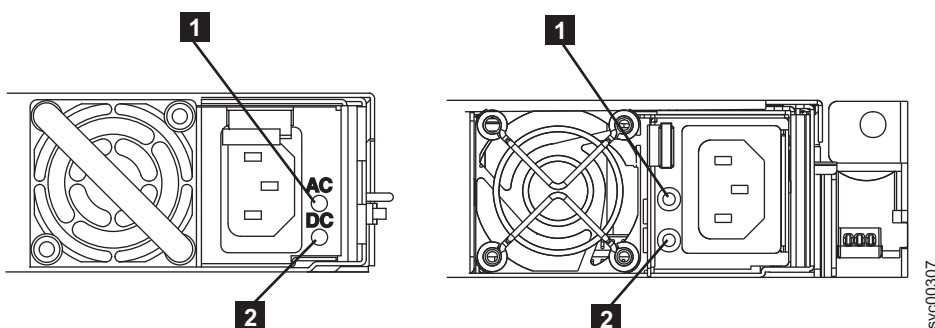


図 80. SAN ボリウム・コントローラー・モデルの 2145-8G4 および 2145-8F4 または 2145-8F2 の背面パネル上の AC および DC LED インディケータ

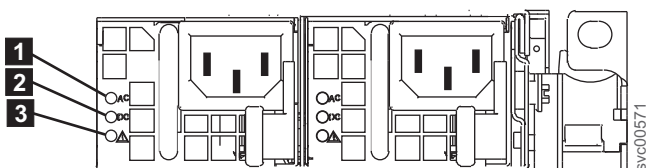


図 81. SAN ボリウム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 の背面パネル上の電源 LED インディケータと AC および DC インディケータ

いいえ 1 本以上の入力電源ケーブルが、両端にしっかりと接続されていて、損傷の兆候を示していないことを確認します。あるいは、1 本以上のケーブルに障害または損傷がある場合は、ケーブルを交換します。ノードの電源がまだオンにならない場合は、SAN ボリウム・コントローラーのモデル・タイプに基づいて、指定の部品を交換します。

以下の順序で、SAN ボリウム・コントローラー 2145-CG8 部品または SAN ボリウム・コントローラー 2145-CF8 部品を交換します。

a. 電源機構 675W

以下の順序で、SAN ボリウム・コントローラー 2145-8G4 部品を交換します。

a. 電源機構 670W

b. 電源バックプレーン

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 部品を以下の順序で交換します。

- a. 電源機構、585W
- b. 電源バックプレーン

321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい 2145-CG8 および 2145-CF8 モデル用のステップ 9 に進みます。
それ以外のすべてのモデルについては、ステップ 10 に進みます。

9. (ステップ 8 (278 ページ) から)

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 電源機構アセンブリーの背面にある電源機構エラー LED が点灯していますか? 277 ページの図 79 は、2145-CF8 または 2145-CG8 の電源 LED **1** の位置を示しています。

はい 電源機構装置を交換します。
いいえ ステップ 10 に進みます。

10. (ステップ 8 (278 ページ) またはステップ 9 から)

電源機構アセンブリーの背面の DC LED インディケータが点灯していますか?

いいえ 以下の順序で、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 部品または SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 部品を交換します。

- a. 電源機構 675W
- b. システム・ボード

以下の順序で、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 部品を交換します。

- a. 電源バックプレーン
- b. 電源機構 670W
- c. システム・ボード

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 部品を以下の順序で交換します。

- a. 電源バックプレーン
- b. 電源機構、585W
- c. フレーム・アセンブリー

321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい オペレーター情報パネル・ケーブルが両端に正しく配置されているかを確認します。このノードの電源がまだオンにならない場合は、以下の順序で部品を交換します。
a. オペレーター情報パネル

- b. ケーブル、シグナル、フロント・パネル
- c. システム・ボード (ノードが SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8、または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 の場合)
- d. フレーム・アセンブリー (ノードが SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の場合)

321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

11. (ステップ 1 (274 ページ) から)

電源ボタンを押しても、ノードの電源は直ちにオフになりません。このノードが完全にブートされると、SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアの制御下で、電源オフが実行されます。電源オフ操作を完了するには最大で 5 分かかります。

フロント・パネルに電源オフが表示されていますか?

いいえ ステップ 12 に進みます。

はい ノードが電源オフになるのを待ちます。このノードが 5 分経っても電源オフできない場合は、ステップ 12 に進みます。

12. (ステップ 11 から)

重要: 管理 GUIを使用する方法以外でこのノードを電源オフすると、このノードのキャッシュ内のデータが失われる可能性があります。並行保守を実行している場合は、進める前に、このノードをシステムから削除してください。ここで、システムからノードを削除するようお客様に依頼します。ノードを削除できない場合は、進める前に、サポート・センターに連絡してください。

ノードは、ハードウェア障害またはソフトウェア障害のために電源オフにできないことがあります。電源ボタンを押し続けます。ノードは 5 秒以内に電源オフになるはずですが。

ノードが電源オフになりましたか?

いいえ このノードに接続されている 2145 UPS-1U の電源をオフにします。

重要: 正しい 2145 UPS-1Uを電源オフしようとしていることを確認してください。必要であれば、2145 UPS-1U アセンブリーにケーブルをトレースバックします。間違った 2145 UPS-1U を電源オフにすると、お客様のデータが損失することがあります。

ステップ 13 に進みます。

はい ステップ 13 に進みます。

13. (ステップ 12 から)

必要であれば、このノードに接続している 2145 UPS-1U の電源をオンにしてから、ノードの電源をオンにする電源ボタンを押します。

このノードは正しく電源オンおよびブートされましたか?

いいえ この問題を解決するには、265 ページの『MAP 5000: 開始』に進みます。

はい ステップ 14 に進みます。

14. (ステップ 13 (280 ページ) から)

このノードは、ソフトウェア障害の可能性があります。問題の解決に役立つダンプ・データが収集されている場合があります。サポートに連絡をとって、支援を依頼します。

MAP 5060: 電源 2145-8A4

MAP 5060: 電源 2145-8A4 は、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ノードで発生した電源問題を解決するのに役立ちます。他の SAN ボリューム・コントローラー・モデルを使用している場合は、その SAN ボリューム・コントローラー・モデルの電源 MAP を参照してください。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

以下のいずれかの理由で、ここに送られてきた可能性があります。

- 2145-8A4 ノードの取り付けの際に問題が発生した。
- 電源スイッチでノードをオンにできなかった。
- 電源スイッチでノードをオフにできなかった。
- 別の MAP によってここに送られた。

このタスクについて

以下の手順を実行します。

手順

1. ノードが電源オンにならないので、ここにいますか？

いいえ ステップ 9 (284 ページ) に進みます。

はい ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から)

オペレーター情報パネル 上の電源 LED が連続的に点灯していますか？ 282 ページの図 82 は、オペレーター情報パネルの電源 LED **1** の位置を示しています。

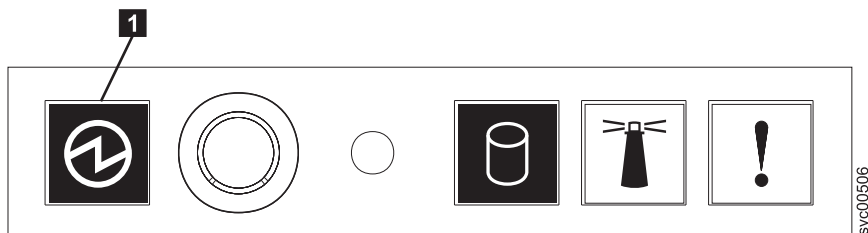


図 82. SAN ポリウム・コントローラー 2145-8A4 オペレーター情報パネル の電源 LED

いいえ ステップ 3 に進みます。

はい このノードは正しく電源オンされます。症状を見直して 265 ページの『MAP 5000: 開始』に戻るか、または 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』に進んで操作が正しかったかを検証します。

3. (ステップ 2 (281 ページ) から)

オペレーター情報パネル 上の電源 LED が明滅していますか?

いいえ ステップ 5 に進みます。

はい ノードは待機モード状態です。入力電源があります。ステップ 4 に進みます。

4. (ステップ 3 から)

ノードの オペレーター情報パネル 上の電源オン・ボタンを押します。

オペレーター情報パネル 上の電源 LED が緑色で点灯していますか?

いいえ オペレーター情報パネル・ケーブルが両端に正しく配置されているかを確認します。このノードの電源がまだオンにならない場合は、以下の順序で部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル
- b. オペレーター情報パネル ケーブル
- c. システム・ボード

321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい オペレーター情報パネル 上の電源オン・インディケータは、そのノードが正常に電源オンされたことを示します。321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して、操作が正しいかどうかを検証します。

5. (ステップ 3 から)

このノードに接続されている 2145 UPS-1U を見つけます。

このノードに電源を供給している 2145 UPS-1U の電源がオンであり、負荷セグメント 2 インディケータが緑色で点灯していますか?

いいえ 285 ページの『MAP 5150: 2145 UPS-1U』に進みます。

はい 入力電源ケーブルが、両端にしっかりと接続されていて、損傷の兆候がないことを確認します。あるいは、ケーブルに障害または損傷がある場合は、ケーブルを交換します。このノードの電源がまだオンにならない

場合は、ステップ 6 に進みます。ノードの電源がオンになった場合は、321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行します。

6. (ステップ 5 (282 ページ) から)

ノードをラックから取り外し、上部カバーを外します。電源ケーブル (これは、まだ 2145 UPS-1U に接続されています) をノードに再接続します。システム・ボード上にあるスタンバイ電源 LED は点灯していますか? 図 83 は、システム・ボード上に配置されている診断 LED の位置を示しています。

いいえ ステップ 7 (284 ページ) に進みます。

はい 以下の順序で、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル
- b. オペレーター情報パネル ケーブル

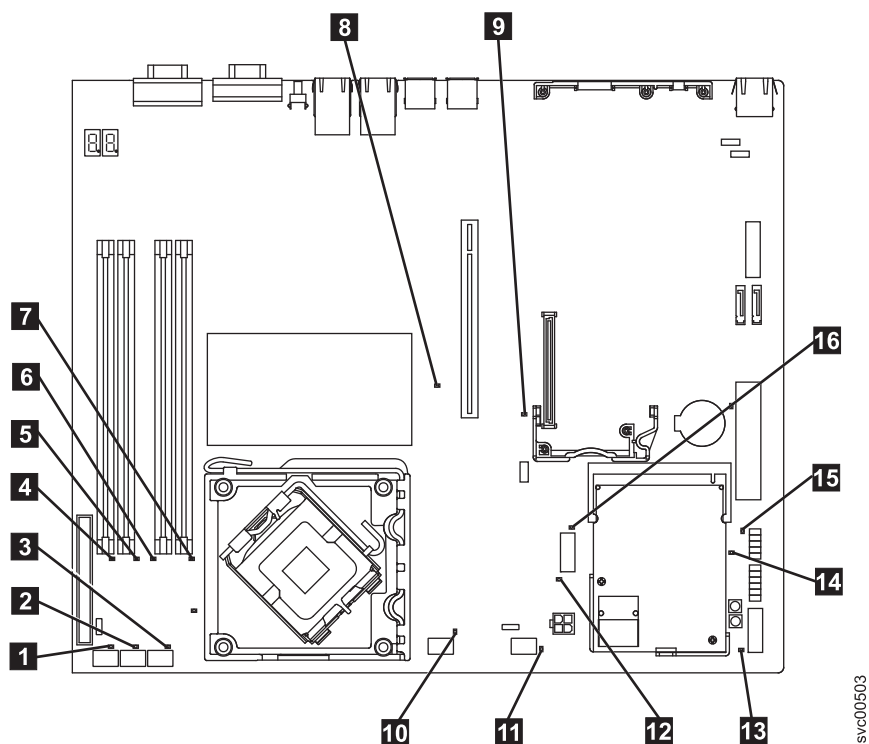


図 83. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 システム・ボード LED

- 1 ファン 1 エラー LED
- 2 ファン 2 エラー LED
- 3 ファン 3 エラー LED
- 4 DIMM 1 エラー LED
- 5 DIMM 2 エラー LED
- 6 DIMM 3 エラー LED
- 7 DIMM 4 エラー LED

- 8** PCI Express スロット 2 エラー LED
- 9** PCI Express スロット 1 エラー LED
- 10** ファン 4 エラー LED
- 11** ファン 5 エラー LED
- 12** 電圧調節装置エラー LED
- 13** スタンバイ電源 LED
- 14** 電源正常 LED
- 15** ベースボード管理コントローラー・ハートビート LED
- 16** SAS/SATA コントローラー・エラー LED

7. (ステップ 6 (283 ページ) から)

システム・ボード上にある電圧調節装置 LED は点灯していますか?

いいえ ステップ 8 に進みます。

はい システム・ボードを交換します。

8. (ステップ 7 から)

以下の順序で、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 部品を交換します。

- a. 入力電源ケーブル (または 2145 UPS-1U から SAN ボリューム・コントローラー・ノードへの電源ケーブル)
- b. 電源機構

ノードの電源をオンにできるようになりましたか?

いいえ IBM サービス担当員 に連絡してください。

はい フロント・パネル上の電源オン・インディケータは、そのノードが正常に電源オンされたことを示します。321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して、操作が正しいかどうかを検証します。

9. (ステップ 1 (281 ページ) から)

このノードでは電源ボタンを押しても、ノードの電源はオフになりません。このノードが完全にブートされると、SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアの制御下で、電源オフが実行されます。電源オフ操作を完了するには最大で 5 分かかります。

フロント・パネルに電源オフが表示されていますか?

いいえ ステップ 10 に進みます。

はい ノードの電源がオフになるのを待ちます。ノードが 5 分経っても電源オフにできない場合は、ステップ 10 に進みます。

10. (ステップ 9 から)

重要: 管理 GUIを使用する方法以外でこのノードを電源オフすると、このノードのキャッシュ内のデータが失われる可能性があります。並行保守を実行している場合は、先に進む前に、このノードをシステムから削除してください。ここで、システムからノードを削除するようお客様に依頼します。ノードを削除できない場合は、先に進める前に IBM サービス担当員に連絡して支援を得てください。

ノードは、ハードウェア障害またはソフトウェア障害のために電源オフにできないことがあります。電源ボタンを押し続けます。ノードは 5 秒以内に電源オフになるはずですが。

ノードが電源オフになりましたか?

いいえ このノードに接続されている 2145 UPS-1U の電源をオフにします。

重要: 正しい 2145 UPS-1Uを電源オフしようとしていることを確認してください。必要であれば、2145 UPS-1U アセンブリーにケーブルをトレースバックします。間違った 2145 UPS-1U を電源オフにすると、お客様のデータが損失することがあります。

ステップ 11 に進みます。

はい ステップ 11 に進みます。

11. (ステップ 8 (284 ページ) から)

必要であれば、このノードに接続している 2145 UPS-1U の電源をオンにしてから、ノードの電源をオンにする電源ボタンを押します。

このノードは正しく電源オンおよびブートされましたか?

いいえ この問題を解決するには、265 ページの『MAP 5000: 開始』に進みます。

はい ステップ 12 に進みます。

12. (ステップ 11 から)

このノードは、ソフトウェア障害の可能性があります。問題の解決に役立つダンプ・データが収集されている場合があります。IBM サービス担当員 に連絡してください。

MAP 5150: 2145 UPS-1U

MAP 5150: 2145 UPS-1U は、SAN ボリューム・コントローラーで使用される 2145 UPS-1U システムで発生した問題の解決に役立ちます。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

以下のいずれかの理由で、ここに送られてきた可能性があります。

- システムの問題判別手順によってここに送られた。
- SAN ボリューム・コントローラーの取り付けの際に問題が発生した。
- 別の MAP によってここに送られた。

- ・ システム問題判別手順が検出しなかった問題にお客様が気付いた。

このタスクについて

図 84 は、2145 UPS-1U のパネル前面を図示したものです。

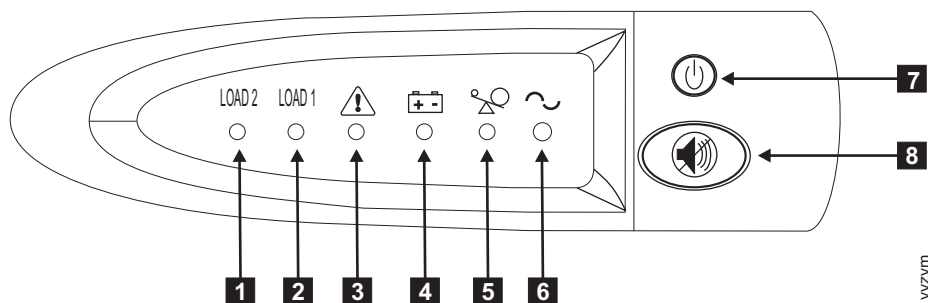


図 84. 2145 UPS-1U のフロント・パネル・アセンブリー

- 1** ロード・セグメント 2 インディケータ
- 2** ロード・セグメント 1 インディケータ
- 3** アラーム
- 4** バッテリー使用中インディケータ
- 5** 過負荷インディケータ
- 6** 電源オン・インディケータ
- 7** オン/オフ・ボタン
- 8** テストおよびアラーム・リセット・ボタン

表 56 は、2145 UPS-1U のフロント・パネル・アセンブリーにある状況 LED およびエラー LED がどの特定のエラー状態に対応するかを示しています。また、無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の警報ブザー動作もリストされています。

表 56. 2145 UPS-1U エラー標識

[1] Load2	[2] Load1	[3] Alarm	[4] Battery	[5] Overload	[6] Power-on	ブザー	エラー状態
緑 (注 1 を参照)					緑	(注 3 を参照)	エラーなし。2145 UPS-1Uは SAN ボリューム・コントローラーによって構成されました
緑	こはく色 (注 2 を参照)				緑		エラーなし。2145 UPS-1Uは SAN ボリューム・コントローラーによってまだ構成されていません

表 56. 2145 UPS-1U エラー標識 (続き)

[1] Load2	[2] Load1	[3] Alarm	[4] Battery	[5] Overload	[6] Power-on	ブザー	エラー状態
緑	オン/オフ		こはく色		緑	2 秒間のビープ音、次に停止	AC 電力が制限より高いか低い無停電電源装置 (uninterruptible power supply)はバッテリー・モードに切り替えられた
		明滅する赤	明滅するこはく色	明滅する赤	明滅する緑	10 秒毎の 3 つのビープ音	バッテリーの低電圧
緑	オン/オフ	明滅する赤			明滅する緑	Solid on	バッテリーの過電圧
		明滅する赤	明滅するこはく色		明滅する緑	Solid on	チャージャーがオープン状態で、バッテリー使用中モードのとき出力カウエーブが異常である
		明滅する赤	明滅するこはく色			Solid on	バッテリー使用中モードで、AC 電源出力カウエーブが下限より低いか上限より高い
緑	オン/オフ		こはく色			4 秒間のビープ音、次に停止	バッテリー使用中 (AC 電力なし)
緑	オン/オフ		明滅するこはく色			2 秒間のビープ音、次に停止	バッテリー低 (AC 電力なし)
緑	オン/オフ			赤	緑	1 秒間のビープ音、次に停止	ライン使用中の過負荷
			こはく色	赤		1 秒間のビープ音、次に停止	バッテリー使用中の過負荷
オン/オフ	オン/オフ	明滅する赤			緑	Solid on	ファンの障害
オン/オフ	オン/オフ	明滅する赤	こはく色			Solid on	バッテリー・テストの失敗
		明滅する赤		赤		Solid on	過負荷タイムアウト
		明滅する赤	こはく色		緑	Solid on	温度超過
		明滅する赤	こはく色	赤	緑		出力の短絡

表 56. 2145 UPS-1U エラー標識 (続き)

[1] Load2	[2] Load1	[3] Alarm	[4] Battery	[5] Overload	[6] Power-on	ブザー	エラー状態
<p>注:</p> <p>1. 緑色の Load2 LED ([1]) は、電力が、2145 UPS-1U の背面から見て右側の AC 電源コンセントのペアに供給されていることを示します。</p> <p>2. こはく色の Load1 LED ([2]) は、電力が、2145 UPS-1U の背面から見て左側の AC 電源コンセントのペアに供給されていることを示します。これらのコンセントは、SAN ボリューム・コントローラーによって使用されていません。</p> <p>この LED はパワーオン手順の間に点灯する場合がありますが、通常は、2145 UPS-1U に取り付けられている SAN ボリューム・コントローラー・ノードによって消されます。</p> <p>3. 空のセルは、ライトまたはブザーがオフであることを示します。</p>							

手順

1. 障害のある SAN ボリューム・コントローラーに接続された 2145 UPS-1U の電源オン・インディケータがオフになっていますか?

いいえ ステップ 3 に進みます。

はい ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から)

他の 2145 UPS-1U の電源オン・インディケータがオフになっていますか?

いいえ 2145 UPS-1U は待機モードになることがあります。この状態になる原因としては、この 2145 UPS-1U のオン/オフ・ボタンが押されたこと、入力電源の消失が 5 分を超えたこと、または入力電源の消失を報告された後で SAN ボリューム・コントローラーがシャットダウンしたことが考えられます。2145 UPS-1U の電源オン・インディケータが点灯するまで (約 5 秒) オン/オフ・ボタンを押したままにします。2145 UPS-1U の一部のバージョンでは、オン/オフ・ボタンを押すために、ねじ回しのような先の尖った道具が必要です。

ステップ 3 に進みます。

はい 主電源がご使用のシステム環境で落ちたか、または冗長 AC 電源スイッチに障害が発生しました。2145 UPS-1U が冗長 AC 電源スイッチに接続されている場合は、293 ページの『MAP 5320: 冗長 AC 電源』に進みます。そうでない場合は、以下の手順を完了します。

a. 主電源をご使用のシステムに戻します。

b. 291 ページの『MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査』を続行して修復結果を検証します。

3. (ステップ 1 およびステップ 2 から)

2145 UPS-1U の電源オン・インディケータとロード・セグメント 2 インディケータが緑色で点灯し、サービス、オン・バッテリー、および過負荷インディケータがオフになっていますか?

いいえ ステップ 4 (289 ページ) に進みます。

はい 2145 UPS-1U は、障害を示さなくなりました。291 ページの『MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査』を続行して修復結果を検証します。

4. (ステップ 3 (288 ページ) から)

2145 UPS-1U のバッテリー使用中インディケータが黄色になり (点灯または明滅)、サービスおよび過負荷インディケータがオフになっていますか?

いいえ ステップ 5 に進みます。

はい この 2145 UPS-1U への入力電源機構が正しく接続されていないか、または 2145 UPS-1U が、不安定な入力電源、または指定された電圧または周波数範囲外の入力電源を受け取っています。(電圧は 200V から 240V の間、周波数は 50 Hz または 60 Hz のいずれかである必要があります。) SAN ポリウム・コントローラーは 2145 UPS-1U の電圧範囲を自動的に調整します。入力電圧が最近変更された場合は、SAN ポリウム・コントローラーのアラーム設定が調整されるまで、アラーム状態が存続する可能性があります。2145 UPS-1U に接続された SAN ポリウム・コントローラーの電源をオンにします。SAN ポリウム・コントローラーが始動すると、バッテリー使用中インディケータが 5 分間消えるものと考えられます。SAN ポリウム・コントローラーが再度電源オフ状態になるか、またはこの状態が最低でも 5 分間続く場合は、以下を行います。

- a. 2145 UPS-1U 背面パネルの入力回路プロテクターを調べ、それがオープン状態になっている場合は押します。
- b. 冗長 AC 電源を 2145 UPS-1U に対して使用している場合は、この 2145 UPS-1U に接続された冗長 AC 電源スイッチの出力コンセントの位置で電圧と周波数をチェックします。給電されていない場合は、294 ページの『MAP 5340: 冗長 AC 電源の検証』に進みます。電力が仕様範囲外の場合、この問題を解決するようにお客様に要求します。この無停電電源装置 (uninterruptible power supply) に対して冗長 AC 電源を使用していない場合は、この SAN ポリウム・コントローラーに給電している 2145 UPS-1U に対するサイト電源コンセントをチェックします。接続、電圧、および周波数を検査します。電力が仕様範囲外の場合、この問題を解決するようにお客様に要求します。
- c. 入力電源が仕様範囲内であり、入力回路プロテクターが安定している場合は、以下の順序で現場交換可能ユニット (FRU) を交換します。
 - 1) 2145 UPS-1U 電源コード
 - 2) 2145 UPS-1U
- d. 291 ページの『MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査』を続行して修復結果を検証します。

5. (ステップ 4 から)

2145 UPS-1U の過負荷インディケータが赤色で点灯していますか?

いいえ ステップ 6 (290 ページ) に進みます。

はい 2145 UPS-1U 出力電源要件が 2145 UPS-1U の容量を超えました。

- a. 1 つの SAN ポリウム・コントローラー・ノードのみが 2145 UPS-1U に接続されていることを確認します。

- b. 他の負荷が 2145 UPS-1U に接続されていないことを確認します。
- c. 出力負荷が正しいことを確認した後、電源オン・インディケーターが消えるまでオン/オフ・ボタンを押して、2145 UPS-1U の電源をオフにします。次に、2145 UPS-1U からプラグを抜いて入力電源を切ります。すべての LED がオフになるまで少なくとも 5 秒待ってから、入力電源に再接続し、2145 UPS-1U の電源オン・インディケーターが点灯するまで (約 5 秒) オン/オフ・ボタンを押して、2145 UPS-1U を再始動します。2145 UPS-1U の一部のバージョンでは、オン/オフ・ボタンを押すために、ねじ回しのような先の尖った道具が必要です。
- d. 状態が変わらない場合は、2145 UPS-1U を交換します。

注: 状態が再発する場合は、ノードの 1 つ以上の電源機構を交換してください。

- e. 291 ページの『MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査』を続行して修復結果を検証します。

6. (ステップ 5 (289 ページ) から)

2145 UPS-1U のサービス・インディケーターが赤色で明滅し、バッテリー使用中インディケーターが黄色で点灯し、電源オンおよび過負荷インディケーターがオフになっていますか?

いいえ ステップ 7 に進みます。

はい 2145 UPS-1U のバッテリーが完全に充電切れになっているか、障害を起こしている可能性があります。

- a. 2145 UPS-1U が、バッテリーの充電のために、少なくとも 2 時間電源コンセントに接続されていることを確認します。バッテリーの充電後、テスト/アラーム・リセット・ボタンを 3 秒間押し続けた後、サービス・インディケーターを確認します。
- b. サービス・インディケーターがまだ明滅していれば、2145 UPS-1U を交換します。
- c. 291 ページの『MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査』を続行して修復結果を検証します。

7. (ステップ 6 から)

2145 UPS-1U のサービス・インディケーターが赤色で明滅し、バッテリー使用中インディケーターが黄色で点灯し、電源オン・インディケーターが緑色で点灯し、過負荷インディケーターがオフになっていますか?

いいえ ステップ 8 (291 ページ) に進みます。

はい 2145 UPS-1U の内部温度が高過ぎます。

- a. 電源オン・インディケーターが消えるまでオン/オフ・ボタンを押して、2145 UPS-1U の電源をオフにします。次に、2145 UPS-1U のプラグを抜きます。2145 UPS-1U の前面および背面の通気孔をきれいにします。すべての熱の原因を除きます。2145 UPS-1U の周囲の空気の流れが制限されていないか確認します。

- b. 少なくとも 5 分待ってから、入力電源に再接続し、2145 UPS-1U の電源オン・インディケータが点灯するまで (約 5 秒) オン/オフ・ボタンを押して、2145 UPS-1U を再始動します。
 - c. 状態が変わらない場合は、2145 UPS-1U を交換します。
 - d. 『MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査』を続行して修復結果を検証します。
8. (ステップ 7 (290 ページ) から)

2145 UPS-1U のサービス、オン・バッテリー、過負荷、電源インディケータが明滅していますか?

いいえ 2145 UPS-1U に内部障害があります。

- a. 2145 UPS-1U を交換します。
- b. 『MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい 2145 UPS-1U のバッテリーが完全に充電切れになっているか、障害を起こしている可能性があります。

- a. 2145 UPS-1U が、バッテリーの充電のために、少なくとも 2 時間電源コンセントに接続されていることを確認します。バッテリーの充電後、テスト/アラーム・リセット・ボタンを 3 秒間押し続けてから、サービス・インディケータを確認します。
- b. サービス・インディケータがまだ明滅していれば、2145 UPS-1U を交換します。
- c. 『MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査』を続行して修復結果を検証します。

MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査

MAP 5250: 2145 UPS-1U の修復検査は、現場交換可能ユニット (FRU) の新しい FRU との交換により、または実行した修復アクションにより、SAN ボリューム・コントローラ 2145 UPS-1U の問題がすべて解決されたかどうかを確認するのに役立ちます。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

修復を行い、マシン上に存在する問題がほかにないことを確認するために、ここに送られてきた可能性があります。

このタスクについて

以下の手順を実行します。

手順

1. 修復した 2145 UPS-1U の電源オン・インディケータとロード・セグメント 2 インディケータが緑色で点灯し、サービス、オン・バッテリー、および過負荷インディケータがオフになっていますか?

いいえ 265 ページの『MAP 5000: 開始』を続行してください。

はい ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から)

この 2145 UPS-1U によって電源が供給されている SAN ボリューム・コントローラー・ノードがオンになっていますか?

いいえ この 2145 UPS-1U に接続され、電源オフ状態の SAN ボリューム・コントローラー・ノード上で電源オンを押します。ステップ 3 に進みます。

はい ステップ 3 に進みます。

3. (ステップ 2 から)

この 2145 UPS-1U に接続されたノードがまだ電源オンされていないノード、またはフロント・パネル・ディスプレイにエラー・コードを示しているノードがありますか?

いいえ ステップ 4 に進みます。

はい 265 ページの『MAP 5000: 開始』を続行してください。

4. (ステップ 3 から)

この 2145 UPS-1U に接続された SAN ボリューム・コントローラー・ノードがフロント・パネル・ディスプレイに「充電中 (Charging)」を表示していますか?

いいえ ステップ 5 に進みます。

はい 「充電中 (Charging)」の表示が消えるのを待ちます (これは最長 2 時間かかることがあります)。ステップ 5 に進みます。

5. (ステップ 4 から)

修復した 2145 UPS-1U のテスト/アラーム・リセット・ボタンを 3 秒間押し続けて、自己診断テストを開始します。テストの際、2145 UPS-1U のさまざまな部品が検査されるにつれて、個々のインディケータが点灯します。

2145 UPS-1U のサービス、オン・バッテリー、または過負荷インディケータがオンのままですか?

いいえ 2145 UPS-1U の修復検査が正常に完了しました。321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行してください。

はい 265 ページの『MAP 5000: 開始』を続行してください。

MAP 5320: 冗長 AC 電源

MAP 5320: 冗長 AC 電源を使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで使用される 冗長 AC 電源スイッチで発生した問題の解決に役立ちます。この MAP を使用するのには、冗長 AC 電源スイッチに接続された 2145 UPS-1U が入力電源を保有するものとして表示されない場合です。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

以下のいずれかの理由で、ここに送られてきた可能性があります。

- SAN ボリューム・コントローラーの取り付けの際に問題が発生した。
- 285 ページの『MAP 5150: 2145 UPS-1U』からここに進んできた。

このタスクについて

冗長 AC 電源スイッチで発生した問題を解決するには、以下の手順を実行します。

手順

- 1 つまたは 2 つの 2145 UPS-1U が冗長 AC 電源スイッチに接続されている可能性があります。接続された 2145 UPS-1U のいずれかで電源オン・インディケータがオンになっていますか？

いいえ ステップ 3 (294 ページ) に進みます。

はい 冗長 AC 電源スイッチは給電状態です。ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から)

電源オンを示していない 2145 UPS-1U に接続された冗長 AC 電源スイッチの出力ソケットで電圧を計ります。

注意:

給電された無停電電源装置 (uninterruptible power supply) の電源ケーブルを取り外していないことを確認します。

出力ソケットで電力がありますか？

いいえ ある冗長 AC 電源スイッチ出力が作動していますが、他方では作動していません。冗長 AC 電源スイッチ を交換します。

注意:

稼働状態のノードを電源オフして、冗長 AC 電源スイッチ・アセンブリを交換します。その場合には、お客様に相談して交換するための適切な時刻を決定します。296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』を参照してください。冗長 AC 電源スイッチの交換後は、294 ページの『MAP 5340: 冗長 AC 電源の検証』から作業を続行します。

はい 冗長 AC 電源スイッチは作動状態です。2145 UPS-1U の電源コード、または 2145 UPS-1U に問題があります。この MAP を呼び出した手順

に戻って、その手順内でもといた場所から作業を続行します。その手順は、2145 UPS-1U の電源コード、または 2145 UPS-1U に関する問題を分析するのに役立ちます。

3. (ステップ 1 (293 ページ) から)

使用される冗長 AC 電源スイッチ出力のいずれも、給電状態を表していません。

冗長 AC 電源スイッチの 2 本の入力電源ケーブルは、冗長 AC 電源スイッチと別のメイン回路に正しく接続されていますか?

いいえ ケーブルを正しく接続します。『MAP 5340: 冗長 AC 電源の検証』に進みます。

はい この冗長 AC 電源スイッチに電力を供給する、サイトの両方の電力配分装置で主電源があるかどうかを検証します。ステップ 4 に進みます。

4. (ステップ 3 から)

この冗長 AC 電源スイッチに電力を供給する、サイトの 1 つ以上の電力配分装置で電力が使用可能ですか?

いいえ お客様に依頼してメイン回路を修正します。この MAP を呼び出した手順に戻って、その手順内でもといた場所から作業を続行します。

はい この冗長 AC 電源スイッチはこの状態で稼働する必要があります。冗長 AC 電源スイッチ・アセンブリーを交換します。冗長 AC 電源スイッチの交換後は、『MAP 5340: 冗長 AC 電源の検証』から作業を続行します。

MAP 5340: 冗長 AC 電源の検証

MAP 5340: 冗長 AC 電源の検証により、冗長 AC 電源スイッチが正しく機能しているかどうかを検証できるようになります。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

冗長 AC 電源スイッチを交換したため、または冗長 AC 電源スイッチの配線を訂正したため、読者がここまで進んできた可能性があります。また、この MAP を使用する可能性があるのは、唯一の AC 電源回路の電源が落ちた時点で、冗長 AC 電源スイッチが電源の落ちたノードに接続されているために、冗長 AC 電源スイッチが正しく作動していないと読者が考えた場合もあります。

この MAP では、冗長 AC 電源スイッチの出力ソケット 1 と 2 で電力が使用可能な状態であるか否かを確認する必要があります。冗長 AC 電源スイッチが電源オンされていないノードに接続されている場合、電圧メーターを使用して電力が使用可能な状態にあるかどうかを確認します。

冗長 AC 電源スイッチが電源オンされたノードに接続されている場合 (このため、そのノードが稼働可能)、いくつかの予防措置を取ってから下記のテストを続行して

ください。このテストを行うためにこのノードを電源オフする必要はありませんが、冗長 AC 電源スイッチが正しく作動していない場合は、このノードは電源オフになります。

このタスクについて

この冗長 AC 電源スイッチに接続された電源オン状態の各ノードごとに以下の手順を実行します。

1. 管理 GUI またはコマンド行インターフェース (CLI) を使用して、このノードと同じ入出力グループ内の他ノードがオンライン状態であることを確認します。
2. 管理 GUI または CLI を使用して、この入出力グループに接続された全仮想ディスクがオンライン状態であることを確認します。
3. 冗長 AC 電源スイッチの出力ケーブルをチェックして、冗長 AC 電源スイッチが同一入出力グループ内の 2 つのノードに接続されていないことを確認します。

上記のどのテストに失敗した場合も、この MAP を続行する前にどの失敗原因も解決してください。電源オン状態のノードを使ってこの検証を行っている場合は、以下の条件が真の場合は電力をこれ以上使用できないことを理解してください。

- 冗長 AC 電源スイッチをノードに接続する 2145 UPS-1U 上のバッテリー使用中インディケータが、5 秒を超えて点灯している。
- SAN ボリューム・コントローラー・ノードのディスプレイが「電源障害 (Power Failure)」を表示する。

その場合の指示が「電源の除去」となっている場合、設置場所の電力配分装置が個別に切り替えられる出力を保有していると、その電源をオフに切り替えることができます。そうでない場合、指定された冗長 AC 電源スイッチの電源ケーブルを設置場所の電力配分装置のコンセントから取り外します。

以下の手順を実行します。

手順

1. この冗長 AC 電源スイッチに電源を供給する、設置場所の 2 つの電力配分装置は、個別の電源回路に接続されていますか？

いいえ 問題を訂正してからこの MAP に戻ります。

はい ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から)

この冗長 AC 電源スイッチに電源を供給する、サイトの両方の電力配分装置は、給電されていますか？

いいえ 問題を訂正してからこの MAP の先頭に戻ります。

はい ステップ 3 に進みます。

3. (ステップ 2 から)

このサイトの電力配分装置を 冗長 AC 電源スイッチに接続している 2 本のケーブルは、接続されていますか？

いいえ 問題を訂正してからこの MAP の先頭に戻ります。

はい ステップ 4 に進みます。

4. (ステップ 3 (295 ページ) から)

冗長 AC 電源スイッチの出力ソケット位置 2 で、電力はありますか?

いいえ ステップ 8 に進みます。

はい ステップ 5 に進みます。

5. (ステップ 4 から)

冗長 AC 電源スイッチの出力ソケット 1 の位置で、電力はありますか?

いいえ ステップ 8 に進みます。

はい ステップ 6 に進みます。

6. (ステップ 5 から)

冗長 AC 電源スイッチへの主電源ケーブルから電源を除去します。冗長 AC 電源スイッチの出力ソケット 1 の位置で、電力はありますか?

いいえ ステップ 8 に進みます。

はい ステップ 7 に進みます。

7. (ステップ 6 から)

主電源ケーブルを再接続します。冗長 AC 電源スイッチへのバックアップ電源ケーブルから電源を除去します。冗長 AC 電源スイッチの出力ソケット 1 の位置で、電力はありますか?

いいえ ステップ 8 に進みます。

はい バックアップ電源ケーブルを再接続します。冗長 AC 電源検証は正常に完了しました。321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行してください。

8. (ステップ 4、5、6、および 7 から)

冗長 AC 電源スイッチは予期したとおりには機能していませんでした。冗長 AC 電源スイッチ・アセンブリーを交換します。この MAP の先頭に戻ります。

タスクの結果

MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ

MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフは、単一ノードの電源オフを行って、ディスクへのホスト・アクセスを中断せずに保守アクションを実施できるようになります。

始める前に

単一ノードの電源をオフにしても、通常はクラスター化システムの稼働は中断されません。この理由は、SAN ボリューム・コントローラー・システム内では入出力グループと呼ばれるペア状態でノードが稼働するからです。ある入出力グループは、

単一ノードのみが電源オンされた状態で、そのグループが管理するディスクへの入出力を継続的に処理します。ただし、パフォーマンスの劣化およびエラーに対する回復力の低下が発生します。

ノードの電源をオフにするときは、システムが必要以上に影響を受けないように注意する必要があります。ここで概説した手順が順守されない場合、アプリケーション・ホストはそのデータにアクセスできなくなる可能性、最悪の場合は、データが失われてしまう可能性があります。

システムのメンバーであり、オフラインではないノードの電源をオフにするには、以下の優先方式を使用できます。

1. 管理 GUI上で、「ノードのシャットダウン (Shut Down a Node)」オプションを使用します。
2. CLI コマンド `stopcluster -nodename` を使用します。

管理 GUIまたはコマンド行インターフェース (CLI) のいずれかを使用してノードを電源オフすることをお勧めします。その理由は、この 2 つの方式を使用すれば、パートナー・ノードへの制御された引き継ぎを行うことが可能であり、このシステム内での他の障害に対してより優れた回復力を実現できるからです。

ノードがオフライン状態の場合、またはシステムのメンバーでない場合、電源ボタンを使用した電源オフが必要となります。

このタスクについて

あるノードの電源オフ時に中断を最小限に抑えるには、以下の内容をすべて適用する必要があります。

- 入出力グループ内の他ノードは電源オン状態になっている必要があり、そのシステム内でアクティブ状態になっている必要があります。
- 入出力グループの他ノードは、全ホストへの SAN ファイバー・チャネル接続、およびこの入出力グループが管理対象とするディスク・コントローラーを保有している必要があります。
- この入出力グループが処理するすべてのボリュームはオンライン状態にする必要があります。
- マルチパス処理を行うホストは、この入出力グループ内の他ノードに対してオンライン状態です。

一部の環境では、ノードを電源オフする理由によっては、これらの条件を満足させることが不可能となる可能性があります。例えば、障害のあるファイバー・チャネル・カードを交換しようとする場合、ボリュームはオンライン状況として表示されません。条件を満足していなかった場合に、いつ先にこの作業を進めることが安全かを決定するための判断は、お客様が行う必要があります。必ず、システム管理者に相談してから、入出力アクセスが中断されると分かっている電源オフ作業を進めてください。その理由は、もっと適切な時刻まで中断するのを待つか、またはホスト・アプリケーションを使用停止にするかについて、いずれか一方が好ましいとシステム管理者が考える可能性があるためです。

円滑な再始動を確実に行うには、ノードは、そのローカルの内部的なディスク・ドライブに対して再作成不能なデータ構造を保存する必要があります。ローカル・デ

ディスクに保存するデータ量は多くなりますので、この操作には数分の時間を要します。制御された電源オフを中断させないでください。

重要: 以下のアクションを行うと、ノードはそのローカル・ディスクにデータを保存できなくなります。このため、以下の方法を使用してノードの電源をオフにしてはなりません。

- ノードと無停電電源装置 (uninterruptible power supply)の間の電源ケーブルを取り外すこと。通常、無停電電源装置 (uninterruptible power supply)は電源障害時にローカル・ディスクへの書き込みを可能にするだけの十分な電源を供給しますが、このケースでは電源が供給できなくなることは明白です。
- ノードの電源ボタンを押したままの状態にすること。この電源ボタンを押して放せば、ノードはこの動きをソフトウェアに示して、このノードではデータを電源オフ前にローカル・ディスクに書き込むことができます。電源ボタンを押したままにすると、ハードウェアはこの操作を緊急電源オフと解釈して即時シャットダウンします。この場合、お客様がローカル・ディスクにデータを保存する機会はありません。この緊急電源オフは、電源ボタンを押し続けて約 4 秒経過すると起こります。
- ライト・パス診断パネル上のリセット・ボタンを押すこと。

管理 GUIを使用したシステムの電源オフ

このトピックでは、管理 GUIを使用してシステムの電源をオフにする方法について説明します。

始める前に

管理 GUIを使用してシステムの電源をオフにするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 管理者として IBM System Storage Productivity Center にサインオンし、保守するシステムの 管理 GUIを起動します。
2. シャットダウンしようとしているシステムを見つけます。

電源をオフにするノードが「オフライン」として表示されている場合、ノードはシステムに参加していません。これらの環境では、ノード上の電源ボタンを使用して、ノードの電源をオフにする必要があります。

電源オフ対象のノードが「オンライン」として表示される場合、そのノードの電源をオフにすると、従属するボリュームもオフラインになる可能性があります。ノードに従属ボリュームがあるかどうかを確認してください。

3. ノードを選択し、「**従属ボリュームの表示**」をクリックします。
4. 入出力グループ内の各ボリュームの状況が「オンライン」であることを確認します。2 ページ以上を表示することが必要な場合があります。

どのボリュームも劣化状態として表示される場合は、入出力内の 1 つだけのノードがそのボリュームに対する入出力要求を処理しています。そのノードが電源オフされると、この劣化状態のボリュームに入出力要求をサブミットしている全ホストがそれによって影響を受けます。

いずれかのボリュームが劣化状態であり、その原因として入出力グループ内のパートナー・ノードが最近電源オフされたことが考えられる場合は、画面が最新表示されてすべてのボリュームがオンラインと表示されるまで待ちます。電源オフされているパートナー・ノードの全ボリュームは、30 分以内にはオンラインになるものと考えられます。

注: 30 分待った後、劣化したボリュームがあり、関連のノードおよび MDisk がすべてオンラインの場合は、IBM サポートに連絡して支援を受けてください。

作業を続行する前に、ホストが使用しているボリュームがすべてオンラインであることを確認します。

5. 可能な場合、この入出力グループによって管理されるボリュームにアクセスするすべてのホストが、フェイルオーバーにより、グループ内の他のノードによって提供されるパスを使用できることを確認します。

この検査は、ホスト・システムのマルチパス・デバイス・ドライバー・ソフトウェアを使用して行います。使用するコマンドは、使用されているマルチパス・デバイス・ドライバーによって異なります。System Storage マルチパス・サブシステム・デバイス・ドライバー (SDD) を使用している場合、パスを照会するコマンドは **datapath query device** です。ノードの電源オン後にマルチパス・デバイス・ドライバーがパスを再発見するには、しばらく時間がかかることがあります。入出力グループ内の両方のノードへのすべてのパスが使用可能であることをホスト上で確認できない場合、パートナー・ノードが電源オンしてから 30 分以内にノードを電源オフしないでください。そうしないと、ボリュームへのアクセスを失うおそれがあります。

6. 続行してノードの電源をオフにしても問題ないと判断した場合は、電源をオフにするシステムを選択して、「システムのシャットダウン」をクリックします。
7. 「OK」をクリックします。ボリュームにアクセスできるようにする最後に残っているノードであるノード、例えば、ミラーリングが解除されたボリュームを伴うソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を含むノードを選択した場合、「ノードのシャットダウン - 強制」パネルが表示され、このノードがシャットダウンされるとオフラインになるボリュームのリストを示します。
8. オフラインになるボリュームにアクセスするホスト・アプリケーションがないことを確認します。これらのボリュームへのアクセスが失われることが許容できる場合のみ、シャットダウンを続行してください。ノードのシャットダウンを続行するには、「強制シャットダウン」をクリックします。

次のタスク

シャットダウン時にこのノードはそのデータ構造を自分のローカル・ディスクに保存し、キャッシュ内に保持していたすべての書き込みデータを SAN ディスクにデステージします。このデステージ処理には数分を要する可能性があります。

この処理の最後にシステムが電源オフされます。

SAN ボリューム・コントローラー CLI を使用してノードの電源をオフにする方法

このトピックには、CLI を使用してノードの電源をオフにする方法を記載してあります。

手順

1. **lsnode** CLI コマンドを発行して、システム内のノードとそのプロパティのリストを表示します。シャットダウンしようとするノードを探して、そのノードが所属する入出力グループ名を書き留めます。その入出力グループ内の他ノードが「オンライン」であることを確認します。

```
lsnode -delim :
```

```
id:name:UPS_serial_number:WWNN:status:IO_group_id: IO_group_name:config_node:
UPS_unique_id
1:group1node1:10L3ASH:500507680100002C:online:0:io_grp0:yes:202378101C0D18D8
2:group1node2:10L3ANF:5005076801000009:online:0:io_grp0:no:202378101C0D1796
3:group2node1:10L3ASH:5005076801000001:online:1:io_grp1:no:202378101C0D18D8
4:group2node2:10L3ANF:50050768010000F4:online:1:io_grp1:no:202378101C0D1796
```

電源をオフにするノードが「オフライン」として表示されている場合、ノードはシステムに参加しておらず、入出力要求を処理していません。これらの環境では、ノード上の電源ボタンを使用して、ノードの電源をオフにする必要があります。

電源オフの対象ノードが「オンライン」として表示されているにもかかわらず、その入出力グループ内の他のノードがオンラインでない場合は、このノードを電源オフにすると、入出力グループが管理対象とするボリュームに入出力要求をサブミットしている全ホストが影響を受けます。作業を続ける前に、入出力グループの他のノードがオンラインであることを確認してください。

2. **lsdependentvdisks** CLI コマンドを発行して、指定されたノードの状況に依存するボリュームをリストします。

```
lsdependentvdisks group1node1
```

vdisk_id	vdisk_name
0	vdisk0
1	vdisk1

ノードがオフラインになるか、システムから除去されると、従属ボリュームもオフラインになります。ノードをオフラインにしたり、システムから除去する前に、ボリュームへのアクセスが失われないようにするためのコマンドを使用できます。

3. 続行しても問題ないと判断してノードの電源オフを実行する場合は、**stopcluster -node <name>** CLI コマンドを発行してノードの電源をオフにします。必ず、以下のように **-node** パラメーターを指定してください。その理由は、システム全体を電源オフしたくないからです。

```
stopcluster -node group1node1
Are you sure that you want to continue with the shut down? yes
```

注: 従属ボリュームが存在するが、ノードをシャットダウンしたい場合は、**stopcluster** コマンドに **-force** パラメーターを追加してください。**force** パラメーターの使用により、オフラインになるノード従属ボリュームがある場合で

も、コマンドの続行が強制されます。 **force** パラメーターの使用には注意が必要です。ノード従属ボリューム上のデータへのアクセスが失われます。

シャットダウン時にこのノードはそのデータ構造を自分のローカル・ディスクに保存し、キャッシュ内に保持していたすべての書き込みデータを SAN ディスクにデステージします。このデステージ処理には数分を要する可能性があります。

この処理の最後にノードが電源オフされます。

SAN ボリューム・コントローラーの電源制御ボタンの使用

緊急時、または別の手順で指図された場合を除き、ノードの電源をオフにするのに電源制御ボタンを使用しないでください。

始める前に

この方法を使用すると、フロント・パネルからシステムの状況を確認できず、したがって、電源オフによってシステムに過度の中断が生じるかどうかを判断できません。この方法の代わりに、管理 GUI または CLI コマンド (前記のトピックに記述) を使用して、アクティブ・ノードを電源オフします。

このタスクについて

この方式を使用する必要がある場合は、図 85 に示すように、各モデル・タイプの前面に電源制御ボタン **1** があることに注意してください。

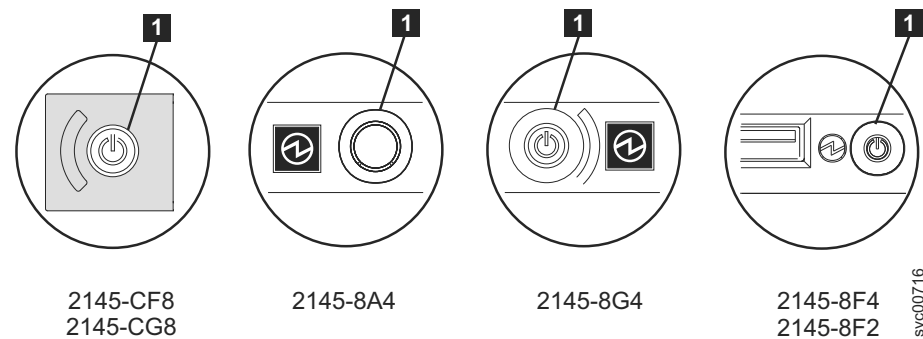


図 85. SAN ボリューム・コントローラー モデルの電源制御ボタン

電源ボタンを使用して電源オフしても安全であると考えた場合は、電源ボタンを押してすぐに放します。フロント・パネル・ディスプレイが変わって、「電源オフ中 (Powering Off)」が表示され、進行状況表示バーが表示されます。

2145-CG8 または 2145-CF8 では、電源ボタン・カバーを取り外してからでないと、電源ボタンを押すことができません。2145-8A4、2145-8G4、2145-8F4、または 2145-8F2 では、電源ボタンを押すために、先の尖った道具の使用が必要な場合があります。

あまり長い間電源ボタンを押したままにすると、そのノードでは、必ずしもすべてのデータを自分のローカル・ディスクに書き込むことができません。この場合、このノードを再始動するのに、通常よりも実施項目が多い保守手順が必要となります。

す。すなわち、この手順にはシステムからのノードの削除、および削除されたノードをシステムに追加して戻す作業が含まれます。

電源オフ

タスクの結果

このノードでは、電源オフ時に自分のデータ構造をディスクに保存します。電源オフには、5分を要する可能性があります。

電源ボタンを使用して（または電源障害が原因で）ノードが電源オフされた場合、その入出力グループ内のパートナー・ノードは、新規の書き込みデータに対してそのキャッシュの使用を即時中止して、キャッシュ内に既書き込まれたデータすべてを SAN 接続ディスクにデステージします。このデステージに要する時間はディスク・コントローラーの速度と使用状況により異なります。このデステージは 15 分未満で完了するものと考えられますが、もっと長くかかる可能性もあり、オフライン状態のディスクへの書き込み待ちになっているデータがある場合は、デステージが完了できません。

あるノードのパートナー・ノードが入出力処理を続行している最中に、そのノードの電源オフと再始動を行うと、そのノードは入出力グループのアクティブ・メンバーに即時になることができない可能性があります。このノードは、パートナー・ノードがキャッシュのデステージを完了するまで待つ必要があります。この期間中にパートナー・ノードが電源オフされると、この入出力グループが管理対象とする SAN ストレージへのアクセスができなくなります。例えば、入出力グループ内のパートナー・ノードが引き続き書き込みキャッシュをフラッシュしているため、入出力グループ内のいずれかのノードが入出力を処理できない場合、その入出力グループによって管理されるボリュームの状況は「劣化 (Degraded)」です。

MAP 5400: フロント・パネル

MAP 5400: フロント・パネルは、・フロント・パネルで発生した問題の解決に役立ちます。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

この MAP はすべての SAN ボリューム・コントローラー・モデルに適用されます。この手順を開始する前に、使用するモデルを認識する必要があります。使用するモデルを判断するには、ノードの前面でモデル・タイプを示すラベルを見つけてください。

以下のいずれかの理由で、ここに送られてきた可能性があります。

- SAN ボリューム・コントローラー・システムの取り付けの際に問題が発生し、フロント・パネル・ディスプレイ・テストに失敗したか、または正しいノード番号が表示されない。
- 別の MAP によってここに送られた。

このタスクについて

以下の手順を実行します。

手順

1. オペレーター情報パネル 上の電源 LED が緑色で点灯していますか?

いいえ 電源 MAP を続行します。273 ページの『MAP 5050: 電源 2145-CG8、2145-CF8、2145-8G4、2145-8F4、および 2145-8F2』または 281 ページの『MAP 5060: 電源 2145-8A4』を参照してください。

はい ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から)

図 86 に示されているサービス・コントローラーのエラー・ライト **1** がこはく色で点灯していますか?

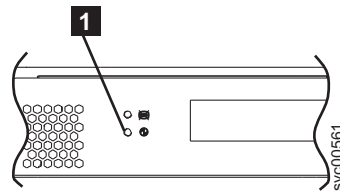


図 86. SAN ボリューム・コントローラー サービス・コントローラーのエラー・ライト

いいえ 「選択」 ボタンを 5 秒間押し続けて、フロント・パネル・テストを開始します。ステップ 3 に進みます。

重要: ノードの電源がオンになるまで、少なくとも 2 分の間テストを開始しないでください。予期しない結果を受け取る可能性があります。

はい SAN ボリューム・コントローラーのサービス・コントローラーに障害が発生しています。

- サービス・コントローラーを交換します。
- 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

3. (ステップ 2 から)

フロント・パネルの検査ライトが点灯し、すべての表示ビットの表示テストが 3 秒間オンになった後、3 秒間オフになり、縦線が左から右に移動し、続いて水平線が上から下に移動します。テストは完了し、画面の中央にスイッチ・テスト表示の単一の長方形が表示されます。

フロント・パネルのライトおよび表示の作動状況は、説明のとおりでしたか?

いいえ SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネルが表示テストに失敗しました。

- サービス・コントローラーを交換します。
- 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい ステップ 4 に進みます。

4. (ステップ 3 (303 ページ) から)

図 87 は、ボタンを押す前、および 上移動ボタン、左移動ボタンおよび右移動ボタン、ならびに「選択」ボタンを押したときの、フロント・パネル・ディスプレイの表示例を 4 つ示します。フロント・パネル・スイッチ・テストを行うには、任意の順序または組み合わせで任意のボタンを押します。表示には、押したボタンが示されます。

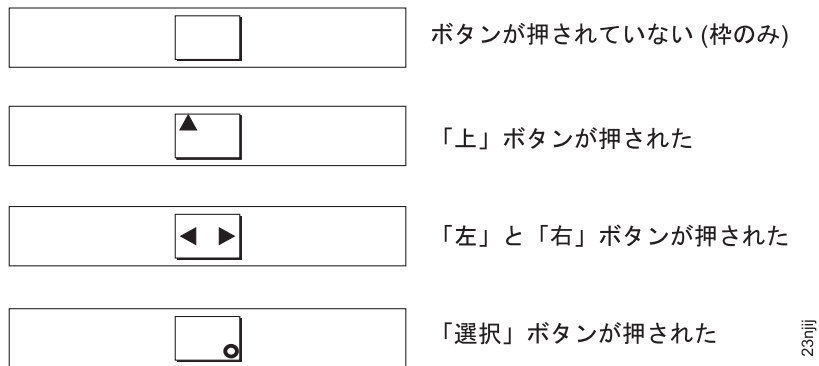


図 87. ボタンを押した場合のフロント・パネル・ディスプレイ

各スイッチを順番に検査します。保守パネルのスイッチおよび表示の作動状況は、図 87 の説明のとおりでしたか?

いいえ SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネルがスイッチ・テストに失敗しました。

- サービス・コントローラーを交換します。
- 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい 「選択」ボタンを 5 秒間押し続けて、このテストを終了します。ステップ 5 に進みます。

5. フロント・パネル・ディスプレイは現在、「クラスター: (Cluster:)」を表示していますか?

いいえ 265 ページの『MAP 5000: 開始』を続行してください。

はい メニュー画面の行 1 にノードが表示されるまで、下移動ボタンを押し続け、放します。ステップ 6 に進みます。

6. (ステップ 5 から)

この MAP は新規ノードの取り付けの一環として使用されていますか?

いいえ フロント・パネル・テストは、障害未検出で完了しました。321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい ステップ 7 (305 ページ) に進みます。

7. (ステップ 6 (304 ページ) から)

メニュー画面の行 2 に表示されるノード番号は、ノードのフロント・パネルに印刷されたノード番号と同じですか?

いいえ フロント・パネルの電子部品に保管されたノード番号は、フロント・パネルに印刷されたものと同じではありません。

- サービス・コントローラーを交換します。
- 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい フロント・パネル・テストは、障害未検出で完了しました。321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

MAP 5500: イーサネット

MAP 5500: イーサネットは、SAN ボリューム・コントローラー・イーサネットが発生した問題の解決に役立ちます。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

この MAP はすべての SAN ボリューム・コントローラー・モデルに適用されます。この手順を開始する前に、使用するモデルを認識する必要があります。使用するモデルを判断するには、ノードの前面でモデル・タイプを示すラベルを見つけてください。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 上の 10 Gbps イーサネット・フィーチャーで問題が発生した場合は、309 ページの『『MAP 5550: 10 G イーサネットおよび Fibre Channel over Ethernet パーソナリティ対応アダプター・ポート』』を参照してください。

以下のいずれかの理由で、ここに送られてきた可能性があります。

- SAN ボリューム・コントローラー・システムの取り付けの際に問題が発生し、イーサネット検査が失敗した。
- 別の MAP によってここに送られた。
- お客様が、代替構成ノードを使用することによってシステムに即時にアクセスする必要がある。309 ページの『代替構成ノードの定義』を参照してください。

このタスクについて

以下の手順を実行します。

手順

1. システム内のいずれかのノードのフロント・パネルにエラー・コード 805 の「ノード・エラー」が表示されていますか?

はい ステップ 6 (306 ページ) に進みます。

いいえ ステップ 2 (306 ページ) に進みます。

2. フロント・パネルまたはイベント・ログのどちらかで、システムがエラー 1400 を報告していますか?
 - はい ステップ 4 に進みます。
 - いいえ ステップ 3 に進みます。
3. イーサネットのパフォーマンス問題を検出していますか?
 - はい ステップ 9 (307 ページ) に進みます。
 - いいえ ステップ 10 (308 ページ) に進みます。
4. (ステップ 2 から) すべてのノードで、以下のアクションを実行します。
 - a. ディスプレイの先頭行に「イーサネット (Ethernet)」が表示されるまで、下移動ボタンを押します。
 - b. 先頭行に「イーサネット・ポート 1」が表示されるまで、右移動ボタンを押します。
 - c. ディスプレイの 2 行目に「リンク・オフライン (link offline)」が表示される場合は、このポートを、修正が必要なポートとして記録します。
 - d. ノードごとに 2 つのイーサネット・ケーブルを使用してシステムが構成される場合、ディスプレイの先頭行に「イーサネット・ポート 2」が表示されるまで右移動ボタンを押し、前のステップを繰り返します。
 - e. ステップ 5 に進みます。
5. (ステップ 4 から) ケーブルが接続されているいずれかのイーサネット・ポートで、「リンク・オフライン (link offline)」が報告されますか?
 - はい ステップ 6 に進みます。
 - いいえ ステップ 10 (308 ページ) に進みます。
6. (ステップ 5 から) SAN ボリューム・コントローラー・ノードに 1 つまたは 2 つのケーブルが接続されていますか?
 - 1 つ ステップ 7 に進みます。
 - 2 つ ステップ 8 (307 ページ) に進みます。
7. (ステップ 6 から) 以下のアクションを実行します。
 - a. そのノードからイーサネット・ケーブルを抜き、別のノードのイーサネット・ポート 2 に差し込みます。
 - b. ケーブルが他のノードのイーサネット・ポート 2 に差し込まれているときに、イーサネット・リンク・ライトが点灯している場合は、元のノードのシステム・ボードを交換します。

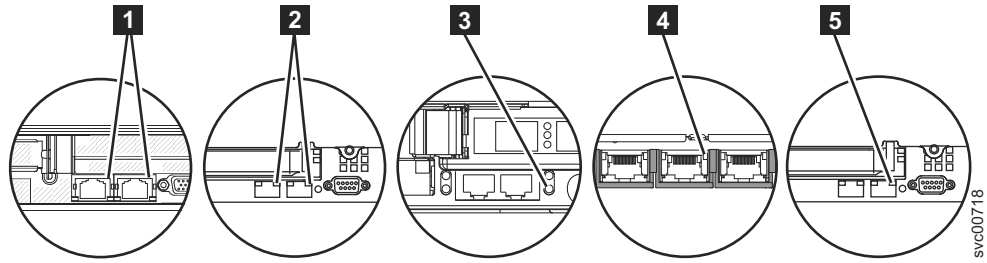


図 88. SAN ボリューム・コントローラー背面パネル上のポート 2 イーサネット・リンク LED

- 1** SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ポート 2 (右上) イーサネット・リンク LED
 - 2** SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 ポート 2 (右上) イーサネット・リンク LED
 - 3** SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 ポート 2 (右下) イーサネット・リンク LED
 - 4** SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ポート 2 (中央) イーサネット・リンク LED
 - 5** SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ポート 2 (右上) イーサネット・リンク LED
- c. イーサネット・リンク・ライトが点灯していない場合は、イーサネット・スイッチまたはハブ・ポートとケーブルを調べて、問題を解決します。
- d. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。
8. (ステップ 5 (306 ページ) またはステップ 6 (306 ページ) から) **以下のアクションを実行します。**
- a. そのノードからイーサネット・ケーブルを抜き、別の装置 (例えば、SSPC) に差し込みます。
 - b. ケーブルが他のイーサネット装置に差し込まれているときに、イーサネット・リンク・ライトが点灯している場合は、元のノードのシステム・ボードを交換します。
 - c. イーサネット・リンク・ライトが点灯していない場合は、イーサネット・スイッチ/ハブ・ポートとケーブルを調べて、問題を解決します。
 - d. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。
9. (ステップ 3 (306 ページ) から) **以下のアクションを実行します。**
- a. すべての「ポート 1 の速度 (Speed port 1)」および「ポート 2 の速度 (Speed port 2)」パネルで、速度と二重の設定を調べます。形式は <Speed>/<Duplex> です。
 - 1) ディスプレイの先頭行に「イーサネット (Ethernet)」が表示されるまで、下移動ボタンを押します。
 - 2) 先頭行に「速度 1 (Speed 1)」が表示されるまで、右移動ボタンを押します。

- 3) ディスプレイの 2 行目に「リンク・オフライン (link offline)」が表示される場合は、このポートを、修正が必要なポートとして記録します。
 - 4) ノードごとに 2 つのイーサネット・ケーブルを使用してシステムが構成される場合、ディスプレイの先頭行に「速度 2 (Speed 2)」が表示されるまで右移動ボタンを押し、前のステップを繰り返します。
- b. SAN ボリューム・コントローラー・ポートが、スイッチ上で選択可能な最高速度でネゴシエーションされたことを確認します。すべてのノードには、ギガビット・イーサネット・ネットワーク・ポートがあります。
 - c. 二重設定が「半二重 (half)」である場合は、以下の手順を実行します。
 - 1) リンクの一方の側が固定速度と二重に設定され、もう一方の側が自動折衝に設定されている場合、ギガビット・イーサネットには既知の問題があります。この問題により、リンクの固定側は全二重で稼働し、リンクのネゴシエーション側は半二重で稼働する可能性があります。二重の不一致により、イーサネットのパフォーマンスが大幅に低下する可能性があります。
 - 2) スイッチが全二重に設定されている場合、そのスイッチを自動折衝に設定し、上記の問題を防止します。
 - 3) スイッチが半二重に設定されている場合は、自動折衝に設定して、全二重リンクで選択可能な高い方の帯域幅でリンクが稼働できるようにします。
 - d. 上記のいずれも当てはまらない場合は、サポート・センターに連絡して支援を依頼してください。
10. (ステップ 2 (306 ページ) から)

これまでに報告されたイーサネット・インターフェースに関する障害は、これ以上は表示されません。イーサネットに伴う問題は修正済みの可能性があるか、または偶発的な問題が発生した可能性があります。イーサネット・インターフェースを故意に切り離していないかどうかを判別するためにお客様に確認します。また、イーサネット・ネットワークの他コンポーネントに関して、最近、イーサネット問題を修正したことがないかどうかチェックします。

イーサネット障害は直前の検査で説明されましたか?

いいえ 偶発的なイーサネット・エラーの可能性があります。問題が解決されるまで、以下の手順をこの順序で行います。

- a. イーサネット・ハブの問題判別手順を使用して、イーサネット・ネットワーク接続問題の有無のチェックおよび解決を行います。問題が解決された場合は、321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行します。
- b. このノード上で類似のイーサネット接続問題が最近発生していないかどうかを判別します。発生している場合は、システム・ボードを交換します。
- c. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

代替構成ノードの定義

お客様が代替構成ノードを使用してシステムに即時アクセスする必要がある状態が生じることがあります。

このタスクについて

構成ノードとのすべてのイーサネット接続が失敗する場合は、システムが障害状態を報告できず、また、管理 GUIがシステムにアクセスできないため管理タスクまたはサービス・タスクを実行できません。このようなケースでこのシステムに即時アクセスする必要がある場合は、システムが代替構成ノードを使うようにすることができます。

1 つのみのノードが、フロント・パネルで「ノード・エラー 805」を表示する場合、以下の手順を実行してください。

手順

1. 「ノード・エラー 805」を表示するノードの電源ボタンを押してから離します。
2. フロント・パネルのディスプレイで「電源オフ」が表示されるときは、再度電源ボタンを押します。
3. 「再始動」が表示されます。

タスクの結果

システムは新しい構成ノードを選択します。管理 GUIはシステムに再度アクセスできます。

『MAP 5550: 10 G イーサネットおよび Fibre Channel over Ethernet パーソナリティー対応アダプター・ポート』

『MAP 5550: 10 G イーサネット』は、10 G イーサネット機能と Fibre Channel over Ethernet パーソナリティーが有効になっている SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 上で発生した問題の解決に役立ちます。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

この MAP は、10 G イーサネット・フィーチャーが取り付けられた SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 モデルに適用されます。この手順を開始する前に、使用するモデルを認識する必要があります。使用するモデルを判断するには、ノードの前面でモデル・タイプを示すラベルを見つけてください。10 G イーサネット・アダプターが取り付けられていること、および各ポートに光ケーブルが接続されていることを確認します。24 ページの図 18 は、10 G イーサネット・ポートがある 2145-CG8 の背面パネルを示しています。

エラー・コード 805 の問題が発生した場合は、305 ページの『MAP 5500: イーサネット』に進んでください。

エラー・コード 703 または 723 の問題が発生した場合は、238 ページの『ファイバー・チャンネルおよび 10 G イーサネットの障害』にアクセスしてください。

以下のいずれかの理由で、ここに送られてきた可能性があります。

- SAN ボリューム・コントローラー・システムの取り付けの際に問題が発生し、イーサネット検査が失敗した。
- 別の MAP によってここに送られた。

このタスクについて

以下の手順を実行します。

手順

1. 影響を受けるノードのフロント・パネルに「ノード・エラー 720 または 721 が表示されていますか、それともイベント・ログにサービス・エラー・コード 1072 が表示されていますか?」

はい ステップ 11 (312 ページ) に進みます。

いいえ ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から) 影響を受けたノードのフロント・パネルから以下のアクションを実行します。
 - a. 「イーサネット」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。
 - b. 「イーサネット・ポート 3」が表示されるまで、左移動または右移動ボタンを押して放します。

イーサネット・ポート 3 が見つかりましたか?

いいえ ステップ 11 (312 ページ) に進みます。

はい ステップ 3 に進みます。

3. (ステップ 2 から) 影響を受けたノードのフロント・パネルから以下のアクションを実行します。
 - a. 「イーサネット」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。
 - b. 「イーサネット・ポート 3」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。
 - c. ディスプレイの 2 行目に「リンク・オフライン」、「リンク・オンライン」、または「未構成」が表示される場合は、それを記録します。
 - d. 「イーサネット・ポート 4」が表示されるまで、上移動または下移動ボタンを押して放します。
 - e. ディスプレイの 2 行目に「リンク・オフライン」、「リンク・オンライン」、または「未構成」が表示される場合は、それを記録します。
 - f. ステップ 4 に進みます。
4. (ステップ 3 から) ステップ 3 で表示された 10 G イーサネット・ポートの状態は何でしたか?

両方のポートが「リンク・オンライン」を表示

10 G リンクは現在稼働中です。321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

1 つ以上のポートが「リンク・オフライン」を表示

ステップ 5 に進みます。

1 つ以上のポートが「未構成」を表示

ポート構成については、iSCSI 用の SAN ボリューム・コントローラーのインフォメーション・センターで CLI コマンド `cfgportip` の説明を参照してください。

Fibre Channel over Ethernet の情報については、SAN ボリューム・コントローラーのインフォメーション・センターで CLI コマンド `lsportfc` の説明を参照してください。このコマンドにより、Fibre Channel over Ethernet が正しく構成された VLAN の一部であるかどうかを判別するのに役立つ接続のプロパティと状況が提供されます。

5. (ステップ 4 (310 ページ) から)オフライン・ポートのこはく色の 10 G イーサネット・リンク LED はオフですか?

はい ステップ 6 に進みます。

いいえ 物理リンクは作動可能です。システム構成に問題がある可能性があります。SAN ボリューム・コントローラーのインフォメーション・センターで、構成トピック『iSCSI 構成の詳細』および『Fibre Channel over Ethernet 構成の詳細』を参照してください。

6. (ステップ 5 から) 以下のアクションを実行します。

- 10 G イーサネット・ポートが 10 G イーサネット・ファブリックに接続されていることを確認します。
- 10 G イーサネット・ファブリックが構成されていることを確認します。
- small form-factor pluggable (SFP) トランシーバーを引き抜き、それを差し込んで戻します。
- 光ケーブルを引き抜き、それを差し込んで戻します。
- 小型のエア・スプレー (使用可能な場合) を使用して、接点を清掃します。
- ステップ 7 に進みます。

7. (ステップ 6 から) こはく色のリンク LED が点灯しましたか?

はい 物理リンクは作動可能です。321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

いいえ ステップ 8 に進みます。

8. (ステップ 7 から) ポート 3 とポート 4 の 10 G SFP を交換します。ただし、光ケーブルは同じポートに接続したままにします。

他方のポート上のこはく色のリンク LED は現在オフになっていますか?

はい ステップ 10 (312 ページ) に進みます。

いいえ ステップ 9 に進みます。

9. (ステップ 8 から)ポート 3 とポート 4 の 10 G イーサネット光ケーブルを交換します。

こはく色のリンク LED がどのように変化するか監視します。ケーブルを交換して元に戻します。

他方のポート上のこはく色のリンク LED がオフになりましたか？

はい こはく色の LED が現在オフになっているポートに接続された 10 G イーサネット光リンクおよびファブリックを検査します。問題はケーブルに関連しています。問題は光ケーブルまたはイーサネット・スイッチのどちらかにあります。イーサネット・スイッチが、ポートは作動可能であることを示すかどうかを確認します。ポートが作動可能であることを示さない場合は、光ケーブルを取り替えます。321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

いいえ ステップ 11 に進みます。

10. (ステップ 8 (311 ページ) から) **以下のアクションを実行します。**

- a. こはく色のリンク LED が現在オフになっている SFP を取り替えます。
- b. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

11. (ステップ 1 (310 ページ)、2 (310 ページ)、および 9 (311 ページ) から) **既に 10 G イーサネット・アダプターを取り外して、取り替えましたか？**

はい ステップ 12 に進みます。

いいえ 以下のアクションを実行します。

- a. 10 G イーサネット・アダプター・カードを取り外して、取り替えます。
 - b. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。
12. (ステップ 11 から) **10 G イーサネット・アダプターを新しいものと交換します。**
- a. 10 G イーサネット・アダプター・カードを取り替えます。
 - b. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

MAP 5600: ファイバー・チャネル

MAP 5600: ファイバー・チャネルは、SAN ボリューム・コントローラーのファイバー・チャネル・ポートで発生した問題の解決に役立ちます。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

この MAP はすべての SAN ボリューム・コントローラー・モデルに適用されます。この手順を開始する前に、使用するモデルを認識する必要があります。使用するモデルを判断するには、ノードの前面でモデル・タイプを示すラベルを見つけてください。

以下のいずれかの理由で、ここに送られてきた可能性があります。

- SAN ボリューム・コントローラー・システムの取り付けの際に問題が発生し、ファイバー・チャネル検査が失敗した。

- 別の MAP によってここに送られた。

このタスクについて

ファイバー・チャンネル・ポートによって起こった問題を解決するには、以下の手順を実行します。

手順

1. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の問題を診断するためにここに進んできましたか?

いいえ ステップ 2 に進みます。

はい ステップ 3 に進みます。

2. ファイバー・チャンネル・ポート速度の問題を解決しようとしていますか?

いいえ ステップ 3 に進みます。

はい ステップ 12 (320 ページ) に進みます。

3. (ステップ 1 およびステップ 2 から) SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネル・ディスプレイで、ファイバー・チャンネル・ポート 1 の状況を表示します。詳しくは、111 ページの『第 6 章 SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネルの使用』を参照してください。

SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネル・ディスプレイは、ファイバー・チャンネル・ポート 1 がアクティブであることを示していますか?

いいえ ファイバー・チャンネル・ポートが正しく作動していません。表示の 2 番目の行のポート状況を検査します。

- **非アクティブ:** ポートは操作可能ですが、ファイバー・チャンネル・ファブリックにアクセスできません。ファイバー・チャンネル・アダプターが正しく構成されていないか、ファイバー・チャンネル small form-factor pluggable (SFP) トランシーバーに障害があるか、ファイバー・チャンネル・ケーブルに障害があるか、取り付けられていないか、あるいはケーブルの他方の端の装置に障害があります。ポート 1 をメモします。ステップ 8 (316 ページ) に進みます。
- **障害:** ポートは、ハードウェア障害のため操作不能です。ポート 1 をメモします。ステップ 10 (318 ページ) に進みます。
- **未取り付け:** このポートは取り付けられていません。ポート 1 をメモします。ステップ 11 (319 ページ) に進みます。

はい 右移動ボタンを押して放し、ファイバー・チャンネル・ポート 2 を表示します。ステップ 4 に進みます。

4. (ステップ 3 から)

SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネル・ディスプレイは、ファイバー・チャンネル・ポート 2 がアクティブであることを示していますか?

いいえ ファイバー・チャンネル・ポートが正しく作動していません。表示の 2 番目の行のポート状況を検査します。

- **非アクティブ:** ポートは操作可能ですが、ファイバー・チャンネル・ファブリックにアクセスできません。ファイバー・チャンネル・アダプタ

ーが正しく構成されていないか、ファイバー・チャンネル small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー に障害があるか、ファイバー・チャンネル・ケーブルに障害があるか、取り付けられていないか、あるいはケーブルの他方の端の装置に障害があります ポート 2 をメモします。ステップ 8 (316 ページ) に進みます。

- **障害:** ポートは、ハードウェア障害のため操作不能です。ポート 2 をメモします。ステップ 10 (318 ページ) に進みます。
- **未取り付け:** このポートは取り付けられていません。ポート 2 をメモします。ステップ 11 (319 ページ) に進みます。

はい 右移動ボタンを押して放し、ファイバー・チャンネル・ポート 3 を表示します。ステップ 5 に進みます。

5. (ステップ 4 (313 ページ) から)

SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネル・ディスプレイは、ファイバー・チャンネル・ポート 3 がアクティブであることを示していますか?

いいえ ファイバー・チャンネル・ポートが正しく作動していません。表示の 2 番目の行のポート状況を検査します。

- **非アクティブ:** ポートは操作可能ですが、ファイバー・チャンネル・ファブリックにアクセスできません。ファイバー・チャンネル・アダプターが正しく構成されていないか、ファイバー・チャンネル small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー に障害があるか、ファイバー・チャンネル・ケーブルに障害があるか、取り付けられていないか、あるいはケーブルの他方の端の装置に障害があります ポート 3 をメモします。ステップ 8 (316 ページ) に進みます。
- **障害:** ポートは、ハードウェア障害のため操作不能です。ポート 3 をメモします。ステップ 10 (318 ページ) に進みます。
- **未取り付け:** このポートは取り付けられていません。ポート 3 をメモします。ステップ 11 (319 ページ) に進みます。

はい 右移動ボタンを押して放し、ファイバー・チャンネル・ポート 4 を表示します。ステップ 6 に進みます。

6. (ステップ 5 から)

SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネル・ディスプレイは、ファイバー・チャンネル・ポート 4 がアクティブであることを示していますか?

いいえ ファイバー・チャンネル・ポートが正しく作動していません。表示の 2 番目の行のポート状況を検査します。

- **非アクティブ:** ポートは操作可能ですが、ファイバー・チャンネル・ファブリックにアクセスできません。ファイバー・チャンネル・アダプターが正しく構成されていないか、ファイバー・チャンネル small form-factor pluggable (SFP) トランシーバー に障害があるか、ファイバー・チャンネル・ケーブルに障害があるか、取り付けられていないか、あるいはケーブルの他方の端の装置に障害があります ポート 4 をメモします。ステップ 8 (316 ページ) に進みます。
- **障害:** ポートは、ハードウェア障害のため操作不能です。ポート 4 をメモします。ステップ 9 (317 ページ) に進みます。

- **未取り付け:** このポートは取り付けられていません。ポート 4 をメモします。ステップ 11 (319 ページ) に進みます。

はい ステップ 7 に進みます。

7. (ステップ 6 (314 ページ) から)

これまでに報告されたファイバー・チャンネル・ポートに関する障害が表示されなくなりました。SAN ファイバー・チャンネル・ファブリックに伴う問題は修正済みの可能性があるか、または偶発的な問題が発生した可能性があります。

お客様に相談して、一部のファイバー・チャンネル・ポートを切り離していなかったかどうか、または SAN ファイバー・チャンネル・ファブリックの一部のコンポーネントに障害があり、最近修正したかどうかを調べます。

上述の検査でファイバー・チャンネル・ポート障害は説明されていますか?

いいえ 偶発的なファイバー・チャンネル・エラーの可能性があります。

- SAN 問題判別手順を使用して、すべてのファイバー・チャンネル・ファブリックの接続問題の有無のチェックおよび解決を行います。問題が解決された場合は、321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行します。
- この SAN ボリューム・コントローラー・ノードの同一ポート上で最近発生した類似のファイバー・チャンネル・エラーがないかどうかチェックします。発生している場合は、ファイバー・チャンネル・ケーブルを交換します (既に交換済みの場合はその限りではありません)。
- ファイバー・チャンネル SFP トランシーバー を交換します (既に交換済みの場合はその限りではありません)。

注: SAN ボリューム・コントローラーのノードは、長波 SFP トランシーバー および短波 SFP トランシーバー の両方でサポートされます。取り替える SFP トランシーバー と同じタイプの SFP トランシーバー に交換する必要があります。例えば、取り替える SFP トランシーバー が長波 SFP トランシーバー である場合、適切な交換部品を提供する必要があります。間違った SFP トランシーバー を取り外すと、データ・アクセスが失われるおそれがあります。

「SAN ボリューム・コントローラーのノード上のファイバー・チャンネル SFP トランシーバーの取り外しおよび取り替え」について資料を参照し、SFP トランシーバーの取り替え方法を確認してください。

- 次の表に示されたファイバー・チャンネル・アダプター・アセンブリを交換します。

ノード	アダプター・アセンブリ
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA

ノード	アダプター・アセンブリー
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 ポート 1 または 2	デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル HBA - ロー・プロファイル
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 ポート 3 または 4	デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル HBA - フルハイト

e. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

8. (ステップ 3 (313 ページ)、4 (313 ページ)、5 (314 ページ)、および 6 (314 ページ) から)

SAN ボリューム・コントローラー のメモされたポートは非アクティブの状況を示しています。いくつかのモデルについては、ファイバー・チャンネルの速度が正しく設定されていないときに、これが発生する場合があります。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の問題を診断していますか?

いいえ ステップ 9 (317 ページ) に進みます。

はい SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 ノード上のすべての SAN ボリューム・コントローラー・ポートは、同じ速度で作動しなければなりません。この速度は、システム・プロパティの 1 つによって設定されます。したがって、システムの速度は、すべての・ポートが使用できる速度に設定されなければなりません。

システム内で 1 つ以上のノードが現在オンラインである場合は、速度のプロパティを、すべての SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 ポートが使用できる速度に変更してください。

重要: SAN ボリューム・コントローラーの速度設定を変更すると、システムで入出力障害が生じます。これらの手順を実行する前に、すべてのホスト操作が停止しているようにしてください。

- ディスプレイの先頭行に「イーサネット (Ethernet)」が表示されるまで、下移動ボタンを押します。
- 先頭行に「速度 1 (Speed 1)」が表示されるまで、右移動ボタンを押します。
- ディスプレイの 2 行目に「リンク・オフライン (link offline)」が表示される場合は、このポートを、修正が必要なポートとして記録します。

d. ノードごとに 2 つのイーサネット・ケーブルを使用してシステムが構成される場合、ディスプレイの先頭行に「速度 2 (Speed 2)」が表示されるまで右移動ボタンを押し、前のステップを繰り返します。

e. ステップ 9 に進みます。

システム内でノードが現在オンラインでない場合は、ノードをシステムに結合する前に、ノードの速度を別の速度設定値に設定する必要がある場合があります。ノードの速度を一時的に設定するには、以下の手順を実行します。

注: ノードがシステムと結合した後、ノードのファイバー・チャンネル・ポート速度が、システムの設定と一致するように変更されます。設定を確認した後、ノードを変更してください。

a. 下移動ボタンを押したままにします。

b. 「選択」ボタンを押して放します。

c. 下移動ボタンを放します。

ファイバー・チャンネルの速度設定は、ディスプレイに示されます。この値が SAN の速度と一致しない場合は、下移動および上移動ボタンを使用して、正しく設定します。

d. 「選択」ボタンを押して、変更があればこれを受け入れ、ファイバー・チャンネル状況表示に戻ります。

e. 状況がアクティブを示している場合は、321 ページの『MAP 5700: 修復検査』作業を続行します。それ以外の場合は、ステップ 9 に進みます。

9. (ステップ 8 (316 ページ) から)

SAN ボリューム・コントローラー のメモされたポートは非アクティブの状況を示しています。メモされたポートがまだ非アクティブの状況を表示している場合は、メモされたポートに関連する部品を、問題が修正されるまで、次の順序で交換します。

a. SAN ボリューム・コントローラー からファイバー・チャンネル・ネットワークへのファイバー・チャンネル・ケーブル。

b. 障害のあるファイバー・チャンネル・ファブリック接続。特に、ファイバー・チャンネル・スイッチの SFP トランシーバー。SAN 問題判別手順を使用して、すべてのファイバー・チャンネル・ファブリック接続問題を解決します。

c. SAN ボリューム・コントローラー ファイバー・チャンネル SFP トランシーバー。

注: SAN ボリューム・コントローラーのノードは、長波 SFP および短波 SFP の両方でサポートされます。取り替える SFP トランシーバー と同じタイプの SFP と取り替える必要があります。例えば、取り替える SFP トランシーバー が長波 SFP トランシーバー である場合、適切な交換部品を提供する必要があります。間違った SFP トランシーバーを取り外すと、データ・アクセスが失われるおそれがあります。「SAN ボリューム・コントロ

ーラーのノード上のファイバー・チャンネル SFP トランシーバーの取り外しおよび取り替え」について資料を参照し、SFP トランシーバーの取り替え方法を確認してください。

- d. 次の表に示されたファイバー・チャンネル・アダプター・アセンブリーを交換します。

ノード	アダプター・アセンブリー
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 ポート 1 または 2	デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル HBA - ロー・プロファイル
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 ポート 3 または 4	デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル HBA - フルハイト

- e. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。
10. (ステップ 3 (313 ページ)、4 (313 ページ)、5 (314 ページ)、および 6 (314 ページ) から)

SAN ボリューム・コントローラー上のメモされたポートは、障害のある状況を示しています。SAN ボリューム・コントローラーノードをスイッチに接続するファイバー・チャンネル・ケーブルがしっかり接続されていることを確認します。メモされたポートに関連する部品を、問題が修正されるまで、次の順序で交換します。

- a. ファイバー・チャンネル SFP トランシーバー。

注: SAN ボリューム・コントローラーのノードは、長波 SFP トランシーバー および短波 SFP トランシーバー の両方でサポートされます。取り替える SFP トランシーバー と同じタイプの SFP トランシーバー に交換する必要があります。例えば、取り替える SFP トランシーバー が長波 SFP トランシーバー である場合、適切な交換部品を提供する必要があります。間違った SFP トランシーバーを取り外すと、データ・アクセスが失われるおそれがあります。「SAN ボリューム・コントローラーのノード上のファイバー・チャンネル SFP トランシーバーの取り外しおよび取り替え」について資料を参照し、SFP トランシーバーの取り替え方法を確認してください。

- b. 次の表に示されたファイバー・チャンネル・アダプター・アセンブリーを交換します。

ノード	アダプター・アセンブリー
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA

ノード	アダプター・アセンブリー
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-CF8 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-8A4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-8G4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-8F4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-8F2 ポート 1 または 2	デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル HBA - ロー・プロファイル
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-8F2 ポート 3 または 4	デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル HBA - フルハイト

- c. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。
11. (ステップ 3 (313 ページ)、4 (313 ページ)、5 (314 ページ)、および 6 (314 ページ) から)

SAN ポリユーム・コントローラーのメモされたポートは未インストールの状況を表示しています。ファイバー・チャンネル・アダプターを交換したばかりの場合は、正しく取り付けられていることを確認します。既に他のシステム・ボードのコンポーネントを交換している場合は、ファイバー・チャンネル・アダプターに支障をきたしていないかを確認してください。

上述の検査でファイバー・チャンネル・アダプター障害は説明されていますか?

いいえ

- a. 次の表に示されたファイバー・チャンネル・アダプター・アセンブリーを交換します。

表 57. SAN ポリユーム・コントローラー ファイバー・チャンネル・アダプター・アセンブリー

SAN ポリユーム・コントローラー 2145-CG8 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-CF8 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-8A4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-8G4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-8F4 ポート 1、2、3 または 4	4 ポート・ファイバー・チャンネル HBA
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-8F2 ポート 3 または 4	デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル HBA - フルハイト
SAN ポリユーム・コントローラー 2145-8F2 ポート 1 または 2	デュアル・ポート・ファイバー・チャンネル HBA - ロー・プロファイル

- b. 問題が修正されない場合は、ファイバー・チャンネル接続ハードウェアを、表 58 に示されている順序で交換します。

表 58. SAN ボリューム・コントローラー ファイバー・チャンネル・アダプター接続ハードウェア

ノード	アダプター接続ハードウェア
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ポート 1、2、3 または 4	1. ライザー・カード、PCI Express 2. システム・ボード
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ポート 1、2、3 または 4	1. ライザー・カード、PCI Express 2. システム・ボード
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 ポート 1、2、3 または 4	1. ライザー・カード、PCI Express 2. フレーム・アセンブリー
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 ポート 1 または 2	1. ライザー・カード、PCI ロー・プロファイル 2. フレーム・アセンブリー
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 ポート 3 または 4	1. ライザー・カード、PCI 2. フレーム・アセンブリー

- c. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

12. (ステップ 2 (313 ページ) から)

SAN ボリューム・コントローラーのモデル 2145-8A4、2145-8G4、および 2145-8F4 の場合、各ファイバー・チャンネル・ポートは、接続先スイッチとの操作速度の自動折衝を行います。ポートの操作速度が、スイッチがサポートする速度より低速の場合は、リンク・エラーが多くの回数検出されることとなります。

現在のリンク速度を表示するには、以下の手順を実行します。

- 「FC ポート-1 状況」が表示されるまで、フロント・パネルの上移動ボタンまたは下移動ボタンを押します。
- 「選択」ボタンを押して放します。
- 「FC ポート-1 速度」が表示されるまで、左または右ボタンを押します。
- 「選択」ボタンを押して放します。
- 下移動ボタンを押します。

フロント・パネル・ディスプレイの 2 番目の行に、ポートの現在のファイバー・チャンネル速度が表示されます。

ポートは期待される速度より低速で作動していますか?

いいえ 障害のあるポートが特定されるまで、他のファイバー・チャンネル・ポー

トの検査を繰り返します。障害のあるポートが見つからない場合は、問題は存在しません。『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい 以下の手順を実行します。

- a. ファイバー・チャネル・ケーブルのルーティングを検査して、損傷がないこと、およびケーブル経路に急な曲がりがないことを確認します。曲がりの半径は、約 76 mm (3 インチ) 以上にする必要があります。ファイバー・チャネル・ケーブルを再経路指定または交換します。
- b. ファイバー・チャネル・ケーブルを 2 秒間取り外し、その後に再挿入します。これで、ファイバー・チャネル・アダプターが、その操作速度の再ネゴシエーションを行います。
- c. ファイバー・チャネル・ポートの速度を再検査します。現在正常である場合は、問題が解決されました。そうでない場合は、問題の原因が以下の 1 つである可能性があります。
 - 4 ポート・ファイバー・チャネル HBA
 - SAN ボリューム・コントローラー SFP トランシーバー
 - ファイバー・チャネル・スイッチのギガビット・インターフェース・コンバーター (GBIC) または SFP トランシーバー
 - ファイバー・チャネル・スイッチ

問題が解決されるまで、コンポーネントを変更し、速度を再検査します。その後に、『MAP 5700: 修復検査』を続行して、修復結果を検査します。

MAP 5700: 修復検査

MAP 5700: 修復検査は、現場交換可能ユニット (FRU) を新しい FRU と交換したことにより、または実行した修復アクションにより、SAN ボリューム・コントローラーの問題がすべて解決されたかどうかを確認するのに役立ちます。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

修復を行い、マシン上に存在する問題がほかにないことを確認するために、ここに送られてきた可能性があります。

このタスクについて

以下の手順を実行して修復を検証します。

手順

1. すべてのノードの電源 LED がオンになっていますか? この LED について詳しくは、21 ページの『電源 LED』を参照してください。

いいえ 265 ページの『MAP 5000: 開始』に進みます。

はい ステップ 2 (322 ページ) に進みます。

2. (ステップ 1 (321 ページ) から)

すべてのノードがフロント・パネル・ディスプレイの先頭行に「クラスター:
(Cluster:)」を表示し、2 行目は空白であるか、システム名を表示していますか?

いいえ 265 ページの『MAP 5000: 開始』に進みます。

はい ステップ 3 に進みます。

3. (ステップ 2 から)

いま修復したシステム用の SAN ボリューム・コントローラー・アプリケーションを使用して、すべての構成済み管理対象ディスク (MDisk) の状況を検査します。

すべての MDisk の状況が「オンライン (online)」ですか?

いいえ 「オフライン (offline)」の状況の MDisk がある場合は、その MDisk を修復します。この MAP へ戻る前に、ディスク・コントローラーの問題判別手順を使用して、MDisk の障害を修復してください。

「パスの劣化 (degraded paths)」または「ポートの劣化 (degraded ports)」の状況の MDisk がある場合は、この MAP に戻る前に、ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) と MDisk の障害を修復してください。

「除外 (excluded)」の状況の MDisk がある場合は、この MAP に戻る前に、MDisk を組み込みます。

265 ページの『MAP 5000: 開始』に進みます。

はい ステップ 4 に進みます。

4. (ステップ 3 から)

いま修復したばかりのシステム用の SAN ボリューム・コントローラー・アプリケーションを使用して、すべての構成済みボリュームの状況を検査します。すべてのボリュームの状況が「オンライン (online)」ですか?

いいえ ステップ 5 に進みます。

はい ステップ 6 (323 ページ) に進みます。

5. (ステップ 4 から)

SAN ボリューム・コントローラーの修復に従うと、多くのボリュームがオフラインの状況を示しています。SAN ボリューム・コントローラーがデータの整合性を確認できない場合は、ボリュームはオフライン状態のままです。このボリュームが、完了しなかったコピーの宛先である可能性があるか、あるいはディスクに書き戻されなかったキャッシュ書き込みデータが脱落した可能性があります。このボリュームがオフラインになっている原因を判別します。このボリュームが、完了しなかったコピーの宛先だった場合、コピーを再度開始することができます。そうでない場合は、書き込みデータはディスクに書き込まれなかった可能性があります。その状態を検証できません。お客様の設置場所の手順を使って、どのようにして既知の状態にデータを復元するかを決定する必要があります。

ボリュームをオンラインにするには、全オフライン・ディスクをリカバリー入出力グループに移動した後で、再度アクティブ入出力グループに移動して戻します。

265 ページの『MAP 5000: 開始』に進みます。

6. (ステップ 4 (322 ページ) から)

SAN ボリューム・コントローラーの修復が正常に完了しました。

MAP 5800: ライト・パス

MAP 5800: ライト・パスを使用すると、ノードのブートを妨げている、すべての SAN ボリューム・コントローラー・モデル上のハードウェア障害を解決するのに役立ちます。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

以下の理由で、ここに送られてきた可能性があります。

- オペレーター情報パネル のエラー LED が点灯、または明滅している
- 別の MAP によってここに送られた。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 用のライト・パス

システム・ボード上にある診断 LED を使用して、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ノードのハードウェア障害を解決します。

このタスクについて

必ずノードをオンにしてから、以下の手順を実行して、エラー LED およびライト・パス LED によって示されたハードウェア・エラーをすべて解決してください。

手順

1. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 オペレーター情報パネル 上のエラー LED (324 ページの図 89 を参照) が点灯または明滅していますか?

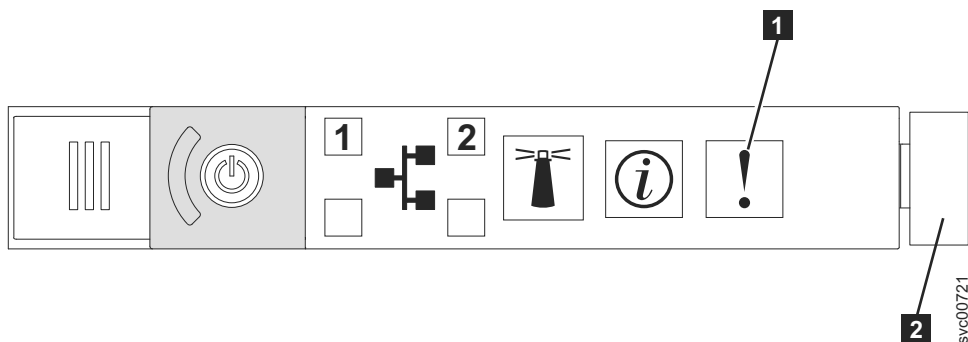


図 89. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 オペレーター情報パネル

1 システム・エラー LED

2 リリース・ラッチ

いいえ 症状を見直して、265 ページの『MAP 5000: 開始』に戻ります。

はい ステップ 2 (332 ページ) に進みます。

2. (ステップ 1 (332 ページ) から)

リリース・ラッチを押して、ライト・パス診断パネルを開きます。これは、332 ページの図 93 に示されています。

ライト・パス診断パネルで 1 つ以上の LED が明滅していますか？

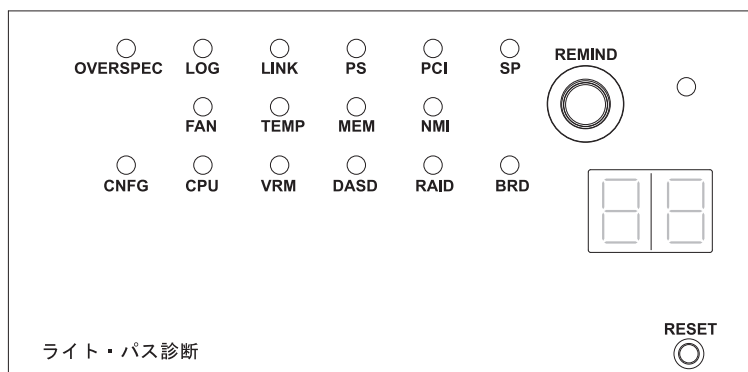


図 90. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 ライト・パス診断パネル

いいえ オペレーター情報パネル・ケーブルが両端に正しく配置されているかを確認します。エラー LED がまだ点灯しているが、ライト・パス診断パネルで LED が点灯していない場合は、以下の順で部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル
- b. システム・ボード

321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい 336 ページの表 60 を参照して、特定のライト・パス診断 LED 用に指定されたアクションを実行します。その後、ステップ 3 (339 ページ) に進

みます。アクションによっては、システム・ボード上の LED 状態を監視している必要があります。326 ページの図 91 は、システム・ボード LED の位置を示しています。ファン LED はそれぞれのファンに隣接して配置されています。必要な LED を表示するには、以下のアクションを実行します。

- a. ノードの電源をオフにしてください。同時に、データがミラーリングされ、同期していることを確認します。詳しくは、296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』を参照してください。
- b. (オプション) ノードに接続されているすべてのケーブルを識別し、ラベルを付けて、同じポートに再取り付けできるようにします。ラックからノードを取り外し、平らな帯電防止面におきます。『ラックからのノードの取り外し』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- c. 上部カバーを取り外します。
- d. 336 ページの表 60 を参照して、特定のライト・パス診断 LED 用に指定されたアクションを実行します。その後、ステップ 3 (339 ページ) に進みます。

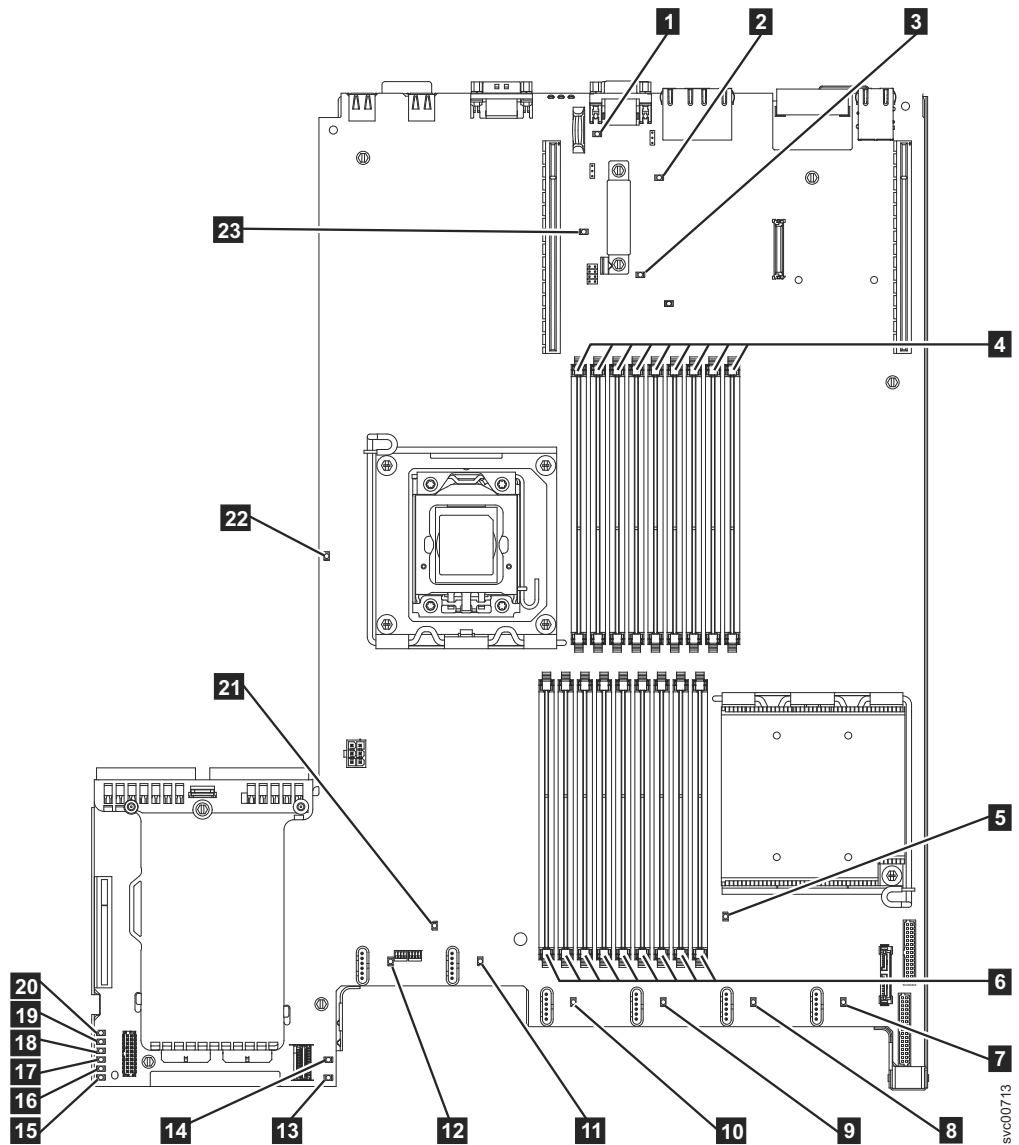


図91. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 システム・ボード LED 診断パネル

- 1 バッテリー LED
- 2 IMM ハートビート LED
- 3 エンクロージャー管理ハートビート LED
- 4 DIMM 10-18 エラー LED
- 5 マイクロプロセッサ 1 エラー LED
- 6 DIMM 1-9 エラー LED
- 7 ファン 1 エラー LED
- 8 ファン 2 エラー LED
- 9 ファン 3 エラー LED
- 10 ファン 4 エラー LED
- 11 ファン 5 エラー LED
- 12 ファン 6 エラー LED

- 13** SAS RAID ライザー・カード欠落 LED
- 14** 240 VA エラー LED
- 15** 電源チャンネル A エラー LED
- 16** 電源チャンネル B エラー LED
- 17** 電源チャンネル C エラー LED
- 18** 電源チャンネル D エラー LED
- 19** 電源チャンネル E エラー LED
- 20** AUX 電源チャンネル・エラー LED
- 21** システム・ボード・エラー LED
- 22** マイクロプロセッサ 2 エラー LED
- 23** ライザー 2 欠落 LED

表 59. 診断パネル LED が指示するアクション

診断パネル LED	アクション
OVER SPEC	<p>電源機構は最大定格を超える電力を使用しています。OVER SPEC LED が点灯する場合は、6 つの 12V チャンネル・エラー LED (A、B、C、D、E、または AUX) の 1 つ以上もシステム・ボード上で点灯しています。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ノードの電源をオフにして、ラック内でノードを前方に引っ張り、カバーを取り外します。ノードから電源を切り離さないでください。 2. どの 12V チャンネル・エラー LED がシステム・ボード上で点灯しているかを確認し、その LED についてリストされているコンポーネントを取り外します。 <ul style="list-style-type: none"> • LED A: ファン、ディスク・ドライブ、いずれかのソリッド・ステート・ドライブ (SSD)、またはディスク・バックプレーン • LED B: ファイバー・チャンネル・アダプターとライザー、すべてのメモリー • LED C: ディスク・コントローラー、すべてのメモリー • LED D: マイクロプロセッサ • LED E: 高速 SAS アダプターとライザー (取り付けられている場合) • LED AUX: ファイバー・チャンネル・アダプターと高速 SAS アダプター (取り付けられている場合) 3. ノードを再始動して、問題が残っているかどうかを確認します。 4. 毎回ノードを始動して、障害がある装置を切り分けます。 5. 障害のある装置をすべて交換します。 6. 装置が切り分けられなかった場合、および LED C または LED D が点灯している場合は、ノードの電源をオフにし、マイクロプロセッサを取り外します。マイクロプロセッサの交換には、アルコール拭き取り布と熱伝導グリースが必要です。スイッチ・ブロック 3 (SW3) ビット 6 を切り替えて、サーバーの電源をオンにします。サーバーを再始動します。問題が解決された場合、マイクロプロセッサを交換します。解決されなかった場合は、マイクロプロセッサを元の位置に取り付けます。どちらの場合もスイッチ・ブロック 3 (SW3) ビット 6 を切り替えて元の位置に戻します。 7. 装置が切り分けられなかった場合、および LED AUX が点灯している場合は、ノードの電源をオフにし、オペレーター情報パネルを取り外します。スイッチ・ブロック 3 (SW3) ビット 6 を切り替えて、サーバーの電源をオンにします。サーバーを再始動します。サーバーを再始動します。問題が解決された場合、オペレーター情報パネルを交換します。解決されなかった場合は、オペレーター情報パネルを元の位置に取り付けます。どちらの場合もスイッチ・ブロック 3 (SW3) ビット 6 を切り替えて元の位置に戻します。 8. 障害のある装置が切り分けられない場合は、システム・ボードを交換します。
LOG	<p>エラーが発生しました。キーボードとモニターを接続します。エラーに関する情報がないか、IMM システム・イベント・ログとシステム・イベント・ログを調べます。イベント・ログで特定されるすべてのコンポーネントを交換します。</p>

表 59. 診断パネル LED が指示するアクション (続き)

診断パネル LED	アクション
LINK	これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 上では使用しません。システム・ボードを交換します。
PS	電源機構 1 または電源機構 2 に障害が起きました。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. こはく色の LED が点灯している電源機構を調べます。 2. 電源機構が正しく取り付けられていることを確認します。 3. 一方の電源機構を取り外して、障害のある電源機構を切り分けます。 4. 障害が起きた電源機構を交換します。
PCI	PCI バスまたはシステム・ボードでエラーが発生しました。障害のある PCI スロットの隣にある追加の LED が点灯します。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. PCI スロットの LED を調べて、障害のあるアダプターを特定します。 2. PCI スロット 1 がエラーを示す場合は、4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター・アセンブリーを交換します。 3. PCI スロット 2 がエラーを示す場合は、高速 SAS アダプター・アセンブリーを交換します。 4. エラーが解決しない場合は、システム・ボードを交換します。
SP	サービス・プロセッサ・エラーが検出されました。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ノードから電源を除去します。サーバーを電源に再接続し、ノードを再始動します。 2. 問題が続く場合は、システム・ボードを交換します。
FAN	ファンに障害が起きたか、ファンの作動が非常に低速になるか、またはファンが取り外されました。障害のあるファンは、TEMP LED が点灯する原因にもなります。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. システム・ボード上のファン・コネクタの近くにある LED の点灯で示される、障害が起きたファンを取り付け直します。 2. 問題が続く場合は、障害のあるファンを交換します。
TEMP	システムの温度がしきい値のレベルを超えました。ファンの障害が原因で、TEMP LED が点灯している可能性があります。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒートシンクが正しく取り付けられていることを確認します。 2. ファンに障害が起きているかどうかを判別します。障害が起きている場合は、交換します。 3. 周辺温度が正常な操作仕様内であることを検査します。 4. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 の内部およびその周辺の空気の流れが遮られていないことを確認します。

表 59. 診断パネル LED が指示するアクション (続き)

診断パネル LED	アクション
MEM	<p>無効なメモリー構成またはメモリー・エラーが発生しました。MEM LED と CNFG LED の両方が点灯している可能性があります。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべてのメモリー DIMM が正しく取り付けられていることを確認します。 2. いずれかのメモリー・エラー LED が点灯している場合は、指示されたメモリー・モジュールを交換します。 3. MEM LED と CNFG LED が点灯している場合、DIMM スロット 2、3、5、6、7、および 8 のみが使用されるようにメモリーを調整します。
NMI	<p>マスク不可能割り込みが発生したか、NMI ボタンが押されました。この状態が生じてはなりません。ライト・パス診断パネルの NMI ボタンが誤って押された場合、ノードを再始動します。そうでない場合は、サポート・センターに連絡してください。</p>
CNFG	<p>ハードウェア構成エラーが発生しました。MEM LED も点灯している場合は、MEM LED に対して表示されているアクションに従います。CPU LED が点灯している場合は、マイクロプロセッサが CPU 2 に取り付けられているかどうかを確認します。取り付けられている場合、その構成はサポートされていないので取り外してください。他のライト・パス LED が点灯していない場合は、問題が解決されるまで、表示されている順に FRU を交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オペレーター情報パネル 2. オペレーター情報パネル ケーブル 3. システム・ボード
CPU	<p>マイクロプロセッサに障害が起きたか、マイクロプロセッサ構成が無効です。CPU LED と CNFG LED の両方が点灯している可能性があります。以下のアクションを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム・ボード・エラー LED を調べます。 2. CPU 1 エラー LED が点灯している場合、マイクロプロセッサが正しく取り付けられていることを確認します。 3. 状態が変わらない場合は、マイクロプロセッサを交換します。 4. 状態が変わらない場合は、システム・ボードを交換します。
VRM	<p>これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 上では使用しません。</p>

表 59. 診断パネル LED が指示するアクション (続き)

診断パネル LED	アクション
DASD	<p>ディスク・ドライブが障害を起こしたか、または欠落しています。 SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 は、システム・ハード・ディスクをドライブ・スロット 4 に取り付けておく必要があります。最大 4 つまでのオプションの ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) をドライブ・スロット 0 から 3 に取り付けることができます。</p> <p>SSD が意図的にスロットから取り外されている場合は、システム・エラー LED および DASD 診断パネル LED が点灯します。 SSD が別のスロットに置き換えられても、エラーは保たれます。 SSD が取り外されたか、または移動された場合、MAP 5350 を使用してノードの電源をオフにし、両方の電源ケーブルを取り外し、電源ケーブルを交換し、ノードを再始動することによって、エラーはクリアされます。</p> <p>SSD またはシステム・ディスク・ドライブに関連するノードまたはシステムのすべてのエラーを解決します。</p> <p>依然としてエラーが表示される場合には、ノードの電源をオフにし、すべてのドライブを取り付け直します。</p> <p>エラーが残る場合は、リストされている順に以下のコンポーネントを交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム・ディスク・ドライブ 2. ディスク・バックプレーン
RAID	<p>これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 上では使用しません。</p>
BRD	<p>システム・ボードでエラーが発生しました。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム・ボード上の LED を調べて、エラーの原因となったコンポーネントを識別します。BRD LED が点灯する可能性がある理由は、以下のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • バッテリー • 欠落している PCI ライザー・カード・アセンブリー。オプションのアダプターが存在しない場合であっても、ライザー・カードは PCI スロット 2 に取り付ける必要があります。 • 電圧調節装置に障害が起きた 2. 障害を起こしたか、欠落している交換コンポーネント (バッテリーや、PCI ライザー・カード・アセンブリーなど) を交換します。 3. 電圧調節装置に障害が起きる場合は、システム・ボードを交換します。

3. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して、操作が正しいかどうかを検証します。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 用のライト・パス

システム・ボード上にある診断 LED を使用して、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 ノードのハードウェア障害を解決します。

このタスクについて

必ずノードをオンにしてから、以下の手順を実行して、エラー LED およびライト・パス LED によって示されたハードウェア・エラーをすべて解決してください。

手順

1. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 オペレーター情報パネル 上のエラー LED (図 92 を参照) が点灯または明滅していますか?

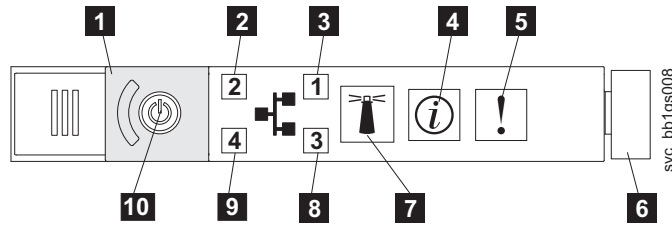


図 92. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 オペレーター情報パネル

5 システム・エラー LED

6 リリース・ラッチ

いいえ 症状を見直して、265 ページの『MAP 5000: 開始』に戻ります。

はい ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から)

リリース・ラッチを押して、ライト・パス診断パネルを開きます。これは、図 93 に示されています。

ライト・パス診断パネルで 1 つ以上の LED が明滅していますか?

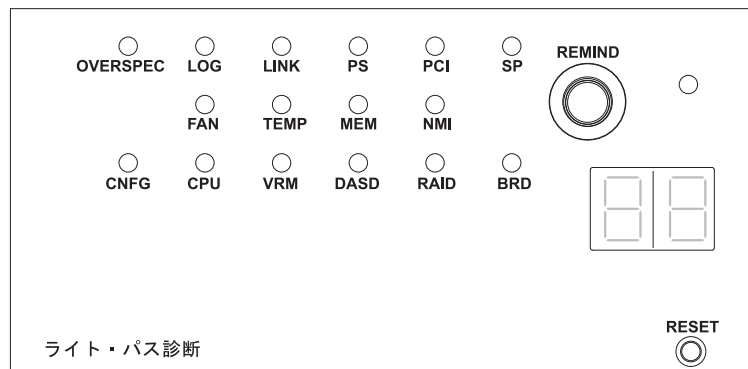


図 93. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または 2145-CF8 ライト・パス診断パネル

いいえ オペレーター情報パネル・ケーブルが両端に正しく配置されているかを確認します。エラー LED がまだ点灯しているが、ライト・パス診断パネルで LED が点灯していない場合は、以下の順で部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル
- b. システム・ボード

321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい

336 ページの表 60 を参照して、特定のライト・パス診断 LED 用に指定されたアクションを実行します。その後、ステップ 3 (339 ページ) に進みます。アクションによっては、システム・ボード上の LED 状態を監視している必要があります。334 ページの図 94 は、システム・ボード LED の位置を示しています。ファン LED はそれぞれのファンに隣接して配置されています。必要な LED を表示するには、以下のアクションを実行します。

- a. ノードの電源をオフにしてください。同時に、データがミラーリングされ、同期していることを確認します。詳しくは、296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』を参照してください。
- b. (オプション) ノードに接続されているすべてのケーブルを識別し、ラベルを付けて、同じポートに再取り付けできるようにします。ラックからノードを取り外し、平らな帯電防止面におきます。『ラックからのノードの取り外し』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- c. 上部カバーを取り外します。
- d. 336 ページの表 60 を参照して、特定のライト・パス診断 LED 用に指定されたアクションを実行します。その後、ステップ 3 (339 ページ) に進みます。

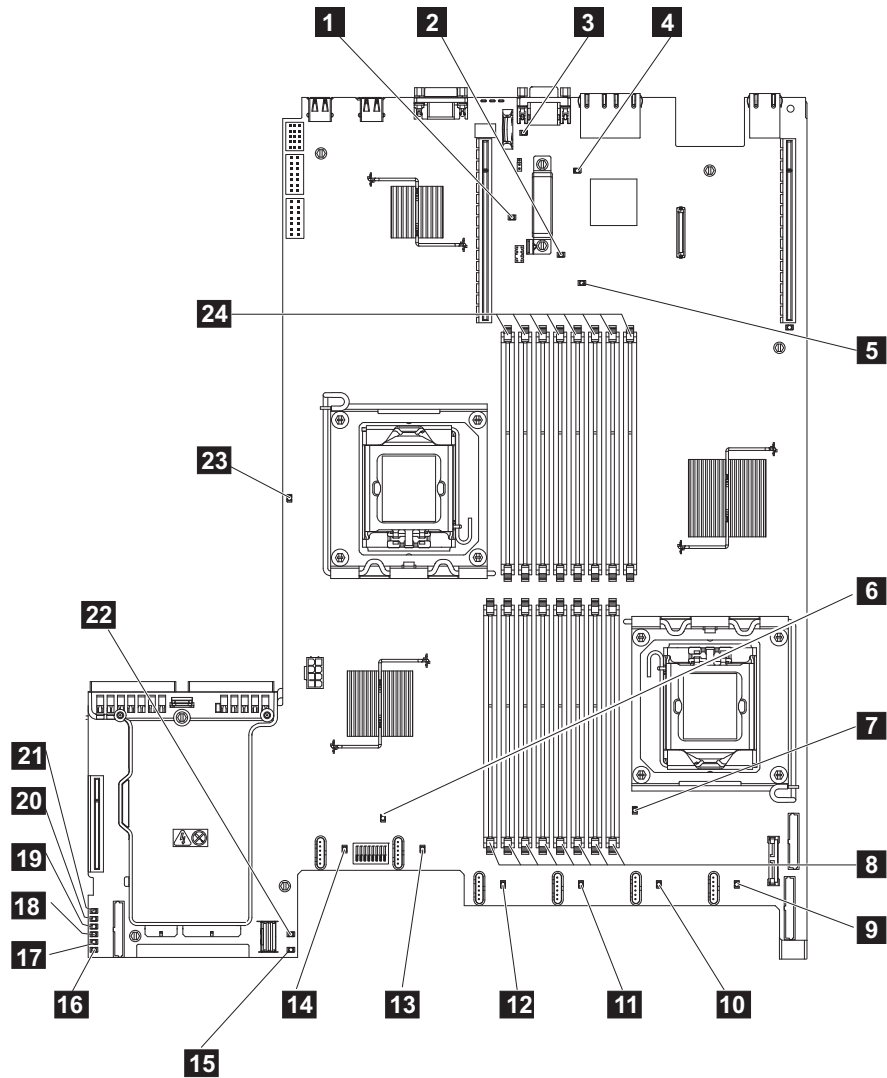


図 94. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 システム・ボード LED 診断パネル

- 1** スロット 2 欠落 PCI ライザー・カード LED
- 2** エンクロージャー・マネージャー・ハートビート LED
- 3** バッテリー LED
- 4** IMM ハートビート LED
- 5** スロット 1 欠落 PCI ライザー・カード LED
- 6** システム・エラー LED
- 7** マイクロプロセッサ 1 エラー LED
- 8** DIMM 1-8 エラー LED
- 9** ファン 1 エラー LED
- 10** ファン 2 エラー LED
- 11** ファン 3 エラー LED
- 12** ファン 4 エラー LED
- 13** ファン 5 エラー LED
- 14** ファン 6 エラー LED

- 15** 240 VA エラー LED
- 16** 電源チャンネル A エラー LED
- 17** 電源チャンネル B エラー LED
- 18** 電源チャンネル C エラー LED
- 19** 電源チャンネル D エラー LED
- 20** 電源チャンネル E エラー LED
- 21** AUX 電源チャンネル・エラー LED
- 22** SAS/SATA RAID エラー LED
- 23** マイクロプロセッサ 2 エラー LED
- 24** DIMM 9-16 エラー LED

表 60. 診断パネル LED が指示するアクション

診断パネル LED	アクション
OVER SPEC	<p>電源機構は最大定格を超える電力を使用しています。OVER SPEC LED が点灯する場合は、6 つの 12V チャンネル・エラー LED (A、B、C、D、E、または AUX) の 1 つ以上もシステム・ボード上で点灯しています。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ノードの電源をオフにして、ラック内でノードを前方に引っ張り、カバーを取り外します。ノードから電源を切り離さないでください。 2. どの 12V チャンネル・エラー LED がシステム・ボード上で点灯しているかを確認し、その LED についてリストされているコンポーネントを取り外します。 <ul style="list-style-type: none"> • LED A: ファン、ディスク・ドライブ、いずれかのソリッド・ステート・ドライブ (SSD)、またはディスク・バックプレーン • LED B: ファイバー・チャンネル・アダプターとライザー、すべてのメモリー • LED C: ディスク・コントローラー、すべてのメモリー • LED D: マイクロプロセッサ • LED E: 高速 SAS アダプターとライザー (取り付けられている場合) • LED AUX: ファイバー・チャンネル・アダプターと高速 SAS アダプター (取り付けられている場合) 3. ノードを再始動して、問題が残っているかどうかを確認します。 4. 毎回ノードを始動して、障害がある装置を切り分けます。 5. 障害のある装置をすべて交換します。 6. 装置が切り分けられなかった場合、および LED C または LED D が点灯している場合は、ノードの電源をオフにし、マイクロプロセッサを取り外します。マイクロプロセッサの交換には、アルコール拭き取り布と熱伝導グリースが必要です。スイッチ・ブロック 3 (SW3) ビット 6 を切り替えて、サーバーの電源をオンにします。サーバーを再始動します。サーバーを再始動します。問題が解決された場合、マイクロプロセッサを交換します。解決されなかった場合は、マイクロプロセッサを元の位置に取り付けます。どちらの場合もスイッチ・ブロック 3 (SW3) ビット 6 を切り替えて元の位置に戻します。 7. 装置が切り分けられなかった場合、および LED AUX が点灯している場合は、ノードの電源をオフにし、オペレーター情報パネルを取り外します。スイッチ・ブロック 3 (SW3) ビット 6 を切り替えて、サーバーの電源をオンにします。サーバーを再始動します。サーバーを再始動します。問題が解決された場合、オペレーター情報パネルを交換します。解決されなかった場合は、オペレーター情報パネルを元の位置に取り付けます。どちらの場合もスイッチ・ブロック 3 (SW3) ビット 6 を切り替えて元の位置に戻します。 8. 障害のある装置が切り分けられない場合は、システム・ボードを交換します。
LOG	<p>エラーが発生しました。キーボードとモニターを接続します。エラーに関する情報がないか、IMM システム・イベント・ログとシステム・イベント・ログを調べます。イベント・ログで特定されるすべてのコンポーネントを交換します。</p>

表 60. 診断パネル LED が指示するアクション (続き)

診断パネル LED	アクション
LINK	これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 上では使用しません。システム・ボードを交換します。
PS	電源機構 1 または電源機構 2 に障害が起きました。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. こはく色の LED が点灯している電源機構を調べます。 2. 電源機構が正しく取り付けられていることを確認します。 3. 一方の電源機構を取り外して、障害のある電源機構を切り分けます。 4. 障害が起きた電源機構を交換します。
PCI	PCI バスまたはシステム・ボードでエラーが発生しました。障害のある PCI スロットの隣にある追加の LED が点灯します。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. PCI スロットの LED を調べて、障害のあるアダプターを特定します。 2. PCI スロット 1 がエラーを示す場合は、4 ポート・ファイバー・チャンネル・アダプター・アセンブリーを交換します。 3. PCI スロット 2 がエラーを示す場合は、高速 SAS アダプター・アセンブリーを交換します。 4. エラーが解決しない場合は、システム・ボードを交換します。
SP	サービス・プロセッサ・エラーが検出されました。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ノードから電源を除去します。サーバーを電源に再接続し、ノードを再始動します。 2. 問題が続く場合は、システム・ボードを交換します。
FAN	ファンに障害が起きたか、ファンの作動が非常に低速になるか、またはファンが取り外されました。障害のあるファンは、TEMP LED が点灯する原因にもなります。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. システム・ボード上のファン・コネクタの近くにある LED の点灯で示される、障害が起きたファンを取り付け直します。 2. 問題が続く場合は、障害のあるファンを交換します。
TEMP	システムの温度がしきい値のレベルを超えました。ファンの障害が原因で、TEMP LED が点灯している可能性があります。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒートシンクが正しく取り付けられていることを確認します。 2. ファンに障害が起きているかどうかを判別します。障害が起きている場合は、交換します。 3. 周辺温度が正常な操作仕様内であることを検査します。 4. SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 の内部およびその周辺の空気の流れが遮られていないことを確認します。

表 60. 診断パネル LED が指示するアクション (続き)

診断パネル LED	アクション
MEM	<p>無効なメモリー構成またはメモリー・エラーが発生しました。MEM LED と CNFG LED の両方が点灯している可能性があります。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべてのメモリー DIMM が正しく取り付けられていることを確認します。 2. いずれかのメモリー・エラー LED が点灯している場合は、指示されたメモリー・モジュールを交換します。 3. MEM LED と CNFG LED が点灯している場合、DIMM スロット 2、3、5、6、7、および 8 のみが使用されるようにメモリーを調整します。
NMI	<p>マスク不可能割り込みが発生したか、NMI ボタンが押されました。この状態が生じてはなりません。ライト・パス診断パネルの NMI ボタンが誤って押された場合、ノードを再始動します。そうでない場合は、サポート・センターに連絡してください。</p>
CNFG	<p>ハードウェア構成エラーが発生しました。MEM LED も点灯している場合は、MEM LED に対して表示されているアクションに従います。CPU LED が点灯している場合は、マイクロプロセッサが CPU 2 に取り付けられているかどうかを確認します。取り付けられている場合、その構成はサポートされていないので取り外してください。他のライト・パス LED が点灯していない場合は、問題が解決されるまで、表示されている順に FRU を交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オペレーター情報パネル 2. オペレーター情報パネル ケーブル 3. システム・ボード
CPU	<p>マイクロプロセッサに障害が起きたか、マイクロプロセッサ構成が無効です。CPU LED と CNFG LED の両方が点灯している可能性があります。以下のアクションを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム・ボード・エラー LED を調べます。 2. CPU 1 エラー LED が点灯している場合、マイクロプロセッサが正しく取り付けられていることを確認します。 3. 状態が変わらない場合は、マイクロプロセッサを交換します。 4. 状態が変わらない場合は、システム・ボードを交換します。
VRM	<p>これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 上では使用しません。</p>

表 60. 診断パネル LED が指示するアクション (続き)

診断パネル LED	アクション
DASD	<p>ディスク・ドライブが障害を起こしたか、または欠落しています。 SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 は、システム・ハード・ディスクをドライブ・スロット 4 に取り付けておく必要があります。最大 4 つまでのオプションの ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) をドライブ・スロット 0 から 3 に取り付けることができます。</p> <p>SSD が意図的にスロットから取り外されている場合は、システム・エラー LED および DASD 診断パネル LED が点灯します。 SSD が別のスロットに置き換えられても、エラーは保たれます。 SSD が取り外されたか、または移動された場合、MAP 5350 を使用してノードの電源をオフにし、両方の電源ケーブルを取り外し、電源ケーブルを交換し、ノードを再始動することによって、エラーはクリアされます。</p> <p>SSD またはシステム・ディスク・ドライブに関連するノードまたはシステムのすべてのエラーを解決します。</p> <p>依然としてエラーが表示される場合には、ノードの電源をオフにし、すべてのドライブを取り付け直します。</p> <p>エラーが残る場合は、リストされている順に以下のコンポーネントを交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム・ディスク・ドライブ 2. ディスク・バックプレーン
RAID	<p>これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 上では使用しません。</p>
BRD	<p>システム・ボードでエラーが発生しました。この問題を解決するには、以下のアクションを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム・ボード上の LED を調べて、エラーの原因となったコンポーネントを識別します。BRD LED が点灯する可能性がある理由は、以下のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • バッテリー • 欠落している PCI ライザー・カード・アセンブリー。オプションのアダプターが存在しない場合であっても、ライザー・カードは PCI スロット 2 に取り付ける必要があります。 • 電圧調節装置に障害が起きた 2. 障害を起こしたか、欠落している交換コンポーネント (バッテリーや、PCI ライザー・カード・アセンブリーなど) を交換します。 3. 電圧調節装置に障害が起きる場合は、システム・ボードを交換します。

3. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して、操作が正しいかどうかを検証します。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 用のライト・パス

システム・ボード上にある診断 LED を使用して、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 ノードのハードウェア障害を解決します。

このタスクについて

必ずノードをオンにしてから、以下の手順を実行して、エラー LED およびライト・パス LED によって示されたハードウェア・エラーをすべて解決してください。

手順

1. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 オペレーター情報パネル 上のエラー LED (図 95 を参照) が点灯または明滅していますか?

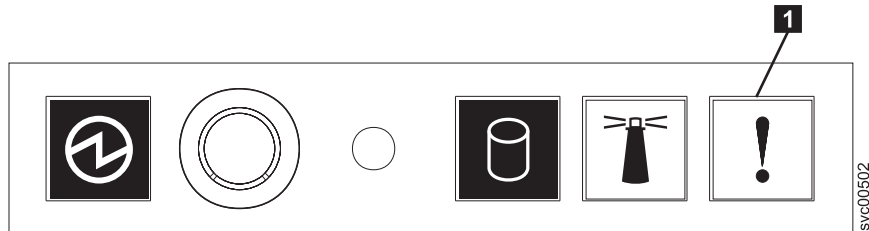


図 95. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 オペレーター情報パネル

1 エラー LED

いいえ 症状を見直して、265 ページの『MAP 5000: 開始』に戻ります。

はい ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から)

システム・ボード上の診断 LED を監視します。これらの LED を見るには、以下の手順に従います。

- a. ノードの電源をオフにしてください。同時に、データがミラーリングされ、同期していることを確認します。詳しくは、296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』を参照してください。
- b. ノードに接続されているすべてのケーブルを識別し、ラベルを付けて、同じポートに再取り付けできるようにします。ラックからノードを取り外し、平らな帯電防止面におきます。
- c. 上部カバーを取り外します。
- d. ノードの電源をオンにします。

3. (ステップ 2 から)

スタンバイ電源 LED、電源正常 LED、およびベースボード管理コントローラー・ハートビート LED 以外に、システム・ボード上の 1 つ以上 LED が点灯または明滅していますか?

いいえ オペレーター情報パネル・ケーブルが両端に正しく配置されているかを確認します。エラー LED がまだ点灯していても、システム・ボード上で点灯している LED がない場合は、以下の順に部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル
- b. オペレーター情報パネル ケーブル

c. システム・ボード

ステップ 5 (342 ページ) に進みます。

- はい システム・ボード上で点灯している診断 LED があるかどうか調べます。図 96 は、システム・ボード LED の位置を示しています。ファン LED はそれぞれのファンに隣接して配置されています。エラーを示していない **13**、**14**、および **15** の 3 つの LED は無視できます。

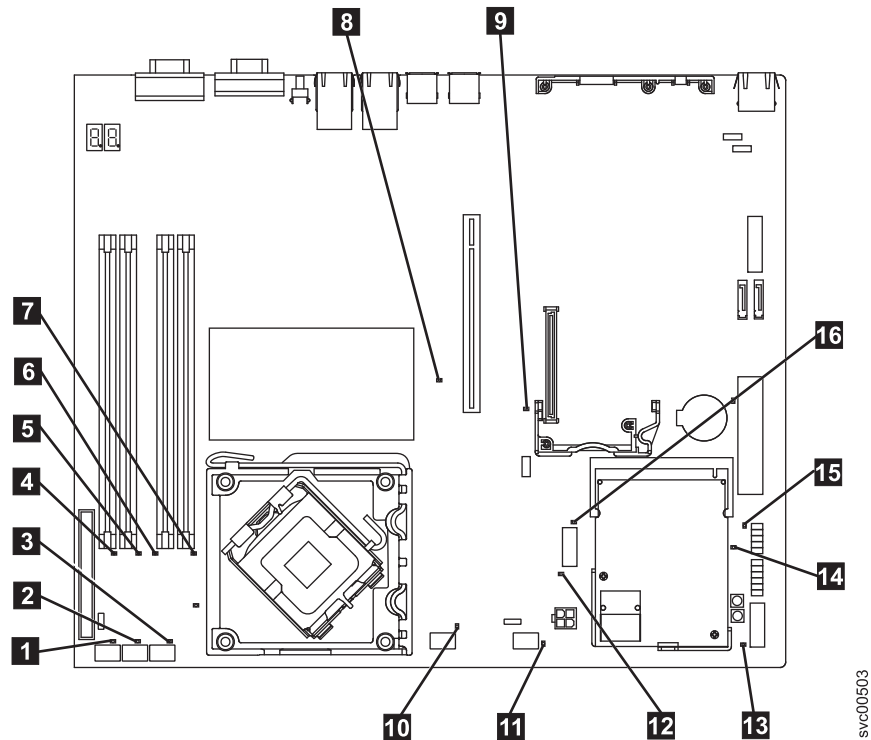


図 96. SAN ポリウム・コントローラー 2145-8A4 システム・ボード LED

- 1** ファン 1 エラー LED
- 2** ファン 2 エラー LED
- 3** ファン 3 エラー LED
- 4** DIMM 1 エラー LED
- 5** DIMM 2 エラー LED
- 6** DIMM 3 エラー LED
- 7** DIMM 4 エラー LED
- 8** PCI Express スロット 2 エラー LED
- 9** PCI Express スロット 1 エラー LED
- 10** ファン 4 エラー LED
- 11** ファン 5 エラー LED
- 12** 電圧調節装置エラー LED
- 13** スタンバイ電源 LED
- 14** 電源正常 LED

15 ベースボード管理コントローラー・ハートビート LED

16 SAS/SATA コントローラー・エラー LED

4. (ステップ 3 (340 ページ) から)

システム・ボード上の **13**、**14**、および **15** 以外のいずれかの診断 LED が点灯していますか?

いいえ ステップ 5 に進みます。

はい 表 61 を参照して、特定の LED について指定された部品を以下の順序で 1 つずつ、エラーが修復されるまで交換します。その後、ステップ 5 に進みます。

表 61. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 診断パネル LED が指示するアクション

診断パネル LED	アクション
DIMM エラー LED (1 から 4)	以下の順序で、部品を交換します。 1. 指示された DIMM 2. システム・ボード
ファン・エラー LED (1 から 5)	以下の順序で、部品を交換します。 1. 指示されたファン 2. システム・ボード
PCI Express® スロット 1 エラー LED	以下の順序で、部品を交換します。 1. PCI ライザー・カード 2. システム・ボード 3. ファイバー・チャンネル・アダプター
PCI Express スロット 2 エラー LED	これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 上では使用しません。システム・ボードを交換します。
電圧調節エラー LED	システム・ボードを交換します。
SAS/SATA コントローラー・エラー LED	これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 上では使用しません。システム・ボードを交換します。

5. (ステップ 4 から)

上部カバーを再取り付けします および取り付け ノードをラックに 『ラックからのノードの取り外し』情報を参照し、手順の実行方法を確認してください。その後、321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して、操作が正しいかどうかを検証します。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 用のライト・パス

ライト・パス診断を使用して、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ノードのハードウェア障害を解決します。

このタスクについて

必ずノードをオンにしてから、以下の手順を実行して、エラー LED およびライト・パス LED によって示されたハードウェア・エラーをすべて解決してください。

手順

1. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 オペレーター情報パネル 上のエラー LED (図 97 を参照) が点灯または明滅していますか?

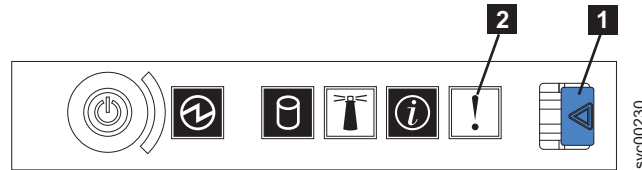


図 97. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 オペレーター情報パネル

1 リリース・ラッチ

2 エラー LED

いいえ 症状を見直して、265 ページの『MAP 5000: 開始』に戻ります。

はい ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から)

リリース・ラッチを押して、ライト・パス診断パネルを開きます。これは、図 98 に示されています。

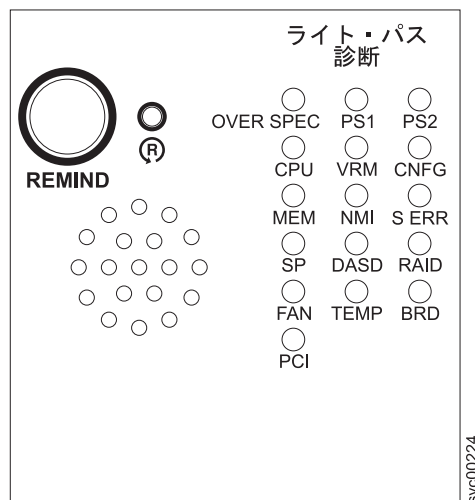


図 98. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ライト・パス診断パネル

ライト・パス診断パネルで 1 つ以上の LED が明滅していますか?

いいえ オペレーター情報パネル・ケーブルが両端に正しく配置されているかを確認します。エラー LED がまだ点灯しているが、ライト・パス診断パネルで LED が点灯していない場合は、以下の順で部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル
- b. システム・ボード

321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい 346 ページの表 62 を参照して、特定のライト・バス診断 LED 用に指定されたアクションを実行します。その後、ステップ 3 (347 ページ) に進みます。アクションによっては、システム・ボード上の LED 状態を監視している必要があります。345 ページの図 99 は、システム・ボード LED の位置を示しています。ファン LED はそれぞれのファンに隣接して配置されています。必要な LED を表示するには以下を行います。

- a. ノードの電源をオフにしてください。同時に、データがミラーリングされ、同期していることを確認します。詳しくは、296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』を参照してください。
- b. ノードに接続されているすべてのケーブルを識別し、ラベルを付けて、同じポートに再取り付けできるようにします。ラックからノードを取り外し、平らな帯電防止面におきます。『ラックからのノードの取り外し』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- c. 上部カバーを取り外し、ファン・ドアを開きます。
- d. ライト・バス診断ボタン (345 ページの図 99 の **7**) を押します。

注: ライト・バス診断ボタンは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 ノードから電源が切り離された時に、ライト・バス診断 LED を点灯するのに使用します。

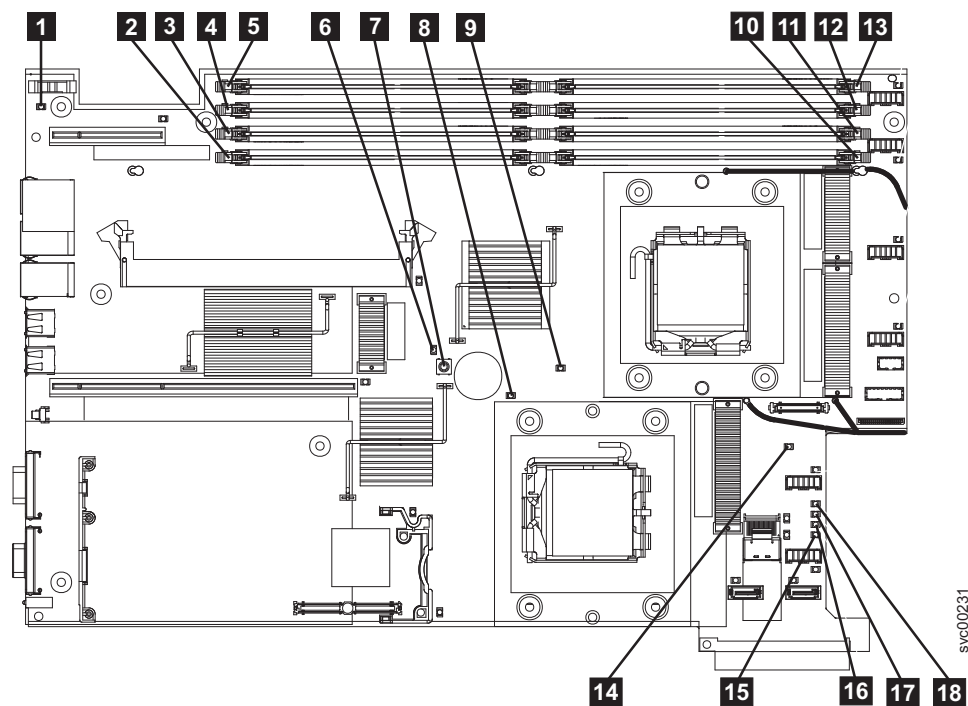


図 99. SAN ポリウム・コントローラー 2145-8G4 システム・ボード LED

- 1** システム・ボード・バッテリー・エラー LED
- 2** DIMM 5 エラー LED
- 3** DIMM 6 エラー LED
- 4** DIMM 7 エラー LED
- 5** DIMM 8 エラー LED
- 6** ライト・パス診断アクティブ LED
- 7** ライト・パス診断ボタン
- 8** マイクロプロセッサ 2 エラー LED
- 9** マイクロプロセッサ 1 エラー LED
- 10** DIMM 1 エラー LED
- 11** DIMM 2 エラー LED
- 12** DIMM 3 エラー LED
- 13** DIMM 4 エラー LED
- 14** システム・ボード障害 LED
- 15** 電源 B エラー LED
- 16** 電源 A エラー LED
- 17** 電源 C エラー LED
- 18** 電源 D エラー LED

表 62. 診断パネル LED が指示するアクション

診断パネル LED	アクション
OVER SPEC	以下の順序で、部品を交換します。 1. 電源機構 2. 電源バックプレーン 3. システム・ボード
PS1	電源装置を交換したばかりであれば、それが正しく取り付けられていることを確認します。正しく取り付けられている場合は、以下の順序で部品を交換します。 1. 電源機構 2. 電源バックプレーン
PS2	これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 上では使用しません。これは誤った表示です。センサーが失敗したか、あるいはシステム・ボードのサービス・プロセッサのファームウェアが正しく機能していません。サポート・センターに連絡して、ファームウェアの更新が使用可能かどうか調べてください。更新がない場合は、以下の順序で、部品を交換します。 1. 電源バックプレーン 2. オペレーター情報パネル 3. システム・ボード
CPU	マイクロプロセッサに障害が発生しました。障害が発生したマイクロプロセッサ (システム・ボード上に点灯した LED で示されている) が正しく取り付けられているかどうかを確認します。正しく取り付けられている場合は、マイクロプロセッサを交換します。
VRM	これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 上では使用しません。
CNFG	マイクロプロセッサの構成エラー。取り付けられた各マイクロプロセッサに互換性があるかどうかをチェックしてください。
MEM	システム・ボード上の DIMM LED を監視します。いずれかの DIMM LED が明滅していたら、すべてのスロットに正しいタイプの DIMM が取り付けられていることを確認します。以下の順序で、部品を交換します。 1. 障害のある DIMM 2. システム・ボード 注: 複数の DIMM が、ライト・パス診断によって示されている場合は、診断で指示された最も低い番号の DIMM スロットから始めて DIMM を 1 つずつ取り外します。
NMI	マスク不可能割り込みが発生しました。サポート・センターに連絡して、この SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 に適用する必要があるソフトウェアの更新を確認します。このノードがシステムに結合しない場合は、ノード・リカバリーを実行します。ノード・リカバリーで問題を解決できない場合は、システム・ボード・アセンブリーを交換してください。

表 62. 診断パネル LED が指示するアクション (続き)

診断パネル LED	アクション
S ERR	ソフト・エラーが発生しました。サポート・センターに連絡して、この SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 に適用する必要があるソフトウェアの更新を確認します。このノードがシステムに結合しない場合は、ノード・リカバリーを実行します。ノード・リカバリーで問題を解決できない場合は、システム・ボード・アセンブリーを交換してください。
SP	サービス・プロセッサで障害が起きました。システム・ボード・アセンブリーを交換します。
DASD	これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 上では使用しません。センサーが失敗したか、あるいはシステム・ボードのサービス・プロセッサのファームウェアが正しく機能していません。サポート・センターに連絡して、ファームウェアの更新が使用可能かどうか調べてください。更新がない場合は、以下の順序で、部品を交換します。 1. オペレーター情報パネル 2. システム・ボード
BRD	バッテリー LED とシステム・ボード LED を監視します。バッテリー LED が点灯している場合は、バッテリーを交換します。システム・ボード LED が点灯している場合は、システム・ボードを交換します。
FAN	ファンに障害が発生し、ファン動きが非常に低速になるか、またはファンが取り外されています。障害のあるファンは、TEMP LED が点灯する原因にもなります。障害のあるファン (システム・ボード上のファン・コネクタ近くで点灯した LED で示される) を交換します。
TEMP	ファンに障害がある場合は、この手順を試みる前に、修復します。周辺温度が正常な操作仕様内であることを検査します。SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 の内部およびその周辺の空気の流れが遮られていないことを確認します。状態が変わらない場合は、システム・ボードを交換します。
RAID	これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 上では使用しません。
PCI	ファイバー・チャンネル・カードに障害が発生した可能性があります。ファイバー・チャンネル・カードとライザー・カードが正しく取り付けられていることを確認します。状態が変わらない場合は、ファイバー・チャンネル・カードを交換します。

3. 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して、操作が正しいかどうかを検証します。

SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 用のライト・パス

ライト・パス診断を使用して、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 ノードおよび SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 ノードのハードウェア障害を解決します。

このタスクについて

必ずノードをオンにしてから、以下の手順を実行して、エラー LED およびライト・パス LED によって示されたハードウェア・エラーをすべて解決してください。

手順

1. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 オペレーター情報パネル 上のエラー LED (図 100 を参照) が点灯または明滅していますか?

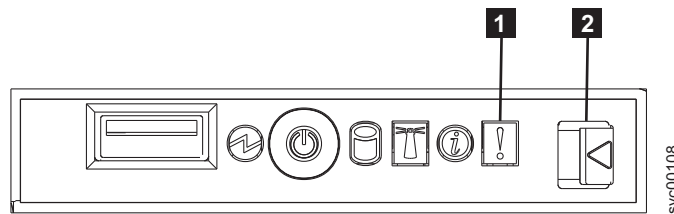


図 100. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 オペレーター情報パネル

- 1 エラー LED
- 2 リリース・ラッチ

いいえ 症状を見直して、265 ページの『MAP 5000: 開始』に戻ります。

はい ステップ 2 に進みます。

2. (ステップ 1 から)

リリース・ラッチを押して、ライト・パス診断パネルを開きます。これは、図 101 に示されています。

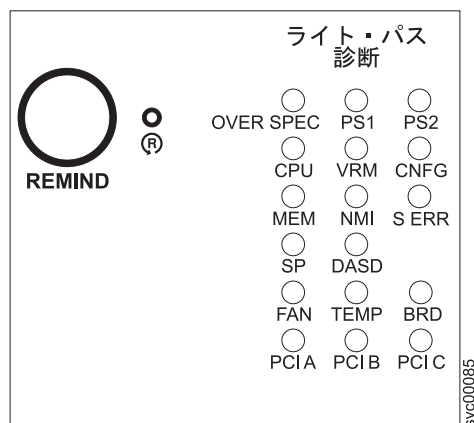


図 101. SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 ライト・パス診断パネル

ライト・パス診断パネルで 1 つ以上の LED が明滅していますか?

いいえ オペレーター情報パネル・ケーブルが両端に正しく配置されているかを

確認します。エラー LED がまだ点灯しているが、ライト・パス診断パネルで LED が点灯していない場合は、以下の順で部品を交換します。

- a. オペレーター情報パネル
- b. ケーブル、シグナル、フロント・パネル
- c. フレーム・アセンブリー

321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい 350 ページの表 63 を参照にして、特定のライト・パス診断 LED 用に指定されたアクションを実行して、ステップ 3 (353 ページ) に進みます。アクションによっては、システム・ボード上またはファン・バックプレーン上の LED 状態を監視する必要があります。システム・ボード LED の位置は、350 ページの図 102 に示されます。ファン LED はそれぞれのファンに隣接して配置されています。必要な LED を表示するには以下を行います。

- a. ノードの電源をオフにしてください。同時に、データがミラーリングされ、同期していることを確認します。詳しくは、296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』を参照してください。
- b. ノードに接続されているすべてのケーブルを識別し、ラベルを付けて、同じポートに再取り付けできるようにします。ラックからノードを取り外し、平らな帯電防止面におきます。『ラックからのノードの取り外し』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- c. 上部カバーを取り外し、ファン・ドアを開きます。
- d. ライト・パス診断ボタン **1** を押します。350 ページの図 102 を参照してください。

注: ライト・パス診断ボタンは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 ノードから電源が切り離されたとき、ライト・パス診断 LED を点灯させるために使用します。

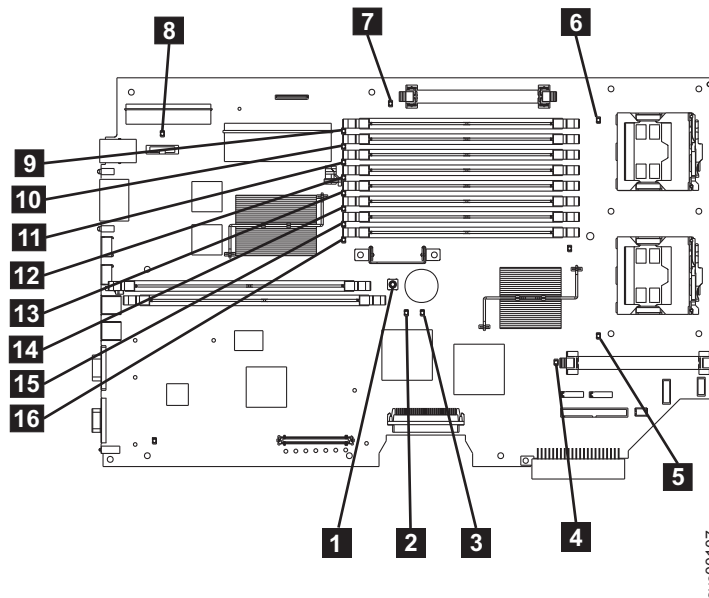


図 102. SAN ボリューム・コントローラ 2145-8F2 および SAN ボリューム・コントローラ 2145-8F4 システム・ボード LED

- 1 ライト・パス診断ボタン
- 2 システム・ボード障害 LED
- 3 ライト・パス・アクティビティ LED
- 4 VRM 2 エラー LED
- 5 CPU 2 エラー LED
- 6 CPU 1 エラー LED
- 7 VRM 1 エラー LED
- 8 バッテリー LED
- 9 DIMM 1 エラー LED
- 10 DIMM 2 エラー LED
- 11 DIMM 3 エラー LED
- 12 DIMM 4 エラー LED
- 13 DIMM 5 エラー LED
- 14 DIMM 6 エラー LED
- 15 DIMM 7 エラー LED
- 16 DIMM 8 エラー LED

表 63. 診断パネル LED が指示するアクション

診断パネル LED	アクション
OVER SPEC	電源機構の交換

表 63. 診断パネル LED が指示するアクション (続き)

診断パネル LED	アクション
PS1	<p>電源装置を交換したばかりであれば、それが正しく取り付けられていることを確認します。正しく取り付けられている場合は、以下の順序で部品を交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電源機構 2. 電源バックプレーン
PS2	<p>これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 では使用されません。センサーが失敗したか、あるいはシステム・ボードのサービス・プロセッサのファームウェアが正しく機能していません。サポート・センターに連絡して、ファームウェアの更新が使用可能かどうか調べてください。更新がない場合は、以下の順序で、部品を交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電源バックプレーン 2. オペレーター情報パネル 3. フレーム・アセンブリー
CPU	<p>システム・ボード上の CPU インディケータを監視します。点灯した LED に隣接したマイクロプロセッサが障害を起こしています。正しくないタイプのマイクロプロセッサを取り付けると、LED が明滅します。以下の順序で、部品を交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マイクロプロセッサ 2. フレーム・アセンブリー
VRM	<p>システム・ボード上の VRM インディケータを監視します。点灯した LED に隣接した VRM が障害を起こしています。VRM が正しく取り付けられていることを確認します。以下の順序で、部品を交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. VRM 2. フレーム・アセンブリー
CNFG	<p>システム・ボード LED のすべてを監視します。DIMM、マイクロプロセッサ、および VRM が正しく取り付けられていて、正しいタイプであることを確認します。以下の順序で、部品を交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 点灯した LED に隣接するコンポーネント 2. フレーム・アセンブリー
MEM	<p>システム・ボード上の DIMM LED を監視します。いずれかの DIMM LED が明滅していたら、すべてのスロットに正しいタイプの DIMM が取り付けられていることを確認します。以下の順序で、部品を交換します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害のある DIMM 2. フレーム・アセンブリー <p>注: 複数の DIMM が、ライト・パス診断によって示されている場合は、診断で指示された最も低い番号の DIMM スロットから始めて DIMM を 1 つずつ取り外します。</p>

表 63. 診断パネル LED が指示するアクション (続き)

診断パネル LED	アクション
NMI	マスク不可能割り込みが発生しました。サポート・センターに連絡して、この SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 に適用する必要があるソフトウェアの更新を確認します。このノードがシステムに結合しない場合は、ノード・リカバリーを実行します。ノード・リカバリーで問題を解決できない場合は、フレーム・アセンブリーを交換してください。
S ERR	ソフト・エラーが発生しました。サポート・センターに連絡して、この SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 に適用する必要があるソフトウェアの更新を確認します。このノードがシステムに結合しない場合は、ノード・リカバリーを実行します。ノード・リカバリーで問題を解決できない場合は、フレーム・アセンブリーを交換してください。
SP	サービス・プロセッサで障害が起こりました。フレーム・アセンブリーを交換します。
DASD	これは、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 では使用されません。これは誤った表示です。センサーが失敗したか、あるいはシステム・ボードのサービス・プロセッサのファームウェアが正しく機能していません。サポート・センターに連絡して、ファームウェアの更新が使用可能かどうか調べてください。更新がない場合は、以下の順序で、部品を交換します。 1. オペレーター情報パネル 2. フレーム・アセンブリー
FAN	ファン・バックプレーン上の LED を監視します。障害のある LED に隣接したファンが障害を起こしています。以下の順序で、部品を交換します。 1. ファン 2. ファン・バックプレーン
TEMP	ファンに障害がある場合は、この手順を試みる前に、修復します。周辺温度が正常な操作仕様内であることを検査します。SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 の内部およびその周辺の空気の流れが遮られていないことを確認します。フレーム・アセンブリーを交換します。
BRD	バッテリー LED とシステム・ボード LED を監視します。バッテリー LED が点灯している場合は、バッテリーを交換します。システム・ボード LED が点灯している場合は、フレーム・アセンブリーを交換します。
PCI A	これは SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 でも SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 でも使用されません。これは誤った表示です。センサーが失敗したか、あるいはシステム・ボードのサービス・プロセッサのファームウェアが正しく機能していません。サポート・センターに連絡して、ファームウェアの更新が使用可能かどうか調べてください。更新がない場合は、以下の順序で、部品を交換します。 1. オペレーター情報パネル 2. フレーム・アセンブリー

表 63. 診断パネル LED が指示するアクション (続き)

診断パネル LED	アクション
PCI B	このバスに接続されたファイバー・チャンネル・アダプター・カードの 1 つが障害を起こしている可能性があります。両方のアダプターが正しく取り付けられ、ライザー・カードのラッチが完全に閉じられていることを確認します。可能なら、SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 のフロント・パネルでファイバー・チャンネル・カード状況を表示して、障害のあるカードを判別します。そうでなければ、ファイバー・チャンネル・カードを 1 つずつ取り外して、障害のあるカードを判別します。以下の順序で、部品を交換します。 1. ファイバー・チャンネル・アダプター・カード 2. フレーム・アセンブリー
PCI C	フレーム・アセンブリーを交換します。

- 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して、操作が正しいかどうかを検証します。

MAP 5900: ハードウェア・ブート

MAP 5900: ハードウェア・ブートはノードがブート・シーケンスを開始するのを妨げる問題を解決するのに役立ちます。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

この MAP はすべての SAN ボリューム・コントローラー・モデルに適用されます。この手順を開始する前に、使用するモデルを認識している必要があります。使用するモデルを判断するには、ノードの前面でモデル・タイプを示すラベルを見つけてください。

以下のいずれかの理由で、ここに送られてきた可能性があります。

- ハードウェア・ブートの表示 (図 103 を参照) が連続的に表示される。



図 103. ハードウェア・ブートの表示

- ノード・レスキュー要求の表示 (354 ページの図 104 を参照) が連続的に表示される。



図 104. ノード・レスキュー要求の表示

- ブートの進行がハングし、エラーがフロント・パネルに表示される。
- 別の MAP によってここに送られた。

このタスクについて

以下の手順を実行してノードがブート・シーケンスを開始できるようにします。

手順

1. オペレーター情報パネル でエラー LED が点灯または明滅していますか？

いいえ ステップ 2 に進みます。

はい この問題を解決するには、323 ページの『MAP 5800: ライト・パス』に進みます。

2. (ステップ 1 から)

SAN ボリューム・コントローラー・ノードを取り付けたばかりか、またはノード内の現場交換可能ユニット (FRU) を交換したばかりであれば、以下を実行します。

- 2145 UPS-1U からノードへ正しい電源ケーブル・アセンブリーを必ず取り付けます。正しい電源ケーブル・アセンブリーのケーブルは、テープで結合されています。
- ノードに接続されているすべてのケーブルを識別し、ラベルを付けて、同じポートに再取り付けできるようにします。ラックからノードを取り外し、平らな帯電防止面におきます。『ラックからのノードの取り外し』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- 上部カバーを取り外します。『上部カバーの取り外し』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- FRU の交換が完了したら、FRU が正しく取り付けられていること、FRU へすべて確実に接続されていることを確認します。
- すべてのメモリー・モジュールが正しく取り付けられていてラッチが完全に閉じられていることを確認します。『メモリー・モジュール (DIMM) の再取り付け』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- ファイバー・チャンネル・アダプター・カードが正しく取り付けられていることを確認してください。『ファイバー・チャンネル・アダプター・アセンブリーの再取り付け』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- ディスク・ドライブおよびそのコネクタが正しく取り付けられていることを確認します。『ディスク・ドライブの再取り付け』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- サービス・コントローラーが正しく取り付けられていることを確認します。『サービス・コントローラーの再取り付け』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。

- i. 上部カバーを再取り付けします。『上部カバーの再取り付け』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- j. ノードをラックに取り付けます。『ラック内のノードの再取り付け』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- k. ノードの電源をオンにします。

ブート操作でまだハングしますか?

いいえ 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい ステップ 3 に進みます。

3. (ステップ 2 (354 ページ) から)

システム BIOS が何かエラーをレポートしていないかどうかをチェックします。BIOS 出力を表示するには、ディスプレイまたはキーボードを接続する必要があります。お客様が適切なディスプレイとキーボードを提供する必要があります。

- a. ノードの電源をオフにしてください。同時に、データがミラーリングされ、同期していることを確認します。296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』を参照してください。
- b. キーボード **1** とディスプレイ **2** を接続します。図 105 は、キーボード・ポートとモニター・ポートの位置を示しています。356 ページの図 106 は、2145-CF8 のキーボード・ポートとモニター・ポートの位置を示しています。356 ページの図 107 は、2145-CG8 のキーボード・ポートとモニター・ポートの位置を示しています。

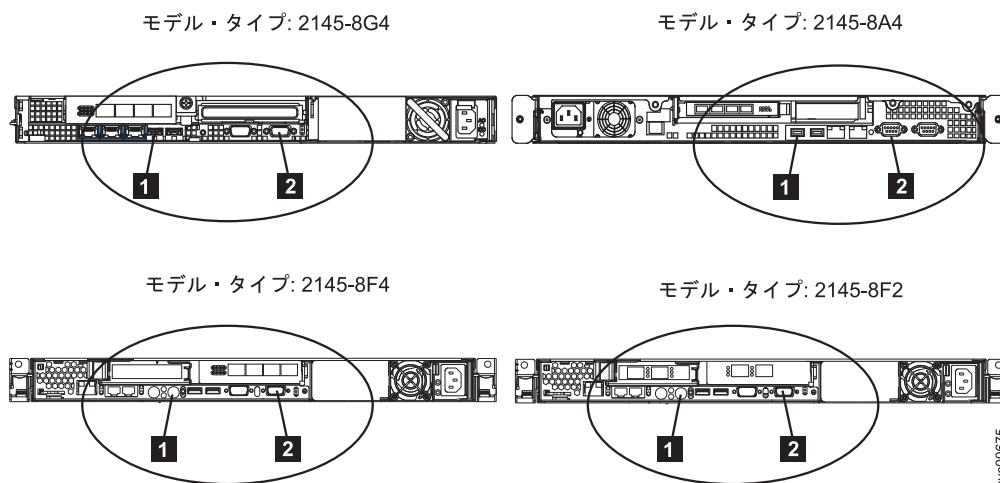


図 105. SAN ボリューム・コントローラー モデル 2145-8G4、2145-8A4、2145-8F4、および 2145-8F2 上のキーボードおよびモニター・ポート

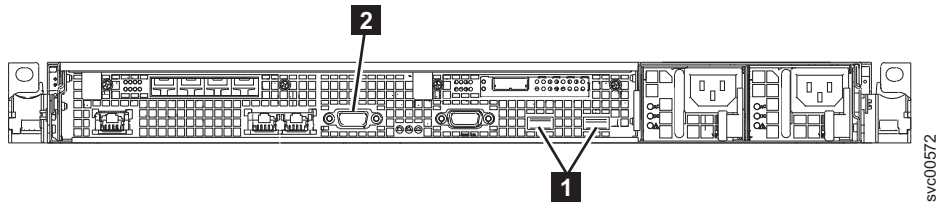


図 106. SAN ボリューム・コントローラ 2145-CF8 上のキーボードとモニター・ポート

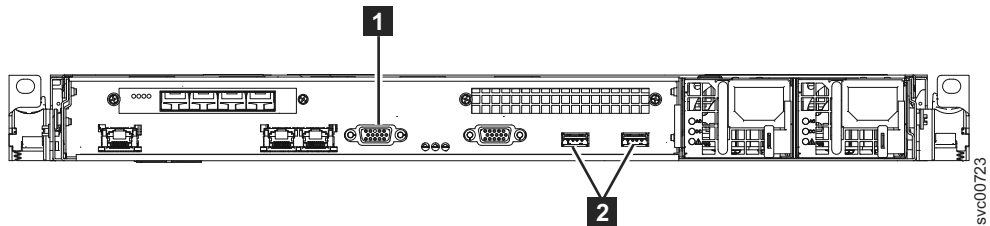


図 107. SAN ボリューム・コントローラ 2145-CG8 上のキーボードとモニター・ポート

- c. ノードの電源をオンにします。
- d. ディスプレイの表示内容を見ます。
 - POST シーケンスでエラーが表示された場合、または BIOS Configuration/Setup Utility プログラムで始動中にエラーが表示された場合、そのエラーを解決する必要があります。
 - 特定のハードウェア品目に伴うエラーが表示される場合は、ノードを電源オフし、そのノードをラックから取り外します。表示された品目が正しく取り付けられていることを確認し、ラック内のノードを取り替えて、ノードを再起動します。このエラーが依然としてレポートされる場合は、その表示された品目を交換します。
 - 構成エラーがレポートされる場合は、Configuration/Setup Utility プログラム・オプションを実行して、BIOS をそのデフォルト設定 (工場出荷時設定) にリセットします。
- e. ノードの電源をオフにし、キーボードとディスプレイを取り外します。
- f. ノードの電源をオンにします。

ブート操作でまだハングしますか?

いいえ 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい ステップ 4 に進みます。

4. (ステップ 3 (355 ページ) から)
 - a. ノードの電源をオフにしてください。同時に、データがミラーリングされ、同期していることを確認します。296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラ・ノードの電源オフ』を参照してください。
 - b. ノードに接続されているすべてのケーブルを識別し、ラベルを付けて、同じポートに再取り付けできるようにします。ラックからノードを取り外し、平らな帯電防止面におきます。『ラックからのノードの取り外し』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。

- c. 上部カバーを取り外します。『上部カバーの取り外し』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
 - d. メモリー・モジュールの一部を取り外します。
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 を使用している場合は、スロット 2、5、7、および 8 のメモリー・モジュールを取り外します。
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 を使用している場合は、スロット 2 から 4 のメモリー・モジュールを取り外します
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 を使用している場合は、スロット 2、およびスロット 4 から 8 のメモリー・モジュールを取り外します
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 を使用している場合は、スロット 3 から 8 のメモリー・モジュールを取り外します
 - e. 取り付けられているファイバー・チャネル・カードをすべて取り外します。
 - f. ディスク・ドライブを取り外します。
 - g. 上部カバーを再取り付けします。『上部カバーの再取り付け』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
 - h. ノードをラックに取り付けます。『ラック内のノードの再取り付け』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
 - i. ノードの電源をオンにします。
5. ブート操作が、まだブート中の表示を出してハングしますか (「いいえ」のアクションを実行します) それとも、ブート操作は進行していましたか (「はい」のアクションを実行します)?

注: FRU が取り外されると、ブートは別の障害コードでハングします。

いいえ ステップ 6 に進み、障害のある FRU が特定されるまで、1 つずつ FRU を交換します。

はい ステップ 7 に進みます。

6. (ステップ 5 から)

電源をオンにするために必要なハードウェアを除くすべてのハードウェアを取り外します。元の障害が発生するまで、1 つずつ FRU を追加し、そのたびに電源をオンにする作業を続行します。

ブート操作でまだハングしますか?

いいえ 321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

はい ステップ 7 に進みます。

7. (ステップ 4 (356 ページ) および 6 から)

- a. ノードの電源をオフにしてください。同時に、データがミラーリングされ、同期していることを確認します。詳しくは、296 ページの『MAP 5350: SAN ボリューム・コントローラー・ノードの電源オフ』を参照してください。

- b. ノードに接続されているすべてのケーブルを識別し、ラベルを付けて、同じポートに再取り付けできるようにします。ラックからノードを取り外し、平らな帯電防止面におきます。『ラック内のノードの取り外し』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- c. 上部カバーを取り外します。『上部カバーの取り外し』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- d. ファイバー・チャンネル・カードとディスク・ドライブを交換します。
- e. メモリー・モジュールを元の位置に戻します。
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 を使用している場合は、スロット 3 および 6 のメモリー・モジュールを、スロット 2、5、7、および 8 から取り外したメモリー・モジュールのいずれかと取り替えます。
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 を使用している場合は、スロット 2 から 4 から取り外されたメモリー・モジュールのいずれかを使って、スロット 1 にメモリー・モジュールを再度取り付けます。
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 を使用している場合は、スロット 2 およびスロット 4 - 8 から取り外されたメモリー・モジュールのいずれか 2 つを使って、スロット 1 と 3 にメモリー・モジュールを再度取り付けます。
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 を使用している場合は、スロット 3 - 8 から取り外されたメモリー・モジュールのいずれか 2 つを使って、スロット 1 と 2 にメモリー・モジュールを再度取り付けます。
- f. 上部カバーを再取り付けします。『上部カバーの再取り付け』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- g. ノードをラックに取り付けます。『ラック内のノードの再取り付け』情報を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- h. ノードの電源をオンにします。

ブート操作が、まだブート中の表示を出してハングしますか (「いいえ」のアクションを実行します) それとも、初期ブート中のパネルから表示が進んでいますか (「はい」のアクションを実行します)?

いいえ 障害のあるメモリー・モジュールを新規 FRU と交換し、321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して、修復を検証します。

はい 以下の順序で、部品を交換します。

- SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 または SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 の場合:
 - a. サービス・コントローラー
 - b. システム・ボード
- SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 と SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 の場合:
 - a. サービス・コントローラー
 - b. システム・ボード

- SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4と SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 の場合:
 - a. サービス・コントローラー
 - b. フレーム・アセンブリー

321 ページの『MAP 5700: 修復検査』を続行して修復結果を検証します。

MAP 6000: オフライン SSD の交換

MAP 6000: この手順では、障害が起きたソリッド・ステート・ドライブ (SSD) がまだストレージ・プールのメンバーである間に SSD を交換します。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

このマップは、内蔵ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を搭載したモデルに適用されます。この手順を開始する前に、使用するモデルを認識する必要があります。作業するモデルを判別するには、ノードの前面にあるモデル・タイプを示すラベルを見つけてください。

このタスクについて

この MAP を使用して、オフライン SSD を交換するために使用する詳細 MAP を判別します。

重要: ドライブの使用プロパティが「メンバー」であり、ドライブを交換する必要がある場合は、処置を取る前に IBM サポートに連絡してください。

手順

RAID 0 アレイ内で SSD を使用しており、冗長性を備えるためにボリュームのミラーリングを使用していますか?

はい 『MAP 6001: RAID 0 アレイ内のオフライン SSD の交換』に進みます。

いいえ 362 ページの『MAP 6002: RAID 1 アレイ内または RAID 10 アレイ内のオフライン SSD の交換』に進みます。

MAP 6001: RAID 0 アレイ内のオフライン SSD の交換

MAP 6001 この手順では、障害が起きたソリッド・ステート・ドライブ (SSD) がまだストレージ・プールのメンバーである間に SSD を交換します。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

このマップは、内蔵ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を搭載したモデルに適用されます。この手順を開始する前に、使用するモデルを認識している必要があります。作業するモデルを判別するには、ノードの前面にあるモデル・タイプを示すラベルを見つけてください。

重要:

1. これらのステップを開始する前に、SAN ボリューム・コントローラーの構成をバックアップしてください。
2. ドライブの使用プロパティが「メンバー」であり、ドライブを交換する必要がある場合は、処置を取る前に IBM サポートに連絡してください。

このタスクについて

RAID 0 (ストライプ) アレイ内のドライブに障害が起こった場合のみ、以下の手順を実行します。

手順

1. 障害のあるドライブに依存するすべてのボリューム・コピー、MDisk、およびストレージ・プールのプロパティを記録します。
 - a. **lsdrive** CLI コマンドを使用し、**status** が **offline** に、**use** が **failed** になっているドライブの ID およびエラー・シーケンス番号を識別します。
 - b. **lsevent <seq_no>** CLI コマンドを使用してオフライン理由を検討します。
 - c. **lsdrive <drive_id>** CLI コマンドを使用して、オフライン・ドライブに関する詳細情報を入手します。
 - d. 各オフライン・ドライブの **mdisk_id**、**mdisk_name**、**node_id**、**node_name**、および **slot_id** を記録します。
 - e. **lsmdisk <mdisk_id>** CLI コマンドを使用して、サブステップ 1c で識別された各 MDisk の障害ドライブのストレージ・プールを入手します。

次のステップを続行して、ストレージ・プールの 1 つにあるすべての障害ドライブを置き換えます。選択したドライブのノード、スロット、および ID を書き留めておいてください。

- f. **lsmdisk -filtervalue mdisk_grp_id=<grp id>** CLI コマンドを使用して、ストレージ・プール内のすべての MDisk を見つけ出します。
- g. 内部の MDisk (**ctrl_type = 4**)、および SSD が含まれる MDisk (**ctrl_type = 6**) を識別します。
- h. **lsmdiskmember <mdisk_id>** CLI コマンドを使用して、サブステップ 1f で見つかった各 MDisk のストレージ・プール内のエクステンツ付ボリュームを見つけます。

各 MDisk に対して同じボリュームが戻される傾向にあります。

- i. **lsvdisk <vdisk_id>** CLI コマンドを使用して、ステップ 1h でリストされた各ボリュームのすべてのプロパティを記録します。各ボリュームについて、ミラーリング済みであることを示すオンライン・ボリューム・コピーがあるかどうかを確認します。この情報は、ステップ 9 (362 ページ) で使用します。

- j. **lsdrive -filtervalue mdisk_id=<mdisk_id>** CLI コマンドを使用して、ストレージ・プール内にある各内部 MDisk の全ドライブのリストを入手します。この情報は、ステップ 8 で使用します。
- k. **lsmdisk <mdisk_id>** CLI コマンドを使用して、ストレージ・プール内のすべての MDisk のすべてのプロパティを記録します。この情報は、ステップ 8 で使用します。
- l. **lsmdisk <mdisk_id>** CLI コマンドを使用して、ストレージ・プールのすべてのプロパティを記録します。この情報は、ステップ 7 で使用します。

注: リストされたボリュームがミラーリング済み、オンライン、かつ、同期されたコピーを持っている場合は、コピーされたボリューム・データをコピーからリカバリーすることができます。ミラーリングが解除された VDisk 上のすべてのデータは失われ、バックアップからリストアする必要があります。

- 2. **rmmdiskgrp -force <mdiskgrp id>** CLI コマンドを使用して、ストレージ・プールを削除します。

ストレージ・プール内のすべての MDisk およびボリューム・コピーも削除されます。ボリューム・コピーのいずれかがボリュームの最後の同期であった場合は、同期していないすべてのコピーは、たとえストレージ・プールにない場合であっても、同様に削除されます。

- 3. サブステップ 1e で記録したドライブ ID を使用して、**chdrive** コマンドでドライブの使用プロパティを「未使用」に設定します。

```
chdrive -use unused <id of offline drive>
```

ドライブ・リストからドライブが削除されます。

- 4. 物理的な作業の指示に従って、ドライブを取り替えまたは取り外します。
『SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) の取り替え』の資料または『SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) の取り外し』の資料を参照して、手順の実行方法を確認してください。
- 5. 使用属性が「未使用」に設定された新規のドライブ・オブジェクトが作成されます。このアクションには数分かかることがあります。

lsdrive CLI コマンドを使用して、新規ドライブの ID を取得します。

- 6. 新規ドライブの使用プロパティを「候補」に変更します。

```
chdrive -use candidate <drive id of new drive>
```

- 7. 削除されたストレージ・プールと同じプロパティを持つ新規のストレージ・プールを作成します。サブステップ 11 で記録したプロパティを使用します。

```
mkmdiskgrp -name <mdiskgrp name as before> -ext <extent size as before>
```

- 8. ステップ 1j および 1k の情報を使用して、以前ストレージ・プールにあったすべての MDisk を再度作成します。

- 内部 RAID 0 MDisk の場合、以下のコマンドを使用します。

```
mkarray -level raid0 -drive <list of drive IDs> -name  
<mdisk_name> <mdiskgrp id or name>
```

ここで、`-name <mdisk_name>` はオプションですが、このパラメーターを使用すると、新しいアレイが古いアレイと同じ MDisk 名を持つようにすることができます。

- 外部 MDisk の場合、`addmdisk` CLI コマンドを使用します。
 - 非 RAID 0 MDisk の場合、`mkarray` CLI コマンドを使用します。
9. MDisk グループが削除される前にオンラインの、同期された、ミラーリング済みのボリューム・コピーを持っていたすべてのボリュームについて、以下のコマンドを使用して新規ストレージ・プールに新規ボリューム・コピーを追加し、冗長性を回復します。

```
addvdiskcopy -mdiskgrp <mdiskgrp id> -vtype striped -easytier  
<on or off as before> <vdisk_id>
```

10. オンライン、同期、ミラーリングされたコピーのないすべてのボリュームについては、ボリュームを再度作成して、バックアップからデータを復元するか、他の方式を使用します。
11. ステップ 1b からのエラー・シーケンス番号を使用して、ドライブ・エラーに修正済みとしてマークを付けます。

```
cherrstate -sequencenumber <error_sequence_number>
```

MAP 6002: RAID 1 アレイ内または RAID 10 アレイ内のオフライン SSD の交換

MAP 6002: この手順では、障害が起きたソリッド・ステート・ドライブ (SSD) がまだストレージ・プールのメンバーである間に SSD を交換します。

始める前に

これらの保守分析手順 (MAP) に慣れていない場合は、まず 265 ページの『第 10 章 保守分析手順の使用』をお読みください。

このマップは、内蔵ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) を搭載したモデルに適用されます。この手順を開始する前に、使用するモデルを認識する必要があります。作業するモデルを判別するには、ノードの前面にあるモデル・タイプを示すラベルを見つけてください。

重要:

1. これらのステップを開始する前に、SAN ボリューム・コントローラーの構成をバックアップしてください。
2. ドライブの使用プロパティが「メンバー」であり、ドライブを交換する必要がある場合は、処置を取る前に IBM サポートに連絡してください。

このタスクについて

RAID 1 または RAID 10 アレイ内のドライブに障害が起きた場合は、以下の手順を実行します。

手順

1. ドライブの使用プロパティが「メンバー」でないことを確認します。

`lsdrive` CLI コマンドを使用して、使用状況を判別します。

2. ステップ 4 で使用するために、ドライブ・プロパティ値の「ノード ID」と「スロット ID」を記録します。これらの値は、削除する物理ドライブを識別します。

3. ステップ 11 で使用するために、エラー・シーケンス番号を記録します。

4. ステップ 2 で記録したドライブ ID を使用して、**chdrive** コマンドでドライブの使用属性プロパティを「未使用」に設定します。

```
chdrive -use failed <id of offline drive>
chdrive -use unused <id of offline drive>
```

ドライブ・リストからドライブが削除されます。

5. 物理的な作業の指示に従って、ドライブを取り替えまたは取り外します。

『SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) の取り替え』の資料または『SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 ソリッド・ステート・ドライブ (SSD) の取り外し』の資料を参照して、手順の実行方法を確認してください。

6. 使用プロパティが「未使用」に設定された新規のドライブ・オブジェクトが作成されます。

7. ドライブの使用プロパティを「候補」に変更します。

```
chdrive -use candidate <id of new drive>
```

8. ドライブの使用プロパティを「予備」に変更します。

```
chdrive -use spare <id of new drive>
```

- 予備ドライブを使用している場合は、メンバー交換を実行します。予備ドライブから新しく挿入されたデバイスにデータを移動します。

- 予備がない場合、ドライブ・オブジェクトに「予備」としてマークを付けると、新しく挿入されたデバイス上でアレイの作成を開始します。

9. 予備ドライブが置換されたドライブと完全には一致しない場合、アレイは対になっていないと見なされ、エラー・コード 1692 がエラー・ログに記録されます。

10. 修正手順に従って、手順を完了してください。

11. ステップ 3 からのエラー・シーケンス番号を使用して、ドライブ・エラーに修正済みとしてマークを付けます。

```
cherrstate -sequencenumber <error_sequence_number>
```

付録. アクセシビリティ

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーがソフトウェア・プロダクトを快適に使用できるようにサポートします。

機能

管理 GUI に備わっている主なアクセシビリティ機能は、次のリストのとおりです。

- スクリーン・リーダー・ソフトウェアとデジタル音声シンセサイザーを使用して、画面の表示内容を音声で聞くことができます。次のスクリーン・リーダーがテスト済みです。JAWS 11
- ほとんどの GUI 機能は、キーボードを使用してアクセス可能です。アクセスできない機能については、コマンド行インターフェース (CLI) を使用すれば同等な機能が使用可能です。
- SAN ボリューム・コントローラーのフロント・パネルで IP アドレスを設定または変更する場合、高速増加機能を使用不可にして上下移動ボタンのアドレス・スクロール速度を 2 秒に減らすことができます。この機能については、IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラー・インフォメーション・センター、および「*IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラー ソフトウェアのインストールおよび構成のガイド*」にある、フロント・パネルからのクラスター (システム) 作成の開始に関するトピックで説明されています。

キーボードによるナビゲート

キーやキーの組み合わせを使用して、マウス・アクションでも実行できる操作を実行したり、多数のメニュー・アクションを開始したりできます。以下に示すようなキー組み合わせを使用して、管理 GUI をナビゲートしたり、キーボードからシステムを支援したりできます。

- さまざまな GUI パネル間でナビゲートするには、GUI ログイン・パネルで「低グラフィック・モード」オプションを選択する。このオプションを使用すると、Web アドレスを手動で入力することなく、すべてのパネルまでナビゲートすることができます。
- 次のフレームに進むには、Ctrl+Tab を押す。
- 前のフレームに戻るには、Shift+Ctrl+Tab を押す。
- パネル内で次のリンク、ボタン、またはトピックまでナビゲートするには、フレーム (ページ) 内で Tab を押す。
- パネル内で前のリンク、ボタン、またはトピックに移動するには、Shift+Tab を押す。
- GUI オブジェクトを選択するには、Enter を押す。
- 現行ページまたはアクティブ・フレームを印刷するには、Ctrl+P を押す。
- ツリー・ノードを展開するには、右矢印キーを押す。ツリー・ノードを縮小するには、左矢印キーを押す。

- 一番上までスクロールするには、Home を押す。一番下までスクロールするには、End を押す。
- 戻るには、Alt+ 左矢印キーを押す。
- 先に進むには、Alt+ 右矢印キーを押す。
- アクション・メニューの場合:
 - グリッド・ヘッダーまでナビゲートするには、Tab を押す。
 - ドロップダウン・フィールドに進むには、左矢印キーまたは右矢印キーを押す。
 - ドロップダウン・メニューを開くには、Enter を押す。
 - メニュー項目を選択するには、上矢印キーまたは下矢印キーを押す。
 - アクションを起動するには、Enter を押す。
- フィルター・ペインの場合:
 - フィルター・ペインまでナビゲートするには、Tab を押す。
 - 非選択のフィルターまたはナビゲーションを変更するには、上矢印キーまたは下矢印キーを押す。
 - フィルター・ペインで拡大鏡アイコンまでナビゲートするには、Tab を押し、Enter を押す。
 - フィルターのテキストを入力する。
 - 赤い X アイコンまでナビゲートするには Tab を押し、フィルターをリセットするには Enter を押す。
- 情報域の場合:
 - 情報域までナビゲートするには、Tab を押す。
 - 編集するために選択可能なフィールドまでナビゲートするには、Tab を押す。
 - 編集内容を入力し、Enter を押して変更コマンドを実行する。

資料へのアクセス

IBM System Storage SAN ボリューム・コントローラーの資料の HTML バージョンは、次の Web サイトにあります。

publib.boulder.ibm.com/infocenter/svc/ic/index.jsp

スクリーン・リーダー・ソフトウェアとデジタル音声シンセサイザーを使用して画面の表示内容を音声で聞くために、この情報にアクセスできます。情報は、JAWS バージョン 10 以降のスクリーン・リーダーを使用してテスト済みです。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Corporation
Almaden Research
650 Harry Road
Bldg 80, D3-304, Department 277
San Jose, CA 95120-6099
U.S.A.*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプ

リケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。サンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、このサンプル・コードの使用から生ずるいかなる損害に対しても責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

Adobe および Adobe ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Intel 関連のロゴ、Intel Xeon、および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

電波障害自主規制特記事項

この製品には、以下の電波障害自主規制に関する表示が適用されます。この製品とともに使用することを目的とする他の製品用の表示は、それぞれに付随する文書に含まれています。

Federal Communications Commission (FCC) statement

This explains the Federal Communications Commission's (FCC) statement.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, might cause harmful interference to radio communications.

Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors, or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device might not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that might cause undesired operation.

Industry Canada compliance statement

This Class A digital apparatus complies with ICES-003.

Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

Avis de conformité à la réglementation d'Industrie Canada

Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

Australia and New Zealand Class A Statement

Attention: This is a Class A product. In a domestic environment this product might cause radio interference in which case the user might be required to take adequate measures.

European Union Electromagnetic Compatibility Directive

This product is in conformity with the protection requirements of European Union (EU) Council Directive 2004/108/EC on the approximation of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

Attention: This is an EN 55022 Class A product. In a domestic environment this product might cause radio interference in which case the user might be required to take adequate measures.

Responsible Manufacturer:

International Business Machines Corp.
New Orchard Road
Armonk, New York 10504
914-499-1900

European community contact:

IBM Deutschland GmbH
Technical Regulations, Department M372
IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tele: +49 7032 15 2941
e-mail: <mailto:lugi@de.ibm.com>

Germany Electromagnetic compatibility directive

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse A EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2004/108/EG zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022 Klasse A ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung der IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung der IBM gesteckt/eingebaut werden.

EN 55022 Klasse A Geräte müssen mit folgendem Warnhinweis versehen werden:

"Warnung: Dieses ist eine Einrichtung der Klasse A. Diese Einrichtung kann im Wohnbereich Funk-Störungen verursachen; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen zu ergreifen und dafür aufzukommen."

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)." Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2004/108/EG in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC EG Richtlinie 2004/108/EG) für Geräte der Klasse A

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:

International Business Machines Corp.
New Orchard Road
Armonk, New York 10504
Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:

IBM Deutschland GmbH
Technical Regulations, Department M372

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tele: +49 7032 15 2941
e-mail: <mailto:lugi@de.ibm.com>

**Generelle Informationen: Das Gerät erfüllt die
Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55022 Klasse A.**

VCCI クラスA 情報技術装置

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

People's Republic of China Class A Electronic Emission Statement

中华人民共和国“A类”警告声明

声明

此为A级产品，在生活环境中，该产品可能会造成无线电干扰。在这种情况下，可能需要用户对其干扰采取切实可行的措施。

International Electrotechnical Commission (IEC) statement

This product has been designed and built to comply with (IEC) Standard 950.

United Kingdom telecommunications requirements

This apparatus is manufactured to the International Safety Standard EN60950 and as such is approved in the U.K. under approval number NS/G/1234/J/100003 for indirect connection to public telecommunications systems in the United Kingdom.

Korean Communications Commission (KCC) Class A Statement

이 기기는 업무용(A급)으로 전자파적합기기로
서 판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기
바라며, 가정외의 지역에서 사용하는 것을 목
적으로 합니다.

Russia Electromagnetic Interference (EMI) Class A Statement

ВНИМАНИЕ! Настоящее изделие относится к классу А.
В жилых помещениях оно может создавать
радиопомехи, для снижения которых необходимы
дополнительные меры

rusemi

Taiwan Class A compliance statement

警告使用者：
這是甲類的資訊產品，在
居住的環境中使用時，可
能會造成射頻干擾，在這
種情況下，使用者會被要
求採取某些適當的對策。

taiemi

European Contact Information

This topic contains the product service contact information for Europe.

European Community contact:
IBM Technical Regulations
Pascalstr. 100, Stuttgart, Germany 70569
Tele: 0049 (0)711 785 1176
Fax: 0049 (0)711 785 1283
Email: [mailto: tjahn @ de.ibm.com](mailto:tjahn@de.ibm.com)

Taiwan Contact Information

This topic contains the product service contact information for Taiwan.

IBM Taiwan Product Service Contact Information:
IBM Taiwan Corporation
3F, No 7, Song Ren Rd., Taipei Taiwan
Tel: 0800-016-888

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

f2c00790

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクションの終了
オプション 139
アクション・オプション
ノード (node)
クラスタの作成 128
アクション・メニュー・オプション
シーケンス 123
フロント・パネル・ディスプレイ 123
アクセシビリティ
上下移動ボタンの反復速度 138
キーボード 365
ショートカット・キー 365
反復速度
上下移動ボタン 365
アクセス
管理 GUI 77
クラスタ (システム) CLI 85
サービス CLI 87
サービス・アシスタント 84
資料 365
アクティブ状況 119
アドレス
MAC 122
アドレス解決プロトコル (ARP) 6
アドレッシング
構成ノード (configuration node) 6
イーサネット
アクティビティ LED 22, 37
ポート (port) 122
リンク LED 37
リンク障害 7, 305
MAP 5500 305
イベント
レポート作成 143
イベント ID 151
イベント通知
インベントリ情報 E メール 150
概要 147
インディケータ、背面パネルの 37
イーサネット
アクティビティ LED 22, 37
リンク LED 37

インディケータ、背面パネルの (続き)
電源、ロケーション、およびシステム・エラー LED 38
電源機構エラー LED 38
ファイバー・チャンネル LED 36
10 Gbps イーサネット・カード 22
AC LED と DC LED 38, 39, 40
SAN ボリューム・コントローラ
2145-CG8
イーサネット活動 LED 22
インベントリ情報
イベント通知 147
E メール 150
エラー
ノード (node) 177
ログ
エラー・イベント 145
管理 145
表示 145
フィールドの説明 145
理解 145
エラー LED 17
エラー・イベント 145
エラー・イベント ID 163
エラー・コード 163
フロント・パネル・ディスプレイ 112
理解 151
オブジェクト・クラスとインスタンス 162
オブジェクト・コード 162
オブジェクト・タイプ 162
オペレーター情報パネル
システム情報 LED 22
システム・エラー LED 20
電源 LED 21
電源ボタン 21
ハード・ディスク・ドライブ・アクティビティ LED 21
リセット・ボタン 21
リリース・ラッチ 22
ロケータ LED 22
SAN ボリューム・コントローラ
2145-8A4 18
SAN ボリューム・コントローラ
2145-8F2 20
SAN ボリューム・コントローラ
2145-8F4 20
SAN ボリューム・コントローラ
2145-8G4 19
SAN ボリューム・コントローラ
2145-CF8 18

オペレーター情報パネル (続き)
SAN ボリューム・コントローラ
2145-CG8 17
オン/オフ・ボタン 61

[カ行]

開始
クラスタ化システムのリカバリ
247
システム・リカバリ 249
T3 リカバリ 247
概要
重要製品データ 99
冗長 AC 電源スイッチ 55
製品 1
SAN ファブリック 8
回路ブレーカー
要件
SAN ボリューム・コントローラ
2145-8A4 48
SAN ボリューム・コントローラ
2145-8G4 51
SAN ボリューム・コントローラ
2145-CF8 46
SAN ボリューム・コントローラ
2145-CG8 42
2145 UPS-IU 62
過負荷インディケータ 61
管理
イベント・ログ 145
管理 GUI
アクセス 77
ノードのシャットダウン 296
管理 GUI インターフェース
使用する状況 76
関連情報 xiv
キーボード
アクセシビリティ 365
クラスタ (システム) CLI
アクセス 85
使用する状況 85
クラスタ (システム) コマンド
CLI 85
クラスタ化システム
エラー・コード 179
オプション 119
概要 5
コール・ホーム E メール 147, 150
削除、ノードの 78
追加、ノードの 80

クラスター化システム (続き)

- 取り外し、ノードの 78
- プロパティ 101
- メタデータ、保存 113
- リカバリー・コード 179
- IP アドレス (IP address)
 - 構成ノード (configuration node) 6
- IP フェイルオーバー 7
- IPv4 アドレス 120
- IPv6 アドレス 121
- restore 244, 251
- T3 リカバリー 244, 251
- クラスター化システムの作成
 - エラー・コード 179
- クラスターの作成
 - アクション・オプション 128
- クラスターのリカバリー
 - オプション 137
- クリティカル
 - ノード・エラー 177
- ゲートウェイ (gateway)
 - ノード・オプション 130, 133
 - メニュー・オプション 120
- 言語メニュー選択オプション 139
- 検証
 - ボリューム・コピー 87
- 現場交換可能ユニット
 - 冗長 AC 電源スイッチ
 - 説明 74
- SAN ボリューム・コントローラー
 - イーサネット・ケーブル 64
 - オペレーター情報パネル 64
 - サービス・コントローラー 64
 - システム・ボード・アセンブリー 64
 - 説明 64
 - ディスク・ドライブ・アセンブリー 64
 - ディスク・ドライブ・ケーブル 64
 - 電源ケーブル・アセンブリー 64
 - ファイバー・チャンネル SFP トランシーバー 64
 - ファイバー・チャンネル・ケーブル 64
 - ファン・アセンブリー 64
 - フレーム・アセンブリー 64
 - フロント・パネル 64
- コード
 - ノード・エラー
 - クリティカル 177
 - 非クリティカル 177
 - ノード・レスキュー (node rescue) 177
- コール・ホーム機能 (Call Home) 147, 150

構成

- ノード・フェイルオーバー 7
- 構成イベント ID 156
- 構成ノード (configuration node) 6
- 後部パネル・アセンブリー
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4
 - インディケータ 28
 - コネクタ 29
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2
 - インディケータ 35
 - コネクタ 35
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4
 - インディケータ 32
 - コネクタ 33
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4
 - インディケータ 30
 - コネクタ 31
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8
 - インディケータ 26
 - コネクタ 26
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8
 - インディケータ 23
 - コネクタ 23
- コネクタ
 - 2145 UPS-1U 62
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 29
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 35
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 33
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 31
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 26
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 23
- コマンド
 - svcconfig backup 253
 - svcconfig 復元 256

[サ行]

- サービス CLI
 - アクセス 87
 - 使用する状況 86
- サービス DHCPv4
 - オプション 136
- サービス DHCPv6
 - オプション 136

サービスの開始?

- オプション 137
- サービスの終了
 - オプション 137
- サービス・アシスタント
 - アクセス 84
 - インターフェース 83
 - 使用する状況 84
- サービス・アドレス
 - オプション 122, 134
 - ナビゲーション 134
- サービス・コマンド
 - CLI 85
- サービス・コントローラー
 - 取り替え
 - WWNN の検証 115
- サービス・ポート
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 27
 - SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 25
- 削除
 - ノード 78
 - バックアップ構成ファイル
 - 使用、CLI の 259
- サブネット
 - メニュー・オプション 120
- サブネット・マスク
 - ノード・オプション 129
- 識別番号
 - 番号 121
 - ラベル、ノード 16
 - name 121
- 自己診断テスト、電源オン 144
- システム (system)
 - 診断障害 121
 - バックアップ、CLI を使用した構成ファイルの 253
 - 復元、バックアップ構成ファイルの 256
 - IPv6 アドレス 120
- システム・エラー LED 20
- シャットダウン
 - フロント・パネル・ディスプレイ 115
- 修正
 - エラー 245
- 充電中 112
- 修復
 - スペース使用効率のよいボリューム 89
- 修復検査 MAP 321
- 重要製品データ (VPD) (vital product data (VPD))
 - 概要 99
 - システムのフィールドの理解 107
 - ノードのフィールドの理解 102

重要製品データ (VPD) (vital product data (VPD)) (続き)
表示 99
ノード 99
重要製品データの表示 99
準備 (preparing)
無停電電源装置 (uninterruptible power supply) 環境 64
SAN ボリューム・コントローラー 環境 42
ショートカット・キー
アクセシビリティ 365
キーボード 365
仕様
冗長 AC 電源スイッチ 56
使用
エラー・コード・テーブル 151
管理 GUI 75
サービス・アシスタント 83
CLI 87
GUI インターフェース 75
状況
アクティブ 119
操作可能 119, 121
非アクティブ 119
劣化 (degraded) 119
使用する状況
管理 GUI インターフェース 76
クラスター (システム) CLI 85
サービス CLI 86
サービス・アシスタント 84
冗長 AC 電源スイッチ
概要 55
環境準備 56
検査 294
現場交換可能ユニット 74
仕様 56
配線 56
問題 293
例 56
MAP 293, 294
商標 369
情報
センター xiv
情報、システム
LED 22
除去
クラスターからのノードの 138
ノード 78
550 エラー 246
578 エラー 246
シリアル番号 16
資料
アクセス 365
スイッチ
冗長 AC 電源 55

スイッチ (続き)
2145 UPS-1U 62
ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN)
ファブリックの概要 8
問題判別 237
ストレージ・システム
サービス 240
restore 243
スペース所要量
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 50
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 52
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 47
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 44
接続
2145 UPS-1U 59
速度
ファイバー・チャネル・ポート 123
ソフトウェア
概要 1
障害、MAP 5050 274
障害、MAP 5060 281
バージョン
ディスプレイ 122

[夕行]

追加
ノード 80
通知
インベントリー情報 150
コール・ホーム情報 150
送信 147
通知イベント 152
テストおよびアラーム・リセット・ボタン 62
電源
オフ
操作 114
コントロール 140
障害 113
スイッチ、障害 274, 281
復元 113
ボタン 21
無停電電源装置 (uninterruptible power supply) 140
要件
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8A4 48
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F2 52

電源 (続き)
要件 (続き)
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8F4 52
SAN ボリューム・コントローラー 2145-8G4 50
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CF8 45
SAN ボリューム・コントローラー 2145-CG8 42
電源 LED 21
電源 MAP 2145-8A4 281
電源 MAP 2145-CF8、2145-8G4、2145-8F4、および 2145-8F2 274
電源オフ
SAN ボリューム・コントローラー 296
電源機構エラー LED 38
電波障害自主規制特記事項 372
英国 372
韓国語 372
ドイツ 371
ニュージーランド 370
Avis de conformité à la réglementation d'Industrie Canada 370
Deutschsprachiger EU Hinweis 371
European Union (EU) 370
Federal Communications Commission (FCC) 369
French Canadian 370
Industry Canada 370
International Electrotechnical Commission (IEC) 372
People's Republic of China 372
Taiwan 373
VCCI クラスA 情報技術装置 372
特記事項
商標 369
特記事項 367
トラブルシューティング
イベント通知 E メール 147, 150
エラー・ログの使用 112
フロント・パネルの使用 111
SAN の障害 237

[ナ行]

ナビゲーション
クラスターの作成 128
クラスターのリカバリー 138
「言語?」 139
ボタン 16
入出力操作、停止 113
ノード
オプション
メイン 121

ノード (続き)

- キャッシュ・データ、保存 113
- 構成 5
 - アドレッシング 6
 - フェイルオーバー (failover) 6
- 削除 78
- 識別ラベル 16
- 除去 78
- 中断を伴わない置換 91
- 追加 80
- ハード・ディスク障害 113
- 表示
 - 重要製品データ 99
 - その他の詳細 100
- フェイルオーバー (failover) 7
- レスキュー
 - 実行 260

ノード (node)

- オプション
 - クラスターの作成? 128
 - クラスターの除去? 138
 - ゲートウェイ (gateway) 133
 - サブネット・マスク 129
 - 状況 121
 - IPv4 アドレス 129
 - IPv4 ゲートウェイ 130
 - IPv4 作成の確認? 131
 - IPv4 サブネット・マスク 129
 - IPv6 アドレス 131
 - IPv6 作成の確認? 133
 - IPv6 接頭部 132
- クラスターの作成 128
- ソフトウェア障害 274, 281
- レスキュー要求 113

ノード状況 LED 15

ノードの置換

- 中断を伴わない 91

ノードのレスキュー

- オプション 139
- 実行 260

ノード・キャニスター

- 構成 5

ノード・レスキュー (node rescue)

- コード 177

[ハ行]

ハードウェア

- コンポーネント 11
- 障害 113
- ノード (node) 11
- ブート 113, 353
- ブート障害 176

ハード・ディスク・ドライブ・アクティブ

- ティール LED 21

背面パネル・インディケータ

- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8A4 28
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8F2 35
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8F4 32
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8G4 30
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-CF8 26
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-CG8 23

パスワード

- リセット 138

パスワードのリセット 138

パスワードのリセットのメニュー・オプション 138

- ナビゲーション 138

- パスワードのリセット 138

バックアップ

- システム構成ファイル 253

バックアップ構成ファイル

削除

- 使用、CLI の 259

- 復元 256

バッテリー

- 充電中、フロント・パネル・ディスプレイ 112

- 電源 113

パネル

オペレーター情報

- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8A4 18
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8F2 20
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8F4 20
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8G4 19
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-CF8 18
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-CG8 17

背面

- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8A4 28
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8F2 35
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8F4 32
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8G4 30
- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-CF8 26

パネル (続き)

背面 (続き)

- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-CG8 23

- フロント 15

- name 16

- 番号の範囲 180

判別

- ハードウェア・ブート障害 176

- SAN の問題 237

- 非アクティブ状態 119

- 非クリティカル

- ノード・エラー 177

表示

- イベント・ログ 145

- IPv6 アドレス 121

ブート

- コード、理解 177

- 障害 111

- 進行標識 111

ファイバー・チャネル

- ポートのメニュー・オプション 123

- ポート番号 41

- リンク障害 238

- LED 36

- MAP 312

- SFP トランシーバー 238

ファブリック

- SAN の概要 8

フィールド

- イベント・ログ 145

- システム (system) 107

- システム・ボード 102

- 説明、システムの重要製品データの 107

- 説明、ノードの重要製品データの 102

- 装置 (device) 102

- ソフトウェア 102

- ファイバー・アダプター・カード 102

- プロセッサ 102

- プロセッサ・キャッシュ 102

- フロント・パネル 102

- 無停電電源装置 (uninterruptible power supply) 102

- メモリー・モジュール 102

- フェイルオーバー、構成ノード 6

物理的特性

- 冗長 AC 電源スイッチ 56

- 2145 UPS-1U 64

- SAN ボリューム・コントローラー
 - 2145-8A4

- コネクタ 29

- SAN ボリューム・コントローラー

- 2145-8F2

- コネクタ 35

物理的特性 (続き)

SAN ボリューム・コントローラー
2145-8F4
コネクタ 33

SAN ボリューム・コントローラー
2145-8G4
コネクタ 31

SAN ボリューム・コントローラー
2145-CF8
コネクタ 26
サービス・ポート 27
未使用ポート 28

SAN ボリューム・コントローラー
2145-CG8
コネクタ 23
サービス・ポート 25
未使用ポート 25

不良ブロック 263

フロント・パネル
アクション・メニュー・オプション
123

充電中 140

ディスプレイ 15

電源障害 140

ブート中 140

ボタンとインディケータ 111

メニュー・オプション 117

イーサネット 122

「言語?」 139

ノード (node) 121

バージョン 122

ファイバー・チャネル・ポート-1
からポート-4 123

IPv4 アドレス 120

IPv6 アドレス 120, 121

リカバリ 140

2145 UPS-1U 60

ID 16

SAN ボリューム・コントローラー
111

SAN ボリューム・コントローラーの電
源オフ 140

フロント・パネルのインディケータとコ
ントロール
状況標識
アクション・メニュー・オプション
123

エラー・コード 112

再始動 114

シャットダウン 115

充電中 112

電源オフ 114

電源障害 113

ノード・レスキュー要求 113

ハードウェア・ブート 113

ブート障害 111

フロント・パネルのインディケータとコ
ントロール (続き)
状況標識 (続き)
ブート進行 111

メニュー・オプション 117

リカバリ 114

2145 UPS-1U

アラーム 61

オン/オフ・ボタン 61

過負荷インディケータ 61

図 60

テストおよびアラーム・リセット・
ボタン 62

電源オン・インディケータ 61

バッテリー使用中インディケータ
61

ロード・セグメント 1 インディケ
ータ 61

ロード・セグメント 2 インディケ
ータ 60

SAN ボリューム・コントローラー
選択ボタン 16

ナビゲーション・ボタン 16

ノード状況 LED 15

SAN ボリューム・コントローラー
2145-8A4
オペレーター情報パネル 18

図 13

SAN ボリューム・コントローラー
2145-8F2
エラー LED 17

オペレーター情報パネル 20

図 14

SAN ボリューム・コントローラー
2145-8F4
オペレーター情報パネル 20

図 14

SAN ボリューム・コントローラー
2145-8G4
オペレーター情報パネル 19

図 13

SAN ボリューム・コントローラー
2145-CF8
オペレーター情報パネル 18

図 12

SAN ボリューム・コントローラー
2145-CG8
オペレーター情報パネル 17

図 12

フロント・パネルのコントロールとインデ
ィケータ
状況標識
アクション・メニュー・オプション
123

エラー・コード 112

再始動 114

フロント・パネルのコントロールとインデ
ィケータ (続き)
状況標識 (続き)
シャットダウン 115

充電中 112

電源オフ 114

電源障害 113

ノード・レスキュー要求 113

ハードウェア・ブート 113

ブート障害 111

ブート進行 111

メニュー・オプション 117

リカバリ 114

フロント・パネル・ディスプレイ 15

2145 UPS-1U

アラーム 61

オン/オフ・ボタン 61

過負荷インディケータ 61

図 60

テストおよびアラーム・リセット・
ボタン 62

電源オン・インディケータ 61

バッテリー使用中インディケータ
61

ロード・セグメント 1 インディケ
ータ 61

ロード・セグメント 2 インディケ
ータ 60

SAN ボリューム・コントローラー
選択ボタン 16

ナビゲーション・ボタン 16

ノード状況 LED 15

SAN ボリューム・コントローラー
2145-8A4
オペレーター情報パネル 18

図 13

SAN ボリューム・コントローラー
2145-8F2
エラー LED 17

オペレーター情報パネル 20

図 14

SAN ボリューム・コントローラー
2145-8F4
オペレーター情報パネル 20

図 14

SAN ボリューム・コントローラー
2145-8G4
オペレーター情報パネル 19

図 13

SAN ボリューム・コントローラー
2145-CF8
オペレーター情報パネル 18

図 12

SAN ボリューム・コントローラー
2145-CG8
オペレーター情報パネル 17

フロント・パネルのコントロールとインディケーター (続き)
 SAN ボリューム・コントローラー
 2145-CG8 (続き)
 図 12

フロント・パネルの表示
 「アクションの終了」オプション 139

概要 15

クラスターのリカバリー 137

サービス DHCPv4 136

サービス DHCPv6 136

サービスの開始? オプション 137

「サービスの終了」オプション 137

サービス・アドレス 122

状況標識
 アクション・メニュー・オプション 123

エラー・コード 112

再始動 114

シャットダウン 115

充電中 112

電源オフ 114

電源障害 113

ノード・レスキュー要求 113

ハードウェア・ブート 113

ブート障害 111

ブート進行 111

メニュー・オプション 117

リカバリー 114

ノード WWNN 121

「ノードのレスキュー」オプション 139

バージョン 122

「ベースに合わせたアップグレード」オプション 138

「FC 速度の設定」オプション 138

IPv6 アドレス 121

WWNN の検証? 115

WWNN の変更オプション 136

フロント・パネル・ディスプレイ
 ノード・レスキュー要求 260

ベースに合わせたアップグレード
 オプション 138

変更の要約 xi, xii

ポート
 イーサネット 22, 37

ポート番号、ファイバー・チャネル 41

ポート名、ワールドワイド 41

未使用
 2145 UPS-1U 62

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-8A4 29

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-8F4 33

ポート (続き)
 未使用 (続き)
 SAN ボリューム・コントローラー
 2145-8G4 31

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-CF8 26

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-CG8 23

ポート速度
 ファイバー・チャネル 123

保守分析手順 (MAP)
 イーサネット 305

開始 266

概要 265

修復検査 321

電源
 SAN ボリューム・コントローラー
 2145-8A4 281

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-8F2 274

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-8F4 274

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-8G4 274

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-CG8 274

ハードウェア・ブート 353

ファイバー・チャネル 312

フロント・パネル 302

ライト・パス 323

10 Gbps イーサネット 309

2145 UPS-1U 285

SSD の障害 359, 362

ポスト (電源オン自己診断テスト) 144

ボタン、ナビゲーション 16

ボリューム
 オフラインからのリカバリー
 CLI を使用した 90

ボリューム (VDisk)
 オフラインからのリカバリー
 CLI を使用した 251

ボリューム・コピー
 検証 87

[マ行]

未使用
 ロケーション LED 38

2145 UPS-1Uポート 62

未使用ポート
 2145 UPS-1U 62

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-8A4 29

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-8F4 33

未使用ポート (続き)
 SAN ボリューム・コントローラー
 2145-8G4 31

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-CF8 28

SAN ボリューム・コントローラー
 2145-CG8 25

無停電電源装置 (uninterruptible power supply)
 概要 58

環境の準備 64

操作 59

フロント・パネル MAP 302

2145 UPS-1U
 概要 58

環境 64

コントロールとインディケーター
 60

操作 59

メッセージの種別 180

メディア・アクセス制御 (MAC) アドレス 122

メディア・エラー 263

メニュー・オプション
 イーサネット
 速度 122

ポート (port) 122

MAC アドレス 122

クラスター
 オプション 119

状況 119

パスワードのリセット 138

IPv6 アドレス 121

クラスター化システム
 IPv4 アドレス 120

IPv4 ゲートウェイ 120

IPv4 サブネット 120

IPv6 アドレス 120

「言語?」 139

シーケンス 117

システム (system)
 ゲートウェイ (gateway) 120

状況 121

IPv6 接頭部 120

ノード (node)
 オプション 121

状況 121

ファイバー・チャネル・ポート-1 から
 ポート-4 123

フロント・パネル・ディスプレイ 117

IPv4 ゲートウェイ 120

IPv6 ゲートウェイ 120

IPv6 接頭部 120

SAN ボリューム・コントローラー
 アクティブ 119

非アクティブ 119

メニュー・オプション (続き)
SAN ボリューム・コントローラー (続き)
劣化 (degraded) 119
問題の診断
イベント・ログによる 143
エラー・コードによる 143
SAN ボリューム・コントローラー の
143

[ヤ行]

要件

回路ブレーカー 42, 46, 48, 51
電気 42, 45, 48, 50
電源 42, 45, 48, 50
2145 UPS-1U 58
AC 電圧 42, 43, 45, 46, 48, 49, 50,
51
SAN ボリューム・コントローラー
2145-8A4 48
SAN ボリューム・コントローラー
2145-8G4 50
SAN ボリューム・コントローラー
2145-CF8 45
SAN ボリューム・コントローラー
2145-CG8 42

[ラ行]

ライト・パス MAP 323

理解

イベント・ログ 145
エラー・コード 151, 179
クラスター化システムのリカバリー・
コード 179
ノード・レスキュー・コード 177
フィールド、システムの重要製品デー
タの 107
フィールド、ノードの重要製品デー
タの 102
リカバリー
オフラインの仮想ディスク (ボリュ
ーム)
CLI を使用した 251
オフライン・ボリューム
CLI を使用した 90
システム
開始 249
システム (system)
実行する状況 244
フロント・パネル・ディスプレイ 114
リセット・ボタン 21
リリース・ラッチ 22

リンク障害
ファイバー・チャネル 238
リンクの問題
iSCSI 238, 239
例
冗長 AC 電源スイッチの配線 56
SAN ファブリック内のクラスター 8
劣化状況 119
レポート作成
イベント 143
ロード・セグメント 1 インディケーター
61
ロード・セグメント 2 インディケーター
60
ログ・ファイル
表示 145
ロケーター LED 22

[ワ行]

ワールドワイド・ノード名
検証、フロント・パネル・ディスプレ
イ 115
選択 115
ディスプレイ 121
ノード、フロント・パネル・ディス
プレイ 121, 136
変更 136
ワールドワイド・ポート名 (WWPN)
説明 41

[数字]

10 G イーサネット 238, 309
10 Gbps イーサネット
リンク障害 309
MAP 5550 309
10 Gbps イーサネット・カード
アクティビティ LED 22
2145 UPS-1U
アラーム 61
オン/オフ・ボタン 61
回路ブレーカー 62
過負荷インディケーター 61
環境 64
コネクタ 62
サービス・インディケーター 61
使用されないポート 62
接続 59
操作 59
ディップ・スイッチ 62
テストおよびアラーム・リセット・ボ
タン 62
電源オン・インディケーター 61

2145 UPS-1U (続き)
ノード
発熱量 45
バッテリー使用中インディケーター
61
発熱量、ノードの 45
部品の説明 62
フロント・パネルのコントロールとイ
ンディケーター 60
未使用ポート 62
ロード・セグメント 1 インディケー
ター 61
ロード・セグメント 2 インディケー
ター 60
MAP
5150: 2145 UPS-1U 285
5250: 修復検査 291

A

AC LED と DC LED 38
AC 電源スイッチ、配線 56

C

Canadian electronic emission notice 370
CLI
クラスター (システム) コマンド 85
サービス・コマンド 85
CLI コマンド
lssystem
クラスター化システムのプロパティ
ーの表示 101
contact information
European 373
Taiwan 374

D

Deutschsprachiger EU Hinweis 371

E

E メール
インベントリー情報 150
コール・ホーム機能 (Call Home)
イベント通知 149
インベントリー情報 150
EMC statement, People's Republic of
China 372
European contact information 373
European Union (EU), EMC Directive
conformance statement 370

F

- FC 速度の設定
オプション 138
- FCC (Federal Communications Commission)
electronic emission notice 369
- Federal Communications Commission (FCC)
electronic emission notice 369
- French Canadian electronic emission
notice 370
- FRU の定義
冗長 AC 電源スイッチの 74
SAN ボリューム・コントローラーの
64

G

- Germany electronic emission compliance
statement 371

I

- IEC (International Electrotechnical
Commission) electronic emission
notice 372
- International Electrotechnical Commission
(IEC) electronic emission notice 372
- IP アドレス
クラスター 121
サービス 134
システム (system) 120
IPv6 120, 121
- IP アドレス (IP address)
クラスター (システム) 119
- IPv4 アドレス 120
- IPv6
アドレス 120, 121
ゲートウェイのメニュー・オプション
120
接頭部マスクのメニュー・オプション
120
- iSCSI
リンクの問題 238, 239

K

- Korean electronic emission statement 372

L

- LED
イーサネット
アクティビティ 22, 37
リンク 37
システム情報 22

- LED (続き)
システム・エラー 20, 38
診断 323
電源 21, 38
電源機構エラー 38
ハード・ディスク・ドライブ・アクテ
ィビティ 21
背面パネル・インディケータ 23,
26, 28, 30, 32, 35
ファイバー・チャネル 36
AC と DC 38, 39, 40
location 22, 38
SAN ボリューム・コントローラー
2145-8A4 28
SAN ボリューム・コントローラー
2145-8F2 35
SAN ボリューム・コントローラー
2145-8F4 32
SAN ボリューム・コントローラー
2145-8G4 30
SAN ボリューム・コントローラー
2145-CF8 26
SAN ボリューム・コントローラー
2145-CG8 23

M

- MAC アドレス 122
- MAP
5000: 開始 266
5050: 電源 SAN ボリューム・コント
ローラー 2145-CG8、2145-CF8、
2145-8G4、2145-8F4、および
2145-8F2 274
5060: 電源 2145-8A4 281
5150: 2145 UPS-1U 285
5250: 2145 UPS-1U の修復検査 291
5320: 冗長 AC 電源 293
5340: 冗長 AC 電源の検証 294
5400: フロント・パネル 302
5500: イーサネット 305
5550: 10 Gbps イーサネット 309
5600: ファイバー・チャネル 312
5700: 修復検査 321
5800: ライト・パス 323
5900: ハードウェア・ブート 353
6000: オフライン SSD の交換 359
6001 RAID 0 アレイ内のオフライン
SSD の交換 359
6002: RAID 1 アレイ内または RAID
10 アレイ内のオフライン SSD の交
換 362
SAN ボリューム・コントローラー・ノ
ードの電源オフ 296
- MAP 開始 266

MAP (保守分析手順)

- イーサネット 305
- 開始 266
- 修復検査 321
- 使用 265
- 冗長 AC 電源 293, 294
- 電源
SAN ボリューム・コントローラー
2145-8A4 281
SAN ボリューム・コントローラー
2145-8F2 274
SAN ボリューム・コントローラー
2145-8F4 274
SAN ボリューム・コントローラー
2145-8G4 274
SAN ボリューム・コントローラー
2145-CF8 274
SAN ボリューム・コントローラー
2145-CG8 274
- 電源オフ 296
- ハードウェア・ブート 353
- ファイバー・チャネル 312
- フロント・パネル 302
- ライト・パス 323
- 10 Gbps イーサネット 309
- 2145 UPS-1U 285
- 2145 UPS-1U の修復検査 291
- SSD の障害 359, 362

N

- New Zealand electronic emission
statement 370

P

- People's Republic of China, electronic
emission statement 372

R

- restore
システム (system) 243, 251

S

- SAN (ストレージ・エリア・ネットワー
ク)
ファブリックの概要 8
問題判別 237
- SAN ボリューム・コントローラー
アクション・オプション
クラスターの作成 128
- 概要 1
- 環境の準備 42

SAN ボリューム・コントローラー (続き)	SAN ボリューム・コントローラー	SAN ボリューム・コントローラー
現場交換可能ユニット	2145-8A4	2145-8F4 (続き)
アルコール拭き取り布 64	オペレーター情報パネル 18	製品特性 52
イーサネット・ケーブル 64	回路ブレーカー要件 48	背面パネル・インディケータ 32
オペレーター情報パネル 64	各ノードの消費電力 48	発熱量 52
サービス・コントローラー 64	気温、冗長 AC 電源のある場合 49	フロント・パネルのインディケータ
サービス・コントローラー・ケーブ	気温、冗長 AC 電源のない場合 48	とコントロール 14
ル 64	コネクタ 29	フロント・パネルのコントロール・ポ
システム・ボード 64	湿度、冗長 AC 電源のある場合 49	タンとインディケータ 14
ディスク電源ケーブル 64	湿度、冗長 AC 電源のない場合 48	ライト・パス MAP 348
ディスク・コントローラー (disk	重量と寸法 49	MAP 5800: ライト・パス 348
controller) 64	仕様 48	SAN ボリューム・コントローラー
ディスク・シグナル・ケーブル 64	使用されない、サービス・ポート 29	2145-8G4
ディスク・ドライブ・アセンブリ	寸法と重量 49	オペレーター情報パネル 19
64	製品特性 48	回路ブレーカー要件 51
ディスク・ドライブ・ケーブル 64	入力電圧要件 48	各ノードの消費電力 50
ディスク・バックプレーン 64	ノード	気温、冗長 AC 電源のある場合 51
電圧調節モジュール 64	発熱量 50	気温、冗長 AC 電源のない場合 51
電源機構アセンブリ 64	背面パネル・インディケータ 28	コネクタ 31
電源ケーブル・アセンブリ 64	発熱量、ノードの 50	湿度、冗長 AC 電源のある場合 51
電源バックプレーン 64	必要な追加スペース 50	湿度、冗長 AC 電源のない場合 51
熱伝導グリース 64	フロント・パネルのインディケータ	重量と寸法 52
ファイバー・チャンネル HBA 64	とコントロール 13	仕様 50
ファイバー・チャンネル・アダプタ	フロント・パネルのコントロール・ポ	使用されない、サービス・ポート 31
ー・アセンブリ 64	タンとインディケータ 13	寸法と重量 52
ファイバー・チャンネル・ケーブル	ポート 29	製品特性 50
64	要件 48	入力電圧要件 50
ファン電源ケーブル 64	ライト・パス MAP 340	ノード
ファン・アセンブリ 64	MAP 5800: ライト・パス 340	発熱量 52
フレーム・アセンブリ 64	SAN ボリューム・コントローラー	背面パネル・インディケータ 30
フロント・パネル 64	2145-8F2	発熱量、ノードの 52
マイクロプロセッサ 64	オペレーター情報パネル 20	必要な追加スペース 52
メモリー・モジュール 64	気温 52	フロント・パネルのインディケータ
ライザー・カード、PCI 64	コネクタ 35	とコントロール 13
ライザー・カード、PCI	湿度 52	フロント・パネルのコントロール・ポ
Express 64	重量と寸法 52	タンとインディケータ 13
4 ポート・ファイバー・チャンネル・	仕様 52	要件 50
アダプター 64	寸法と重量 52	ライト・パス MAP 343
40×40×28 ファン 64	製品特性 52	MAP 5800: ライト・パス 343
40×40×56 ファン 64	背面パネル・インディケータ 35	SAN ボリューム・コントローラー
CMOS バッテリー 64	発熱量 52	2145-CF8
ソフトウェア	フロント・パネルのインディケータ	オペレーター情報パネル 18
概要 1	とコントロール 14	回路ブレーカー要件 46
電源オフ 296	フロント・パネルのコントロール・ポ	各ノードの消費電力 45
電源オン自己診断テスト (power-on	タンとインディケータ 14	気温、冗長 AC 電源のある場合 46
self-test) 144	ライト・パス MAP 348	気温、冗長 AC 電源のない場合 46
電源制御 140	MAP 5800: ライト・パス 348	コネクタ 26
ノード (node) 11	SAN ボリューム・コントローラー	サービス・ポート 27
ハードウェア 1	2145-8F4	湿度、冗長 AC 電源のある場合 46
ハードウェア・コンポーネント 11	オペレーター情報パネル 20	湿度、冗長 AC 電源のない場合 46
プロパティ 100	気温 52	重量と寸法 47
フロント・パネル・ディスプレイ 111	コネクタ 33	仕様 45
メニュー・オプション	湿度 52	寸法と重量 47
「言語?」 139	重量と寸法 52	製品特性 45
ノード (node) 121	仕様 52	入力電圧要件 45
2145 UPS-1U 59	寸法と重量 52	

SAN ボリューム・コントローラー

2145-CF8 (続き)

ノード

発熱量 47

背面パネル・インディケータ 26

発熱量、ノードの 47

必要な追加スペース 47

フロント・パネルのインディケータ
とコントロール 12

フロント・パネルのコントロール・ポ
タンとインディケータ 12

ポート 26

未使用ポート 28

要件 45

ライト・パス MAP 332

MAP 5800: ライト・パス 332

SAN ボリューム・コントローラー

2145-CG8

オペレーター情報パネル 17

回路ブレーカー要件 42

各ノードの消費電力 42

気温、冗長 AC 電源のある場合 43

気温、冗長 AC 電源のない場合 43

コネクタ 23

サービス・ポート 25

湿度、冗長 AC 電源のある場合 43

湿度、冗長 AC 電源のない場合 43

重量と寸法 44

仕様 42

寸法と重量 44

製品特性 42

入力電圧要件 42

ノード

発熱量 44

背面パネル・インディケータ 23

発熱量、ノードの 44

必要な追加スペース 44

フロント・パネルのインディケータ
とコントロール 12

フロント・パネルのコントロール・ポ
タンとインディケータ 12

ポート 23

未使用ポート 25

要件 42

ライト・パス MAP 323

MAP 5800: ライト・パス 323

SAN ボリューム・コントローラーのライ

ブラリー

関連資料 xiv

service

アクション、無停電電源装置

(uninterruptible power supply) 59

SNMP トラップ 147

syslog メッセージ 147

T

T3 リカバリー

開始 247

検査する内容 251

実行する状況 244

除去

550 エラー 246

578 エラー 246

restore

クラスター化システム 243

Taiwan

電子放出に関する注意 373

contact information 374

U

United Kingdom electronic emission
notice 372

V

VDisks (ボリューム)

オフラインからのリカバリー

CLI を使用した 251

VPD (vital product data)

概要 99

システムのフィールドの理解 107

ノードのフィールドの理解 102

表示 99



Printed in Japan

GC88-8304-03



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21